

足立区高齢者等実態調査報告書

平成 30 年 3 月



目 次

I 調査の概要	1
1 調査目的	1
2 調査対象、調査期間	1
3 調査方法	1
4 回収状況	2
5 調査結果の見方	3
II 調査結果の概要	4
1 区民対象調査	4
(1) 生活支援、介護予防	4
(2) 日常生活	4
(3) 医療・介護分野	5
(4) 住まい・施設	7
(5) 高齢者保健福祉	7
2 事業所対象調査	9
(1) 基本属性	9
(2) 介護サービスの提供状況等	10
(3) 介護サービス供給実績と対応状況等	14
(4) 実施サービス	14
(5) 諸機関の連携と質の向上に関する取り組み	14
(6) ケアプラン作成等について	16
(7) 地域包括ケアシステムの推進について	17
(8) 事業所の運営等について	19
3 過年度調査結果との比較	21
(1) 区民対象調査	21
(2) 事業所対象調査	25
III 区民対象調査 調査結果	28
1 基本属性	28
(1) 集計対象者について	28
(2) 調査票の記入者	29
(3) 現在生活している場所	30
(4) 性別	32
(5) 年齢	33
(6) 居住地区	35
(7) 家族構成	36
2 生活支援、介護予防	40
(1) 健康について	40
(2) 健康と医療について	46
(3) 日常生活・介護予防	50
(4) 生活支援ニーズ等の分析	59
3 日常生活	74
(1) 身体や健康について	74
(2) 日常生活や社会活動について	92
(3) 親族・友人	96
(4) たすけあい	101
(5) 買物	105

(6)	日々の生活	113
(7)	就労について	123
(8)	生活	128
(9)	地域活動	133
4	医療・介護	143
(1)	要介護認定申請状況	143
(2)	在宅介護	146
(3)	介護保険について	149
(4)	介護サービスについて	152
(5)	介護者について	162
(6)	介護保険制度	178
5	住まい・施設	189
(1)	住まい	189
6	高齢者保健福祉	197
(1)	高齢者福祉サービスなどについて	197
(2)	区への意見、要望	218
IV	事業所対象調査 調査結果	225
1	基本属性	225
(1)	事業種別	225
(2)	現在実施事業	227
(3)	併設事業	228
(4)	経営主体	232
(5)	法人所在地	234
(6)	運営箇所数	235
(7)	職員体制	236
2	介護サービスの提供状況等	239
(1)	訪問介護・通所介護の要介護度別サービス利用者数	239
(2)	要介護度別入所（院）者数	239
(3)	実施サービス	241
(4)	事業所の休業日	242
(5)	総合事業への移行に伴う業務展開上の問題・課題	243
(6)	総合事業への参入意向	244
(7)	定員及び入居者数	245
(8)	入所（院）者の平均年齢	246
(9)	1年間の入退所（院）者数（延人数）	247
(10)	入居動機の把握	248
(11)	入居決定の理由	248
(12)	住所地特例該当者数	249
(13)	退居理由	250
(14)	平均入居年数	251
(15)	過去5年間の年間稼働率	252
(16)	介護度別待機者数	253
(17)	入居者の従前の住所地	254
(18)	入居までの平均年月	254
(19)	医療処置者数	255
(20)	医療処置必要者の受け入れ状況	257
(21)	対応可能な医療処置	257
(22)	利用料（敷金・前払金・月額利用料）	258

3	介護サービス供給実績と対応状況等	259
	(1) 利用者の量的ニーズに即した対応	259
	(2) 現行サービスの今後の方針	259
4	実施サービス（サービス付高齢者向け住宅）	260
	(1) 実施サービス	260
	(2) 状況把握・生活相談の体制	261
	(3) 入居者から多い生活相談	263
5	諸機関の連携と質の向上に関する取り組み	264
	(1) 医療機関との連携	264
	(2) 利用者、家族からの要望・苦情	266
	(3) 利用者からの苦情への対応	268
	(4) 利用者・家族からの要望への対応・取り組み	270
	(5) 社内・外研修の実施状況	271
	(6) 職員教育の取り組み	273
	(7) 職員の研修や資格取得についての取り組み	276
	(8) 第三者評価の受審状況	277
	(9) サービスの質の向上のために行っている取り組み	277
	(10) 各種マニュアル作成状況	278
	(11) サービスの質の向上に関して	279
	(12) 昇進、昇給の評価基準	281
	(13) 災害時対策の実施・計画作成等の状況	282
	(14) 非常災害対策計画・マニュアルに含まれている項目	285
	(15) 水害の場合を含む避難訓練実施状況（平成 28 年度）	288
	(16) 今後の避難訓練実施予定時期	290
6	ケアプラン作成等について	291
	(1) ケアプラン作成件数	291
	(2) 介護予防プラン受託状況	292
	(3) 区内供給量が不足している介護サービス	294
	(4) ケアプラン作成時の併設事業所以外の事業所との連携	295
	(5) 主治医との連携状況	295
	(6) ケアプラン作成時に対応の難しい場合の状況	296
7	地域包括ケアシステムの推進について	297
	(1) 今後強化が必要な取り組み	297
	(2) 看取り	299
	(3) 介護予防事業として今後さらに強化が必要な取り組み	302
	(4) 認知症高齢者に関して今後さらに強化が必要な取り組み	302
	(5) 権利擁護について	303
8	事業所の運営等について	305
	(1) 事業運営上の課題	305
	(2) 介護職員等人材確保状況	310
	(3) 職員の募集方法	315
	(4) 外国籍を有する方の採用状況	319
	(5) 平成 27 年の入職率・離職率	321
	(6) 生活相談員等の確保	323
	(7) ボランティア受け入れ状況	324
	(8) 地域との連携先の組織	328
	(9) 今後の事業展開	331
	(10) 区民への情報提供	333

(11) 入居者募集方法	336
9 今後の要望等について	337
(1) 介護保険サービスの高齢者の自立支援促進の役割について	337
(2) 介護保険サービスによる家族の介護負担軽減の役割について	337
(3) 足立区で居宅介護支援事業を行ううえでの問題点	338
10 区への要望、意見	339
(1) 居宅介護支援事業所	339
(2) 在宅サービス事業所	342
(3) 介護保険施設	343
(4) 有料老人ホーム	344
(5) サービス付高齢者向け住宅	344
V 在宅介護実態調査 調査結果	345
1 A票	345
(1) 調査対象者	345
(2) 在宅介護生活の状況等	346
2 B票	352
(1) 主な介護者について	352
(2) 被介護者の性別、年齢等	354
資料編（調査票）	357
1 介護予防・日常生活圏域ニーズ調査	357
2 高齢者単身世帯実態調査	367
3 要介護認定者実態調査	375
4 一般若年者実態調査	383
5 在宅介護実態調査	391
6 居宅介護支援事業所実態調査	394
7 在宅サービス事業所実態調査	400
8 介護保険施設実態調査	406
9 有料老人ホーム施設実態調査	412
10 サービス付高齢者向け住宅実態調査	418

I 調査の概要

1 調査目的

本調査は、足立区高齢者保健福祉計画・第7期介護保険事業計画改定のための基礎資料として、各種実態調査を実施し、調査対象者の意向・要望、現状を把握することを目的としている。

2 調査対象、調査期間

調査対象および調査期間は以下のとおりである。

区分	調査名	対象者	調査対象数	調査期間
区民対象調査	介護予防・日常生活圏域ニーズ調査	65歳以上の一般高齢者、及び要支援認定者（要介護認定者含まず）	6,000人	平成28年11月25日～平成28年12月16日
	高齢者単身世帯実態調査	75歳以上の単身者	2,000人	
	要介護認定者実態調査	要介護1～5の認定を受けている区民	4,000人	
	一般若年者実態調査	40～64歳の区民	4,000人	
	在宅介護実態調査	要支援・要介護認定を受けている在宅生活中の区民と介護者 ※A票：家族介護の状況 B票：主介護者の就労、仕事と介護の両立	800人	平成28年11月21日～平成29年1月31日
事業所対象調査	居宅介護支援事業所実態調査	居宅介護支援事業所	231事業所	平成28年11月11日～平成28年12月2日
	在宅サービス事業所実態調査	在宅サービス提供事業所	713事業所	
	介護保険施設実態調査	介護保険施設	42事業所	
	有料老人ホーム施設実態調査	有料老人ホーム施設	42事業所	
	サービス付高齢者向け住宅実態調査	サービス付高齢者向け住宅	34事業所	

3 調査方法

郵送による配布・回収

※在宅介護実態調査のみ、要介護認定更新時における訪問配布・回収

4 回収状況

回収状況は以下のとおりである。

区分	調査名	発送数	回収数	有効票	回収率
区民対象調査	介護予防・日常生活圏域ニーズ調査	6,000	3,407	3,389	56.8%
	高齢者単身世帯実態調査	2,000	929	923	46.5%
	要介護認定者実態調査	4,000	2,069	2,055	51.7%
	一般若年者実態調査	4,000	1,453	1,448	36.3%
	在宅介護実態調査	800	625	625	78.1%
事業所対象調査	居宅介護支援事業所実態調査	231	169	165	73.2%
	在宅サービス事業所実態調査	713	471	465	66.1%
	介護保険施設実態調査	42	30	30	71.4%
	有料老人ホーム施設実態調査	42	23	23	54.8%
	サービス付高齢者向け住宅実態調査	34	24	24	70.6%

5 調査結果の見方

- 本報告書では、10 種類の調査結果を、地域包括ケアシステムのテーマ（介護・医療・介護予防・生活支援・住まい等）に沿った構成でまとめている。
- 集計表の上段は、原則として度数（人数や件数）、下段は割合（%）である。
- 集計表の割合は、小数点第 2 位を四捨五入して算出しているため、回答率を合計しても 100.0% にならない場合がある。
- 回答率は、その設問の回答者数（集計表では「全体 (n)」と記載）を母数として算出している。そのため、複数回答の設問では、全ての回答率を合計すると 100.0% を超えることがある。
- 事業所対象調査では、数値回答の設問において、合計のみが回答され内訳となる項目が無記入の回答もあるため、内訳の足し上げ値と合計の記入値が一致しない場合がある。
- 回答により付問に流れ、集計母数が絞り込まれる場合は、“【ベース】”として集計対象条件を記している（例：【ベース：かかりつけ医あり】）。
- 「介護予防必要者」「介護予防必要者以外」とは、厚生労働省基本チェックリストに基づく点数化指標において該当したものを指す。（P. 59～61 参照）
- 本調査の他に、「足立区高齢者等実態調査報告書」（平成 26 年度）及び「足立区高齢者等実態調査報告書」（平成 23 年度）の調査結果を一部引用した。
- 図表においては、「無回答」の項目を省略している場合がある。この場合でも、「無回答」の人数は「全体」「計」には計上されているため、図表の各項目の合計値は「全体」「計」と一致しない場合がある。（例：男女別の集計の場合、「性別無回答」があるが、これは図表には表示しておらず、「回答者計（性別無回答を含む）>（男性回答者＋女性回答者）」となる。）
- II～IV 章では、図表、文章において、以下のとおり、調査名の略称を用いている。

調査名	表記(略称)
介護予防・日常生活圏域ニーズ調査	01 一般高齢者
高齢者単身世帯実態調査	02 単身高齢者
要介護認定者実態調査	03 要介護認定者
一般若年者実態調査	04 若年一般者
在宅介護実態調査	05 在宅介護
居宅介護支援事業所実態調査	06 居宅介護支援事業所
在宅サービス事業所実態調査	07 在宅サービス事業所
介護保険施設実態調査	08 介護保険施設
有料老人ホーム施設実態調査	09 有料老人ホーム
サービス付高齢者向け住宅実態調査	10 サービス付高齢者向け住宅

Ⅱ 調査結果の概要

1 区民対象調査

(1) 生活支援、介護予防

①希望健康寿命：「85歳以上」を志向

【01 一般高齢者 問13】【02 単身高齢者 問14】【03 要介護認定者 問33】

希望健康寿命（健康に過ごしたいと思う年齢）については、一般高齢者の約5割（47.6%）が「85歳以上」としている。なお、要介護認定者においても、約4割（37.2%）が「85歳以上」としており、健康な年齢イメージが80歳代に及んでいることがわかる。（P48の図表Ⅲ.2.11参照）

②介護予防必要者の潜在

【01 一般高齢者 問6、問7】【02 単身高齢者 問15】【04 一般若年者 問18】

一般高齢者調査（要支援非認定者）における「介護予防必要者」は26.8%で、要介護認定を受けていないいわゆる元気高齢者の4人に1人が該当している。内訳は、「口腔」21.0%、「運動器」10.9%、「全体（暮らしぶり含む）」4.9%となっており、口腔ケアの必要者は運動器系のケアの必要者の2倍近い。高齢期以前からの口腔ケアの徹底により、予防必要者層の抑制につながることも期待できる。

一般若年者では、「介護予防必要者」が14.9%である。このうち、「口腔」が10.8%、「運動器」が5.5%の順となっている。

転倒リスクの割合は、要支援認定者は46.1%と、元気高齢者の26.8%を大きく上回っている。また、閉じこもり傾向の割合は要支援認定者では38.8%と、元気高齢者の13.2%の3倍近い。このように要支援の段階で、予防にかかるリスクは元気高齢者に比べ高く、認定を受ける以前の健康な生活維持を目指すことがきわめて重要である。（P60の図表Ⅲ.2.34、図表Ⅲ.2.35、P65の図表Ⅲ.2.41、P67の図表Ⅲ.2.43参照）

(2) 日常生活

①ふだんの付き合いの重要性

【02 単身高齢者 問36】

高齢単身世帯調査では、特に男性の場合は女性に比べ近隣、親族等との関係の希薄さがうかがわれる結果となっている。

日頃最も連絡がとれる家族、親戚としては、「子ども」が63.7%と最も高く、次いで「兄弟・姉妹」（16.4%）となっている。性別にみると、女性に比べ男性は「いない」割合が高く、2割弱（16.1%）となっている。（P96の図表Ⅲ.3.30参照）

②何かの時の相談相手

【01 一般高齢者 問9(5)】

また、家族・友人・知人以外で一般高齢者調査においては、何かの時の相談相手については、「そのような人はいない」が41.2%に達している。相談相手のなかでは、「医師・歯科医師・看護師」が26.4%、次いで「地域包括支援センター・役所」（14.2%）となっている。（P103の図表Ⅲ.3.43参照）

③友人・知人と会う頻度

【01 一般高齢者 問9 (6)】

友人・知人と会う頻度については、「月に何度かある」が30.0%と最も高く、次いで「週に何度かある」(25.6%)となっている。性年代別にみると、男性に比べ女性は会う頻度が高く、「毎日ある」「週に何度かある」を合わせると約4割となっている。(P103の図表Ⅲ.3.4.4参照)

④日常の買物に行く際の移動手段

【02 単身高齢者 問21】

単身高齢者が買物に行く際の移動手段は、半数(56.5%)は「徒歩」、次いで「路線バス」(26.0%)、「歩行器・シルバーカー」(24.0%)となっている。性別でみると、「路線バス」は男性(13.5%)に比べ女性(30.3%)の割合が高く、「自転車」は女性(9.2%)に比べ男性(43.2%)の割合が高くなっている。外出機会の支援については、性差や年齢に配慮した取り組みが有効である。(P105の図表Ⅲ.3.4.8参照)

⑤日常用品の購入先

【01 一般高齢者 問16】【02 単身高齢者 問22】

日常用品の購入店舗は、一般高齢者、単身高齢者とも「近隣のスーパーマーケット」が82.7%、68.0%と最も高く、次いで「コンビニエンスストア」(29.9%、31.1%)、「ドラッグストア」(26.1%、15.8%)となっている。なお、単身高齢者で「コンビニエンスストア」での購入割合は、女性の約3割(28.9%)に対して男性が約4割(39.8%)と高い傾向が現れている。(P106の図表Ⅲ.3.4.9参照)

⑥災害時等の避難行動

【01 一般高齢者 問22】【02 単身高齢者 問30】【03 要介護認定者 問11】

災害時避難場所への単独での移動が可能な割合は、一般高齢者の84.9%に比べ、単身高齢者は40.0%、要介護認定者では16.3%となっており、地域、事業所、関係機関による組織的かつ計画的な行動支援が必須である。(P115の図表Ⅲ.3.5.8参照)

⑦地域活動等への参加

【01 一般高齢者 問8 (1)】

高齢者の地域活動への参加は、「趣味関係のグループ」、「収入のある仕事」、「町内会・自治会」がそれぞれ2割となっている(年に数回以上の参加割合の合計)。団塊の世代等多様なライフスタイル、価値観を有する高齢者が増える中で、多様な参加機会、情報の提供など高齢者自身の参画に向け多方面に発信していけることが望ましい。(P134の図表Ⅲ.3.8.1参照)

(3) 医療・介護分野

①今後も安心して在宅生活を続けていくために必要なサービス・しくみ等

【03 要介護認定者 問26】

要介護認定者で「介護サービスを利用しながら、自宅で生活したい」と回答した人が、今後も安心して在宅生活を続けていくのに必要だと考えるサービスや仕組みについては、「24時間対応の訪問介護や緊急時の訪問介護」が37.4%、「緊急時など必要な時に泊まれる施設」

(33.8%)、「病院などへの移送の介助」(31.4%)が3割台で続いており、医療・介護の連携によるきめ細かな支援体制が在宅生活継続に欠かせないことがわかる。(P146の図表Ⅲ.4.5参照)

②地域密着型サービス利用意向

【03 要介護認定者 問 27】

地域密着型サービスのうち、「定期巡回・随時対応型訪問介護看護」(44.5%)、「小規模多機能型居宅介護」(41.9%)はともに利用意向が4割を超えており、今後の普及定着により、高齢者及びその家族への支援環境が充実すると期待される。(P158の図表Ⅲ.4.18参照)

③介護保険外のサービス利用意向

【03 要介護認定者 問 24】

介護保険外のサービス利用意向については、「歯科・眼科・神経内科・精神科などの訪問診療」の利用意向が16.3%と最も高く、次に「相談・話し相手の訪問サービス」(11.5%)が1割台となっている。またこのほか「電球の取り換えなど、ちょっとした家事サービス」(9.9%)、「入浴のみの短時間の通所サービス」(9.4%)など、専門性の高いものから、家事援助レベルの短時間のサポートまで多種多様なものとなっている。(P160の図表Ⅲ.4.24参照)

④介護者年齢

【03 要介護認定者 問 36】

主な介護者の年齢は、「50～59歳」が17.4%と最も多く、次いで「65～69歳」(11.9%)、「60～64歳」(11.3%)となっている。65歳以上の介護者は44.2%である。

また、要介護度別にみると、要介護3以上の高齢者を介護する介護者は、65歳以上の介護者が48.0%と約半数を占める。(P165の図表Ⅲ.4.31参照)

⑤介護が必要になったとき希望する介護者

【01 一般高齢者 問 27-1】【02 単身高齢者 問 40-1】

介護が必要になったとき希望する介護者については、一般高齢者では、「ホームヘルパー等」(50.5%)、「妻または夫」(50.2%)が同程度となっている。性年代別にみると、前期高齢者・後期高齢者に関わらず女性に比べ男性では、「妻または夫」の割合が高い。単身高齢者では、「ホームヘルパー等」が69.8%と最も高く、次いで「子どもやその家族」(42.3%)となっている。(P166の図表Ⅲ.4.33参照)

⑥介護負担感

【03 要介護認定者 問 39】

在宅介護で主な介護者が困ったり負担に感じていることについては、「精神的なストレスがたまっている」が34.5%と最も高く、次いで「本人が自分の症状を正確に理解していない」(28.6%)、「身体的につらい(腰痛や肩こりなど)」(26.3%)となっており、介護者への心身にわたる健康支援が重要となっている。(P170の図表Ⅲ.4.38参照)

(4) 住まい・施設

①現在の住居形態

【01 一般高齢者 問4(4)】【02 単身高齢者 問6】【04 一般若年者 問4】

住居形態については、一般高齢者では、「持家（一戸建て）」が51.2%と最も高く、次いで「公営賃貸住宅」（16.7%）、「持家（集合住宅）」（15.0%）となっている。

単身高齢者では、「持家（一戸建て）」と「公営賃貸住宅」がそれぞれ31.8%と高く、次いで「民間賃貸住宅（集合住宅）」（16.6%）となっている。

一般若年者では、「持家（一戸建て）」が44.5%と最も高く、次いで「持家（集合住宅）」（27.7%）、「民間賃貸住宅（集合住宅）」（16.0%）となっている。（P189の図表Ⅲ. 5. 1参照）

なお、高齢者の世帯構成（P36の図表Ⅲ. 1. 1 2参照）は、一般高齢者では、「1人暮らし」「夫婦2人暮らし」合せて6割となっている。このことから、持ち家（一戸建て）居住の高齢者世帯等での在宅支援のほか、集合住宅居住の単身世帯の見守り支援など、様々な居住実態に即した対応が重要となってきたと考えられる。

②介護が必要になったとき、どのような介護を希望するか

【01 一般高齢者 問27】【02 単身高齢者 問40】【03 要介護認定者 問25】

一般高齢者では、「介護サービスを利用しながら、自宅で生活したい」が60.5%と最も高く、「特別養護老人ホームなど介護保険施設等に入りたい」が15.7%となっている。

単身高齢者では、「介護サービスを利用しながら、自宅で生活したい」が55.7%と最も高く、次いで「特別養護老人ホームなど介護保険施設等に入りたい」（19.5%）となっている。

要介護認定者では、「介護サービスを利用しながら、自宅で生活したい」が68.4%と最も高く、次いで「特別養護老人ホームなど介護保険施設等に入りたい」（12.5%）となっている。

このように、自宅居住でのサービス利用意向は要介護認定者が最も高い結果となっており、在宅介護環境の充実が求められる反面、介護者の高齢化や認知症ケアなど介護者負担の解消などからも、施設入所・入居へのニーズ対応も重要である。（P191の図表Ⅲ. 5. 4参照）

(5) 高齢者保健福祉

①身近な暮らしの情報の入手先

【01 一般高齢者 問33】

情報の入手先については、「あだち広報」が61.8%と最も高く、次いで「テレビ・ラジオ」（41.8%）、「区役所・区民事務所・保健所等の窓口・掲示板、チラシ」（41.4%）となっている。

性年代別にみると、「友人・知人」は男性では前期高齢者・後期高齢者に関わらず2割前後であるのに対し、女性前期高齢者が37.6%、女性後期高齢者が30.6%と女性の方が高くなっている。一方、男性前期高齢者では「インターネット」が16.6%となっており、パソコンや高度情報機能端末等の普及活用を見据えて情報提供を充実していく必要がある。

（P200の図表Ⅲ. 6. 4参照）

②区実施サービスの利用、認知度

【01 一般高齢者 問35】【02 単身高齢者 問44】

区実施サービスについて「利用している（したことがある）」サービスは、一般高齢者では、「高齢者住宅改修給付」が7.5%で最も高い。単身高齢者でも、「高齢者住宅改修給付」が31.4%と最も高く、次いで「日常生活用具の給付」（22.1%）となっている。（P202の図表Ⅲ. 6. 6参照）

③『孤立ゼロプロジェクト～絆のあんしんネットワーク～』の認知度

【01 一般高齢者 問 37】【02 単身高齢者 問 42】【03 要介護認定者 問 14】

『孤立ゼロプロジェクト～絆のあんしんネットワーク～』の認知状況については、一般高齢者では、「取り組み内容を知っている」(7.6%)、「聞いたことはあるが、取り組み内容は知らない」(28.5%)を合わせると、名称を知っている割合は36.1%である。

単身高齢者では、「取り組み内容を知っている」は11.7%、「聞いたことはあるが、取り組み内容は知らない」は24.4%で、名称を知っている割合は36.1%である。性別にみると、女性では、「取り組み内容を知っている」(13.6%)、「聞いたことはあるが、取り組み内容は知らない」(25.0%)の割合が高い。

要介護認定者では、「取り組み内容を知っている」は6.6%、「聞いたことはあるが、取り組み内容は知らない」は20.8%で、名称を知っている割合は27.4%である。単身世帯のみでなく、高齢者のみの世帯、要支援者のいる世帯など、幅広くPRと活動への参加など呼びかける必要がある。(P210の図表Ⅲ.6.14参照)

④高齢者施策に関する区への要望

【01 一般高齢者 問 39】

高齢者施策に関する区への要望については、「ひとり暮らし高齢者に対する援助」が38.9%と最も高く、次いで「在宅生活を続けるための支援」(36.6%)、「家族等の介護者に対する援助」(33.6%)となっている。(P213の図表Ⅲ.6.18参照)

【04 一般若年者 問 36】

今後、足立区が取り組むべきことについては、「介護する家族に対する支援」が46.1%と最も高く、次いで「常時介護が必要な方のための施設の整備」(38.4%)、「自宅での介護を支援するサービスの充実」(36.9%)の順となっている。(P216の図表Ⅲ.6.22参照)

2 事業所対象調査

(1) 基本属性

①調査対象の事業種別

【07 在宅サービス事業所 問1(2)】

在宅サービス事業所の事業種別については、「通所介護」が24.7%と最も高く、次いで「訪問介護」(24.5%)、「訪問看護」(8.8%)となっている。(P225の図表Ⅳ.1.1参照)

【08 介護保険施設 問1(2)】

介護保険施設の事業種別については、「特別養護老人ホーム」が70.0%と最も高く、次いで「老人保健施設」が23.3%、「介護療養型医療施設」が6.7%となっている。(P226の図表Ⅳ.1.2参照)

【09 有料老人ホーム 問1(3)】

有料老人ホームの事業種別については、「介護付き(混合型)」が43.5%と最も高く、次いで「住宅型」(39.1%)、「介護付き(介護専門型)」(13.0%)となっている。(P226の図表Ⅳ.1.3参照)

【現在実施事業：07 在宅サービス事業所 問1(3)】

在宅サービス事業所の現在実施事業については、「訪問介護」が34.0%と最も高く、次いで「通所介護」(32.3%)、「介護予防訪問介護」(20.0%)、「居宅介護支援」「介護予防通所介護」(ともに18.3%)となっている。(P227の図表Ⅳ.1.4参照)

②併設事業

【06 居宅介護支援事業所 問1(2)】

居宅介護支援事業所において、「併設あり」は85.5%、「併設なし」は9.1%となっている。併設事業では、「訪問介護」が59.4%と最も高く、次いで「介護予防訪問介護」(37.0%)、「通所介護」(24.2%)となっている。(P228の図表Ⅳ.1.5、図表Ⅳ.1.6参照)

【08 介護保険施設 問1(5)】

介護保険施設において、「併設事業あり」は100.0%となっている。

介護保険施設の併設事業については、「短期入所生活・療養介護」が93.3%と最も高く、次いで「通所介護」、「居宅介護支援、介護予防支援」(ともに60.0%)、「介護予防通所介護」、「介護予防短期入所生活・療養介護」(ともに50.0%)となっている。(P229の図表Ⅳ.1.7、図表Ⅳ.1.8参照)

【09 有料老人ホーム 問1(7)】

有料老人ホームにおいて、「併設事業あり」は60.9%、「併設事業なし」は39.1%となっている。

有料老人ホームの併設事業については、「訪問介護」が34.8%と最も高く、次いで「通所介護」(26.1%)、「居宅介護支援、介護予防支援」(17.4%)となっている。(P230の図表Ⅳ.1.9、図表Ⅳ.1.10参照)

【10 サービス付高齢者向け住宅 問1(6)】

サービス付高齢者向け住宅において、「併設事業あり」は62.5%、「併設事業なし」は33.3%となっている。

サービス付高齢者向け住宅の併設事業については、「訪問介護」が33.3%と最も高く、次いで「居宅介護支援、介護予防支援」(29.2%)、「介護予防訪問介護」(25.0%)となっている。(P231の図表Ⅳ.1.11、図表Ⅳ.1.12参照)

③法人所在地

【07 在宅サービス事業所 問1(5)】

在宅サービス事業所の法人所在地については、「足立区内」が68.8%、「足立区外」が29.0%となっている。(P234の図表Ⅳ.1.18参照)

【08 介護保険施設 問1(4)】

介護保険施設の法人所在地については、「足立区内」が66.7%、「足立区外」が33.3%となっている。(P234の図表Ⅳ.1.19参照)

【09 有料老人ホーム 問1(5)】

有料老人ホームの法人所在地については、「足立区内」が52.2%、「足立区外」が47.8%となっている。(P234の図表Ⅳ.1.20参照)

【10 サービス付高齢者向け住宅 問1(4)】

サービス付高齢者向け住宅の法人所在地については、「足立区内」が37.5%、「足立区外」が62.5%となっている。(P234の図表Ⅳ.1.21参照)

(2) 介護サービスの提供状況等

①訪問介護・通所介護の要介護度別サービス利用者数

【07 在宅サービス事業所 問3】(※各記入欄に記入された数値をベースに平均値を算出)
(P239の図表Ⅳ.2.1参照)

【訪問介護利用者の要介護度別人数】				※(平成28年10月サービス利用分)平均人数			
要支援1	要支援2	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	計
4.0人	6.3人	10.0人	16.2人	8.8人	6.9人	6.0人	58.3人
上記利用者数のうち、家事援助のみ利用者数							
2.8人	4.0人	4.0人	4.8人				
【通所介護利用者の要介護度別人数】				※(平成28年10月サービス利用分)平均人数			
要支援1	要支援2	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	計
4.1人	8.9人	15.3人	21.7人	13.9人	8.3人	4.9人	77.0人

②介護保険施設、有料老人ホーム、サービス付高齢者向け住宅における、要介護度別の入所（院）者数
 (P239の図表Ⅳ.2.2、P240の図表Ⅳ.2.3、図表Ⅳ.2.4参照)

	08 介護保険施設・問2(6)		09 有料老人ホーム・問2(6)		10 サービス付高齢者向け住宅 問2(3)
	平均人数	うち医療処置の必要な人数 (平均人数)	平均人数	うち医療処置の必要な人数 (平均人数)	平均人数
自立			1.4人	0.0人	5.0人
要支援1			1.1人	0.0人	2.9人
要支援2			1.1人	0.8人	2.6人
要介護1	2.1人	0.8人	5.0人	2.0人	6.5人
要介護2	8.1人	2.1人	6.0人	2.8人	8.5人
要介護3	23.1人	7.8人	7.2人	2.8人	5.3人
要介護4	37.5人	12.8人	8.9人	4.4人	5.9人
要介護5	32.5人	13.4人	10.7人	6.2人	5.0人
合計	102.5人	35.4人	40.2人	14.8人	41.7人

③総合事業（訪問型）への参入意向

【07 在宅サービス事業所 問6-1】

在宅サービス事業所で、総合事業（訪問型）への参入意向は、「わからない」が30.1%と最も高く、次いで「参入する・参入予定である」(26.5%)、「参入はしない」(20.0%)となっている。(P244の図表Ⅳ.2.8参照)

④総合事業（通所型）への参入意向

【07 在宅サービス事業所 問6-2】

在宅サービス事業所で、総合事業（通所型）への参入意向は、「わからない」が30.1%と最も高く、次いで「参入する・参入予定である」(23.7%)、「参入はしない」(17.0%)となっている。(P244の図表Ⅳ.2.9参照)

⑤入所（院）者の平均年齢

【08 介護保険施設 問2(2)】

介護保険施設の入所（院）者数の平成28年10月1日現在の平均年齢については、「80～85歳未満」が46.7%と最も高く、次いで「85～90歳未満」(33.3%)、80歳未満(13.3%)となっている。(P246の図表Ⅳ.2.13参照)

【09 有料老人ホーム 問2(2)】

有料老人ホームの入居者の平成28年10月1日現在の平均年齢については、「85～90歳未満」が52.2%と最も高く、次いで「80～85歳未満」(26.1%)、「80歳未満」(13.0%)となっている。(P246の図表Ⅳ.2.14参照)

【10 サービス付高齢者向け住宅 問2(2)】

サービス付高齢者向け住宅の平成28年10月1日現在の入居者の平均年齢については、「80～85歳未満」が50.0%と最も高く、次いで「80歳未満」(37.5%)となっている。(P246の図表Ⅳ.2.15参照)

⑥入退所(居)状況

【08 介護保険施設 問2(3)】

介護保険施設の平成27年1月から12月の1年間の入所(院)者数(延人数)は、平均74.8人、退所(院)者数は、平均60.5人である。

退所(院)者数は、「30～39人」、「50人以上」とともに30.0%となっている。(P247の図表Ⅳ.2.16参照)

【09 有料老人ホーム 問2(3)】

有料老人ホームの1年間の入居者数(延人数)は、平均14.3人、退居者数は平均10.0人である。

退居者数が「0人」は17.4%、「1～9人」は39.1%、「10～19人」は21.7%となっている。(P247の図表Ⅳ.2.17参照)

【10 サービス付高齢者向け住宅 問2(4)】

サービス付高齢者向け住宅の1年間の入居者数(延人数)は、平均17.5人、退居者数は平均10.4人である。退居者数が「0人」は8.3%、「1～9人」は41.7%、「10～19人」は37.5%となっている。(P247の図表Ⅳ.2.18参照)

⑦入居決定の理由

【10 サービス付高齢者向け住宅 問2(6)-1】

サービス付高齢者向け住宅の入居決定の理由については、「介護が必要になったため」(95.5%)のほか、「ひとり暮らしが不安になったため」(81.8%)、「自宅の管理が大変になったため」(36.4%)となっている。(P248の図表Ⅳ.2.20参照)

⑧待機状況

【08 介護保険施設 問2(9)】

介護保険施設の介護度別の待機者数は、合計(平均)は116.2人となっている。(P253の図表Ⅳ.2.31参照)

【09 有料老人ホーム 問2(9)】

有料老人ホームの待機者数については、「0人」(69.6%)のほか、「1人」(13.0%)、「2人」(8.7%)となっている。(P253の図表Ⅳ.2.3.2参照)

【10 サービス付高齢者向け住宅 問2(7)】

サービス付高齢者向け住宅の待機者数については、「いない(0人)」(62.5%)のほか、「1～3人」(16.7%)、「4～5人」(12.5%)となっている。(P253の図表Ⅳ.2.3.3参照)

⑨医療処置状況

【08 介護保険施設 問2(11)】【09 有料老人ホーム 問2(11)】

(P255の図表Ⅳ.2.3.7とP256の図表Ⅳ.2.3.8参照)

処置項目		介護保険施設	有料老人ホーム
		該当者数(平均)	該当者数(平均)
吸引		4.2人	1.7人
内数	喀痰吸引	3.6人	1.5人
吸入		0.3人	1.0人
経管栄養		4.5人	2.6人
内数	鼻腔経管栄養	0.7人	0.5人
	瘻孔経管栄養	3.5人	0.9人
	中心静脈栄養	0.0人	1.1人
モニター測定(心拍、血圧、酸素、飽和度)		0.1人	0.1人
酸素療法		1.3人	2.1人
気管切開		0.0人	0.3人
人工呼吸器		0.0人	0.2人
ストーマ(人工肛門)		0.8人	1.0人
留置尿道カテーテル(膀胱カテーテルを含む)		3.0人	3.8人
点滴		0.3人	0.9人
内数	中心静脈点滴	0.0人	0.6人
	抹消静脈点滴	0.3人	0.3人
褥瘡処置		1.2人	0.9人
内数	褥瘡処置(Ⅲ度以上)	0.4人	0.6人
がん末期の疼痛管理		0.1人	0.5人
腎透析(血液透析及び腹膜透析)		0.1人	1.0人
自己注射(インスリンを含む)		0.6人	1.4人
その他の投薬管理(服薬介助を含む)		82.2人	39.5人
重複カウントしない医療処置の人数		44.0人	22.5人

⑩医療処置必要者の受け入れ状況

【10 サービス付高齢者向け住宅 問3】

サービス付高齢者向け住宅の医療処置必要者の受け入れ状況については、「受け入れている」、「医療処置の対応が可能な方のみ受け入れている」がともに45.8%となっている。(P257の図表Ⅳ.2.39参照)

⑪対応可能な医療処置

【10 サービス付高齢者向け住宅 問3-1】

医療処置必要者の受け入れ対応を実施しているサービス付高齢者向け住宅で、対応可能な医療処置については「褥瘡(じょくそう)処置」が86.4%と最も高く、次いで「ストーマ」、「その他の投薬管理」(ともに81.8%)となっている。(P257の図表Ⅳ.2.40参照)

(3) 介護サービス供給実績と対応状況等

①利用者の量的ニーズへの対応

【07 在宅サービス事業所 問7】

在宅サービス事業所の利用者の量的ニーズに即した対応については、「対応できた」が63.9%、「一部対応できなかった」(29.2%)、「対応できないことが多かった」(1.9%)となっている。(P259の図表Ⅳ.3.1参照)

②今後の方針

【07 在宅サービス事業所 問8】

在宅サービス事業所の現行サービスの今後の方針については、「現状維持」が63.2%と最も高く、次いで「拡大予定」(26.2%)、「縮小予定」は2.2%となっている。(P259の図表Ⅳ.3.2参照)

(4) 実施サービス

①実施サービス

【10 サービス付高齢者向け住宅 問5(1)】

サービス付高齢者向け住宅の実施サービスの状況は、「食事の提供」、「その他」を除き、「自ら実施している」が最も高く、高い順に、「状況把握・生活相談」(91.7%)、「心身の健康維持・増進」(58.3%)、「入浴・排せつ・食事等の介護(介護保険外サービス)」、「調理・洗濯・掃除等の家事(介護保険外サービス)」(ともに41.7%)となっている。

「食事の提供」では、「委託して実施している」が54.2%となっている。(P260の図表Ⅳ.4.1参照)

(5) 諸機関の連携と質の向上に関する取り組み

①医療機関との連携

【07 在宅サービス事業所 問9、問9-1】

在宅サービス事業所の医療機関との連携についての取り組みについては、「医療機関から利用者の健康管理や処置について助言を受けている」が60.6%と最も高く、次いで「往診をしてくれる医師・医療機関がある」(40.2%)、「急変時の受入を依頼できる病院を確保している」

(24.7%) となっている。(P264 の図表Ⅳ. 5. 1 参照)

医療機関と連携していない (14.8%、69 事業所) 理由については、63 件の記入があり、「利用者ごとに主治医が異なるため」が 29 件と最も高く、次いで「ケアマネジャーを通して連携している」(14 件)、「必要性がない」(11 件) などとなっている。(P264 の図表Ⅳ. 5. 2 参照)

②社内・外研修の実施状況

【07 在宅サービス事業所 問 12、問 12-1】

在宅サービス事業所の社内・外研修の実施状況については、「内部研修を実施しており、外部研修にも参加させている」が 76.3%と最も高く、次いで「内部研修は実施しているが、外部研修に参加させていない」(15.5%)、「内部研修は実施していないが、外部研修には参加させている」(5.4%) となっている。(P271 の図表Ⅳ. 5. 1 4 参照)

研修内容については、「専門技術の向上について」が 83.6%と最も高く、次いで「利用者に対する待遇について」(60.8%)、「介護保険制度全般について」(55.8%) となっている。(P271 の図表Ⅳ. 5. 1 5 参照)

③職員の研修や資格取得についての取り組み

【08 介護保険施設 問 22】

介護保険施設の職員の研修や資格取得についての取り組みについては、「自施設で研修を実施している」が 86.7%と最も高く、次いで「外部の研修への参加を奨励している(費用は施設負担)」(76.7%)、「外部の研修への参加(自己負担)の補助を行っている」(33.3%) となっている。(P276 の図表Ⅳ. 5. 2 3 参照)

【09 有料老人ホーム 問 24】

有料老人ホームの職員の研修や資格取得についての取り組みについては、「自施設で研修を実施している」が 78.3%と最も高く、次いで「外部の研修への参加を奨励している(費用は施設負担)」(43.5%)、「外部の研修機関に委託して実施している(費用は施設負担)」(17.4%) となっている。(P276 の図表Ⅳ. 5. 2 4 参照)

④サービスの質の向上の取り組み

【07 在宅サービス事業所 問 14】

在宅サービス事業所のサービスの質の向上のために行っている取り組みについては、「サービス担当者会議への参加」が 88.0%と最も高く、次いで「相談窓口の設置」(75.7%)、「サービス提供マニュアルの作成」(57.0%) となっている。(P277 の図表Ⅳ. 5. 2 6 参照)

⑤ケアマネジャーの質の向上の取り組み

【06 居宅介護支援事業所 問3】

居宅介護支援事業所で、ケアマネジャーの質の確保・向上を図るために、今後必要だと思う重視点については、「利用者の状態に応じた応用技術の向上」、「ケアマネジメント技術やアセスメント能力の向上」がともに 55.2%で最も高く、次いで「制度に対する最新情報の取得」(38.2%)となっている。(P279 の図表Ⅳ. 5. 2 8 参照)

⑥サービスの質の向上の取り組み

【08 介護保険施設 問14】

介護保険施設のサービスの質の向上に向けての取り組みについては、「外部の研修会・講習会に参加」が 100.0%と最も高く、次いで「事業所スタッフによる研修会・講習会の開催」(83.3%)、「サービスマニュアルの作成」、「サービスに対する第三者による評価の実施」(ともに 73.3%)となっている。(P280 の図表Ⅳ. 5. 2 9 参照)

【09 有料老人ホーム 問17】

有料老人ホームのサービスの質の向上に向けての取り組みについては、「外部の研修会・講習会に参加」が 60.9%と最も高く、次いで「事業所スタッフによる研修会・講習会の開催」、「サービスマニュアルの作成」(ともに 52.2%)となっている。(P280 の図表Ⅳ. 5. 3 0 参照)

(6) ケアプラン作成等について

①ケアプラン作成件数(平均件数)

【06 居宅介護支援事業所 問9、問9-1】

居宅介護支援事業所のケアプラン作成件数については、平成 27 年から平成 28 年にかけて、平均件数で 10 件程度増加しており、足立区の利用者の作成件数も約 4 件増加している。(P291 の図表Ⅳ. 6. 1 参照)

要支援・要介護度別の作成件数については、平均件数ベースでみて、「要介護 2」が 26.4 件と最も高く、次いで「要介護 1」(17.5 件)、「要介護 3」(15.4 件)となっている。(P291 の図表Ⅳ. 6. 3 参照)

②介護予防プラン受託状況

【06 居宅介護支援事業所 問10、問10-1】

居宅介護支援事業所の介護予防プラン受託状況については、「受けている」が 93.3%、「受けていない」が 5.5%である。(P292 の図表Ⅳ. 6. 5 参照)

介護予防プランの委託を受けている居宅介護支援事業所において、平成 28 年 10 月の 1 か月間の介護予防プラン受託件数については、「1～4 件」が 24.7%と最も高く、次いで「10～14 件」(20.1%)、「5～9 件」(13.6%)となっている。(P292 の図表Ⅳ. 6. 6 参照)

③供給量が不足している介護サービス

【06 居宅介護支援事業所 問11】

居宅介護支援事業所において、ケアプラン作成時に区内で供給が不足している介護サービスは、「夜間対応型訪問介護」が 16.4%と最も高く、次いで「定期巡回・随時対応型訪問介護看護」(15.8%)、「訪問リハビリテーション」(15.2%)となっている。一方、「供給不足とは思

わない」は27.9%となっている。(P294の図表Ⅳ.6.8参照)

④ケアプラン作成の課題

【06 居宅介護支援事業所 問14(1)、問14(2)】

ケアプラン作成時に、「(本人の) 経済的な問題で必要なサービスを組み込めない」が41.8%で最も高く、「身寄りがいない」(30.9%)、「認知症のため判断ができない」(15.8%)となっている。(P296の図表Ⅳ.6.11参照)

家族については、「サービス利用者本人と家族との考えが一致しない」が34.5%と最も高く、「家族の協力が得られない」(33.3%)、「家族間の考えが一致しない」(18.8%)となっている。(P296の図表Ⅳ.6.12参照)

(7) 地域包括ケアシステムの推進について

①自宅や地域で暮らし続けるために、強化が必要な取り組み

【06 居宅介護支援事業所 問17】

居宅介護支援事業所で、地域包括ケアシステムの推進に向けて、今後さらに強化が必要な取り組みは、「認知症に対する正しい理解の普及や地域における見守り体制の充実」が52.1%と最も高く、次いで「緊急時に入院・入所できる体制づくり」(49.1%)、「医療機関・介護事業所等の連携の強化」(47.9%)となっている。(P297の図表Ⅳ.7.1参照)

②利用者が安心して在宅医療を受けるために、強化が必要な取り組み

【06 居宅介護支援事業所 問18】

居宅介護支援事業所で、利用者が安心して在宅医療を受けるために、今後さらに強化が必要な取り組みは、「医療機関と介護事業所との情報共有」、「24時間対応できる医療サービスの提供」がともに57.0%で最も高く、次いで「緊急時の入院先の確保」(56.4%)となっている。(P298の図表Ⅳ.7.2参照)

③看取りに関する利用者や家族からの相談の有無

【06 居宅介護支援事業所 問19】

居宅介護支援事業所では、利用者や家族から看取りの相談を「受けたことがある」は70.9%となっている。(P299の図表Ⅳ.7.3参照)

④看取り実施状況

【08 介護保険施設 問3、問3-1】

介護保険施設では、看取りを「実施している」が70.0%(30施設中21施設)となっている。(P300の図表Ⅳ.7.4参照)

看取りを実施している介護保険施設の直近1年間の看取り件数は、「9件以下」が38.1%と最も高く、次いで「10～14件」(28.6%)、「20件以上」(23.8%)となっている。(P301の図表Ⅳ.7.7参照)

【09 有料老人ホーム 問4、問4-1】

有料老人ホームで看取りを「実施している」は78.3%(23施設中18施設)となっている。(P300の図表Ⅳ.7.5参照)

有料老人ホームでの直近1年間の看取り件数は「5～9件」が27.8%と最も高く、次いで「1件」(22.2%)、「2件」(16.7%)となっている。(P301の図表Ⅳ.7.8参照)

【10 サービス付高齢者向け住宅 問7、問7-1】

サービス付高齢者向け住宅で看取りを「実施している」は79.2%(24施設中19施設)となっている。(P300の図表Ⅳ.7.6参照)

サービス付高齢者向け住宅での直近1年間の看取りの件数は、「6件以上」と「0件」がともに21.1%(19施設中4施設)となっている。また、「5件以内」が半数以上を占めている。(P301の図表Ⅳ.7.9参照)

⑤認知症高齢者への取り組み

【06 居宅介護支援事業所 問21】

居宅介護支援事業所で、認知症高齢者に関して、今後さらに強化が必要な取り組みは、「認知症の容態に応じた適時・適切な医療・介護等の提供」が67.3%と最も高く、次いで「認知症の人を含む高齢者にやさしい地域づくりの推進」(57.6%)、「認知症の人の介護者への支援」(52.1%)となっている。(P302の図表Ⅳ.7.11参照)

⑥虐待が疑われる場合の地域包括支援センターへの連絡

【06 居宅介護支援事業所 問15】

居宅介護支援事業所で、虐待が疑われる場合の地域包括支援センターへの連絡については、「すべて地域包括支援センターへつないでいる」が58.2%、「あきらかに虐待と認識できた場合のみつないでいる」が29.1%となっている。(P303の図表Ⅳ.7.12参照)

⑦高齢者に対する虐待に早期に対応するために必要だと思うこと

【06 居宅介護支援事業所 問16】

居宅介護支援事業所で、高齢者に対する虐待に早期に対応するために必要だと思うことについては、「介護サービス提供者等による早期発見」が73.3%と最も高く、次いで「介護者のレスパイトサービスの充実」(66.7%)、「地域の声の見守り」(47.3%)となっている。(P303の図表Ⅳ.7.13参照)

(8) 事業所の運営等について

①事業運営上の課題：居宅介護支援以外の居宅サービス

【07 在宅サービス事業所 問 18】

在宅サービス事業所の事業運営上の課題は、「職員の確保」が 50.1%と最も高く、次いで「新規利用者の獲得が困難」(40.9%)、「職員の人材育成」(36.1%)となっている。(P305 の図表Ⅳ. 8. 1 参照)

②経営上の問題点や課題

【08 介護保険施設 問 5、問 6・問 6-1】

介護保険施設を経営する上での問題点や課題は、「人材の確保が困難」が 96.7%と最も高く、次いで「介護報酬に反映されない事務が多い」(53.3%)、「人件費の負担が大きい」、「職員の育成が困難」(ともに 50.0%)となっている。(P306 の図表Ⅳ. 8. 2 参照)

特に介護保険施設における人材確保状況は他の種別に比べ「確保が難しいこともある」「確保できていない」を合わせて 60.0% (30 施設中 18 施設)と高く、「求人・募集に対し応募が少ない・ない」との意見が多かった (10 件)。応募自体少ない点は他の種別でもほぼ共通しており、個々の事業所の取り組みを超えて、潜在介護人材の呼び戻し、修学資金の在り方の検討、中高年層への参入促進など、幅広い年齢・職業経験者層をターゲットとした施策を検討実施していく必要がある。(P310 の図表Ⅳ. 8. 8、P312 の図表Ⅳ. 8. 1 2 参照)

【09 有料老人ホーム 問 14】

有料老人ホームを経営する上での問題や課題としては、「人材の確保が困難」が 82.6%と最も高く、次いで「入居者の確保が困難」(60.9%)、「人件費の負担が大きい」(34.8%)となっている。(P307 の図表Ⅳ. 8. 3 参照)

③生活相談員等の確保

【10 サービス付高齢者向け住宅 問 9】

サービス付高齢者向け住宅の生活相談員等の確保については、「確保できている」が 41.7%、「概ね確保できている」が 33.3%、両者を合わせ 75.0%はほぼ確保ができている。(P323 の図表Ⅳ. 8. 3 3 参照)

④入職率・離職率

【06 居宅介護支援事業所 問 6】

居宅介護支援事業所の入職率の平均は正規職員で 18.9%、非正規職員で 6.7%、離職率の平均は、正規職員で 8.6%、非正規職員で 4.6%となっている。(P321 の図表Ⅳ. 8. 2 8 参照)

【07 在宅サービス事業所 問 22】

在宅サービス事業所の入職率の平均は正規職員で 21.5%、非正規職員で 19.0%、離職率の平均は、正規職員で 11.1%、非正規職員で 13.3%となっている。(P321 の図表Ⅳ. 8. 2 9 参照)

【08 介護保険施設 問 9】

介護保険施設の入職率の平均は正規職員で 15.6%、非正規職員で 30.0%、離職率の平均は、正規職員で 14.6%、非正規職員で 24.6%となっている。(P321 の図表Ⅳ. 8. 3 0 参照)

【09 有料老人ホーム 問 10】

有料老人ホームの入職率の平均は正規職員で 18.3%、非正規職員で 17.2%、離職率の平均は、正規職員で 20.2%、非正規職員で 21.8%となっている。(P322 の図表Ⅳ. 8. 3 1 参照)

【10 サービス付高齢者向け住宅 問 12】

サービス付高齢者向け住宅の入職率の平均は正規職員で 29.0%、非正規職員で 29.6%、離職率の平均は、正規職員で 16.7%、非正規職員で 11.1%となっている。(P322 の図表Ⅳ. 8. 3 2 参照)

⑤今後の事業展開

【07 在宅サービス事業所 問 23】

在宅サービス事業所の今後の事業展開については、「事業規模を同規模で維持する予定」が 69.5%と最も高く、次いで「事業規模を拡大する予定」が 18.7%となっており、縮小や廃止はわずかである。(P331 の図表Ⅳ. 8. 4 4 参照)

⑥事業規模の拡大内容

【07 在宅サービス事業所 問 23-1】

在宅サービス事業所の事業規模の拡大内容については、「現在実施しているサービス種別で事業所数を拡大する」が 66.7%で最も高く、次いで「介護保険外のサービスを拡大する」(27.6%)、「新たなサービス種別の事業所を拡大する」(26.4%)となっている。(P331 の図表Ⅳ. 8. 4 5 参照)

3 過年度調査結果との比較

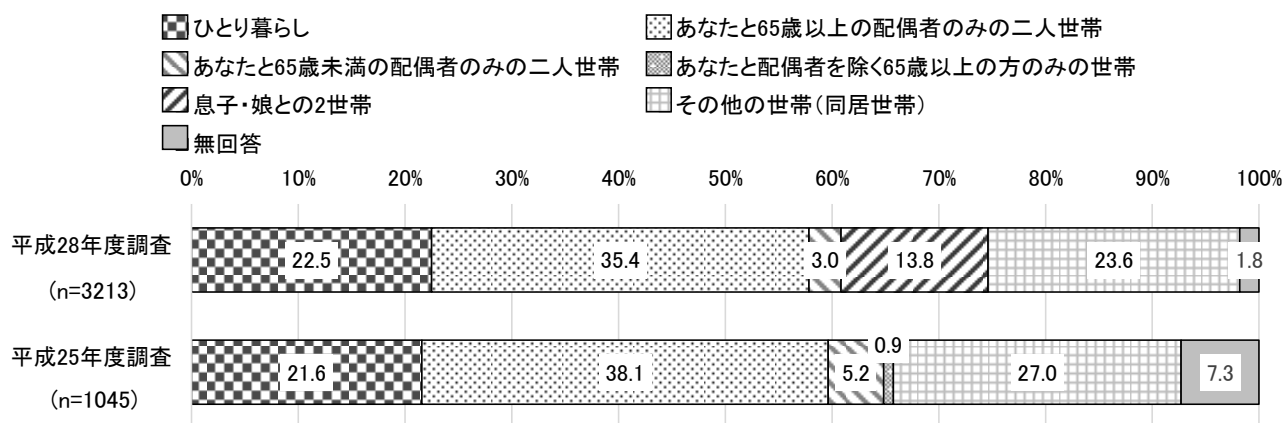
(1) 区民対象調査

①家族構成

【01 一般高齢者】

一般高齢者の家族構成を比較すると、「ひとり暮らし」は今回(平成28年度)調査で22.5%、平成25年度調査で21.6%とほぼ同程度である。今回調査では、過年度調査の選択肢になかった「息子・娘との2世帯」が13.8%を占めている。

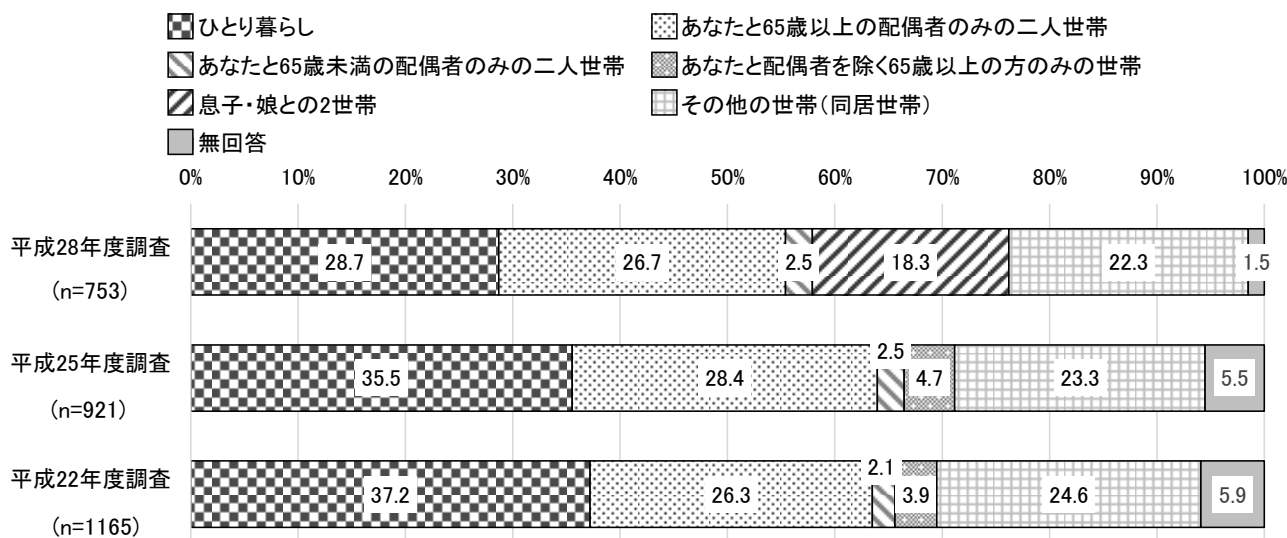
図表 II. 3. 1 過年度調査結果との比較：①家族構成（一般高齢者）



【03 要介護認定者】(要介護1・2)

要介護認定者のうち、要介護度1・2の人の家族構成を比較すると、「ひとり暮らし」が28.7%へと低下している。今回調査では「息子・娘との2世帯」が選択肢に加わり、18.3%を占めている。

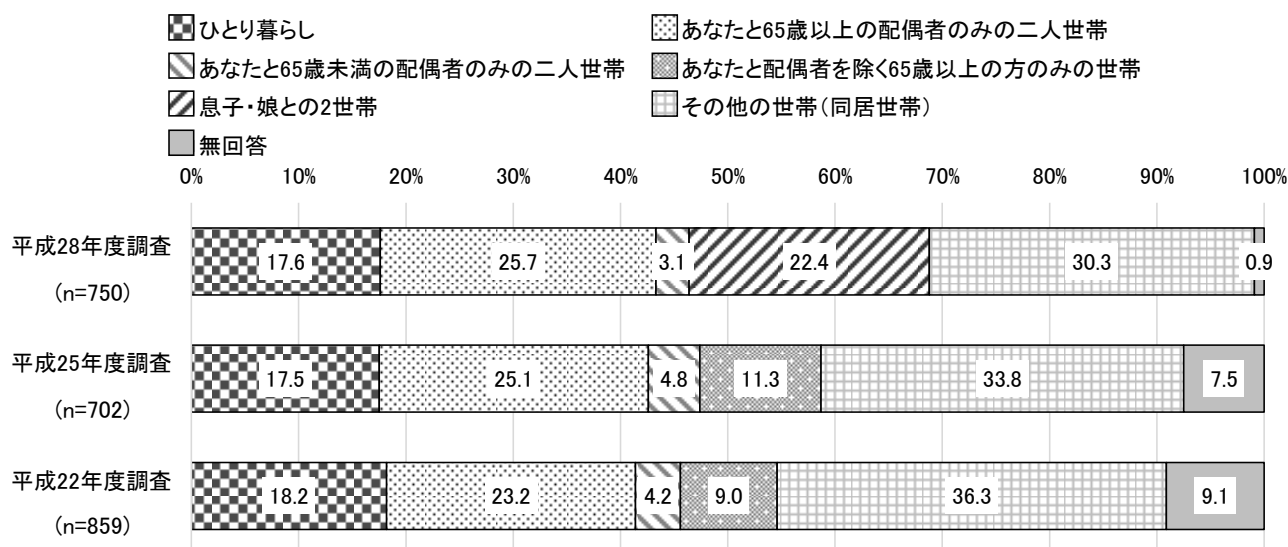
図表 II. 3. 2 過年度調査結果との比較：①家族構成（要介護認定者・要介護1・2）



【03 要介護認定者】(要介護3以上)

要介護認定者のうち、要介護度3以上の人の家族構成を比較すると、「ひとり暮らし」は今回調査で17.6%、「あなたと65歳以上の配偶者のみの二世帯」は25.7%と、過年度調査と同様の傾向を示している。今回調査では「息子・娘との2世帯」が選択肢に加わり、22.4%を占めている。また、今回調査では「あなたと配偶者を除く65歳以上の方のみの世帯」との選択肢は設けていない。

図表 II. 3. 3 過年度調査結果との比較：家族構成（要介護認定者・要介護3以上）

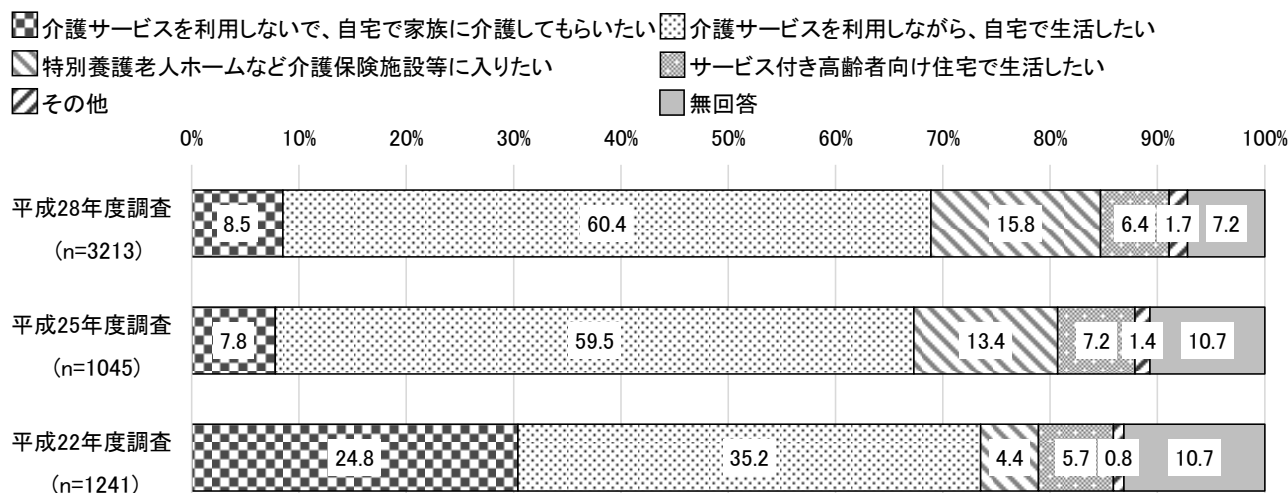


②自分自身に介護が必要になった時、どのような介護を希望するか

【01 一般高齢者】

一般高齢者の、自分自身に介護が必要になった時の希望する介護を比較すると、今回調査では「介護サービスを利用しながら、自宅で生活したい」が60.4%、「特別養護老人ホームなど介護保険施設等に入りたい」が15.8%と、平成25年度調査と同様の結果を示している。

図表 II. 3. 4 過年度調査結果との比較：自分自身に介護が必要になった時、どのような介護を希望する（一般高齢者）

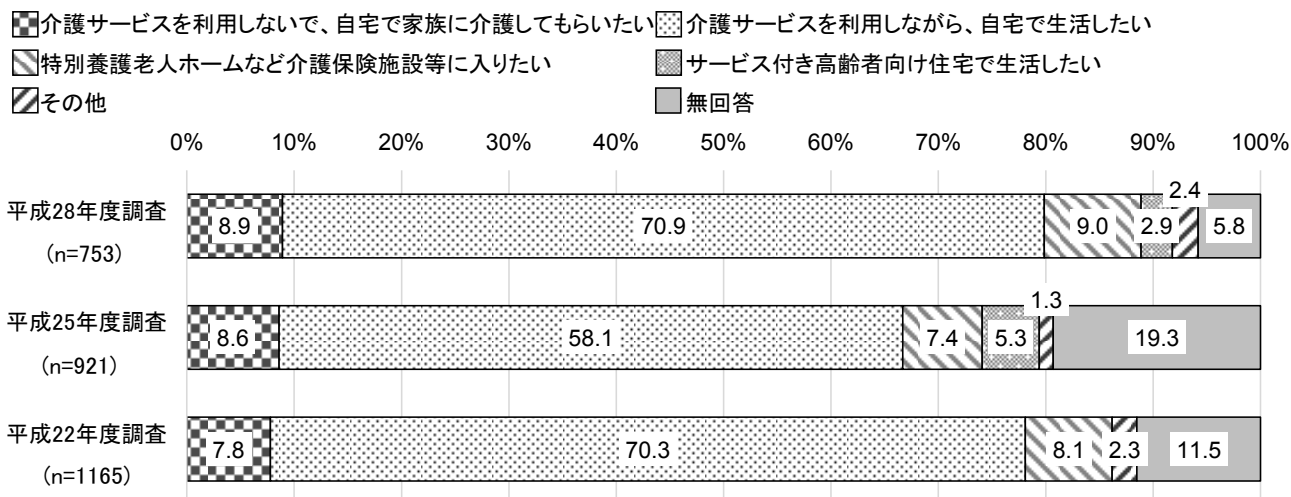


【03 要介護認定者】(要介護度1・2)

要介護認定者のうち要介護度1・2の人の、自分自身に介護が必要になった時の希望する介護を比較すると、今回調査では「介護サービスを利用しながら、自宅で生活したい」が70.9%、「特別養護老人ホームなど介護保険施設に入りたい」が9.0%と、無回答を考慮しなければ、平成22年度、平成25年度調査と同様の結果を示している。

図表 II. 3. 5 過年度調査結果との比較：

自分自身に介護が必要になった時、どのような介護を希望するか (要介護認定者・要介護度1・2)

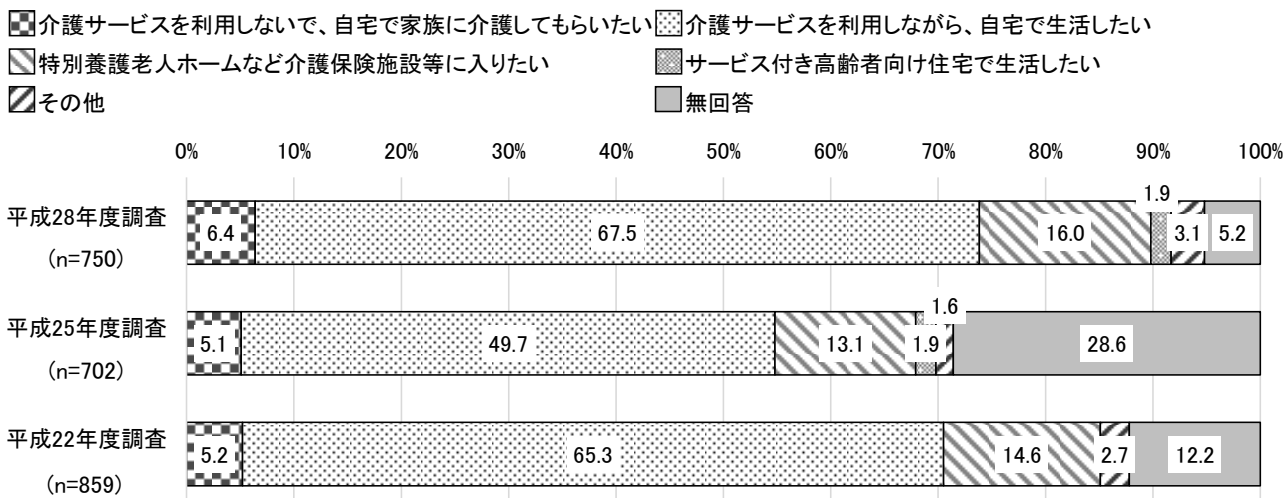


【03 要介護認定者】(要介護3以上)

要介護認定者のうち要介護度3以上の人の、自分自身に介護が必要になった時の希望する介護を比較すると、今回調査では「介護サービスを利用しながら、自宅で生活したい」が67.5%、「特別養護老人ホームなど介護保険施設に入りたい」が16.0%と、無回答を考慮しなければ、平成22年度、平成25年度調査と同様の結果を示している。

図表 II. 3. 6 過年度調査結果との比較：

自分自身に介護が必要になった時、どのような介護を希望するか (要介護認定者・要介護3以上)

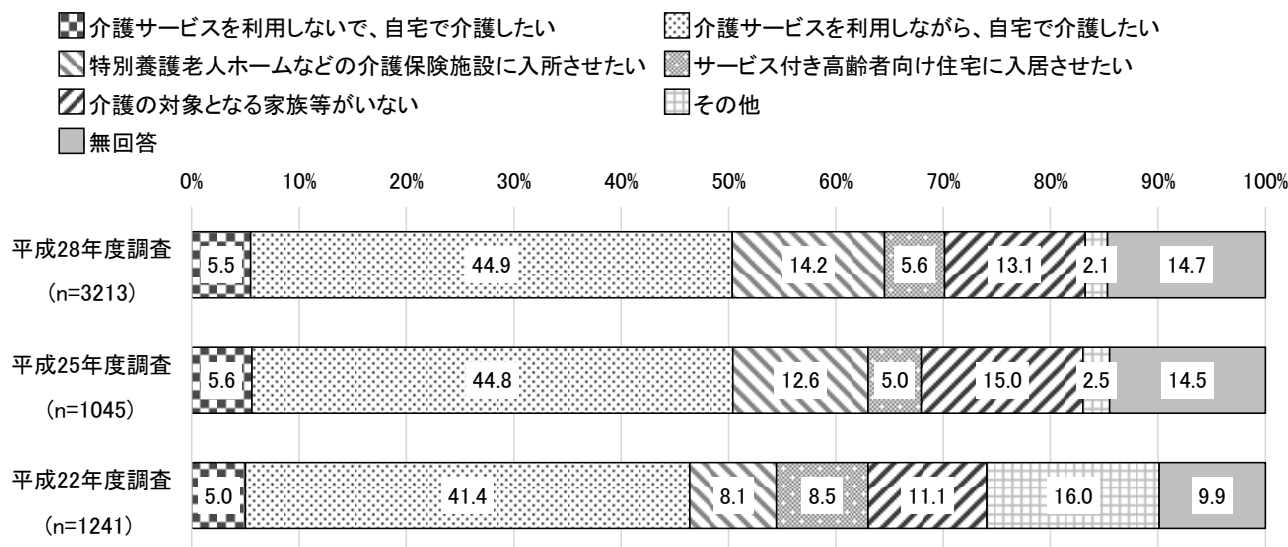


③家族に介護が必要になった時、どのような介護を希望するか

【01 一般高齢者】

一般高齢者の、家族に介護が必要になった時に希望する介護を比較すると、今回調査では、「介護サービスを利用しながら、自宅で介護したい」が 44.9%、「特別養護老人ホームなどの介護保険施設に入所させたい」が 14.2%と、平成 25 年度調査と同様の結果を示している。

図表 II. 3. 7 過年度調査結果との比較：
家族に介護が必要になった時、どのような介護を希望するか（一般高齢者）



(2) 事業所対象調査

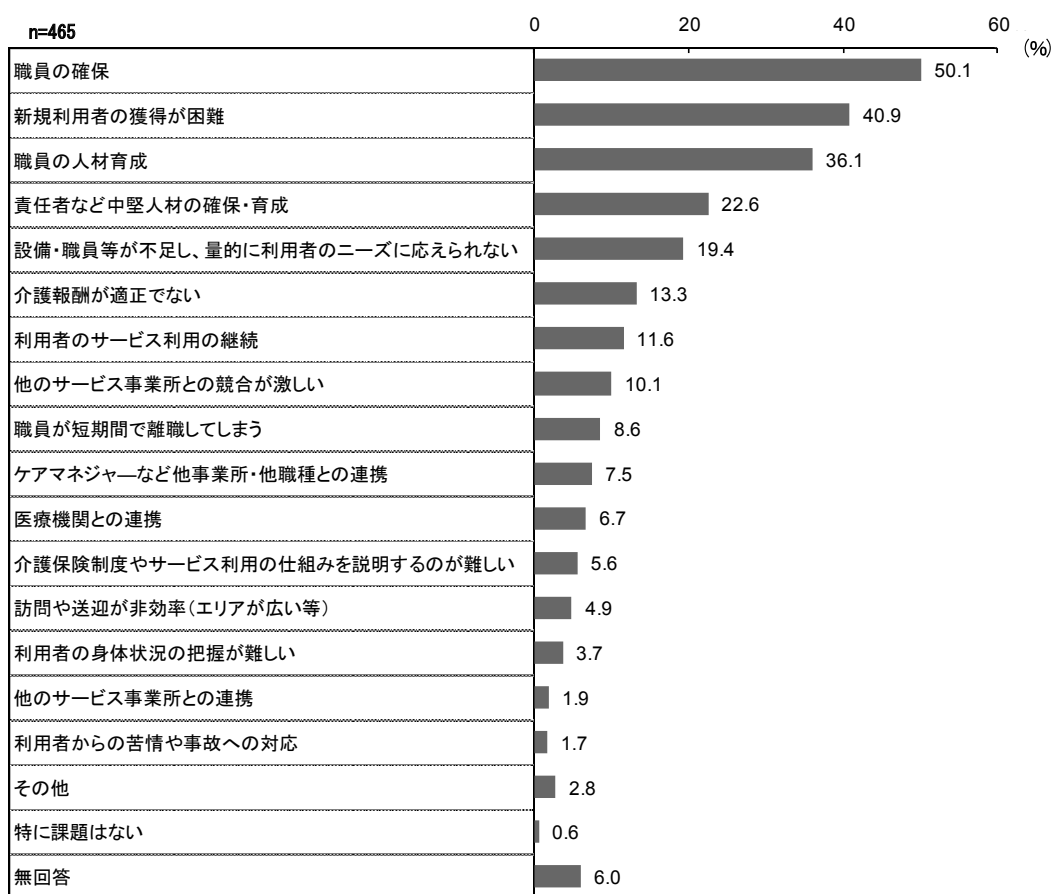
①事業所運営に関する問題点

【07 在宅サービス事業所】

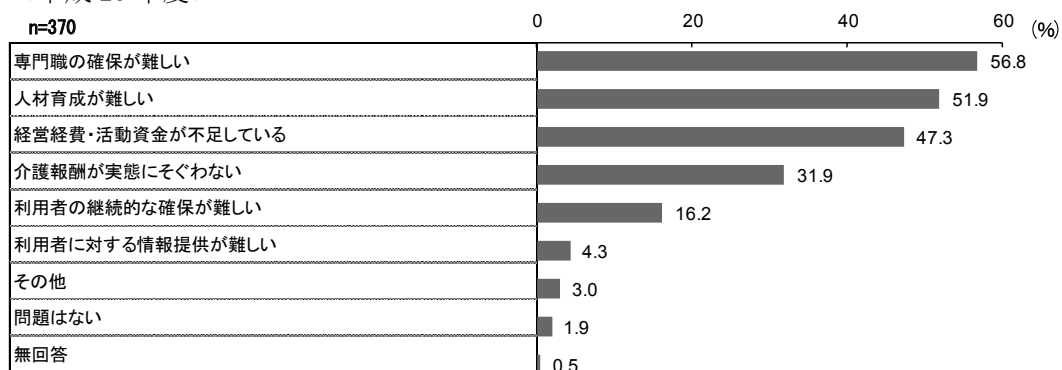
介護保険在宅サービス事業所における、事業所運営に関する問題点の回答結果を比較すると、今回調査では「職員の確保」(50.1%)、「新規利用者の獲得が困難」(40.9%)「職員の人材育成」(36.1%)が上位となっている。平成25年度調査では、「専門職の確保が難しい」(56.8%)、「人材育成が難しい」(51.9%)、「経営経費・活動資金が不足している」(47.3%)が上位となっている。

図表 II. 3. 8 過年度調査結果との比較：
事業所運営に関する問題点（複数回答、07 在宅サービス事業所）

<平成28年度>



<平成25年度>

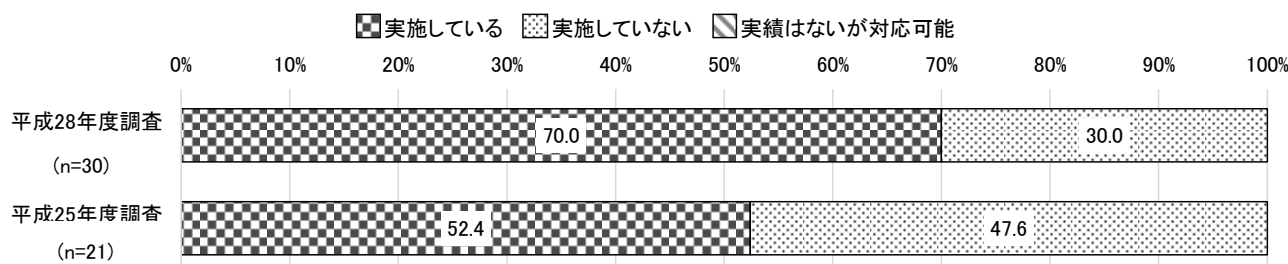


②看取りを実施しているか

【08 介護保険施設】

看取りの実施状況を比較すると、介護保険施設では「実施している」と回答した事業所の割合は、今回調査では70.0% (30事業所中21事業所)、平成25年度調査では52.4% (21事業所中11事業所)となっている。

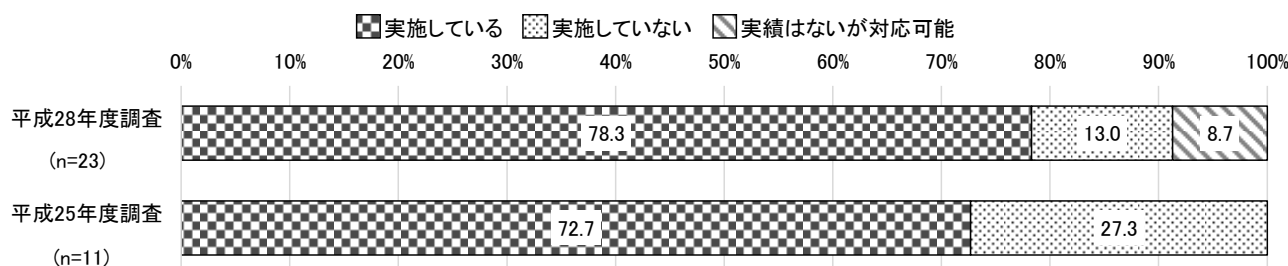
図表 II. 3. 9 過年度調査結果との比較：看取りを実施しているか (08 介護保険施設)



【09 有料老人ホーム】

有料老人ホーム施設では、「実施している」と回答した事業所の割合は、今回調査では78.3% (23事業所中18事業所)、平成25年度調査では72.7% (11事業所中8事業所)となっている。

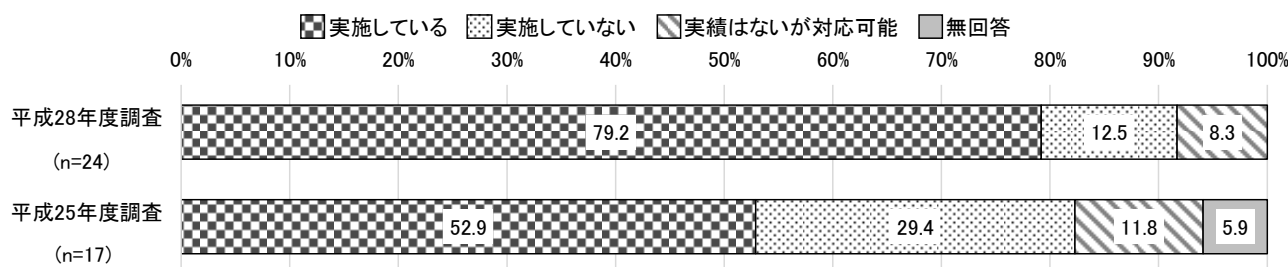
図表 II. 3. 10 過年度調査結果との比較：看取りを実施しているか (09 有料老人ホーム)



【10 サービス付高齢者向け住宅】

サービス付高齢者向け住宅では、「実施している」と回答した事業所の割合は、今回調査では79.2% (24事業所中19事業所)、平成25年度調査で52.9% (17事業所中9事業所)となっている。

図表 II. 3. 11 過年度調査結果との比較：看取りを実施しているか (10 サービス付高齢者向け住宅)

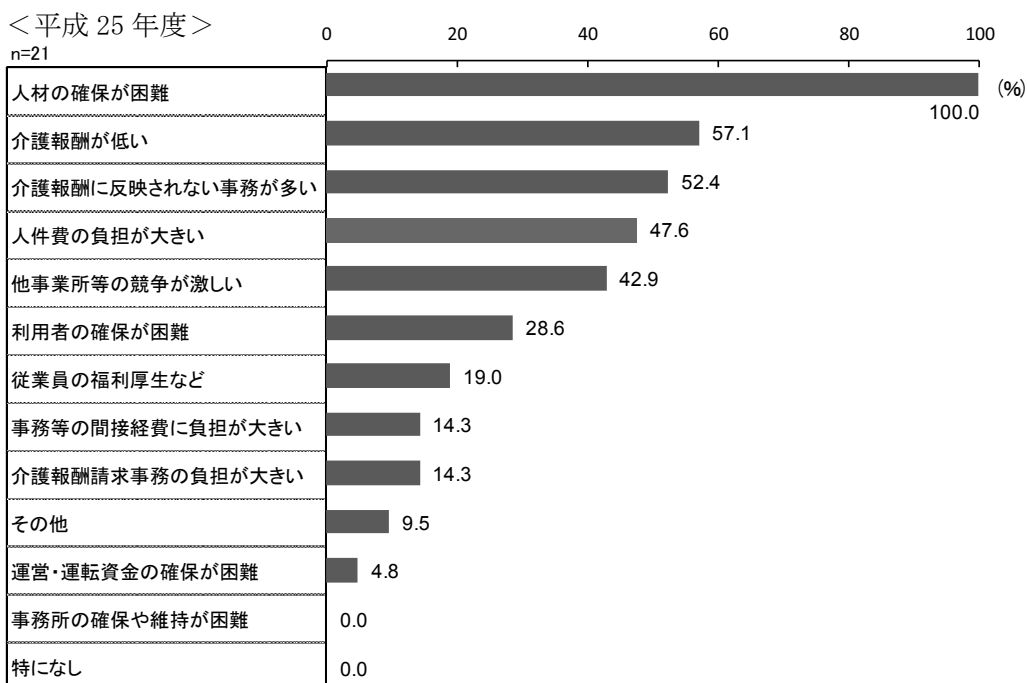
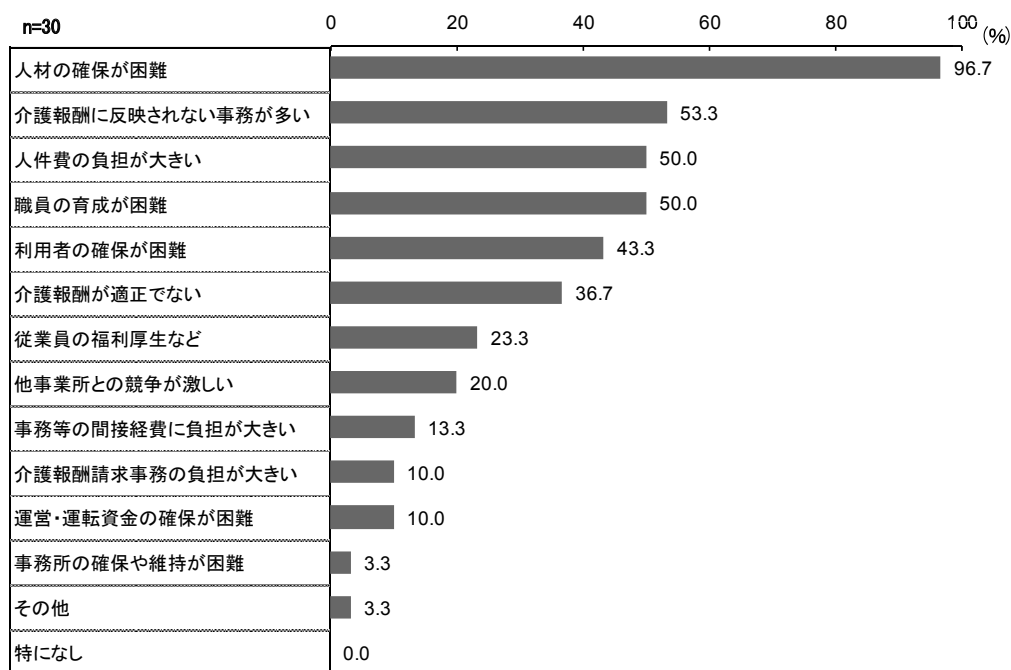


③事業を実施するうえでの問題点

【08 介護保険施設】

介護保険施設の、事業を実施するうえでの問題点は、今回調査では「人材の確保が困難」(96.7%)、「介護報酬に反映されない事務が多い」(53.3%)、「人件費の負担が大きい」、「職員の育成が困難」(50.0%)が上位である。平成25年度調査では、「人材の確保が困難」(100.0%)、「介護報酬が低い」(57.1%)、「介護報酬に反映されない事務が多い」(52.4%)が上位となっている。

図表 II. 3. 1 2 過年度調査結果との比較:事業を実施するうえでの問題点(複数回答、08 介護保険施設)
 <平成28年度>



Ⅲ 区民対象調査 調査結果

1 基本属性

(1) 集計対象者について

回収した件数（有効回収数）に対し、母数が絞り込まれているものについては以下の通りである。

【01 一般高齢者】集計対象者について

回収した 3,389 件のうち、要介護 1～5 の認定者（24 件）を除く 3,365 件を集計対象としている。

なお、「認定を受けていない」（2,933 件）、「無回答」（280 件）を合わせ、「要支援非認定者」（3,213 件）として分析した。

n=	認定者 (要支援 1・2)	認定者 (要介護 1～5)	受けてい ない	無回答	上段: 回答数 下段: %	n=	非認定者	認定者 (要支援 1・要支 援2)	上段: 回答数 下段: %
	3389	152	24	2,933	280			3365	3,213
100	4.5	0.7	86.5	8.3		100	95.5	4.5	

【02 単身高齢者】集計対象者について

回収した 923 件のうち、「あて名の住所に、ひとりで住んでいる」、「無回答」の計 488 件を集計対象としている。

n=	あて名の 住所に、 ひとりで 住んでい る	あて名の 住所に、 だれかと 一緒に住 んでいる	親族や知 人の家	病院・医 院へ入院 中	足立区外 に転出し た	有料老人 ホーム・ ケアハウ ス等に入 居中	無回答	上段: 回答数 下段: %	n=	あて名の 住所に、 ひとりで 住んでい る	無回答	上段: 回答数 下段: %
	923	472	170	15	36	1	213	16			488	472
100	51.1	18.4	1.6	3.9	0.1	23.1	1.7		100	96.7	3.3	

【03 要介護認定者】集計対象者について

回収した 2,055 件のうち、「病院に入院中」、「老人保健施設・介護療養型医療施設」「特別養護老人ホーム」に入所中の方（計 477 件）を除く 1,578 件を集計対象としている。

n=	自宅	有料老人 ホーム等 に入居中	病院に入 院中	老人保健 施設・介 護療養型 医療施設	特別養護 老人ホー ム	その他	無回答	上段: 回答数 下段: %
	2055	1,335	125	133	125	219	25	93
100	65.0	6.1	6.5	6.1	10.7	1.2	4.5	

n=	自宅	有料老人 ホーム等 に入居中	その他	無回答	上段: 回答数 下段: %
	1578	1,335	125	25	93
100	84.6	7.9	1.6	5.9	

【04 一般若年者】集計対象者について

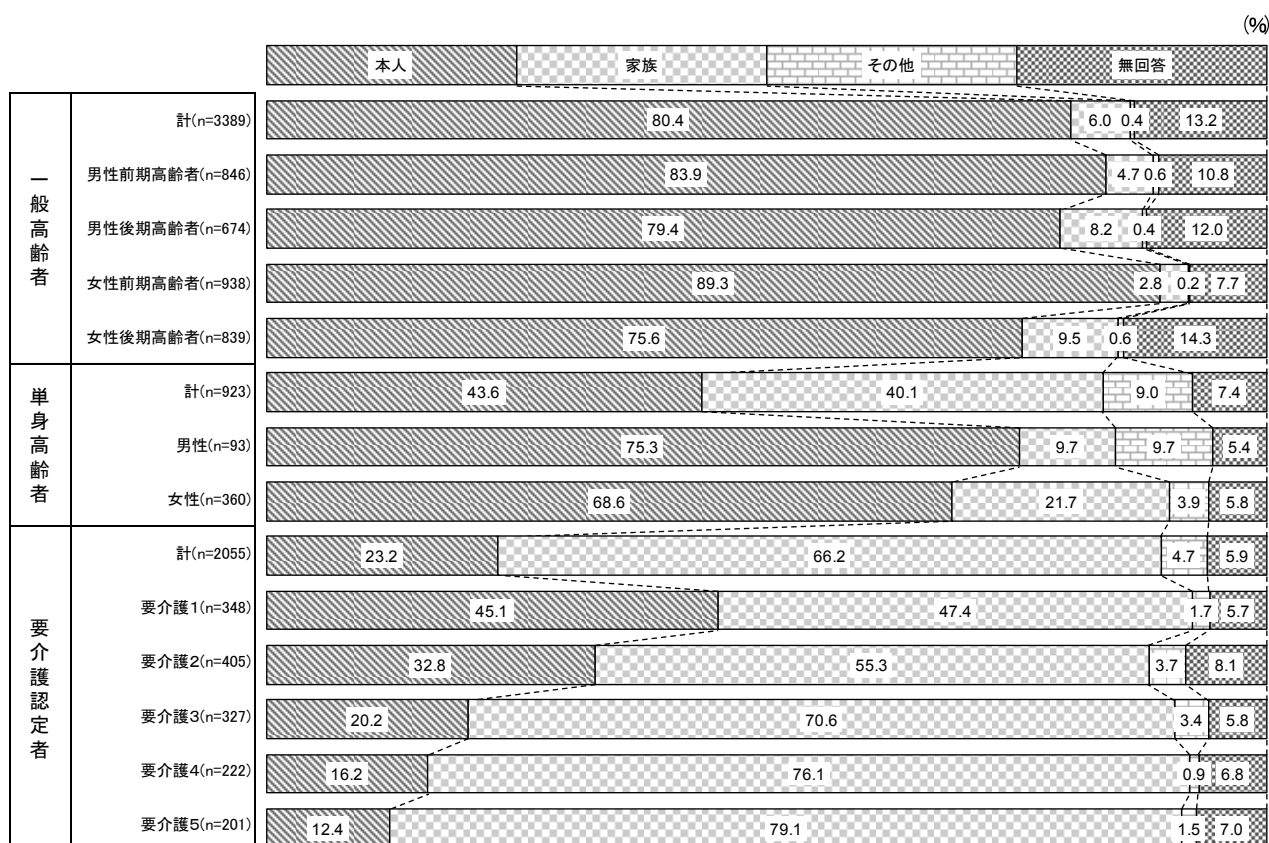
年齢条件（40 歳～64 歳）のみのため、回収した 1,448 件を集計対象としている。

(2) 調査票の記入者
【共通】

調査票の記入者は、一般高齢者、単身高齢者では「あて名本人」が最も高い。一般高齢者では、80.4%が「あて名本人」、6.0%が「家族が記入」である。単身高齢者では、43.6%が「あて名本人」、40.1%が「家族が記入」である。

要介護認定者では、「あて名本人」は 23.2%にとどまり、「家族が記入」が 66.2%と高くなっている。特に要介護3・4・5では、「家族が記入」が70%以上となっている。

図表 III. 1. 1 調査票の記入者



※「調査票の記入者」は冒頭の設問のため、P28 で示した集計対象の絞込みを行う前の結果である。

ただし、単身高齢者の性別部分、要介護認定者の要介護度別部分については、絞込み後の結果である。

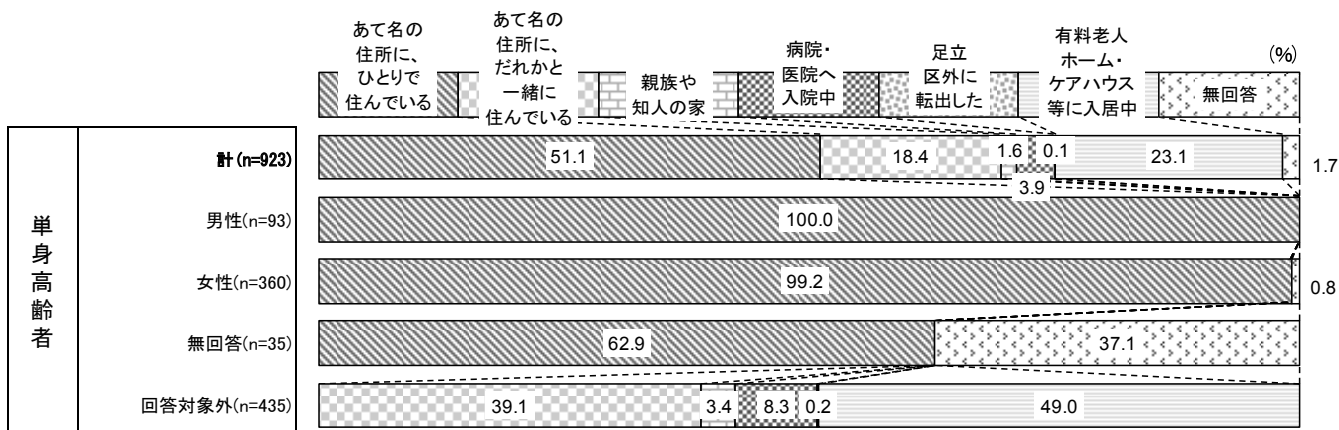
※「一般高齢者」「単身高齢者」「要介護認定者」各調査における、性別、年齢、要介護度の無回答については、表記から除いている。

※前期高齢者とは 65～74 歳の方、後期高齢者とは 75 歳以上の方を指す。

(3) 現在生活している場所
【02 単身高齢者】

単身高齢者において、現在の住まいをたずねたところ、「あて名の住所に、ひとりで住んでいる」が 51.1%、「有料老人ホーム・ケアハウス等に入居中」が 23.1%、「あて名の住所に、だれかと一緒に住んでいる」が 18.4%、「病院・医院へ入院中」が 3.9%となっている。

図表 III. 1. 2 現在生活している場所

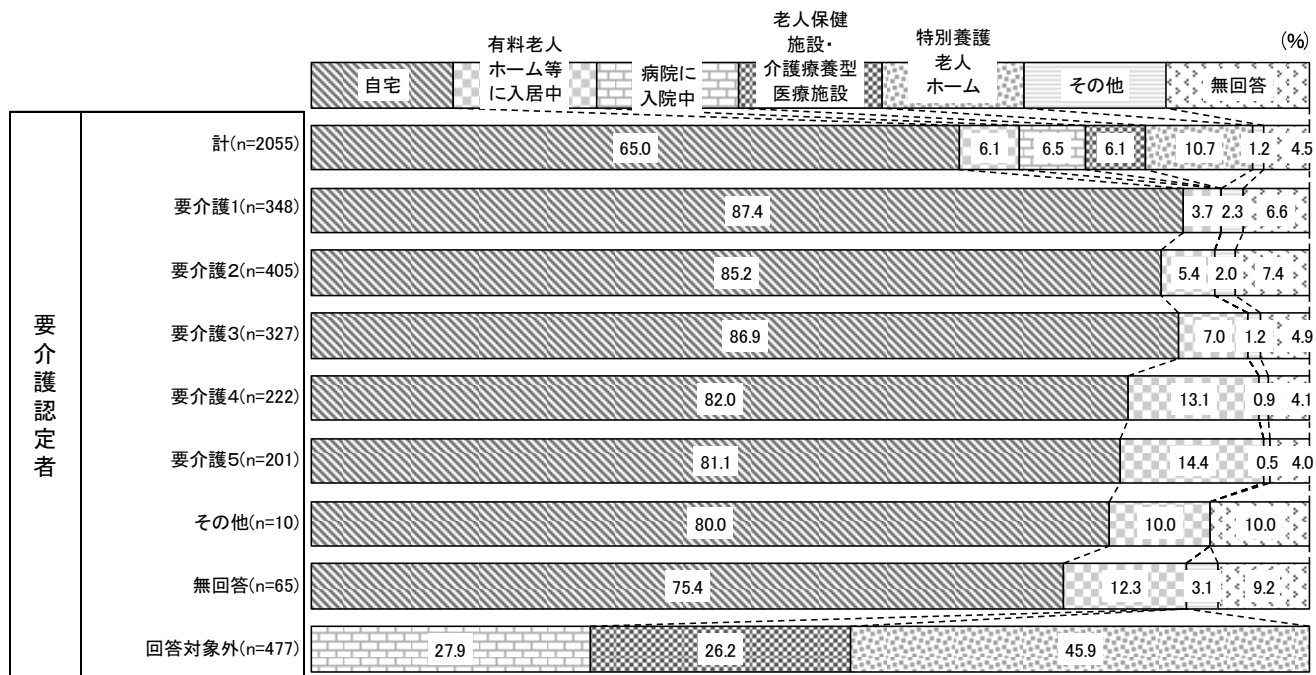


なお、単身高齢者調査においては、本問で「あて名の住所に、ひとりで住んでいる」と回答した人及び無回答の人を、32 ページ以降に掲載している各設問における回答対象としている。

【03 要介護認定者】

要介護認定者に、現在生活している場所をたずねたところ、「自宅」が 65.0%、「特別養護老人ホーム」が 10.7%、「病院に入院中」が 6.5%、「有料老人ホーム等に入居中」「老人保健施設・介護療養型医療施設」がそれぞれ 6.1%となっている。

図表 III. 1. 3 現在生活している場所



なお、要介護認定者調査においては、本問で「自宅」「有料老人ホーム・ケアハウス・グループホームに入居中」「その他」と回答した人及び無回答の人を、32 ページ以降に掲載している各設問における回答対象としている。

(4) 性別

【01 一般高齢者 問1】 【02 単身高齢者 問1】 【03 要介護認定者 問1】
 【04 一般若年者 問1】

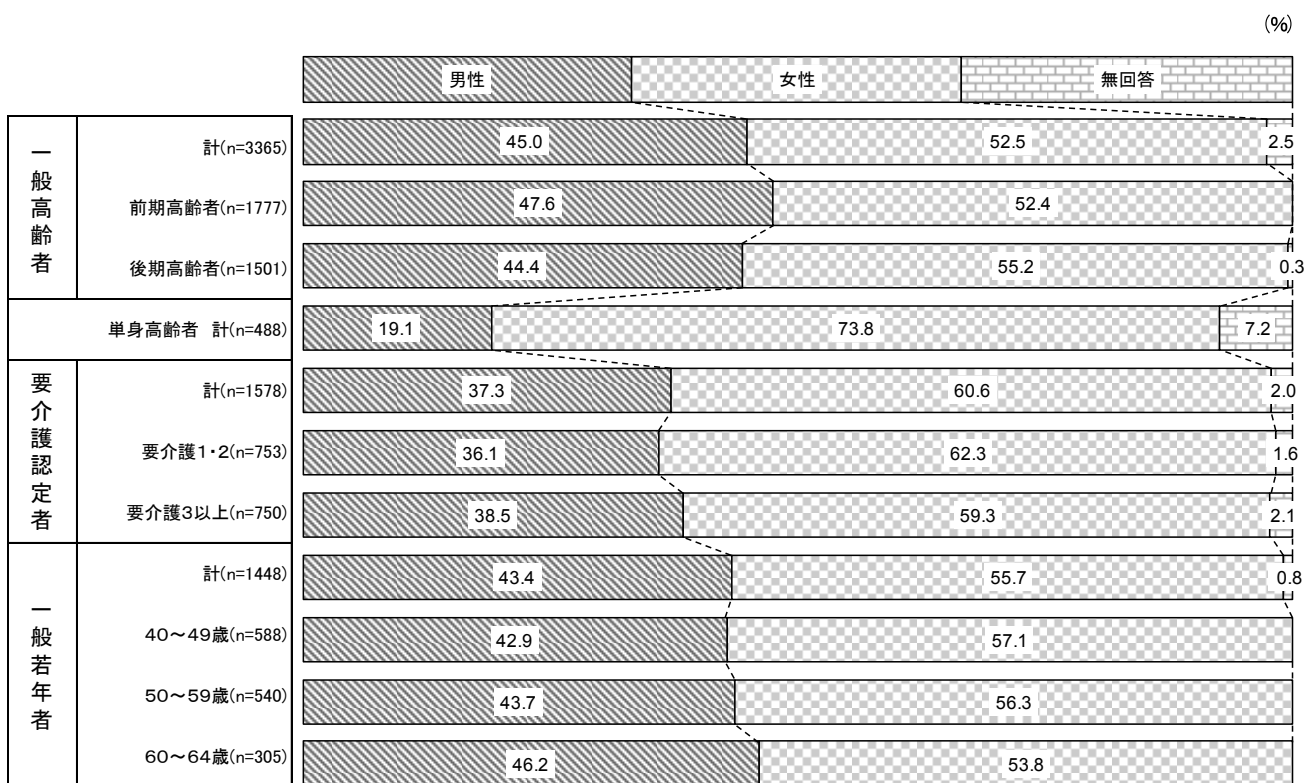
回答者の性別は、一般高齢者では、男性 45.0%、女性 52.5%である。前期高齢者に比べ後期高齢者で女性の割合がやや高くなっている。

単身高齢者では、男性 19.1%に対し、女性 73.8%と偏りが大きくなっている。

要介護認定者では、男性 37.3%に対し、女性 60.6%となっている。要介護度別にみると、差はほとんどみられない。

一般若年者では、男性 43.4%に対し、女性 55.7%である。年代別には差はほとんどみられない。

図表 III. 1. 4 回答者の性別

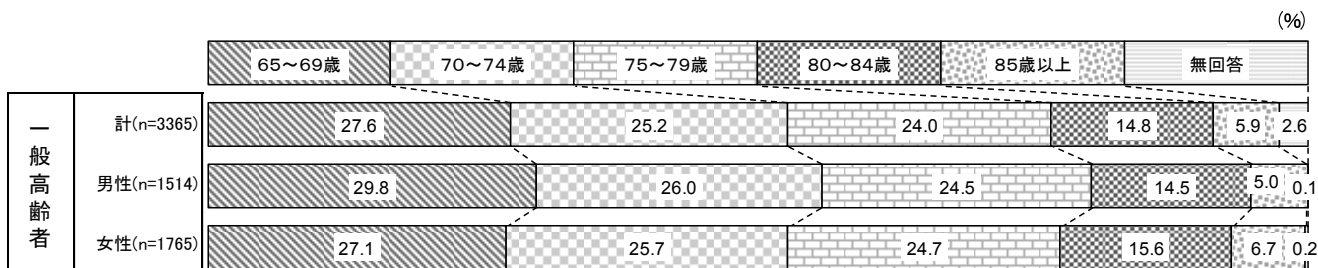


(5) 年齢

【01 一般高齢者 問1】

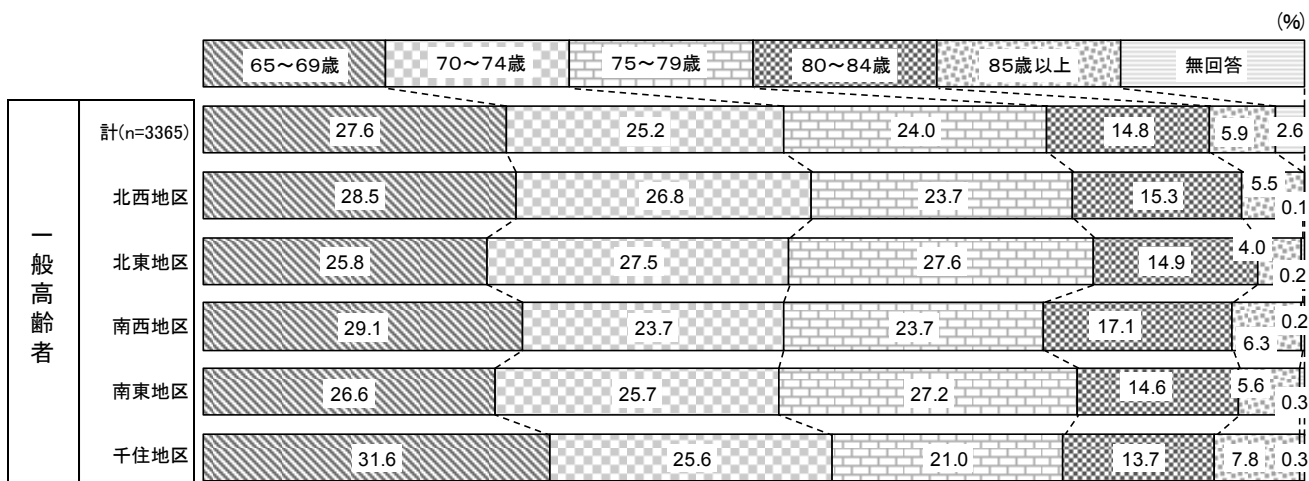
回答者の年齢は、一般高齢者では65～69歳が27.6%、70～74歳が25.2%、75～79歳が24.0%、80～84歳が14.8%、85歳以上が5.9%となっている。

図表 III. 1. 5 回答者の年齢



一般高齢者について、地区別にみた結果は以下のとおりである。

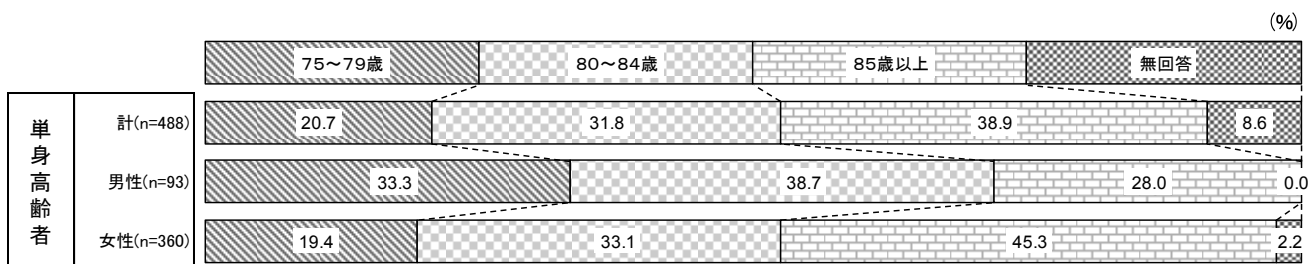
図表 III. 1. 6 回答者の年齢：地区別



【02 単身高齢者 問1】

単身高齢者では、75～79歳が20.7%、80～84歳が31.8%、85歳以上が38.9%である。

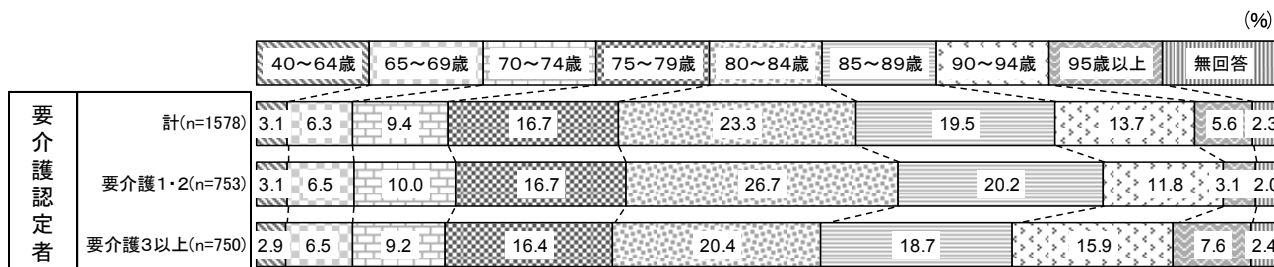
図表 III. 1. 7 回答者の年齢



【03 要介護認定者 問1】

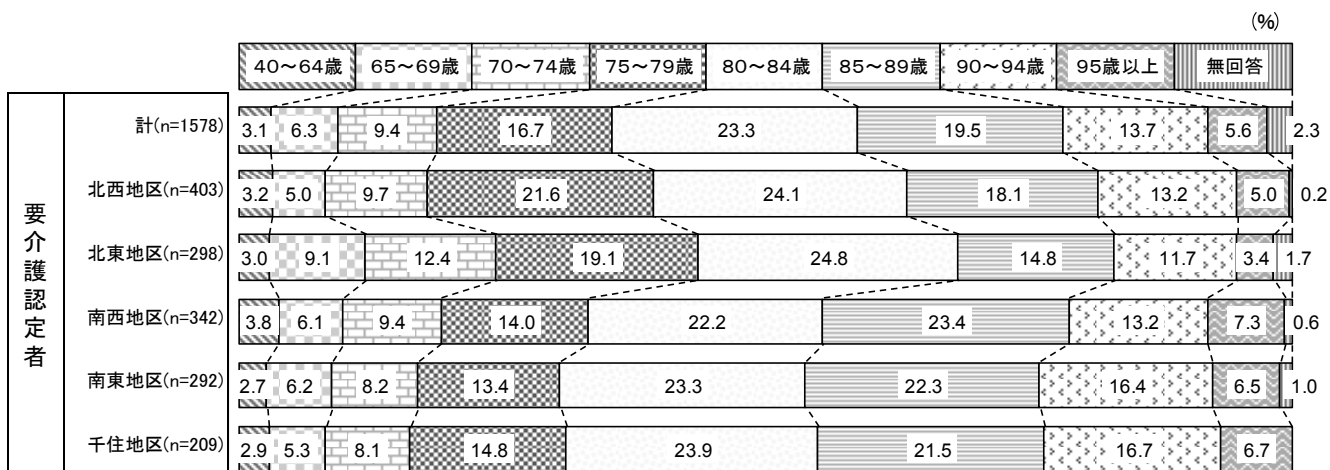
要介護認定者では、「40～64歳」が3.1%、「65～69歳」と「70～74歳」を合わせ前期高齢者が15.7%で、75歳以上の後期高齢者がおよそ8割となっている。

図表 III. 1. 8 回答者の年齢



要介護認定者において、地区別にみた結果は以下のとおりである。北東地区は、他の地区に比べて前期高齢者（「65～69歳」、「70～74歳」）が高く、「85～89歳」が低くなっている。

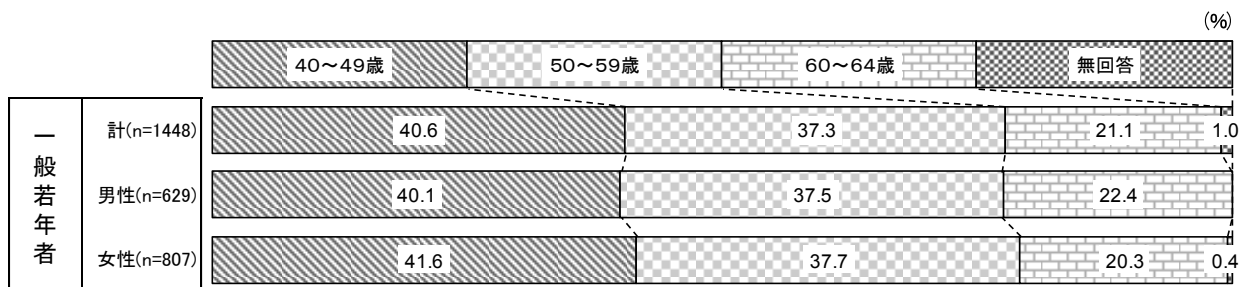
図表 III. 1. 9 回答者の年齢：地区別



【04 一般若年者 問1】

一般若年者では、40～49歳が40.6%、50～59歳が37.3%、60～64歳が21.1%である。

図表 III. 1. 10 回答者の年齢



(6) 居住地区

【01 一般高齢者 問2】【02 単身高齢者 問2】【03 要介護認定者 問2】
 【04 一般若年者 問2】

居住地区は、一般高齢者では、「北西地区」が20.4%、「北東地区」が18.4%、「南西地区」が18.1%、「南東地区」が20.2%、「千住地区」が20.1%である。性年代別にみると、男性前期高齢者では「千住地区」が22.7%、男性後期高齢者では「北東地区」が22.8%と高くなっている。

単身高齢者では、「北西地区」が19.7%、「北東地区」が13.1%、「南西地区」が19.5%、「南東地区」が23.0%、「千住地区」が18.4%である。性別にみると、男性では「千住地区」が22.6%、女性では「南東地区」が26.1%と高くなっている。

要介護認定者では、「北西地区」が25.5%、「北東地区」が18.9%、「南西地区」が21.7%、「南東地区」が18.5%、「千住地区」が13.2%である。

一般若年者では、「北西地区」が20.8%、「北東地区」が18.2%、「南西地区」が18.4%、「南東地区」が20.9%、「千住地区」が20.5%である。性年代別にみると、男性40代では「北西地区」「北東地区」「千住地区」がともに22.6%、女性60～64歳では「北西地区」が26.8%と高くなっている。

図表 III. 1. 1 1 居住地区

(%)

		北西地区	北東地区	南西地区	南東地区	千住地区	無回答
一般高齢者	計(n=3365)	20.4	18.4	18.1	20.2	20.1	2.8
	男性前期高齢者(n=845)	20.6	18.2	18.7	19.5	22.7	0.2
	男性後期高齢者(n=667)	19.6	22.8	18.4	21.6	17.1	0.4
	女性前期高齢者(n=932)	22.1	18.9	17.5	20.5	20.9	0.1
	女性後期高齢者(n=829)	21.1	16.3	19.4	21.5	21.0	0.7
単身高齢者	計(n=488)	19.7	13.1	19.5	23.0	18.4	6.4
	男性(n=93)	18.3	20.4	20.4	18.3	22.6	
	女性(n=360)	21.9	12.5	20.6	26.1	18.6	0.3
要介護認定者	計(n=1578)	25.5	18.9	21.7	18.5	13.2	2.2
	要介護1・2(n=753)	24.6	20.2	20.8	19.0	13.4	2.0
	要介護3以上(n=750)	26.1	17.7	22.4	18.4	13.2	2.1
一般若年者	計(n=1448)	20.8	18.2	18.4	20.9	20.5	1.2
	男性40代(n=252)	22.6	22.6	15.1	16.7	22.6	0.4
	男性50代(n=236)	16.5	18.2	21.6	23.3	19.1	1.3
	男性60～64歳(n=141)	19.9	16.3	19.9	22.0	21.3	0.7
	女性40代(n=336)	22.6	17.3	20.5	19.9	19.6	
	女性50代(n=304)	18.4	18.1	19.4	22.7	20.7	0.7
	女性60～64歳(n=164)	26.8	15.9	12.8	23.2	21.3	

(7) 家族構成

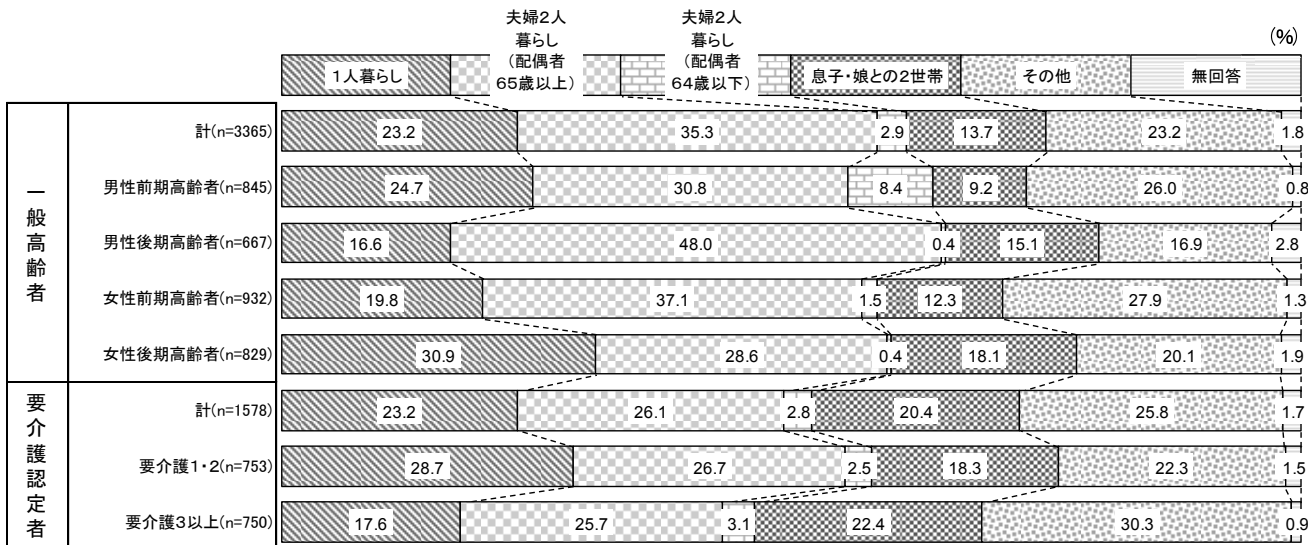
①家族構成

【01 一般高齢者 問4(1)】【03 要介護認定者 問3】【04 一般若年者 問3】

家族構成は、一般高齢者では、「1人暮らし」が23.2%、「夫婦2人暮らし（配偶者65歳以上）」が35.3%、「夫婦2人暮らし（配偶者64歳以下）」が2.9%、「息子・娘との2世帯」が13.7%となっている。性年代別にみると、男性後期高齢者では「夫婦2人暮らし（配偶者65歳以上）」が48.0%、女性後期高齢者では「1人暮らし」が30.9%と高くなっている。

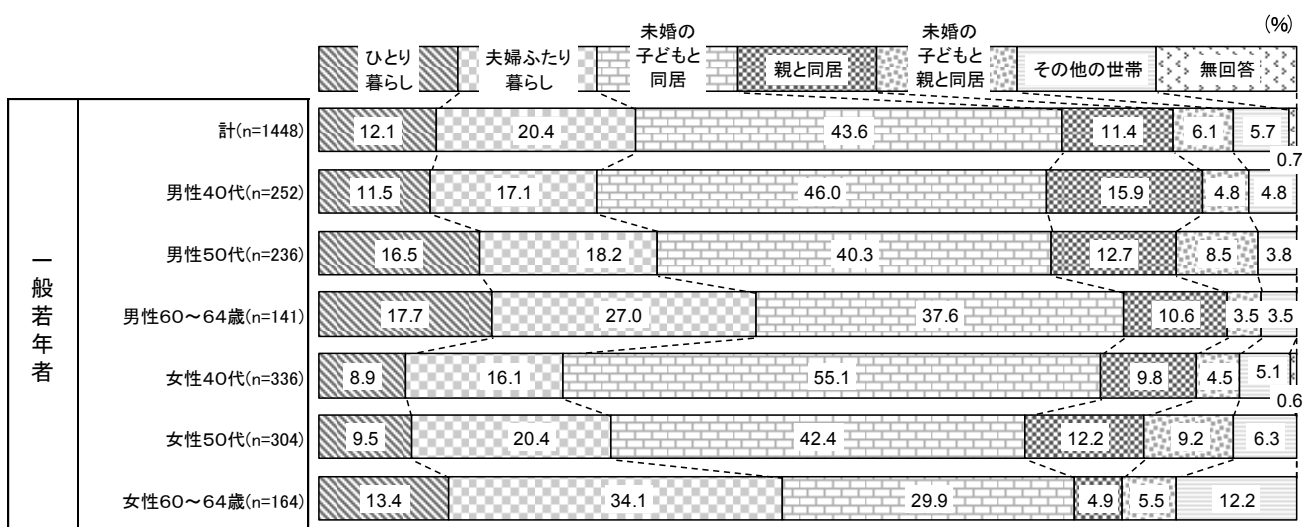
要介護認定者では、「1人暮らし」が23.2%、「本人と65歳以上の配偶者のみの二人世帯」が26.1%、「本人と65歳未満の配偶者のみの二人世帯」が2.8%、「息子・娘と2世帯」が20.4%となっている。

図表 III. 1. 1 2 家族構成



一般若年者では、「ひとり暮らし」が12.1%、「夫婦ふたり暮らし」が20.4%、「未婚の子どもと同居」が43.6%、「親と同居」が11.4%、「未婚の子どもと親と同居」が6.1%となっている。性年代別にみると、女性40代では「未婚の子どもと同居」が55.1%と高くなっている。

図表 III. 1. 1 3 家族構成



②同居している人

【01 一般高齢者 問4(1)-1】 【03 要介護認定者 問3-1】 【04 一般若年者 問3-1】

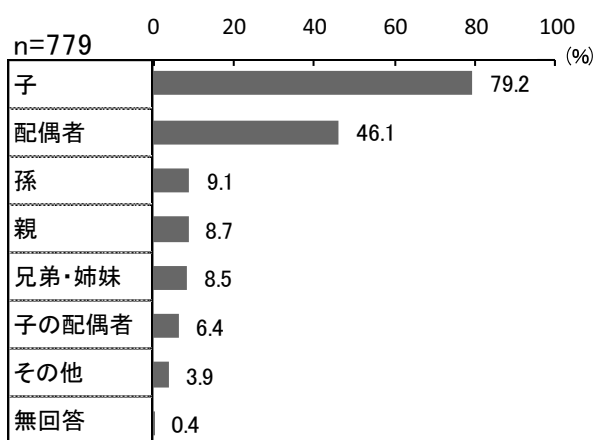
家族構成で「その他」、「その他の世帯」と回答した人に、同居家族をたずねたところ、同居している人は、一般高齢者では、「子」が79.2%と最も高く、次いで「配偶者」(46.1%)、「孫」(9.1%)、親(8.7%)、「兄弟・姉妹」(8.5%)となっている。

要介護認定者では、「子」が77.6%と最も高く、次いで「配偶者」(36.6%)、「子の配偶者」(21.4%)、「孫」(18.9%)となっている。

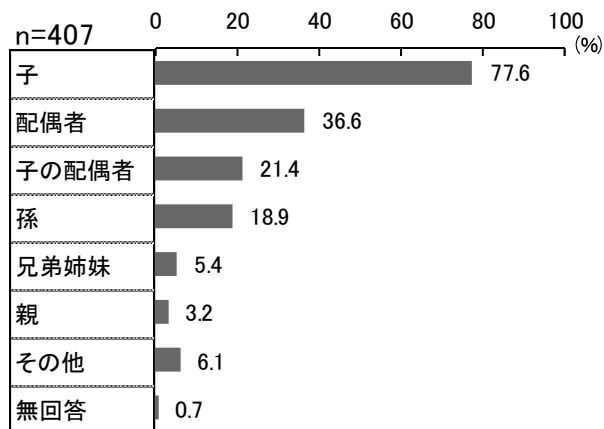
一般若年者では、「兄弟姉妹」が45.1%と最も高く、次いで「親」(37.8%)、「配偶者」(32.9%)、「子」(30.5%)、「孫」(20.7%)となっている。

図表 III. 1. 14 同居している人（複数回答）【ベース：家族構成「その他」「その他の世帯」】

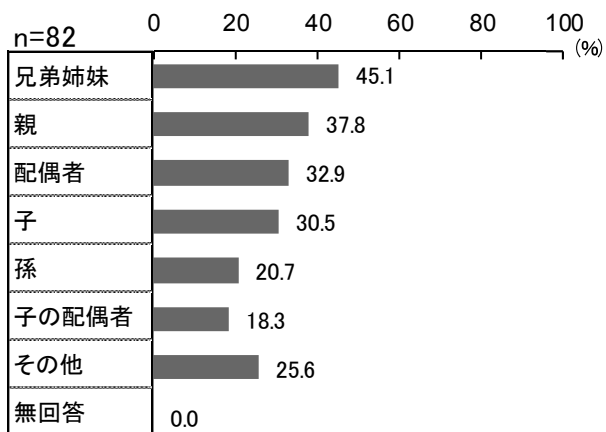
【01 一般高齢者 問4(1)-1】



【03 要介護認定者 問3-1】



【04 一般若年者 問3-1】



一般高齢者において、性年代別にみると、男性前期高齢者では、他の性年代に比べ「配偶者」が 62.7%と高く、女性前期高齢者では「親」が 15.0%と高くなっている。女性後期高齢者では、「子の配偶者」、「孫」が 11.4%と高くなっている。

要介護認定者において、要介護度別にみると、要介護度 3 以上では、「子」が 81.5%と高くなっている。

一般若年者において、性年代別にみると、女性 40 代では「親」、「兄弟・姉妹」が 70.6% (17 人中 12 人) と高くなっている。

図表 III. 1. 15 同居している人（複数回答）：性年代別・要介護度別

	一般高齢者					要介護認定者			一般若年者						
	全体	男性前期高齢者	男性後期高齢者	女性前期高齢者	女性後期高齢者	全体	要介護 1・2	要介護 3 以上	全体	男性 40 代	男性 50 代	男性 60 ～ 64 歳	女性 40 代	女性 50 代	女性 60 ～ 64 歳
n=	779	220	113	260	167	407	168	227	82	12	9	5	17	19	20
配偶者	46.1	62.7	48.7	47.7	21.0	36.6	35.7	37.0	32.9	16.7	44.4	40.0	29.4	36.8	35.0
子	79.2	77.3	84.1	79.2	79.6	77.6	72.6	81.5	30.5	0.0	33.3	40.0	17.6	42.1	45.0
子の配偶者	6.4	3.6	9.7	4.2	11.4	21.4	20.8	22.5	18.3	16.7	22.2	0.0	0.0	31.6	25.0
孫	9.1	6.4	8.8	10.0	11.4	18.9	17.9	20.3	20.7	0.0	11.1	40.0	0.0	26.3	45.0
親	8.7	11.8	0.9	15.0	0.6	3.2	2.4	4.0	37.8	41.7	33.3	0.0	70.6	42.1	15.0
兄弟・姉妹	8.5	9.1	6.2	6.9	9.6	5.4	6.5	4.8	45.1	41.7	33.3	60.0	70.6	31.6	40.0
その他	3.9	4.1	4.4	1.9	6.0	6.1	6.5	5.3	25.6	33.3	44.4	0.0	29.4	26.3	15.0
無回答	0.4	0.5	0.9	0.4	0.0	0.7	0.6	0.9	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

※「その他」の内容（抜粋）

【04 一般若年者 問 3-1】

- ・ 交際相手、パートナー
- ・ 友人
- ・ 祖母、甥、姪、叔母、伯父家族

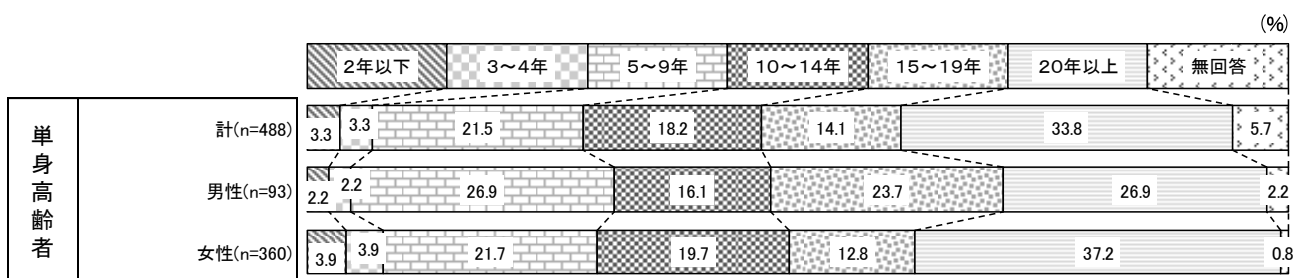
③ひとり暮らしの期間

【02 単身高齢者 問8】

単身高齢者のひとり暮らしの期間は、「20年以上」が33.8%と最も高い。これに「15～19年」(14.1%)、「10～14年」(18.2%)を合わせると、計66.1%の人が、ひとり暮らしの期間が10年以上となっている。

性別にみると、男性は「5～9年」、「20年以上」がそれぞれ26.9%、女性は「20年以上」が37.2%と高くなっている。

図表 III. 1. 16 ひとり暮らしの期間：性別



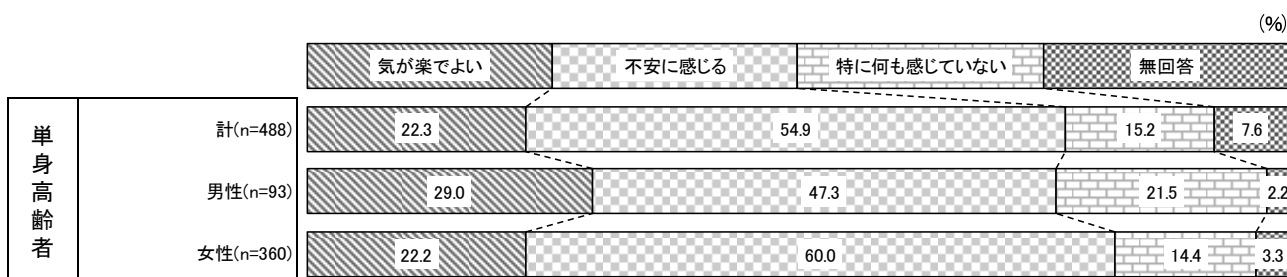
④ひとりで暮らすことについての考え

【02 単身高齢者 問9】

単身高齢者の、ひとりで暮らすことについての考えは、「不安を感じる」が54.9%と過半数である。「気が楽でよい」は22.3%、「特に何も感じていない」は15.2%となっている。

性別にみると、男性は「気が楽でよい」が29.0%と女性に比べ高く、女性は「不安を感じる」が60.0%と男性に比べ高くなっている。

図表 III. 1. 17 ひとりで暮らすことについての考え：性別



2 生活支援、介護予防

(1) 健康について

①現在の健康状態

【01 一般高齢者 問 10(1)】【02 単身高齢者 問 12】【03 要介護認定者 問 7】

【04 一般若年者 問 13】

※一般高齢者は、「とてもよい」「まあよい」「あまりよくない」「よくない」の4段階

※単身高齢者は、「健康だと思う」「比較的健康だと思う」「あまり健康ではない」「健康ではない」の4段階

※要介護認定者、一般若年者は、「健康」「まあ健康」「あまり健康ではない」「健康ではない」の4段階

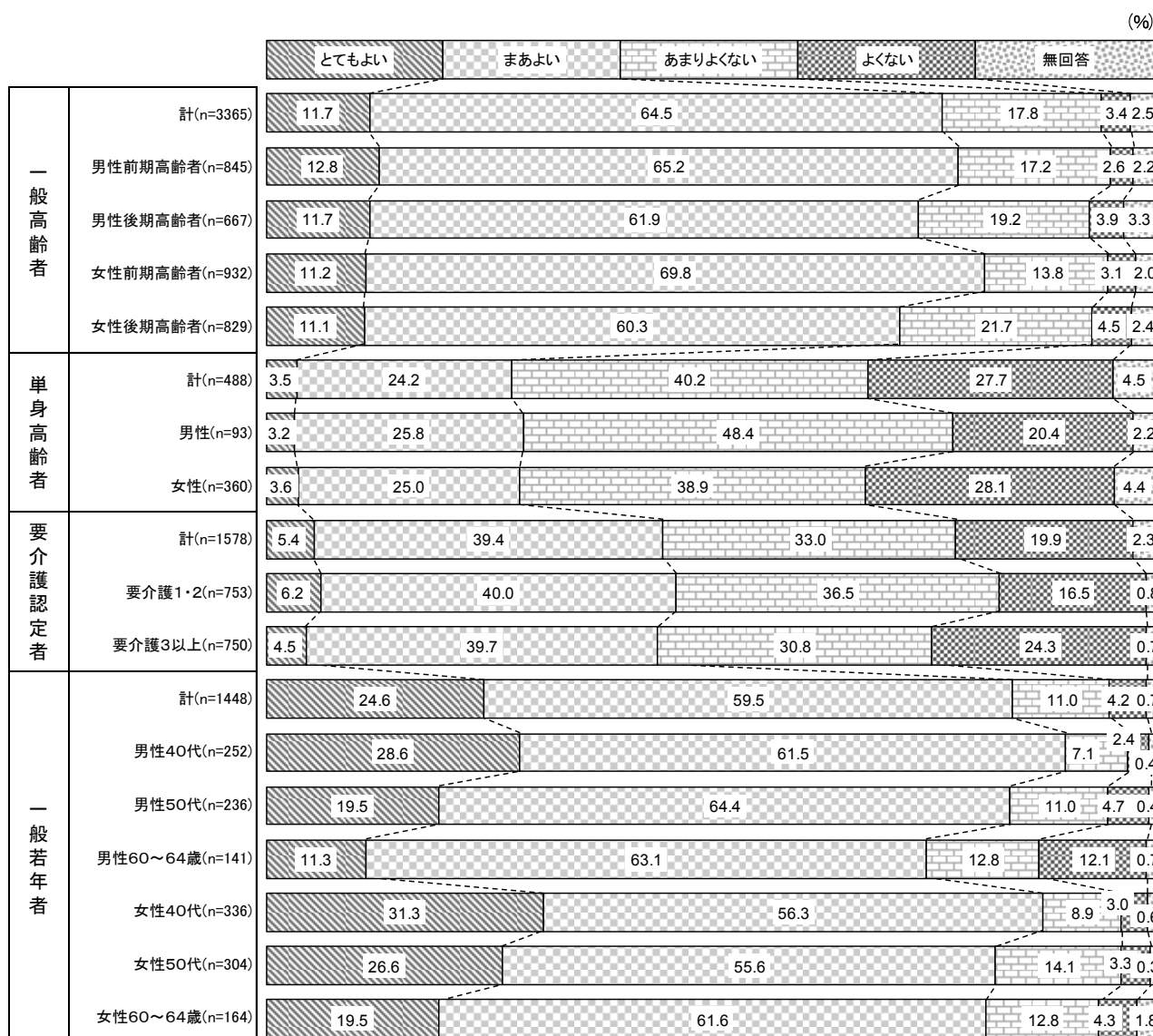
現在の健康状態については、一般高齢者では、「とてもよい」が 11.7%、「まあよい」が 64.5%で、合わせて 76.2%がよいと感じている。男女とも、後期高齢者に比べ前期高齢者で健康状態がよいと感じている割合が高い。

単身高齢者では、「あまりよくない」が 40.2%と最も高く、次いで「よくない」(27.7%)、「まあよい」(24.2%)となっている。

要介護認定者では、「まあよい」が 39.4%で最も高いが、「あまりよくない」(33.0%)、「よくない」(19.9%)と合わせると、約半数が健康でないと感じている。

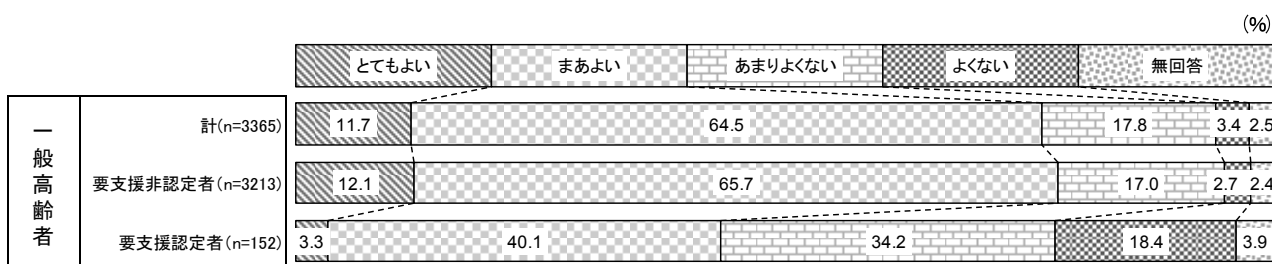
一般若年者では、「まあよい」が 59.5%で最も高く、続く「よい」(24.6%)と合わせて8割超が健康と答えている。年齢別で見ると、男女とも年齢が上がるにつれて健康である（「よい」「まあよい」）と感じる割合が低くなっている。

図表 III. 2. 1 現在の健康状態



一般高齢者について、要支援認定者と要支援非認定者別に見ると、要支援認定者では「あまりよくない」が34.2%、「よくない」が18.4%と、要支援非認定者に比べて高く、要介護認定者に近い傾向を示している。

図表 III. 2. 2 現在の健康状態：一般高齢者・要支援認定者/要支援非認定者別



②主観的幸福感

【01 一般高齢者 問 10(2)】

一般高齢者において、現在どの程度幸せかをたずねたところ、「5点」が20.7%と最も高く、次いで「8点」が18.5%、「10点」が15.9%、「7点」が14.9%となっている。平均値は7.0である。

性年代別にみると、7点以上と回答した人の割合は、男性前期高齢者で52.7%、男性後期高齢者で54.4%に対し、女性前期高齢者で61.6%、女性後期高齢者で58.3%と、女性が男性に比べ高くなっている。また、平均値はいずれも7点前後となっている。

図表 III. 2. 3 主観的幸福感

1 段目 回答数 2 段目 (%)

	n=	0点	1点	2点	3点	4点	5点	6点	7点	8点	9点	10点	無回答	平均値	
一般 高齢者	計	3365	20	24	31	93	104	697	360	500	623	252	535	126	7.0
		100	0.6	0.7	0.9	2.8	3.1	20.7	10.7	14.9	18.5	7.5	15.9	3.7	
	男性前期高齢者	845	6	6	11	26	32	185	107	139	144	54	109	26	6.7
		100	0.7	0.7	1.3	3.1	3.8	21.9	12.7	16.4	17.0	6.4	12.9	3.1	
	男性後期高齢者	667	4	5	6	22	22	155	62	100	116	51	96	28	6.8
		100	0.6	0.7	0.9	3.3	3.3	23.2	9.3	15.0	17.4	7.6	14.4	4.2	
	女性前期高齢者	932	6	4	9	24	26	175	91	148	204	70	152	23	7.1
		100	0.6	0.4	1.0	2.6	2.8	18.8	9.8	15.9	21.9	7.5	16.3	2.5	
	女性後期高齢者	829	3	6	4	16	22	163	87	102	145	75	162	44	7.2
		100	0.4	0.7	0.5	1.9	2.7	19.7	10.5	12.3	17.5	9.0	19.5	5.3	

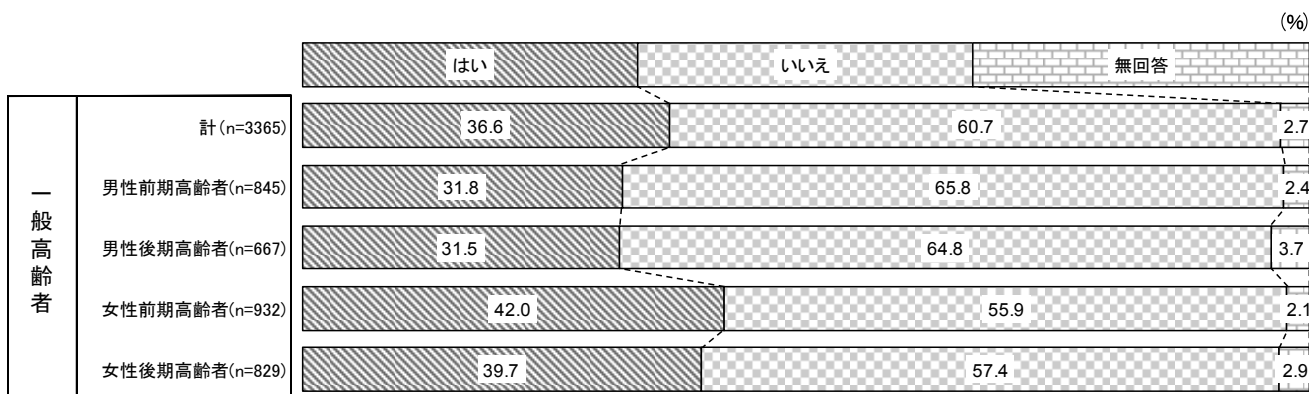
③気分が沈んだり憂鬱になったりした経験（一か月以内）

【01 一般高齢者 問 10(3)】

一般高齢者において、この一か月間で気分が沈んだり、憂鬱になったりした経験があるかをたずねたところ、「はい」が36.6%、「いいえ」が60.7%となっている。

性年代別にみると、「はい」と回答した人は、男性前期高齢者で31.8%、男性後期高齢者で31.5%に対し、女性前期高齢者で42.0%、女性後期高齢者で39.7%と、女性が男性に比べ高くなっている。

図表 III. 2. 4 気分が沈んだり憂鬱になったりした経験（一か月以内）



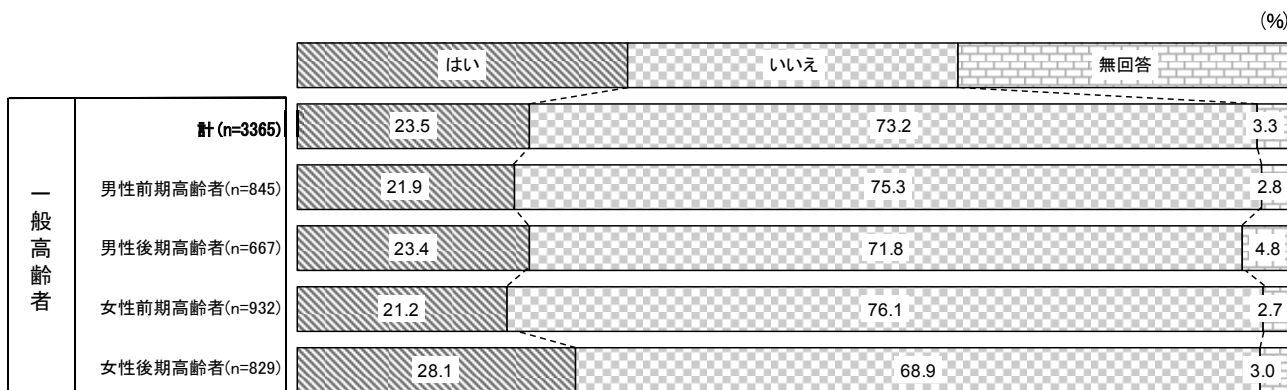
④興味や楽しみがわからないことの有無（一か月以内）

【01 一般高齢者 問 10(4)】

一般高齢者において、この一か月間でどうしても物事に対して興味ที่ わからない、あるいは心から楽しめない感じがよくあったかをたずねたところ、「はい」が 23.5%、「いいえ」が 73.2%となっている。

性年代別にみると、「はい」と回答した人は、女性前期高齢者で 21.2%と低く、女性後期高齢者で 28.1%と高くなっている。

図表 III. 2. 5 興味や楽しみがわからないことの有無（一か月以内）



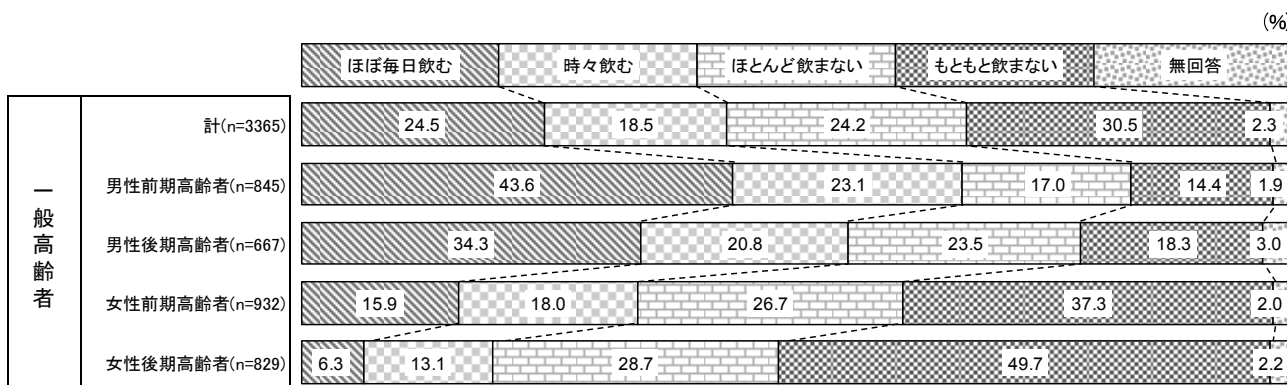
⑤飲酒習慣の有無

【01 一般高齢者 問 10(5)】

一般高齢者において、飲酒をするかをたずねたところ、「ほぼ毎日飲む」が 24.5%、「時々飲む」が 18.5%となっており、計 43.0%の人が飲酒習慣があると回答している。

性年代別にみると、男性前期高齢者では「ほぼ毎日飲む」が 43.6%、「時々飲む」が 23.1%と、計 66.7%が飲酒習慣があると回答しているなど、女性に比べ男性、後期高齢者に比べ前期高齢者において、「ほぼ毎日飲む」「時々飲む」と回答した人の割合が高くなっている。

図表 III. 2. 6 飲酒習慣の有無



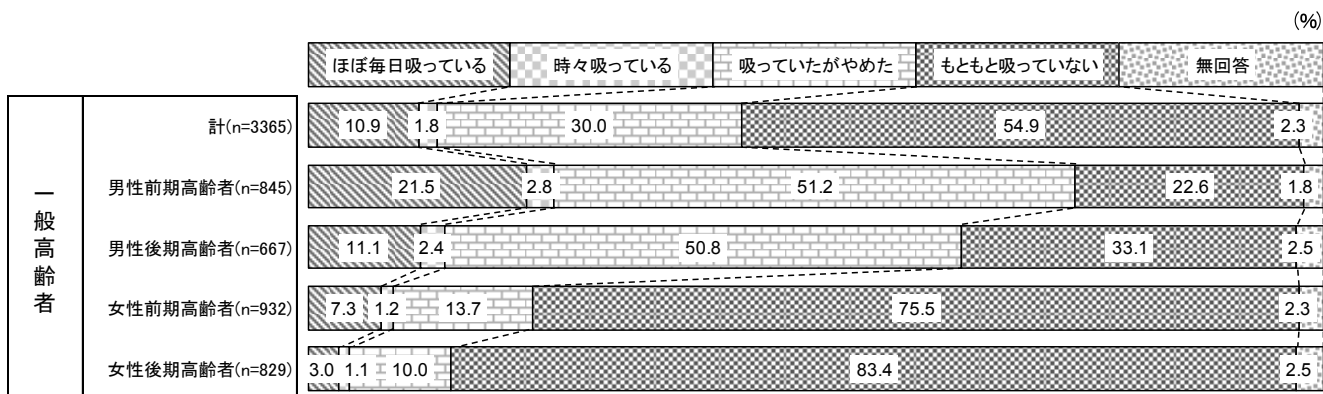
⑥喫煙習慣の有無

【01 一般高齢者 問 10(6)】

一般高齢者において、喫煙しているかをたずねたところ、タバコを「ほぼ毎日吸っている」が10.9%、「時々吸っている」が1.8%と、計12.7%が喫煙習慣がある、と回答している。

性年代別にみると、男性前期高齢者では、計24.3%が喫煙習慣があると回答しており、他の性年代に比べて高くなっている。また、タバコを「吸っていたがやめた」は男性前期高齢者で51.2%、男性後期高齢者で50.8%と、男性で高くなっている。

図表 III. 2. 7 喫煙習慣の有無



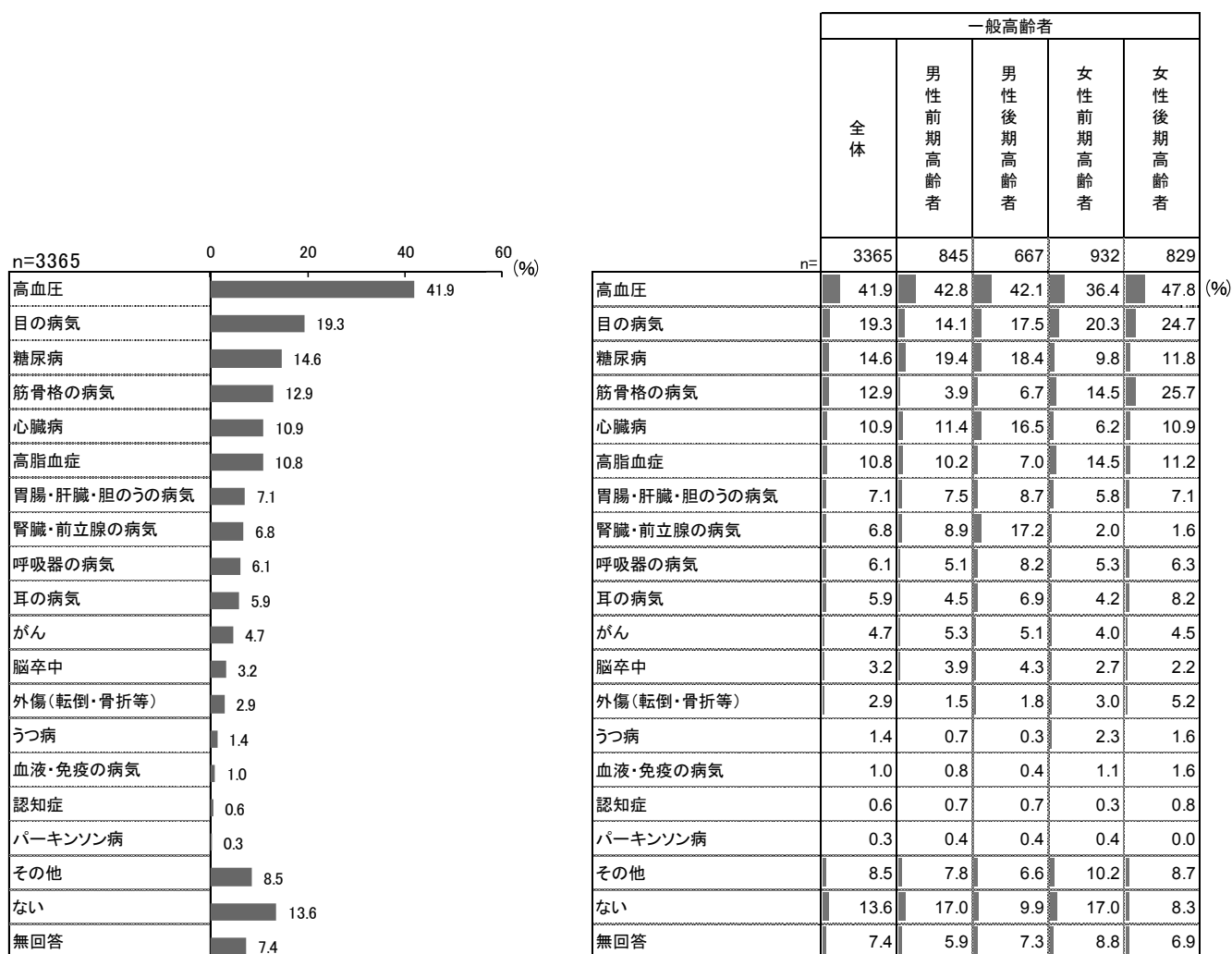
⑦治療中、後遺症のある病気

【01 一般高齢者 問 10(7)】

治療中、後遺症のある病気については、「高血圧」が 41.9%、「目の病気」が 19.3%となっている。

性年代別にみると、「糖尿病」は男性前期高齢者で 19.4%、男性後期高齢者で 18.4%と、女性に比べ高くなっている。「筋骨格の病気」は女性前期高齢者で 14.5%、女性後期高齢者で 25.7%と、男性よりも高くなっている。

図表 III. 2. 8 治療中、後遺症のある病気（複数回答）



(2) 健康と医療について

①高齢者の自覚

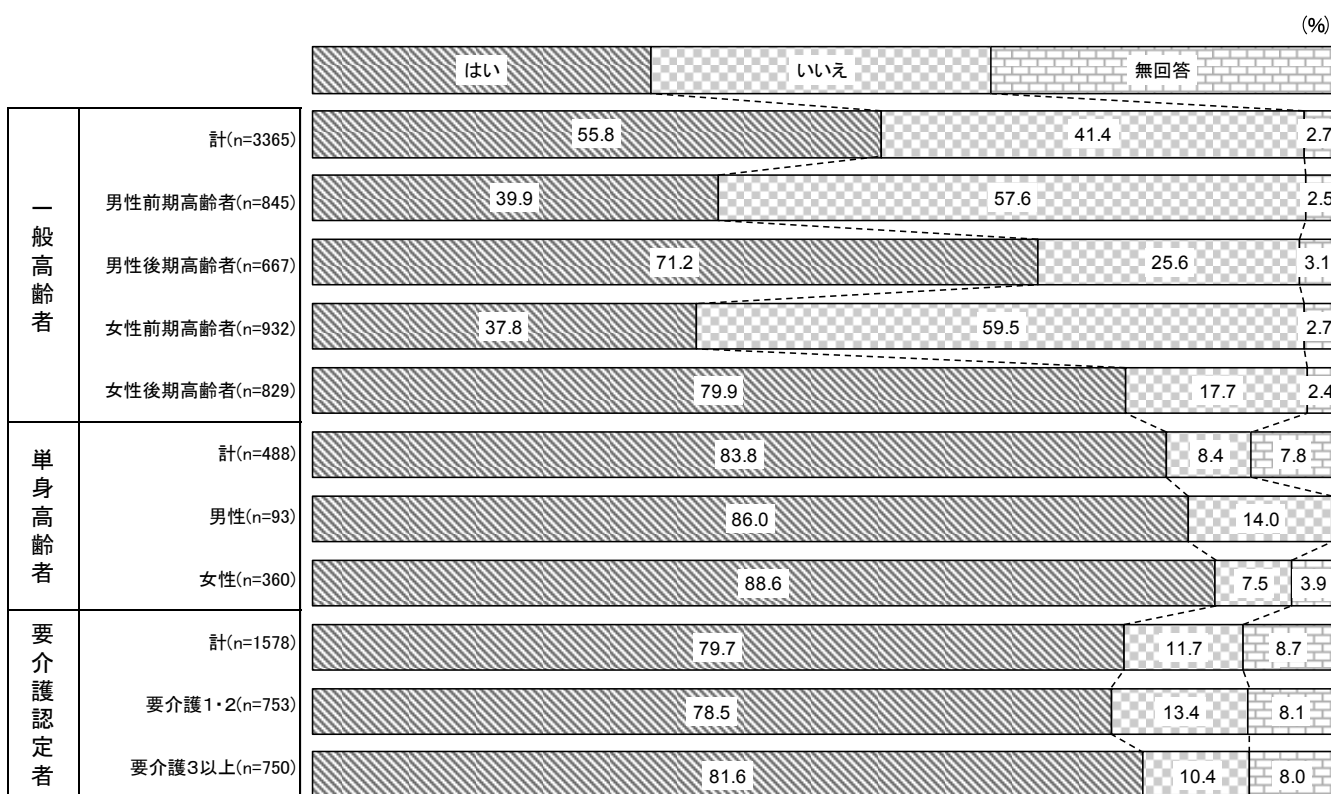
【01 一般高齢者 問 11】 【02 単身高齢者 問 4】 【03 要介護認定者 問 31】

自分を高齢者だと思うかについては、一般高齢者では「はい」が55.8%、「いいえ」が41.4%となっている。性年代別にみると、男女ともに前期高齢者では約4割、後期高齢者では7割以上が「はい」と回答している。

単身高齢者では「はい」が83.8%、「いいえ」が8.4%となっている。性別にみると、男性は「いいえ」が14.0%と高くなっている。

要介護認定者では、「はい」が79.7%、「いいえ」が11.7%となっている。要介護度別にみると、要介護度3以上では「はい」が81.6%とやや高くなっている。

図表 III. 2. 9 高齢者の自覚



②高齢者だと思ふ年齢

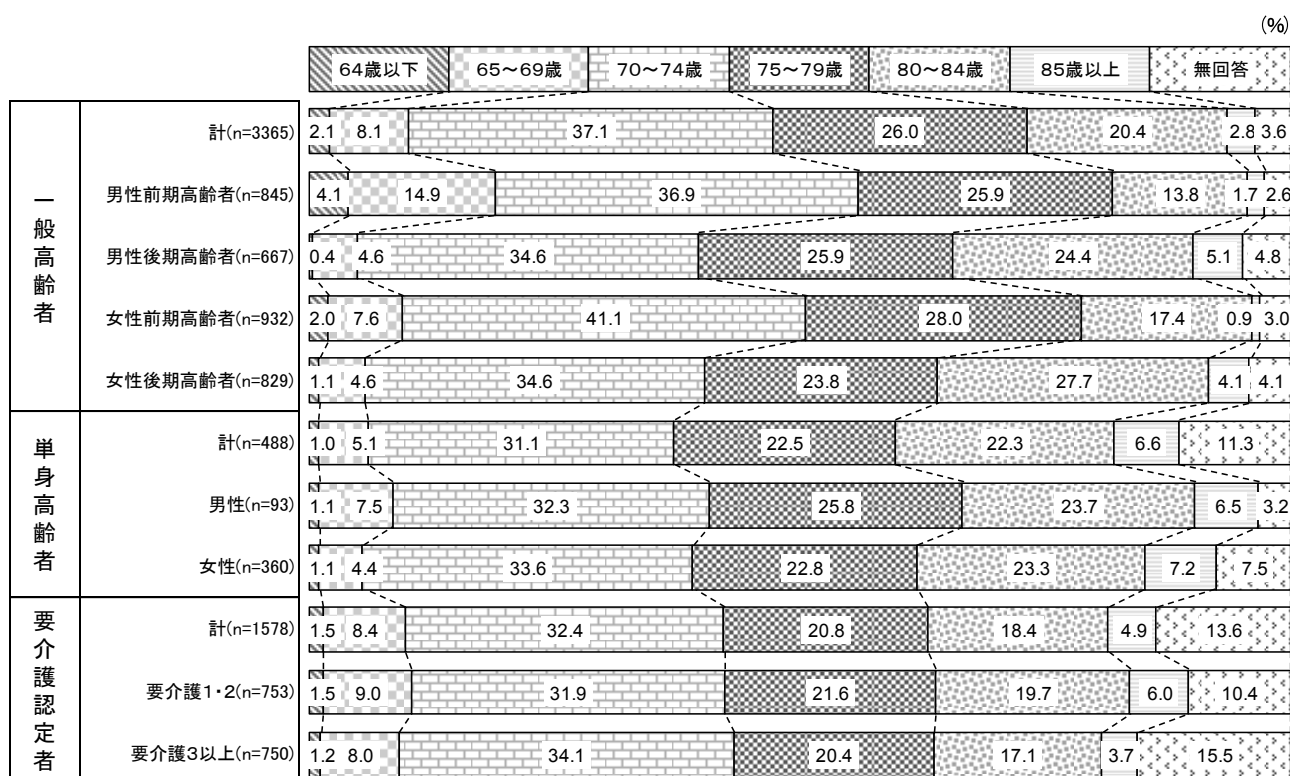
【01 一般高齢者 問 12】【02 単身高齢者 問 5】【03 要介護認定者 問 32】

高齢者だと思ふ年齢については、一般高齢者では「70～74 歳」が最も高く 37.1%、次いで「75～79 歳」が 26.0%となっている。男性前期高齢者では、14.9%が「65～69 歳」と回答しており、他の性年代と比べて高くなっている。

単身高齢者では、「70～74 歳」が 31.1%と高くなっている。男性と女性に差はほとんどみられない。

要介護認定者では、「70～74 歳」が 32.4%と最も高く、「75～79 歳」が 20.8%となっている。

図表 III. 2. 10 高齢者だと思ふ年齢



③希望する健康寿命

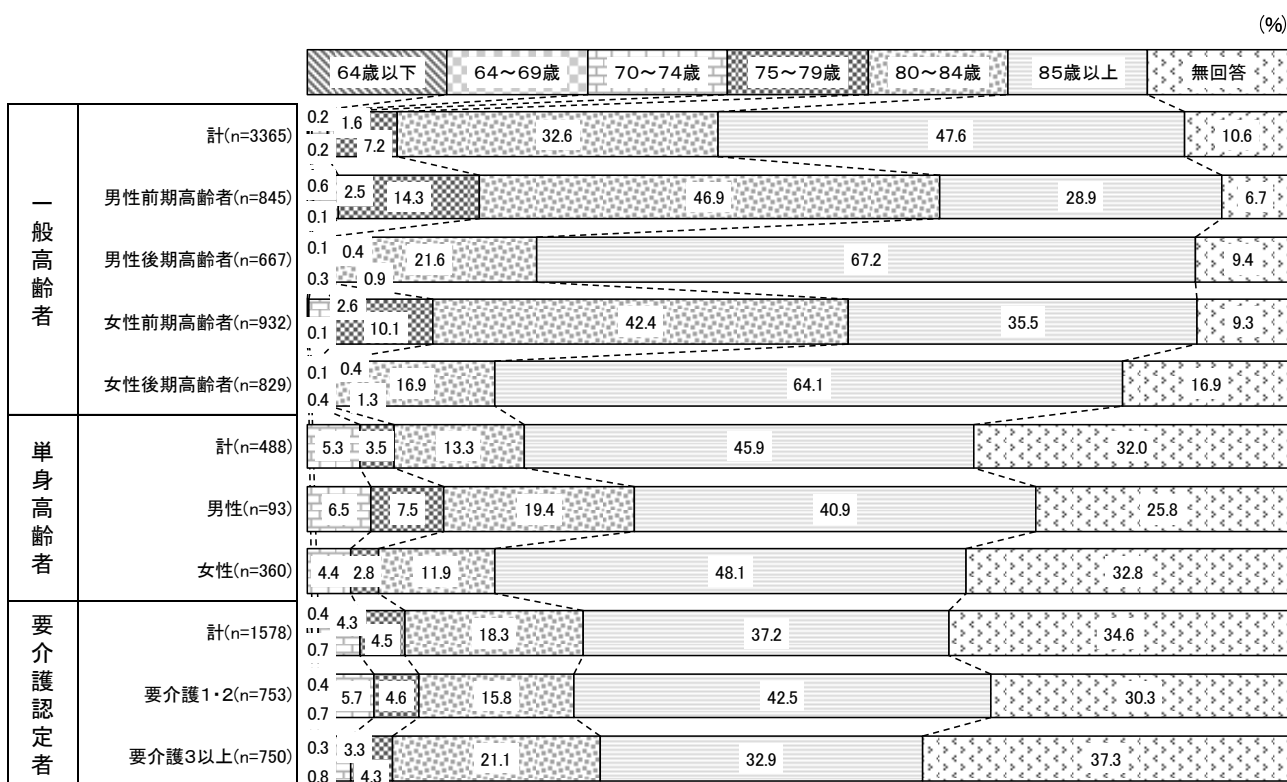
【01 一般高齢者 問 13】【02 単身高齢者 問 14】【03 要介護認定者 問 33】

希望する健康寿命（介護を受けなくて健康に過ごしたいと思う年齢）については、一般高齢者では、「85歳以上」が47.6%と最も高く、次いで「80～84歳」（32.6%）となっている。性年代別にみると、後期高齢者は、男女とも「85歳以上」が最も高く、一般高齢者計に比べ高くなっている。

単身高齢者では、「85歳以上」が45.9%と最も高く、次いで「80～84歳」（13.3%）となっている。

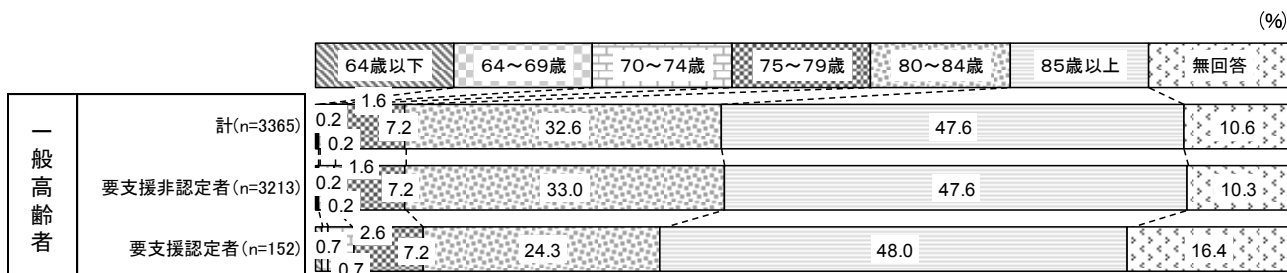
要介護認定者では、「85歳以上」が37.2%と最も高く、次いで「80～84歳」（18.3%）となっている。

図表 III. 2. 1 1 希望する健康寿命



一般高齢者について、要支援認定者、要支援非認定者別にみると、以下の通りとなっている。

図表 III. 2. 1 2 希望する健康寿命：要支援認定者/要支援非認定者別



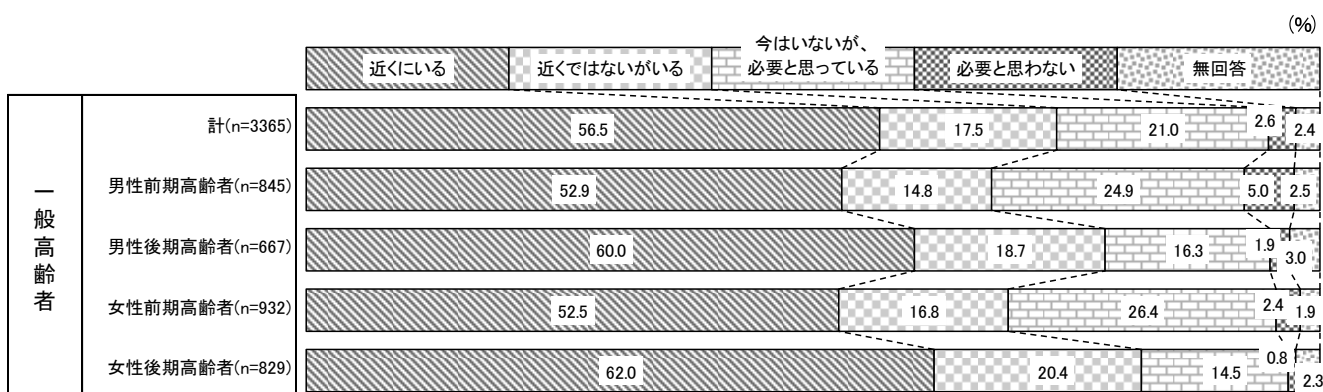
④かかりつけ医の有無

【01 一般高齢者 問 14】

一般高齢者において、かかりつけ医の有無をたずねたところ、「近くにいる」が56.5%、「近くではないがいる」が17.5%と、計74.0%が「かかりつけ医がいる」と回答している。「今はいないが必要と思っている」は21.0%となっている。

性年代別にみると、男性、女性とも後期高齢者で「かかりつけ医がいる」と回答した割合が、前期高齢者と比べて高くなっている。

図表 III. 2. 1 3 かかりつけ医の有無

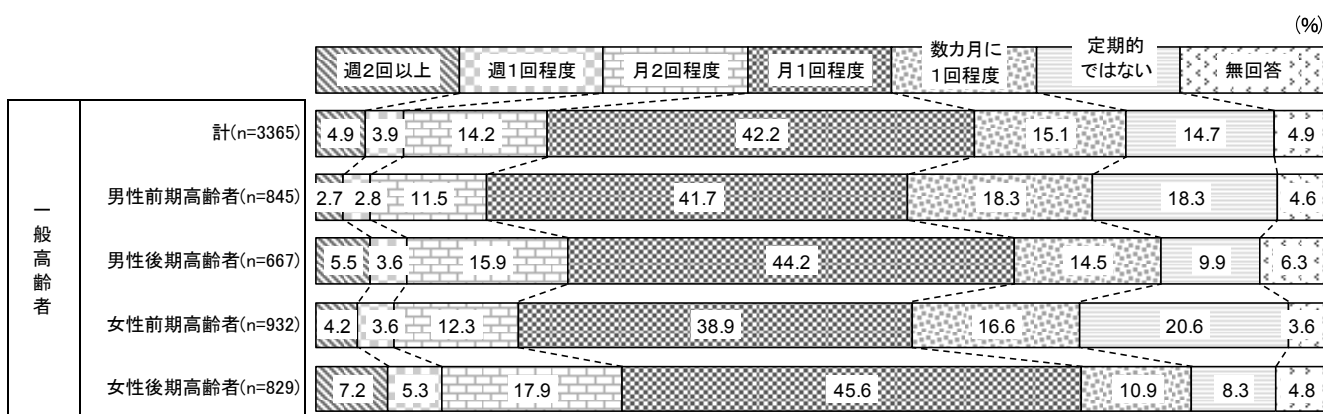


⑤通院・往診頻度

【01 一般高齢者 問 15】

通院・往診頻度については、「月1回程度」が42.2%と最も高く、次いで「数カ月に1回程度」が15.1%、「定期的ではない」が14.7%となっている。

図表 III. 2. 1 4 通院・往診頻度



(3) 日常生活・介護予防

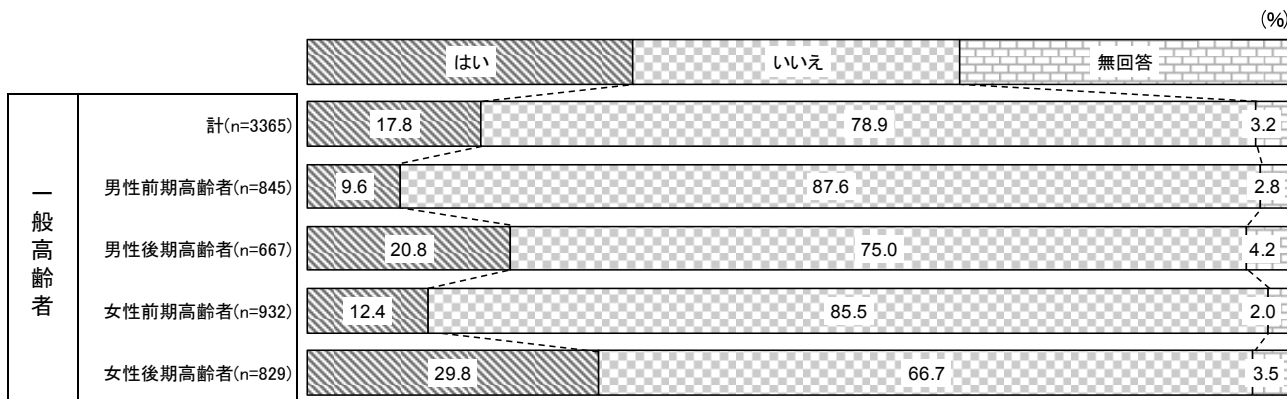
①外出

1) 外出を控えているか

【01 一般高齢者 問5(8)】

外出を控えているかについては、「はい」が17.8%、「いいえ」が78.9%となっている。性年代別でみると、外出を控えていると回答した割合は、男女とも前期高齢者では1割程度であるが、後期高齢者では2割台と高くなっている。

図表 III. 2. 15 外出を控えているか

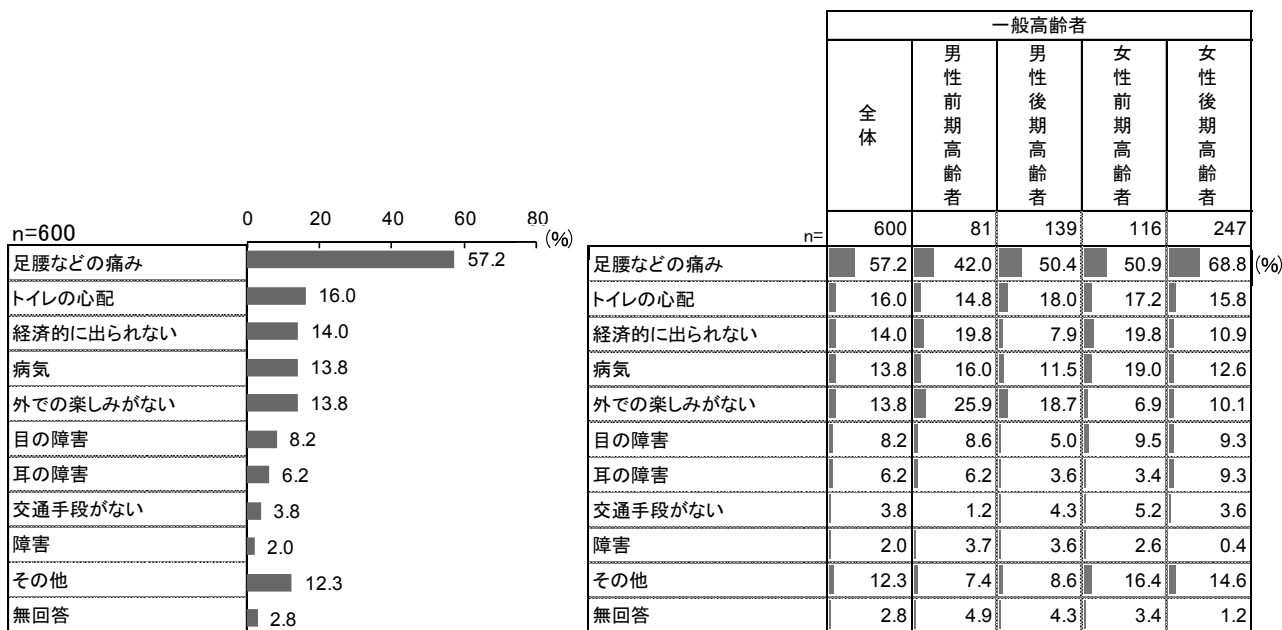


2) 外出を控えている理由

【01 一般高齢者 問5(8)-1】

外出を控えている理由は、「足腰などの痛み」が57.2%と最も高く、次いで「トイレの心配」が16.0%、「経済的に出られない」が14.0%となっている。

図表 III. 2. 16 外出を控えている理由（複数回答）【ベース：外出を控えている】



※「その他」の内容（抜粋）

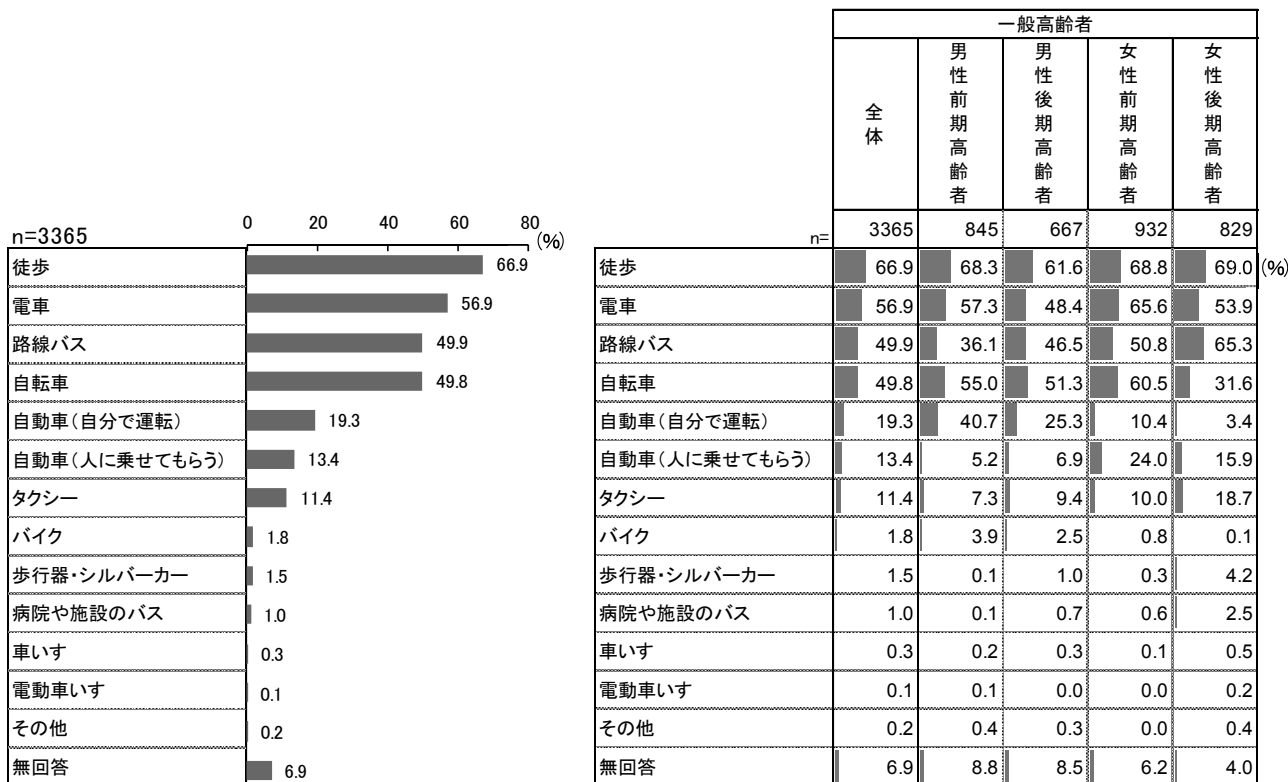
- ・外出したくない
- ・介護をしているため
- ・おっくうな時がある

3) 外出する際の移動手段

【01 一般高齢者 問5(9)】

外出する際の移動手段としては、「徒歩」が66.9%と最も高く、次いで「電車」が56.9%、「路線バス」が49.9%、「自転車」が49.8%となっている。

図表 III. 2. 17 外出する際の移動手段（複数回答）



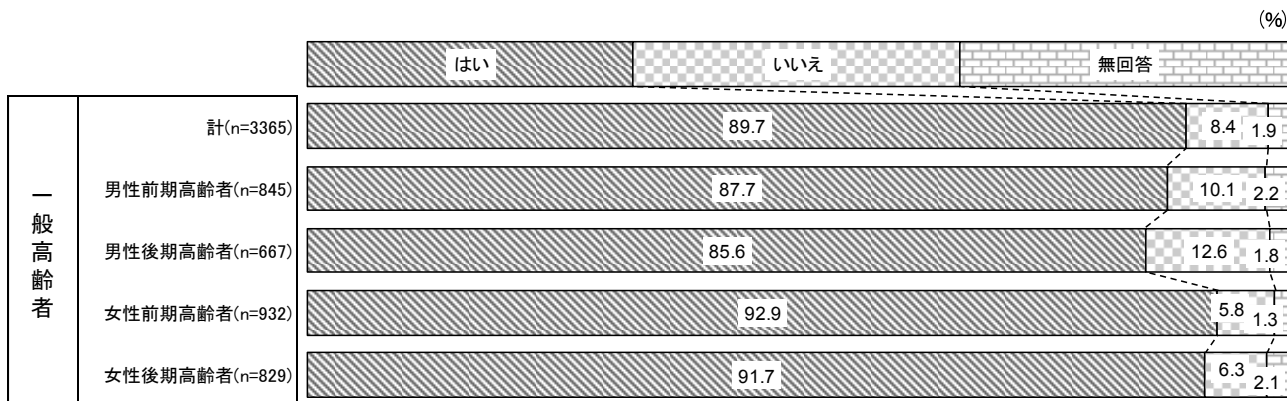
② 食べることについて

1) 歯磨きをしているか

【01 一般高齢者 問6(5)】

歯磨きをしているかについては、「はい」が89.7%、「いいえ」が8.4%となっている。男性に比べ女性で「はい」の割合が高い。

図表 III. 2. 18 歯磨きをしているか



2) 歯の数、入れ歯の利用状況

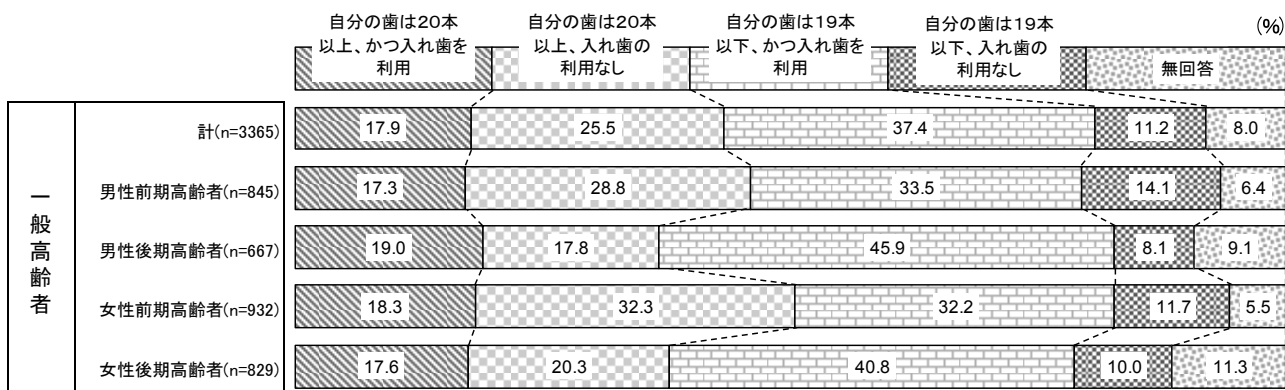
i) 歯の数と入れ歯の利用状況

【01 一般高齢者 問6(6)】

歯の数と入れ歯の利用状況は、「自分の歯は19本以下、かつ入れ歯を利用」が37.4%と最も高く、次いで「自分の歯は20本以上、入れ歯の利用なし」が25.5%となっている。

性年代別にみると、「自分の歯は20本以上、入れ歯の利用なし」は、男女とも前期高齢者が後期高齢者に比べて10ポイント以上高くなっている。

図表 III. 2. 19 歯の数と入れ歯の利用状況

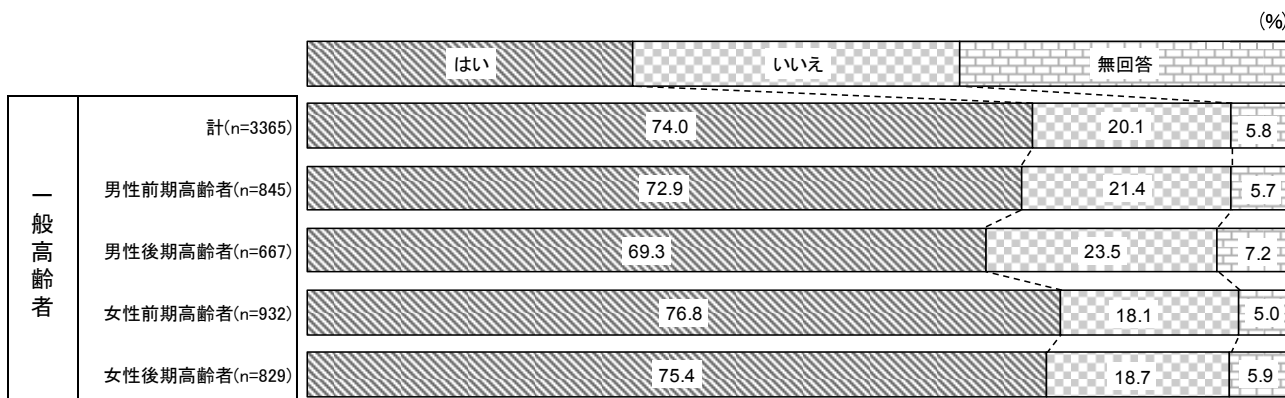


ii) 噛みあわせの状態

【01 一般高齢者 問6(6)-1】

噛みあわせは良いかについては、「はい」が74.0%、「いいえ」が20.1%となっている。男性に比べ女性で「はい」の割合が高い。

図表 III. 2. 20 噛みあわせの状態

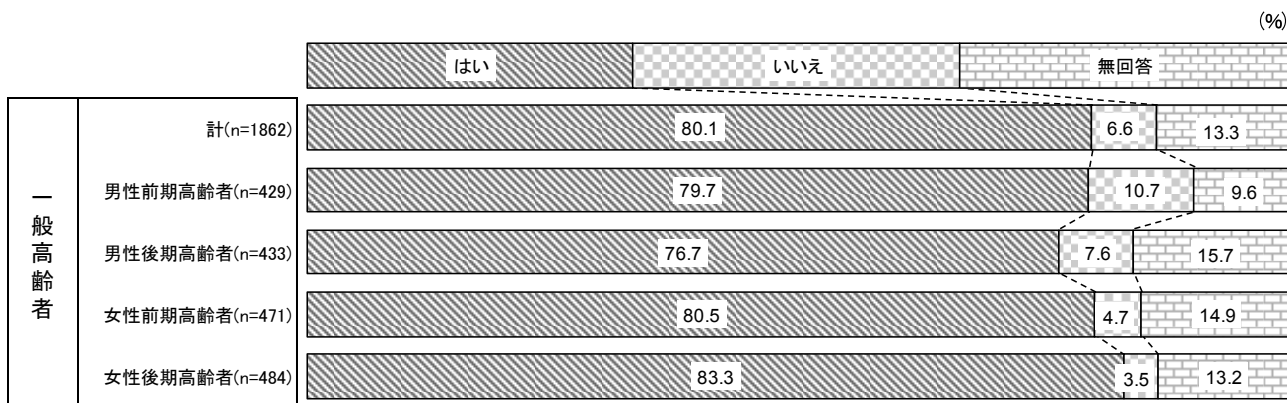


iii) 入れ歯の手入れ状況

【01 一般高齢者 問6(6)-2】

入れ歯をしている人に、毎日入れ歯の手入れをしているかたずねたところ、「はい」が80.1%、「いいえ」が6.6%となっている。
どの性年代においても、8割前後が「はい」と回答している。

図表 III. 2. 2 1 入れ歯の手入れ状況【ベース：入れ歯使用者】

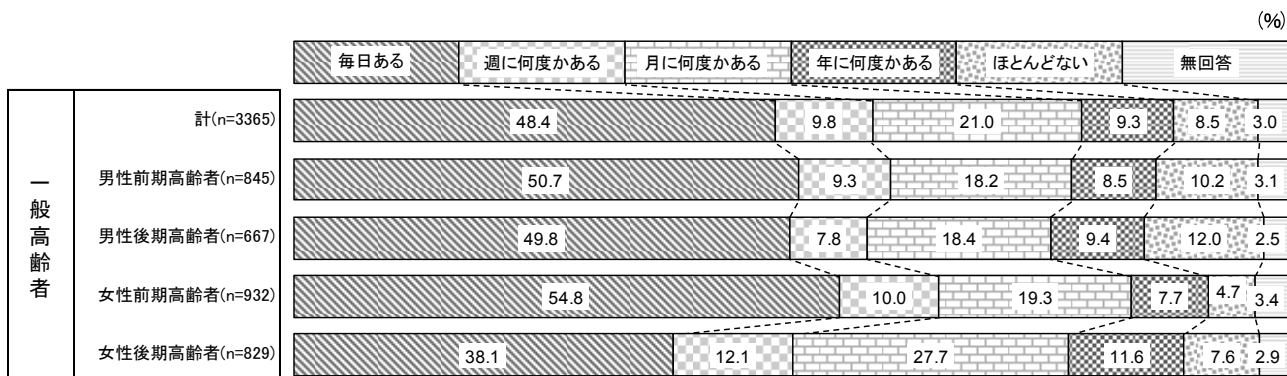


3) どなたかと食事をとにもする機会がありますか

【01 一般高齢者 問6(8)】

どなたかと食事をとにもする機会はあるかたずねたところ、「毎日ある」が48.4%と最も高く、次いで「月に何度かある」が21.0%、「週に何度かある」が9.8%となっている。

図表 III. 2. 2 2 どなたかと食事をとにもする機会がありますか



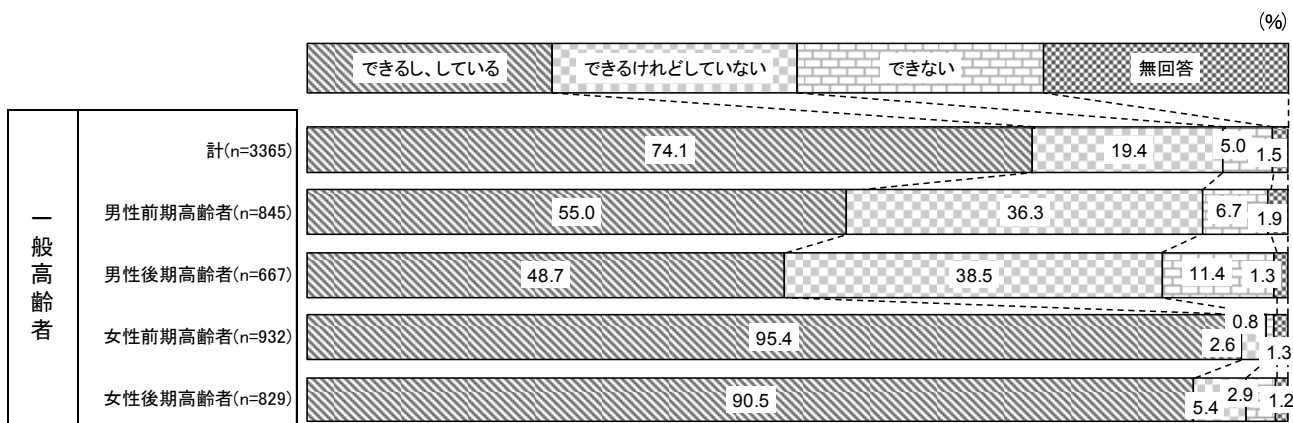
4) 自分で食事の用意をしていますか

【01 一般高齢者 問7(6)】

自分で食事の用意をしているかについては、「できるし、している」が74.1%と最も高く、「できるけれどしていない」が19.4%となっている。

性年代別で見ると、「できるし、している」は、男性では5割前後、女性では9割台と女性が高くなっている。

図表 III. 2. 2 3 自分で食事の用意をしていますか



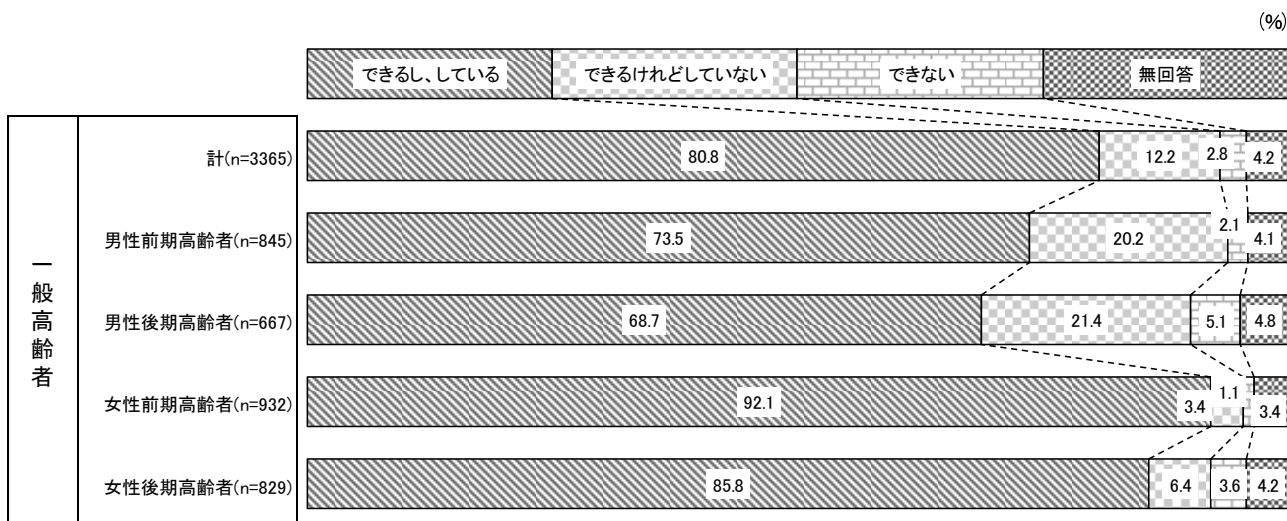
③毎日の生活について

1) 自分で請求書の支払いをしていますか

【01 一般高齢者 問7(7)】

自分で請求書の支払いをしているかについては、「できるし、している」が80.8%と最も高く、「できるけれどしていない」が12.2%となっている。

図表 III. 2. 2 4 自分で請求書の支払いをしていますか



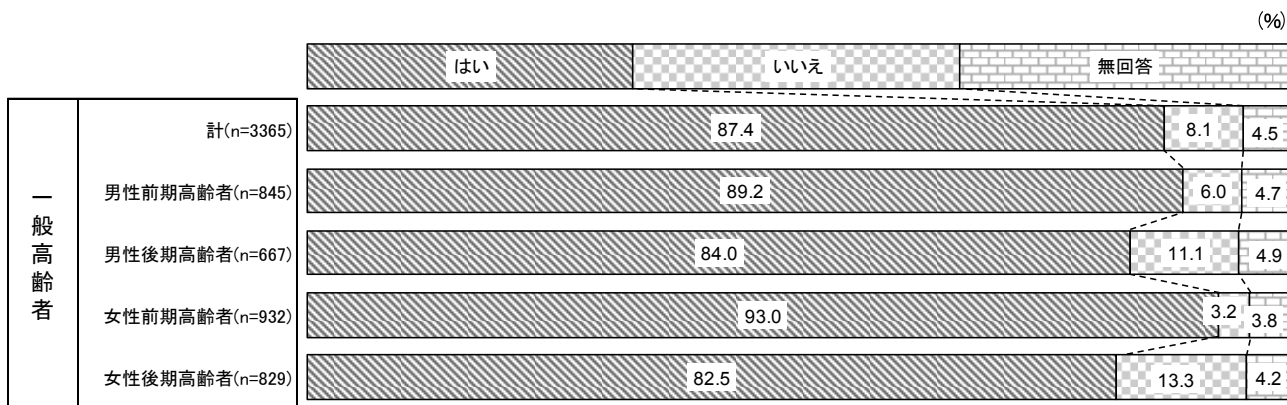
2) 年金などの書類（役所や病院などに出す書類）が書けますか

【01 一般高齢者 問7(9)】

自分で年金などの書類が書けるかたずねたところ、「はい」は87.4%、「いいえ」は8.1%となっている。

性年代別で見ると、女性前期高齢者では「はい」が93.0%と最も高くなっている。

図表 III. 2. 25 年金などの書類（役所や病院などに出す書類）が書けますか



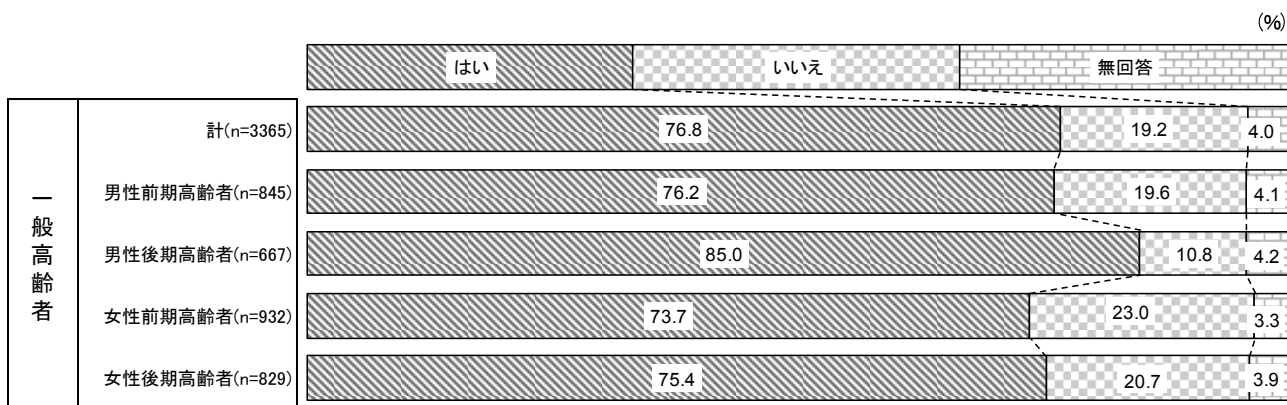
3) 新聞を読んでいますか

【01 一般高齢者 問7(10)】

新聞を読んでいるかについては、「はい」は76.8%、「いいえ」は19.2%となっている。

性年代別で見ると、男性後期高齢者の85.0%が新聞を読んでいると回答し、他の性年代に比べ高くなっている。

図表 III. 2. 26 新聞を読んでいますか

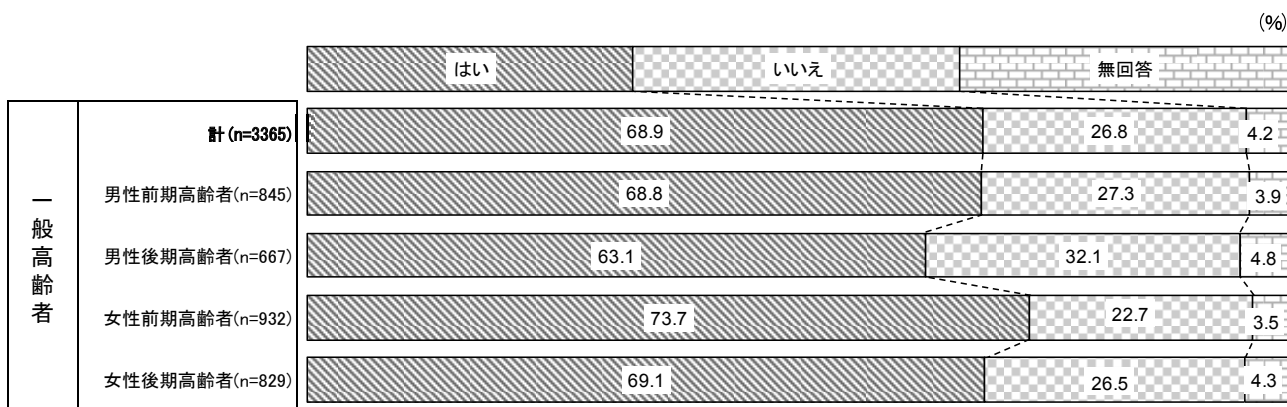


4) 本や雑誌を読んでいますか

【01 一般高齢者 問7(11)】

本や雑誌を読んでいるかについては、「はい」が 68.9%、「いいえ」は 26.8%となっている。

図表 III. 2. 27 本や雑誌を読んでいますか



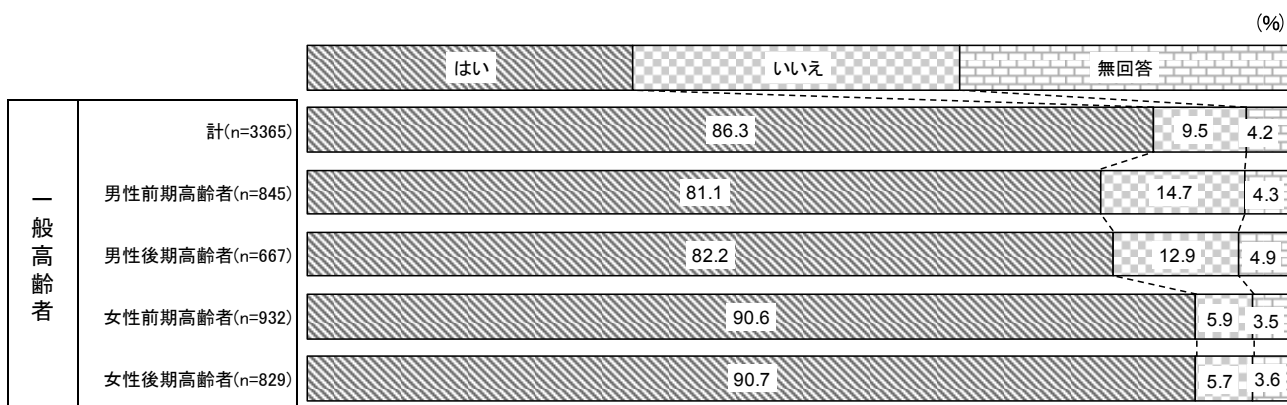
5) 健康についての記事や番組に関心がありますか

【01 一般高齢者 問7(12)】

健康についての記事や番組に関心があるかについては、「はい」は 86.3%、「いいえ」は 9.5%となっている。

性年代別で見ると、男性では前後期高齢者とも「はい」は8割台であるが、女性では前期・後期高齢者とも9割台と男性に比べて、高くなっている。

図表 III. 2. 28 健康についての記事や番組に関心がありますか

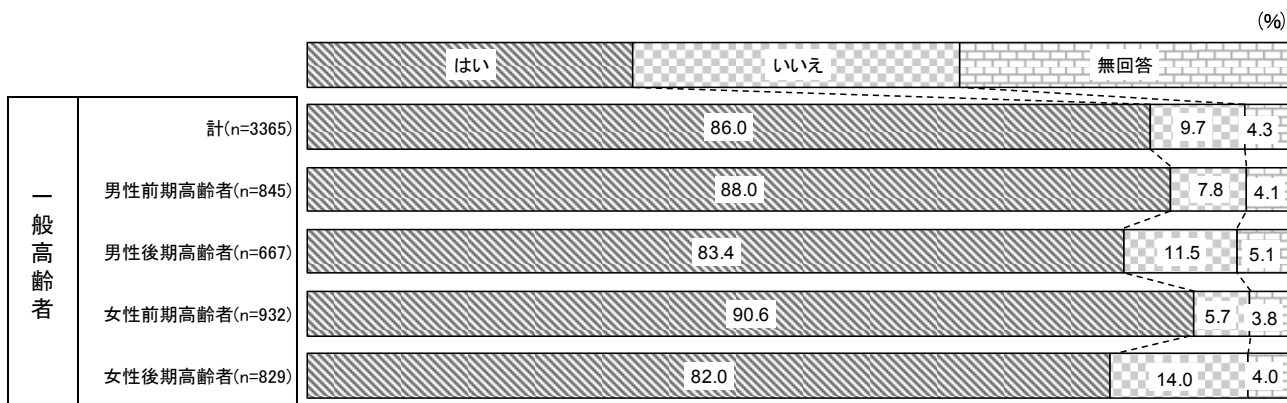


6) 病人を見舞うことができますか

【01 一般高齢者 問7(15)】

病人を見舞うことができるかについては、「はい」は86.0%、「いいえ」は9.7%となっている。

図表 III. 2. 29 病人を見舞うことができますか

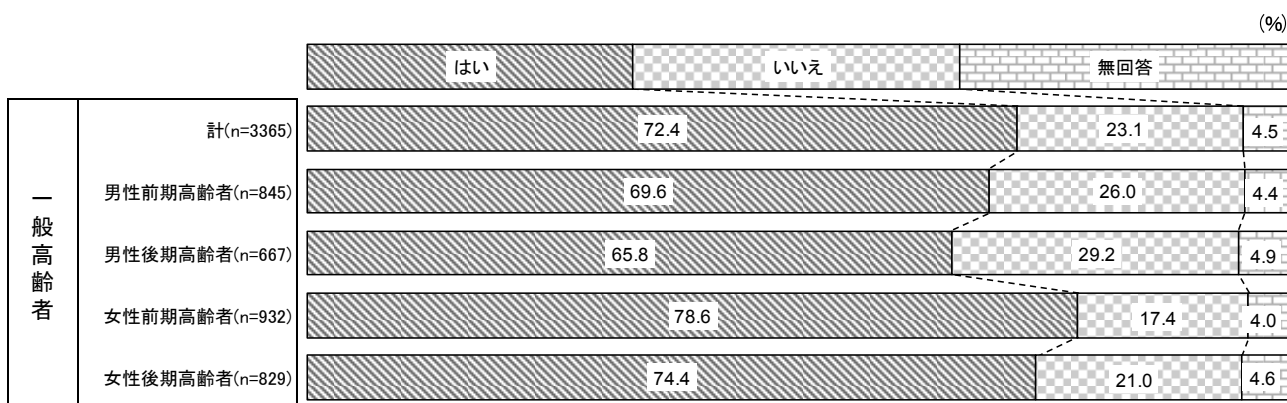


7) 若い人に自分から話しかけることがありますか

【01 一般高齢者 問7(16)】

若い人に自分から話しかけることがあるかについては、「はい」は72.4%、「いいえ」は23.1%となっている。

図表 III. 2. 30 若い人に自分から話しかけることがありますか

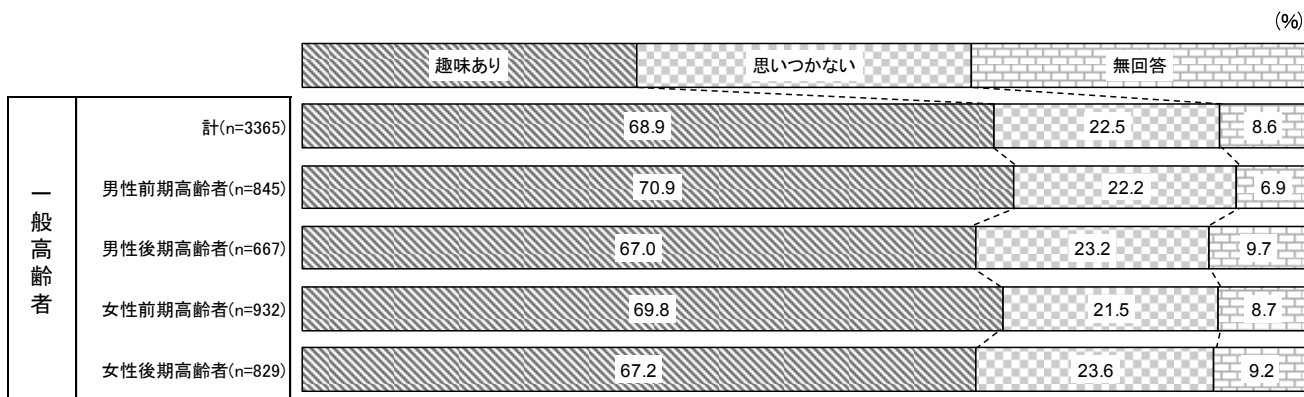


8) 趣味はありますか

【01 一般高齢者 問7(17)】

趣味については、「趣味あり」は68.9%、「思いつかない」は22.5%となっている。
性年代別による差はほとんどみられない。

図表 III. 2. 3 1 趣味はありますか



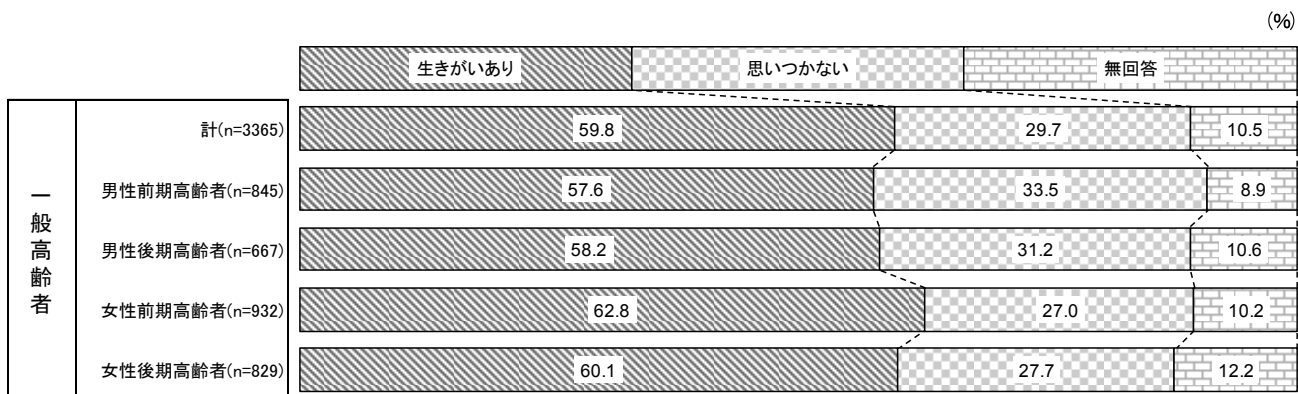
9) 生きがいがありますか

【01 一般高齢者 問7(18)】

生きがいについては、「生きがいあり」は59.8%、「思いつかない」は29.7%となっている。

性年代別による差はほとんどみられない。

図表 III. 2. 3 2 生きがいがありますか



(4) 生活支援ニーズ等の分析

①基本チェックリスト点数化に基づく介護予防必要者の算出、該当割合

一般高齢者、単身高齢者、一般若年者調査の回答結果より、介護予防必要者を抽出するため、厚生労働省作成の基本チェックリストと比較可能な関連設問を整理した。基本チェックリストの点数化に基づく該当者割合の算出根拠および結果は次のとおりである。

図表 III. 2. 3 基本チェックリスト点数化に基づく介護予防必要者の算出、該当割合

基本 チェックリスト	該当設問番号			設問項目・選択肢項目 (下線は基本チェックリストと異なる、本調査で一部改訂した設問)		介護予防必要者 算出割合
	項目 番号	【01】 一般 高齢者	【02】 単身 高齢者	【04】 一般 若年者	設問項目	
暮らしぶり 2の1	1	問7 (4)	問15 -1	問18 -1	<u>【01】バスや電車をって1人で外出していますか(自家用車でも可)</u> <u>【02】【04】バスや電車で1人で外出していますか</u>	【01】 3 できない 【02】【04】 2 いいえ
	2	問7 (5)	問15 -2	問18 -2	<u>【01】自分で食品・日用品の買い物をしていますか</u> <u>【02】【04】日用品の買い物をしていますか</u>	【01】 3 できない 【02】【04】 2 いいえ
	3	問7 (8)	問15 -3	問18 -3	<u>【01】自分で預貯金の出し入れをしていますか</u> <u>【02】【04】預貯金の出し入れをしていますか</u>	【01】 3 できない 【02】【04】 2 いいえ
	4	問7 (13)	問15 -4	問18 -4	<u>【01】【02】【04】友人の家を訪ねていますか</u>	【01】 3 できない 【02】【04】 2 いいえ
	5	問7 (14)	問15 -5	問18 -5	<u>【01】【02】【04】家族や友人の相談にのっていますか</u>	【01】 3 できない 【02】【04】 2 いいえ
運動器 関係	6	問5 (1)	問15 -6	問18 -6	<u>【01】【02】【04】階段を手すりや壁をつたわずに昇っていますか</u>	【01】 3 できない 【02】【04】 2 いいえ
	7	問5 (2)	問15 -7	問18 -7	<u>【01】【02】【04】椅子に座った状態から何もつかまらずに立ち上がっていますか</u>	【01】 3 できない 【02】【04】 2 いいえ
	8	問5 (3)	問15 -8	問18 -8	<u>【01】15分位続けて歩いていますか</u> <u>【02】【04】15分くらい続けて歩いていますか</u>	【01】 3 できない 【02】【04】 2 いいえ
	9	問5 (4)	問15 -9	問18 -9	<u>【01】過去1年間に転んだことがありますか</u> <u>【02】【04】この1年間に転んだことがありますか</u>	【01】 1 何度もある 2 一度ある 【02】【04】 1 はい
	10	問5 (5)	問15 -10	問18 -10	<u>【01】【02】【04】転倒に対する不安は大きいですか</u>	【01】 1 とても不安である 2 やや不安である 【02】【04】 1 はい
栄養・ 口腔機能 等の関係	11	問6 (7)	問15 -11	問18 -11	<u>【01】【02】【04】6か月間で2～3kg以上の体重減少がありましたか</u>	【01】【02】【04】 1 はい
	12	問6 (1)	問15 -25	問18 -25	<u>【01】【02】【04】 BMI＝体重(kg)÷身長(m)÷身長(m)</u>	BMI<18.5(やせ)
	13	問6 (2)	問15 -12	問18 -12	<u>【01】【02】【04】半年前に比べて固いものが食べにくくなりましたか</u>	【01】【02】【04】 1 はい
	14	問6 (3)	問15 -13	問18 -13	<u>【01】【02】【04】お茶や汁物等でむせることがありますか</u>	【01】【02】【04】 1 はい
	15	問6 (4)	問15 -14	問18 -14	<u>【01】【02】【04】口の渇きが気になりますか</u>	【01】【02】【04】 1 はい
暮らしぶり 2の2	16	問5 (6)	問15 -15	問18 -15	<u>【01】【02】【04】週に1回以上は外出していますか</u>	【01】 1 ほとんど外出しない 【02】【04】 2 いいえ
	17	問5 (7)	問15 -16	問18 -16	<u>【01】【02】【04】昨年と比べて外出の回数が減っていますか</u>	【01】 1 とても減っている 2 減っている 【02】【04】 1 はい
	18	問7 (1)	問15 -17	問18 -17	<u>【01】物忘れが多いと感じますか</u> <u>【02】【04】周りの人から「いつも同じ事を聞く」などの物忘れがあると言われますか</u>	【01】【02】【04】 1 はい
	19	問7 (2)	問15 -18	問18 -18	<u>【01】【02】【04】自分で電話番号を調べて、電話をかけることをしていますか</u>	【01】【02】【04】 1 はい
	20	問7 (3)	問15 -19	問18 -19	<u>【01】【02】【04】今日が何月何日かわからない時がありますか</u>	【01】【02】【04】 1 はい
こころ (うつ 予防)	21	-	問15 -20	問18 -20	<u>【02】【04】(ここ2週間)毎日の生活に充実感がない</u>	【02】【04】 1 はい
	22	-	問15 -21	問18 -21	<u>【02】【04】(ここ2週間)これまで楽しんでやれていたことが楽しめなくなった</u>	【02】【04】 1 はい
	23	-	問15 -22	問18 -22	<u>【02】【04】(ここ2週間)以前は楽にできていたことが今ではおっくうに感じられる</u>	【02】【04】 1 はい
	24	-	問15 -23	問18 -23	<u>【02】【04】(ここ2週間)自分が役に立つ人間だと思えない</u>	【02】【04】 1 はい
	25	-	問15 -24	問18 -24	<u>【02】【04】(ここ2週間)わけもなく疲れたような感じがする</u>	【02】【04】 1 はい

＜運動器＞
3項目該当
【01】13.0%
【02】71.3%
【04】5.5%

＜暮らしぶり＞
1～20のうち
10項目該当
【01】6.2%
【02】43.4%
【04】2.1%

＜栄養＞
両方該当
【01】0.7%
【02】5.1%
【04】1.1%

＜口腔＞
2項目該当
【01】22.2%
【02】45.1%
【04】10.8%

②介護予防分布

【01 一般高齢者】 【02 単身高齢者】 【04 一般若年者】

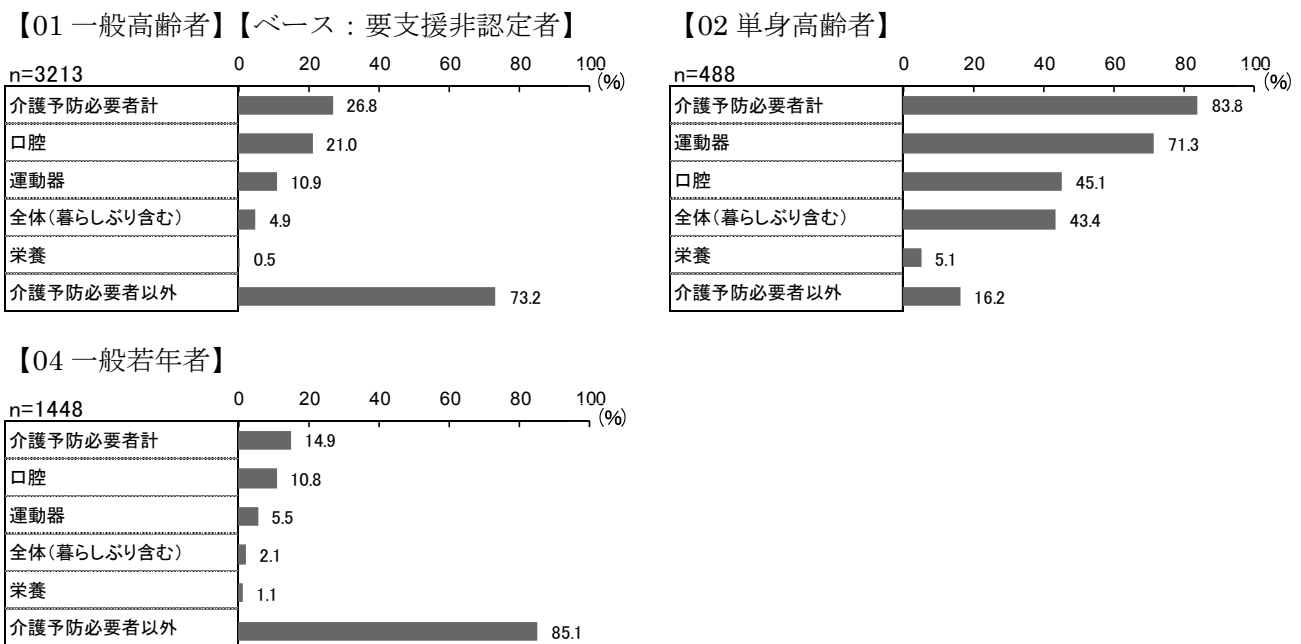
一般高齢者調査（要支援非認定者）における「介護予防必要者」は26.8%である。介護予防必要者のうち、「口腔」は21.0%、「運動器」は10.9%、「全体（暮らしぶり含む）」は4.9%となっている。男性の「栄養」を除き前期高齢者に比べ後期高齢者で該当者割合が高くなっている。

単身高齢者調査における「介護予防必要者」は83.8%である。「運動器」が71.3%と最も高く、次いで「口腔」（45.1%）となっている。

一般若年者では、「介護予防必要者」が14.9%である。

「介護予防必要者」のうち、「口腔」が10.8%、「運動器」が5.5%の順となっている。

図表 III. 2. 3 4 介護予防分布（複数回答）



一般高齢者、一般若年者調査について、年代別でみると、「口腔」と「運動器」は年齢が上がるにつれて高くなっている。

図表 III. 2. 3 5 介護予防分布（複数回答）：性年代別

	一般高齢者					単身高齢者			一般若年者						
	全体	男性前期高齢者	男性後期高齢者	女性前期高齢者	女性後期高齢者	全体	男性	女性	全体	男性40代	男性50代	男性60～64歳	女性40代	女性50代	女性60～64歳
n=	3213	827	634	909	757	488	93	360	1448	252	236	141	336	304	164
介護予防必要者計	26.8	20.9	26.7	22.9	37.8	83.8	83.9	83.9	14.9	8.3	15.7	26.2	8.6	15.5	26.8
口腔	21.0	18.9	21.5	18.3	26.0	45.1	50.5	43.3	10.8	4.8	11.4	19.1	6.8	12.2	17.7
運動器	10.9	3.7	10.9	8.1	22.1	71.3	62.4	75.0	5.5	3.2	5.9	10.6	1.8	5.3	12.2
全体(暮らしぶり含む)	4.9	2.3	6.5	2.4	9.2	43.4	36.6	46.1	2.1	1.6	1.7	4.3	1.5	1.3	4.3
栄養	0.5	0.4	0.2	0.2	1.2	5.1	5.4	4.7	1.1	1.6	0.4	0.0	1.2	0.7	3.0
介護予防必要者以外	73.2	79.1	73.3	77.1	62.2	16.2	16.1	16.1	85.1	91.7	84.3	73.8	91.4	84.5	73.2

一般高齢者について、圏域別にみた結果は以下のとおりである。

図表 III. 2. 3 6 介護予防必要者区分（複数回答）：圏域別

	全体	北西地区	北東地区	南西地区	南東地区	千住地区	無回答
n=	3213	658	593	574	652	648	88
介護予防必要者計	26.8	25.5	26.0	30.0	27.6	24.7	30.7 (%)
口腔	21.0	21.1	20.1	22.8	21.9	18.4	27.3
運動器	10.9	10.8	10.6	12.5	10.4	10.5	9.1
全体(暮らしぶり含む)	4.9	5.5	6.1	4.0	4.0	4.6	6.8
栄養	0.5	0.5	0.7	0.7	0.0	0.6	2.3
介護予防必要者以外	73.2	74.5	74.0	70.0	72.4	75.3	69.3

一般高齢者について、要支援認定者、要支援非認定者別にみると、要支援認定者では介護予防必要者が73.0%と、要支援非認定者に比べて高くなっている。

図表 III. 2. 3 7 介護予防必要者区分（複数回答）：要支援認定者/要支援非認定者別

	一般高齢者		
	全体	要支援非認定者	要支援認定者
n=	3365	3213	152
介護予防必要者計	28.9	26.8	73.0 (%)
運動器	13.0	10.9	57.2
栄養	0.7	0.5	4.6
口腔	22.2	21.0	47.4
全体(暮らしぶり含む)	6.2	4.9	34.9
介護予防必要者以外	71.1	73.2	27.0

③各種リスク該当者の割合

1) 運動器の機能

【01 一般高齢者】【02 単身高齢者】【04 一般若年者】

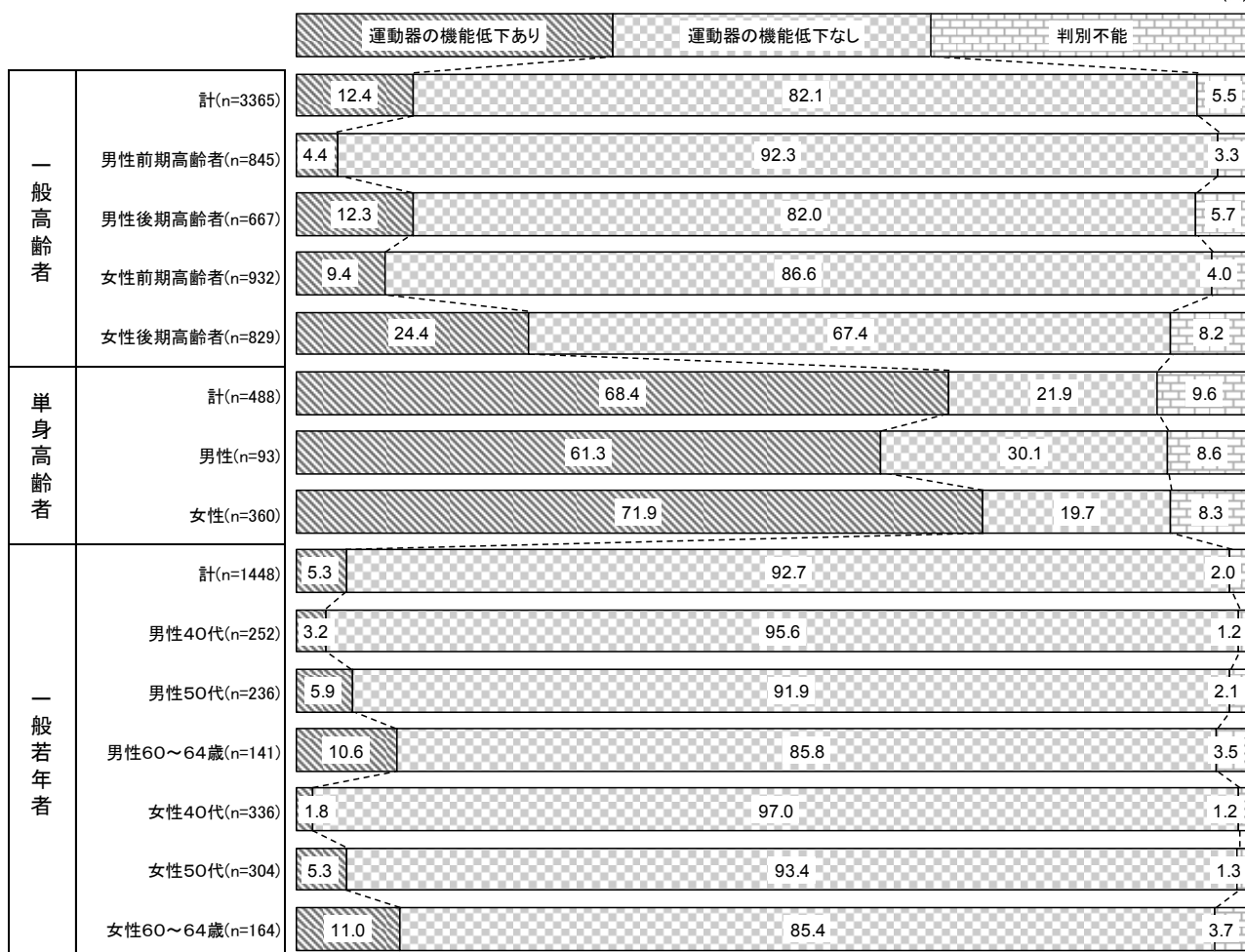
一般高齢者において、「運動器の機能低下あり」は 12.4%、「運動器の機能低下なし」は 82.1%と高くなっている。

単身高齢者において、「運動器の機能低下あり」は 68.4%、「運動器の機能低下なし」は 21.9%となっている。

一般若年者において、「運動器の機能低下あり」は 5.3%、「運動器の機能低下なし」は 92.7%と高くなっている。年代が上がるにつれ、「運動器の機能低下あり」が高くなっている。

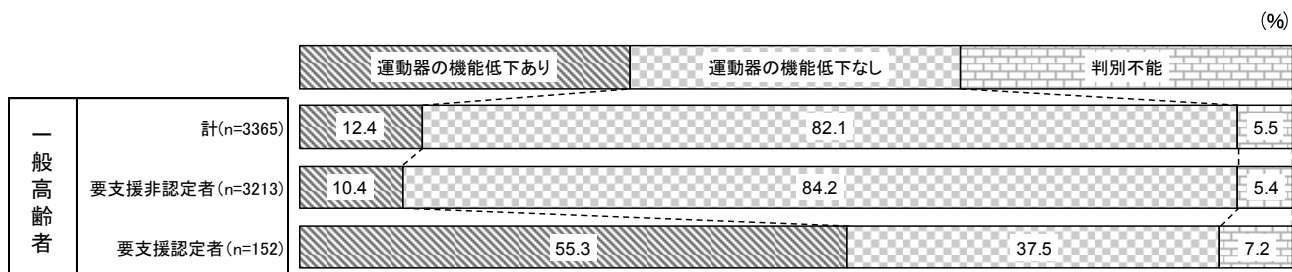
図表 III. 2. 3 8 運動器の機能

(%)



一般高齢者について、要支援認定者、要支援非認定者別にみると、要支援認定者では、「運動器の機能低下あり」は55.3%と高くなっている。

図表 III. 2. 39 運動器の機能：要支援認定者/要支援非認定者別

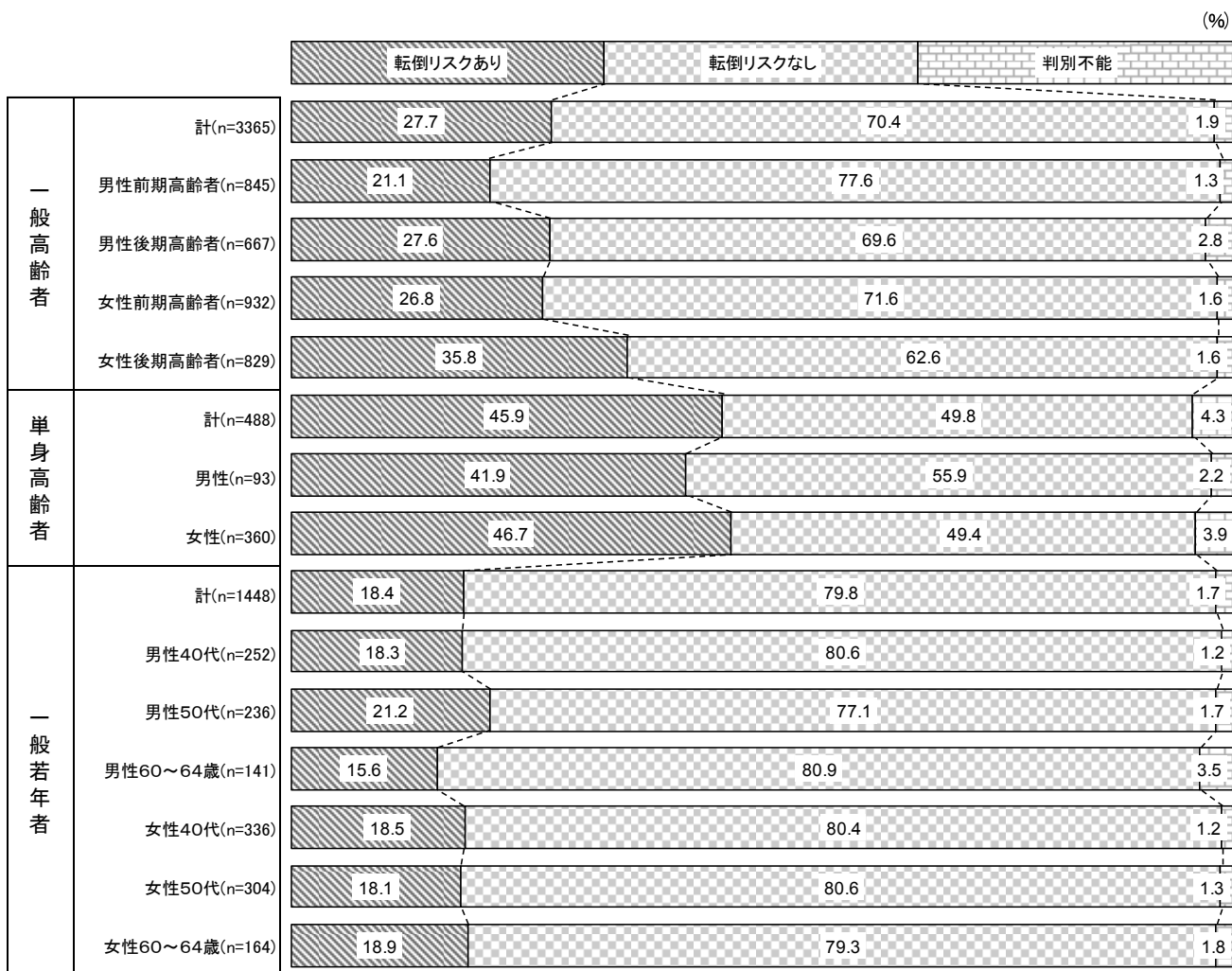


2) 転倒リスク

【01 一般高齢者】【02 単身高齢者】【04 一般若年者】

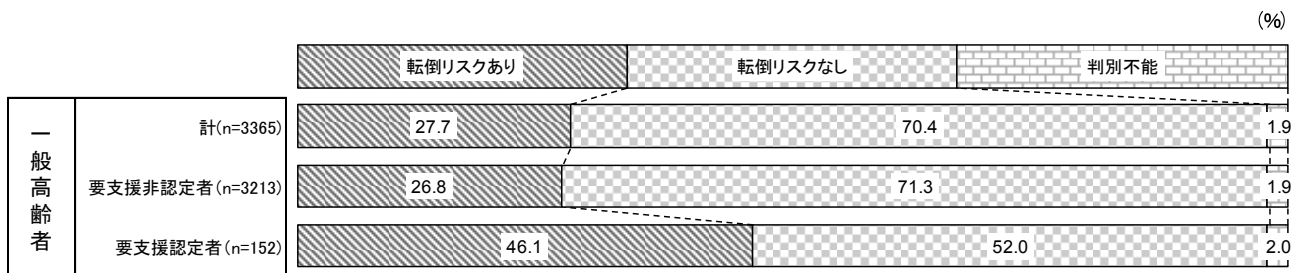
一般高齢者では、「転倒リスクあり」が 27.7%である。
 単身高齢者では、「転倒リスクあり」が 45.9%、「転倒リスクなし」が 49.8%とほぼ同数
 になっている。
 一般若年者では、「転倒リスクあり」が 18.4%となっている。性年代による差はほとんど
 みられない。

図表 III. 2. 40 転倒リスク



一般高齢者について、要支援認定者、要支援非認定者別にみると、要支援認定者では、「転倒リスクあり」は46.1%と高くなっている。

図表 III. 2. 4 1 転倒リスク：要支援認定者/要支援非認定者別



3) 閉じこもり傾向

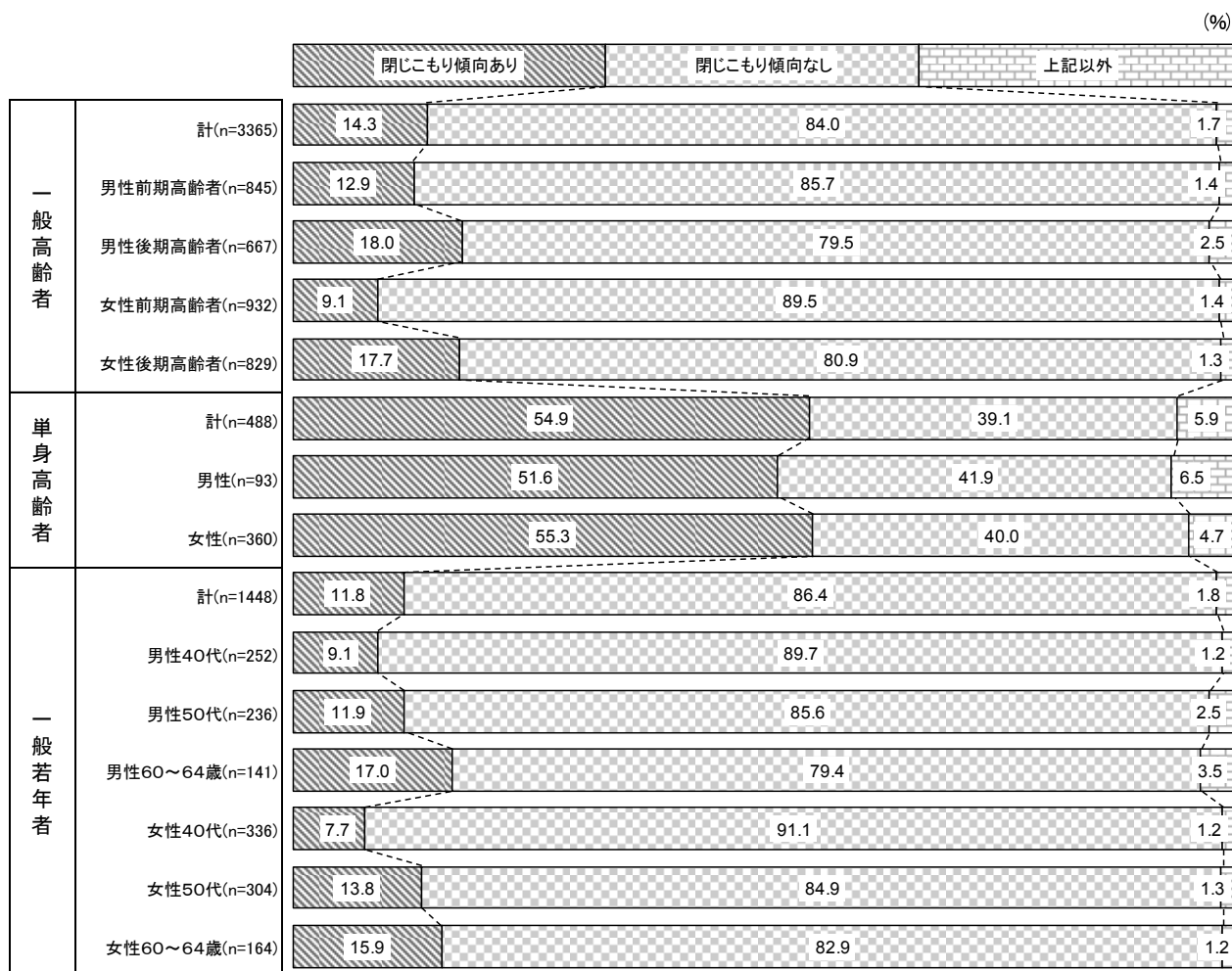
【01 一般高齢者】【02 単身高齢者】【04 一般若年者】

一般高齢者では、「閉じこもり傾向あり」は 14.3%、「閉じこもり傾向なし」は 84.0%となっている。男女ともに「閉じこもり傾向あり」は前期高齢者に比べて後期高齢者が高くなっている。

単身高齢者では、「閉じこもり傾向あり」は 54.9%、「閉じこもり傾向なし」は 39.1%となっている。性別による差はほとんどみられない。

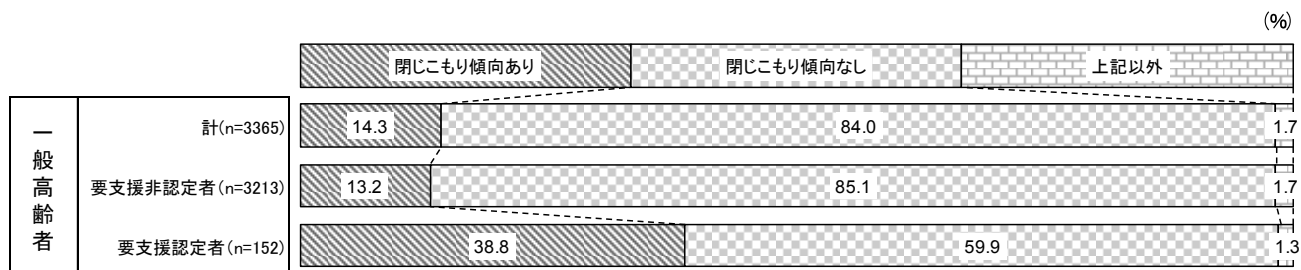
一般若年者では、「閉じこもり傾向あり」は 11.8%、「閉じこもり傾向なし」は 86.4%となっている。

図表 III. 2. 4 2 閉じこもり傾向



一般高齢者について、要支援認定者、要支援非認定者別にみると、要支援認定者では、「閉じこもり傾向あり」は38.8%と高くなっている。

図表 III. 2. 4 3 閉じこもり傾向：要支援認定者/要支援非認定者別



4) 口腔機能

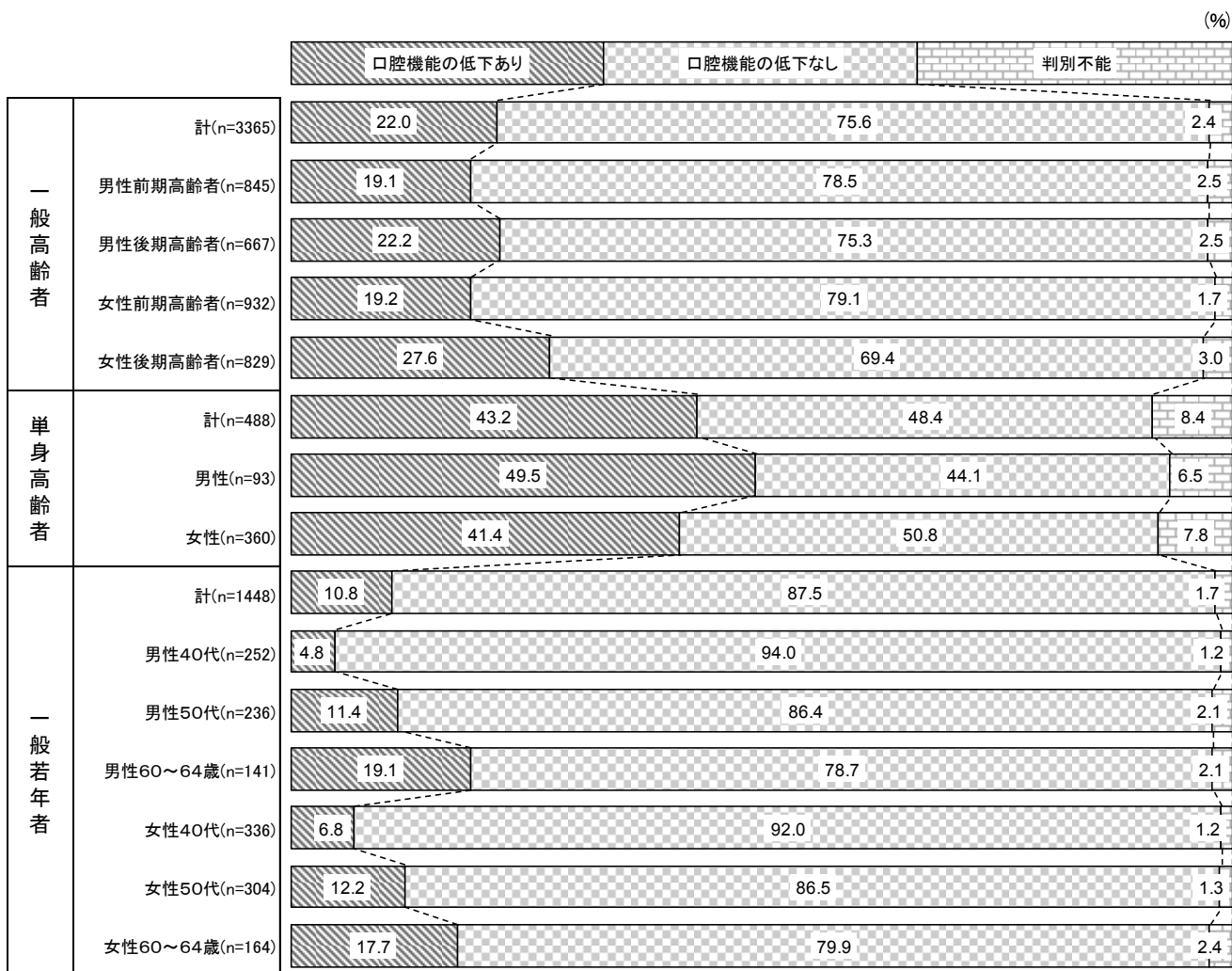
【01 一般高齢者】【02 単身高齢者】【04 一般若年者】

一般高齢者では、「口腔機能の低下あり」は 22.0%、「口腔機能の低下なし」は 75.6%となっている。性年代別で見ると、「口腔機能の低下あり」は男女とも前期高齢者と比べて後期高齢者が高い。

単身高齢者では、「口腔機能の低下あり」は 43.2%、「口腔機能の低下なし」は 48.4%となっている。

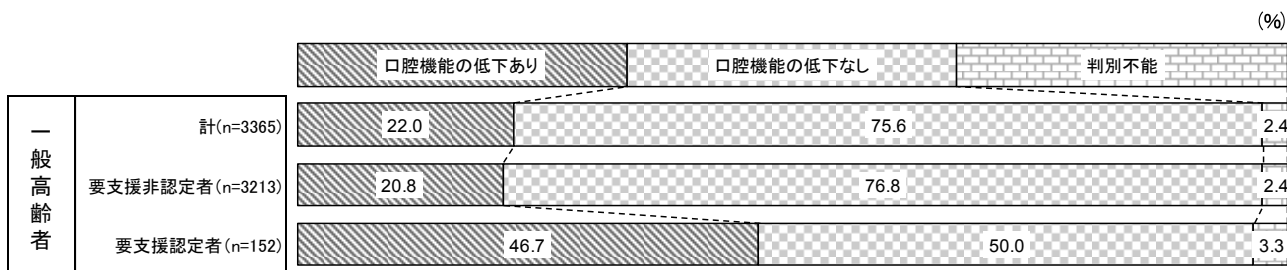
一般若年者では、「口腔機能の低下なし」は 87.5%となっているが、年代が上がるにつれその割合が低くなっている。

図表 III. 2. 4 4 口腔機能



一般高齢者について、要支援認定者、要支援非認定者別にみると、要支援認定者では、「口腔機能の低下あり」は46.7%と高くなっている。

図表 III. 2. 4 5 口腔機能：要支援認定者/要支援非認定者別

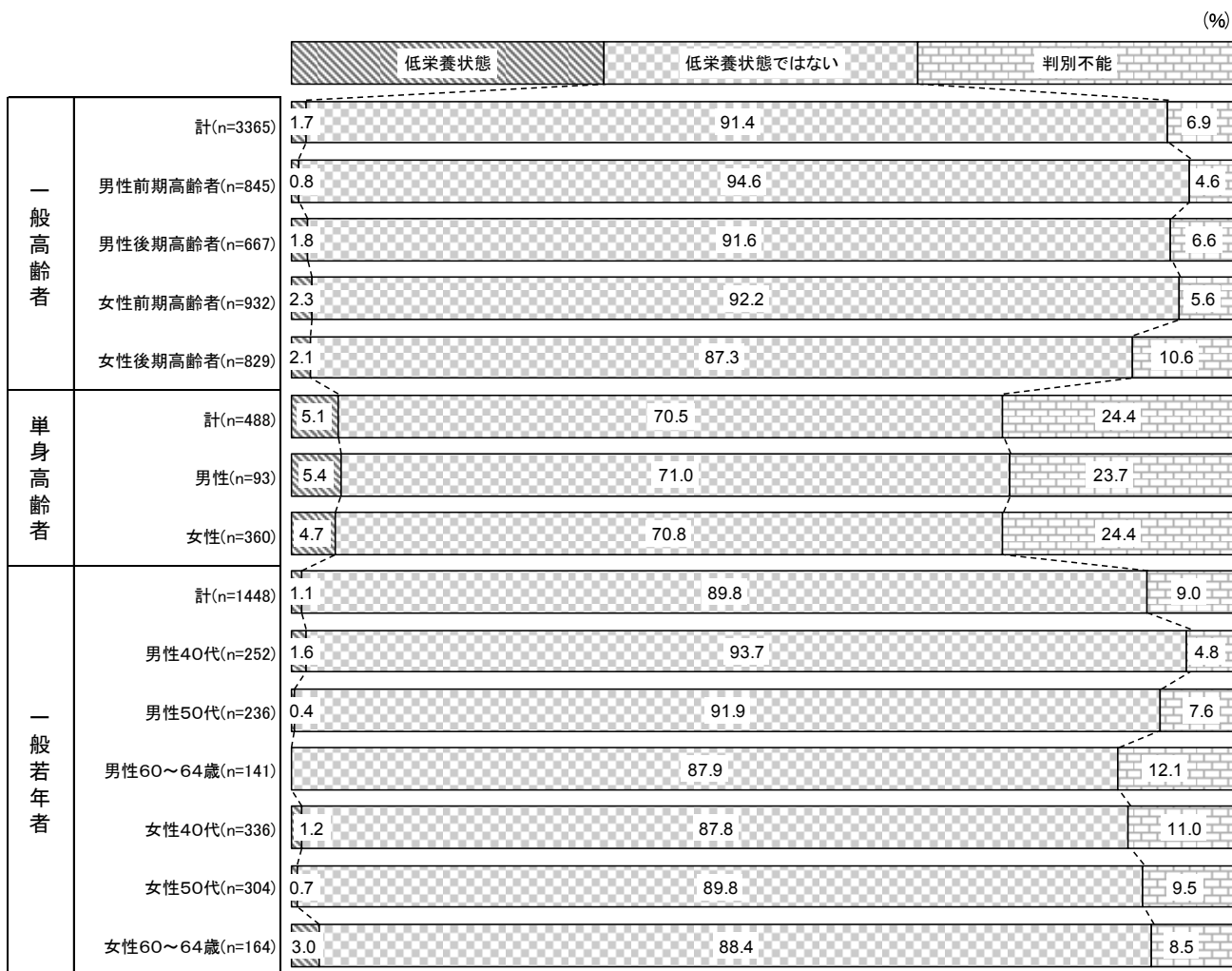


5) 低栄養

【01 一般高齢者】【02 単身高齢者】【04 一般若年者】

一般高齢者では、「低栄養状態」は 1.7%、「低栄養状態ではない」は 91.4%となっている。
 単身高齢者では、「低栄養状態」が 5.1%である。
 一般若年者では、「低栄養状態」は 1.1%、性年代による差はほとんどみられない。

図表 III. 2. 4 6 低栄養



一般高齢者について、要支援認定者、要支援非認定者別にみると、要支援認定者では、「低栄養状態」は5.3%となっている。

図表 III. 2. 4 7 低栄養：要支援認定者/要支援非認定者別

(%)

		低栄養状態	低栄養状態ではない	判別不能
一般 高齢者	計(n=3365)	1.7	91.4	6.9
	要支援非認定者(n=3213)	1.6	91.7	6.8
	要支援認定者(n=152)	5.3	84.2	10.5

6) もの忘れ

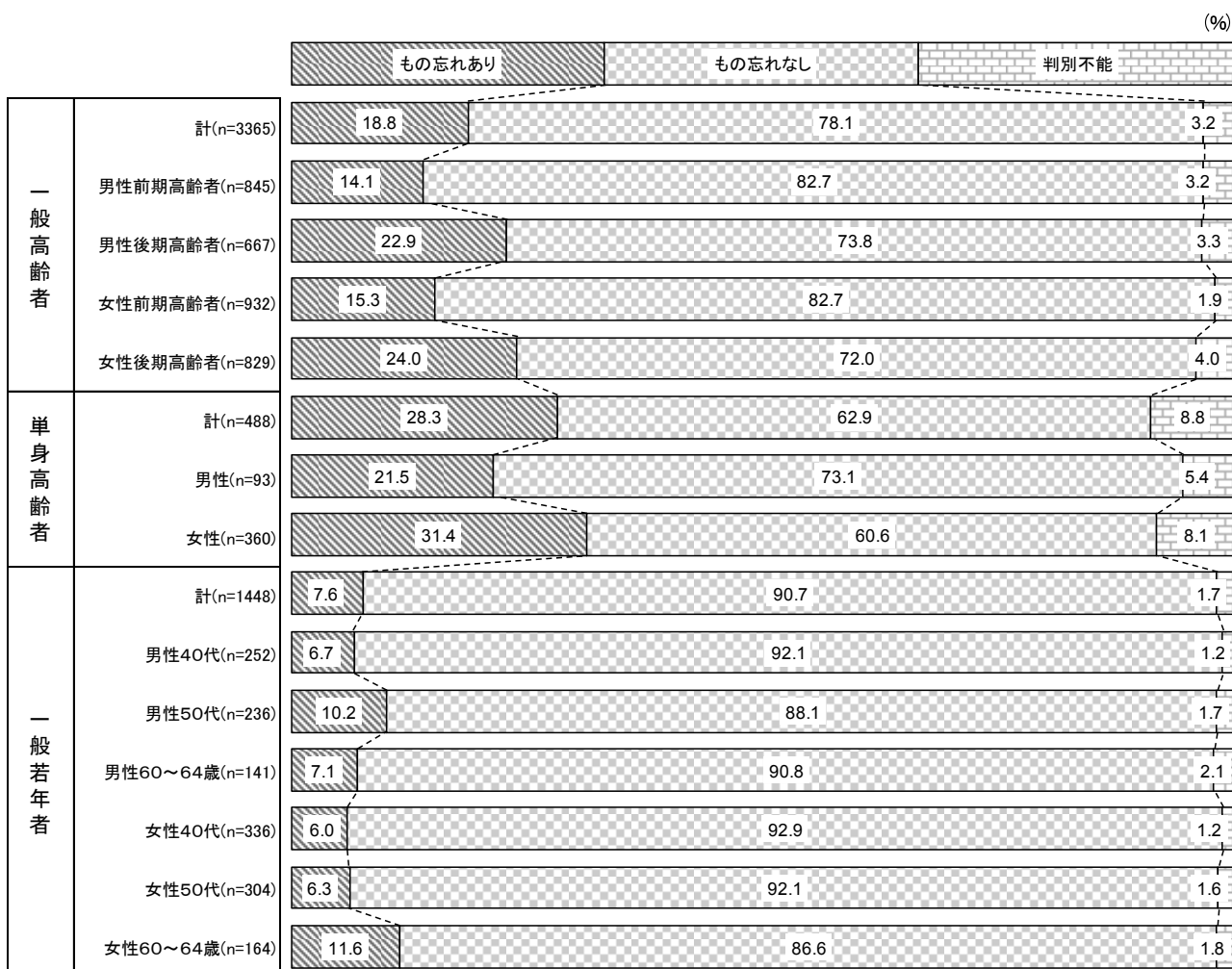
【01 一般高齢者】【02 単身高齢者】【04 一般若年者】

一般高齢者では、「もの忘れあり」は 18.8%、「もの忘れなし」は 78.1%となっている。性年代別でみると、「もの忘れあり」は男女とも前期高齢者に比べて後期高齢者で高くなっている。

単身高齢者では、「もの忘れあり」は 28.3%、「もの忘れなし」は 62.9%となっている。性別でみると、「もの忘れあり」は、女性が男性に比べて1割程度高くなっている。

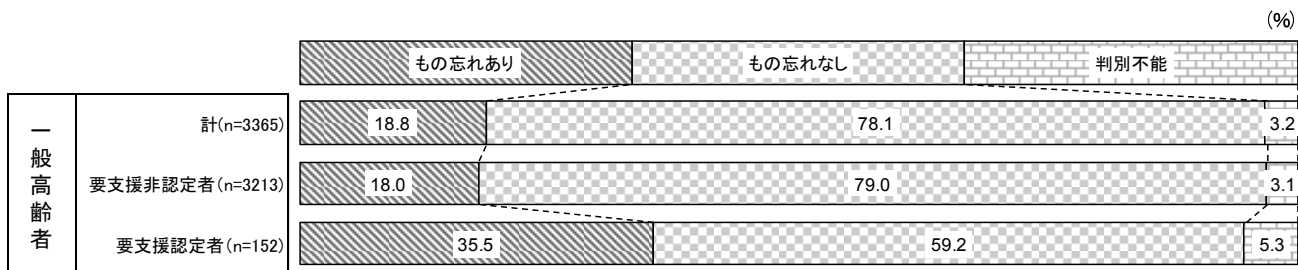
一般若年者では、「もの忘れあり」は 7.6%、「もの忘れなし」は 90.7%となっている。

図表 III. 2. 4 8 もの忘れ



一般高齢者について、要支援認定者、要支援非認定者別にみると、要支援認定者では、「もの忘れあり」は35.5%と高くなっている。

図表 III. 2. 4 9 もの忘れ：要支援認定者/要支援非認定者別



3 日常生活

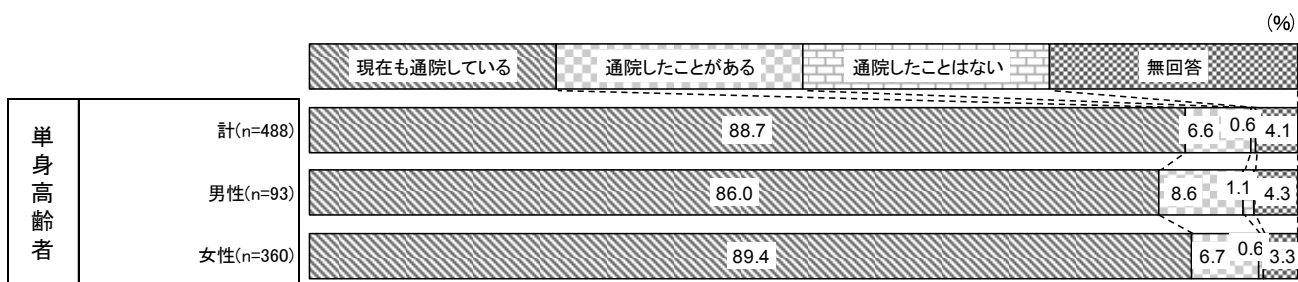
(1) 身体や健康について

①最近1年間に医者や病院にかかったか

【02 単身高齢者 問 13】

通院状況については、「現在も通院している」が 88.7%と最も高く、次いで「通院したことがある」(6.6%)、「通院したことはない」(0.6%)となっている。性別による差はほとんどみられない。

図表 III. 3. 1 最近1年間に医者や病院にかかったか

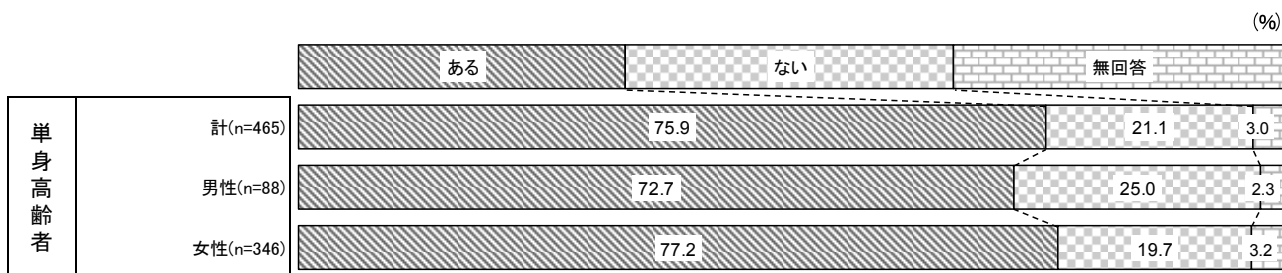


②病気やけがによって日常生活に何か支障があったか

【02 単身高齢者 問 13-1】

病気やけがにに比べ日常生活に支障があったかは、「ある」が 75.9%、「ない」が 21.1%である。性別にみると、日常生活に支障が「ある」は、男性(72.7%)に比べ女性(77.2%)が高い。

図表 III. 3. 2 病気やけがによって日常生活に何か支障があったか【ベース：通院経験あり】

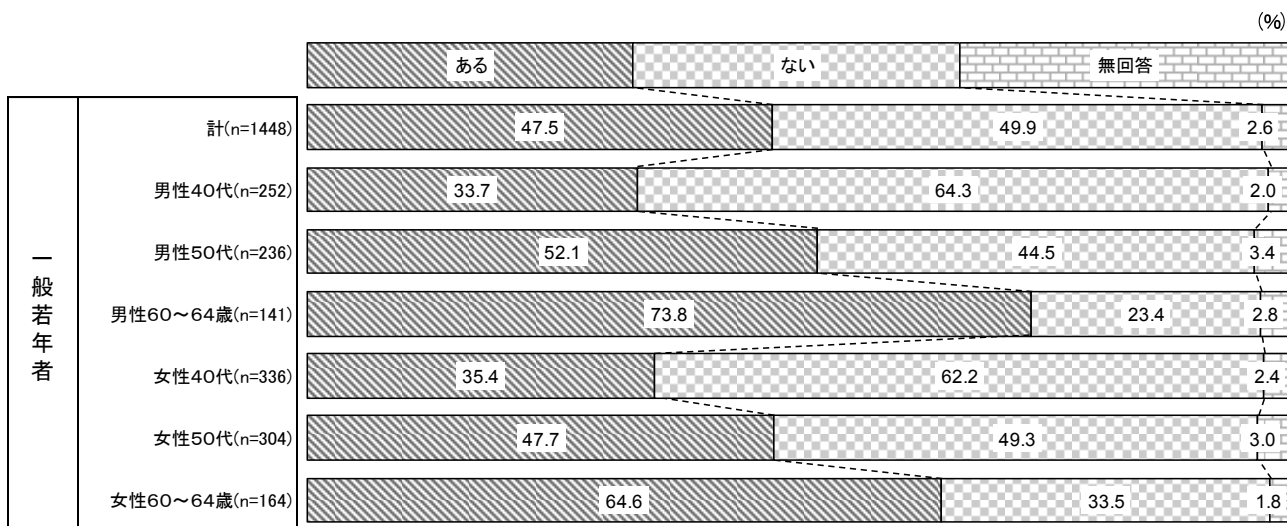


③現在治療中の病気・けがの有無

【04 一般若年者 問 14】

医療機関で治療・服薬中の病気やけがについては、「ある」は 47.5%、「ない」は 49.9%である。性年代別にみると、年代が上がるにつれ、「ある」の割合が高い。

図表 III. 3. 3 現在治療中の病気・けがの有無

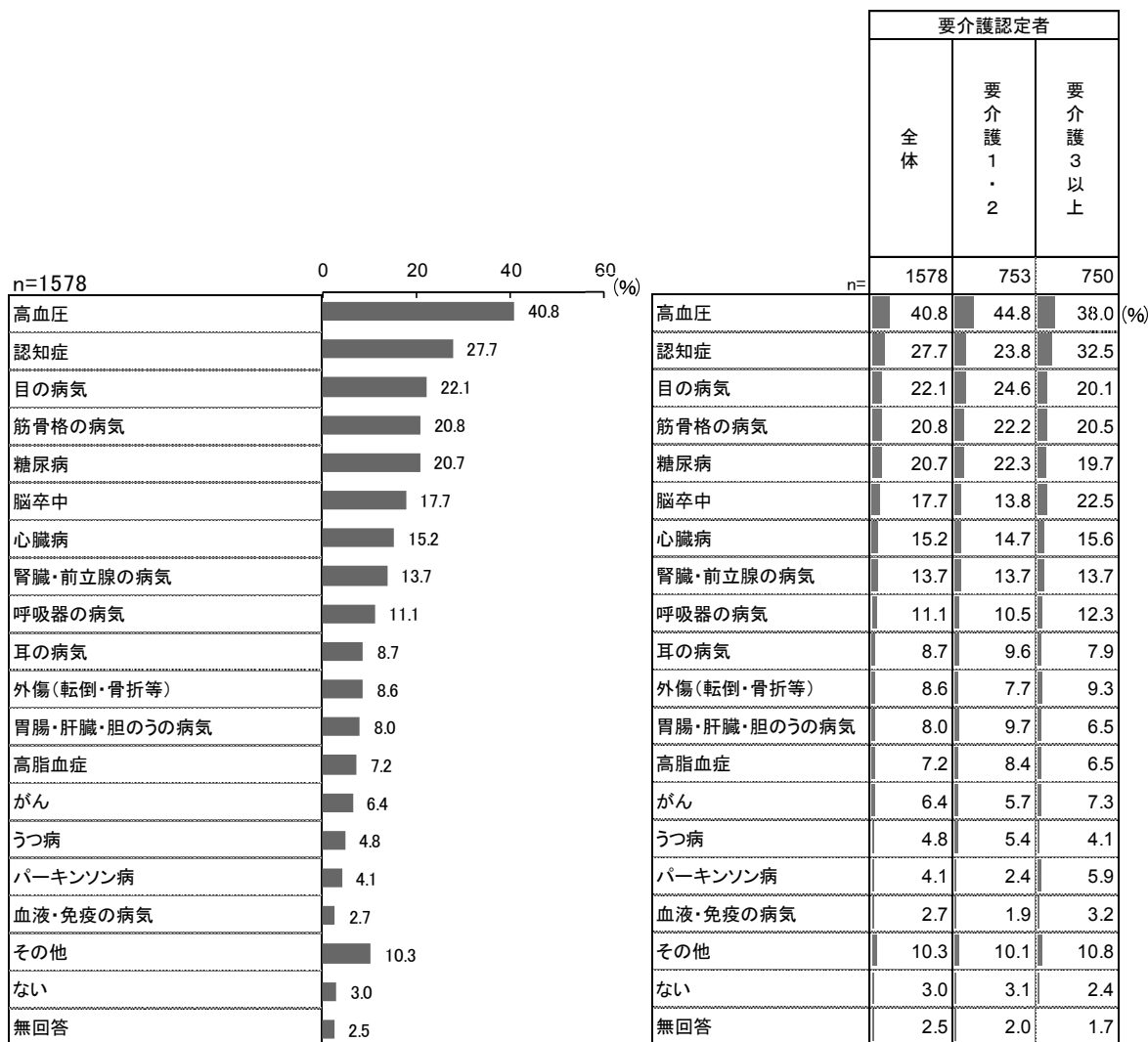


④現在治療中、または後遺症のある病気の有無

【03 要介護認定者 問 8】

治療中、後遺症のある病気については、「高血圧」が 40.8%と最も高く、次いで「認知症」が 27.7%、「目の病気」が 22.1%、「筋骨格の病気」が 20.8%となっている。

図表 III. 3. 4 現在治療中、または後遺症のある病気の有無（複数回答）



※「その他」の内容（抜粋）

- ・ 歯科治療
- ・ リウマチ
- ・ 脊柱管狭窄症
- ・ 甲状腺

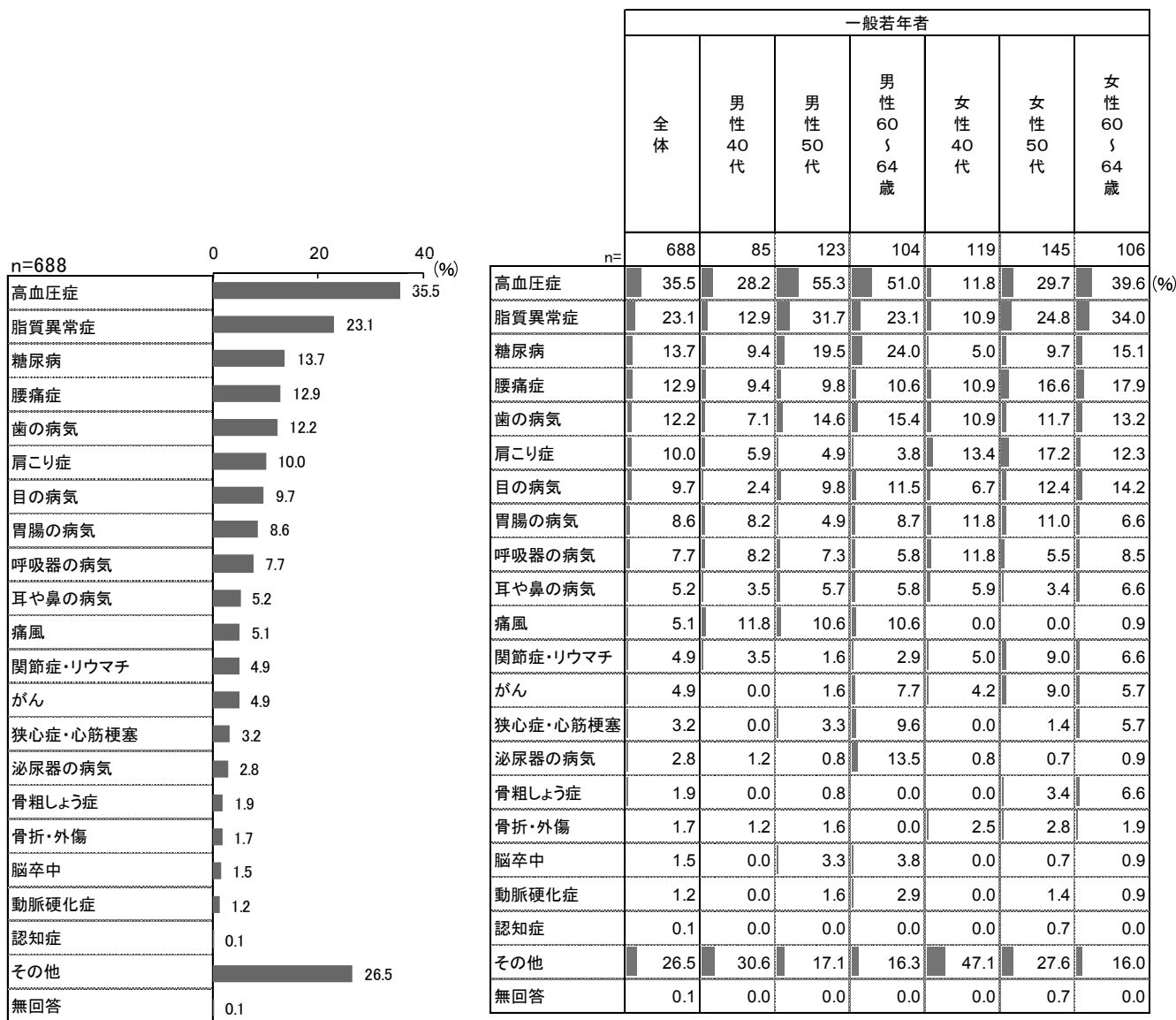
⑤ 現在治療中の病気・けが

【04 一般若年者 問 14-1】

治療・服薬中の病気やけがについては、「高血圧症」が 35.5%と最も高く、次いで「脂質異常症」(23.1%)、「糖尿病」(13.7%)となっている。

性年代別にみると、「高血圧症」は男性 50 代以降で高くなっている。「脂質異常症」は男性 50 代 (31.7%)、女性 60～64 歳 (34.0%) で高くなっている。

図表 III. 3. 5 現在治療中の病気・けが (複数回答) 【ベース：病気やけがあり】



※「その他」の内容 (抜粋)
 ・ うつ ・ アレルギー ・ 甲状腺 ・ 子宮筋腫

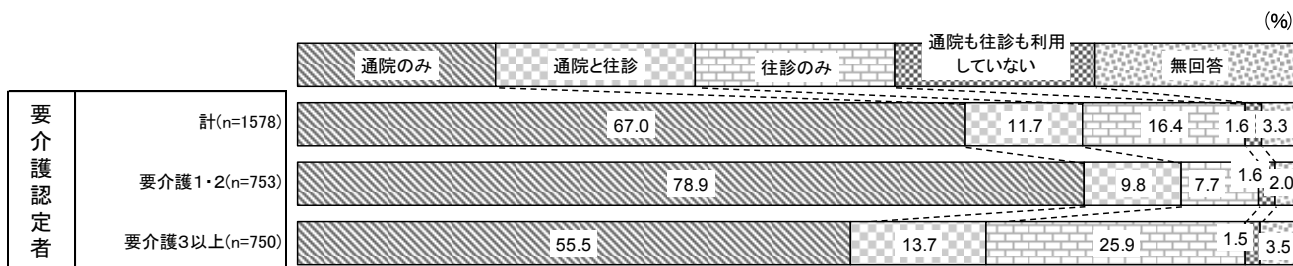
⑥通院や往診などで診療を受けているか

1) 通院や往診などで診療を受けているか

【03 要介護認定者 問9】

通院や往診などの診療状況については、「通院のみ」が 67.0%と最も高く、次いで「往診のみ」(16.4%)、「通院と往診」(11.7%) となっている。

図表 III. 3. 6 通院や往診などで診療を受けているか

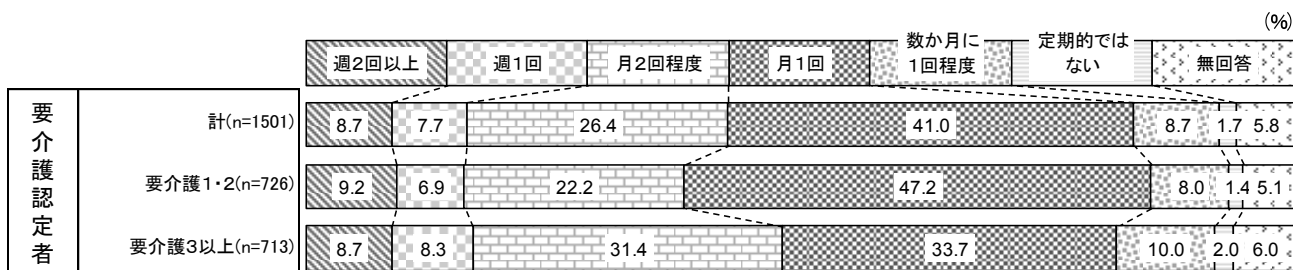


2) 医療機関の通院や往診を受けている頻度

【03 要介護認定者 問9-1】

通院や往診の頻度については、「月1回」が 41.0%と最も高く、次いで「月2回程度」(26.4%)、「週2回以上」と「数か月に1回程度」が 8.7%と同率になっている。

図表 III. 3. 7 医療機関の通院や往診を受けている頻度【ベース：通院・往診経験あり】

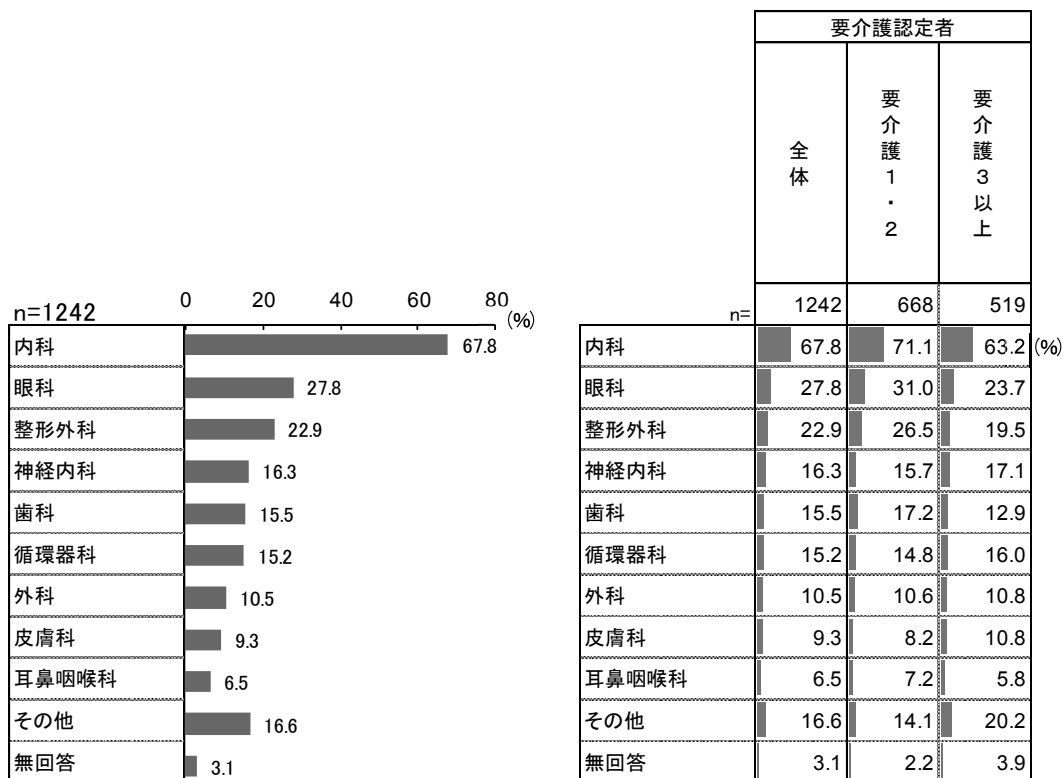


3) 通院で受診している診療科目

【03 要介護認定者 問9-2】

通院で受診している診療科目については、「内科」が 67.8%と最も高く、次いで「眼科」(27.8%)、「整形外科」(22.9%) となっている。

図表 III. 3. 8 通院で受診している内容 (複数回答) 【ベース：通院あり】



※「その他」の内容 (抜粋)

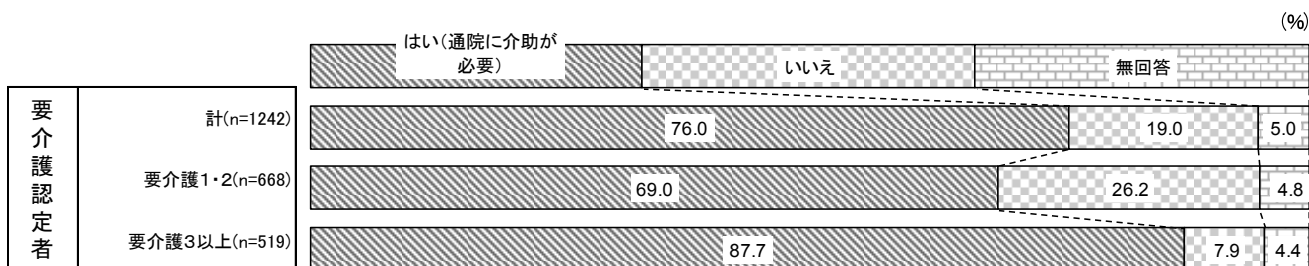
- ・脳外科
- ・脳神経外科
- ・泌尿器科
- ・精神科
- ・もの忘れ外来

4) 通院に介助が必要か

【03 要介護認定者 問9-3】

通院に介助が必要かについては、「はい(通院に介助が必要)」が 76.0%、「いいえ」が 19.0% である。要介護度別にみると、要介護3以上は「はい(通院に介助が必要)」が 87.7%と、要介護1・2に比べ高い。

図表 III. 3. 9 通院に介助が必要か 【ベース：通院あり】

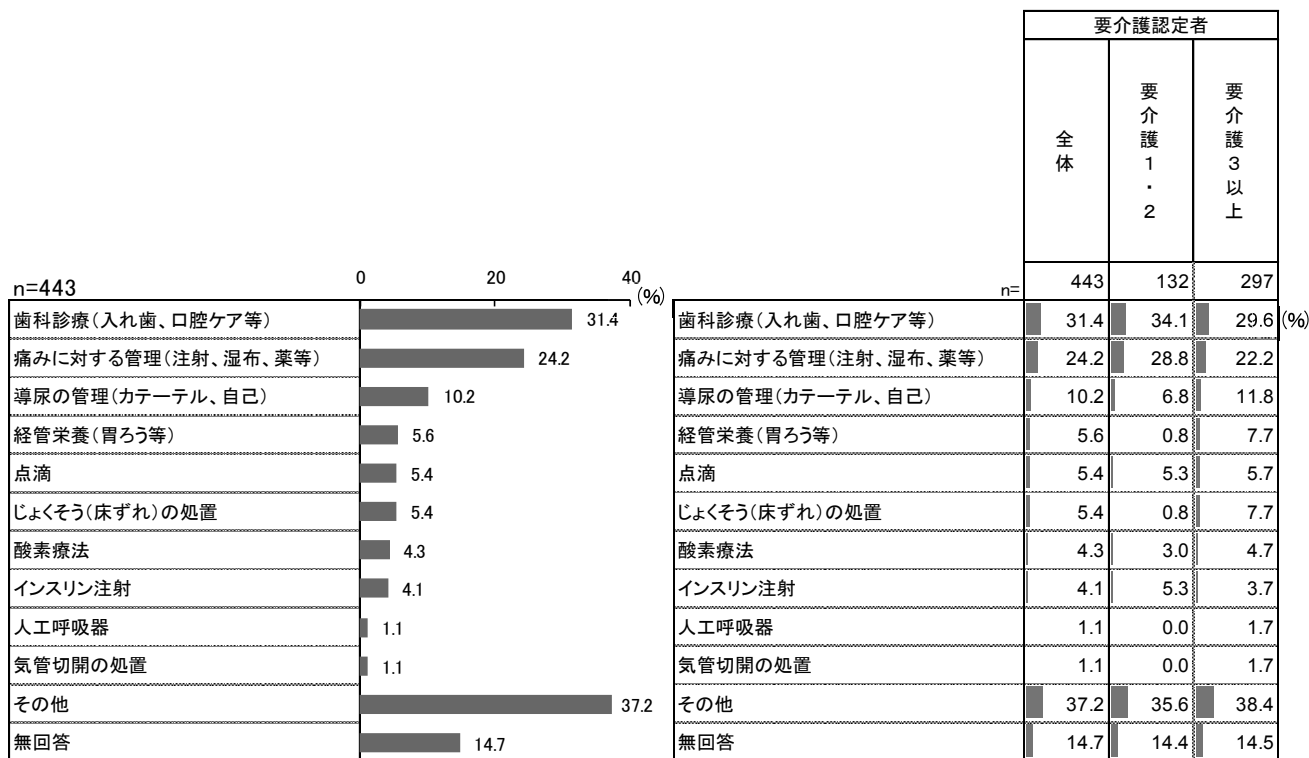


5) 往診で受診している内容

【03 要介護認定者 問9-4】

往診で受診している内容については、「歯科診療」が 31.4%と最も高く、次いで「痛みに関する管理」が 24.2%、「導尿の管理」が 10.2%となっている。

図表 III. 3. 10 往診で受診している内容（複数回答）【ベース：往診あり】



※「その他」の内容(抜粋)

- ・内科
- ・血圧
- ・リハビリ
- ・マッサージ

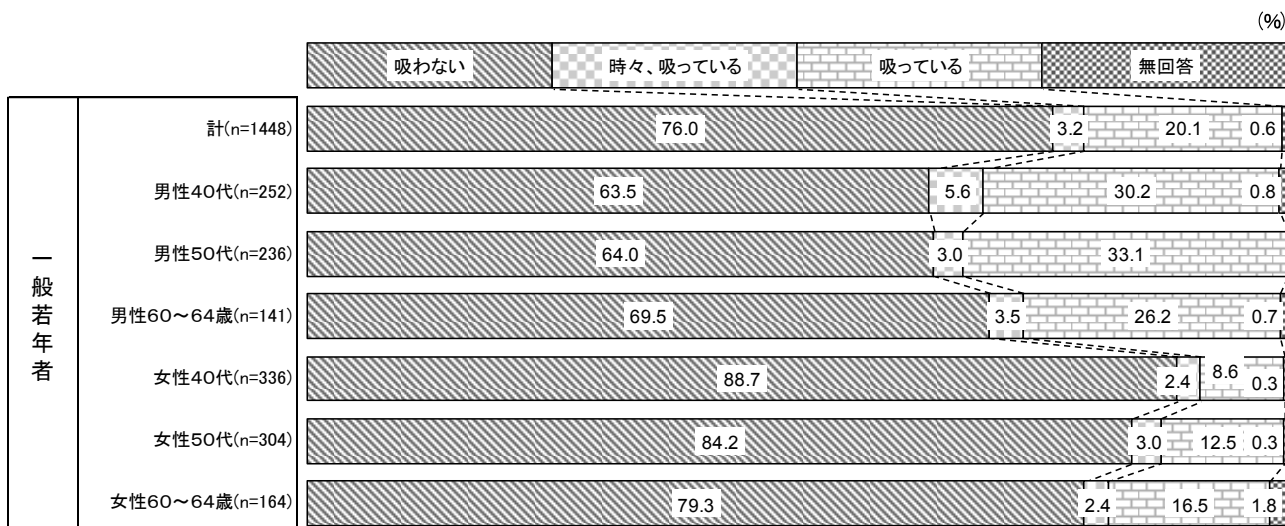
⑦健康行動

1) 喫煙

【04 一般若年者 問 15①】

喫煙状況については、「吸わない」が76.0%で最も高いが、「吸っている」(20.1%)、「時々、吸っている」(3.2%)を合わせると、2割超に喫煙習慣がある。性年齢別にみると、女性40代では「吸わない」が88.7%と最も高く、男性に比べ女性は「吸わない」割合が高い。

図表 III. 3. 1 1 喫煙

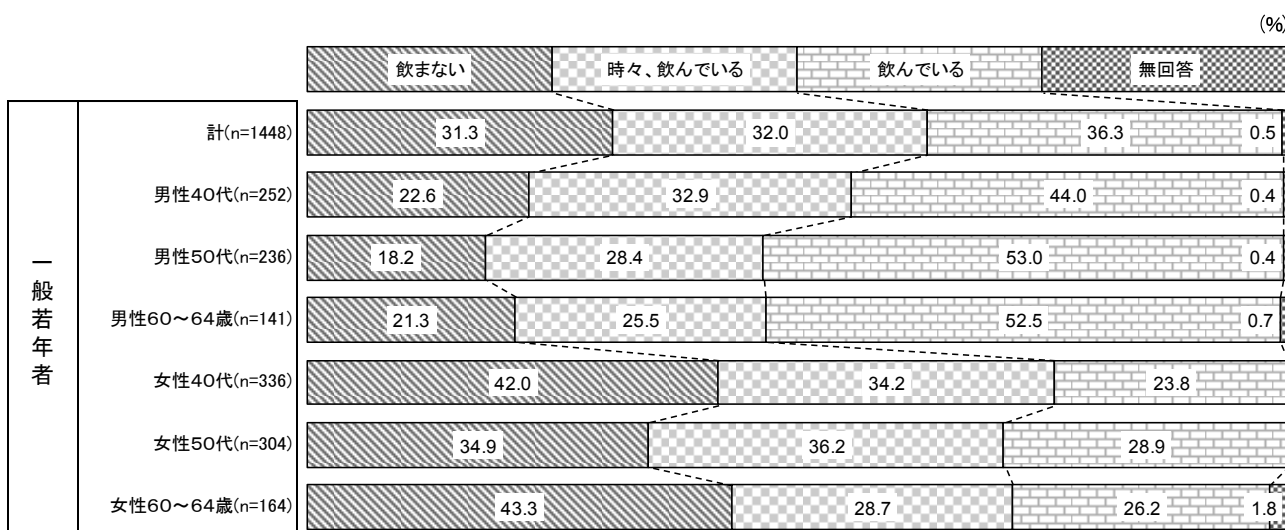


2) 飲酒

【04 一般若年者 問 15②】

飲酒については、「飲んでいる」(36.3%)、「時々、飲んでいる」(32.0%)を合わせると、68.3%に飲酒習慣がある。性年齢別にみると、「飲まない」は女性40代(42.0%)や女性60～64歳(43.3%)で多く、男性に比べ女性は「飲まない」割合が高い。

図表 III. 3. 1 2 飲酒

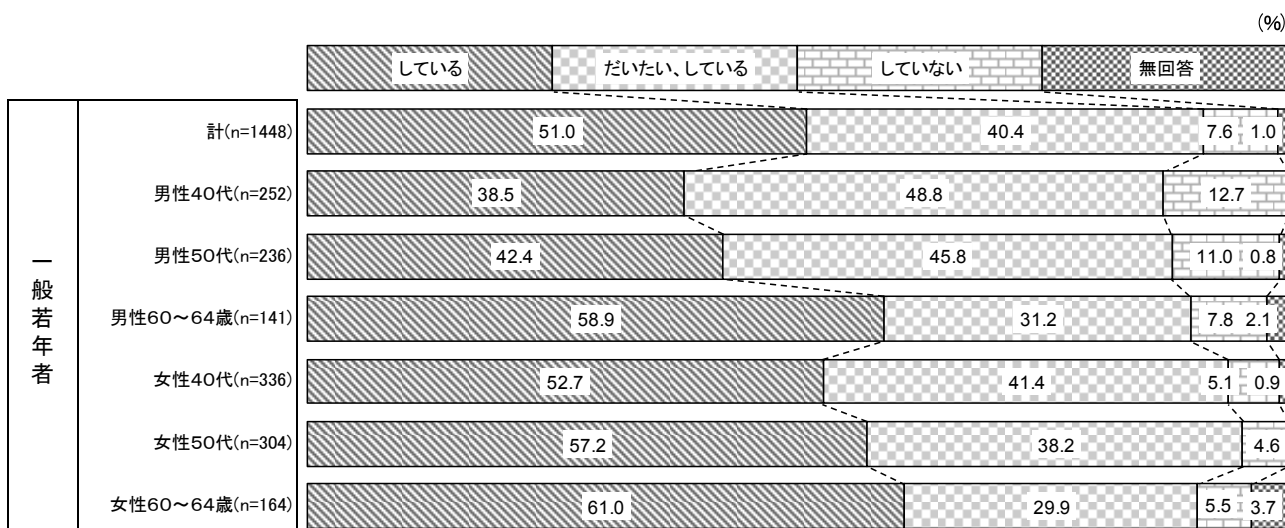


3) 規則的な食事

【04 一般若年者 問 15③】

規則的な食事を「している」は51.0%、「だいたい、している」は40.4%、「していない」は7.6%である。性年代別にみると、「している」は、男性40代(38.5%)、男性50代(42.4%)で低い。

図表 III. 3. 1 3 規則的な食事

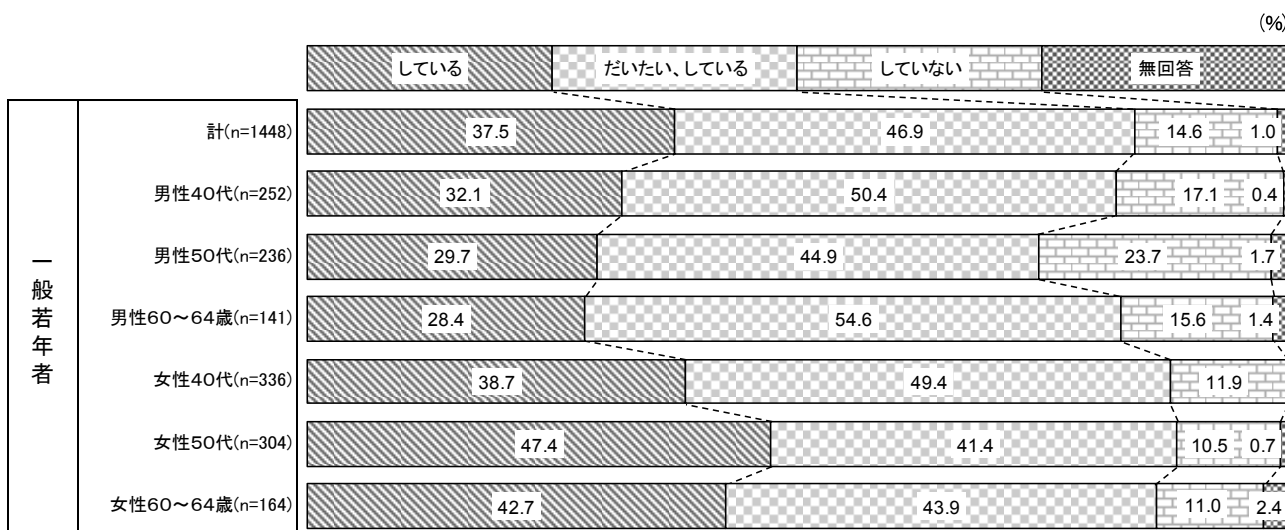


4) 歯の健康維持

【04 一般若年者 問 15④】

歯の健康維持については、「している」が37.5%、「だいたい、している」が46.9%、「していない」が14.6%である。性年代別にみると、「している」割合は女性50代で47.4%と最も高く、男性に比べ女性で高い。

図表 III. 3. 1 4 歯の健康維持

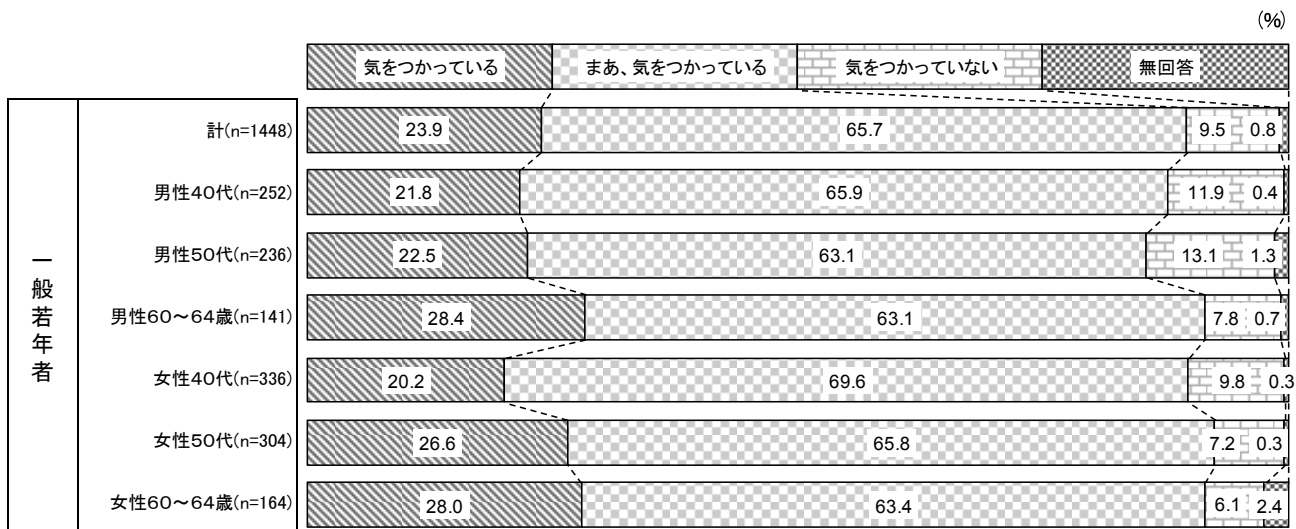


5) 健康への配慮

【04 一般若年者 問 15⑤】

普段から健康に「気をつけている」は 23.9%、「まあ、気をつけている」は 65.7%、「気をつけていない」は 9.5%である。性年代別にみると、年代が上がるほど「気をつけている」割合が高く、男性 60～64 歳では 28.4%、女性 60～64 歳では 28.0%となっている。

図表 III. 3. 1 5 健康への配慮

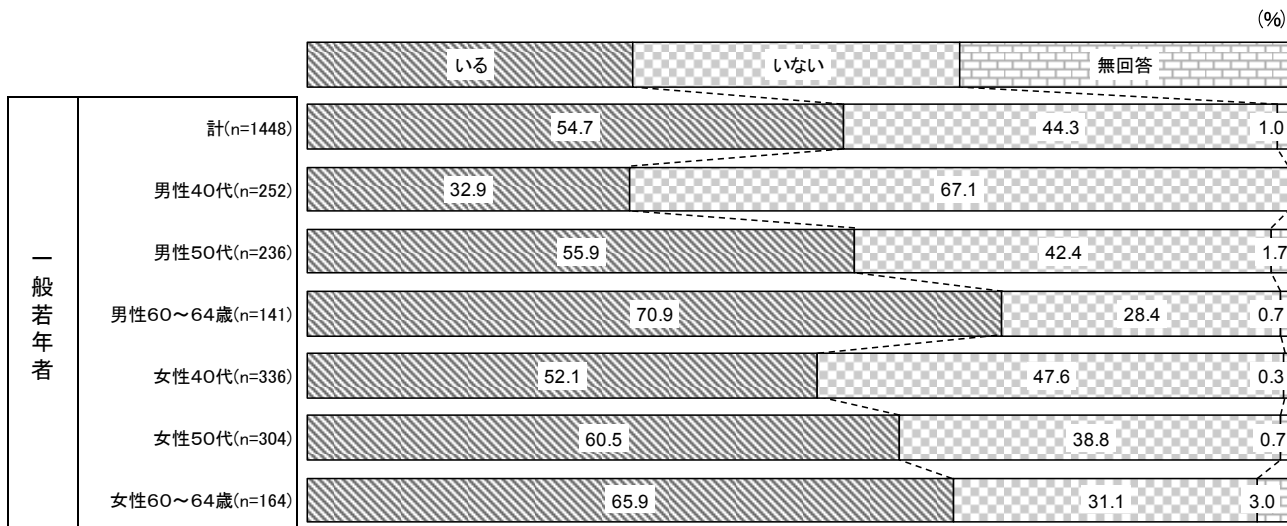


6) かかりつけ医

【04 一般若年者 問 15⑥】

かかりつけ医については、「いる」が 54.7%、「いない」が 44.3%となっている。性年代別にみると、男女とも年代が上がるにつれ、かかりつけ医が「いる」割合が高く、男性 60～64 歳では 70.9%、女性 60～64 歳では 65.9%となっている。

図表 III. 3. 16 かかりつけ医

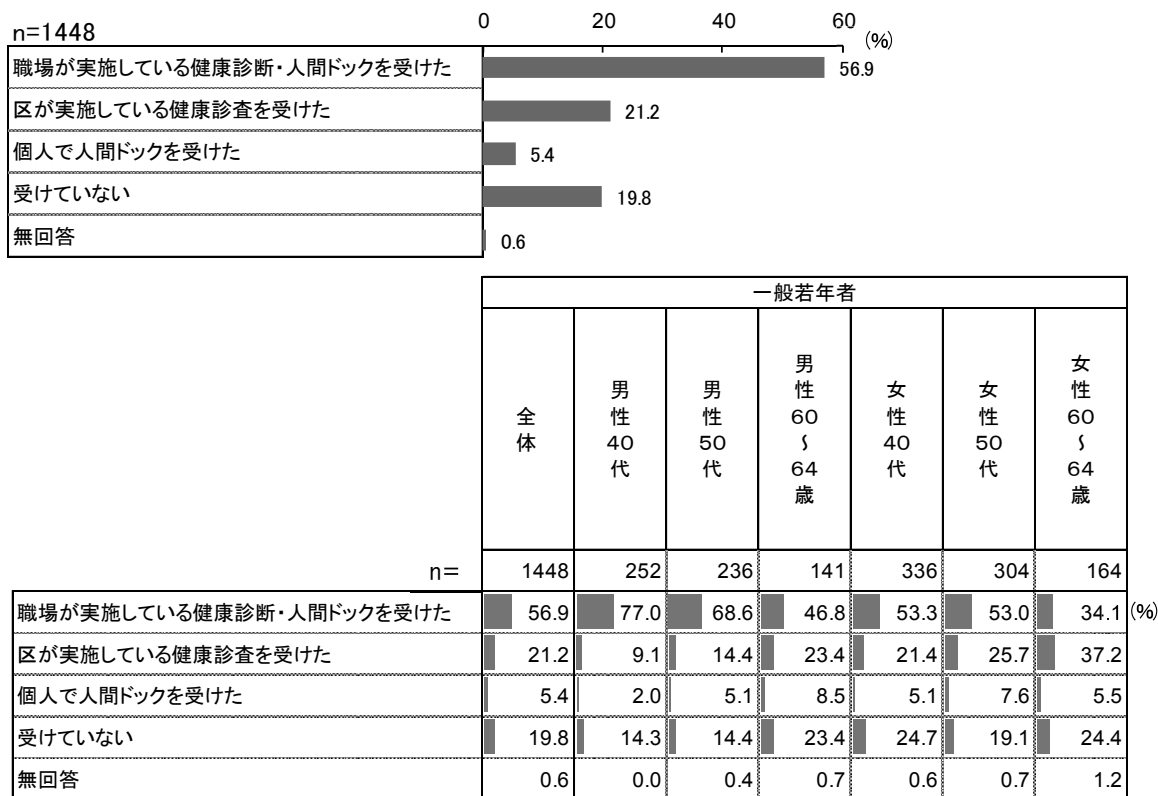


⑧過去1年間の健診、人間ドック受診

【04一般若年者 問16】

過去1年間の健診、人間ドック受診については、「職場が実施している健康診断・人間ドックを受けた」が56.9%と最も高く、次いで「区が実施している健康診断を受けた」が21.2%となっている。一方、「受けていない」は19.8%となっている。

図表 III. 3. 17 過去1年間の健診、人間ドック受診（複数回答）

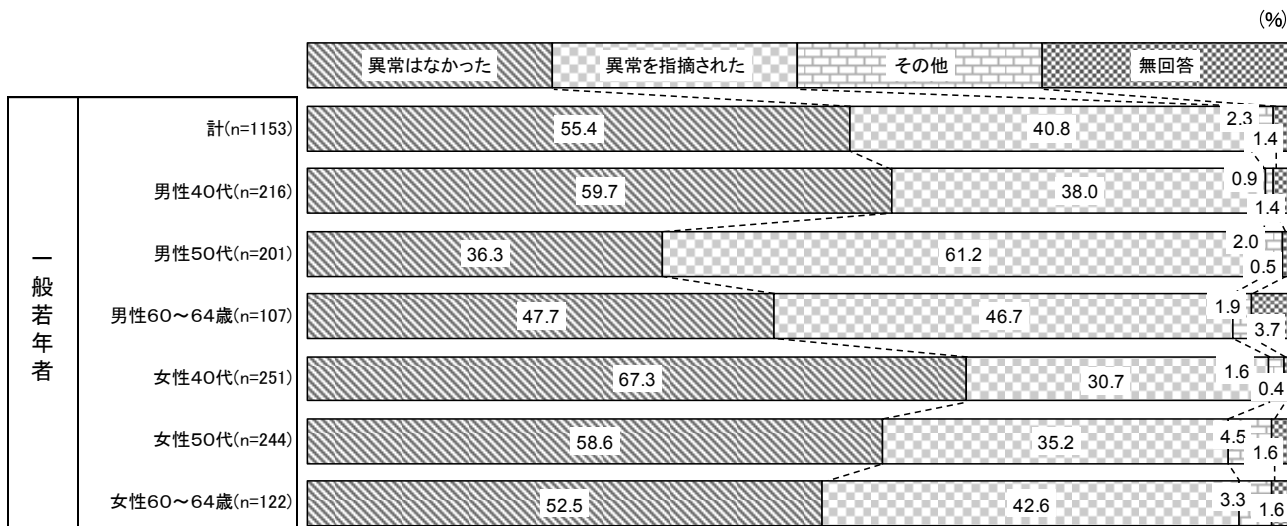


⑨健診結果の異常指摘

【04 一般若年者 問 16-1】

健診受診の結果、「異常はなかった」は55.4%、「異常を指摘された」は40.8%である。
 性年代別にみると、男性50歳代では「異常を指摘された」が61.2%と高くなっている。

図表 III. 3. 18 健診結果の異常指摘【ベース：健康診断や人間ドックなど受診者】

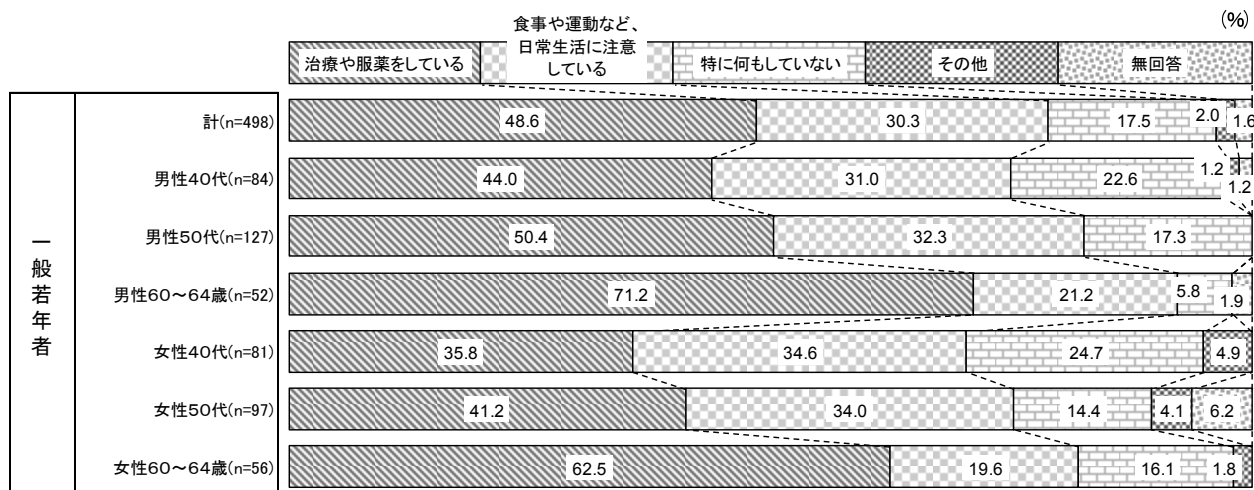


⑩治療、日常生活への注意・配慮

【04 一般若年者 問 16-2】

健診で異常を指摘されたことについては、「治療や服薬をしている」は48.6%、「食事や運動など、日常生活に注意している」は30.3%である。一方、「特に何もしていない」は17.5%となっている。性年代別にみると、「特に何もしていない」は男性40代(22.6%)、女性40代(24.7%)で高くなっている。

図表 III. 3. 1 9 治療、日常生活への注意・配慮【ベース：異常指摘等あり】

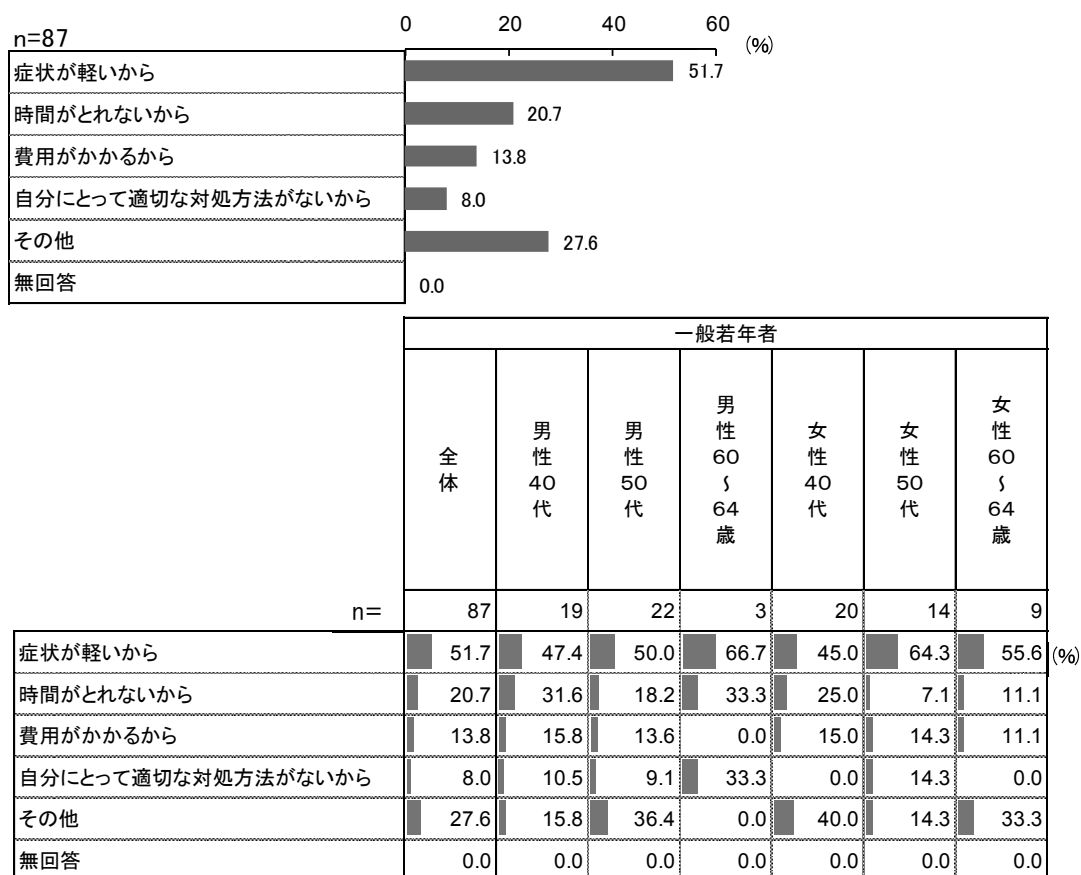


⑪特に何もしていない理由

【04 一般若年者 問 16-3】

特に何もしていない理由は、「症状が軽いから」が 51.7%と最も高く、次いで「時間がとれないから」が 20.7%となっている。

図表 III. 3. 20 特に何もしていない理由（複数回答）
【ベース：指摘等あり/特に何もしていない】



※「その他」の内容（抜粋）

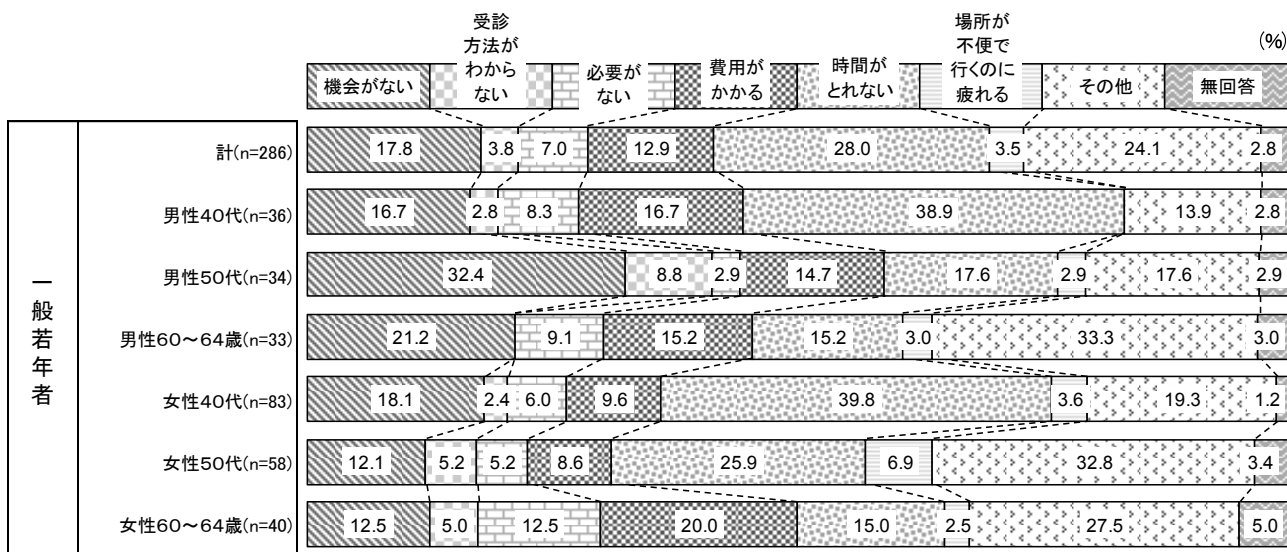
- ・経過観察中のため
- ・詳細な報告をもらっていないため
- ・自覚症状がないため

⑫健診、人間ドック未受診の理由

【04 一般若年者 問 16-4】

健診、人間ドックを受診しなかった理由としては、「時間がとれない」が28.0%と最も高く、次いで「機会がない」(17.8%)、「費用がかかる」(12.9%)となっている。性年代別にみると、年代が下がるほど「時間がとれない」の割合が高く、男性40代で38.9%、女性40代で39.8%となっている。

図表 III. 3. 2 1 健診、人間ドック未受診の理由【ベース：健康診断・人間ドック受診経験なし】



※「その他」の内容(抜粋)

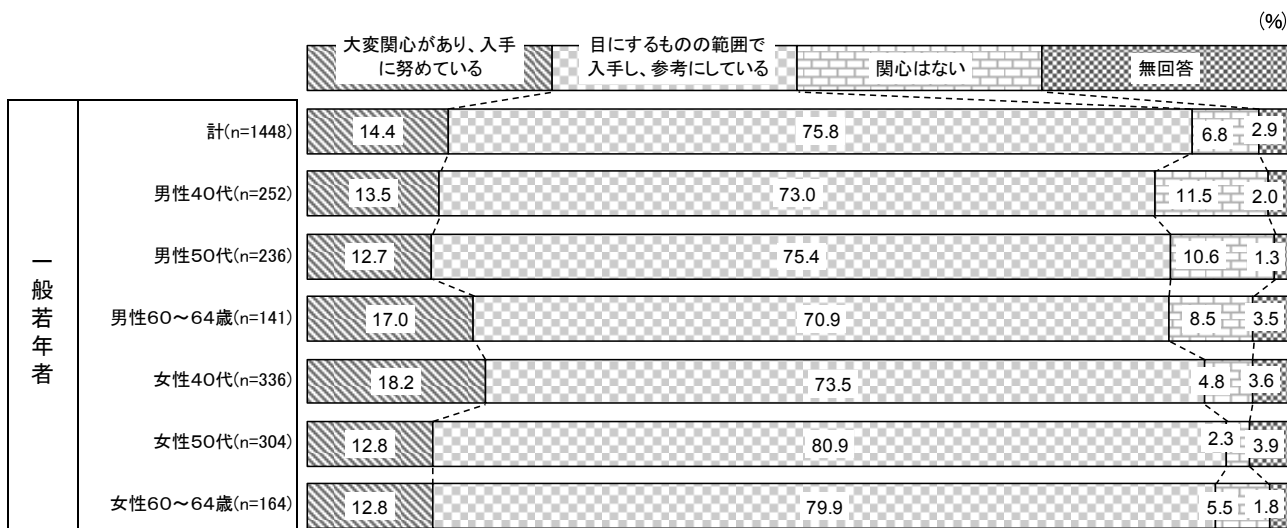
- ・毎月、病院に行っているから
- ・12月に健康診断(職場)の指定病院とする予定
- ・わすれていた
- ・結果が悪いとイヤだから

⑬健康情報の入手・取り入れへの関心

【04 一般若年者 問 17】

健康情報の入手・生活への取り入れについては、「目にするものの範囲で入手し、参考にしている」が 75.8%と最も高く、次いで「大変関心があり、入手に努めている」(14.4%)、「関心はない」(6.8%) となっている。性年代別による差はほとんどみられない。

図表 III. 3. 2 2 健康情報の入手・取り入れへの関心

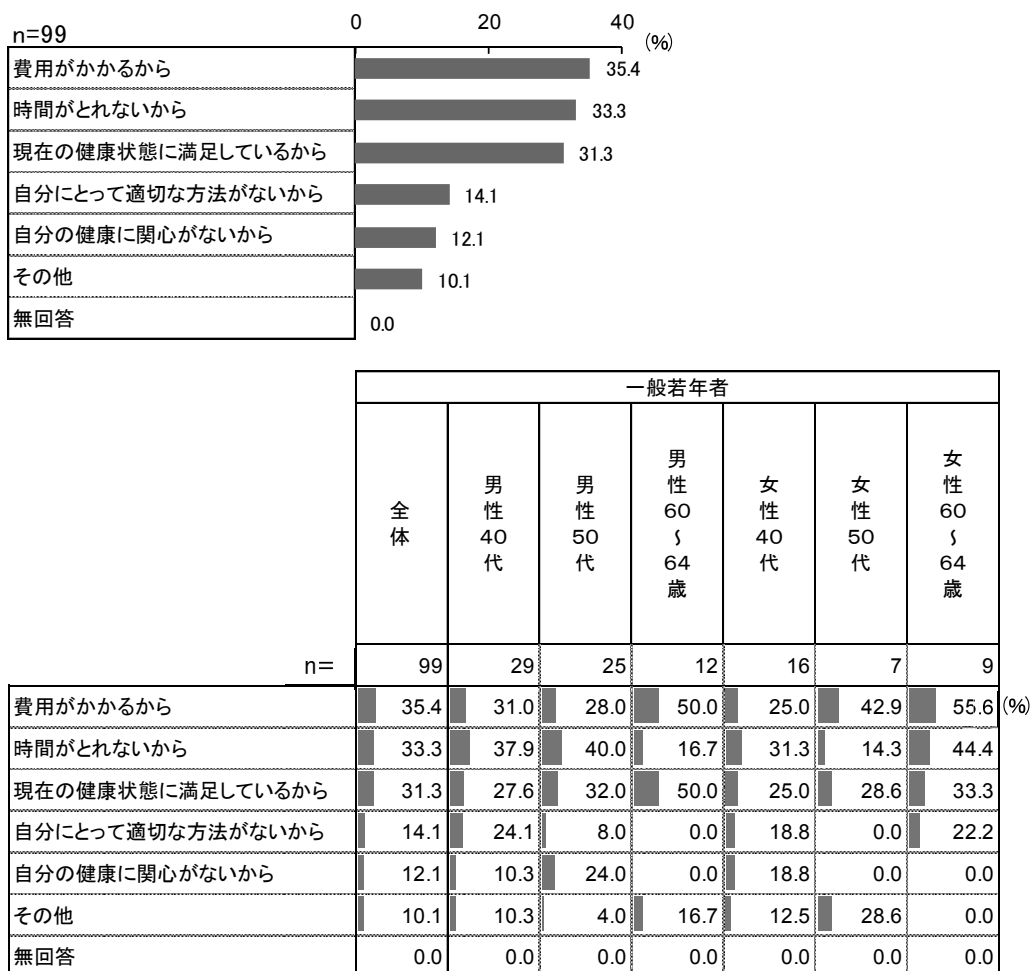


⑭健康について関心のない理由

【04 一般若年者 問 17-1】

健康に関心のない理由は、「費用がかかるから」が 35.4%、次いで「時間がとれないから」(33.3%)、「現在の健康状態に満足しているから」(31.3%)となっている。

図表 III. 3. 23 健康について関心のない理由（複数回答）【ベース：健康情報関心なし】



※「その他」の内容（抜粋）

- ・通常入手できる情報で十分
- ・自然にまかせたい
- ・信用できない

(2) 日常生活や社会活動について

①外出頻度

【04 一般若年者 問6】

外出頻度については、「ほとんど毎日」が 85.8%となっている。性年代別にみると、60～64歳では「ほとんど毎日」の割合が低く、男性で 75.9%、女性で 76.2%となっている。

図表 III. 3. 2 4 外出頻度

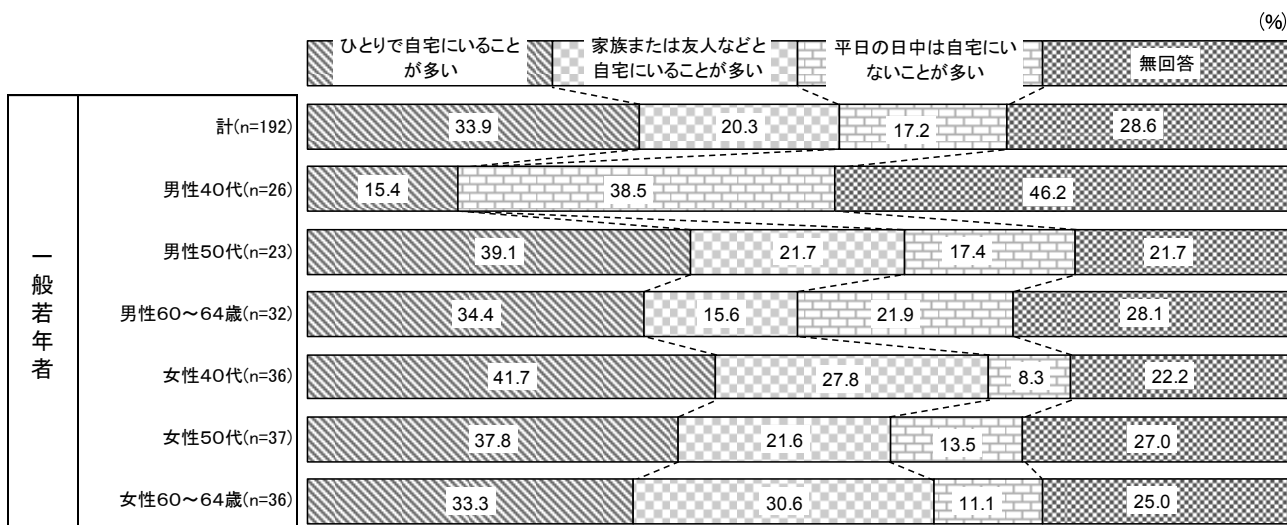
		n=	ほとんど毎日	週に2～3回程度	週に1回程度	月に1～2回程度	2、3ヶ月に1回程度	ほとんど話をしない	無回答
一般若年者	計	1448	1,242	132	32	20	3	5	14
		100	85.8	9.1	2.2	1.4	0.2	0.3	1.0
	男性40代	252	225	11	9	3	2	1	1
		100	89.3	4.4	3.6	1.2	0.8	0.4	0.4
	男性50代	236	211	14	6	2	0	1	2
		100	89.4	5.9	2.5	0.8	0.0	0.4	0.8
	男性60～64歳	141	107	18	6	6	0	2	2
	100	75.9	12.8	4.3	4.3	0.0	1.4	1.4	
女性40代	336	297	29	3	3	0	1	3	
	100	88.4	8.6	0.9	0.9	0.0	0.3	0.9	
女性50代	304	266	33	3	0	1	0	1	
	100	87.5	10.9	1.0	0.0	0.3	0.0	0.3	
女性60～64歳	164	125	27	5	4	0	0	3	
	100	76.2	16.5	3.0	2.4	0.0	0.0	1.8	

②平日の日中の状況

【04 一般若年者 問6-1】

前問で「ほとんど毎日」以外を回答した人に、平日の日中の状況についてたずねたところ、「ひとりで自宅にすることが多い」が 33.9%、「家族または友人などと自宅にすることが多い」が 20.3%、「平日の日中は自宅にいないことが多い」が 17.2%となっている。

図表 III. 3. 2 5 平日の日中の状況【ベース：毎日とは出かけない】



③家族以外の方との会話頻度

【04 一般若年者 問7】

家族以外の方との会話頻度については、「ほとんど毎日」が75.7%となっている。性年代別にみると、「ほとんど毎日」は男性40代(86.1%)・男性50代(82.6%)で割合が高いものの、男性60～64歳では66.0%である。女性も60～64歳では、「ほとんど毎日」は61.0%にとどまっている。

図表 III. 3. 26 家族以外の方との会話頻度

1 段目 回答数 2 段目 (%)

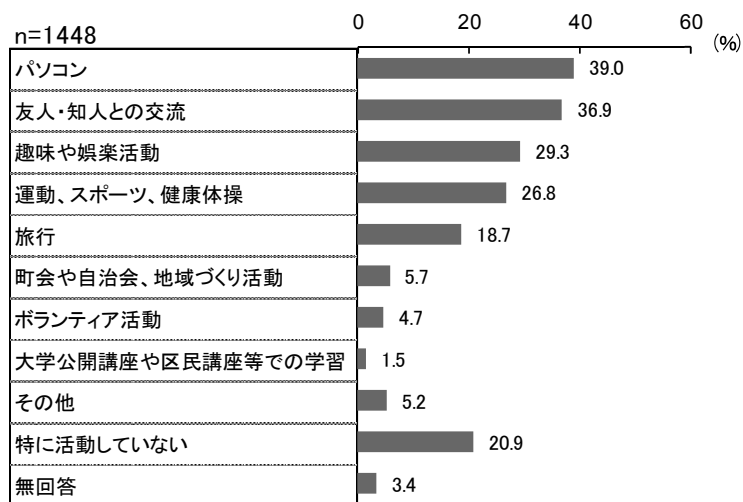
		n=	ほとんど毎日	週に2～3回程度	週に1回程度	月に1～2回程度	2、3ヶ月に1回程度	ほとんど話をしない	無回答
一般若年者	計	1448	1,096	163	54	28	9	48	50
		100	75.7	11.3	3.7	1.9	0.6	3.3	3.5
	男性40代	252	217	12	1	4	0	10	8
		100	86.1	4.8	0.4	1.6	0.0	4.0	3.2
	男性50代	236	195	12	8	3	0	12	6
		100	82.6	5.1	3.4	1.3	0.0	5.1	2.5
	男性60～64歳	141	93	22	9	2	4	7	4
	100	66.0	15.6	6.4	1.4	2.8	5.0	2.8	
女性40代	336	255	36	14	9	0	9	13	
	100	75.9	10.7	4.2	2.7	0.0	2.7	3.9	
女性50代	304	227	47	15	4	2	4	5	
	100	74.7	15.5	4.9	1.3	0.7	1.3	1.6	
女性60～64歳	164	100	34	6	6	2	6	10	
	100	61.0	20.7	3.7	3.7	1.2	3.7	6.1	

④日頃の活動

【04 一般若年者 問8】

日頃の活動については、「パソコン」が 39.0%、次いで「友人・知人との交流」(36.9%)、「趣味や娯楽活動」(29.3%)となっている。一方、「特に活動していない」は 20.9%となっている。

図表 III. 3. 2 7 日頃の活動 (複数回答)



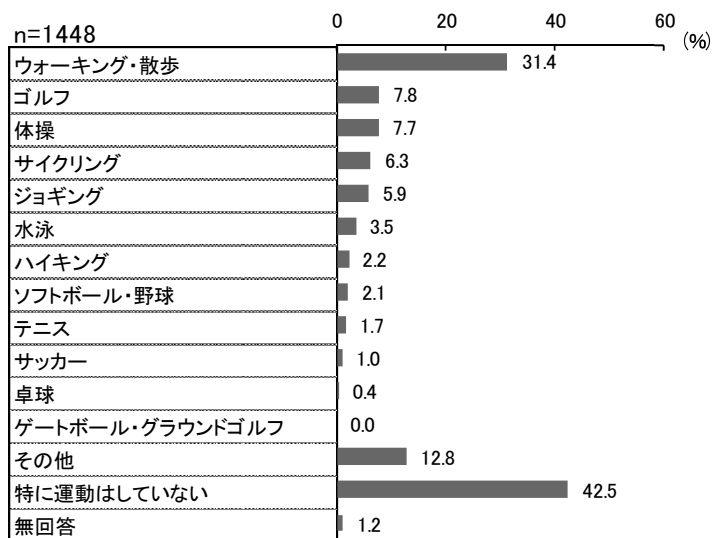
	一般若年者						
	全体	男性 40代	男性 50代	男性 60 ～ 64 歳	女性 40代	女性 50代	女性 60 ～ 64 歳
n=	1448	252	236	141	336	304	164
パソコン	39.0	48.0	42.8	27.7	42.3	39.5	23.2
友人・知人との交流	36.9	25.8	25.8	22.0	47.6	51.0	36.6
趣味や娯楽活動	29.3	33.7	32.2	25.5	26.5	29.6	26.8
運動、スポーツ、健康体操	26.8	32.1	33.1	26.2	19.6	29.3	21.3
旅行	18.7	17.9	15.7	12.1	17.9	25.0	20.7
町会や自治会、地域づくり活動	5.7	3.6	5.1	6.4	5.1	7.2	7.9
ボランティア活動	4.7	2.0	3.0	2.8	6.0	6.3	7.9
大学公開講座や区民講座等での学習	1.5	0.0	1.3	0.7	1.2	3.3	1.8
その他	5.2	4.8	2.5	6.4	7.1	5.3	4.9
特に活動していない	20.9	18.3	21.2	29.1	19.3	17.1	26.8
無回答	3.4	4.0	2.5	2.1	3.6	1.3	6.7

⑤日頃の運動

【04 一般若年者 問9】

日頃の運動については、「特に運動はしていない」が42.5%と最も高くなっている。運動をしていると回答したなかでは、「ウォーキング・散歩」が31.4%と高く、「ゴルフ」が7.8%、「体操」が7.7%となっている。

図表 III. 3. 2 8 日頃の運動（複数回答・3つまで）



	一般若年者						
	全体	男性 40代	男性 50代	男性 60歳～64歳	女性 40代	女性 50代	女性 60歳～64歳
n=	1448	252	236	141	336	304	164
ウォーキング・散歩	31.4	22.6	32.2	39.0	26.8	37.2	37.8
ゴルフ	7.8	12.7	15.3	14.2	2.1	5.3	1.2
体操	7.7	3.2	4.7	5.0	7.4	13.2	12.2
サイクリング	6.3	5.6	8.5	7.8	6.5	5.6	3.7
ジョギング	5.9	11.5	10.2	6.4	3.9	2.3	2.4
水泳	3.5	4.4	3.4	0.7	2.4	4.9	4.3
ハイキング	2.2	3.6	3.0	2.8	0.9	2.0	1.8
ソフトボール・野球	2.1	5.6	5.5	1.4	0.0	0.7	0.0
テニス	1.7	0.8	2.1	2.8	1.2	2.3	1.8
サッカー	1.0	4.4	0.8	0.0	0.3	0.0	0.0
卓球	0.4	0.4	0.0	0.0	0.6	0.3	0.6
ゲートボール・グラウンドゴルフ	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
その他	12.8	13.1	9.3	8.5	15.2	14.5	13.4
特に運動はしていない	42.5	44.4	37.7	39.7	50.9	38.5	38.4
無回答	1.2	0.4	0.8	2.1	0.9	0.7	2.4

※「その他」の内容（抜粋）

- ・ヨガ
- ・ジム
- ・バレーボール
- ・ストレッチ
- ・スキー
- ・エアロビ
- ・ダンス

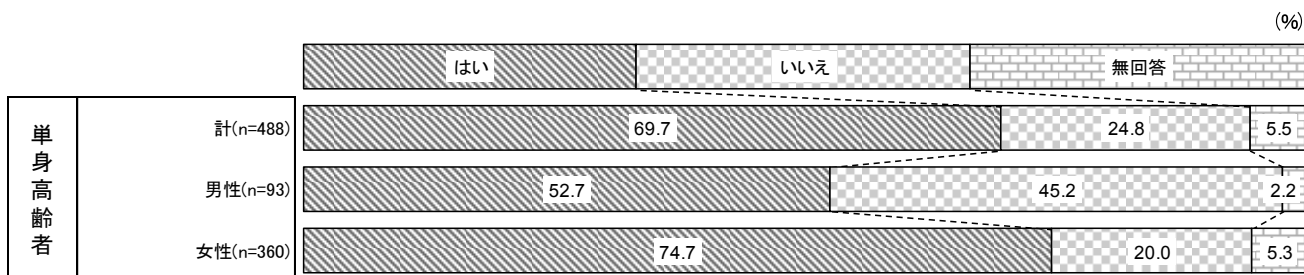
(3) 親族・友人

①子どもの有無

【02 単身高齢者 問 35】

子どもの有無については、「はい」が 69.7%、「いいえ」が 24.8%である。性別にみると、子どもがいる割合は、男性 (52.7%) に比べ女性 (74.7%) が高い。

図表 III. 3. 2 9 子どもの有無



②日頃最も連絡が取れる家族、親戚

【02 単身高齢者 問 36】

日頃最も連絡がとれる家族、親戚としては、「子ども」が 63.7%と最も高く、次いで「兄弟・姉妹」(16.4%) となっている。性別にみると、女性に比べ男性は「いない」割合が高く、16.1% となっている。

図表 III. 3. 3 0 日頃最も連絡が取れる家族、親戚

1 段目 回答数 2 段目 (%)

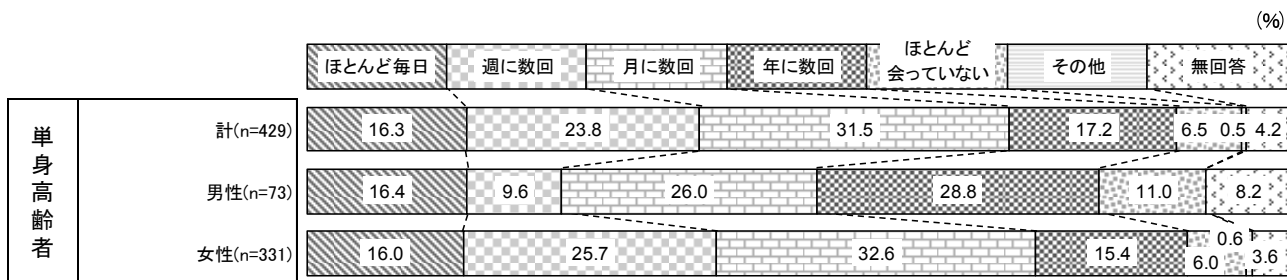
単身高齢者	計	n=	子ども	子どもの配偶者	親	兄弟・姉妹	おじ・おば	いとこ	甥・姪	孫	その他	いない	無回答
			回答数	回答数	回答数	回答数	回答数	回答数	回答数	回答数	回答数	回答数	回答数
単身高齢者	計	488	311	5	0	80	0	3	23	3	4	29	30
		100	63.7	1.0	0.0	16.4	0.0	0.6	4.7	0.6	0.8	5.9	6.1
	男性	93	38	0	0	26	0	1	6	1	1	15	5
		100	40.9	0.0	0.0	28.0	0.0	1.1	6.5	1.1	1.1	16.1	5.4
女性	360	253	5	0	50	0	2	16	2	3	11	18	
	100	70.3	1.4	0.0	13.9	0.0	0.6	4.4	0.6	0.8	3.1	5.0	

③連絡が取れる人と会う頻度

【02 単身高齢者 問 36-1】

日頃最も連絡がとれる人と会う頻度については、「月に数回」が 31.5%と最も高く、次いで「週に数回」(23.8%)となっている。性別にみると、女性に比べ男性は会う頻度が低く、約4割は「年に数回」(28.8%)、「ほとんど会っていない」(11.0%)と答えている。

図表 III. 3. 3 1 連絡が取れる人と会う頻度【ベース：連絡がとれる家族・親せきあり】

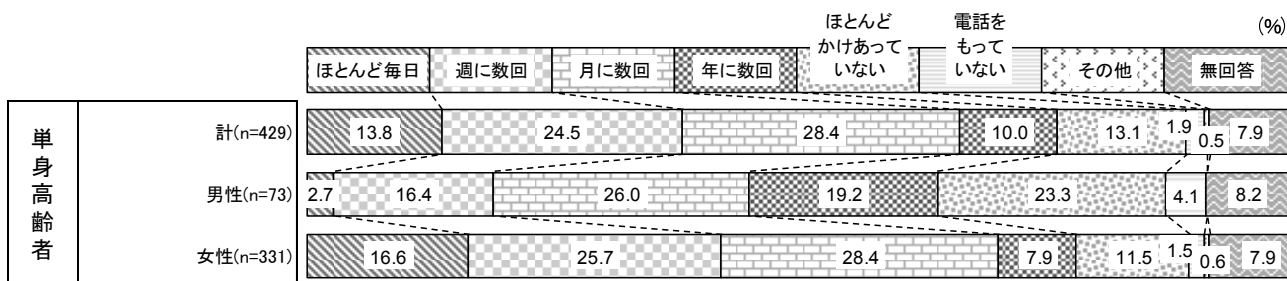


④連絡が取れる人との通話頻度

【02 単身高齢者 問 36-2】

日頃最も連絡がとれる人との通話頻度については、「月に数回」が 28.4%と最も高く、次いで「週に数回」(24.5%)となっている。性別にみると、女性に比べ男性は通話頻度が低く、「年に数回」は 19.2%、「ほとんどかけあっていない」は 23.3%となっている。

図表 III. 3. 3 2 連絡が取れる人との通話頻度【ベース：連絡がとれる家族・親せきあり】

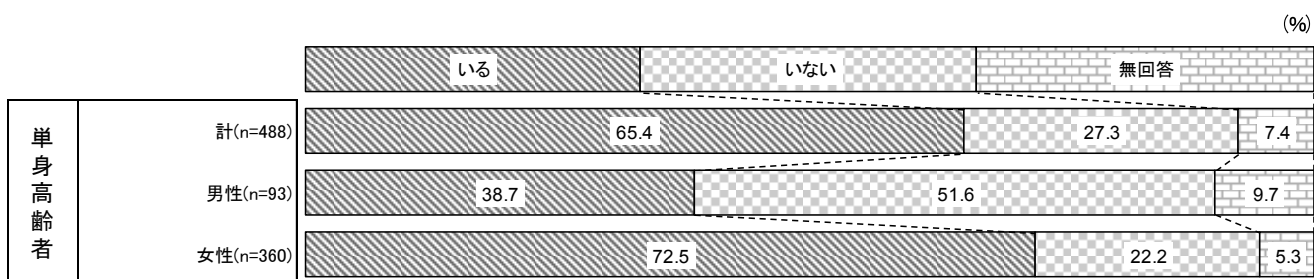


⑤日頃親しくしている友人の有無

【02 単身高齢者 問 37】

日頃親しくしている友人・知人は「いる」が65.4%、「いない」が27.3%である。性別にみると、女性は72.5%が「いる」と答えているのに対し、男性は38.7%である。

図表 III. 3. 3 3 日頃親しくしている友人の有無

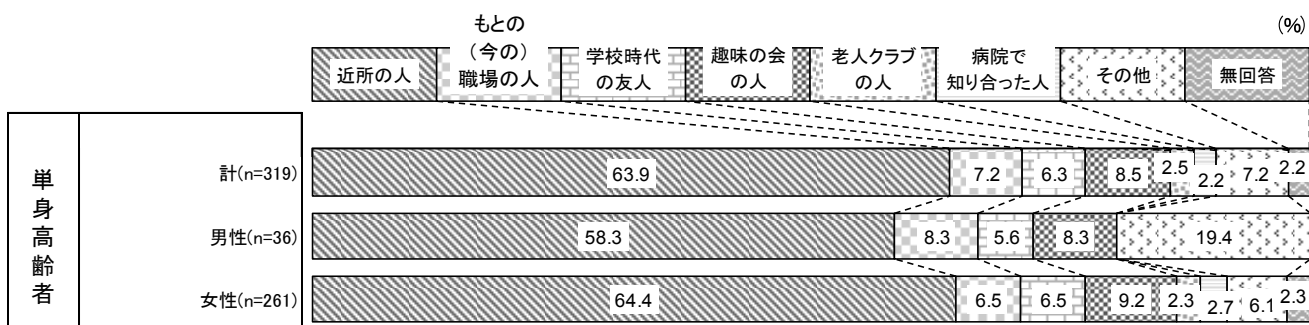


⑥親しくしている友人・知人

【02 単身高齢者 問 37-1】

最も親しくしている友人・知人の関係は、「近所の人」が63.9%と最も高い。

図表 III. 3. 3 4 親しくしている友人・知人【ベース：親しい友人・知人あり】

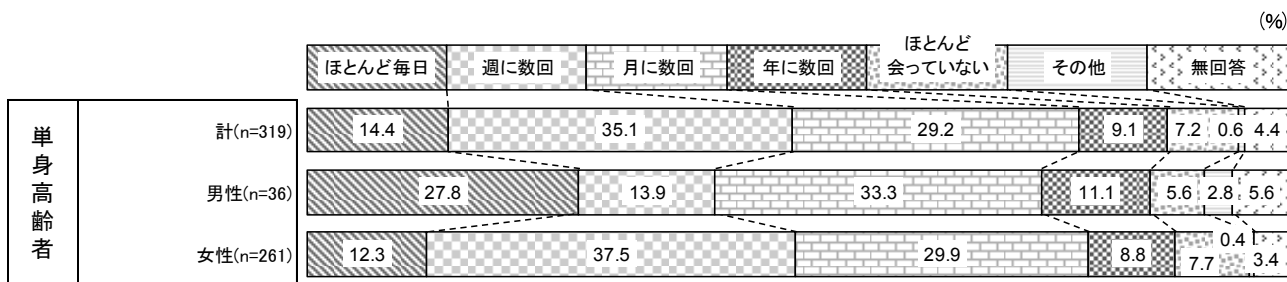


⑦最も親しくしている友人・知人と会う頻度

【02 単身高齢者 問 37-2】

最も親しくしている友人・知人と会う頻度は、「週に数回」が35.1%と最も高く、次いで「月に数回」(29.2%)となっている。性別にみると、男性は「ほとんど毎日」が27.8%、女性は「週に数回」が37.5%とそれぞれ高い。

図表 III. 3. 35 最も親しくしている友人・知人と会う頻度【ベース：親しい友人・知人あり】

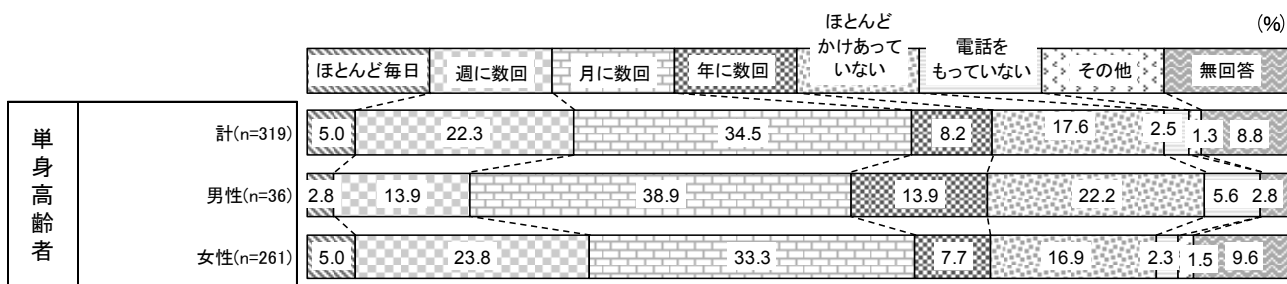


⑧最も親しくしている友人・知人との通話頻度

【02 単身高齢者 問 37-3】

最も親しくしている友人・知人との通話頻度は、「月に数回」が34.5%と最も高く、次いで「週に数回」(22.3%)となっている。一方、「ほとんどかけあっていない」も約2割(17.6%)いる。性別にみると、男性に比べ女性では通話頻度が高く、「ほとんど毎日」が5.0%、「週に数回」が23.8%となっている。

図表 III. 3. 36 最も親しくしている友人・知人との通話頻度【ベース：親しい友人・知人あり】



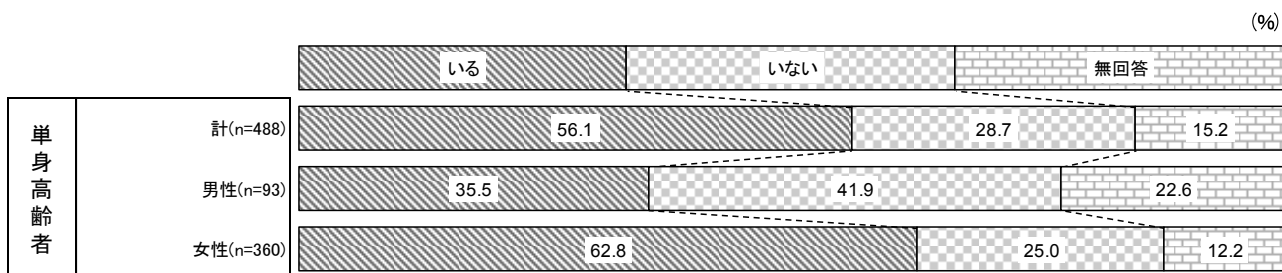
⑨近所づきあいする人の有無（立ち話/あいさつ程度）

1) 日常的に立ち話をするような付き合いの人がいる

【02 単身高齢者 問 38-ア】

日常的に立ち話をするような付き合いの人が、「いる」は 56.1%、「いない」は 28.7%である。性別にみると、女性に比べ男性は「いない」割合が高く、約4割（41.9%）となっている。

図表 III. 3. 3 7 近所づきあいする人の有無（立ち話）

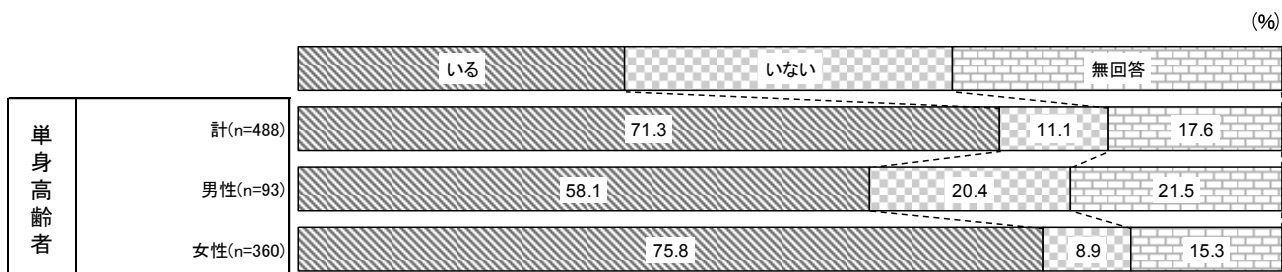


2) あいさつ程度の付き合いをする人がいる

【02 単身高齢者 問 38-イ】

あいさつ程度の付き合いをする人が、「いる」は 71.3%、「いない」は 11.1%である。性別にみると、女性に比べ男性で「いない」割合が高く、約2割（20.4%）となっている。

図表 III. 3. 3 8 近所づきあいする人の有無（あいさつ程度）



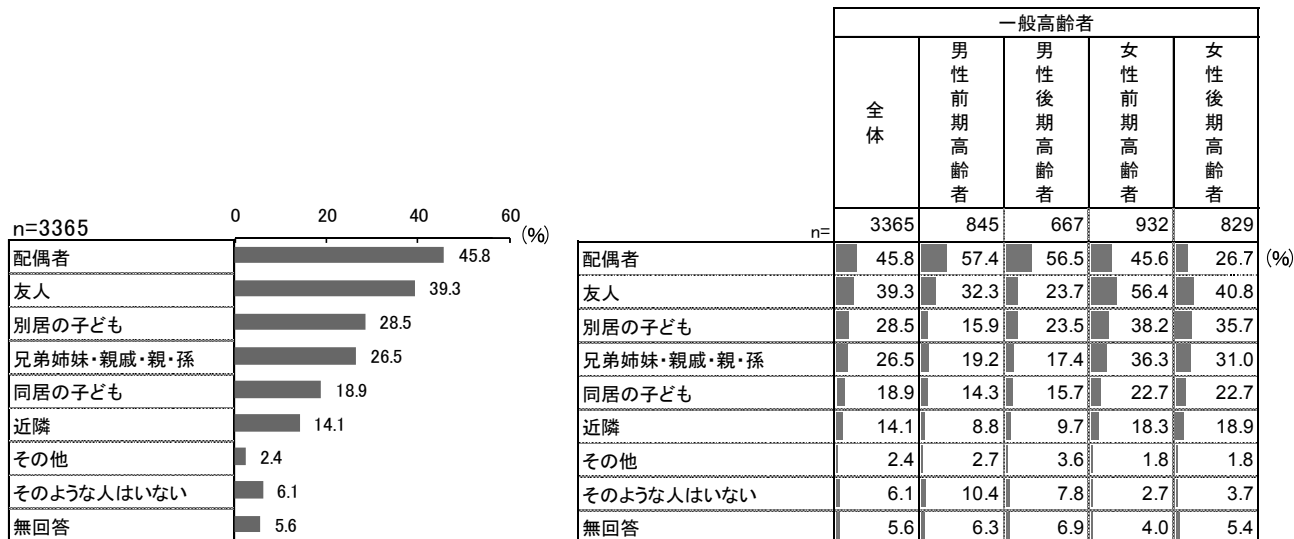
(4) たすけあい

①心配事や愚痴を聞いてくれる人

【01 一般高齢者 問9(1)】

心配事や愚痴を聞いてくれる人は、「配偶者」が45.8%と最も高く、次いで「友人」が39.3%、「別居の子ども」(28.5%)となっている。

図表Ⅲ.3.39 心配事や愚痴を聞いてくれる人(複数回答)

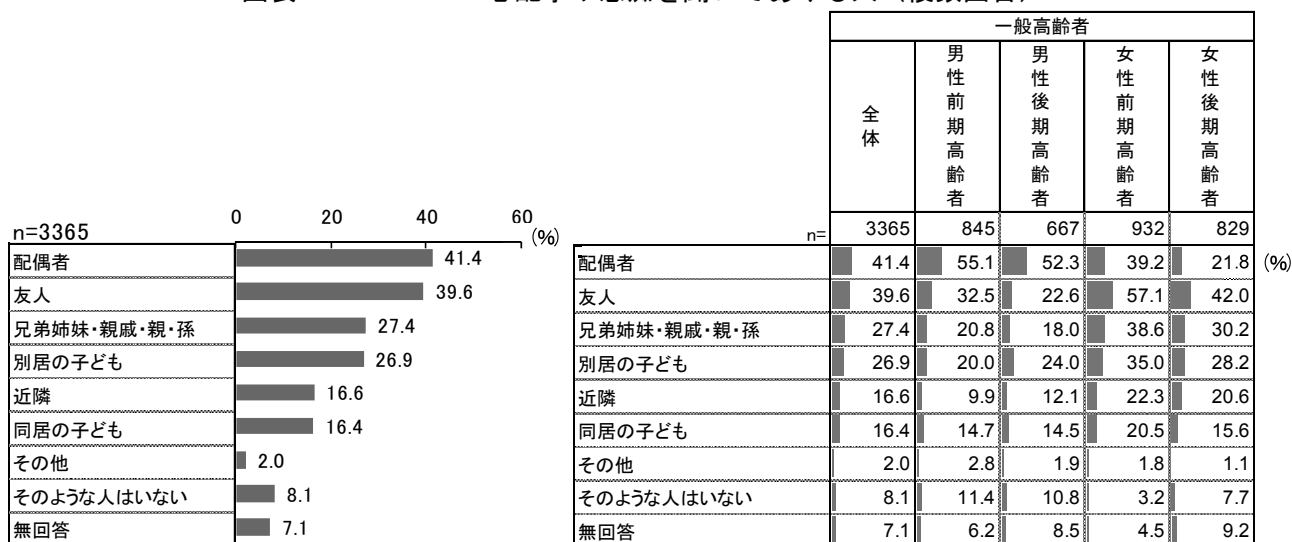


②心配事や愚痴を聞いてあげる人

【01 一般高齢者 問9(2)】

心配事や愚痴を聞いてあげる人は、「配偶者」が41.4%と最も高く、次いで「友人」が39.6%、「兄弟姉妹・親戚・親・孫」(27.4%)となっている。性年代別でみると、男性前期高齢者、男性後期高齢者では「配偶者」が高くなっている。女性前期高齢者、女性後期高齢者では「友人」が高くなっている。

図表Ⅲ.3.40 心配事や愚痴を聞いてあげる人(複数回答)



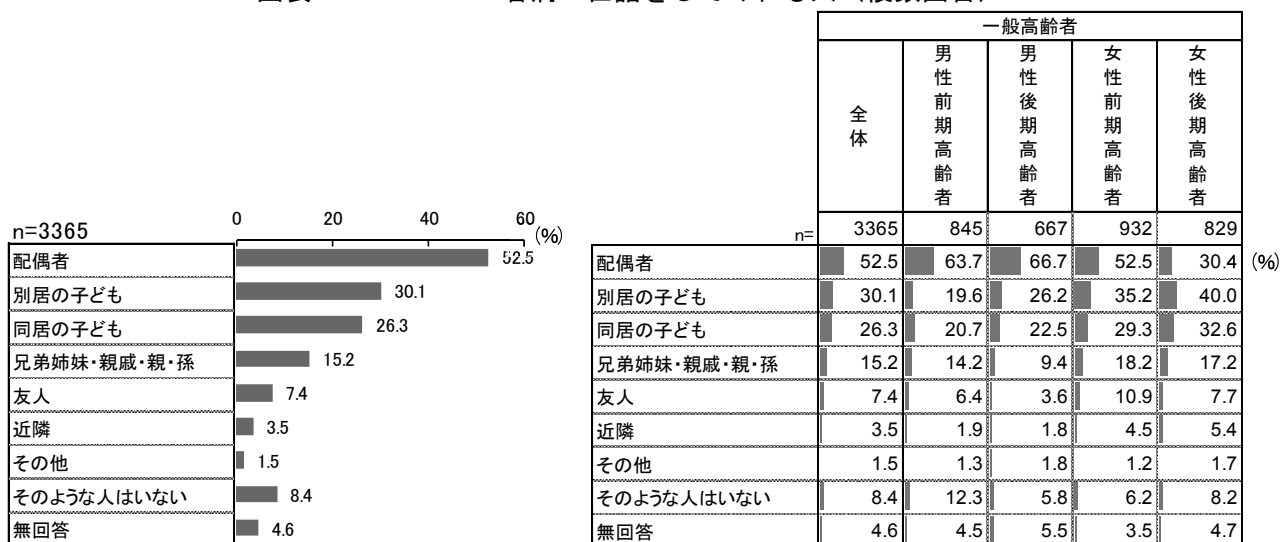
③看病・世話をしてくれる人

【01 一般高齢者 問9(3)】

看病・世話をしてくれる人は、「配偶者」が52.5%と最も高く、次いで「別居の子ども」(30.1%)、「同居の子ども」(26.3%)となっている。

性年代別にみると、「そのような人はいない」は全体(8.4%)に比べ男性前期高齢者(12.3%)の割合が高くなっている。

図表 III. 3. 4 1 看病・世話をしてくれる人 (複数回答)

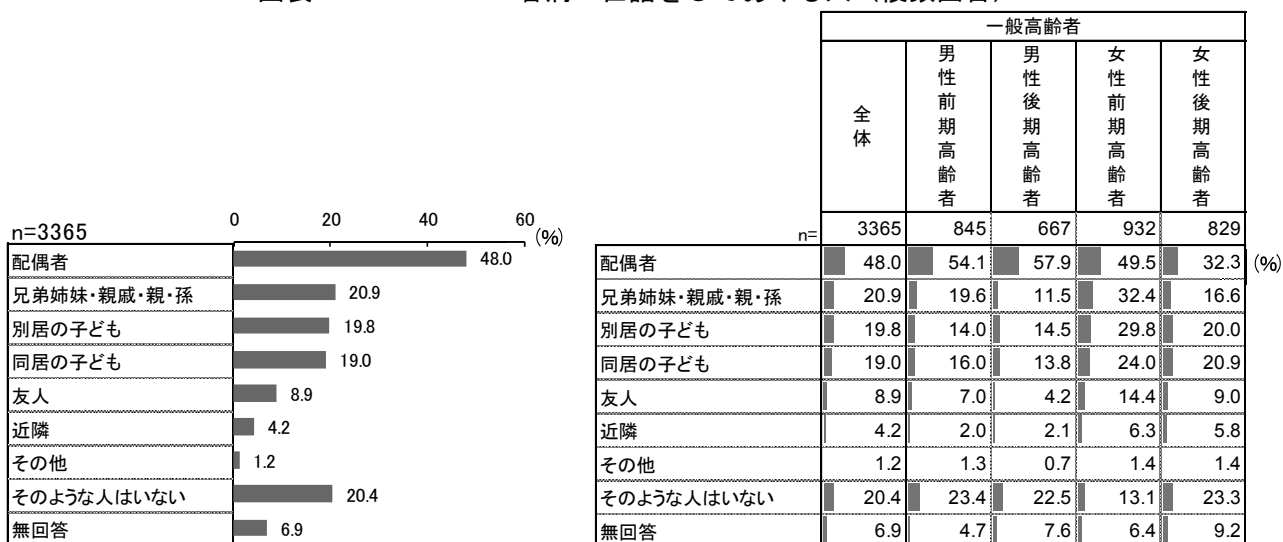


④看病・世話をしてあげる人

【01 一般高齢者 問9(4)】

看病・世話をしてあげる人は、「配偶者」が48.0%と最も高く、次いで「兄弟姉妹・親戚・親・孫」が20.9%、「別居の子ども」が19.8%となっている。性年代別でみると、「そのような人はいない」が女性前期高齢者以外の年代で、2割超となっている。

図表 III. 3. 4 2 看病・世話をしてあげる人 (複数回答)

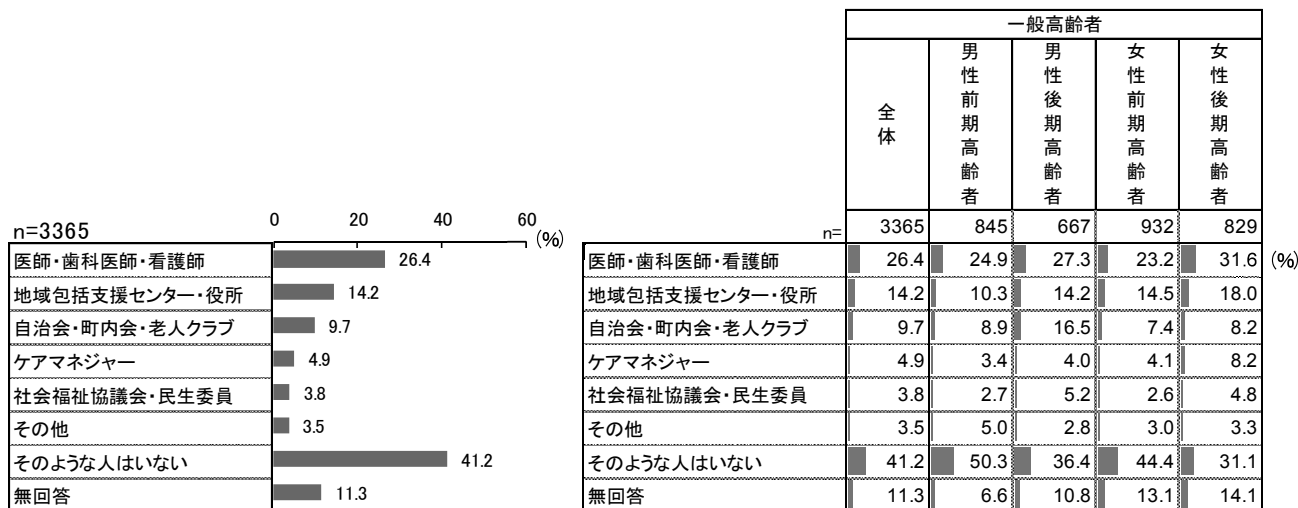


⑤何かあった時の相談相手（家族・友人・知人以外）

【01 一般高齢者 問9(5)】

何かあった時の相談相手については、「そのような人はいない」が41.2%と最も高くなっている。相談相手のなかでは、「医師・歯科医師・看護師」が26.4%、次いで「地域包括支援センター・役所」(14.2%)となっている。

図表 III. 3. 4 3 何かあった時の相談相手（家族・友人・知人以外）（複数回答）

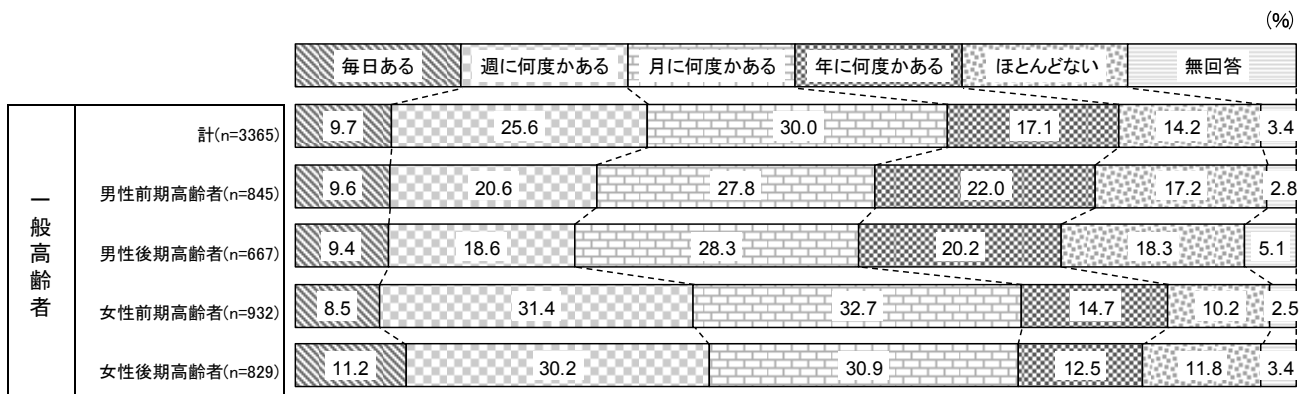


⑥友人・知人と会う頻度

【01 一般高齢者 問9(6)】

友人・知人と会う頻度については、「月に何度かある」が30.0%と最も高く、次いで「週に何度かある」(25.6%)となっている。性年代別にみると、男性に比べ女性は会う頻度が高く、約4割は週に何度か以上あると答えている。

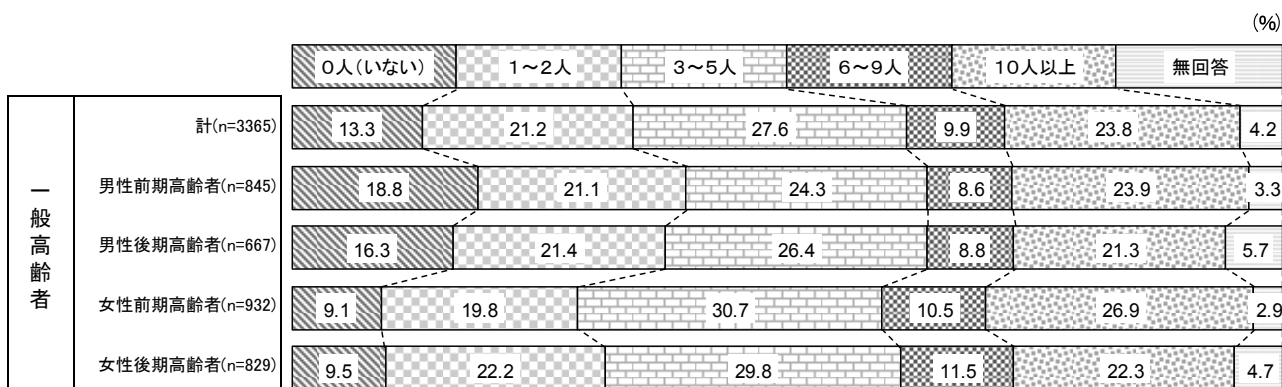
図表 III. 3. 4 4 友人・知人と会う頻度



⑦ 1か月間で友人・知人と会った人数
【01 一般高齢者 問9(7)】

この1か月間で会った友人・知人の人数は、「3～5人」が27.6%と最も高く、次いで「10人以上」(23.8%)、「1～2人」(21.2%)となっている。性年代別にみると、女性に比べ男性は「0人(いない)」の割合が高く、男性前期高齢者では18.8%、男性後期高齢者では16.3%となっている。

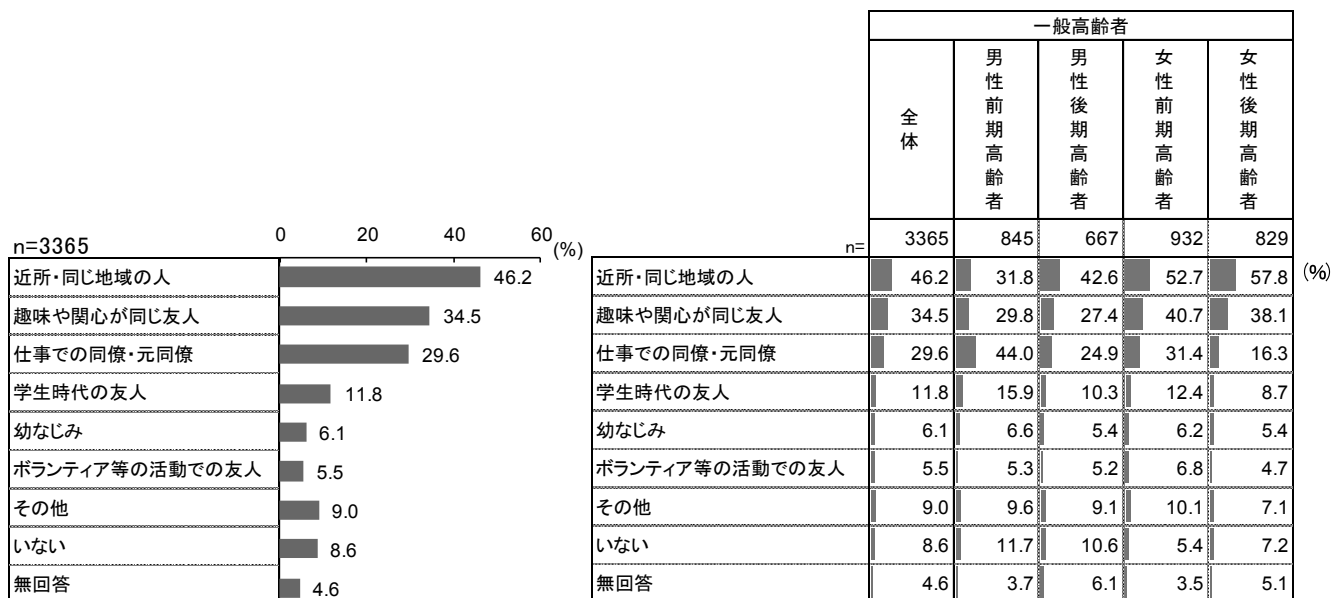
図表 III. 3. 4 5 1か月間で友人・知人と会った人数



⑧ よく会う友人・知人
【01 一般高齢者 問9(8)】

よく会う友人・知人については、「近所・同じ地域の人」が46.2%と高くなっている。次いで、「趣味や関心が同じ友人」(34.5%)、「仕事での同僚・元同僚」(29.6%)となっている。

図表 III. 3. 4 6 よく会う友人・知人(複数回答)



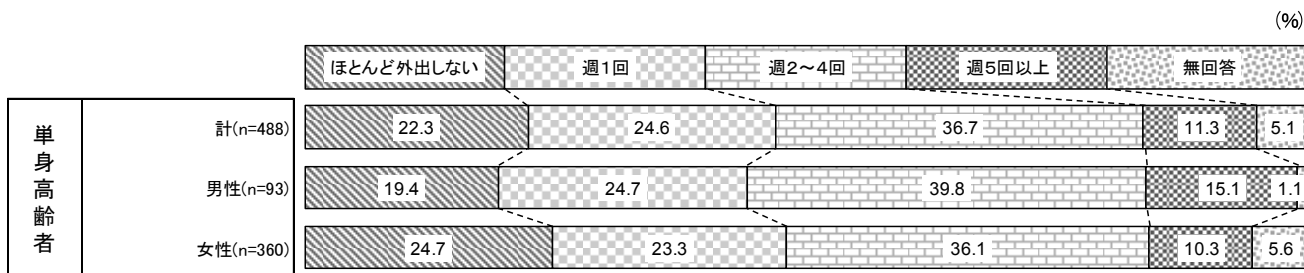
(5) 買物

①買物に出かける頻度

【02 単身高齢者 問 20】

買物に出かける頻度については、「週2～4回」が36.7%と最も高く、次いで「週1回」(24.6%)、「ほとんど外出しない」(22.3%)となっている。性別で見ると、男性に比べ女性は「ほとんど外出しない」割合が高く、24.7%となっている。

図表 III. 3. 4 7 買物に出かける頻度

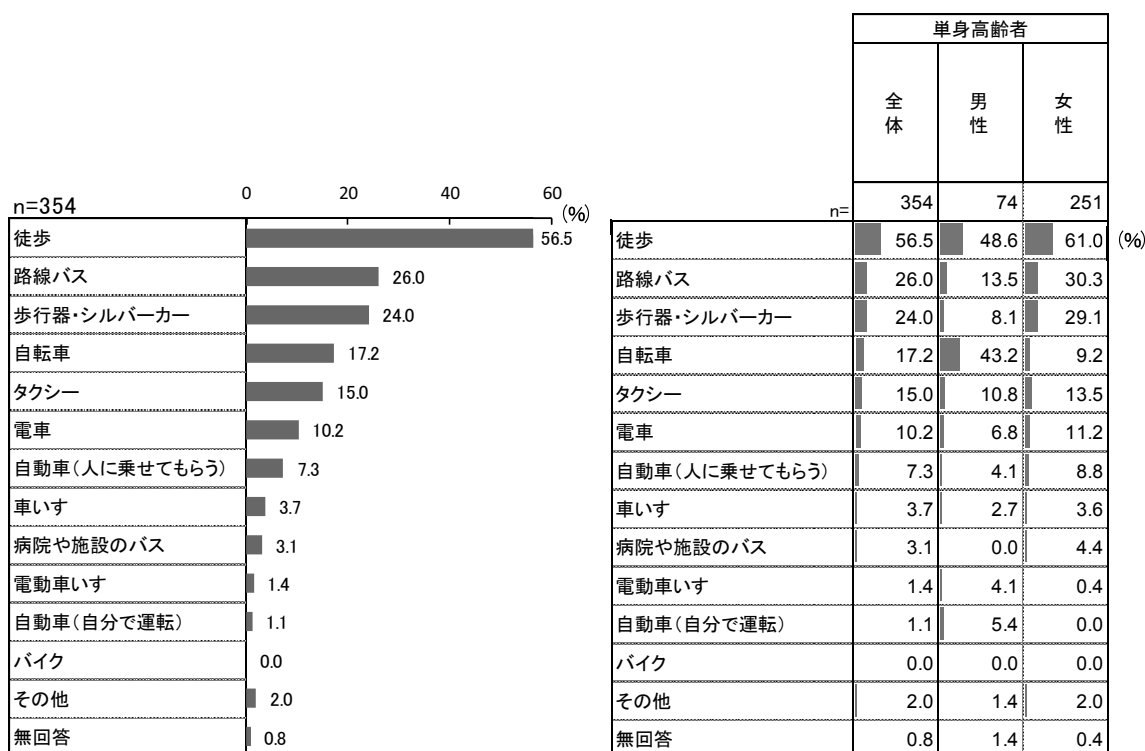


②買物に行く際の移動手段

【02 単身高齢者 問 21】

買物に行く際の移動手段は、「徒歩」が56.5%と最も高く、次いで「路線バス」(26.0%)、「歩行器・シルバーカー」(24.0%)となっている。性別で見ると、「路線バス」は男性(13.5%)に比べ女性(30.3%)の割合が高く、「自転車」は女性(9.2%)に比べ男性(43.2%)の割合が高くなっている。

図表 III. 3. 4 8 買物に行く際の移動手段(複数回答)【ベース：週1回以上買物に出かける人】

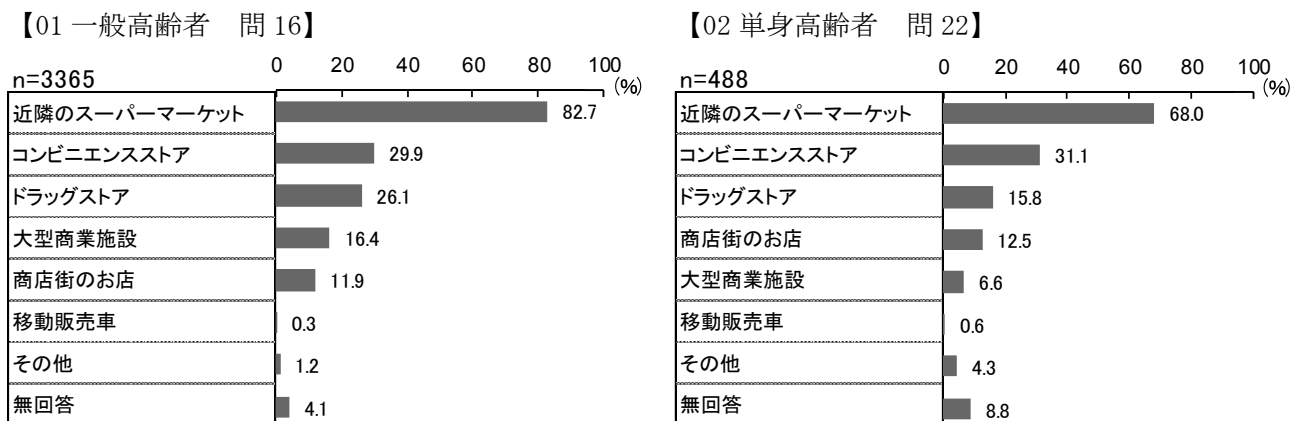


③日常用品の購入店舗

【01 一般高齢者 問 16】 【02 単身高齢者 問 22】

日常用品の購入店舗は、一般高齢者、単身高齢者とも「近隣のスーパーマーケット」が 82.7%、68.0%と最も高く、次いで「コンビニエンスストア」(29.9%、31.1%)、「ドラッグストア」(26.1%、15.8%)となっている。

図表 III. 3. 4 9 日常用品の購入店舗 (複数回答・2つまで)



	一般高齢者					単身高齢者			n=
	全体	男性 前期 高齢者	男性 後期 高齢者	女性 前期 高齢者	女性 後期 高齢者	全体	男性	女性	
	3365	845	667	932	829	488	93	360	
近隣のスーパーマーケット	82.7	80.2	74.1	89.9	84.3	68.0	65.6	70.0	(%)
コンビニエンスストア	29.9	40.4	39.7	19.5	23.4	31.1	39.8	28.9	
ドラッグストア	26.1	21.3	17.4	36.7	27.3	15.8	16.1	14.7	
大型商業施設	16.4	19.3	15.3	16.5	14.0	6.6	5.4	6.4	
商店街のお店	11.9	8.4	11.7	12.0	15.6	12.5	9.7	12.5	
移動販売車	0.3	0.0	0.0	0.2	1.0	0.6	0.0	0.8	
その他	1.2	0.7	0.9	1.5	1.7	4.3	1.1	5.6	
無回答	4.1	4.3	6.0	2.1	4.3	8.8	6.5	10.0	

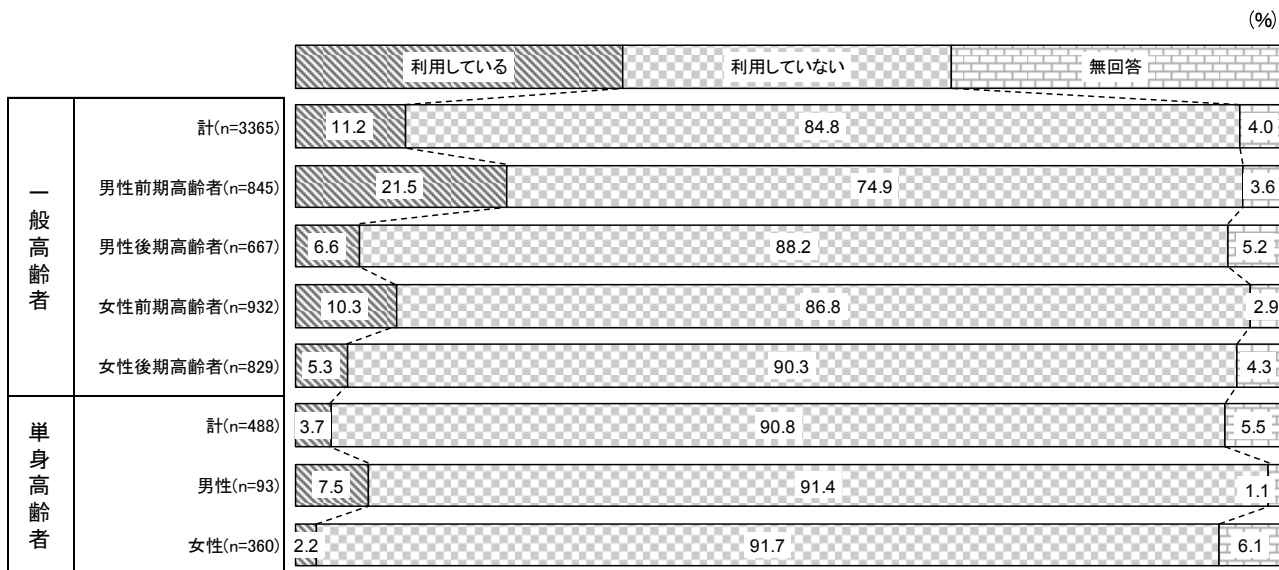
④インターネットによる買物の利用

【01 一般高齢者 問 17】【02 単身高齢者 問 23】

インターネットによる買物については、一般高齢者では「利用している」は 11.2%、「利用していない」は 84.8%である。性年代別にみると、男性前期高齢者は「利用している」が 21.5%と高い。

単身高齢者では、「利用している」は 3.7%、「利用していない」は 90.8%である。性別にみると、女性に比べ男性は「利用している」割合が高いが、7.5%の利用にとどまっている。

図表 III. 3. 5 0 インターネットによる買物の利用



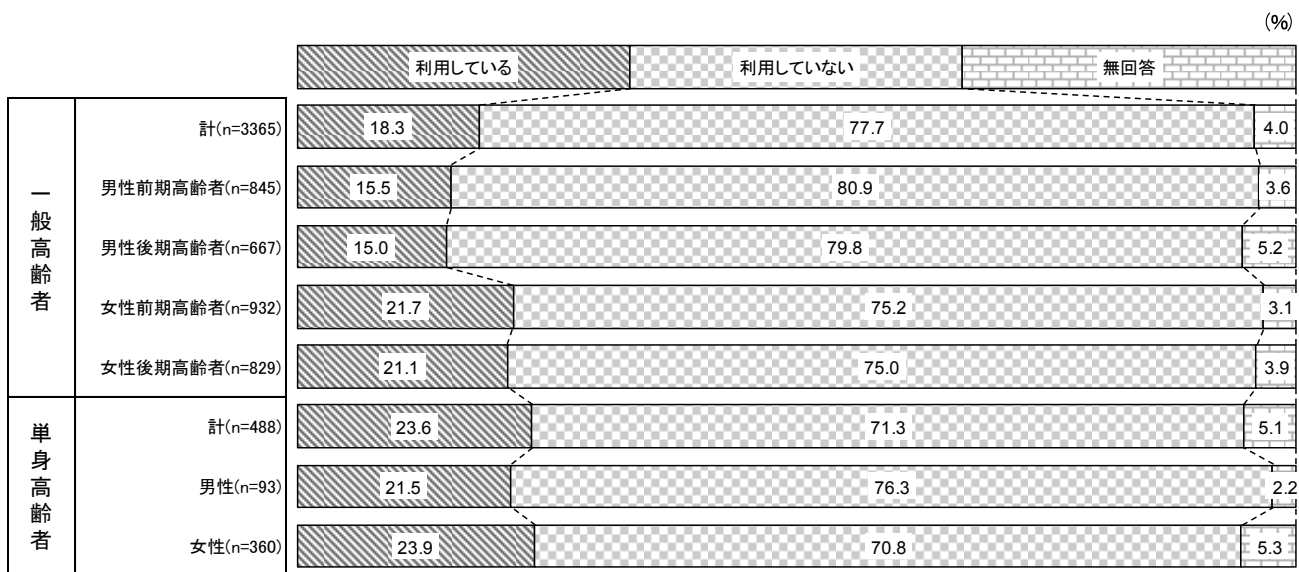
⑤宅配サービスによる買物の利用

【01 一般高齢者 問 18】【02 単身高齢者 問 24】

宅配サービスによる買物については、一般高齢者では、「利用している」が 18.3%、「利用していない」が 77.7%である。性年代別にみると、男性に比べ女性は「利用している」割合が高く、約 2 割となっている。

単身高齢者では、「利用している」が 23.6%、「利用していない」が 71.3%である。性別による差はほとんどみられない。

図表 III. 3. 5 1 宅配サービスによる買物の利用



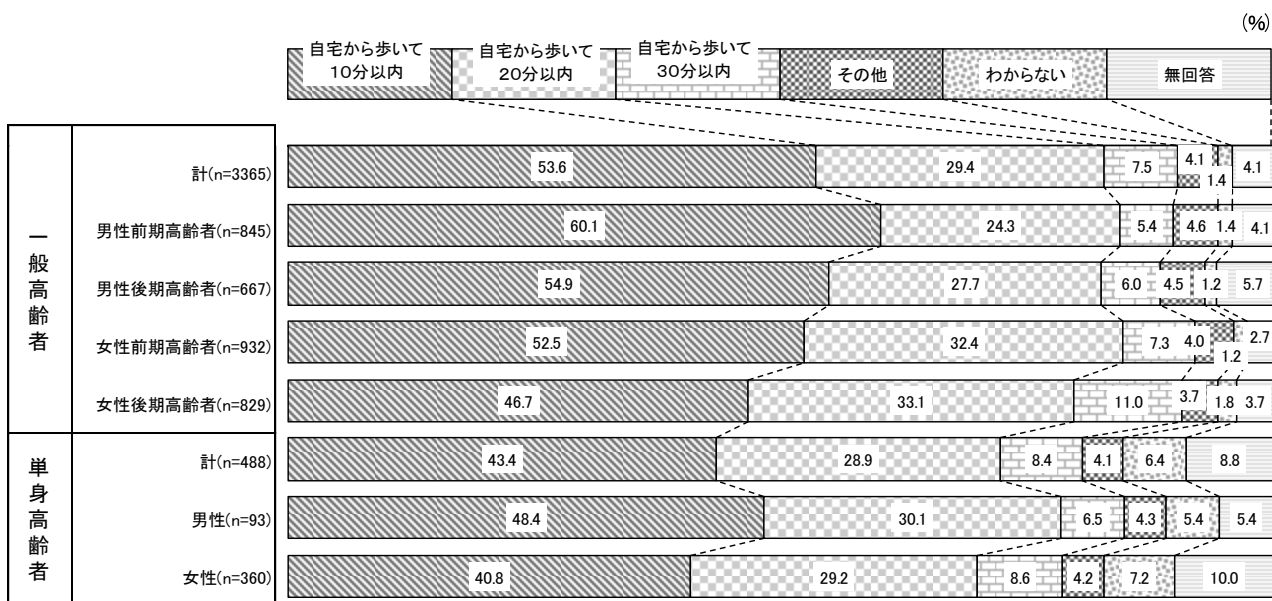
⑥日用品購入店までの所要時間

【01 一般高齢者 問 19】【02 単身高齢者 問 25】

日用品購入店までの所要時間は、一般高齢者では、「自宅から歩いて10分以内」が53.6%と最も高く、次いで「自宅から歩いて20分以内」(29.4%)となっている。性年代別にみると、年代があがるほど、自宅から日用品購入店までの所要時間が長い。

単身高齢者では、「自宅から歩いて10分以内」が43.4%と最も高く、次いで「自宅から歩いて20分以内」(28.9%)となっている。性別にみると、「自宅から歩いて10分以内」の割合は、女性(40.8%)に比べ男性(48.4%)が高い。

図表 III. 3. 5 2 日用品購入店までの所要時間



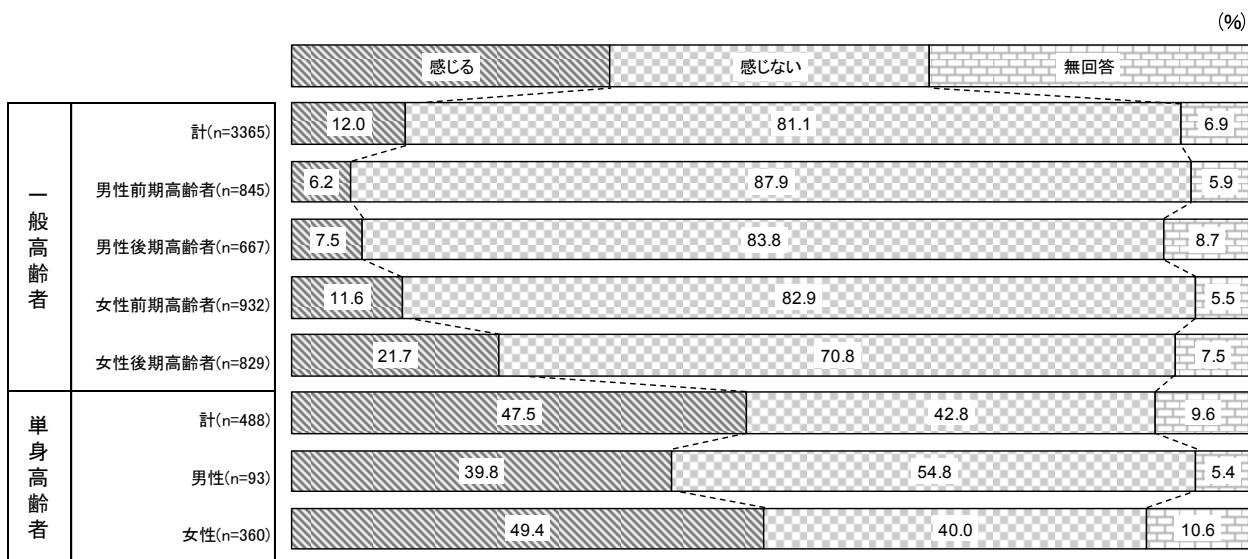
⑦日常用品の買物についての不便

【01 一般高齢者 問 20】【02 単身高齢者 問 26】

日常用品の買物について、一般高齢者では、不便を「感じる」は12.0%、「感じない」は81.1%である。性年代別にみると、男性に比べ女性は不便を「感じる」割合が高く、女性の前期高齢者は11.6%、後期高齢者は21.7%となっている。

単身高齢者では、「感じる」は47.5%、「感じない」は42.8%である。性別にみると、「感じる」割合は、男性(39.8%)に比べ女性(49.4%)が高い。

図表 III. 3. 5 3 日常用品の買物についての不便

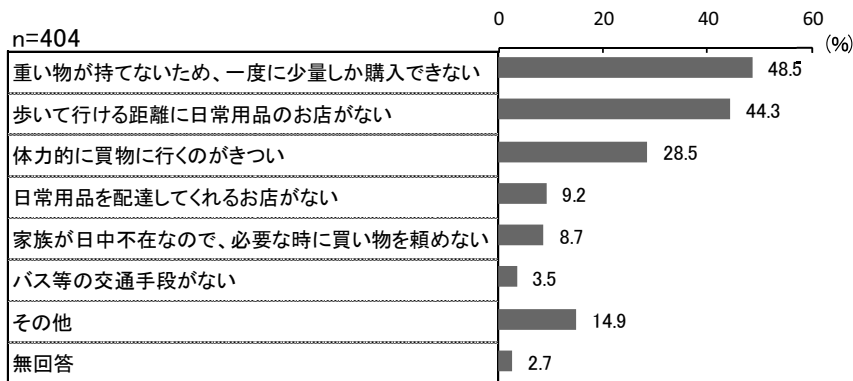


⑧不便の内容

【01 一般高齢者 問 20-1】

不便に感じている内容は、一般高齢者では「重いものが持てないため、一度に少量しか購入できない」が 48.5%と高く、次いで「歩いて行ける距離に日用品のお店がない」(44.3%)、「体力的に買物に行くのがきつい」(28.5%)となっている。

図表 III. 3. 5 4 不便の内容（複数回答）【ベース：不便を感じる人】



	一般高齢者				
	全体	男性前期高齢者	男性後期高齢者	女性前期高齢者	女性後期高齢者
n=	404	52	50	108	180
重い物が持てないため、一度に少量しか購入できない	48.5	38.5	44.0	46.3	56.1
歩いて行ける距離に日用品のお店がない	44.3	51.9	46.0	40.7	42.8
体力的に買物に行くのがきつい	28.5	17.3	42.0	21.3	32.2
日用品を配達してくれるお店がない	9.2	11.5	12.0	5.6	9.4
家族が日中不在なので、必要な時に買い物を頼めない	8.7	7.7	4.0	6.5	11.1
バス等の交通手段がない	3.5	3.8	2.0	3.7	3.9
その他	14.9	21.2	8.0	23.1	10.0
無回答	2.7	0.0	2.0	3.7	2.8

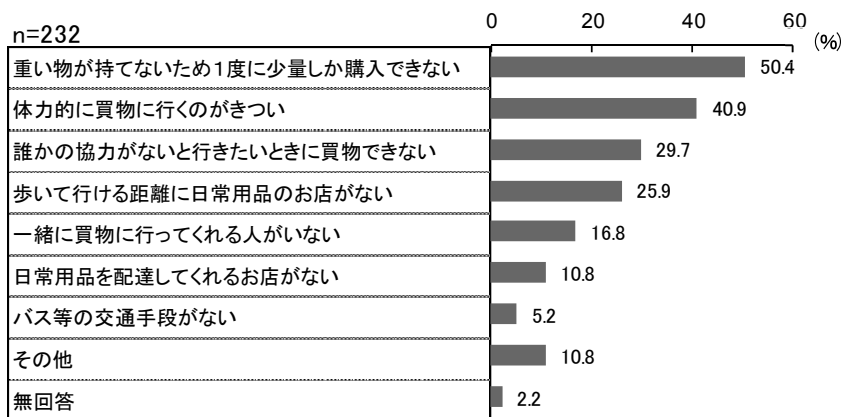
※「その他」の内容（抜粋）

- ・近くのスーパーが閉店してしまった。
- ・一店だけで必要なものがなく、他の店を何軒も行く事。
- ・1人で行けない。

【02 単身高齢者 問 26-1】

不便に感じている内容は、単身高齢者では、「重いものが持てないため1度に少量しか購入できない」が50.4%と最も高く、次いで「体力的に買物に行くのがきつい」(40.9%)、「誰かの協力がないと行きたいときに買物できない」(29.7%)となっている。

図表 III. 3. 5 5 不便の内容 (複数回答) 【ベース：買物で不便を感じる】



	単身高齢者		
	全体	男性	女性
	n=232	37	178
重い物が持てないため1度に少量しか購入できない	50.4	40.5	52.2
体力的に買物に行くのがきつい	40.9	35.1	43.3
誰かの協力がないと行きたいときに買物できない	29.7	21.6	32.0
歩いて行ける距離に日常用品のお店がない	25.9	35.1	23.6
一緒に買物に行ってくれる人がいない	16.8	16.2	16.9
日常用品を配達してくれるお店がない	10.8	10.8	10.1
バス等の交通手段がない	5.2	8.1	3.9
その他	10.8	13.5	10.1
無回答	2.2	0.0	2.2

※「その他」の内容 (抜粋)

- ・ 歩行に不安がある。
- ・ 今はヘルパーさんに買物に行ってもらっている (代行)。
- ・ 配達料が高い。

(6) 日々の生活

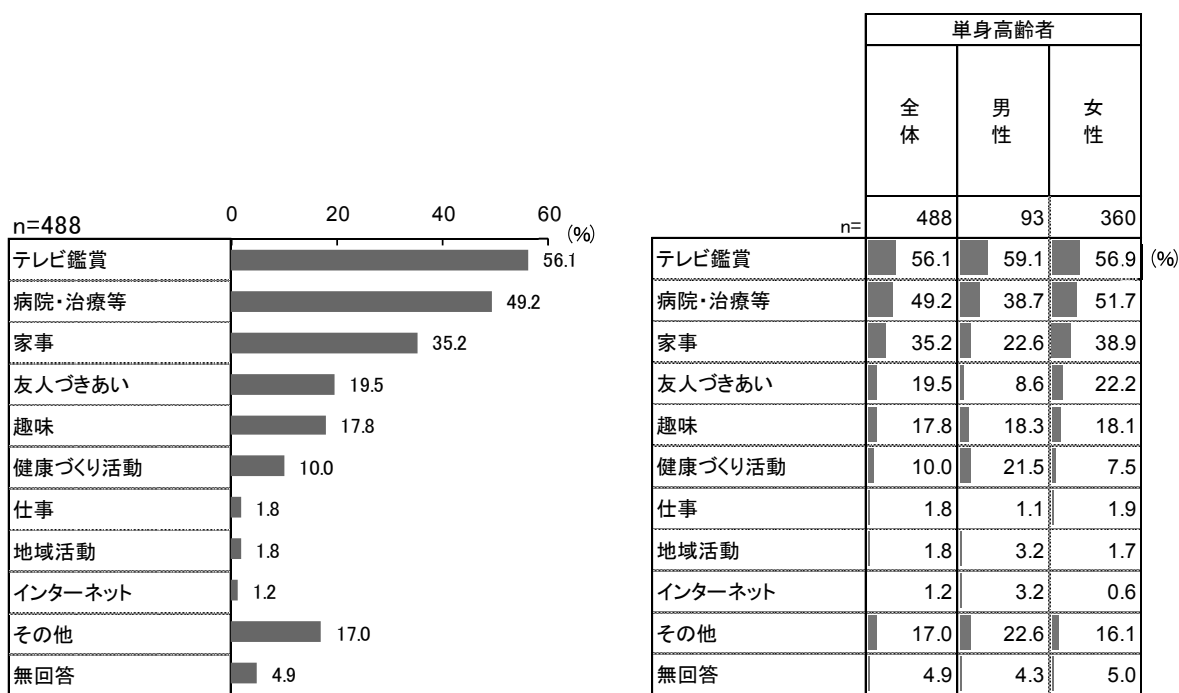
①日常生活の過ごし方

【02 単身高齢者 問 27】

日常生活の過ごし方は、「テレビ鑑賞」が 56.1%と高くなっており、「病院・治療等」が 49.2%、「家事」が 35.2%となっている。

性別で見ると、「友人つきあい」は、男性(8.6%)に比べ女性(22.2%)の割合が高い。「健康づくり活動」は、女性(7.5%)に比べ男性(21.5%)の割合が高くなっている。

図表 III. 3. 5 6 日常生活の過ごし方(複数回答・3つまで)



※「その他」の内容(抜粋)

・デイサービスへ通所

・寝ている

・ラジオを聞く

②災害時避難場所の認知

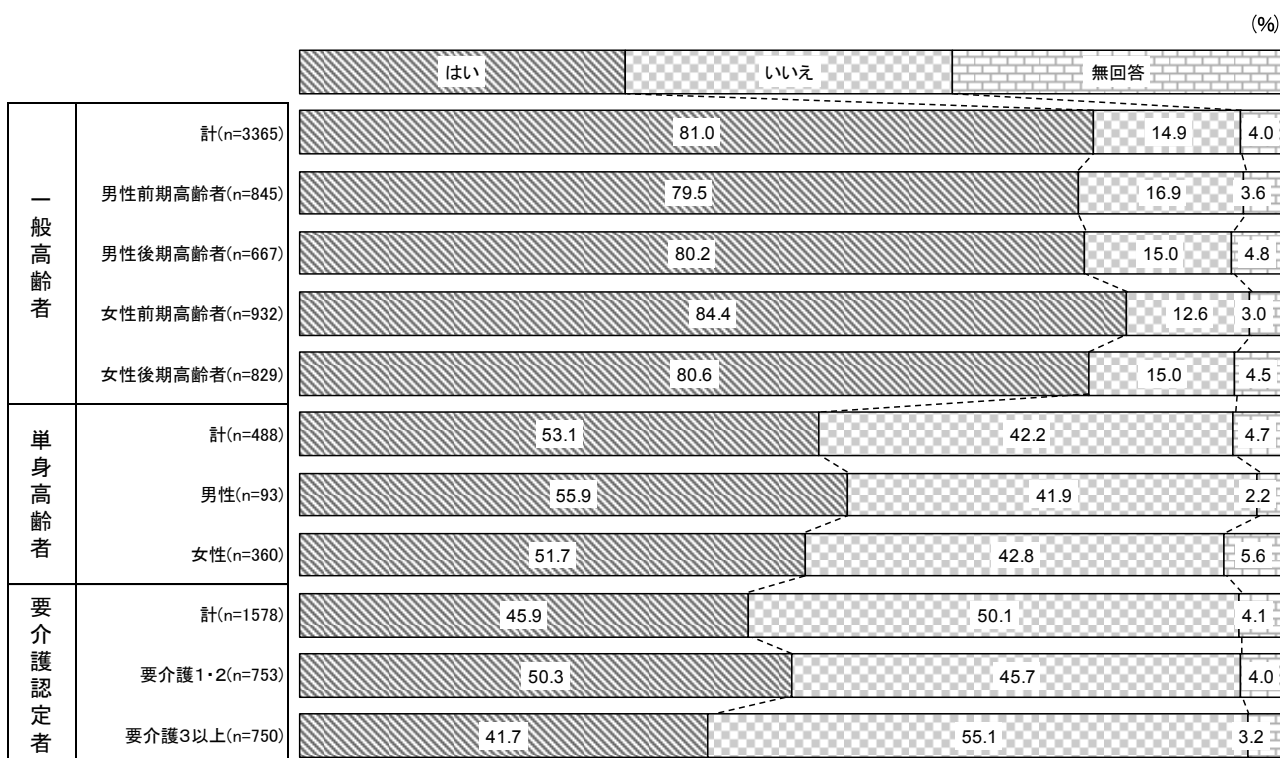
【01 一般高齢者 問 21】 【02 単身高齢者 問 29】 【03 要介護認定者 問 10】

災害時避難場所の認知については、一般高齢者では、「はい」は81.0%、「いいえ」は14.9%である。性年代別による差はほとんどみられない。

単身高齢者では、「はい」は53.1%、「いいえ」は42.2%である。性別にみると、女性(51.7%)に比べ男性(55.9%)の認知度はやや高い。

要介護認定者では、「はい」は45.9%、「いいえ」は50.1%である。要介護度別にみると、「いいえ」は要介護度1・2(45.7%)に比べ要介護3以上(55.1%)で高く、要介護度が高いほど認知度は低い。

図表 III. 3. 5 7 災害時避難場所の認知



③災害時避難場所までの移動の可否

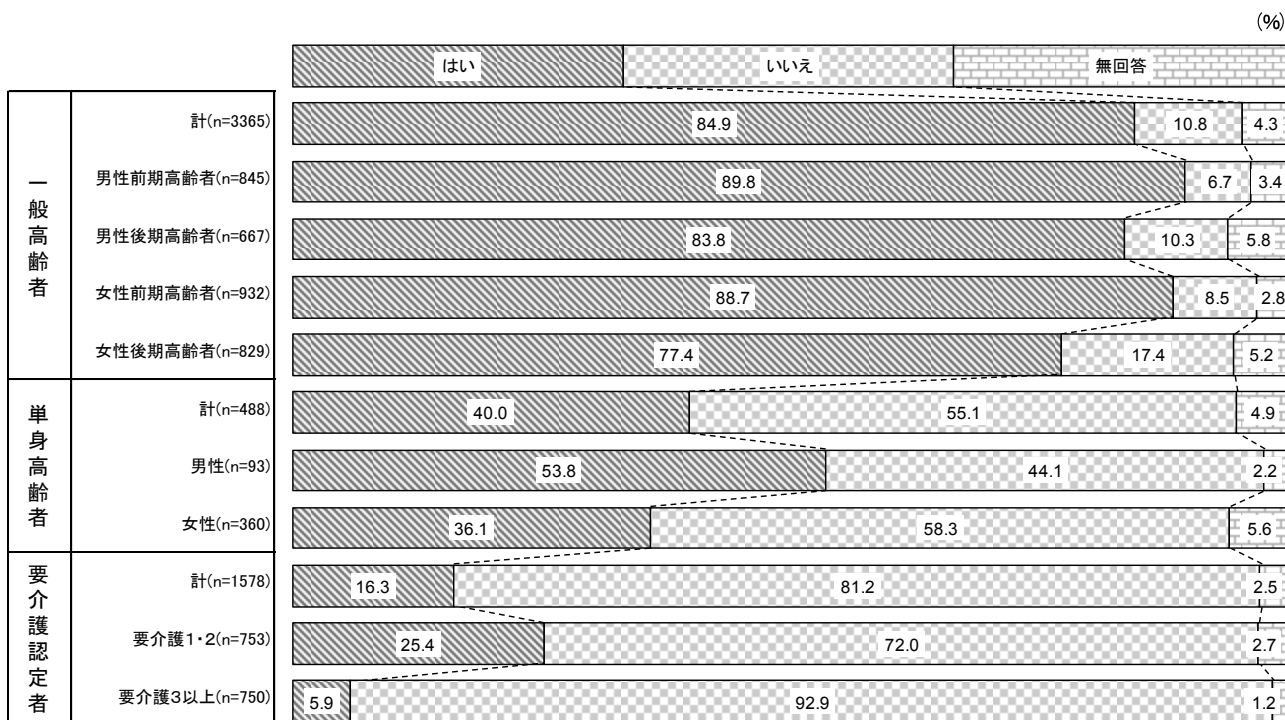
【01 一般高齢者 問 22】【02 単身高齢者 問 30】【03 要介護認定者 問 11】

災害時避難場所へひとりで行くことができるかについては、一般高齢者では、「はい」は 84.9%、「いいえ」は 10.8%である。性年代別にみると、前期高齢者に比べ後期高齢者は「はい」の割合が低く、男性後期高齢者は 83.8%、女性後期高齢者は 77.4%となっている。

単身高齢者では、「はい」は 40.0%、「いいえ」は 55.1%である。性別にみると、男性(53.8%)に比べ女性(36.1%)は「はい」の割合が低い。

要介護認定者では、「はい」が 16.3%、「いいえ」が 81.2%である。要介護度別にみると、要介護度 1・2 では 72.0%、要介護 3 以上では 92.9%が「いいえ」と答えており、いずれの介護度でも避難場所にひとりで行ける割合が低い。

図表 III. 3. 5 8 災害時避難場所までの移動の可否



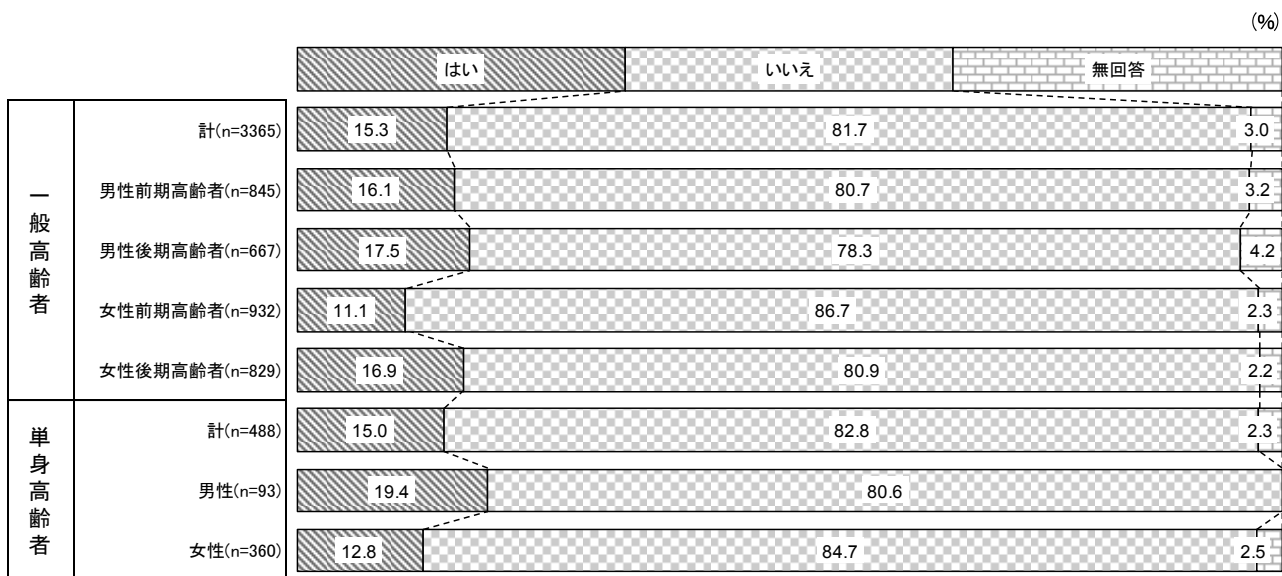
④銭湯利用状況

【01 一般高齢者 問 23】【02 単身高齢者 問 28】

銭湯を利用しているかについては、一般高齢者では「はい」は15.3%、「いいえ」は81.7%である。性年代別にみると、女性前期高齢者で「はい」が11.1%と利用している割合が低い。

単身高齢者では、「はい」は15.0%、「いいえ」は82.8%である。性別にみると、男性(19.4%)に比べ女性(12.8%)で「はい」の割合が低い。

図表 III. 3. 5 9 銭湯利用状況

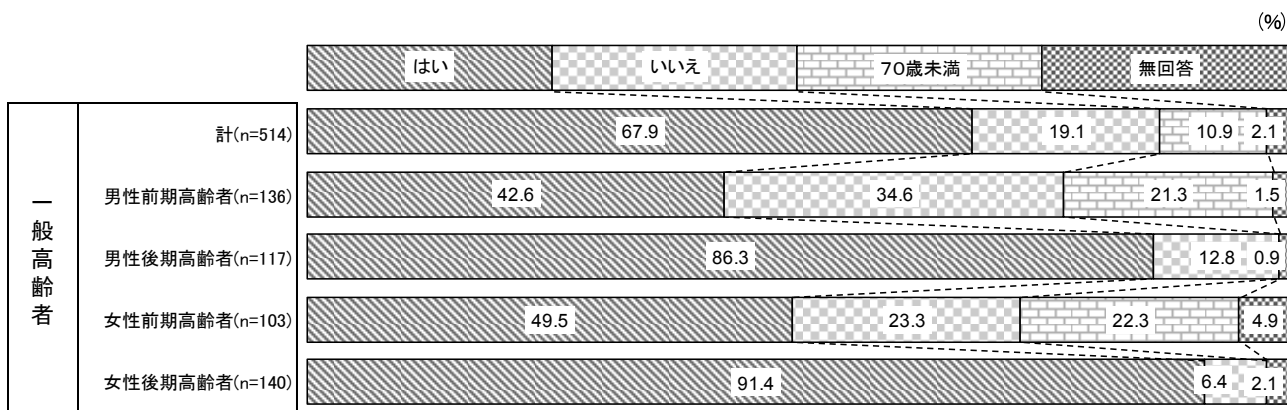


⑤ゆ～ゆ～湯入浴証利用状況

【01 一般高齢者 問 23-1】

ゆ～ゆ～湯入浴証利用状況は、一般高齢者では、「はい」が 67.9%、「いいえ」が 19.1%となっている。

図表 III. 3. 6 0 ゆ～ゆ～湯入浴証利用状況【ベース：銭湯利用者】

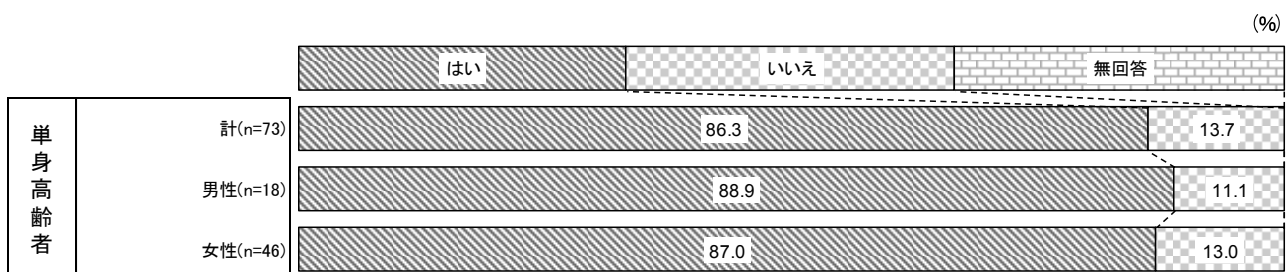


【02 単身高齢者 問 28-1】

ゆ～ゆ～湯入浴証利用状況は、単身高齢者では、「はい」が 86.3%、「いいえ」が 13.7%となっている。

性別による差はほとんどみられない。

図表 III. 3. 6 1 ゆ～ゆ～湯入浴証利用状況【ベース：銭湯利用者】



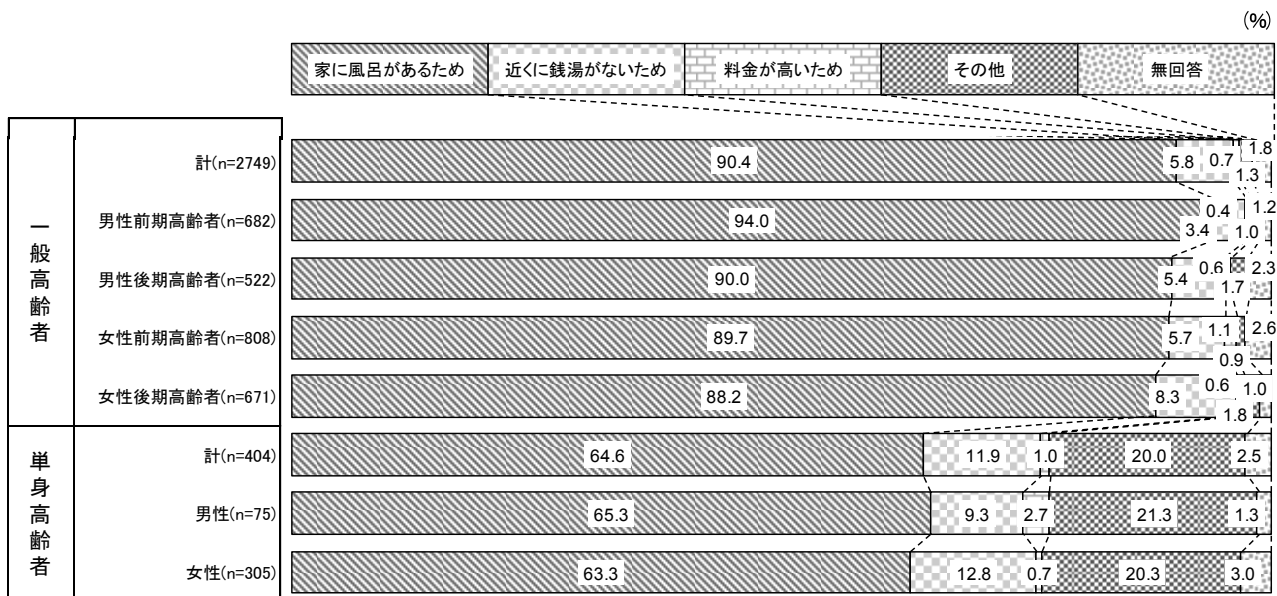
⑥銭湯を利用しない理由

【01 一般高齢者 問 23-2】 【02 単身高齢者 問 28-2】

銭湯を利用しない理由については、一般高齢者では、「家に風呂があるため」が 90.4%と最も高い。性年代別による差はほとんどみられない。

単身高齢者では、「家に風呂があるため」が 64.6%と最も高く、次いで「近くに銭湯がないため」(11.9%)となっている。性別による差はほとんどみられない。

図表 III. 3. 6 2 銭湯を利用しない理由【ベース：銭湯非利用者】



⑦消費者被害、オレオレ詐欺等被害経験

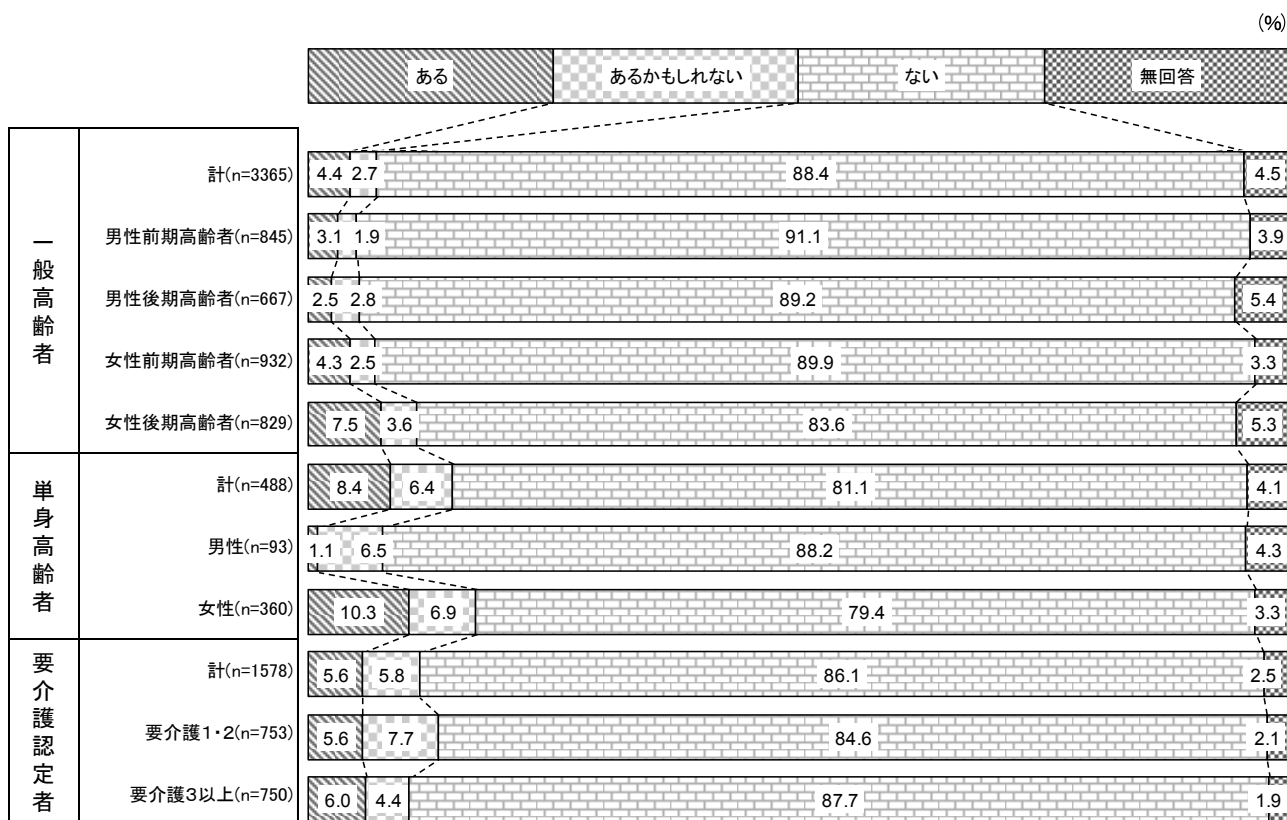
【01 一般高齢者 問 24】【02 単身高齢者 問 31】【03 要介護認定者 問 12】

消費者被害やオレオレ詐欺の被害については、一般高齢者では、あったことが「ある」は4.4%、「あるかもしれない」は2.7%、「ない」は88.4%である。性年代別にみると、男性に比べ女性は「ある」「あるかもしれない」割合がやや高い。

単身高齢者では、「ある」は8.4%、「あるかもしれない」は6.4%、「ない」は81.1%である。性別にみると、男性では「ある」「あるかもしれない」が7.6%であるのに対し、女性では17.2%と割合が高い。

要介護認定者では、「ある」は5.6%、「あるかもしれない」は5.8%、「ない」は86.1%である。要介護度による差はほとんどみられない。

図表 III. 3. 6 3 消費者被害、オレオレ詐欺等被害経験



⑧被害内容

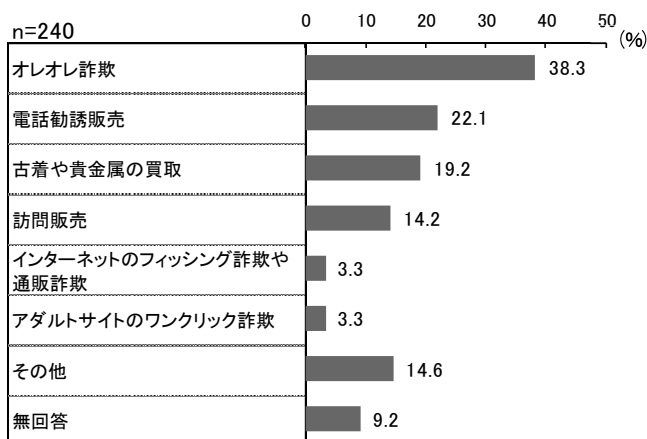
【01 一般高齢者 問 24-1】 【02 単身高齢者 問 31-1】 【03 要介護認定者 問 12-1】

消費者被害やオレオレ詐欺の被害内容については、一般高齢者では、「オレオレ詐欺」が38.3%と最も高く、次いで「電話勧誘販売」(22.1%)となっている。性年代別にみると、男性に比べ女性は「古着や貴金属の買取」の割合が高い。

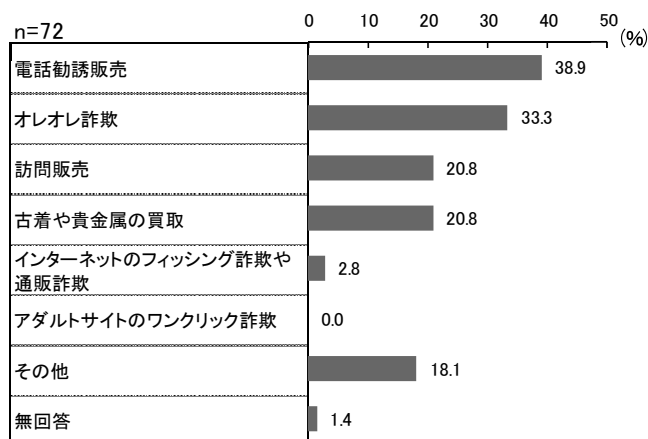
単身高齢者、要介護認定者では、「電話勧誘販売」が38.9%、33.1%と最も高く、次いで「オレオレ詐欺」(33.3%、28.2%)となっている。

図表 III. 3. 6 4 被害内容 (複数回答) 【ベース：被害の可能性あり】

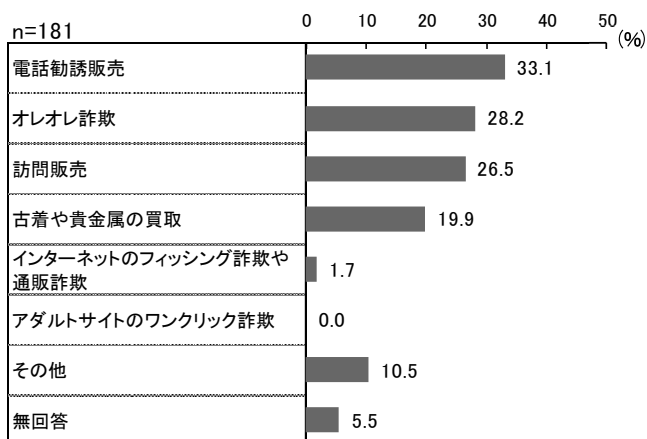
【01 一般高齢者 問 24-1】



【02 単身高齢者 問 31-1】



【03 要介護認定者 問 12-1】



	一般高齢者					単身高齢者			要介護認定者		
	全体	男性 前期 高齢者	男性 後期 高齢者	女性 前期 高齢者	女性 後期 高齢者	全体	男性	女性	全体	要 介 護 1 ・ 2	要 介 護 3 以 上
n=	240	42	36	63	92	72	7	62	181	100	78
オレオレ詐欺	38.3	28.6	38.9	36.5	44.6	33.3	0.0	35.5	28.2	25.0	33.3
電話勧誘販売	22.1	26.2	33.3	7.9	25.0	38.9	57.1	37.1	33.1	35.0	28.2
古着や貴金属の買取	19.2	9.5	13.9	22.2	22.8	20.8	0.0	24.2	19.9	24.0	14.1
訪問販売	14.2	16.7	19.4	9.5	14.1	20.8	14.3	22.6	26.5	21.0	33.3
インターネットのフィッシング詐欺や通販詐欺	3.3	0.0	0.0	7.9	3.3	2.8	14.3	1.6	1.7	1.0	1.3
アダルトサイトのワンクリック詐欺	3.3	7.1	8.3	1.6	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
その他	14.6	16.7	8.3	22.2	12.0	18.1	28.6	17.7	10.5	10.0	11.5
無回答	9.2	9.5	11.1	4.8	10.9	1.4	14.3	0.0	5.5	7.0	3.8

※「その他」の内容（抜粋）

【01 一般高齢者】

- ・ 還付金詐欺途中で気付く
- ・ 架空の銀行への預金勧誘
- ・ 息子の未払いを支払え

【02 単身高齢者】

- ・ 物干し竿を高額で買ってしまった
- ・ 屋根修理
- ・ 電車代をうまく借りられた

【03 要介護認定者】

※「その他」の内容（抜粋）

- ・ 家の補修（屋根）
- ・ 預金が不正使用された
- ・ 投資運用詐欺

⑨消費者センターの認知度

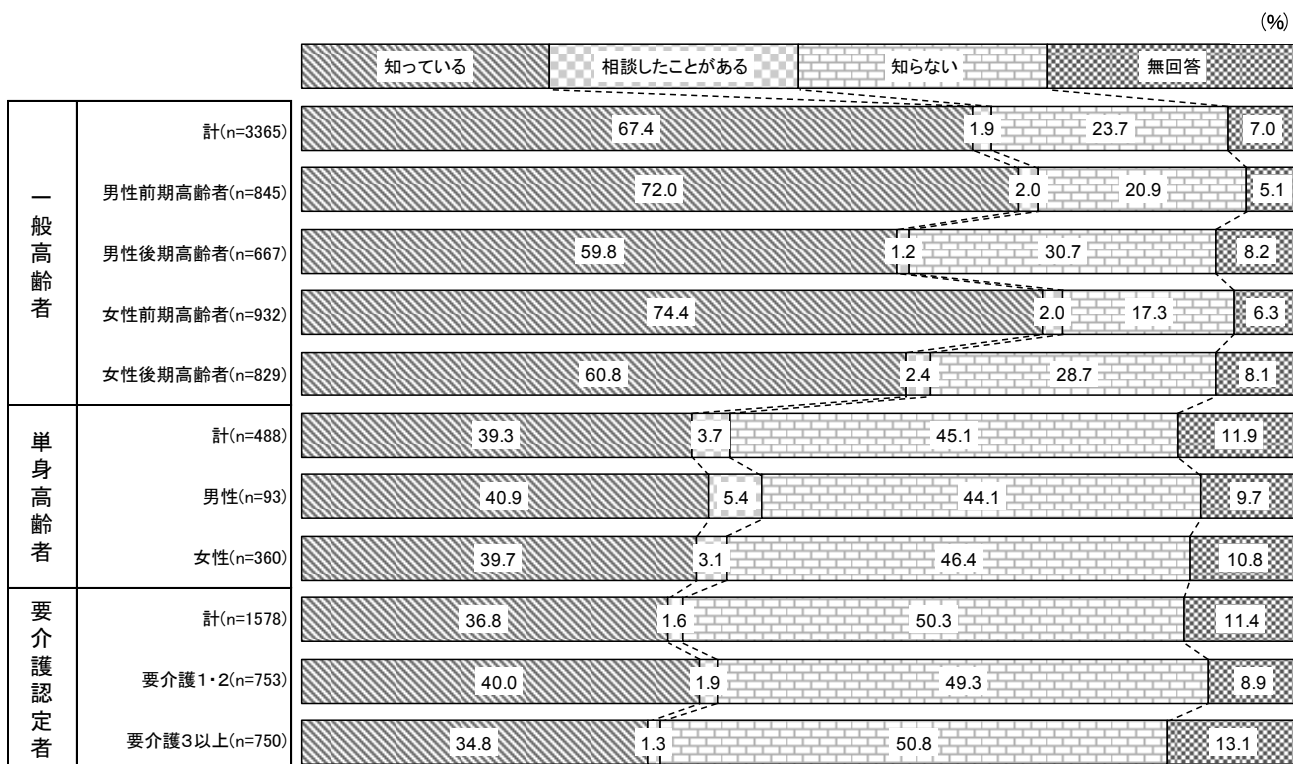
【01 一般高齢者 問 25】【02 単身高齢者 問 32】【03 要介護認定者 問 13】

消費者センターの認知については、一般高齢者では、「知っている」は 67.4%、「相談したことがある」は 1.9%、「知らない」は 23.7%となっている。性年代別にみると、前期高齢者に比べ後期高齢者は「知っている」割合が低く、男性後期高齢者では 59.8%、女性後期高齢者では 60.8%となっている。

単身高齢者では、「知っている」は 39.3%、「相談したことがある」は 3.7%、「知らない」は 45.1%である。性別による差はほとんどみられない。

要介護認定者では、「知っている」は 36.8%、「相談したことがある」は 1.6%、「知らない」は 50.3%である。要介護度別にみると、「知っている」は、要介護1・2 (40.0%) に比べ要介護3以上 (34.8%) で割合が低い。

図表 III. 3. 6 5 消費者センターの認知度



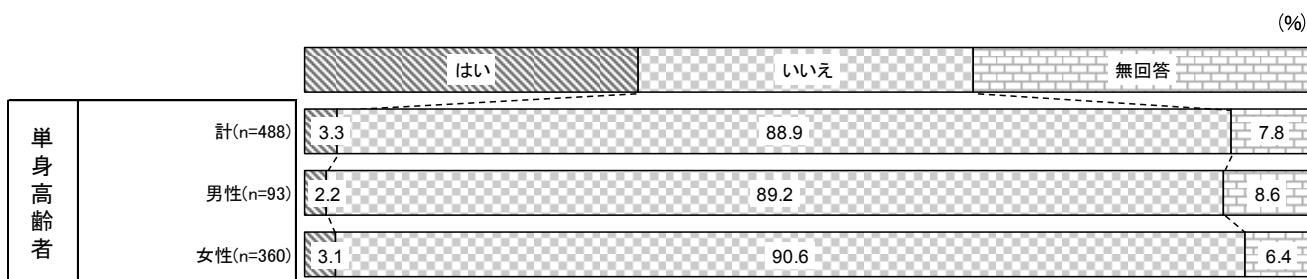
(7) 就労について

①現在仕事をしているか

【02 単身高齢者 問11】

現在仕事をしているかについては、単身高齢者では、「はい」が3.3%、「いいえ」が88.9%となっている。

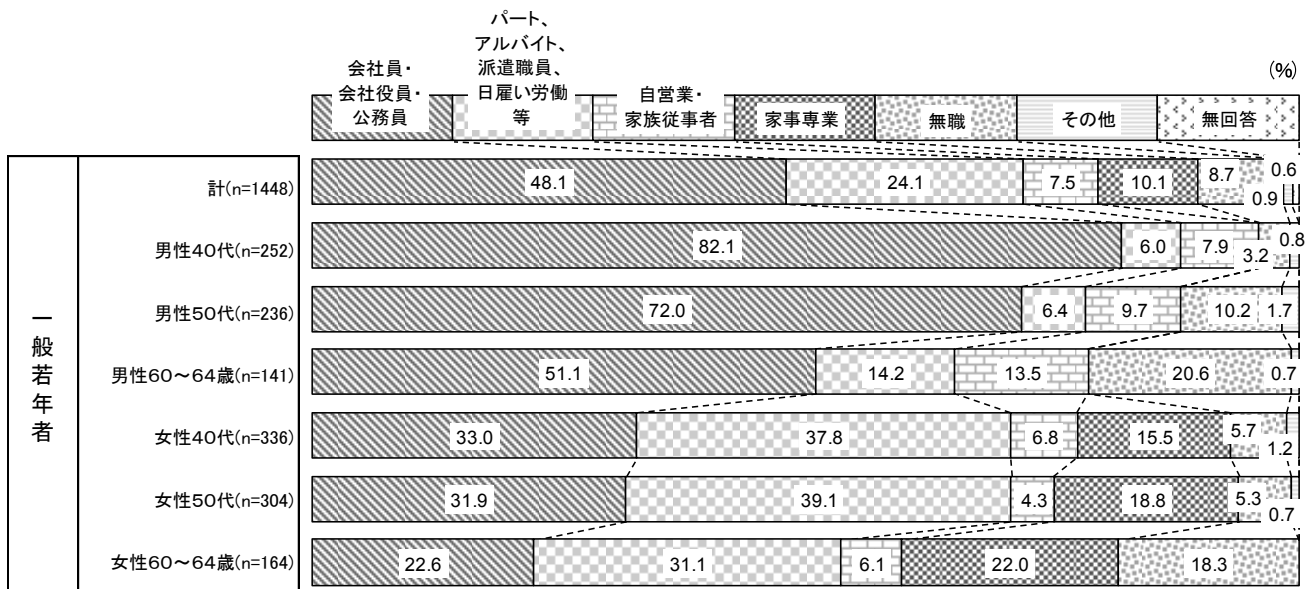
図表 III. 3. 6 6 現在仕事をしているか



【04 一般若年者 問5】

現在仕事をしているかについては、一般若年者では、「会社員・会社役員・公務員」が48.1%と最も高く、次いで「パート、アルバイト、派遣職員、日雇い労働等」(24.1%)、「家事専業」(10.1%)となっている。

図表 III. 3. 6 7 現在仕事をしているか

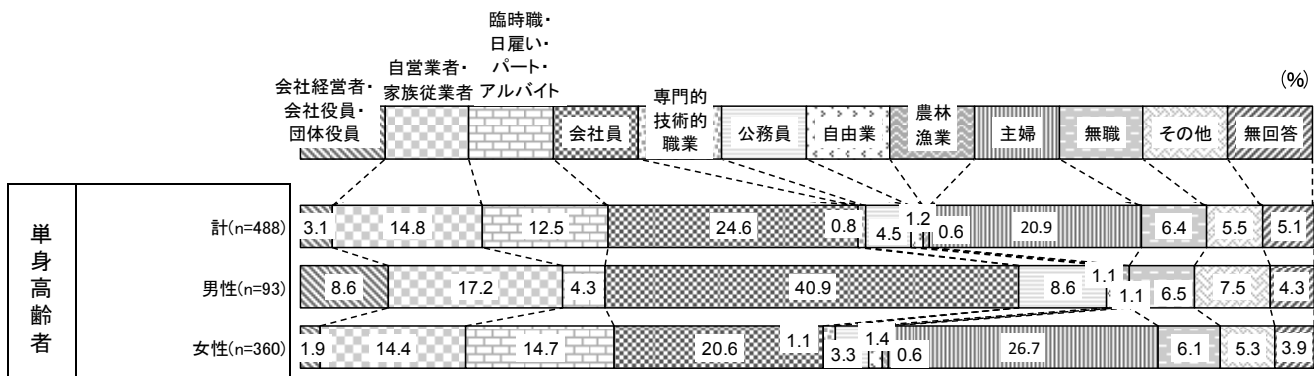


②今までに一番長く従事した仕事

【02 単身高齢者 問 10】

今までに一番長く従事した仕事については、「会社員」が24.6%と最も高く、次いで「主婦」(20.9%)となっている。

図表 III. 3. 6 8 今までに一番長く従事した仕事



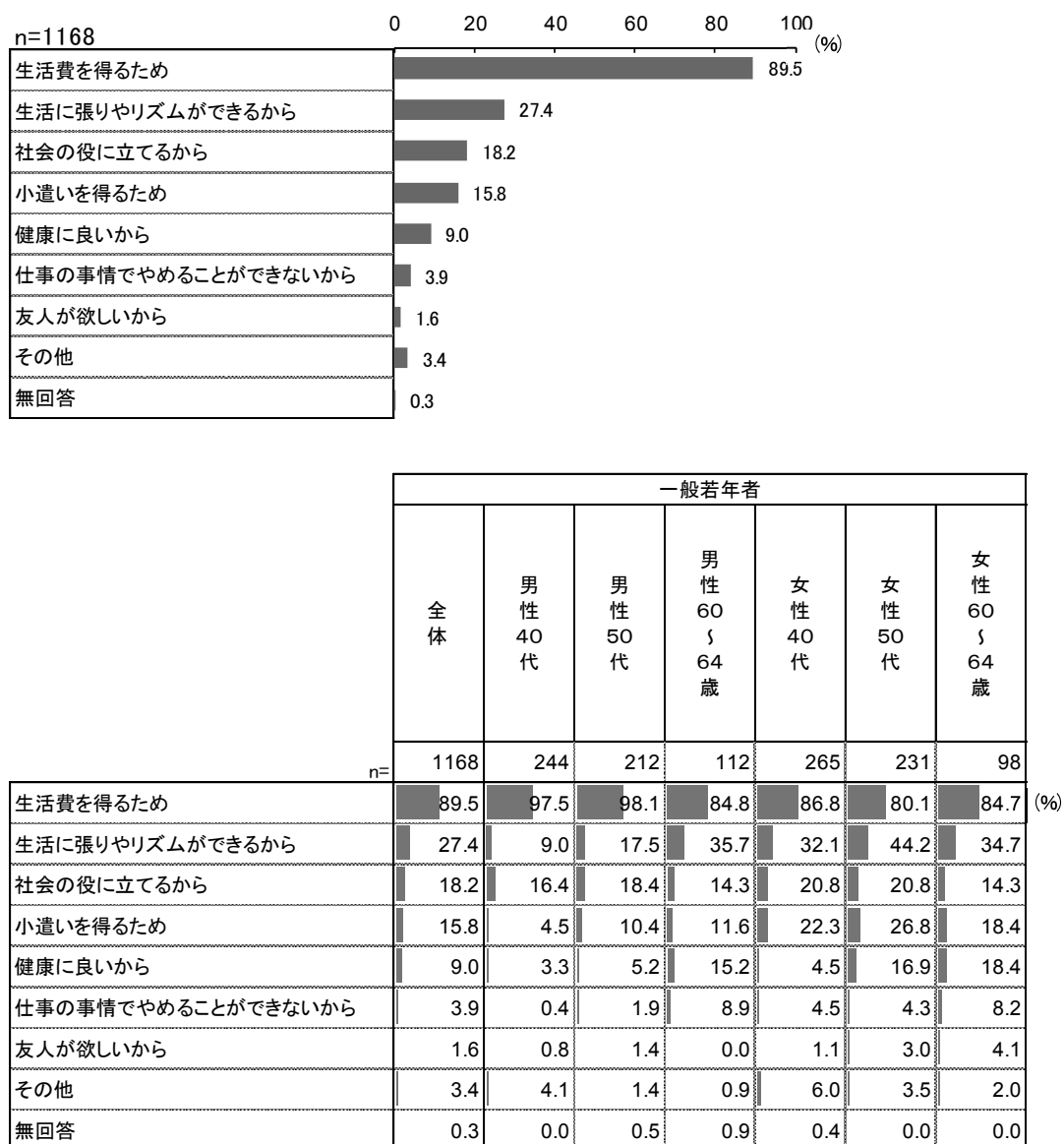
③仕事をしている・仕事をしたい最も大きな理由

【04 一般若年者 問5-1】

仕事をしている・仕事をしたい最も大きな理由は、「生活費を得るため」が 89.5%と最も高く、次いで「生活に張りやリズムができるから」(27.4%)、「社会の役に立てるから」(18.2%)となっている。

性年代別でみると、男性 60～64 歳では「生活費を得るため」は 84.8%と 40 代・50 代に比べ低く、代わって「生活に張りやリズムができるから」が 35.7%と高い。

図表 III. 3. 69 仕事をしている・仕事をしたい最も大きな理由（複数回答）
【ベース：就業者（家事専業・無職以外）】



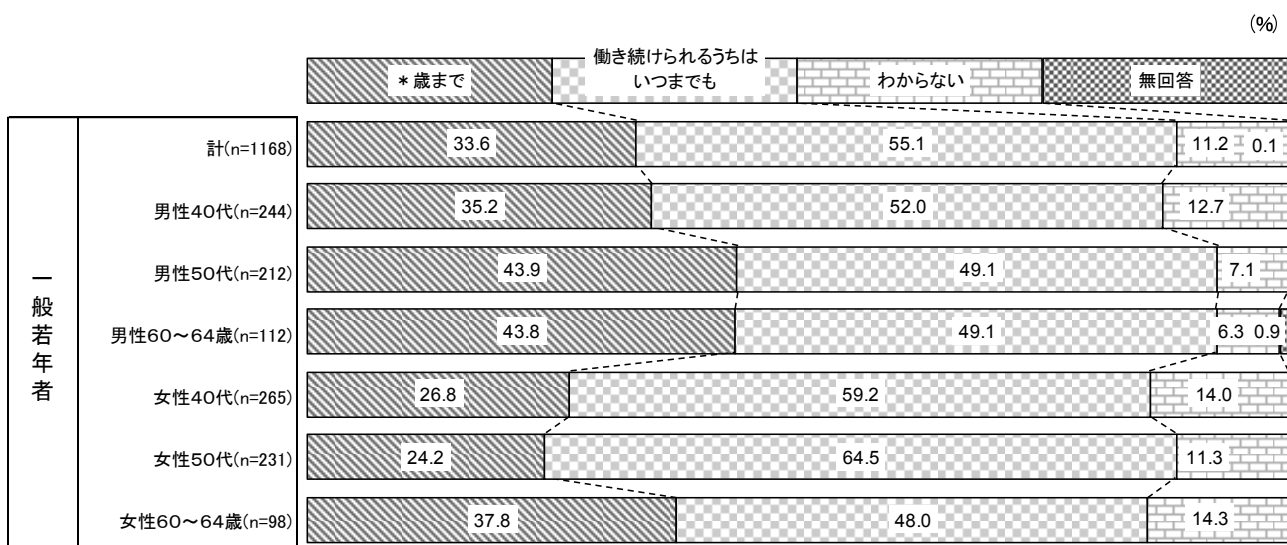
④希望就労年齢（何歳まで）

【04 一般若年者 問5-2】

仕事を続けたい年齢については、「働き続けられるうちはいつまでも」が55.1%と最も高い。性年代別にみると、「働き続けられるうちはいつまでも」は、女性40代（59.2%）・女性50代（64.5%）で割合が高い。

希望就労年齢の分布をみると、「65～69歳」が46.2%、次いで「60～64歳」が25.8%、「70～74歳」が20.7%となっている。

図表 III. 3. 7 0 希望就労年齢（何歳まで）【ベース：就業者（家事専業・無職以外）】



図表 III. 3. 7 1 希望就労年齢（何歳まで）【ベース：就業者・年齢回答有】

	n=	1 段目 回答数									2 段目 (%)
		39歳以下	40～49歳	50～59歳	60～64歳	65～69歳	70～74歳	75～79歳	80～84歳	85歳以上	
計	392	0	1	17	101	181	81	7	0	3	1
	100.0	0.0	0.3	4.3	25.8	46.2	20.7	1.8	0.0	0.8	0.3
男性40代	86	0	0	1	25	37	22	1	0	0	0
	100.0	0.0	0.0	1.2	29.1	43.0	25.6	1.2	0.0	0.0	0.0
男性50代	93	0	0	3	30	40	16	2	0	2	0
	100.0	0.0	0.0	3.2	32.3	43.0	17.2	2.2	0.0	2.2	0.0
男性60～64歳	49	0	0	0	5	24	15	3	0	1	1
	100.0	0.0	0.0	0.0	10.2	49.0	30.6	6.1	0.0	2.0	2.0
女性40代	71	0	1	10	26	24	10	0	0	0	0
	100.0	0.0	1.4	14.1	36.6	33.8	14.1	0.0	0.0	0.0	0.0
女性50代	56	0	0	3	14	31	7	1	0	0	0
	100.0	0.0	0.0	5.4	25.0	55.4	12.5	1.8	0.0	0.0	0.0
女性60～64歳	37	0	0	0	1	25	11	0	0	0	0
	100.0	0.0	0.0	0.0	2.7	67.6	29.7	0.0	0.0	0.0	0.0

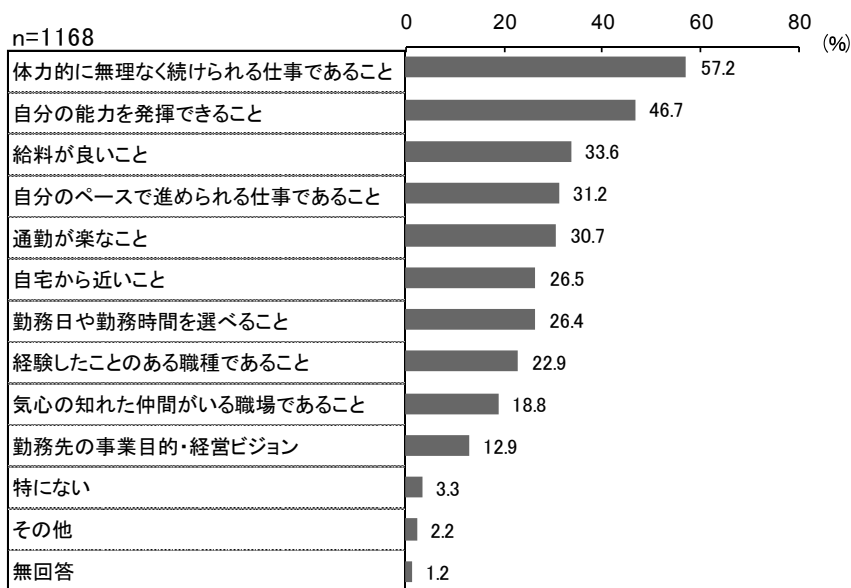
⑤仕事をするうえで重視していること、重視したいこと

【04 一般若年者 問5-3】

仕事をするうえで重視していること、重視したいことは、「体力的に無理なく続けられる仕事であること」が57.2%と高く、次いで「自分の能力を発揮できること」が46.7%、「給料が良いこと」(33.6%)、「自分のペースで進められる仕事であること」(31.2%)となっている。

図表 III. 3. 7 2 仕事をするうえで重視していること、重視したいこと（複数回答）

【ベース：就業者（家事専業・無職以外）】



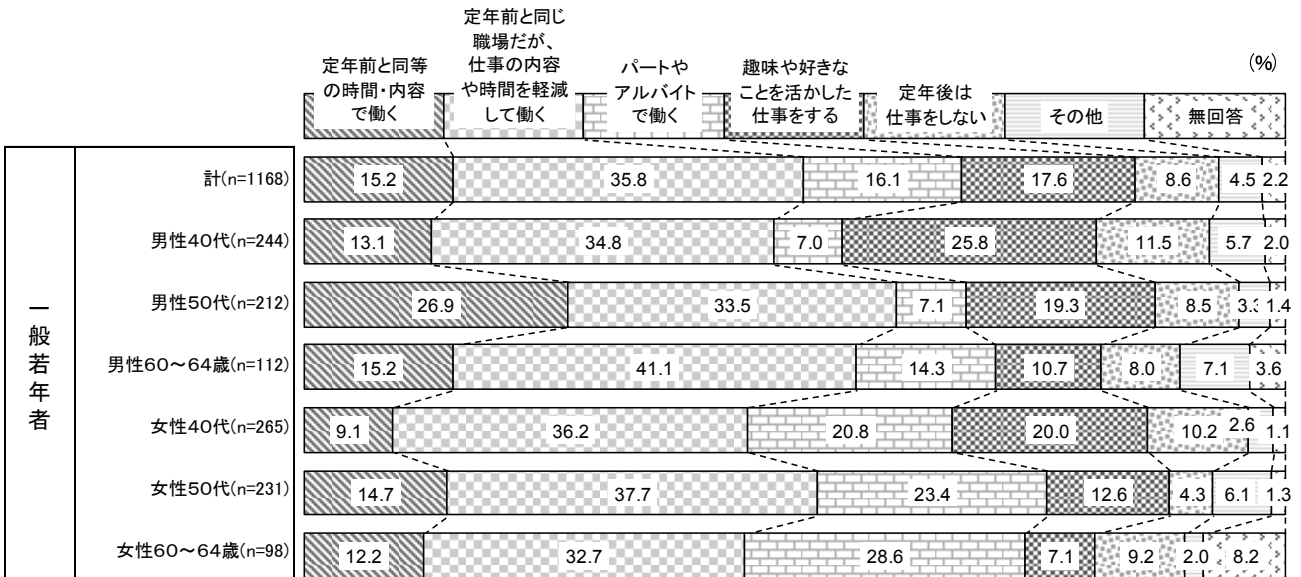
	一般若年者						
	全体	男性 40代	男性 50代	男性 60歳～64歳	女性 40代	女性 50代	女性 60歳～64歳
n=	1168	244	212	112	265	231	98
体力的に無理なく続けられる仕事であること	57.2	45.9	56.6	58.9	60.4	64.9	60.2
自分の能力を発揮できること	46.7	54.1	57.5	48.2	43.0	41.6	25.5
給料が良いこと	33.6	48.8	44.8	13.4	37.4	23.4	11.2
自分のペースで進められる仕事であること	31.2	32.4	35.8	29.5	30.9	27.3	29.6
通勤が楽なこと	30.7	25.4	28.3	22.3	38.1	35.5	28.6
自宅から近いこと	26.5	16.4	15.1	18.8	33.6	39.8	34.7
勤務日や勤務時間を選べること	26.4	10.2	17.9	21.4	42.3	35.5	26.5
経験したことのある職種であること	22.9	20.9	22.2	31.3	20.8	22.5	27.6
気心の知れた仲間がいる職場であること	18.8	19.7	16.5	14.3	20.8	22.1	15.3
勤務先の事業目的・経営ビジョン	12.9	17.6	12.7	13.4	13.6	10.4	6.1
特になし	3.3	4.9	2.8	4.5	0.8	3.0	6.1
その他	2.2	2.0	1.4	0.0	3.8	2.2	3.1
無回答	1.2	0.8	0.9	1.8	1.1	0.4	4.1

⑥定年後の望ましい働き方

【04 一般若年者 問5-4】

定年後も仕事を続ける場合、望ましいと思う働き方については、「定年前と同じ職場だが、仕事の内容や時間を軽減して働く」が35.8%と最も高く、次いで「趣味や好きなことを活かした仕事をする」(17.6%)、「パートやアルバイトで働く」(16.1%)となっている。

図表 III. 3. 7 3 定年後の望ましい働き方【ベース：就業者（家事専業・無職以外）】



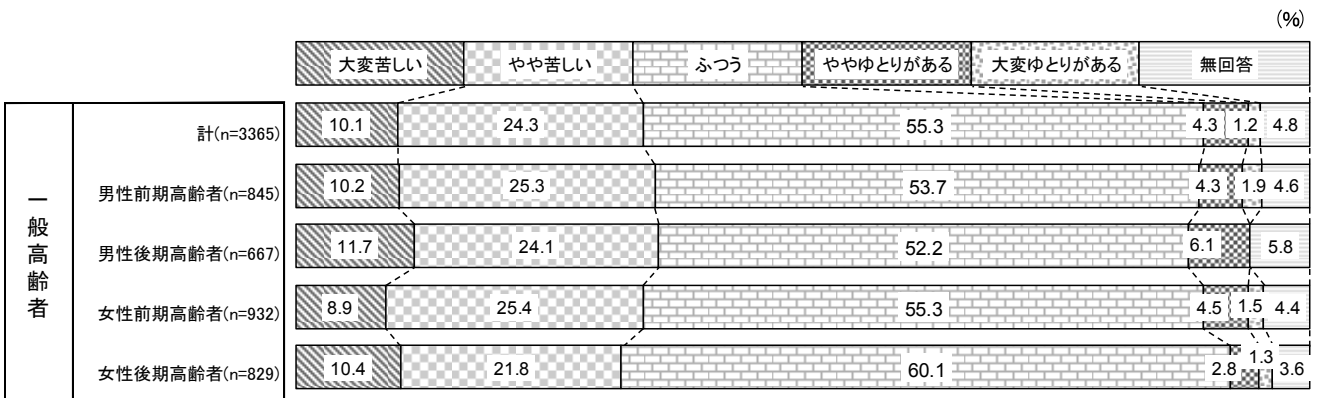
(8) 生活

①現在の暮らしの経済状況

【01 一般高齢者 問4(3)】

現在の暮らしの経済状況については、「ふつう」が55.3%と最も高いが、「大変苦しい」(10.1%)と「やや苦しい」(24.3%)を合わせて34.4%である。性年代による差はほとんどみられない。

図表 III. 3. 7 4 現在の暮らしの経済状況



②今後の生活への不安

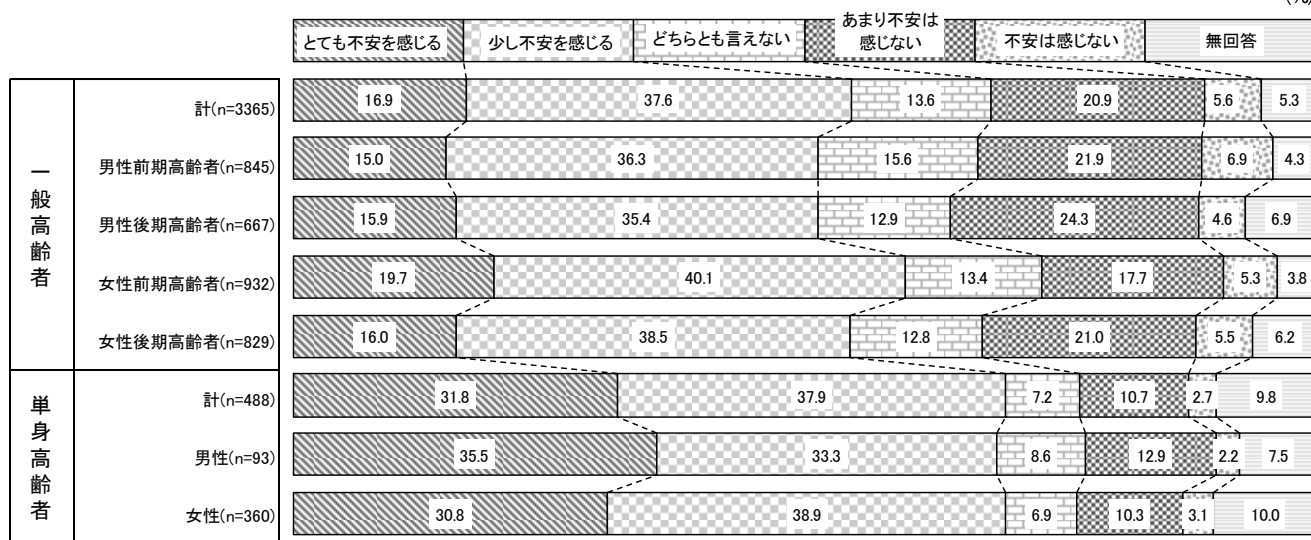
【01 一般高齢者 問 26】【02 単身高齢者 問 39】

今後の生活については、一般高齢者では、「とても不安を感じる」は16.9%、「少し不安を感じる」は37.6%で、54.5%と半数以上は不安を感じている。性年代別にみると、女性前期高齢者で「とても不安を感じる」(19.7%)と「少し不安を感じる」(40.1%)が、他の性年代に比べ高い。

単身高齢者では、「とても不安を感じる」は31.8%、「少し不安を感じる」は37.9%で、約7割(69.7%)は不安を感じている。性別にみると、「とても不安を感じる」割合は、女性(30.8%)に比べ男性(35.5%)で高くなっている。

図表 III. 3. 7 5 今後の生活への不安

(%)

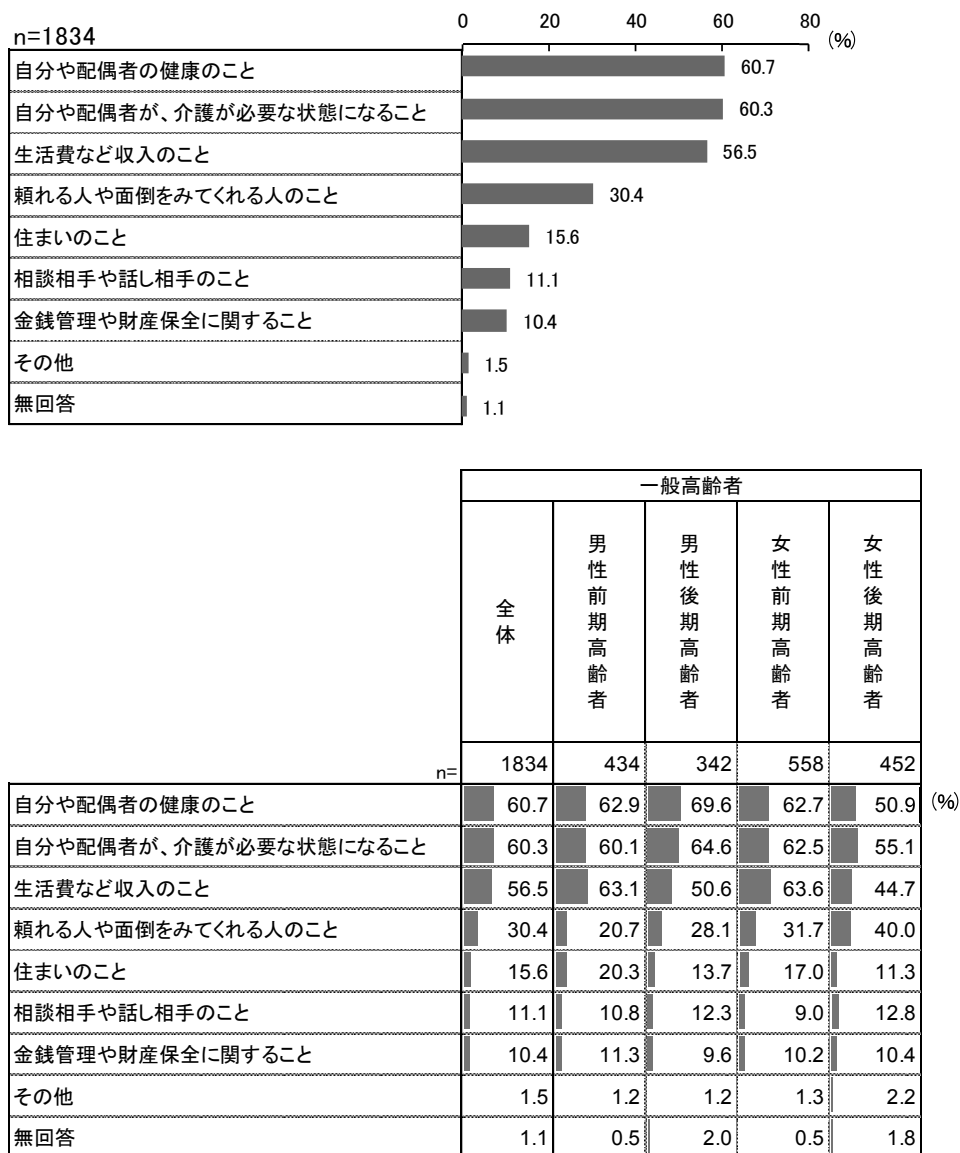


③不安を感じる内容

【01 一般高齢者 問 26-1】

不安を感じる内容については、一般高齢者では、「自分や配偶者の健康のこと」(60.7%)、「自分や配偶者が、介護が必要な状態になること」(60.3%)が同程度となっており、次いで「生活費など収入のこと」(56.5%)が続く。

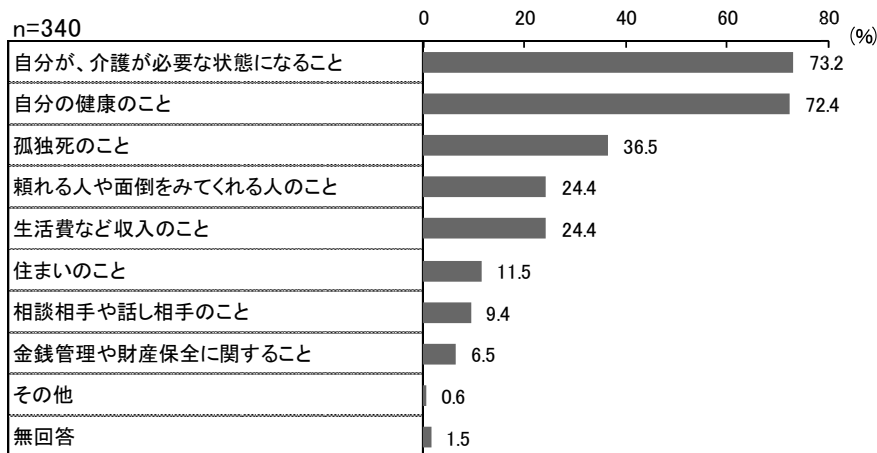
図表 III. 3. 7 6 不安を感じる内容（複数回答）【ベース：今後の生活に不安あり】



【02 単身高齢者 問 39-1】

単身高齢者では、「自分が、介護が必要な状態になること」が 73.2%、「自分の健康のこと」が 72.4%と他の項目に比べて高くなっている。次いで「孤独死のこと」は 36.5%、「頼れる人や面倒をみてくれる人のこと」「生活費など収入のこと」（ともに 24.4%）と続く。

図表 III. 3. 7 7 不安を感じる内容（複数回答）【ベース：今後の生活に不安あり】



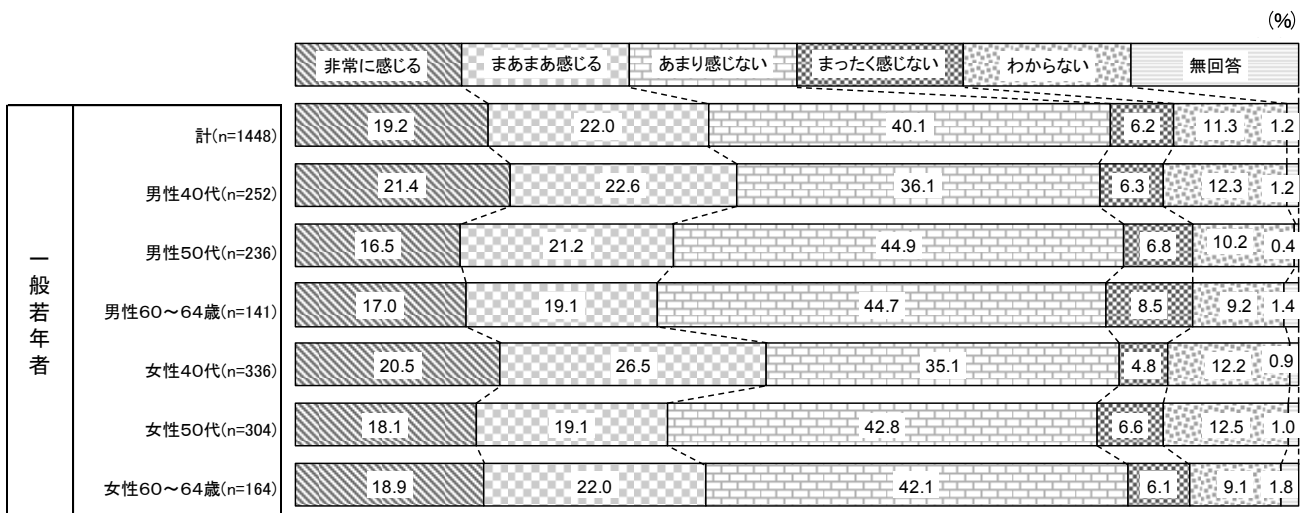
	単身高齢者		
	全体	男性	女性
n=	340	64	251
自分が、介護が必要な状態になること	73.2	64.1	76.1
自分の健康のこと	72.4	71.9	73.3
孤独死のこと	36.5	35.9	38.6
頼れる人や面倒をみてくれる人のこと	24.4	17.2	27.9
生活費など収入のこと	24.4	25.0	23.9
住まいのこと	11.5	9.4	12.7
相談相手や話し相手のこと	9.4	6.3	10.4
金銭管理や財産保全に関すること	6.5	3.1	7.2
その他	0.6	0.0	0.8
無回答	1.5	1.6	1.6

④孤独死について、身近な問題だと感じるか

【04 一般若年者 問 12】

孤独死について、身近な問題だと感じるかについては、「非常に感じる」(19.2%)、「まあまあ感じる」(22.0%)を合わせて身近な問題だと感じる割合は41.2%となっている。一方、「あまり感じない」は40.1%となっている。

図表 III. 3. 78 孤独死について、身近な問題だと感じるか

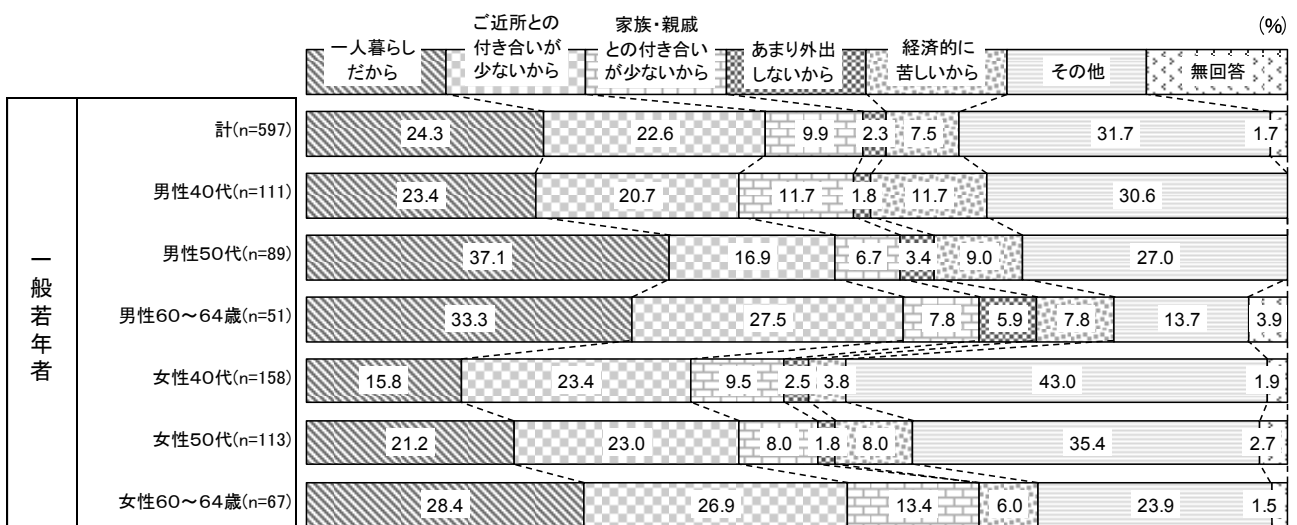


⑤孤独死を身近に感じる理由

【04 一般若年者 問 12-1】

孤独死を身近に感じる理由については、「一人暮らしだから」(24.3%)、「ご近所との付き合いが少ないから」(22.6%)がともに2割台となっている。

図表 III. 3. 79 孤独死を身近に感じる理由【ベース：孤独死を身近に感じる】



※「その他」の内容(抜粋)

- ・子どもがいないから
- ・現在、母が一人暮らしだから
- ・独身だから
- ・身内に孤独死の人がいた
- ・ニュースで耳にするから

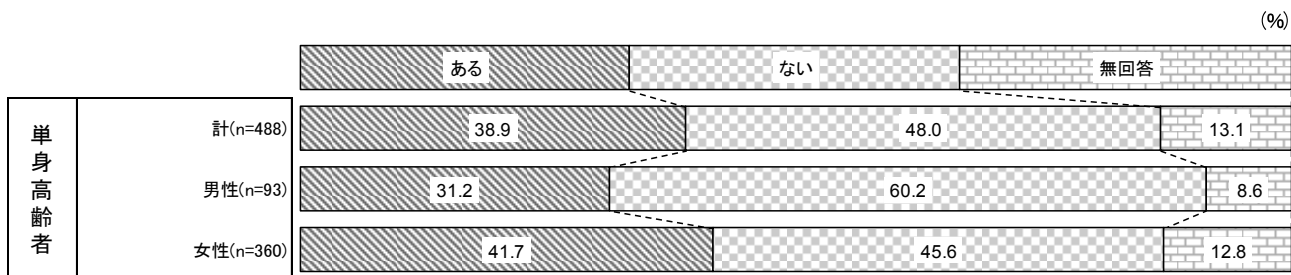
(9) 地域活動

①生活上での楽しみの有無

【02 単身高齢者 問 33】

生活上での楽しみの有無については、「ある」は 38.9%、「ない」は 48.0%となっている。
性別でみると、楽しみが「ある」のは、男性（31.2%）に比べ女性（41.7%）の割合が高い。

図表 III. 3. 8 0 生活上での楽しみの有無



②地域活動参加頻度

【01 一般高齢者 問8(1)】

高齢者の地域活動の頻度をみると、「週4回以上」から「年に数回」まで、何らかに参加している人の割合では、「趣味関係のグループ」が 25.3%と最も高く、次いで「収入のある仕事」(21.2%)、「町内会・自治会」(19.7%)、「スポーツ関係のグループやクラブ」(18.6%)となっている。

図表 III. 3. 8 1 地域活動参加頻度

1段目 回答数 2段目(%)

		n=	週4回以上	週2～3回	週1回	月1～3回	年に数回	参加していない	無回答
地域活動	ボランティアのグループ	3365	35	37	44	104	91	1,749	1,305
		100	1.0	1.1	1.3	3.1	2.7	52.0	38.8
	スポーツ関係のグループ やクラブ	3365	116	190	131	132	62	1,560	1,174
		100	3.4	5.6	3.9	3.9	1.8	46.4	34.9
	趣味関係のグループ	3365	73	166	153	329	132	1,434	1,078
		100	2.2	4.9	4.5	9.8	3.9	42.6	32.0
	学習・教養サークル	3365	14	29	56	97	61	1,730	1,378
		100	0.4	0.9	1.7	2.9	1.8	51.4	41.0
老人クラブ	3365	23	26	18	70	68	1,811	1,349	
	100	0.7	0.8	0.5	2.1	2.0	53.8	40.1	
町内会・自治会	3365	32	39	48	198	343	1,498	1,207	
	100	1.0	1.2	1.4	5.9	10.2	44.5	35.9	
収入のある仕事	3365	446	155	30	42	42	1,441	1,209	
	100	13.3	4.6	0.9	1.2	1.2	42.8	35.9	

1) 会やグループ等への参加頻度：ボランティアのグループ

ボランティアのグループへの参加頻度については、「参加していない」が 52.0%と最も高く、参加しているのは約1割(9.2%)となっている。

性年代にみると、「参加していない」割合は、女性に比べ男性、後期高齢者に比べ前期高齢者が高い。

図表 III. 3. 8 2 会やグループ等への参加頻度 ボランティアのグループ

		1段目 回答数					2段目(%)	
n=		週4回以上	週2~3回	週1回	月1~3回	年に数回	参加して いない	無回答
計	3365	35	37	44	104	91	1,749	1,305
	100	1.0	1.1	1.3	3.1	2.7	52.0	38.8
男性前期高齢者	845	8	10	8	22	30	543	224
	100	0.9	1.2	0.9	2.6	3.6	64.3	26.5
男性後期高齢者	667	7	8	8	26	18	317	283
	100	1.0	1.2	1.2	3.9	2.7	47.5	42.4
女性前期高齢者	932	9	10	19	38	23	495	338
	100	1.0	1.1	2.0	4.1	2.5	53.1	36.3
女性後期高齢者	829	11	8	7	17	15	358	413
	100	1.3	1.0	0.8	2.1	1.8	43.2	49.8

2) 会やグループ等への参加頻度：スポーツ関係のグループやクラブ

スポーツ関係のグループやクラブへの参加頻度については、「参加していない」が 46.4%と最も高く、参加しているのは約2割(18.6%)となっている。

性年代にみると、「参加していない」割合は、女性に比べ男性、後期高齢者に比べ前期高齢者が高い。

図表 III. 3. 8 3 会やグループ等への参加頻度 スポーツ関係のグループやクラブ

		1段目 回答数					2段目(%)	
n=		週4回以上	週2~3回	週1回	月1~3回	年に数回	参加して いない	無回答
計	3365	116	190	131	132	62	1,560	1,174
	100	3.4	5.6	3.9	3.9	1.8	46.4	34.9
男性前期高齢者	845	18	35	28	39	27	483	215
	100	2.1	4.1	3.3	4.6	3.2	57.2	25.4
男性後期高齢者	667	15	21	17	21	16	303	274
	100	2.2	3.1	2.5	3.1	2.4	45.4	41.1
女性前期高齢者	932	47	84	50	30	13	421	287
	100	5.0	9.0	5.4	3.2	1.4	45.2	30.8
女性後期高齢者	829	34	46	33	40	2	320	354
	100	4.1	5.5	4.0	4.8	0.2	38.6	42.7

3) 会やグループ等への参加頻度：趣味関係のグループ

趣味関係のグループへの参加頻度については、「参加していない」が42.6%と最も高いが、月に3回以上の参加も約2割(21.4%)いる。

性年代別にみると、参加頻度は男性に比べ女性で高い。

図表 III. 3. 8 4 会やグループ等への参加頻度 趣味関係のグループ

		1段目 回答数					2段目(%)	
n=		週4回以上	週2~3回	週1回	月1~3回	年に数回	参加して いない	無回答
計	3365	73	166	153	329	132	1,434	1,078
	100	2.2	4.9	4.5	9.8	3.9	42.6	32.0
男性前期高齢者	845	17	29	29	62	41	466	201
	100	2.0	3.4	3.4	7.3	4.9	55.1	23.8
男性後期高齢者	667	17	23	22	47	36	277	245
	100	2.5	3.4	3.3	7.0	5.4	41.5	36.7
女性前期高齢者	932	13	55	57	120	31	384	272
	100	1.4	5.9	6.1	12.9	3.3	41.2	29.2
女性後期高齢者	829	22	56	42	95	21	277	316
	100	2.7	6.8	5.1	11.5	2.5	33.4	38.1

4) 会やグループ等への参加頻度 学習・教養サークル

学習・教養サークルへの参加頻度については、「参加していない」が51.4%と最も高く、参加しているのは1割弱(7.7%)となっている。

性年代別にみると、女性に比べ男性は「参加していない」割合が高い。

図表 III. 3. 8 5 会やグループ等への参加頻度 学習・教養サークル

		1段目 回答数					2段目(%)	
n=		週4回以上	週2~3回	週1回	月1~3回	年に数回	参加して いない	無回答
計	3365	14	29	56	97	61	1,730	1,378
	100	0.4	0.9	1.7	2.9	1.8	51.4	41.0
男性前期高齢者	845	5	5	9	13	19	552	242
	100	0.6	0.6	1.1	1.5	2.2	65.3	28.6
男性後期高齢者	667	3	2	5	9	11	324	313
	100	0.4	0.3	0.7	1.3	1.6	48.6	46.9
女性前期高齢者	932	2	8	26	41	17	482	356
	100	0.2	0.9	2.8	4.4	1.8	51.7	38.2
女性後期高齢者	829	4	14	14	34	11	335	417
	100	0.5	1.7	1.7	4.1	1.3	40.4	50.3

5) 会やグループ等への参加頻度 老人クラブ

老人クラブについては、「参加していない」が 53.8%と最も高く、参加しているのは1割弱(6.1%)となっている。

性年代別にみると、男性前期高齢者では「参加していない」割合が高く、68.3%となっている。

図表 III. 3. 86 会やグループ等への参加頻度 老人クラブ

1段目 回答数 2段目(%)

n=		週4回以上	週2～3回	週1回	月1～3回	年に数回	参加して いない	無回答
計	3365	23	26	18	70	68	1,811	1,349
	100	0.7	0.8	0.5	2.1	2.0	53.8	40.1
男性前期高齢者	845	1	5	2	3	8	577	249
	100	0.1	0.6	0.2	0.4	0.9	68.3	29.5
男性後期高齢者	667	2	4	7	17	24	320	293
	100	0.3	0.6	1.0	2.5	3.6	48.0	43.9
女性前期高齢者	932	5	4	2	13	13	529	366
	100	0.5	0.4	0.2	1.4	1.4	56.8	39.3
女性後期高齢者	829	13	11	6	36	21	347	395
	100	1.6	1.3	0.7	4.3	2.5	41.9	47.6

6) 会やグループ等への参加頻度 町内会・自治会

町内会・自治会については、「参加していない」が 44.5%と最も高いが、「年に数回」は 10.2%、「月1～3回」は 5.9%となっている。

性年代別にみると、男性・女性ともに後期高齢者に比べ前期高齢者は「参加していない」割合が高い。

図表 III. 3. 87 会やグループ等への参加頻度 町内会・自治会

1段目 回答数 2段目(%)

n=		週4回以上	週2～3回	週1回	月1～3回	年に数回	参加して いない	無回答
計	3365	32	39	48	198	343	1,498	1,207
	100	1.0	1.2	1.4	5.9	10.2	44.5	35.9
男性前期高齢者	845	5	10	14	52	88	463	213
	100	0.6	1.2	1.7	6.2	10.4	54.8	25.2
男性後期高齢者	667	10	11	9	42	72	280	243
	100	1.5	1.6	1.3	6.3	10.8	42.0	36.4
女性前期高齢者	932	6	9	9	63	101	426	318
	100	0.6	1.0	1.0	6.8	10.8	45.7	34.1
女性後期高齢者	829	9	8	13	40	72	298	389
	100	1.1	1.0	1.6	4.8	8.7	35.9	46.9

7) 会やグループ等への参加頻度 収入のある仕事

収入のある仕事への参加頻度は、「週4回以上」は13.3%、「週2～3回」は4.6%で、「参加していない」は42.8%となっている。

性年代別にみると、男性・女性ともに後期高齢者に比べ前期高齢者は参加頻度が高い。

図表 III. 3. 88 会やグループ等への参加頻度 収入のある仕事

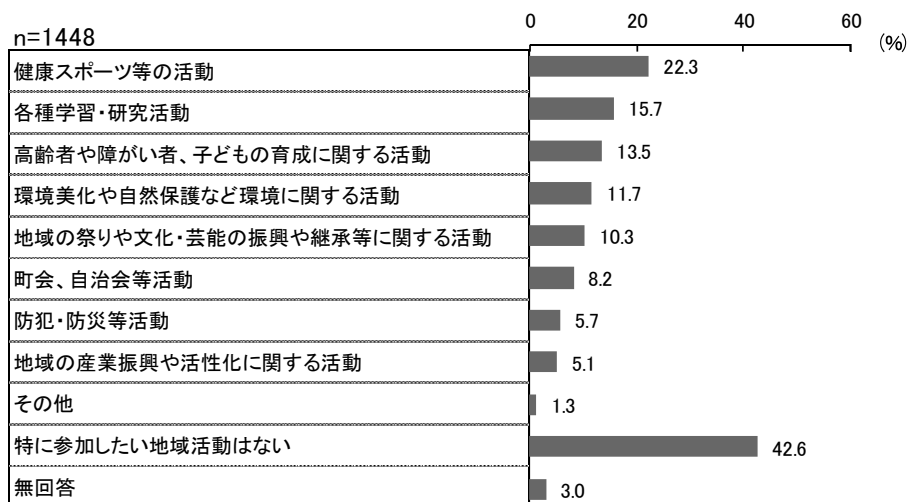
		1段目 回答数					2段目(%)	
	n=	週4回以上	週2～3回	週1回	月1～3回	年に数回	参加して いない	無回答
計	3365	446	155	30	42	42	1,441	1,209
	100	13.3	4.6	0.9	1.2	1.2	42.8	35.9
男性前期高齢者	845	181	71	12	18	15	357	191
	100	21.4	8.4	1.4	2.1	1.8	42.2	22.6
男性後期高齢者	667	53	18	3	7	13	296	277
	100	7.9	2.7	0.4	1.0	1.9	44.4	41.5
女性前期高齢者	932	165	46	11	11	9	400	290
	100	17.7	4.9	1.2	1.2	1.0	42.9	31.1
女性後期高齢者	829	31	17	4	5	3	361	408
	100	3.7	2.1	0.5	0.6	0.4	43.5	49.2

③地域活動への参加、継続意向

【04 一般若年者 問10】

一般若年者の今後、参加または続けたい地域活動については、いずれかの地域活動に参加、または参加したいとする割合が 54.4%と半数を超えている（「特に参加したい地域活動はない」42.6%、「無回答」3.0%の合計を差し引いた割合）。参加または続けたい地域活動としては、「健康スポーツ等の活動」（22.3%）、「各種学習・研究活動」（15.7%）となっている。

図表 III. 3. 89 地域活動への参加、継続意向（複数回答）



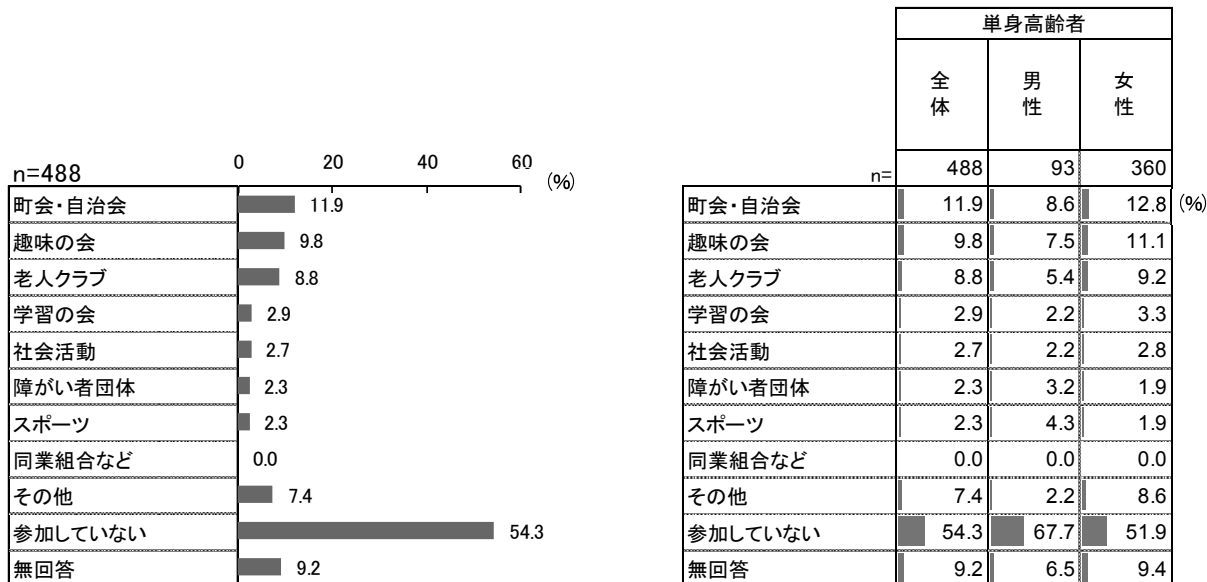
	一般若年者						
	全体	男性 40代	男性 50代	男性 60～64歳	女性 40代	女性 50代	女性 60～64歳
n=	1448	252	236	141	336	304	164
健康スポーツ等の活動	22.3	22.6	24.2	27.7	17.6	25.7	20.1
各種学習・研究活動	15.7	12.3	13.1	12.1	17.0	18.8	20.7
高齢者や障がい者、子供の育成に関する活動	13.5	7.9	8.1	4.3	20.5	18.1	12.8
環境美化や自然保護など環境に関する活動	11.7	12.3	13.6	10.6	9.5	10.5	16.5
地域の祭りや文化・芸能の振興や継承等に関する活動	10.3	11.9	10.2	7.1	12.2	9.5	7.9
町会、自治会等活動	8.2	7.9	10.6	8.5	7.4	7.6	7.9
防犯・防災等活動	5.7	6.7	8.9	9.2	5.4	2.6	2.4
地域の産業振興や活性化に関する活動	5.1	5.2	8.5	6.4	4.8	3.9	2.4
その他	1.3	1.2	1.3	2.1	0.9	1.3	1.8
特に参加したい地域活動はない	42.6	46.8	41.9	44.7	44.3	37.8	41.5
無回答	3.0	1.2	2.5	3.5	3.0	3.0	4.9

④参加している団体・集まり

【02 単身高齢者 問 34】

参加している団体・集まりについては、いずれかの団体・集まりに参加している割合は 36.5% となっている（「参加していない」 54.3%、「無回答」 9.2%の合計を差し引いた割合）。参加している団体・集まりとしては、「町会・自治会」（11.9%）、「趣味の会」（9.8%）となっている。

図表 III. 3. 9 0 参加している団体・集まり（複数回答）

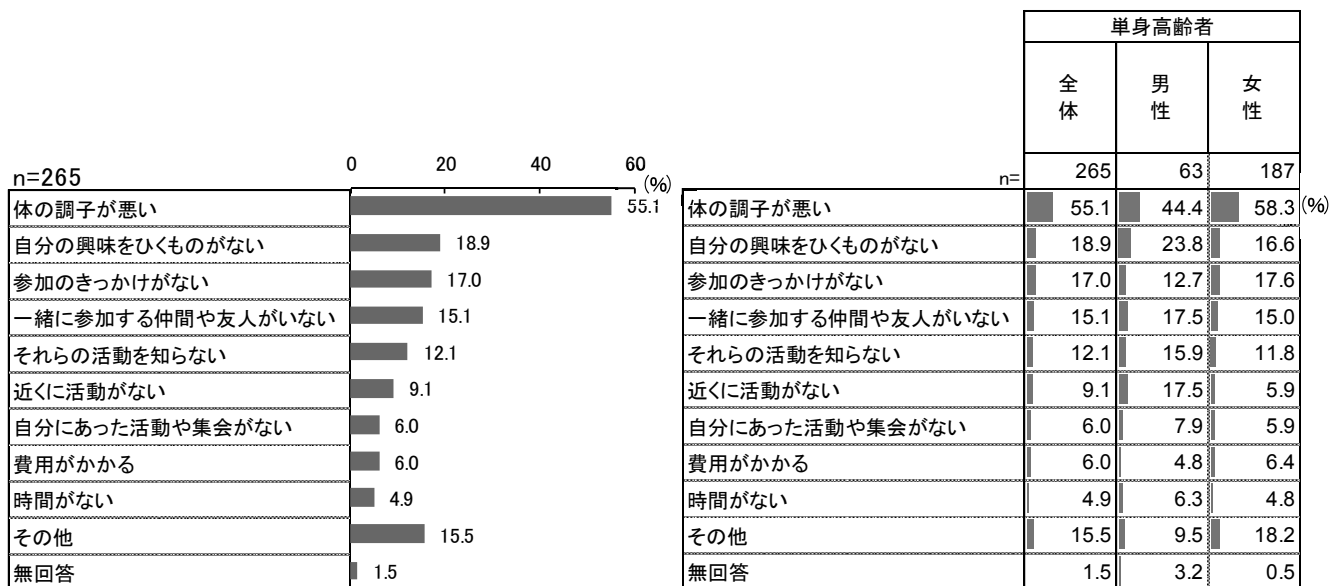


⑤参加していない理由

【02 単身高齢者 問 34-1】

参加していない理由は、「体の調子が悪い」が 55.1%と最も高く、次いで「自分の興味をひくものがない」（18.9%）、「参加のきっかけがない」（17.0%）となっている。

図表 III. 3. 9 1 参加していない理由（複数回答）【ベース：団体や集まりに不参加】

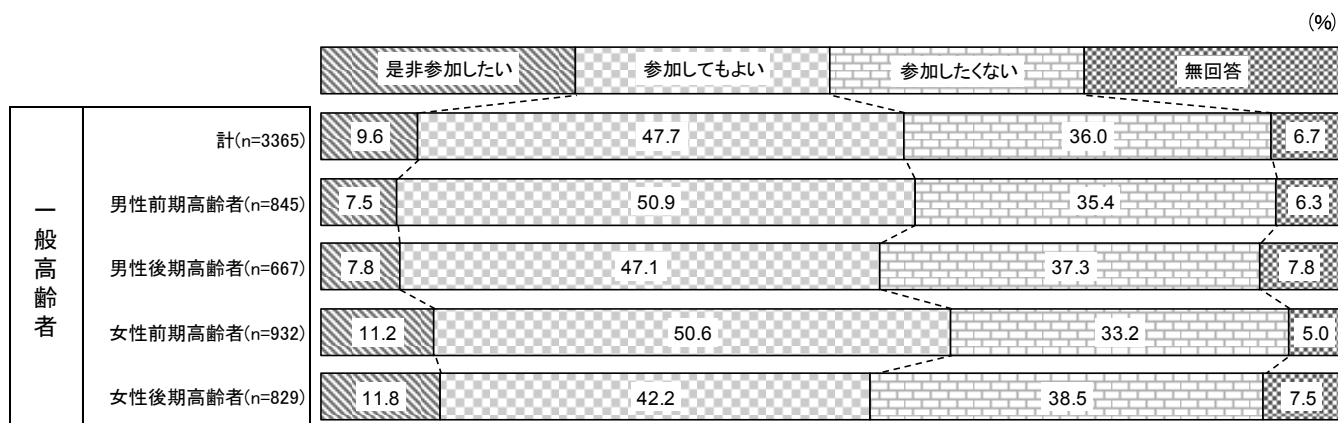


⑥地域づくり活動への参加意向：参加者

【01 一般高齢者 問8(2)】

地域づくりについては、「是非参加したい」は9.6%、「参加してもよい」は47.7%で、参加意向は57.3%となっている。性年代別にみると、男性に比べ女性は「是非参加したい」割合がやや高い。

図表 III. 3. 9 2 地域づくり活動への参加意向：参加者



⑦地域づくり活動参加したくない理由

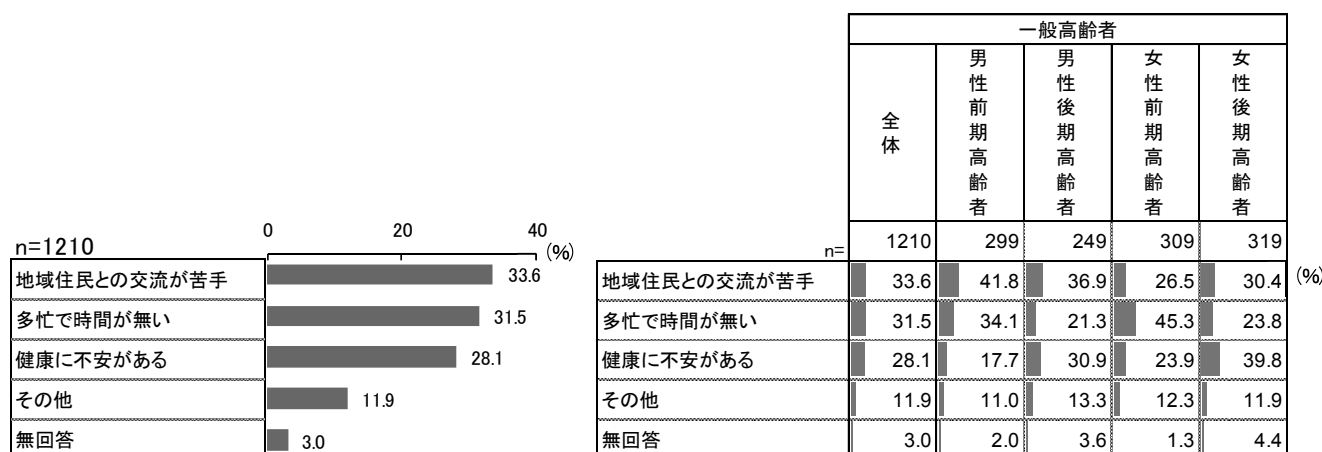
【01 一般高齢者 問8(2)-1】

地域づくり活動に参加したくない理由は、「地域住民との交流が苦手」が33.6%、「多忙で時間が無い」(31.5%)、「健康に不安がある」(28.1%)となっている。

性年代別でみると、男女とも、「多忙で時間が無い」は後期高齢者に比べ前期高齢者の割合が高く、「健康に不安がある」は前期高齢者に比べ後期高齢者の割合が高くなっている。

図表 III. 3. 9 3 地域づくり活動参加したくない理由（複数回答）

【ベース：参加者としての参加意向なし】



※「その他」の内容（抜粋）

- ・面倒くさい
- ・自由に気ままに、自分でバランスよく暮らしたい
- ・病人をかかえている為

⑧地域づくり活動への参加意向：企画運営役

【01 一般高齢者 問8(3)】

地域づくり活動に企画・運営役として、「是非参加したい」は4.1%、「参加してもよい」は33.9%で、約4割(38.0%)は企画運営役としての参加意向がある。性年代別にみると、女性後期高齢者では「参加してもよい」が27.7%と、他の性年代と比べ割合が低い。

図表 III. 3. 9 4 地域づくり活動への参加意向：企画運営役

(%)

		是非参加したい	参加してもよい	参加したくない	無回答
一般高齢者	計(n=3365)	4.1	33.9	51.6	10.4
	男性前期高齢者(n=845)	4.1	34.6	52.7	8.6
	男性後期高齢者(n=667)	4.0	36.1	48.4	11.4
	女性前期高齢者(n=932)	4.1	37.2	50.4	8.3
	女性後期高齢者(n=829)	4.2	27.7	55.1	12.9

4 医療・介護

(1) 要介護認定申請状況

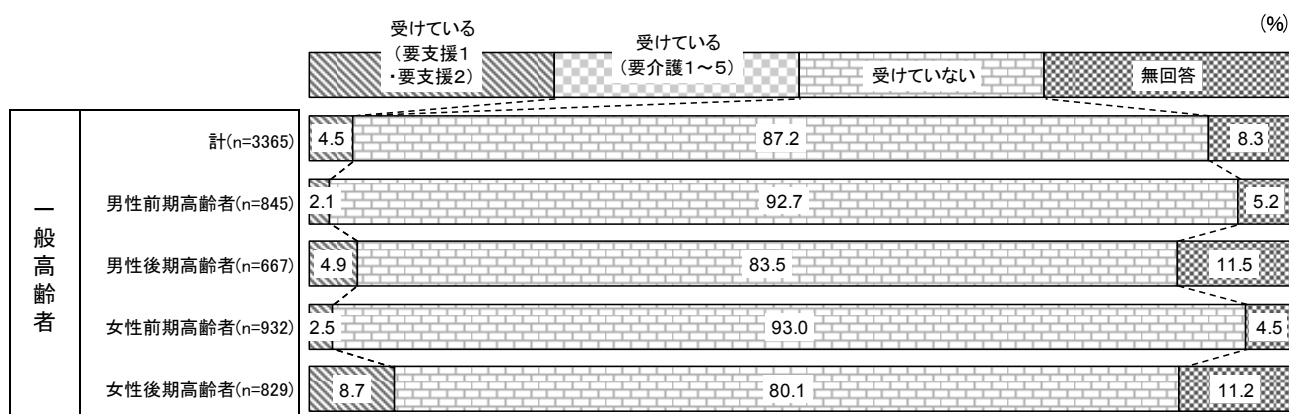
①要介護認定を受けているか

【01 一般高齢者 問3】

一般高齢者において、要介護認定を「受けている（要支援1・要支援2）」と回答した人は4.5%、「受けていない」は87.2%となっている。

性年代別にみると、男女ともに前期高齢者に比べ、後期高齢者で要介護認定を受けている人が多くなっている。また、女性が男性に比べ要介護認定を受けている人が多くなっている。

図表 III. 4. 1 要介護認定を受けているか



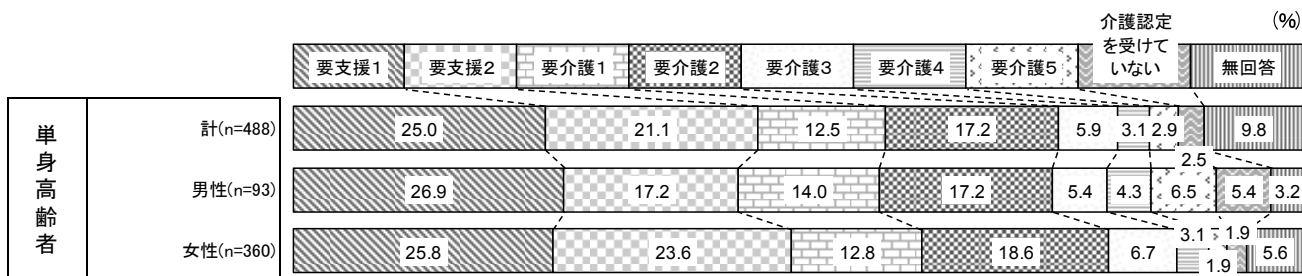
※P28 記載のとおり、要介護1～5の認定者（24件，0.7%）を除く3,365件を集計対象としている。

②要介護度

【02 単身高齢者 問3】

要介護度については、単身高齢者では、「要支援1」が25.0%と最も高く、次いで「要支援2」(21.1%)となっている。一方、「介護認定を受けていない」は2.5%である。

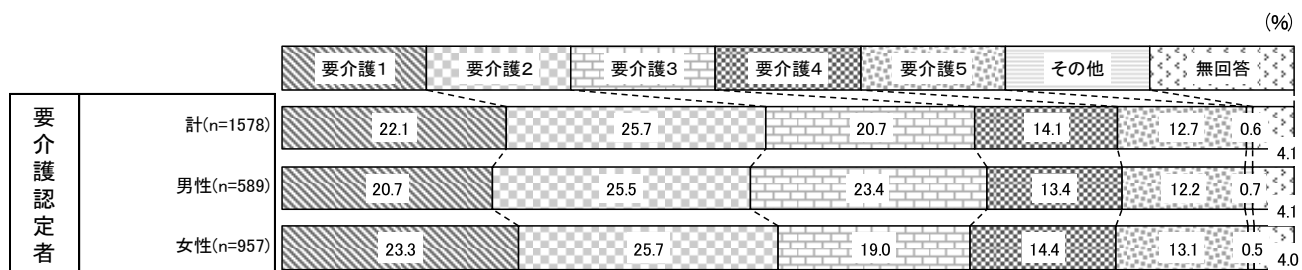
図表 III. 4. 2 要介護度【単身高齢者】



【03 要介護認定者 問4】

要介護認定者では、「要介護2」が25.7%と最も高く、次いで「要介護1」(22.1%)、「要介護3」(20.7%)となっている。性別による差はほとんどみられない。

図表 III. 4. 3 要介護度【要介護認定者】

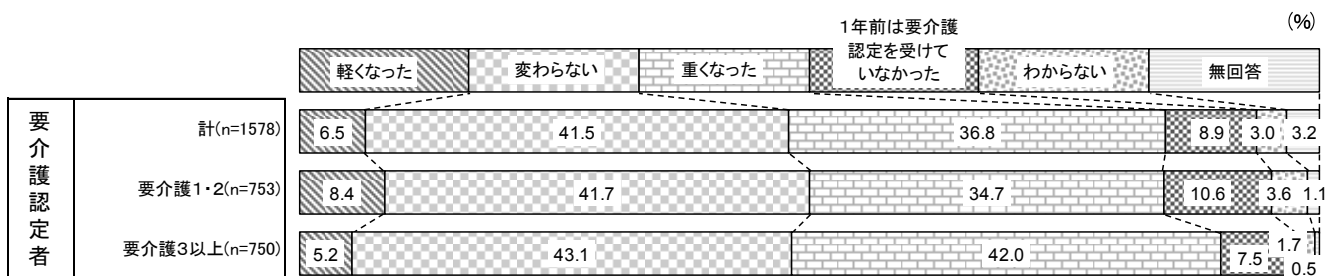


③1年前と現在での介護度の変化

【03 要介護認定者 問6】

1年前と比べて、現在の介護度が「軽くなった」は6.5%、「変わらない」は41.5%である。一方、「重くなった」は36.8%、「1年間は要介護認定を受けていなかった」は8.9%となっている。要介護度別にみると、要介護1・2では「軽くなった」(8.4%)が要介護3以上に比べ若干高く、要介護3以上では「重くなった」(42.0%)の割合が高い。

図表 III. 4. 4 1年前と現在での介護度の変化【要介護認定者】



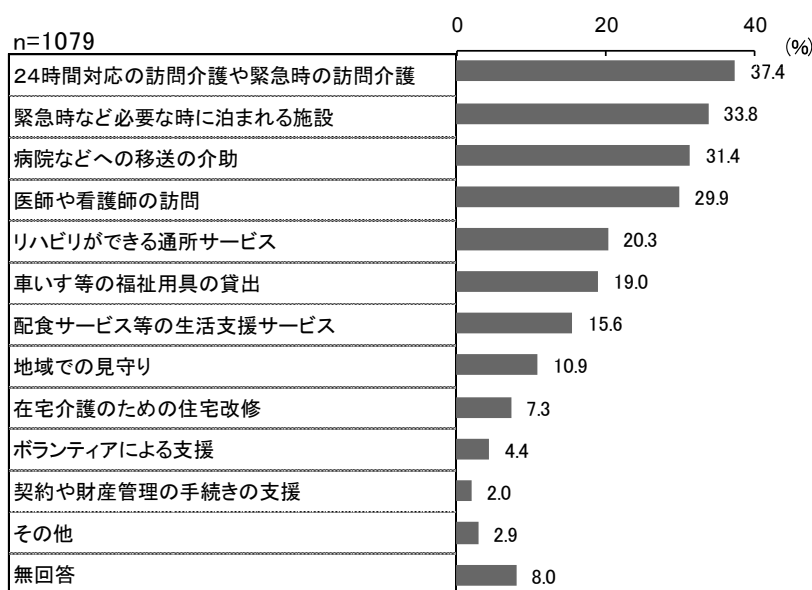
(2) 在宅介護

①今後も安心して在宅生活を続けていくために必要なサービス・しくみ等

【03 要介護認定者 問 26】

要介護認定者のうち、「介護サービスを利用しながら、自宅で生活したい」と回答した人が、今後も安心して在宅生活を続けていくのに必要だと考えるサービスやしくみは、「24 時間対応の訪問介護や緊急時の訪問介護」が 37.4%で最も高く、次いで「緊急時など必要な時に泊まれる施設」(33.8%)、「病院などへの移送の介助」(31.4%)となっている。

図表 III. 4. 5 今後も安心して在宅生活を続けていくために必要なサービス・しくみ等 (複数回答)
【ベース：サービスを利用しながら自宅生活の希望者】



	要介護認定者		
	全体	要介護1・2	要介護3以上
n=	1079	534	506
24時間対応の訪問介護や緊急時の訪問介護	37.4	35.6	39.5
緊急時など必要な時に泊まれる施設	33.8	28.5	40.1
病院などへの移送の介助	31.4	28.8	35.0
医師や看護師の訪問	29.9	24.7	35.0
リハビリができる通所サービス	20.3	21.7	19.0
車いす等の福祉用具の貸出	19.0	15.5	23.1
配食サービス等の生活支援サービス	15.6	14.8	16.6
地域での見守り	10.9	12.5	8.7
在宅介護のための住宅改修	7.3	6.4	8.5
ボランティアによる支援	4.4	5.1	4.0
契約や財産管理の手続きの支援	2.0	1.3	3.0
その他	2.9	2.6	3.0
無回答	8.0	9.4	5.7

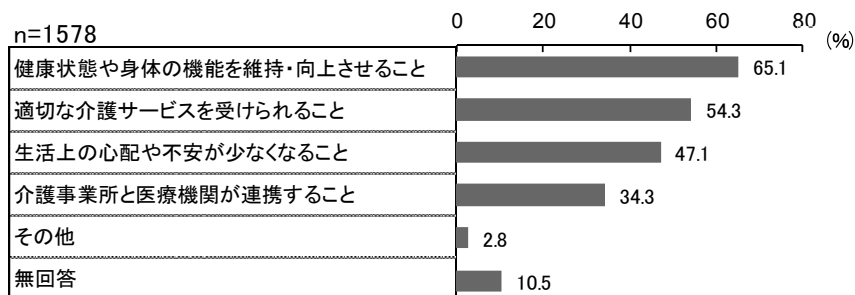
②今後も在宅生活を続けるために必要だと思うこと

1) 自身について

【03 要介護認定者 問 34(1)】

要介護認定者が、自身について、今後も在宅生活を続けるために必要だと思うことは、「健康状態や身体の機能を維持・向上させること」が65.1%と最も高く、次いで「適切な介護サービスを受けられること」(54.3%)、「生活上の心配や不安が少なくなること」(47.1%)となっている。

図表 III. 4. 6 自身について (複数回答)



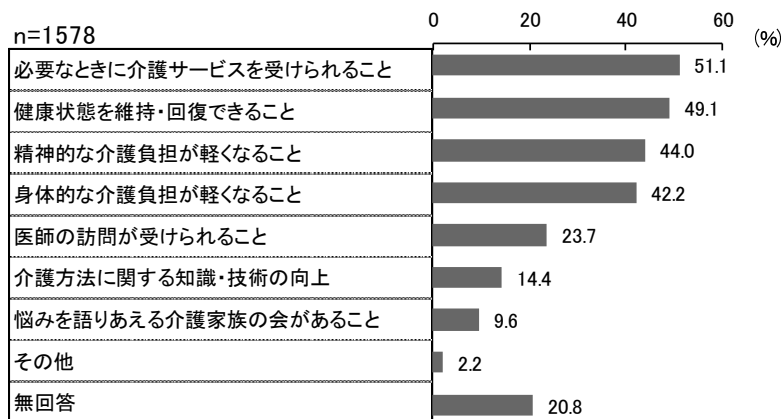
	要介護認定者		
	全体	要介護1・2	要介護3以上
n=	1578	753	750
健康状態や身体の機能を維持・向上させること	65.1	69.3	62.7
適切な介護サービスを受けられること	54.3	51.3	59.1
生活上の心配や不安が少なくなること	47.1	47.0	47.2
介護事業所と医療機関が連携すること	34.3	30.9	38.1
その他	2.8	2.1	3.2
無回答	10.5	8.4	10.9

2) 介護している家族について

【03 要介護認定者 問 34(2)】

要介護認定者が、介護している家族について、今後も在宅生活を続けるために必要だと思うことは、「必要なときに介護サービスを受けられること」が51.1%と最も高く、次いで「健康状態を維持・回復できること」(49.1%)、「精神的な介護負担が軽くなること」(44.0%)となっている。

図表 III. 4. 7 介護している家族について (複数回答)



	要介護認定者		
	全体	要介護1・2	要介護3以上
n=	1578	753	750
必要なときに介護サービスを受けられること	51.1	49.1	53.9
健康状態を維持・回復できること	49.1	49.7	50.5
精神的な介護負担が軽くなること	44.0	39.4	49.3
身体的な介護負担が軽くなること	42.2	35.9	50.0
医師の訪問が受けられること	23.7	20.8	26.4
介護方法に関する知識・技術の向上	14.4	13.0	16.3
悩みを語りあえる介護家族の会があること	9.6	8.9	10.5
その他	2.2	1.5	2.9
無回答	20.8	23.6	16.1

(3) 介護保険について

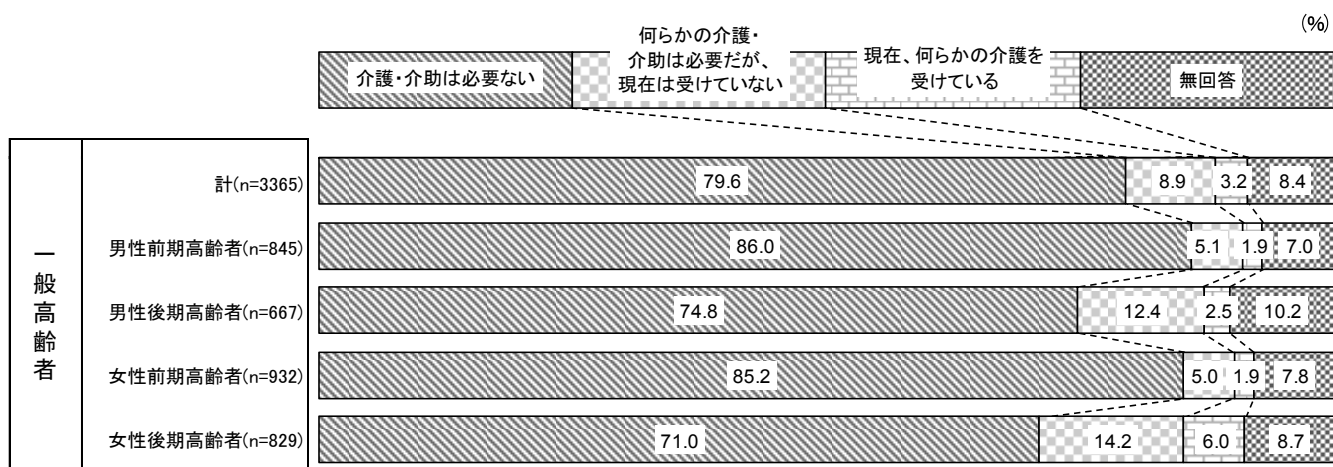
①介護・介助の必要性

【01 一般高齢者 問4(2)】

普段の生活で「介護・介助は必要ない」は79.6%、「何らかの介護・介助は必要だが、現在は受けていない」は8.9%、「現在、何らかの介護を受けている」は3.2%である。

性年代別にみると、前期高齢者に比べ後期高齢者では「何らかの介護・介助は必要だが、現在は受けていない」割合が高く、男性後期高齢者では12.4%、女性後期高齢者では14.2%となっている。

図表 III. 4. 8 介護・介助の必要性



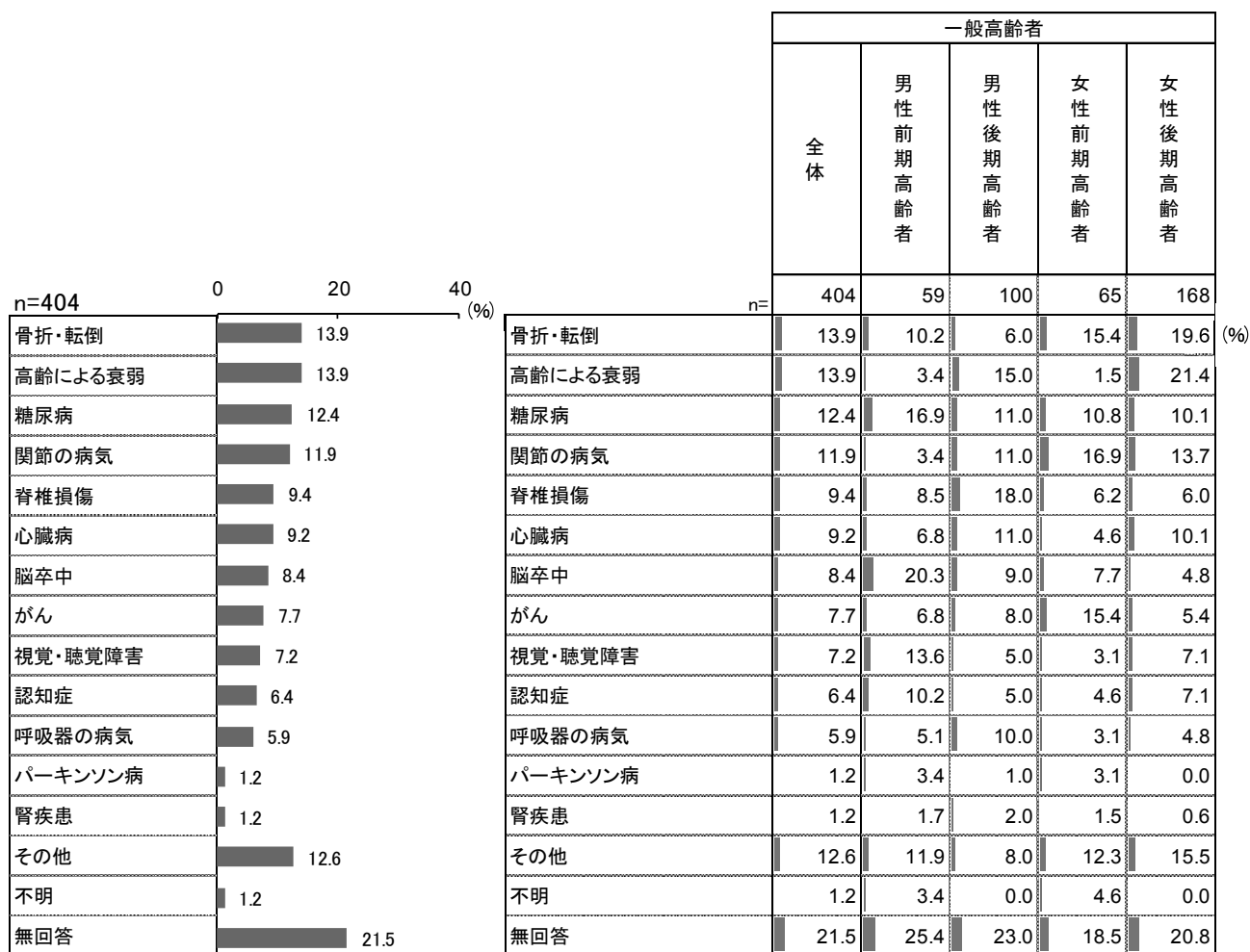
②介護・介助が必要になった原因

【01 一般高齢者 問4 (2)-1】

介護・介助が必要になった原因としては、「骨折・転倒」「高齢による衰弱」が13.9%と最も高く、次いで「糖尿病」(12.4%)、「関節の病気」(11.9%)となっている。

性年代別にみると、男性に比べ女性は「骨折・転倒」の割合が高く、女性前期高齢者では15.4%、女性後期高齢者では19.6%である。また、男性前期高齢者では「脳卒中」(20.3%)が最も高い。

図表 III. 4. 9 介護・介助が必要になった原因（複数回答）【ベース：介護・介助の必要あり】



※「その他」の内容（抜粋）

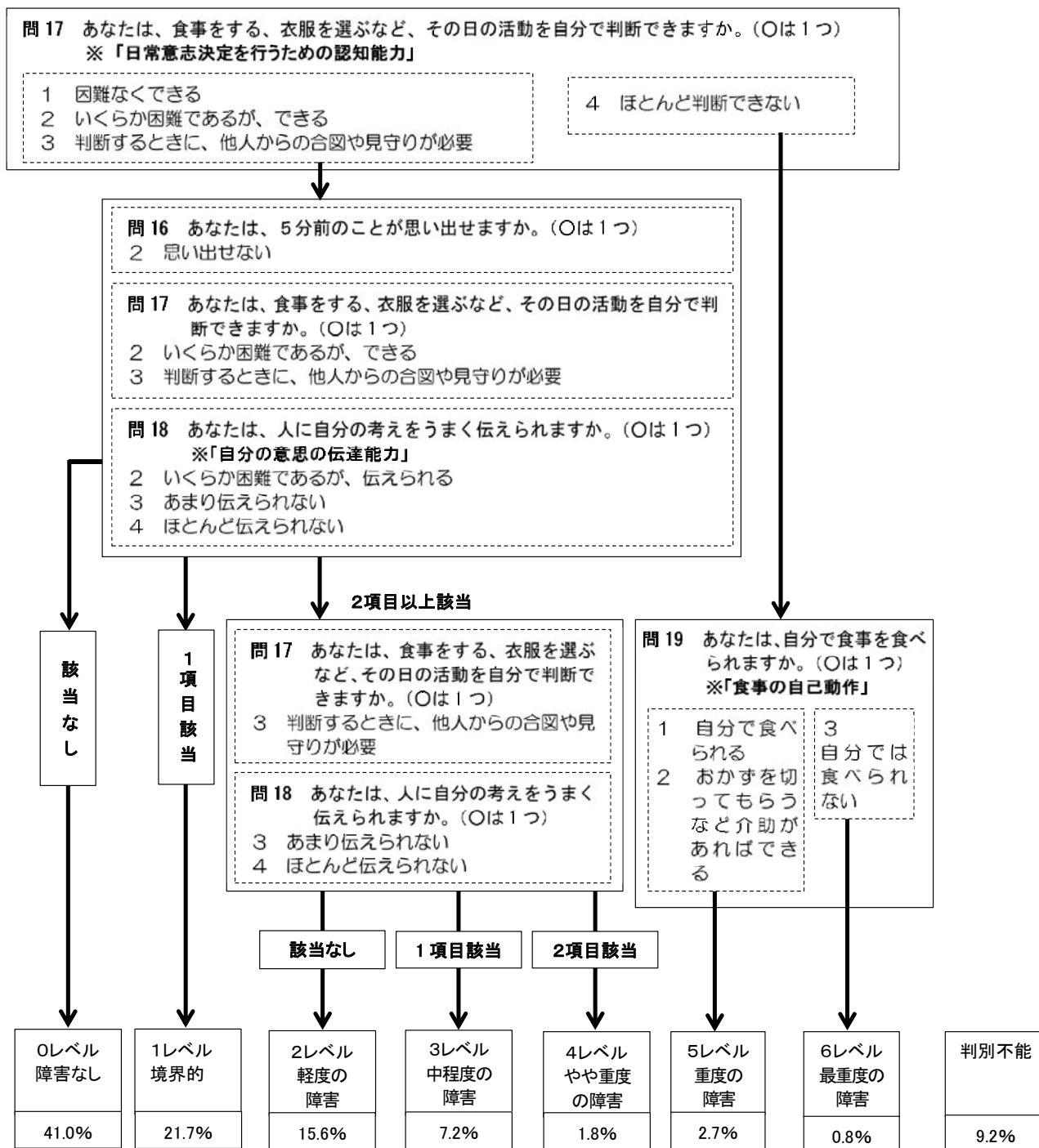
- ・腰痛
- ・難病
- ・静脈瘤

③認知機能障害程度分布

【02 単身高齢者 問 16～19】

単身高齢者調査において、認知機能に障害がみられる方を把握するため、4つの設問の回答状況により、「0=障害なし」～「6=最重度の障害」までの7段階で区分し（認知機能尺度CPS：Cognitive Performance Scale）、判定を行っている。

以下に、7段階算出のフローとともに、実際の該当者割合を示す。



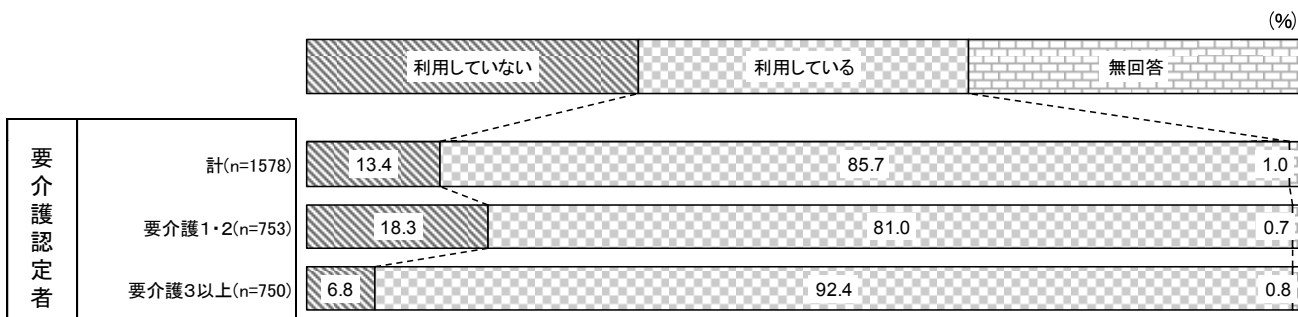
(4) 介護サービスについて

①介護サービス利用状況

【03 要介護認定者 問 15】

介護サービスを「利用している」は85.7%、「利用していない」は13.4%である。要介護度別にみると、要介護3以上では「利用している」が約9割(92.4%)となっている。

図表 III. 4. 10 介護サービス利用状況



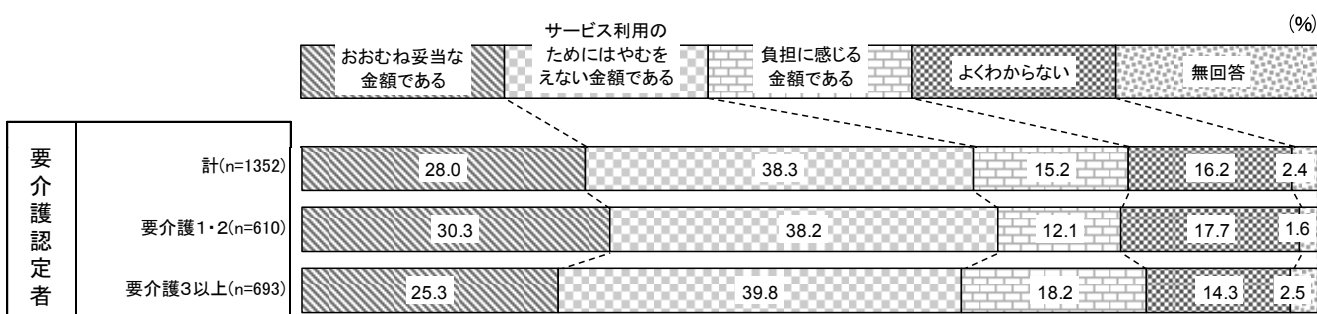
②介護サービスの自己負担額について

【03 要介護認定者 問 16】

介護サービスの自己負担額については、「おおむね妥当な金額である」は28.0%、「サービス利用のためにはやむをえない金額である」は38.3%である。一方、「負担に感じる金額である」は15.2%、「よくわからない」は16.2%である。

要介護度別にみると、要介護1・2では「おおむね妥当な金額である」(30.3%)、要介護3以上では「負担に感じる金額である」(18.2%)が全体に比べそれぞれ高くなっている。

図表 III. 4. 11 介護サービスの自己負担額について【ベース：介護サービス利用者】

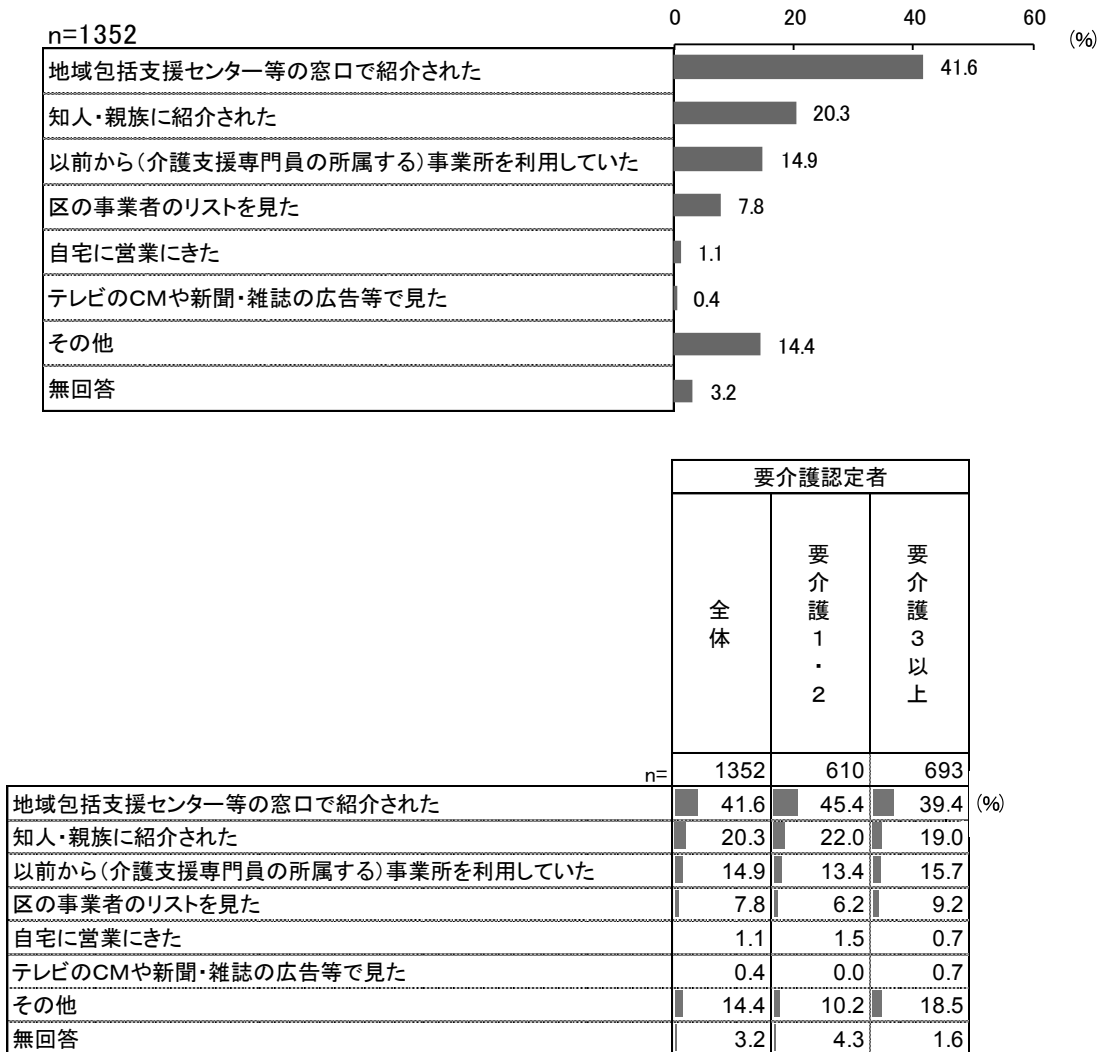


③ケアマネジャー選択の経緯

【03 要介護認定者 問 17】

ケアマネジャー選択の経緯については、「地域包括支援センター等の窓口で紹介された」が41.6%と最も高く、次いで「知人・親族で紹介された」(20.3%)となっている。要介護度別による差はほとんどみられない。

図表 III. 4. 1 2 ケアマネジャー選択の経緯（複数回答）【ベース：介護サービス利用者】



※「その他」の内容（抜粋）

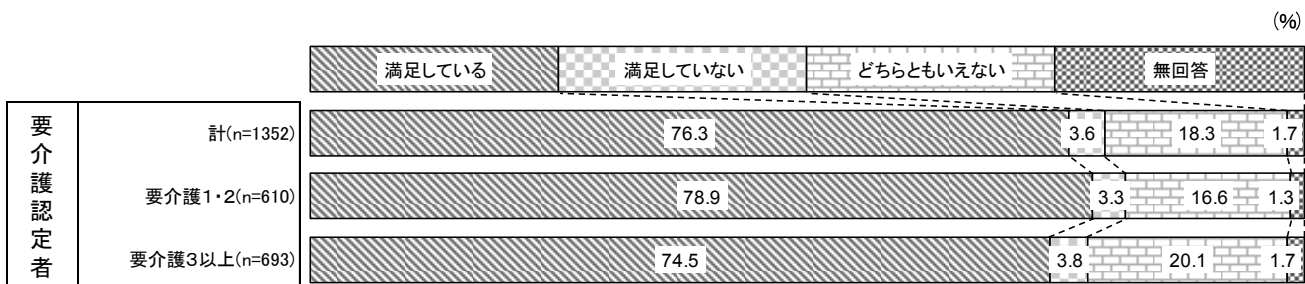
- ・ 入院していた病院の紹介
- ・ 病院からの紹介
- ・ 施設入所時に施設から紹介
- ・ 前ケアマネージャーからの紹介
- ・ 介護申請を受ける時、足立区から派遣で来て頂いた方

④現在のケアマネジャーの満足度

【03 要介護認定者 問 18】

担当しているケアマネジャーに「満足している」は76.3%、「満足していない」は3.6%、「どちらともいえない」は18.3%、「どちらともいえない」は18.3%である。要介護度別による差はほとんどみられない。

図表 III. 4. 1 3 現在のケアマネジャーの満足度【ベース：介護サービス利用者】

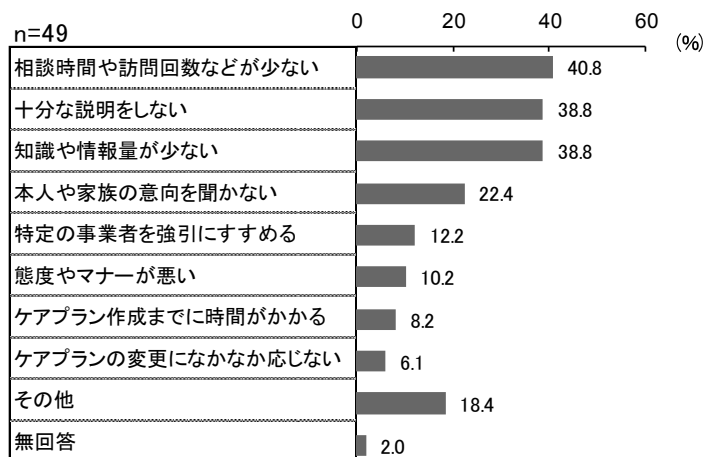


⑤ケアマネジャーへの不満な点

【03 要介護認定者 問 19】

ケアマネジャーへの不満な点については、「相談時間や訪問回数などが少ない」が 40.8%と最も高く、次いで「十分な説明をしない」「知識や情報量が少ない」(38.8%) が同率となっている。

図表 III. 4. 1 4 ケアマネジャーへの不満な点 (複数回答)
【ベース：担当介護支援専門員への不満あり】



	要介護認定者		
	全体	要介護1・2	要介護3以上
n=	49	20	26
相談時間や訪問回数などが少ない	40.8	35.0	50.0
十分な説明をしない	38.8	35.0	42.3
知識や情報量が少ない	38.8	30.0	46.2
本人や家族の意向を聞かない	22.4	5.0	30.8
特定の事業者を強引にすすめる	12.2	0.0	15.4
態度やマナーが悪い	10.2	15.0	7.7
ケアプラン作成までに時間がかかる	8.2	10.0	7.7
ケアプランの変更になかなか応じない	6.1	10.0	3.8
その他	18.4	30.0	11.5
無回答	2.0	5.0	0.0

※「その他」の内容 (抜粋)

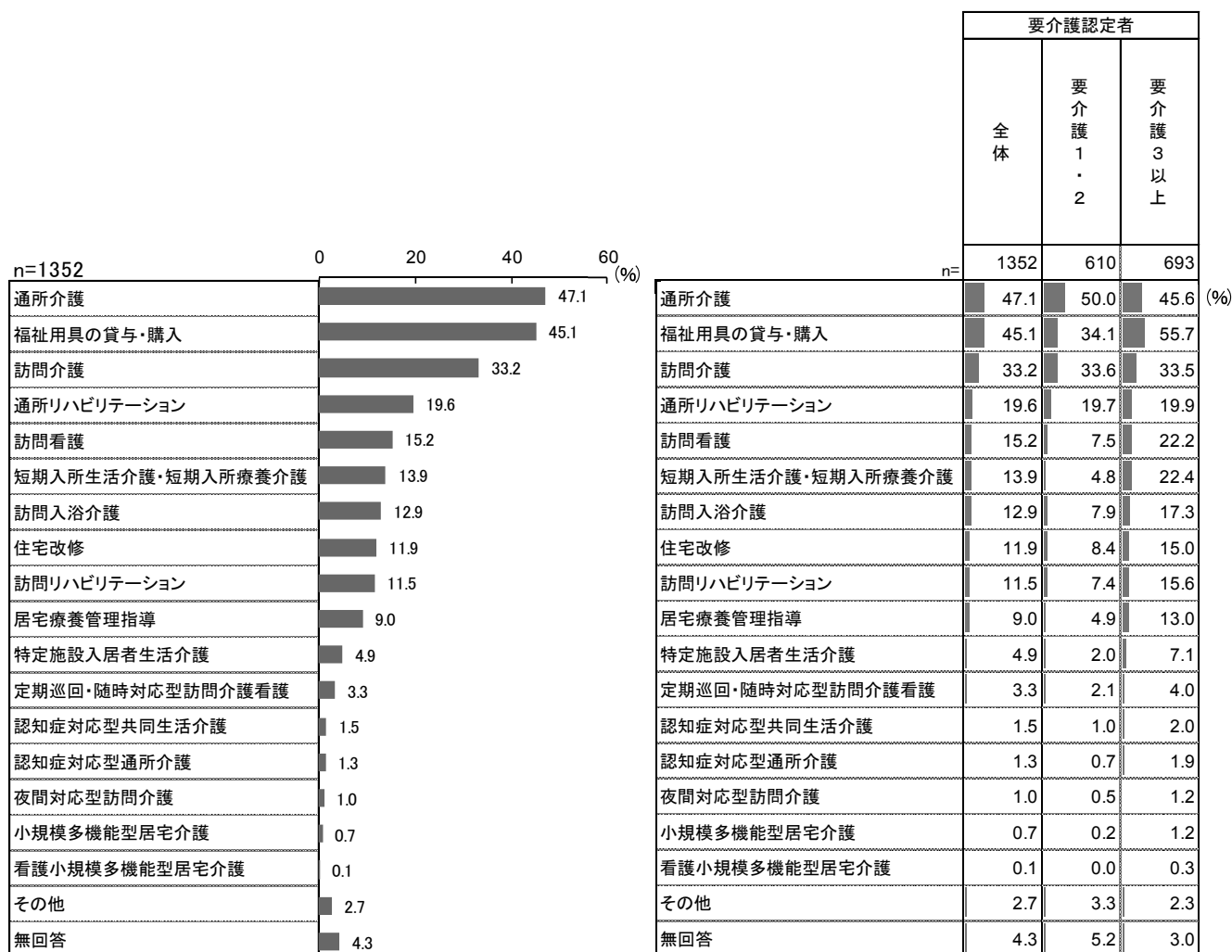
- ・ 話がわかりにくい。
- ・ なりたてで頼りにならない。
- ・ サービスの提案が少ない。知らない事を教えて欲しい。
- ・ 上から目線の対応をする。

⑥現在利用中の介護保険サービス

【03 要介護認定者 問 20】

現在利用中の介護保険サービスについては、「通所介護」が 47.1%と最も高く、次いで「福祉用具の貸与・購入」(45.1%)、「訪問介護」(33.2%)となっている。要介護度別にみると、「通所介護」は要介護 1・2 と要介護 3 以上の利用率は 5 割前後であるが、「福祉用具の貸与・購入」は要介護 3 以上の利用率が高い。

図表 III. 4. 15 現在利用中の介護保険サービス（複数回答）【ベース：介護サービス利用者】

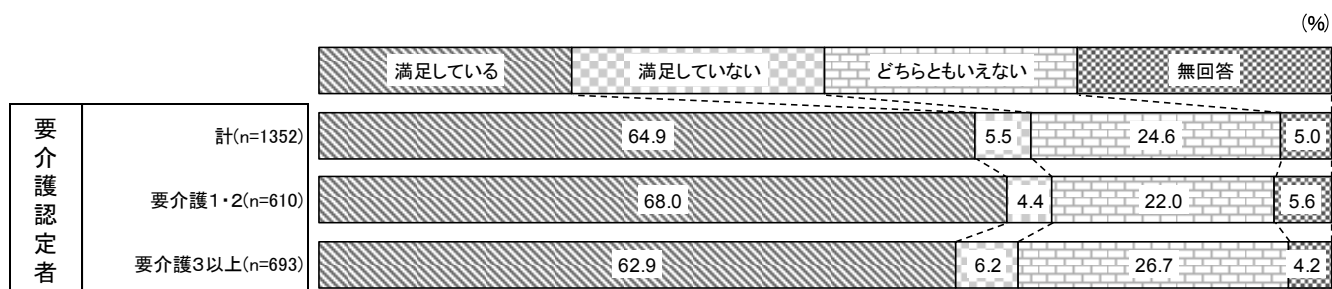


⑦現在の介護保険サービスへの満足度

【03 要介護認定者 問 21】

現在の介護保険サービスに「満足している」は64.9%、「満足していない」は5.5%、「どちらともいえない」は24.6%である。要介護度別にみると、要介護3以上(62.9%)に比べ要介護1・2(68.0%)は「満足している」割合が高い。

図表 III. 4. 1 6 現在の介護保険サービスへの満足度【ベース：介護サービス利用者】



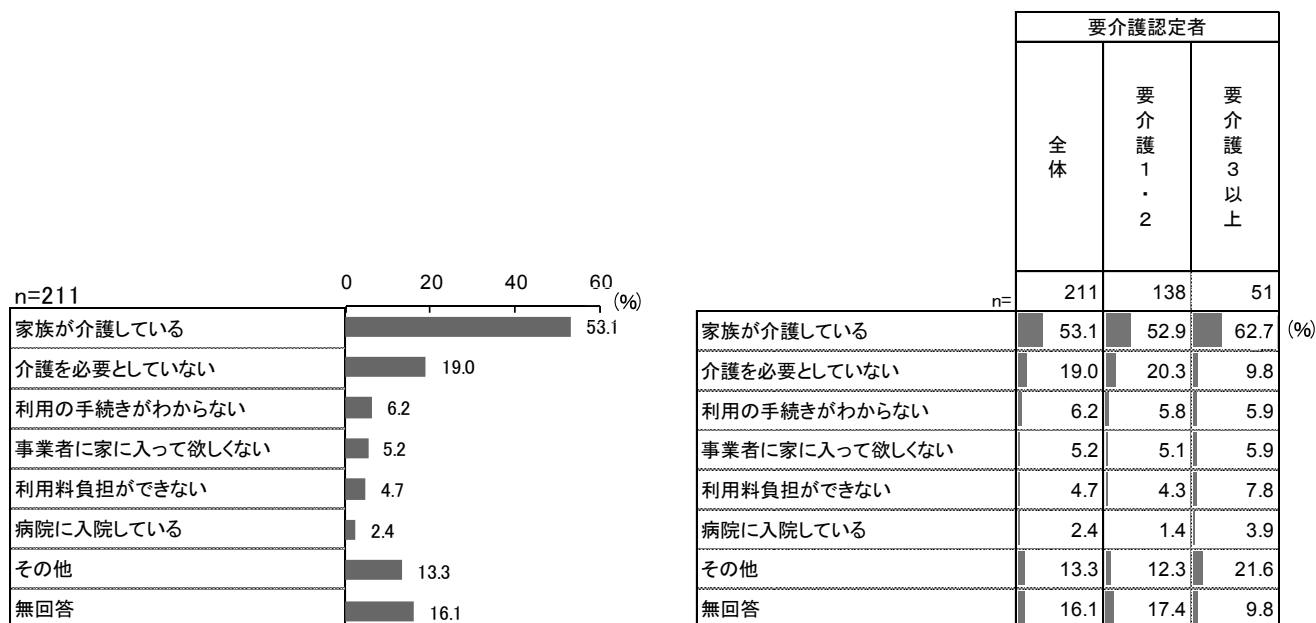
⑧介護保険サービス未利用の理由

【03 要介護認定者 問 23】

介護保険サービスを利用していない理由については、「家族が介助している」が53.1%と最も高く、次いで「介護を必要としていない」(19.0%)となっている。

要介護度別にみると、要介護1・2では「介護を必要としていない」(20.3%)割合が高い。

図表 III. 4. 1 7 介護保険サービス未利用の理由(複数回答)【ベース：介護サービス非利用者】



※「その他」の内容(抜粋)

- ・これから利用する。
- ・ひとりで行きづらい。
- ・できるだけ自分でする。

⑨地域密着型サービス利用意向

【03 要介護認定者 問 27】

地域密着型サービスについて「利用したい」ものとしては、「定期巡回・随時対応型訪問介護看護」が44.5%と最も高く、次いで「小規模多機能型居宅介護」(41.9%)となっている。

図表 III. 4. 1 8 地域密着型サービス利用意向【ベース：サービスを利用しながら自宅生活を希望者】

(%)

		利用したい	利用したくない	わからない	無回答
要介護認定者	定期巡回・随時対応型訪問介護看護(n=1079)	44.5	6.7	27.5	21.3
	夜間対応型訪問介護(n=1079)	34.9	9.0	30.7	25.4
	認知症対応型通所介護(n=1079)	32.7	11.3	29.7	26.2
	小規模多機能型居宅介護(n=1079)	41.9	7.7	26.7	23.7
	看護小規模多機能型居宅介護(n=1079)	27.8	7.0	37.5	27.6

1) 定期巡回・随時対応型訪問介護看護

定期巡回・随時対応型訪問介護看護については、「利用したい」が44.5%、「利用したくない」が6.7%、「わからない」が27.5%となっている。要介護度別にみると、要介護1・2に比べ要介護3以上は「利用したい」割合が高い。

図表 III. 4. 1 9 定期巡回・随時対応型訪問介護看護【ベース：サービスを利用しながら自宅生活を希望者】

(%)

		利用したい	利用したくない	わからない	無回答
要介護認定者	計(n=1079)	44.5	6.7	27.5	21.3
	要介護1・2(n=534)	41.4	6.7	28.8	23.0
	要介護3以上(n=506)	47.8	6.7	26.7	18.8

2) 夜間対応型訪問介護

夜間対応型訪問介護については、「利用したい」が34.9%、「利用したくない」が9.0%、「わからない」が30.7%となっている。要介護度別にみると、要介護1・2に比べ要介護3以上は「利用したい」割合が高い。

図表 III. 4. 2 0 夜間対応型訪問介護【ベース：サービスを利用しながら自宅生活を希望者】

(%)

		利用したい	利用したくない	わからない	無回答
要介護認定者	計(n=1079)	34.9	9.0	30.7	25.4
	要介護1・2(n=534)	32.0	7.9	32.2	27.9
	要介護3以上(n=506)	37.7	10.3	29.6	22.3

3) 認知症対応型通所介護

認知症対応型通所介護については、「利用したい」が32.7%、「利用したくない」が11.3%、「わからない」が29.7%となっている。要介護度別による差はほとんどみられない。

図表 III. 4. 2 1 認知症対応型通所介護【ベース：サービスを利用しながら自宅生活を希望者】

(%)

		利用したい	利用したくない	わからない	無回答
要介護認定者	計(n=1079)	32.7	11.3	29.7	26.2
	要介護1・2(n=534)	31.1	10.3	32.4	26.2
	要介護3以上(n=506)	35.2	12.5	27.7	24.7

4) 小規模多機能型居宅介護

小規模多機能型居宅介護については、「利用したい」が41.9%、「利用したくない」が7.7%、「わからない」が26.7%となっている。要介護度別にみると、要介護1・2に比べ要介護3以上は「利用したい」割合が高い。

図表 III. 4. 2 2 小規模多機能型居宅介護【ベース：サービスを利用しながら自宅生活を希望者】

(%)

		利用したい	利用したくない	わからない	無回答
要介護認定者	計(n=1079)	41.9	7.7	26.7	23.7
	要介護1・2(n=534)	35.6	8.2	30.7	25.5
	要介護3以上(n=506)	49.8	7.3	21.9	20.9

5) 看護小規模多機能型居宅介護

看護小規模多機能型居宅介護については、「利用したい」が27.8%、「利用したくない」が7.0%、「わからない」が37.5%となっている。要介護度別にみると、要介護1・2に比べ要介護3以上は「利用したい」割合が高い。

図表 III. 4. 2 3 看護小規模多機能型居宅介護【ベース：サービスを利用しながら自宅生活を希望者】

(%)

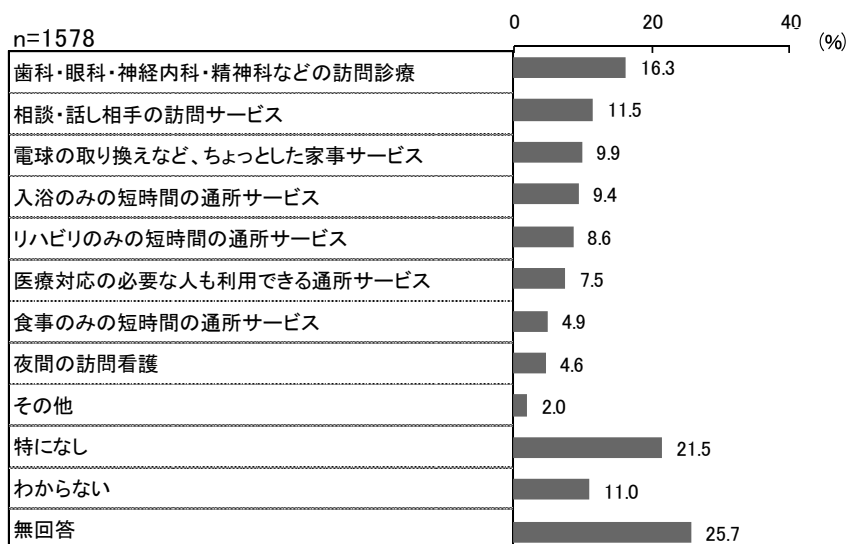
		利用したい	利用したくない	わからない	無回答
要介護認定者	計(n=1079)	27.8	7.0	37.5	27.6
	要介護1・2(n=534)	25.3	6.6	39.1	29.0
	要介護3以上(n=506)	31.2	7.9	35.8	25.1

⑩介護保険外のサービスの利用意向

【03 要介護認定者 問 24】

介護保険外のサービスの利用意向については、「歯科・眼科・神経内科・精神科などの訪問診療」が 16.3%と最も高く、次いで「相談・話し相手の訪問サービス」(11.5%)となっている。要介護度別にみると、要介護3以上では「歯科・眼科・神経内科・精神科などの訪問診療」が 20.9%と高い。

図表 III. 4. 2 4 介護保険外のサービスの利用意向（複数回答）



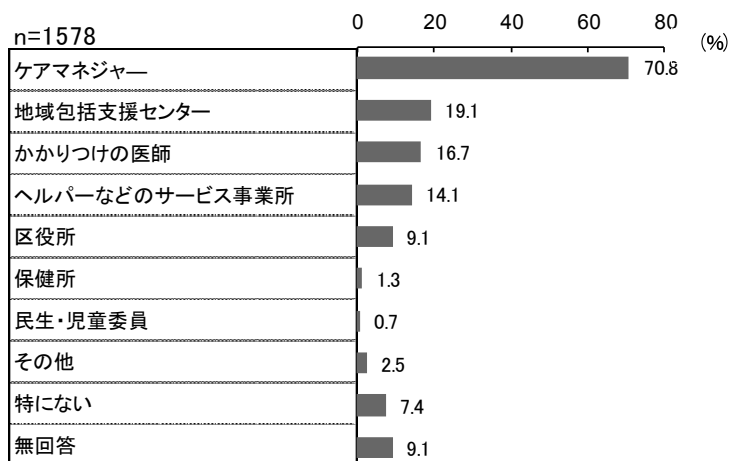
	要介護認定者		
	全体	要介護1・2	要介護3以上
n=	1578	753	750
歯科・眼科・神経内科・精神科などの訪問診療	16.3	11.3	20.9
相談・話し相手の訪問サービス	11.5	11.6	11.9
電球の取り換えなど、ちょっとした家事サービス	9.9	12.4	8.1
入浴のみの短時間の通所サービス	9.4	8.5	10.9
リハビリのみの短時間の通所サービス	8.6	7.4	10.1
医療対応の必要な人も利用できる通所サービス	7.5	5.4	9.7
食事のみの短時間の通所サービス	4.9	4.9	5.1
夜間の訪問看護	4.6	2.4	6.8
その他	2.0	1.6	2.5
特になし	21.5	23.0	20.4
わからない	11.0	11.8	10.5
無回答	25.7	25.8	24.1

⑪介護保険サービス等の相談先

【03 要介護認定者 問 30】

介護保険サービス等の相談先については、「ケアマネジャー」が 70.8%と最も高く、次いで「地域包括支援センター」(19.1%)となっている。要介護度別にみると、「ケアマネジャー」は要介護3以上で77.1%と高い。

図表 III. 4. 2 5 介護保険サービス等の相談先（複数回答）



	要介護認定者		
	全体	要介護1・2	要介護3以上
n=	1578	753	750
ケアマネジャー	70.8	67.1	77.1
地域包括支援センター	19.1	20.1	18.8
かかりつけの医師	16.7	17.1	16.0
ヘルパーなどのサービス事業所	14.1	13.3	15.2
区役所	9.1	8.2	9.6
保健所	1.3	1.5	1.2
民生・児童委員	0.7	0.9	0.4
その他	2.5	1.7	3.3
特にない	7.4	10.1	4.4
無回答	9.1	8.9	7.7

(5) 介護者について

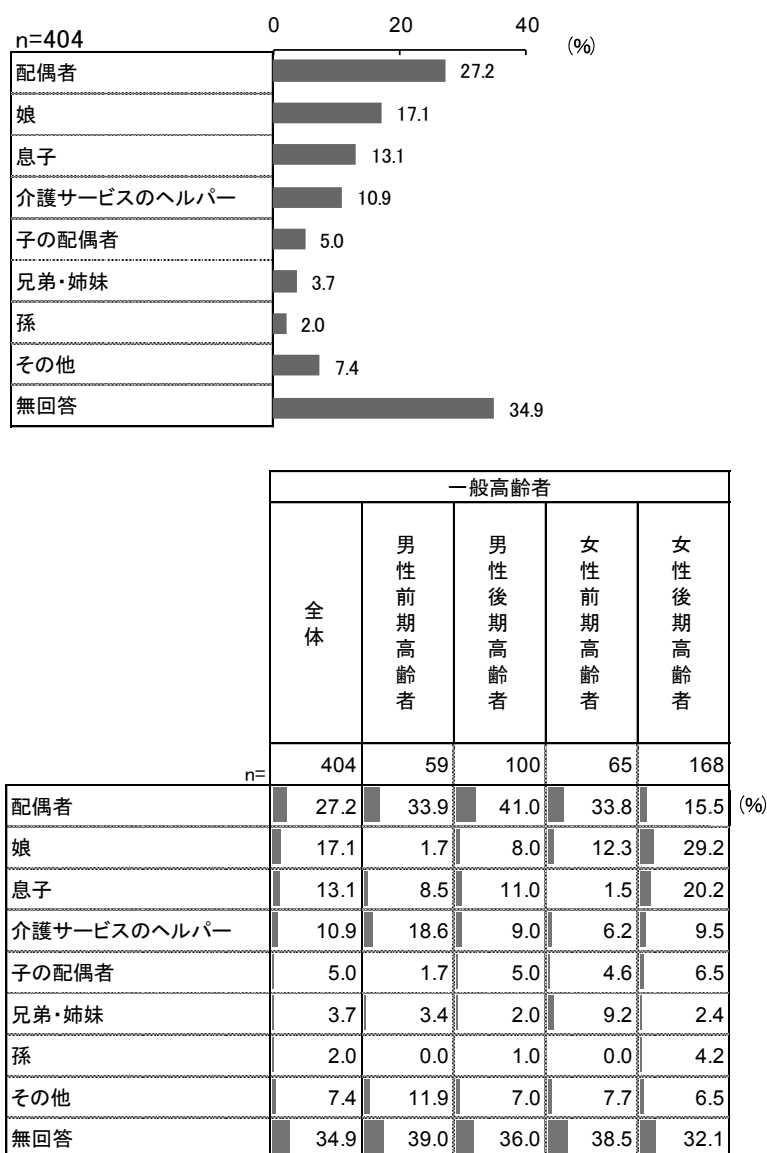
①主な介護・介助者

1) 誰から介護・介助を受けているか

【01 一般高齢者 問4(2)-2】

介護・介助者については、「配偶者」が27.2%と最も高く、次いで「娘」(17.1%)、「息子」(13.1%)となっている。性年代別にみると、女性後期高齢者では他の性年代と比べ、「配偶者」(15.5%)の割合は低く、「娘」(29.2%)、「息子」(20.2%)の割合が高い。

図表 III. 4. 2 6 誰から介護・介助を受けているか(複数回答)【ベース：介護・介助の必要あり】



2) 主な介護・介助者

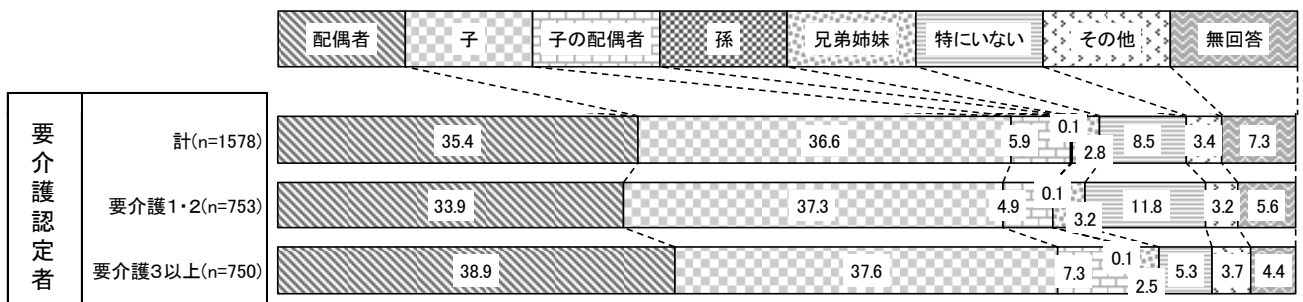
【03 要介護認定者 問5】

主な介護者については、「子」が 36.6%と最も高く、次いで「配偶者」は 35.4%、「子の配偶者」は 5.9%となっている。

要介護度別にみると、「配偶者」の割合は、要介護1・2 (33.9%) に比べ要介護3以上 (38.9%) で高い。

図表 III. 4. 2 7 主な介護・介助者

(%)



②家族介護の経験

【01 一般高齢者 問 30】【04 一般若年者 問 22】

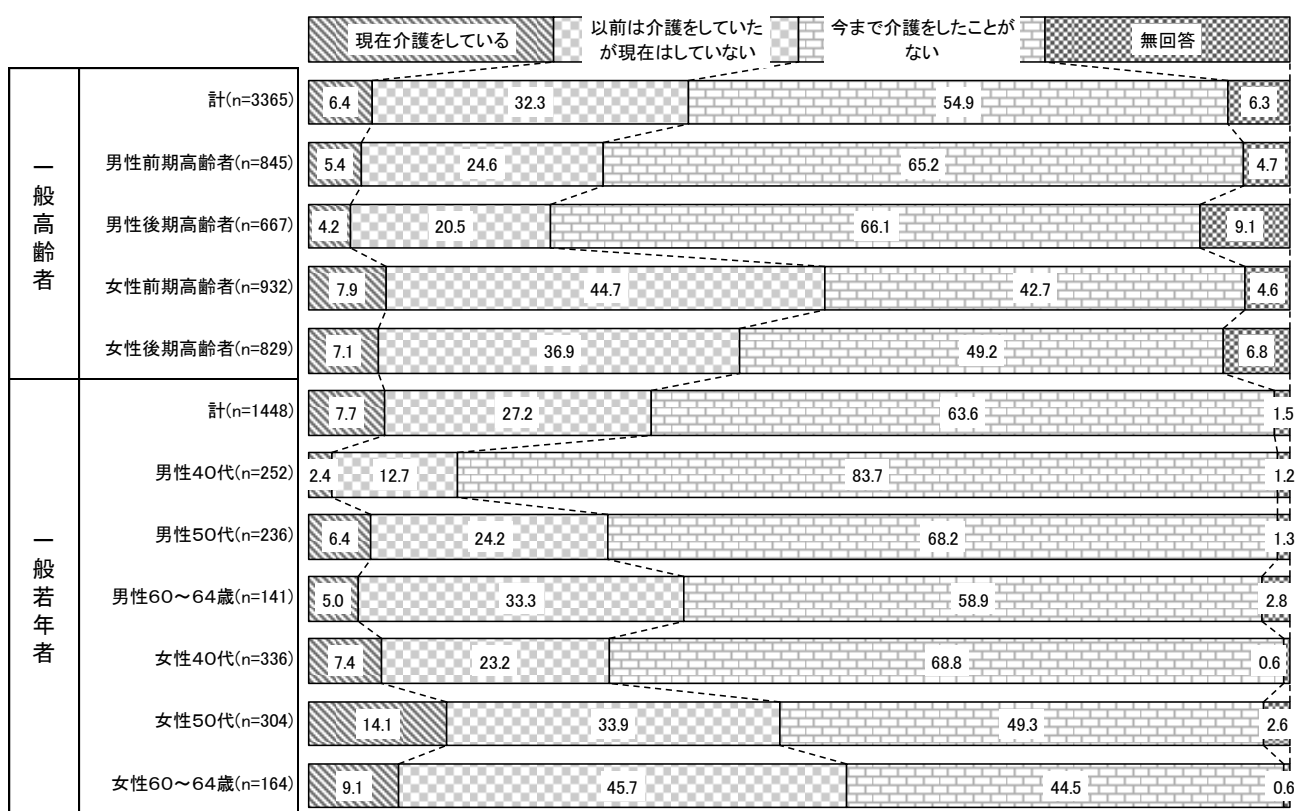
※一般若年者の選択肢は、「現在介護をしている」「介護をした経験がある」「介護をした経験はない」

一般高齢者では、「現在介護をしている」が 6.4%、「以前は介護をしていたが現在はしていない」が 32.3%、「今まで介護をしたことがない」が 54.9%となっている。性年代別でみると、男女とも現在、過去含め介護経験者は前期高齢者の方が高く、また、男性に比べ女性の方が介護経験割合は高い。

一般若年者では、「現在介護をしている」が 7.7%、「介護をした経験がある」が 27.2%、「介護をした経験はない」が 63.6%となっている。性年代別でみると、男性、女性ともに、年齢が上がるにつれ、「現在介護をしている」「介護をした経験がある」を合計した、介護経験者の割合は高くなっている。「現在介護をしている」は、女性 50 歳代で 14.1%と高くなっている。

図表 III. 4. 2 8 家族介護の経験

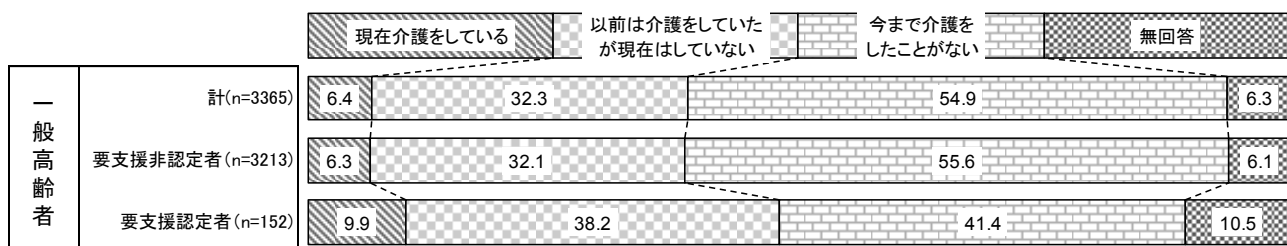
(%)



一般高齢者について、要支援認定者と要支援非認定者別にみると、要支援認定者では「現在介護をしている」が 9.9%、「以前は介護をしていたが現在はしていない」が 38.2%となっている。

図表 III. 4. 2 9 家族介護の経験：要支援認定者/要支援非認定者別

(%)



③主介護者の性・年齢

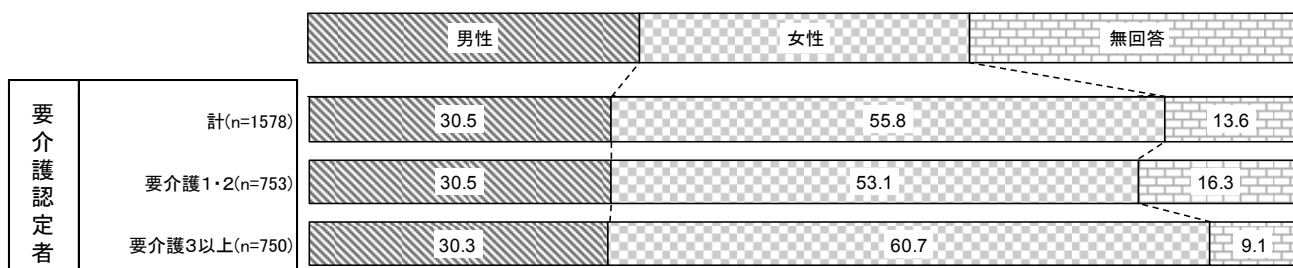
1) 性別

【03 要介護認定者 問 36】

要介護認定者における、主な介護者の性別は、「男性」が 30.5%、「女性」が 55.8%である。

図表 III. 4. 3 0 主介護者の性別

(%)



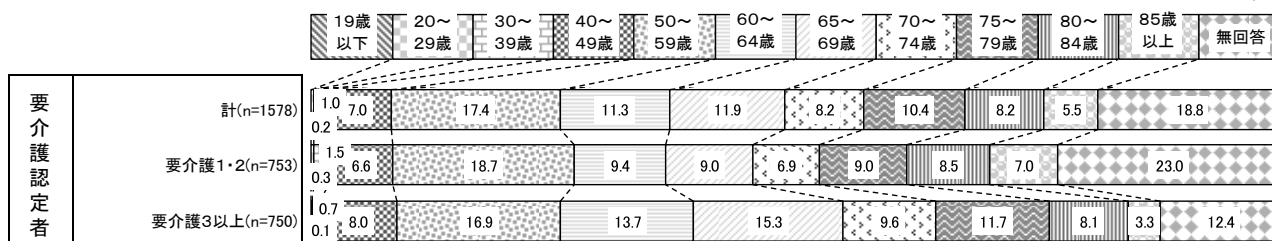
2) 年齢

【03 要介護認定者 問 36】

主な介護者の年齢は、「50～59歳」が 17.4%と最も多く、次いで「65～69歳」(11.9%)、「60～64歳」(11.3%)となっている。65歳以上の介護者は 44.2%を占める。また、要介護3以上では、65歳以上の介護者が 48.0%と約半数を占めている。

図表 III. 4. 3 1 主介護者の年齢

(%)



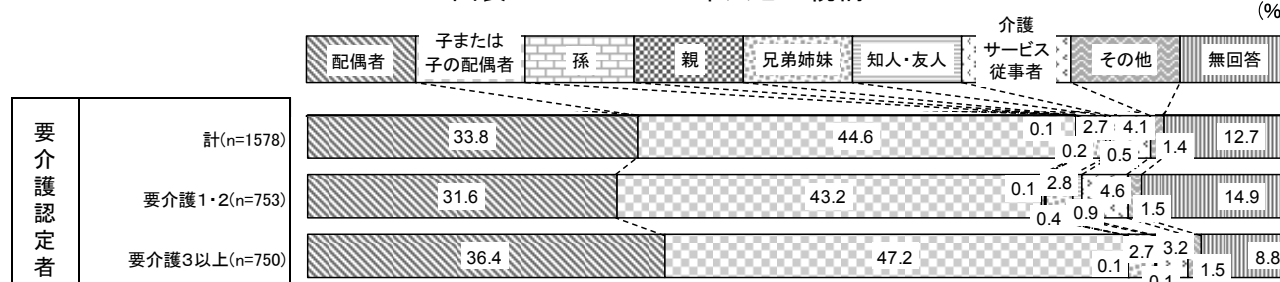
④本人との続柄

【03 要介護認定者 問 37】

主な介護者の続柄は、「子または子の配偶者」が 44.6%、「配偶者」が 33.8%となっている。

図表 III. 4. 3 2 本人との続柄

(%)



⑤希望する介護者

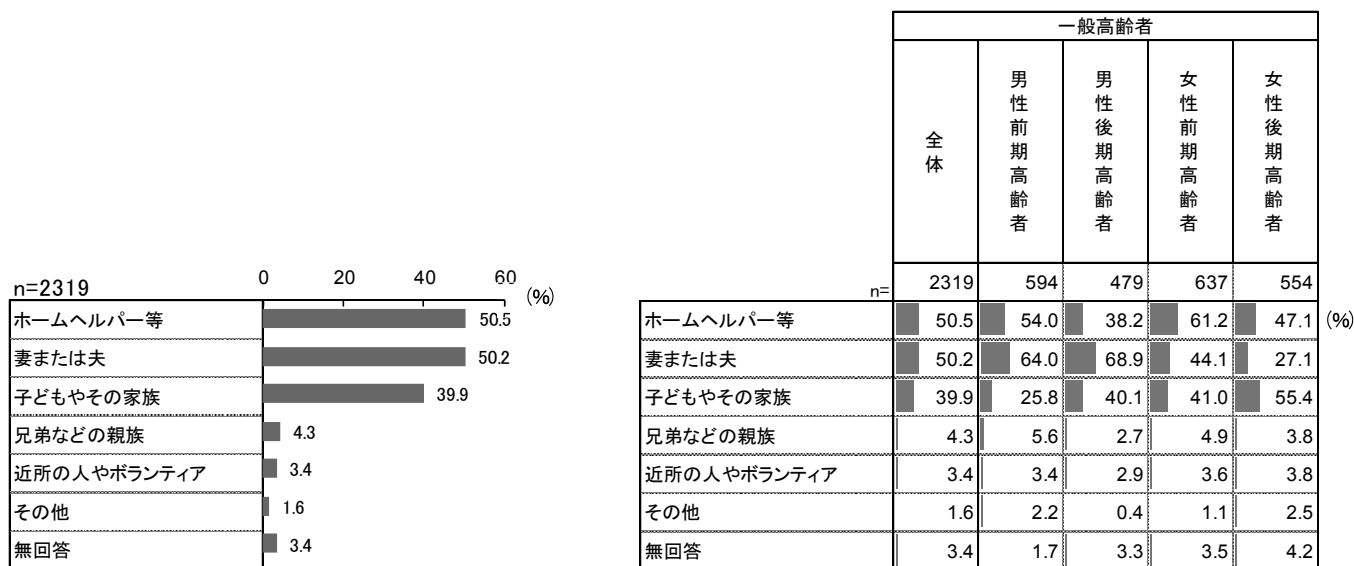
【01 一般高齢者 問 27-1】 【02 単身高齢者 問 40-1】

介護が必要となったとき希望する介護者については、一般高齢者では、「ホームヘルパー等」(50.5%)、「妻または夫」(50.2%)が同程度となっている。性年代別にみると、前期高齢者・後期高齢者に関わらず、女性に比べ男性では、「妻または夫」の割合が高い。

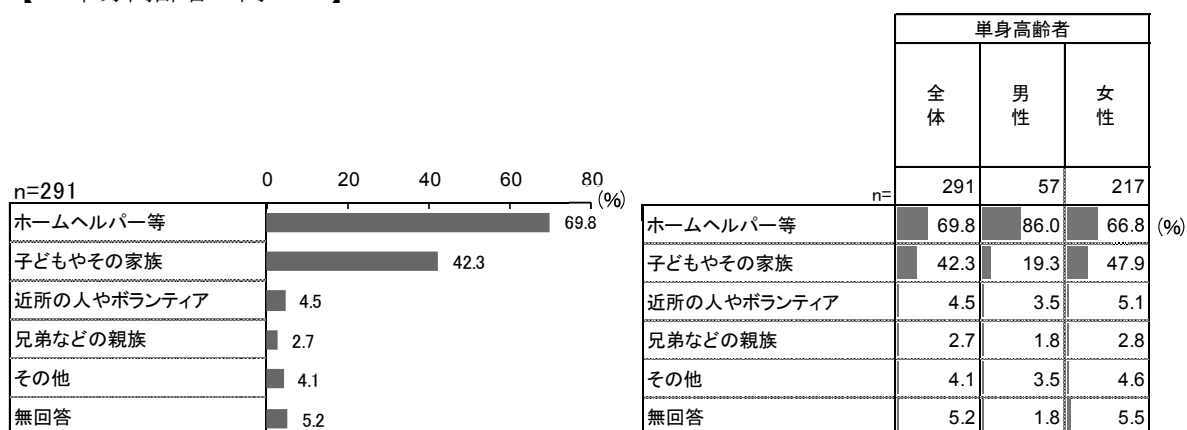
単身高齢者では、「ホームヘルパー等」が69.8%と最も高く、次いで「子どもやその家族」(42.3%)となっている。性別にみると、男性では「ホームヘルパー等」(86.0%)、女性では「子どもやその家族」(47.9%)の割合が高い。

図表 III. 4. 3 3 希望する介護者（複数回答）【ベース：自宅生活希望者】

【01 一般高齢者 問 27-1】



【02 単身高齢者 問 40-1】



⑥家族に介護が必要になった場合の対応

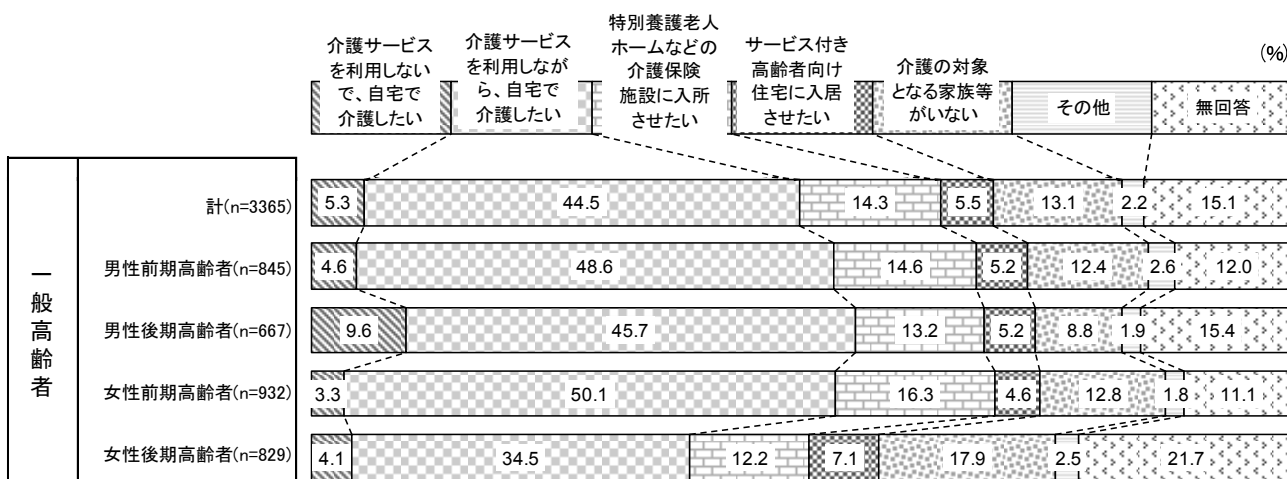
1) 家族等に介護が必要になった場合、どのようにしたいか

【01 一般高齢者 問 28】

家族等に介護が必要になった場合、「介護サービスを利用しながら、自宅で介護したい」が44.5%と最も高い。

性年代別にみると、男性後期高齢者では「介護サービスを利用しないで、自宅で介護したい」(9.6%)が他の性年代と比べ高い。

図表 III. 4. 3 4 家族等に介護が必要になった場合、どのようにしたいか

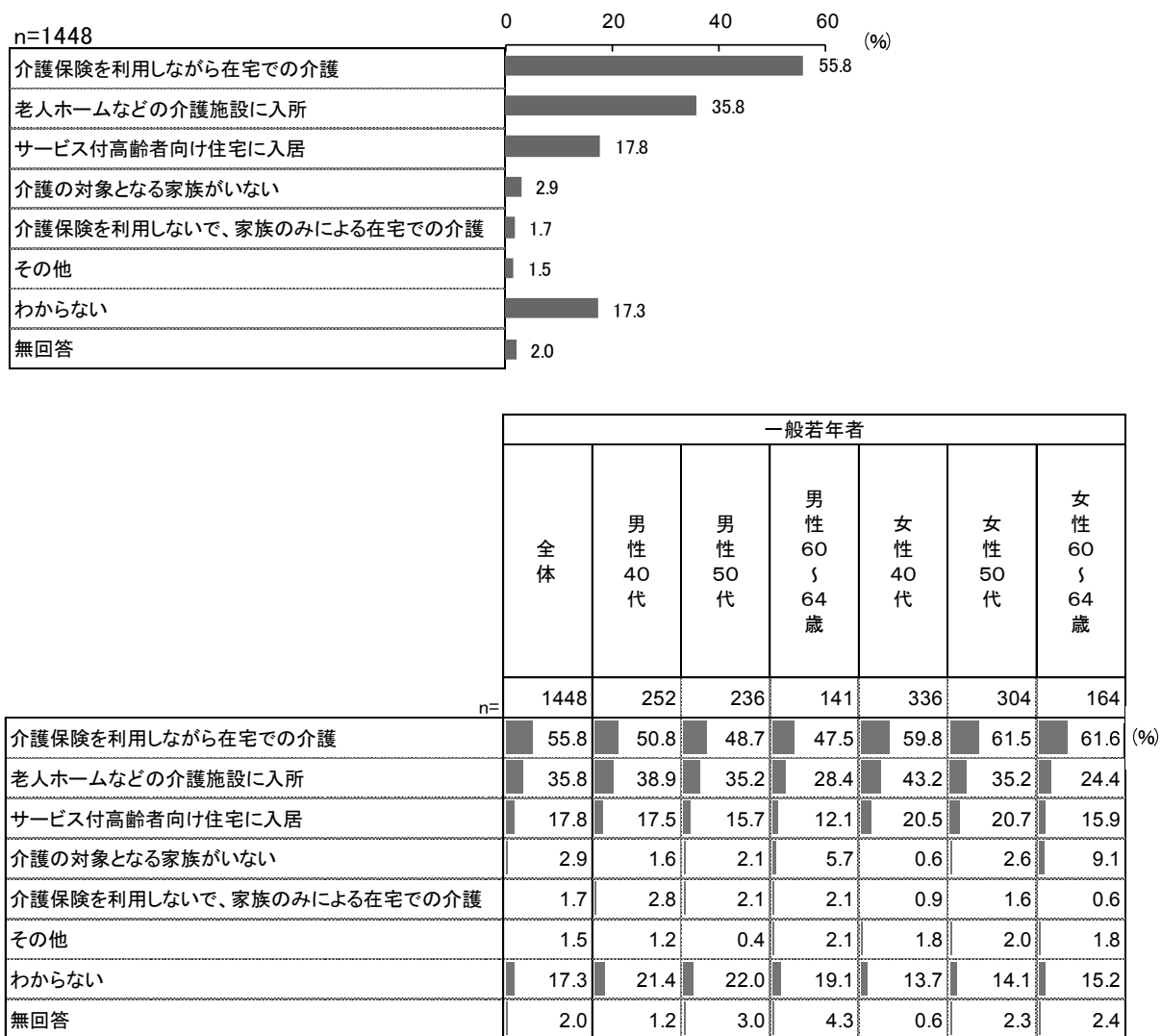


2) 家族等に介護が必要になった場合、どのような介護をしたいか

【04 一般若年者 問 26】

家族の介護が必要になった時の希望については、「介護保険を利用しながら在宅での介護」を希望する割合が 55.8%と半数を超え、次いで「老人ホームなどの介護施設に入所」が 35.8%となっている。

図表 III. 4. 3 5 家族等に介護が必要になった場合、どのような介護をしたいか（複数回答）

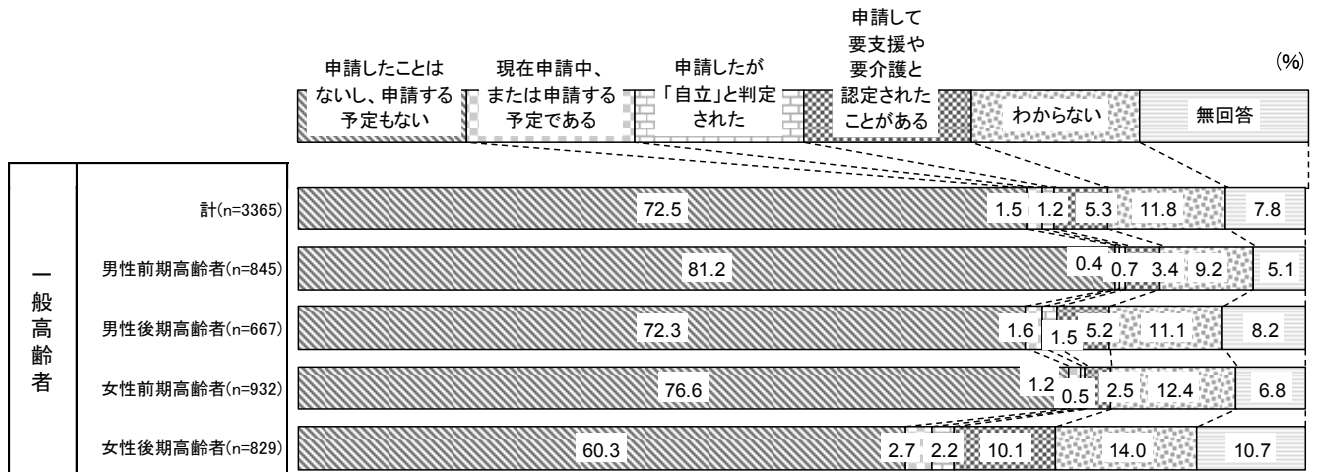


⑦要介護認定申請の経験

【01 一般高齢者 問 29】

要介護認定については、「申請したことはないし、申請する予定もない」が 72.5%と7割以上となっている。性年代別にみると、女性後期高齢者では「申請したことはないし、申請する予定もない」(60.3%)の割合が他の性年代と比べ低い。

図表 III. 4. 3 6 要介護認定申請の経験

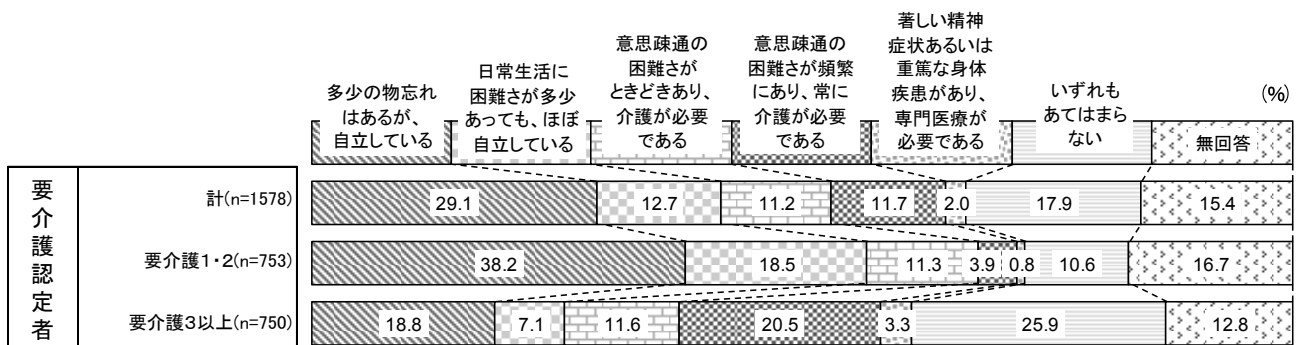


⑧主介護者から見た本人の認知症の程度

【03 要介護認定者 問 38】

主な介護者から見た本人の状態については、「多少の物忘れはあるが、自立している」が 29.1%と最も高い。また、「いずれにもあてはまらない」は 17.9%となっている。要介護度別にみると、要介護1・2に比べ要介護度3以上では、「意思疎通の困難さが頻繁にあり、常に介護が必要である」(20.5%)の割合が高い。

図表 III. 4. 3 7 主介護者から見た本人の認知度



⑨在宅介護で主介護者が困ったり負担に感じていること

【03 要介護認定者 問 39】

主な介護者が困ったり負担に感じていることについては、「精神的なストレスがたまっている」が34.5%と最も高く、次いで「本人が自分の症状を正確に理解していない」(28.6%)、「身体的につらい(腰痛や肩こりなど)」(26.3%)となっている。一方、「特に困っていることはない」は7.1%にとどまっている。

図表 III. 4. 3 8 在宅介護で主介護者が困ったり負担に感じていること (複数回答)



要介護度別にみると、要介護3以上では要介護1・2と比べ、困ったり負担に感じていることが多い状況が伺える。

図表 III. 4. 39 在宅介護で主介護者が困ったり負担に感じていること（複数回答）：要介護度別

	要介護認定者			n=
	全体	要介護1・2	要介護3以上	
	1578	753	750	
精神的なストレスがたまっている	34.5	29.1	41.3	(%)
本人が自分の症状を正確に理解していない	28.6	24.7	34.3	
身体的につらい(腰痛や肩こりなど)	26.3	19.7	34.8	
自分の自由になる時間が持てない	24.3	16.1	34.0	
本人の言動が理解できないことがある	23.7	20.8	27.7	
日中、本人だけの時間があることに不安を感じる	23.2	23.1	24.0	
経済的につらいと感じるときがある	21.2	14.7	28.1	
先々のことを考える余裕がない	21.0	15.1	27.7	
自分の用事・都合をすませることができない	20.8	14.5	28.4	
現在の状況を理解してもらうことが難しい	20.2	16.3	24.8	
睡眠時間が不規則になり、健康状態がおもわしくない	15.3	9.7	21.6	
来客者に気を遣う	11.4	10.2	13.3	
症状への対応方法がわからない	9.2	7.3	11.6	
適切な介護方法がわからない	8.6	7.7	9.5	
サービスを思うように利用できない、サービスが足りない	7.6	6.4	9.2	
介護を家族の他の人に任せてよいか、悩むことがある	7.2	5.6	8.9	
介護を協力してもらえない	5.2	3.6	7.2	
受診を勧めても同意してもらえない	5.1	4.9	5.5	
介護について、誰に、どのように相談すればよいか、わからない	3.7	3.1	4.3	
介護することに対して、周囲の理解が得られない	3.2	1.5	4.8	
サービスを利用したら本人の状態が悪化した(ことがある)	2.9	0.9	4.9	
介護の方針について、家族・親戚との意見が合わない	2.5	2.1	3.2	
徘徊するため目が離せない	2.3	1.3	3.3	
ケアマネジャーとの関係がうまくいかない	1.7	1.3	2.1	
サービス事業者との関係がうまくいかない	1.6	1.1	2.1	
その他	3.6	2.5	4.4	
特に困っていることはない	7.1	8.5	5.3	
無回答	26.0	29.9	19.5	

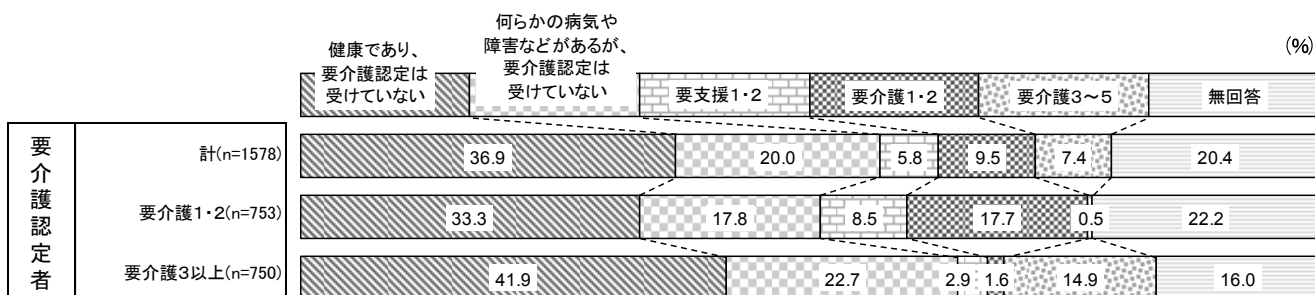
⑩主介護者の要介護度（認定経験）

【03 要介護認定者 問 40】

主な介護者が要介護認定を受けているかについては、「健康であり、要介護認定は受けていない」が36.9%と最も高く、次いで「何らかの病気や障害などがあるが、要介護認定は受けていない」(20.0%)となっている。しかし、「要支援1・2」が5.8%、「要介護1・2」が9.5%、「要介護3～5」が7.4%である。

要介護度別にみると、要介護1・2に比べ要介護3以上では、「何らかの病気や障害などがあるが、要介護認定は受けていない」の割合が22.7%と高い。

図表 III. 4. 4 0 主介護者の要介護度（認定経験）



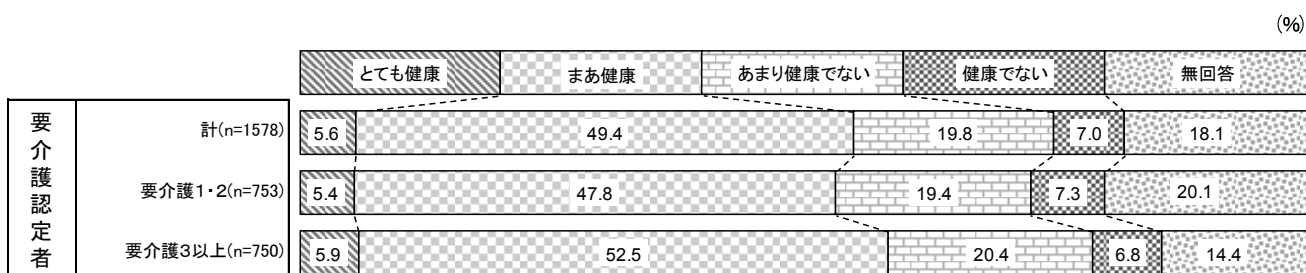
⑪主介護者の現在の健康状態

【03 要介護認定者 問 41】

主な介護者の健康状態については、「とても健康」(5.6%)、「まあ健康」(49.4%)を合わせると、55.0%は健康であると答えている。

要介護度別にみると、要介護3以上に比べ要介護1・2では、健康の割合が低い。

図表 III. 4. 4 1 主介護者の現在の健康状態



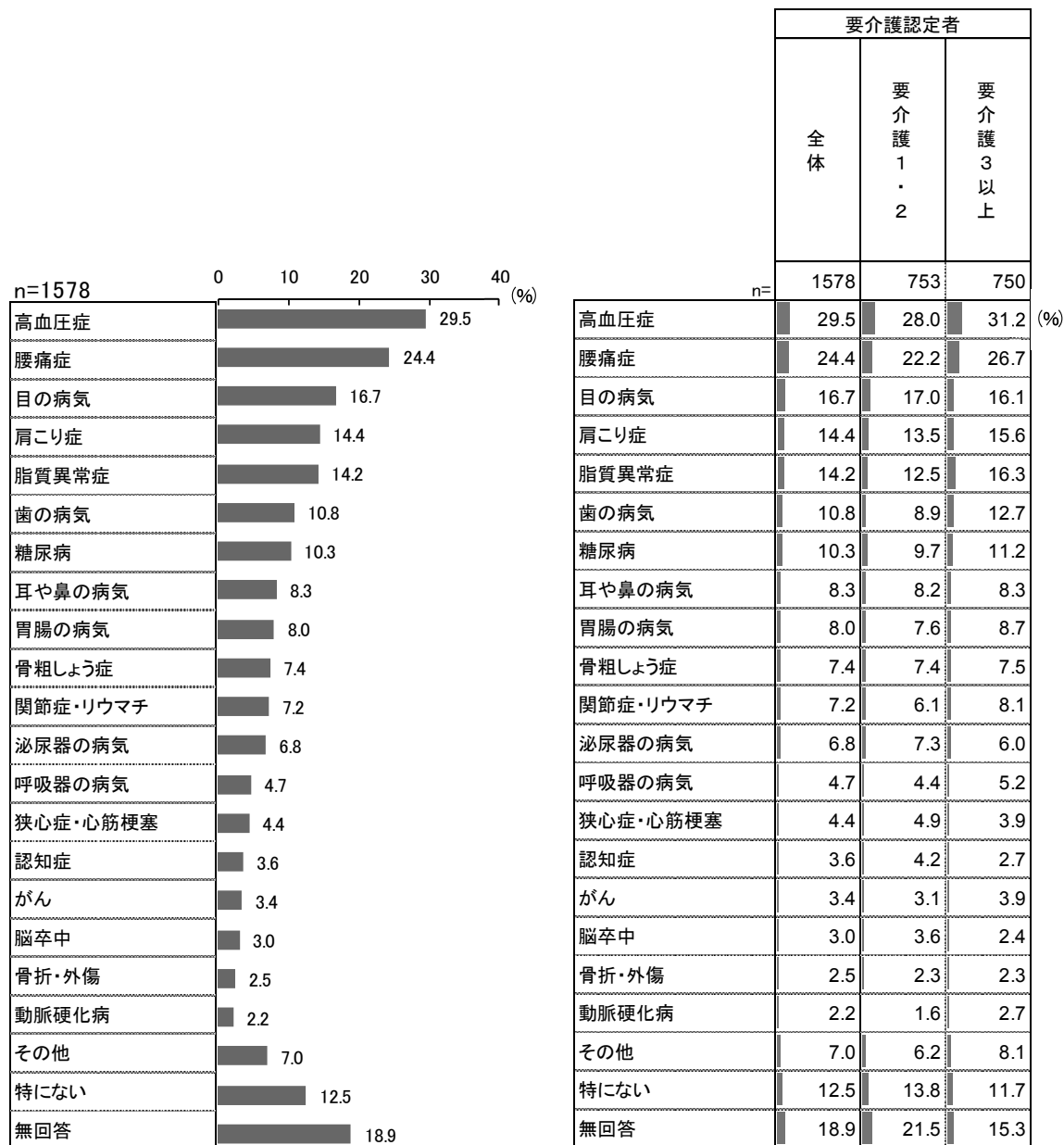
⑫主介護者がかかっている傷病（病気、ケガ）

【03 要介護認定者 問 42】

主な介護者がかかっている傷病については、「高血圧症」が 29.5%と最も高く、次いで「腰痛症」(24.4%)、「目の病気」(16.7%)となっている。

要介護度別にみると、要介護度 1・2 に比べ要介護 3 以上では、傷病にかかっている割合が高い。

図表 III. 4. 4 2 主介護者がかかっている傷病（病気、ケガ）（複数回答）

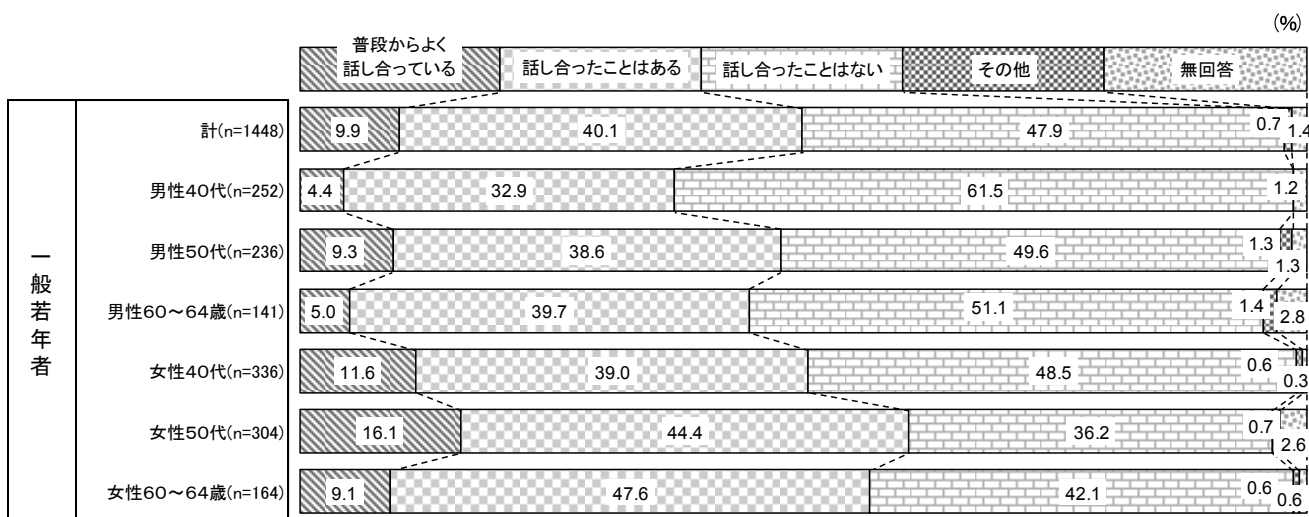


⑬介護について家族等と話し合う機会

【04 一般若年者 問 23】

介護について家族等と話し合いについては、「普段からよく話し合っている」は 9.9%、「話し合ったことはある」は 40.1%、「話し合ったことはない」は 47.9%である。性年代別にみると、女性 50 代で「普段からよく話し合っている」が 16.1%、「話し合ったことはある」が 44.4%となっている。

図表 III. 4. 4 3 介護について家族等と話し合う機会

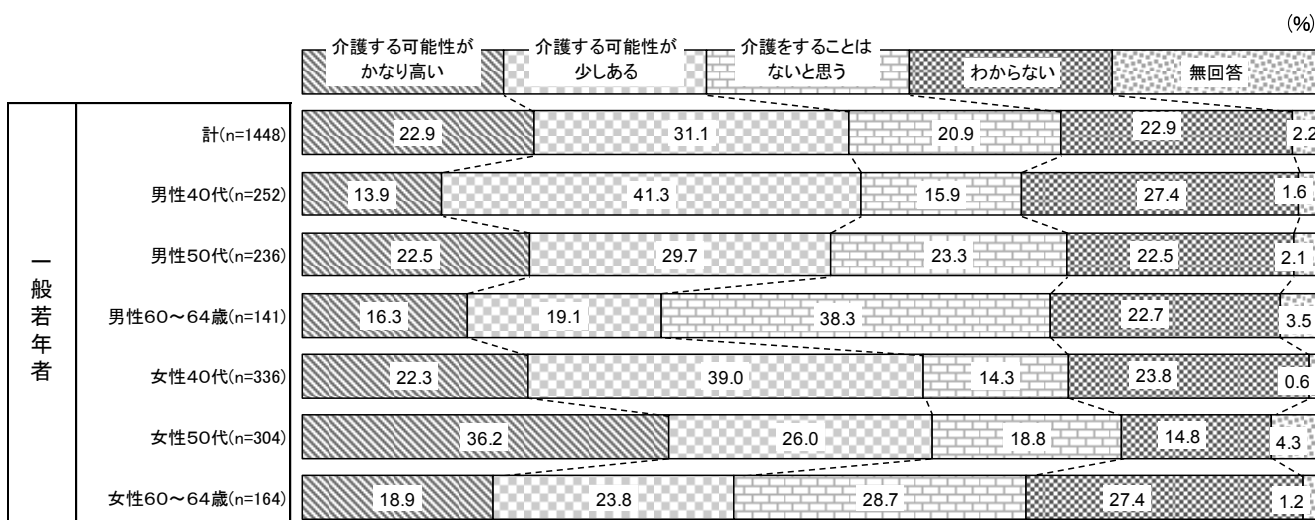


⑭近いうちに家族等の介護をする見込み

【04 一般若年者 問 24】

近いうちに家族等を、「介護をする可能性がかなり高い」は 22.9%、「介護する可能性が少しある」は 31.1%、「介護をするのではないと思う」は 20.9%となっている。性年代別にみると、男女ともに 60～64 歳では、「介護する可能性がかなり高い」「介護する可能性が少しある」の割合が低い。

図表 III. 4. 4 4 近いうちに家族等の介護をする見込み



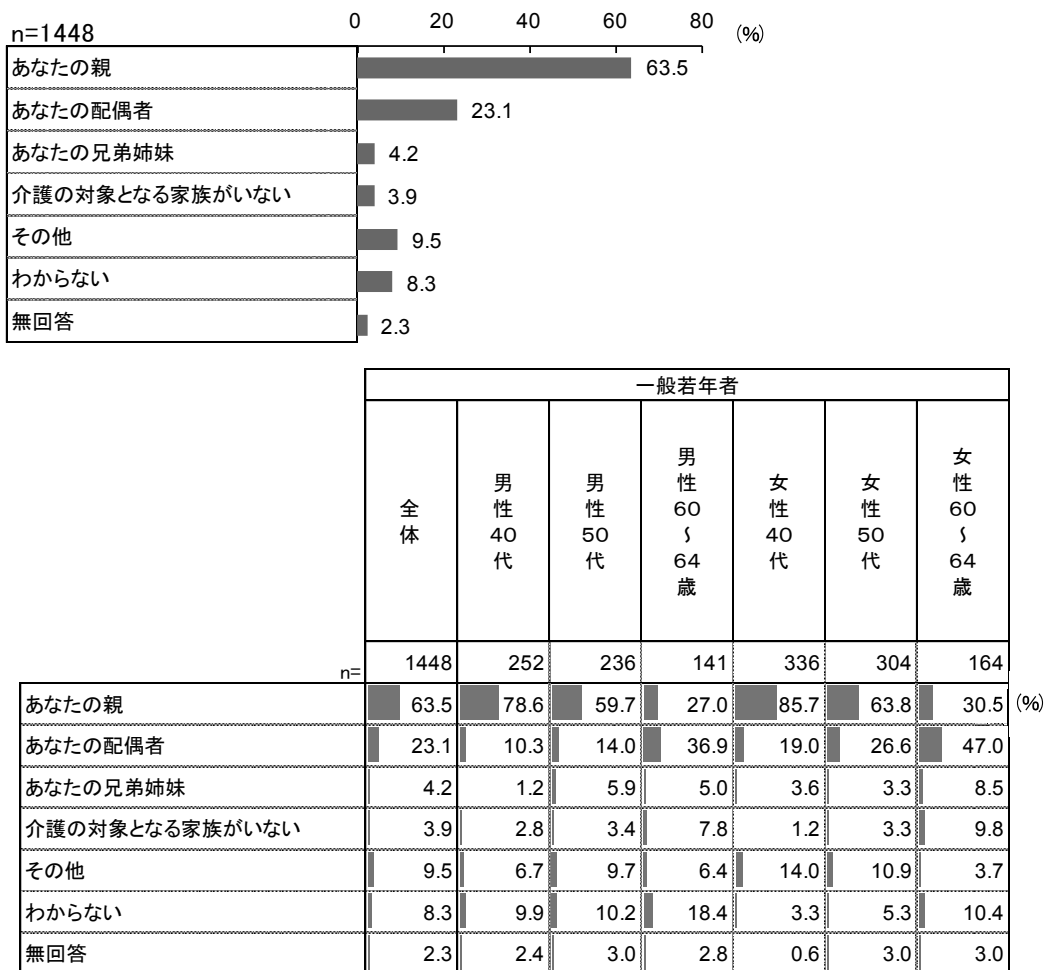
⑮介護する可能性のある相手

【04 一般若年者 問 25】

介護する可能性のある相手については、「あなたの親」が 63.5%と最も高く、次いで「あなたの配偶者」(23.1%)となっている。

性年代別にみると、男女ともに60～64歳では、「あなたの配偶者」の割合が高い。

図表 III. 4. 4 5 介護する可能性のある相手（複数回答）

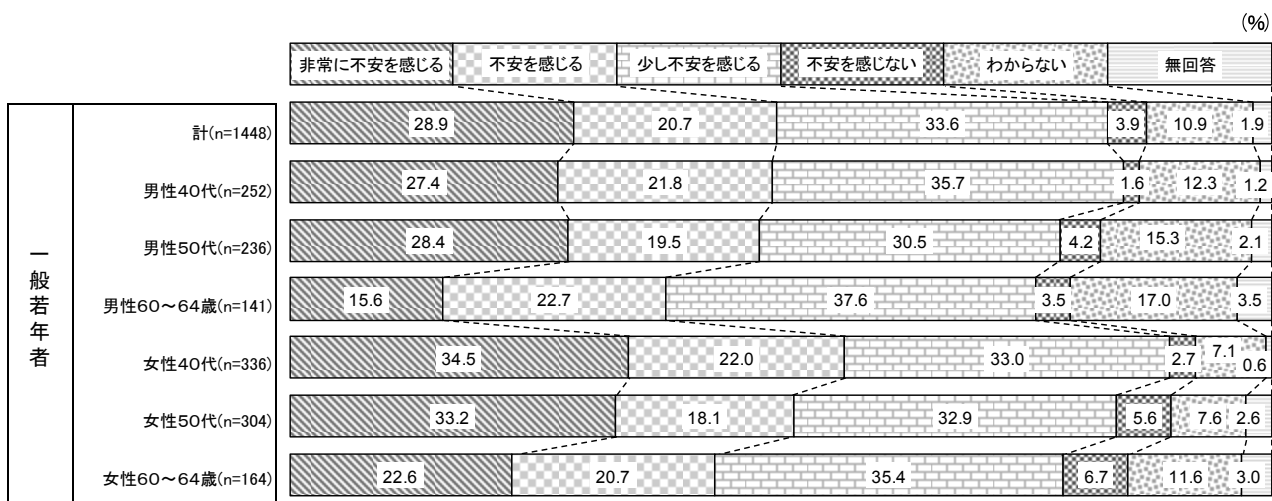


⑩家族等の介護への不安

【04 一般若年者 問 27】

家族等の介護をすることについては、「非常に不安を感じる」(28.9%)、「不安を感じる」(20.7%)を合わせると、約半数(49.6%)が不安を感じている。性年代別にみると、男性・女性ともに、年代が若いほど不安を感じている割合が高い。

図表 III. 4. 4 6 家族等の介護への不安



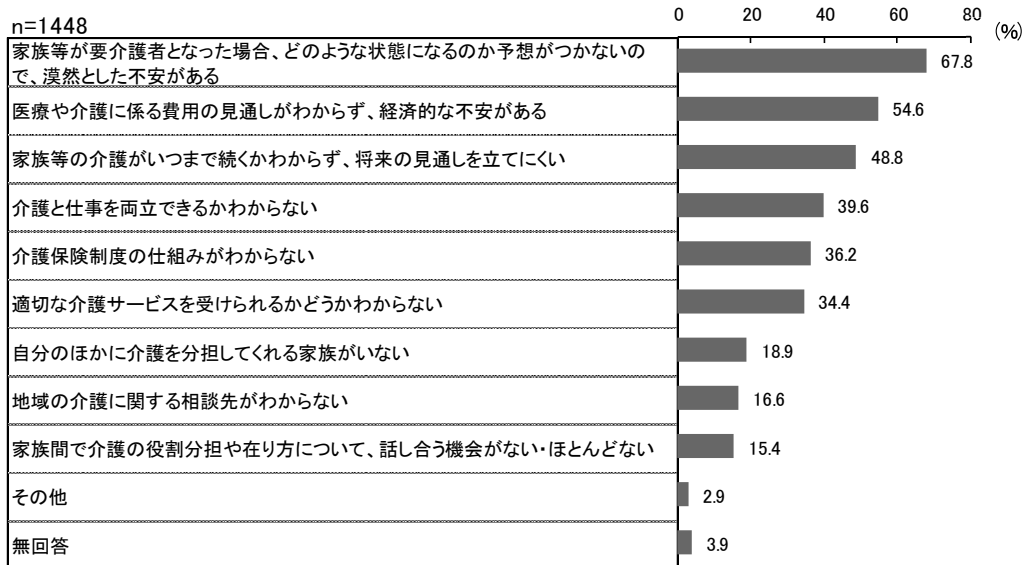
⑰介護についての不安

【04 一般若年者 問 28】

介護について不安を感じることは、「家族等が要介護者となった場合、どのような状態になるのか予想がつかない」で、漠然とした不安がある」が 67.8%と最も高く、次いで「医療や介護に係る費用の見通しがわからず、経済的な不安がある」(54.6%)、「家族等の介護がいつまで続くかわからず、将来の見通しを立てにくい」(48.8%)となっている。

性年代別にみると、「家族等の介護がいつまで続くかわからず、将来の見通しを立てにくい」、「介護と仕事を両立できるかわからない」は、年代が若いほど割合が高い。

図表 III. 4. 4 7 介護についての不安 (複数回答)



	一般若年者						
	全体	男性 40代	男性 50代	男性 60歳～64歳	女性 40代	女性 50代	女性 60歳～64歳
n=	1448	252	236	141	336	304	164
家族等が要介護者となった場合、どのような状態になるのか予想がつかないで、漠然とした不安がある	67.8	77.0	67.8	66.0	71.1	60.9	62.2
医療や介護に係る費用の見通しがわからず、経済的な不安がある	54.6	61.1	53.8	46.1	62.5	49.0	48.2
家族等の介護がいつまで続くかわからず、将来の見通しを立てにくい	48.8	56.7	50.4	33.3	51.2	48.7	43.9
介護と仕事を両立できるかわからない	39.6	52.0	41.1	17.0	47.6	40.1	21.3
介護保険制度の仕組みがわからない	36.2	43.3	34.7	30.5	40.5	33.2	29.3
適切な介護サービスを受けられるかどうかわからない	34.4	39.3	33.1	29.8	33.3	32.9	37.2
自分のほかに介護を分担してくれる家族がない	18.9	12.7	18.6	17.0	18.2	20.4	29.9
地域の介護に関する相談先がわからない	16.6	21.4	16.1	9.9	16.7	16.4	15.9
家族間で介護の役割分担や在り方について、話し合う機会がない・ほとんどない	15.4	25.4	14.8	12.1	16.7	9.9	10.4
その他	2.9	0.8	1.3	2.8	4.5	3.3	4.9
無回答	3.9	4.4	3.4	6.4	1.2	5.3	3.7

(6) 介護保険制度

①保険料と介護サービスの関係について

【01 一般高齢者 問 31】【02 単身高齢者 問 41】【03 要介護認定者 問 29】

【04 一般若年者 問 34】

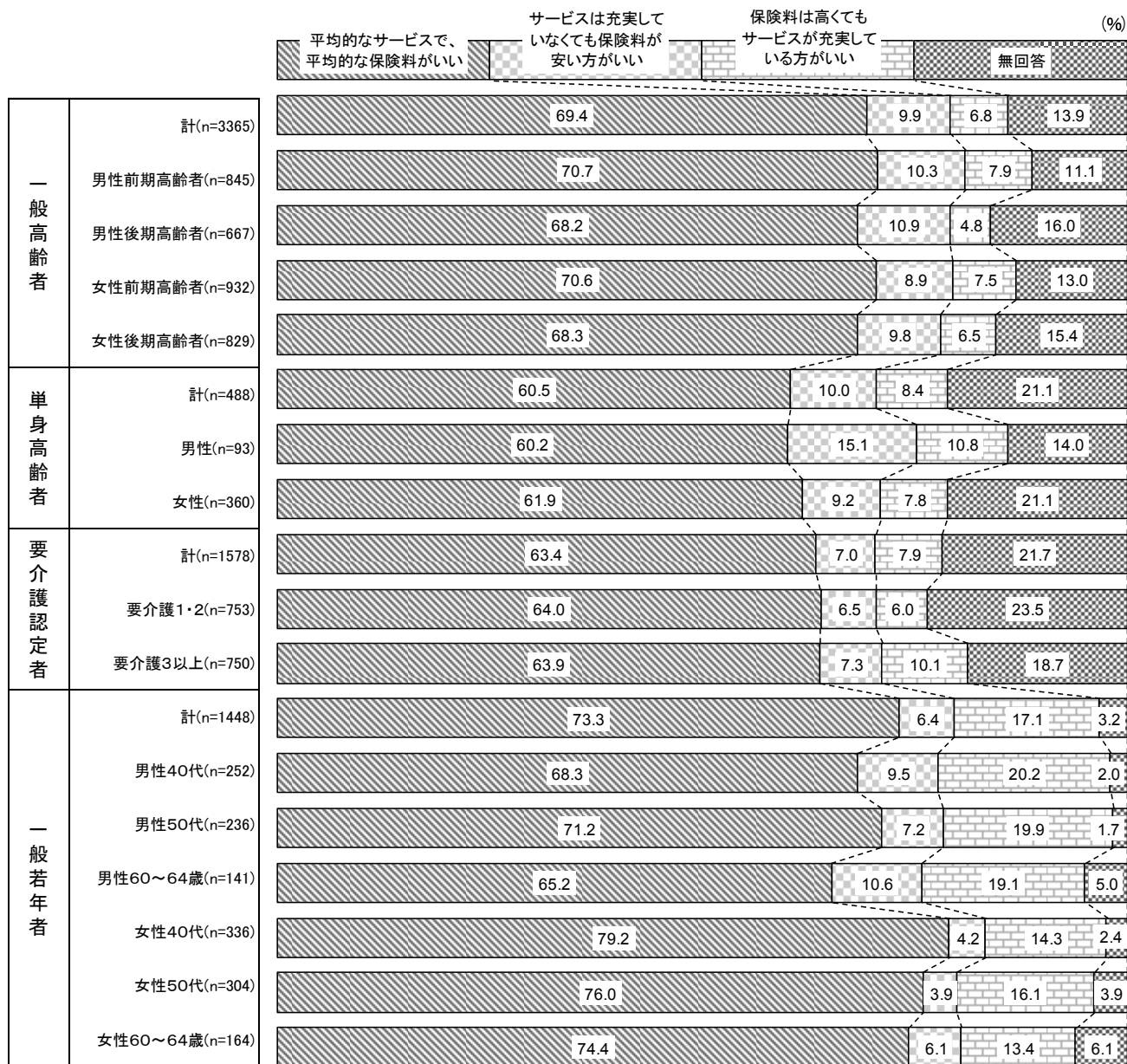
介護保険のサービス水準と保険料についての考えについては、一般高齢者では、「平均的なサービスで、平均的な保険料がいい」は69.4%である。

単身高齢者では、「平均的なサービスで、平均的な保険料がいい」は60.5%である。

要介護者認定者では「平均的なサービスで、平均的な保険料がいい」が63.4%と最も高く、「保険料は高くてもサービスが充実している方がいい」は7.9%、「サービスは充実していても保険料が安い方がいい」は7.0%となっている。

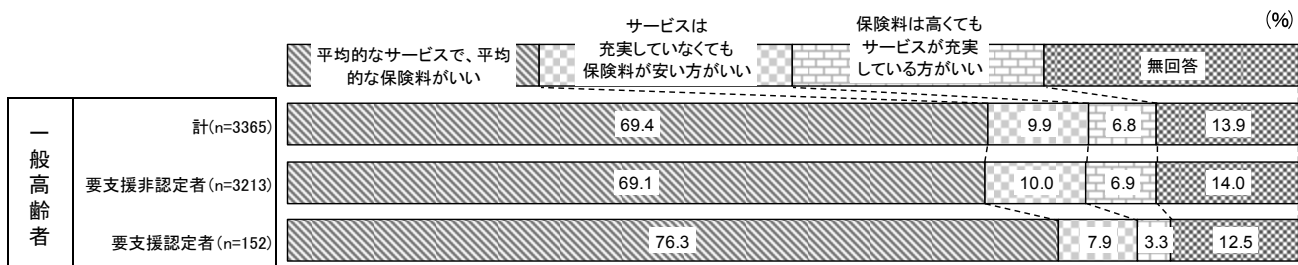
一般若年者では、「平均的なサービスで、平均的な保険料がいい」は73.3%となっているが、「保険料は高くてもサービスが充実している方がいい」(17.1%)が「サービスは充実していても保険料が安い方がいい」(6.4%)を上回る。

図表 III. 4. 4 8 保険料と介護サービスの関係について



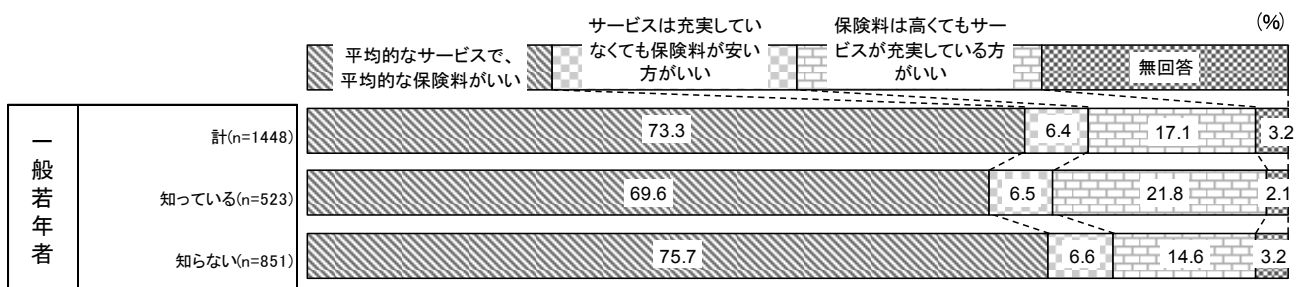
一般高齢者について、要支援認定者と要支援非認定者別にみると、要支援認定者では「平均的なサービスで、平均的な保険料がいい」が76.3%と高くなっている。

図表 III. 4. 49 保険料と介護サービスの関係について：要支援認定者/要支援非認定者別



一般若年者について、自身が納めている介護保険料の金額を知っている人と知らない人別にみると、「平均的なサービスで、平均的な保険料がいい」は知らない人の方が高く、「保険料は高くてもサービスが充実している方がいい」は知っている人の方が知らない人に比べ高い。

図表 III. 4. 50 保険料と介護サービスの関係について：介護保険料納付額の認知別



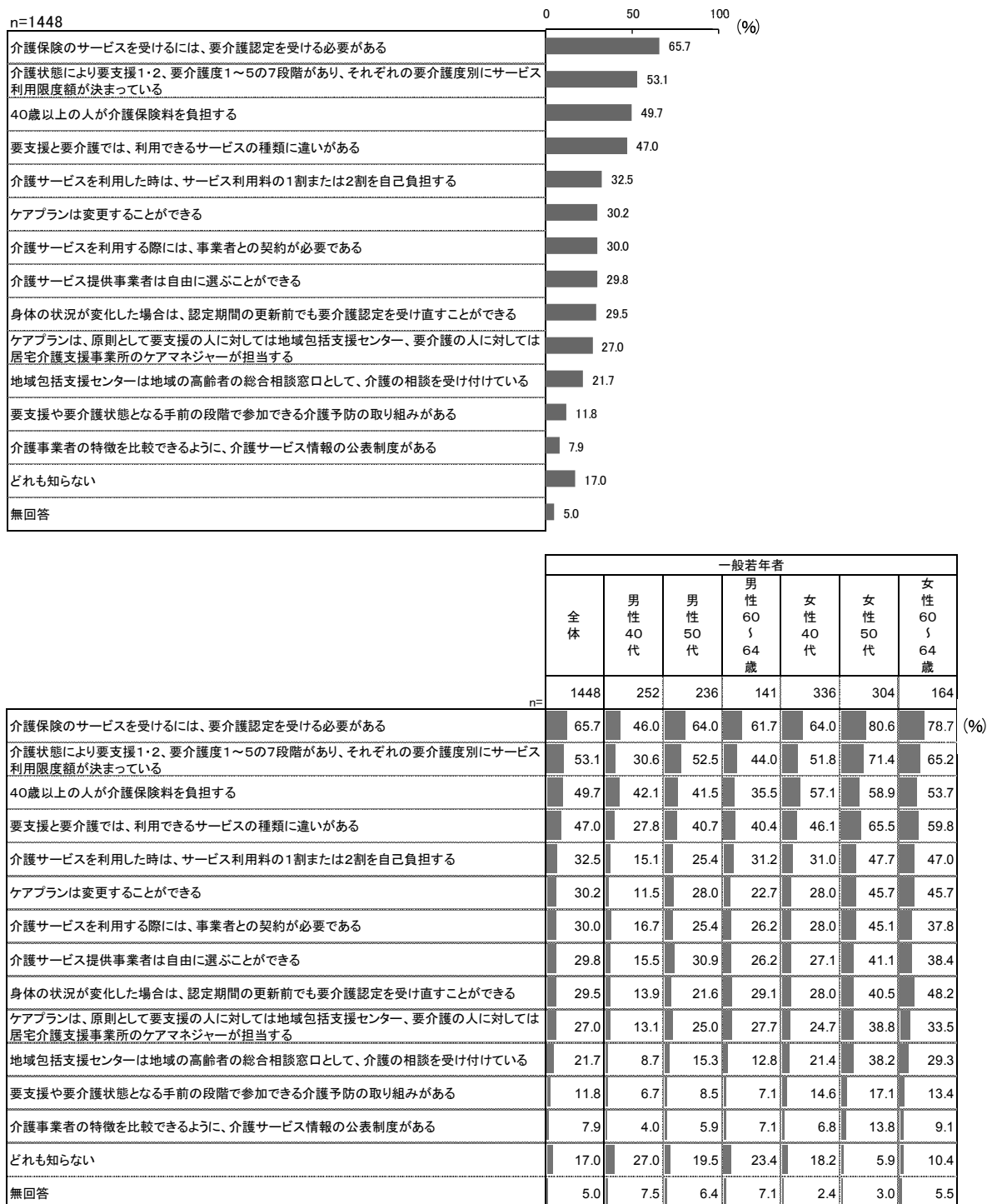
②介護保険についての認知度

【04 一般若年者 問 32】

介護保険について知っていることとしては、「介護保険のサービスを受けるには、要介護認定を受ける必要がある」が65.7%と最も高く、次いで「介護状態に比べ要支援1・2、要介護度1～5の7段階があり、それぞれの要介護度別にサービス利用限度額が決まっている」(53.1%)となっている。

性年代別にみると、男性に比べ女性で、知っている割合が高い。

図表 III. 4. 5 1 介護保険についての認知度（複数回答）

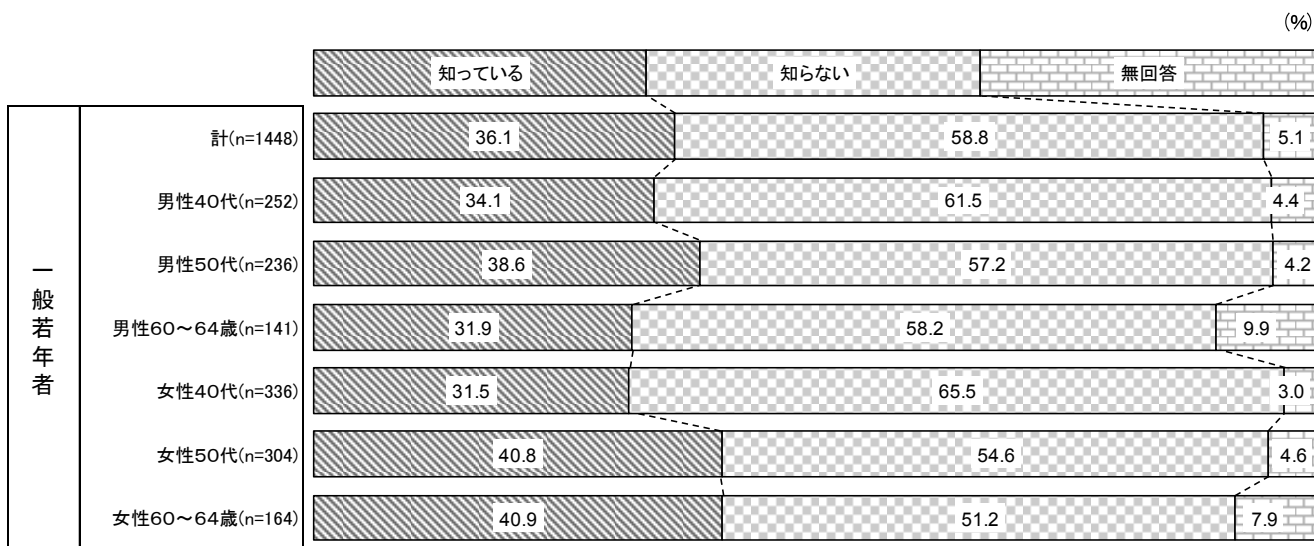


③介護保険料納付額の認知

【04 一般若年者 問 33】

介護保険料納付額については、「知っている」は 36.1%、「知らない」は 58.8%である。性年代別にみると、「知っている」割合は、男性 60～64 歳 (31.9%)、女性 40 代 (31.5%) で低い。

図表 III. 4. 5 2 介護保険料納付額の認知

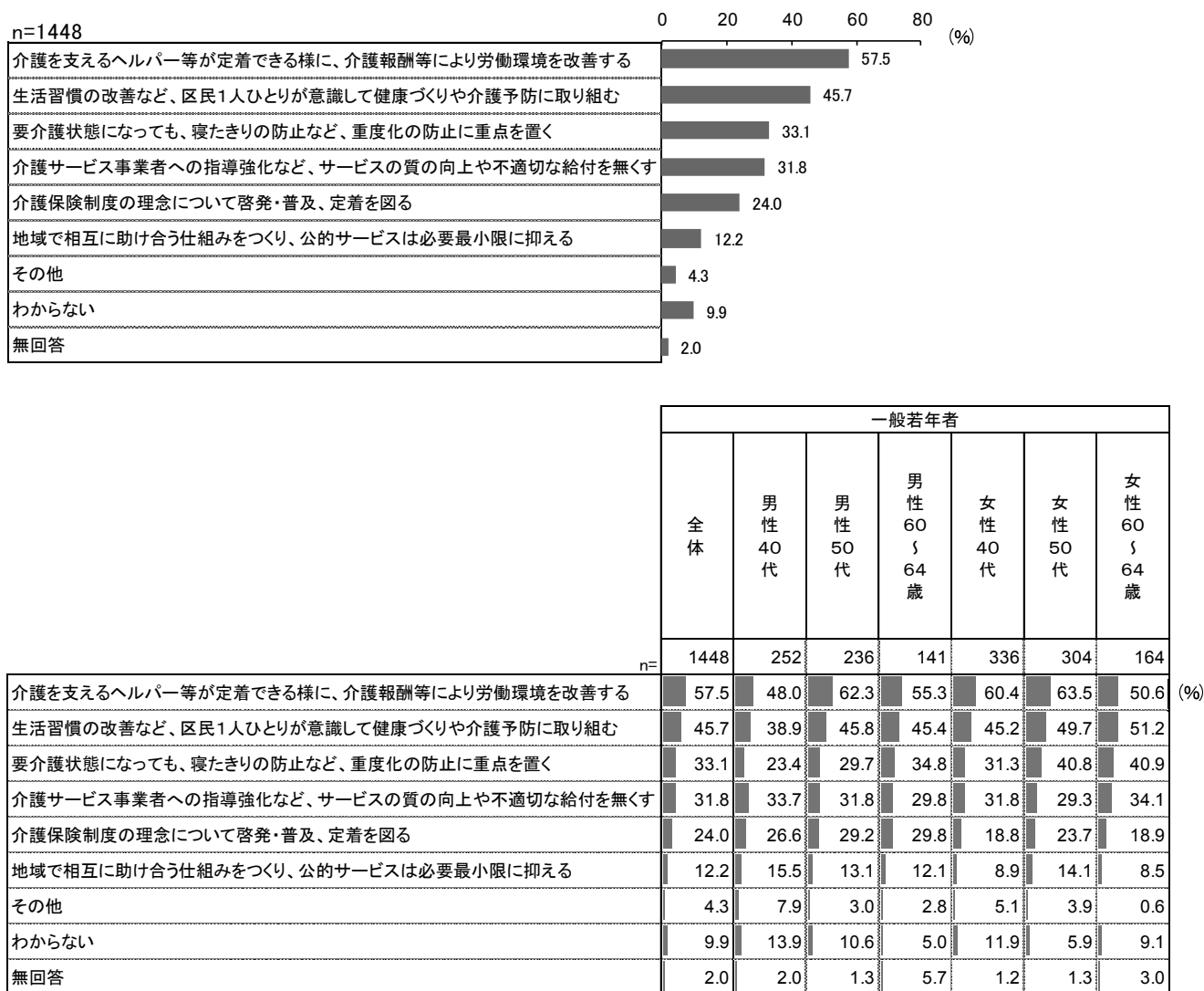


④介護保険制度を健全に維持するための取り組み

【04 一般若年者 問 35】

介護保険制度を健全に維持するために必要と思う取り組みについては、「介護を支えるヘルパー等が定着できる様に、介護報酬等により労働環境を改善する」が57.5%と最も高く、次いで「生活習慣の改善など、区民1人ひとりが意識して健康づくりや介護予防に取り組む」(45.7%)となっている。性年代別にみると、男性40代では「要介護状態になっても、寝たきりの防止など、重度化の防止に重点を置く」が23.4%と、他の性年代と比べ低い。

図表 III. 4. 5 3 介護保険制度を健全に維持するための取り組み（複数回答・3つまで）



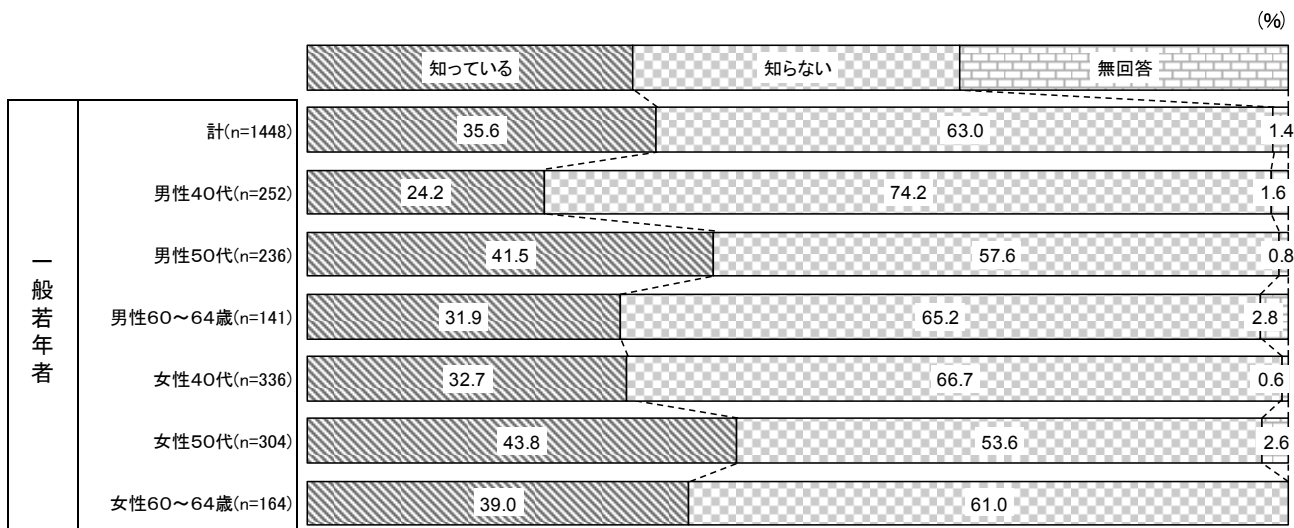
⑤ 2号被保険者の要介護認定申請の認知度

【04 一般若年者 問 19】

40歳から64歳の方が特定疾病に該当する場合、要介護認定の申請ができることを、「知っている」は35.6%、「知らない」は63.0%である。

性年代別にみると、男性40代では、「知らない」の割合が74.2%と他の性年代と比べ高い。

図表 III. 4. 5 4 2号被保険者の要介護認定申請の認知度



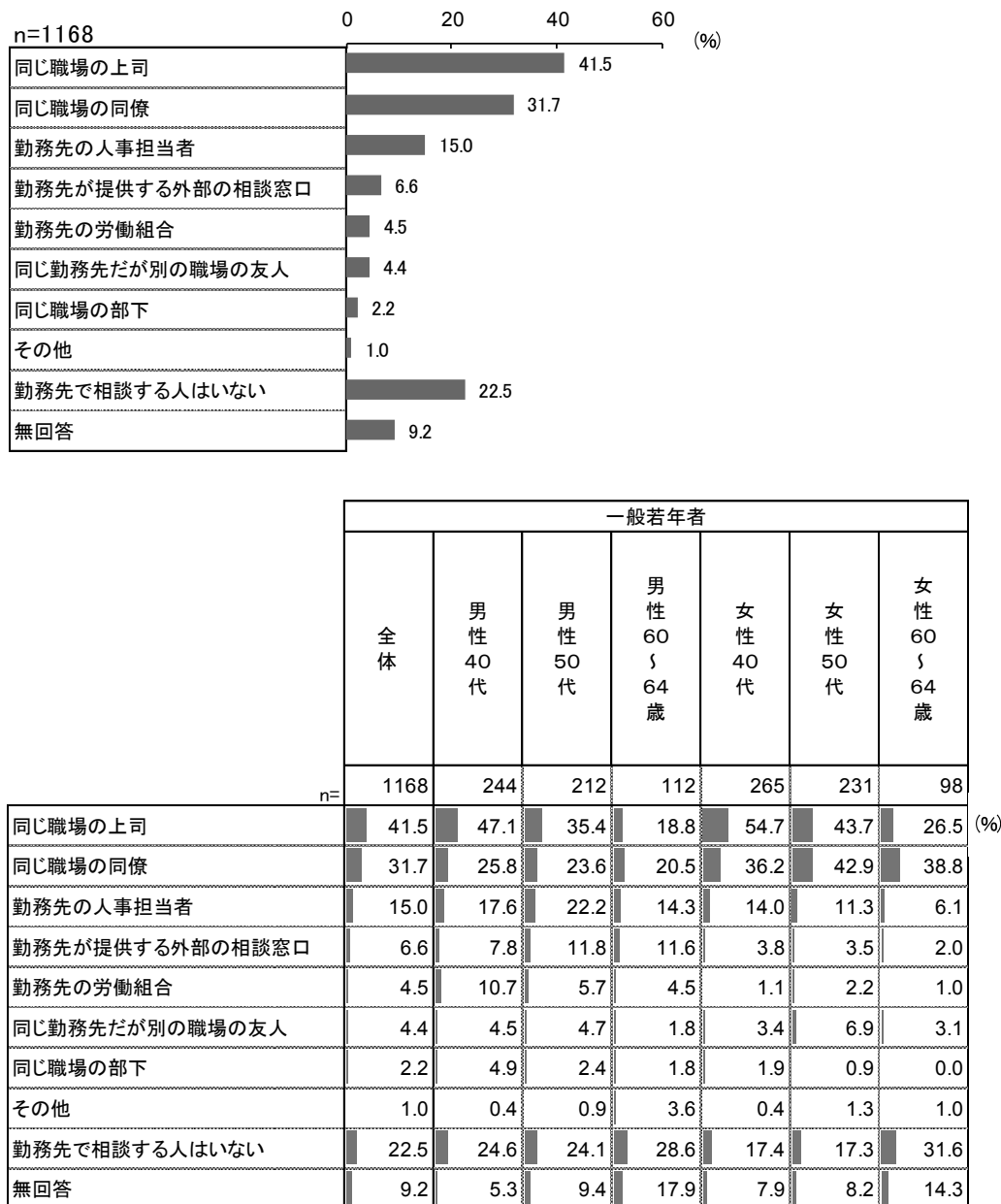
⑥勤務先での相談相手

【04 一般若年者 問 29】

一般若年者の就業者で、勤務先で介護について相談する時の相手は、「同じ職場の上司」が41.5%と最も高く、次いで「同じ職場の同僚」(31.7%)、「勤務先の人事担当者」(15.0%)となっている。一方、「勤務先で相談する人はいない」も22.5%となっている。

「同じ職場の上司」は年齢が上がるにつれ低くなっている。

図表 III. 4. 5 5 勤務先での相談相手（複数回答）【ベース：就業者（家事専業・無職以外）】

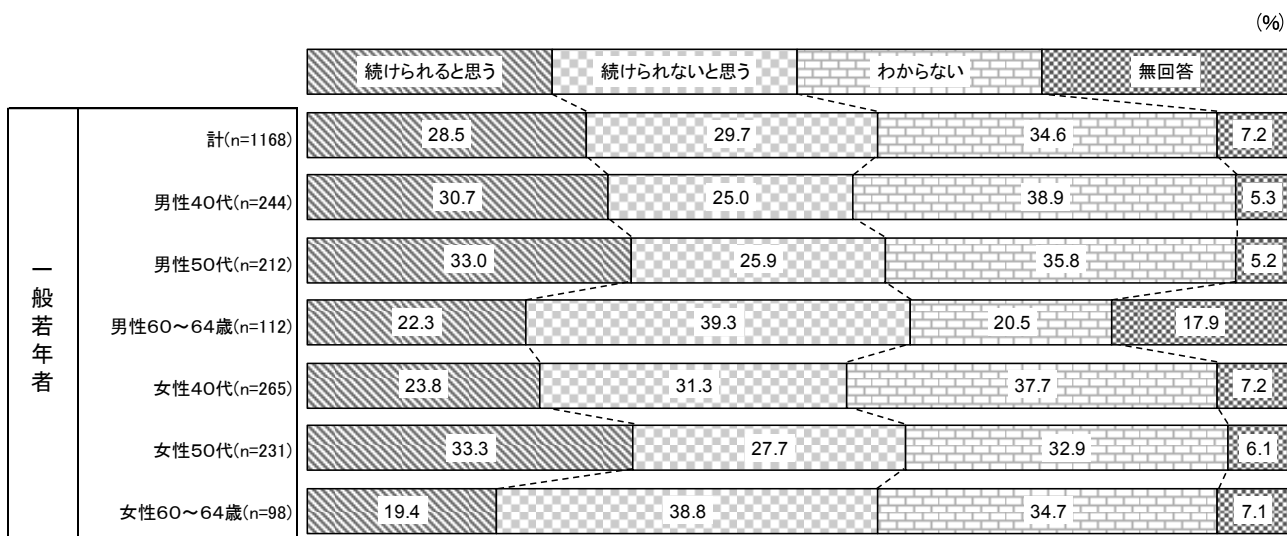


⑦家族等の介護をする際、現在の勤務先で働き続けられるか

【04 一般若年者 問 30】

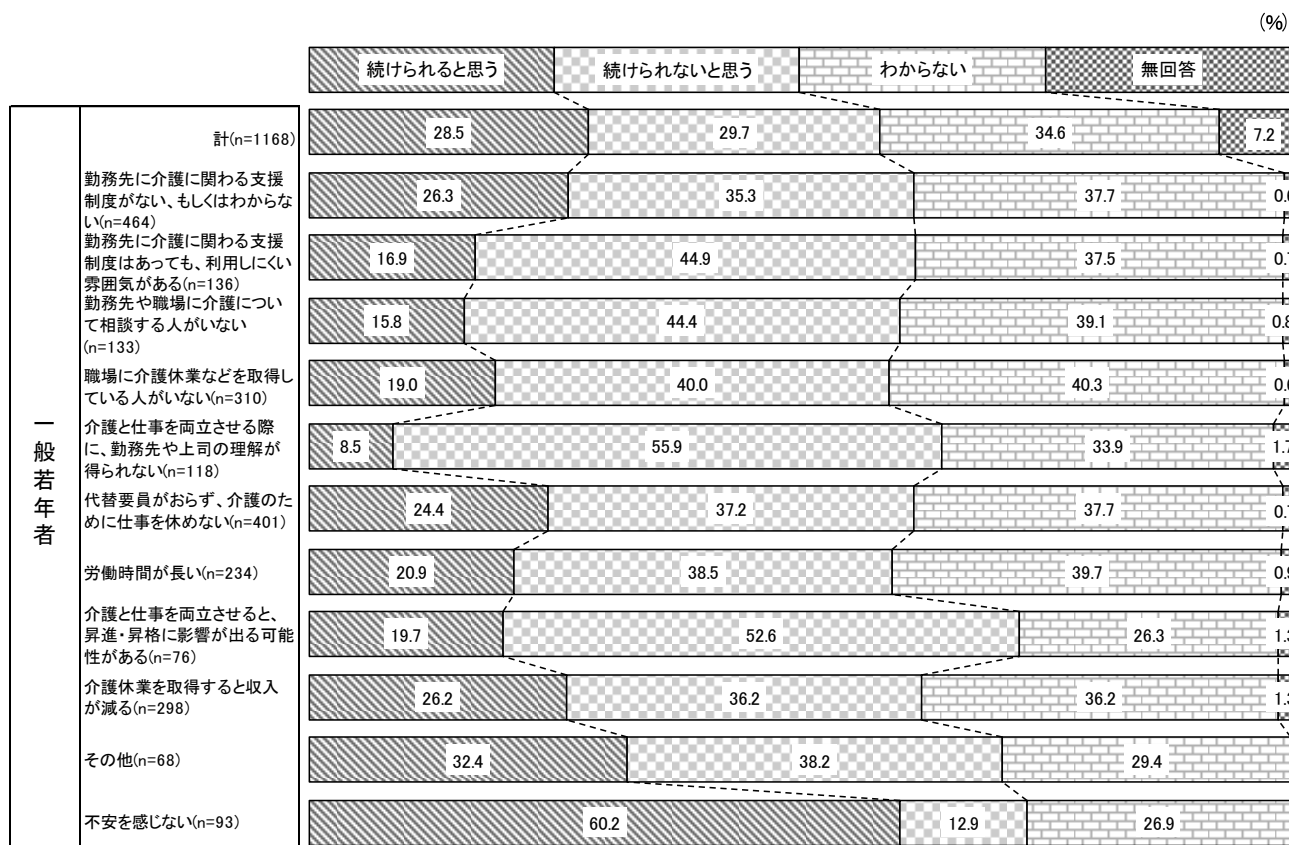
家族等の介護をすることになった場合、現在の勤務先で働き続けられるかについては、「続けられないと思う」(29.7%)、「続けられると思う」(28.5%)、「わからない」(34.6%)と、いずれの回答も3割前後となっている。

図表 III. 4. 5 6 家族等の介護をする際、現在の勤務先で働き続けられるか
【ベース：就業者（家事専業・無職以外）】



家族等の介護をすることになった場合、現在の勤務先で働き続けられるかについて、働き続けるうえで不安に思うこと（複数回答）別にみると、「介護と仕事を両立させる際に、勤務先や上司の理解が得られない」と不安に感じている人では、「続けられないと思う」が55.9%と最も高くなっている。

図表 III. 4. 5 7 家族等の介護をする際、現在の勤務先で働き続けられるか：
「現在の勤務先で仕事を続けるうえで不安に思うこと」別
【ベース：就業者（家事専業・無職以外）】



※家族等の介護の際、現在の勤務先で仕事を続けるうえで不安に思うことの結果については次ページに掲載している。

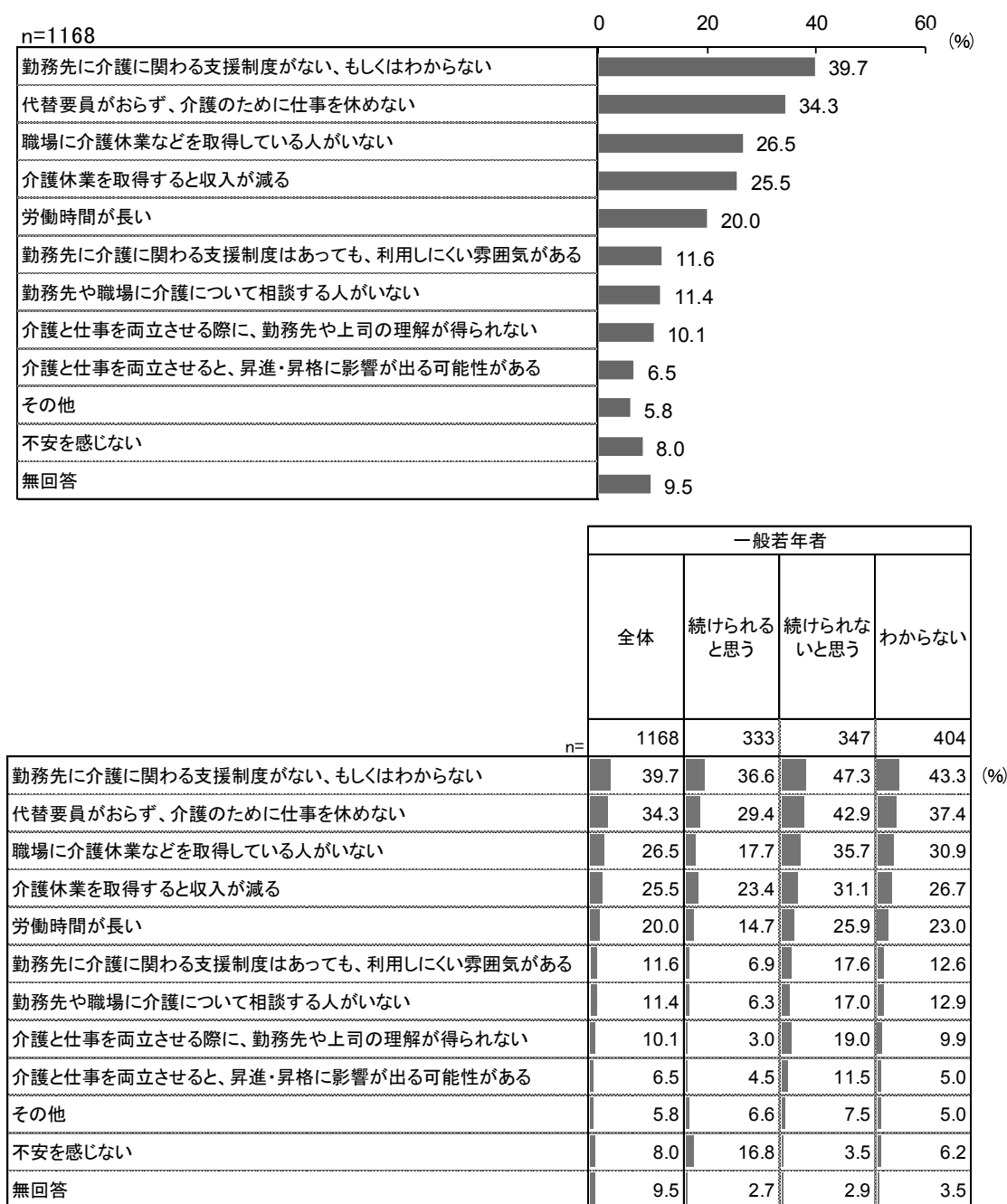
⑧家族等の介護の際、現在の勤務先で仕事を続けるうえで不安に思うこと

【04 一般若年者 問 31】

不安に思うことは、「勤務先に介護にかかわる支援制度がない、もしくはわからない」(39.7%)、「代替要員がおらず、介護のために仕事を休めない」(34.3%)、「職場に介護休業などを取得している人がいない」(26.5%)が上位である。

家族等の介護をすることになった場合、現在の勤務先で働き続けられるかどうかの回答別でみると、続けられないと思う人では、いずれの回答割合も続けられると思う人と比べ、高い割合となっており、「不安を感じない」は3.5%と低くなっている。

図表 III. 4. 5 8 家族等の介護の際、現在の勤務先で仕事を続けるうえで不安に思うこと（複数回答）
【ベース：就業者（家事専業・無職以外）】



5 住まい・施設

(1) 住まい

①現在の住居形態

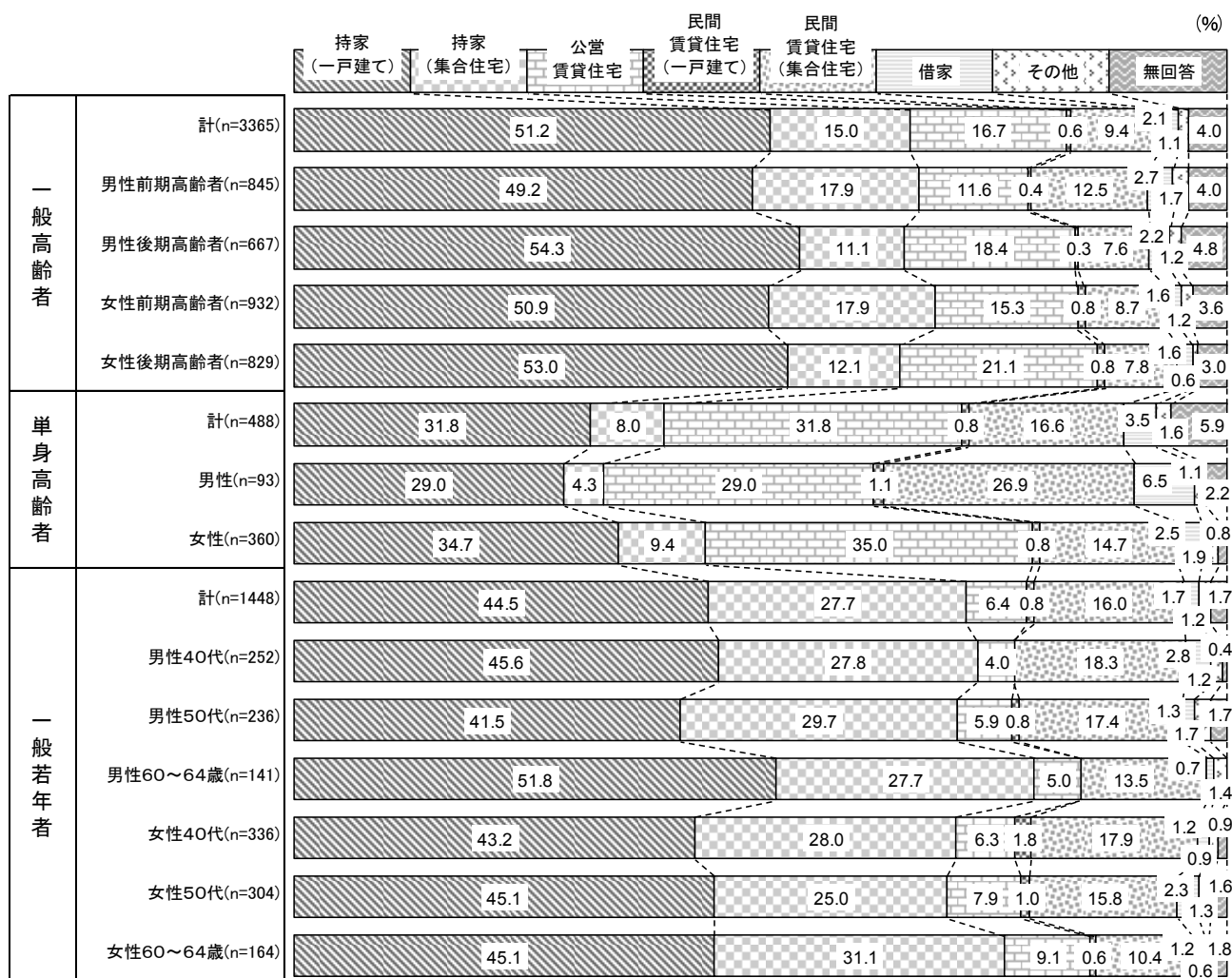
【01 一般高齢者 問4(4)】【02 単身高齢者 問6】【04 一般若年者 問4】

住居形態については、一般高齢者では、「持家（一戸建て）」が51.2%と最も高く、次いで「公営賃貸住宅」（16.7%）、「持家（集合住宅）」（15.0%）となっている。

単身高齢者では、「持家（一戸建て）」と「公営賃貸住宅」がそれぞれ31.8%と高く、次いで「民間賃貸住宅（集合住宅）」（16.6%）となっている。

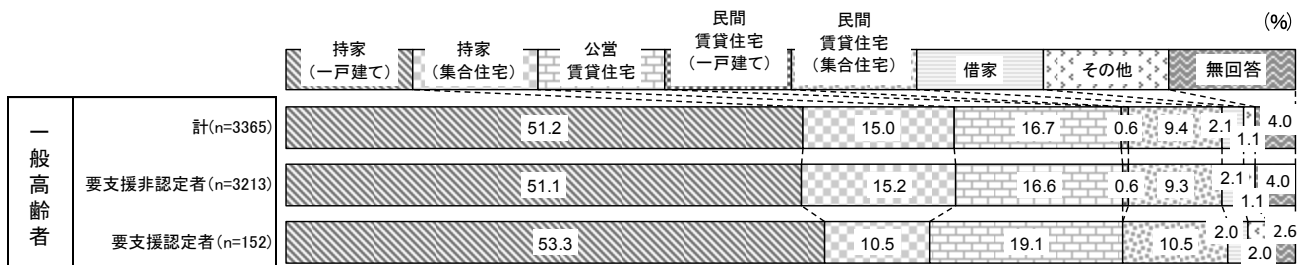
一般若年者では、「持家（一戸建て）」が44.5%と最も高く、次いで「持家（集合住宅）」（27.7%）、「民間賃貸住宅（集合住宅）」（16.0%）となっている。

図表 III. 5. 1 現在の住居形態



一般高齢者について、要支援認定者と要支援非認定者別にみると、ほぼ同様の回答傾向となっている。

図表 III. 5. 2 現在の住居形態：要支援認定者/要支援非認定者別

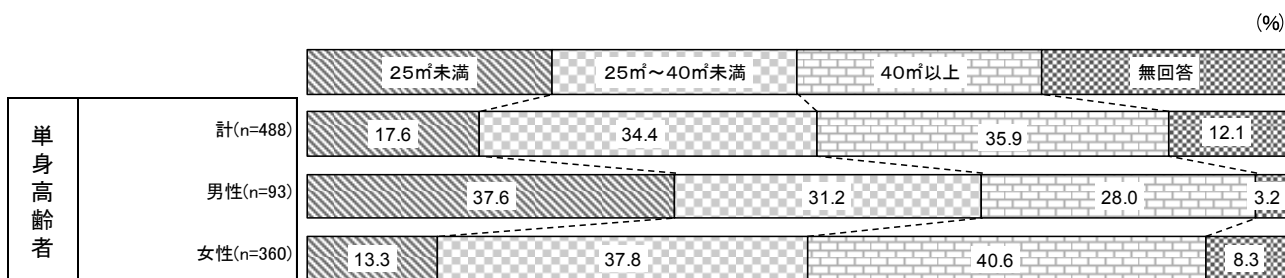


②住まいの広さ

【02 単身高齢者 問7】

住まいの広さについては、「25㎡未満」は17.6%、「25㎡～40㎡未満」は34.4%、「40㎡以上」は35.9%である。

図表 III. 5. 3 住まいの広さ



③介護が必要になったとき、どのような介護を希望するか

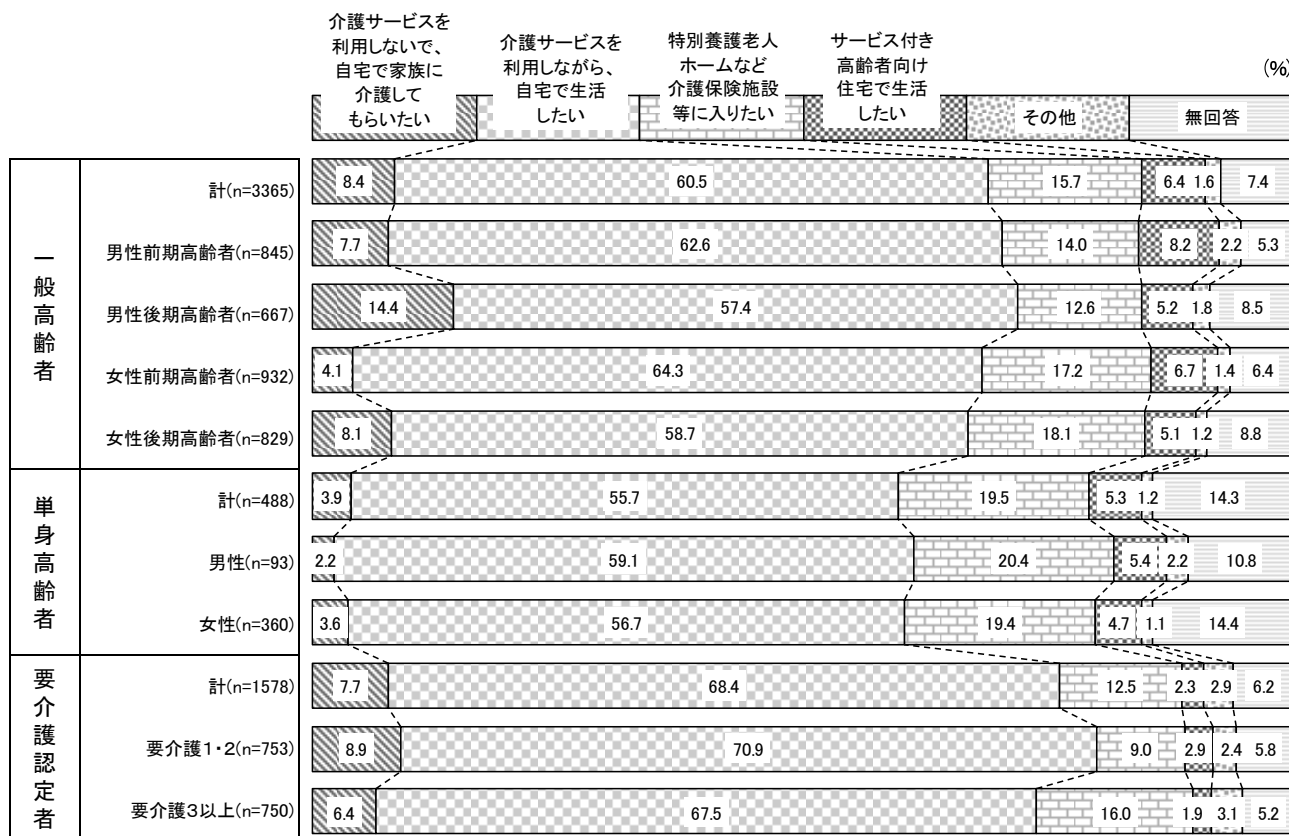
【01 一般高齢者 問 27】【02 単身高齢者 問 40】【03 要介護認定者 問 25】

一般高齢者では、「介護サービスを利用しながら、自宅で生活したい」が 60.5%と最も高く、「特別養護老人ホームなど介護保険施設等に入りたい」が 15.7%となっている。性年代別にみると、「介護サービスを利用しないで、自宅で家族に介護してもらいたい」は、前期高齢者に比べ後期高齢者で高くなっている。

単身高齢者では、「介護サービスを利用しながら、自宅で生活したい」が 55.7%と最も高く、次いで「特別養護老人ホームなど介護保険施設等に入りたい」(19.5%)となっている。性別による差はほとんどみられない。

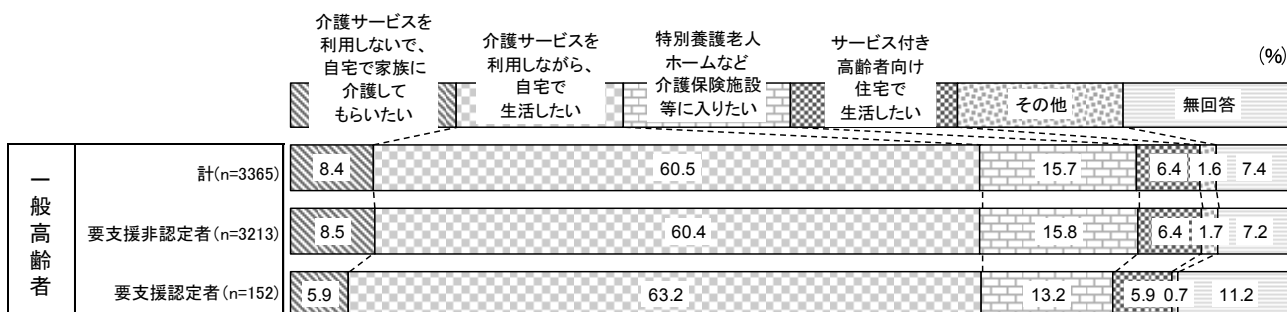
要介護認定者では、「介護サービスを利用しながら、自宅で生活したい」が 68.4%と最も高く、次いで「特別養護老人ホームなど介護保険施設等に入りたい」(12.5%)となっている。要介護度別にみると、「特別養護老人ホームなど介護保険施設等に入りたい」は、要介護1・2に比べ要介護3以上で高い。

図表 III. 5. 4 介護が必要になったとき、どのような介護を希望するか



一般高齢者について、要支援認定者と要支援非認定者別にみると、要支援認定者と要支援非認定者の回答傾向はほぼ同様となっている。

図表 III. 5. 5 介護が必要になったとき、どのような介護を希望するか
：要支援認定者/要支援非認定者別

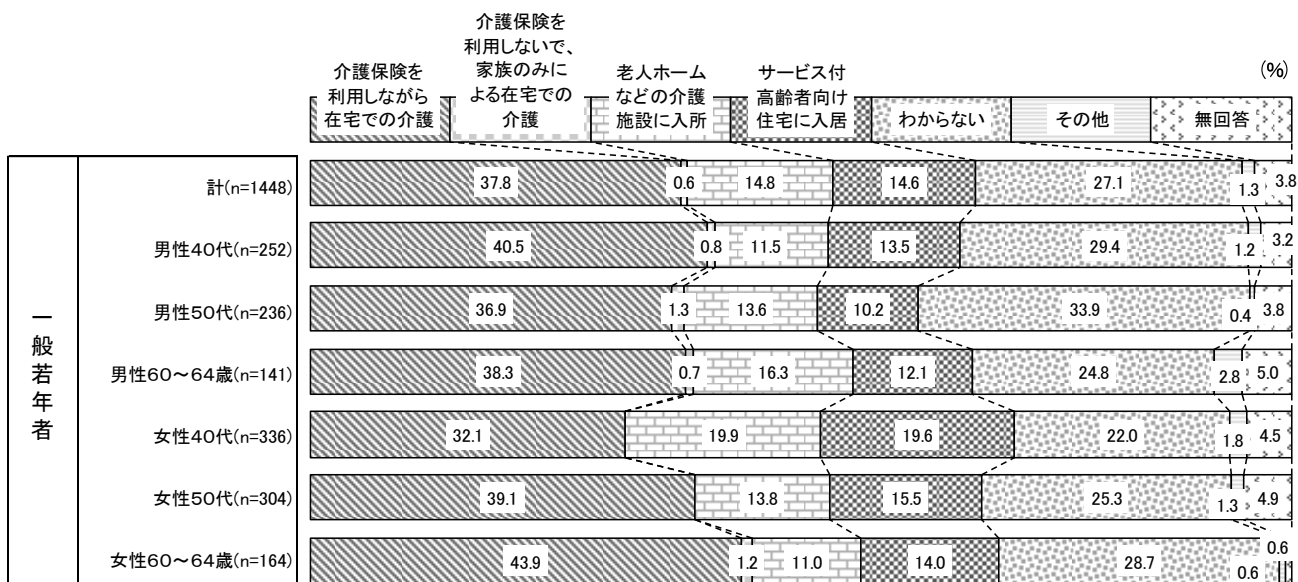


【04 一般若年者 問 21】

一般若年者では、「介護保険を利用しながら在宅での介護」が37.8%と最も高いが、「わからない」も27.1%と3割近い。「老人ホームなどの介護施設に入所」(14.8%)、「サービス付高齢者向け住宅に入居」(14.6%)は同程度である。

性年代別にみると、女性40代では「老人ホームなどの介護施設に入所」(19.9%)、「サービス付高齢者向け住宅に入居」(19.6%)が他の性年代と比べ高い。

図表 III. 5. 6 介護が必要になったとき、どのような介護を希望するか



④希望する介護施設

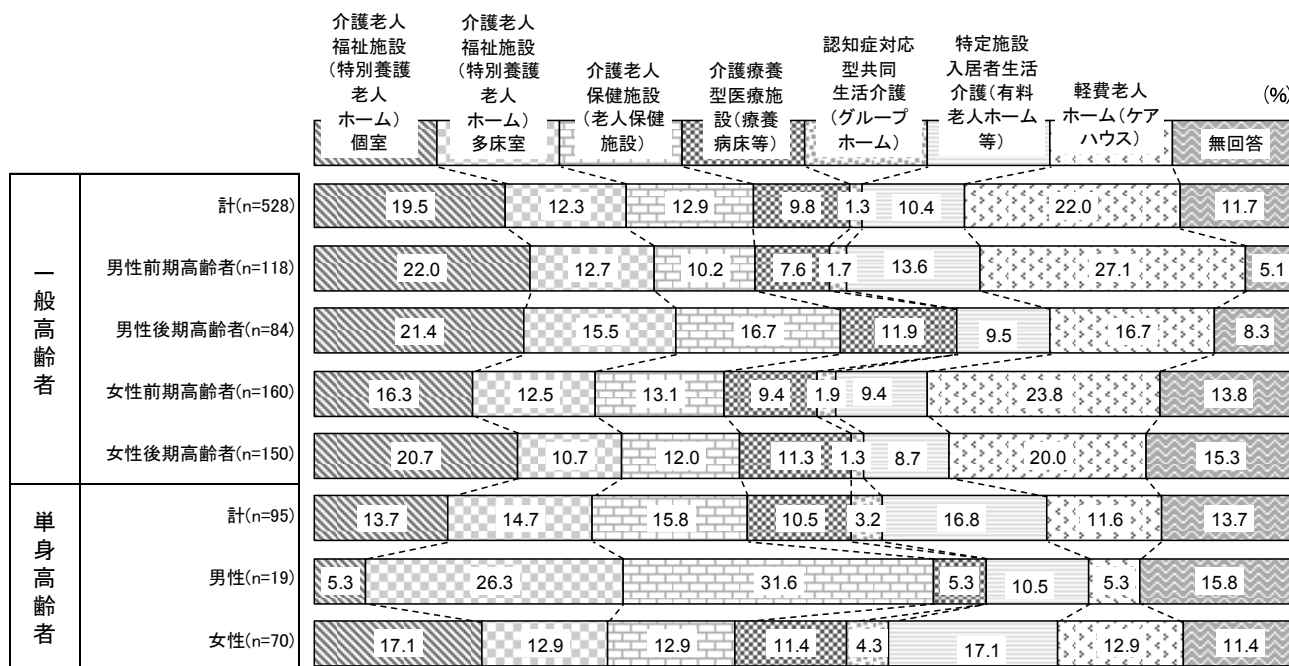
【01 一般高齢者 問 27-2】 【02 単身高齢者 問 40-2】 【03 要介護認定者 問 28】

一般高齢者では、「軽費老人ホーム（ケアハウス）」が22.0%と最も高い。次いで「介護老人福祉施設 個室」(19.5%)、「介護老人保健施設」(12.9%)「介護老人福祉施設 多床室」(12.3%)となっている。性年代別にみると、男性前期高齢者では、「軽費老人ホーム（ケアハウス）」が27.1%と他の性年代に比べ高い。

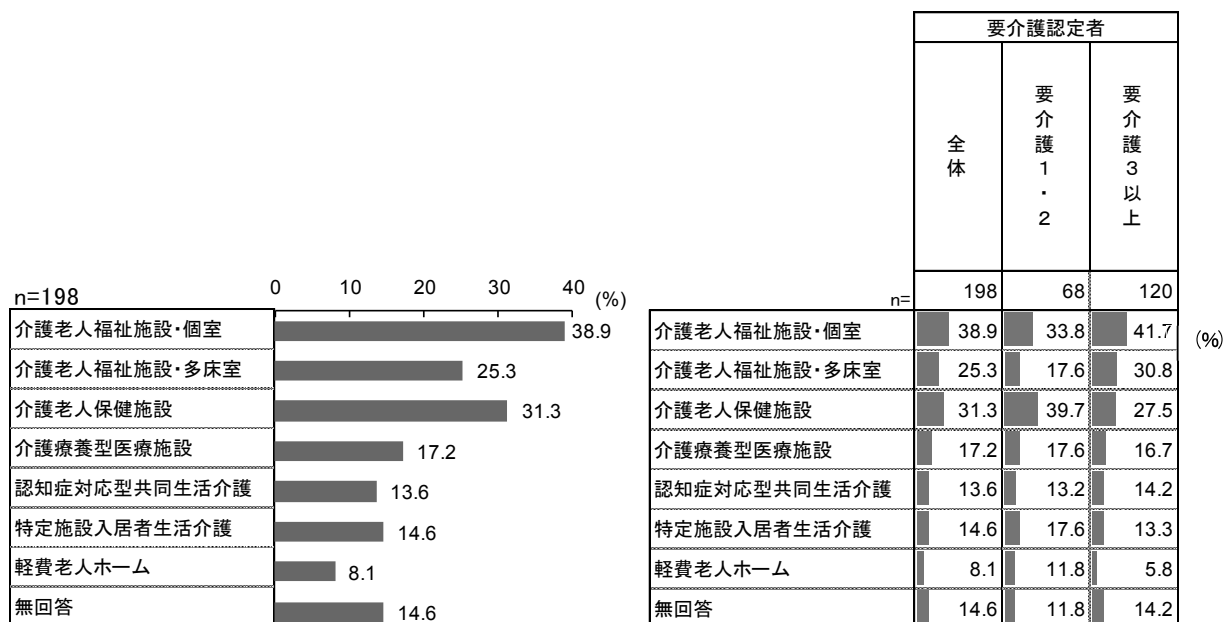
単身高齢者では、「特定施設入居者生活介護（有料老人ホーム等）」が16.8%と最も高い。次いで「介護老人保健施設」(15.8%)、「介護老人福祉施設 多床室」(14.7%)、「介護老人福祉施設 個室」(13.7%)となっている。

要介護認定者（複数回答）では、「介護老人福祉施設 個室」が38.9%で最も高く、次いで「介護老人保健施設」(31.3%)、「介護老人福祉施設 多床室」(25.3%)となっている。要介護度別にみると、要介護1・2では「介護老人保健施設」(39.7%)、要介護3以上では「介護老人福祉施設 個室」(41.7%)が高い。

図表 III. 5. 7 希望する介護施設【ベース：施設等入所希望者】

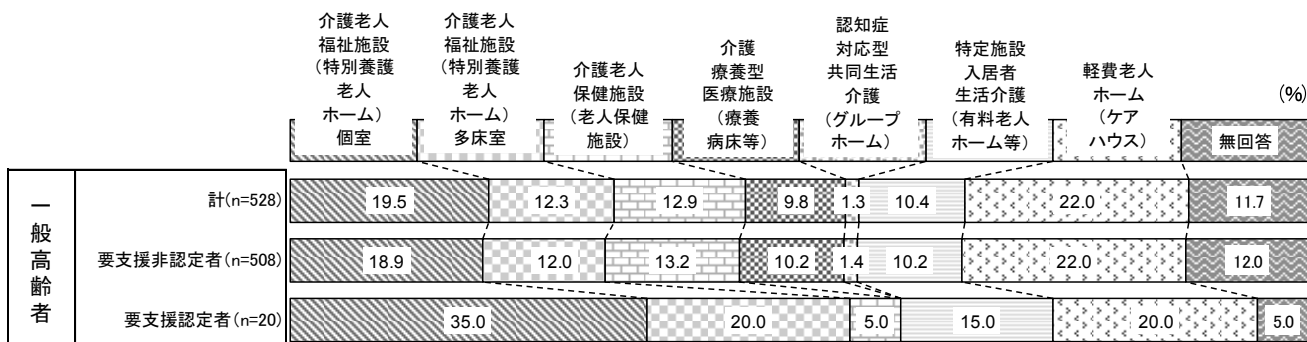


図表 III. 5. 8 希望する介護施設（複数回答）【要介護認定者】【ベース：施設等入所希望者】



一般高齢者について、要支援認定者と要支援非認定者別にみると、要支援認定者では、「介護老人福祉施設 個室」、「介護老人福祉施設 多床室」がそれぞれ20人中7人（35.0%）、20人中4人（20.0%）となっている。

図表 III. 5. 9 希望する介護施設【一般高齢者：要支援認定者/要支援非認定者別】
【ベース：施設等入所希望者】



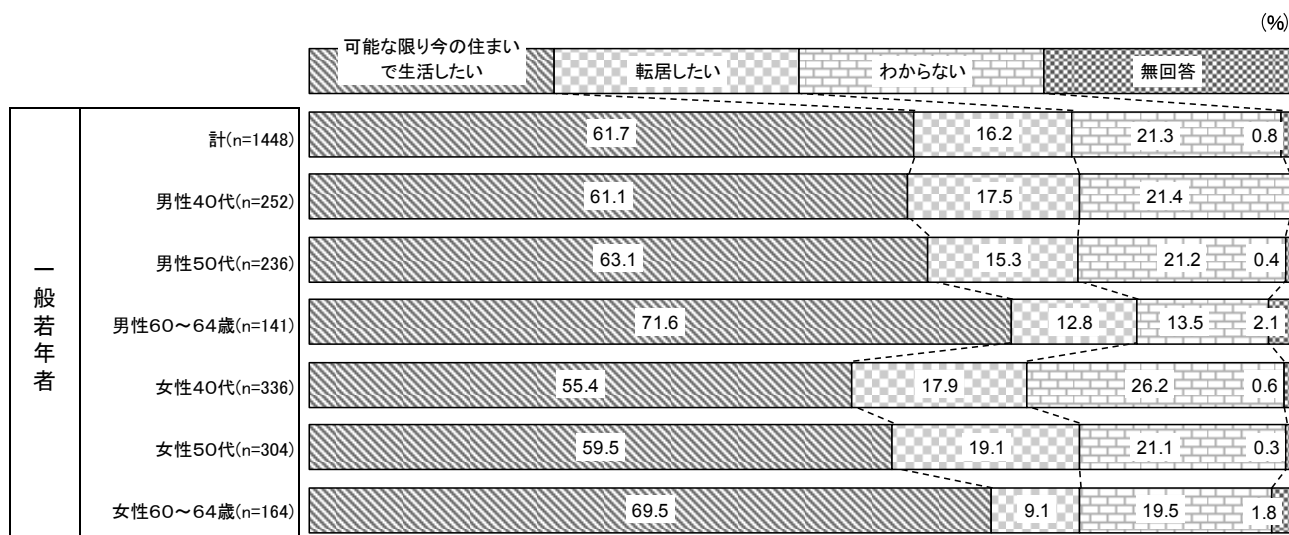
⑤現在の住まいでの生活意向

【04 一般若年者 問 11】

現在の住まいでの生活意向については、「可能な限り今の住まいで生活したい」は 61.7%、「転居したい」は 16.2%、「わからない」は 21.3%である。

性別にみると、「可能な限り今の住まいで生活したい」は、いずれの年代でも、女性に比べ男性で高い。

図表 III. 5. 10 現在の住まいでの生活意向



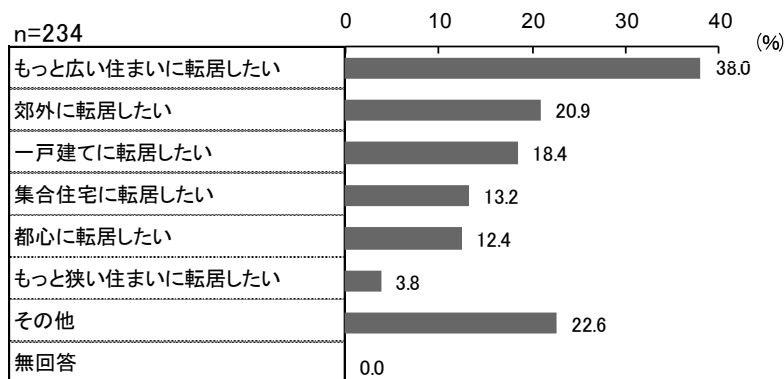
⑥希望する転居先

【04 一般若年者 問 11-1】

希望する転居先については、「もっと広い住まいに転居したい」が 38.0%と最も高く、次いで「郊外に転居したい」(20.9%)、「一戸建てに転居したい」(18.4%)となっている。

性年代別にみると、女性 50 代では「郊外に転居したい」(27.6%)、男性 40 代では「一戸建てに転居したい」(27.3%) が他の性年代と比べ高い。

図表 III. 5. 1 1 希望する転居先（複数回答）【ベース：転居意向あり】



	一般若年者						
	全体	男性 40 代	男性 50 代	男性 60 ～ 64 歳	女性 40 代	女性 50 代	女性 60 ～ 64 歳
n=	234	44	36	18	60	58	15
もっと広い住まいに転居したい	38.0	56.8	50.0	16.7	43.3	15.5	33.3
郊外に転居したい	20.9	25.0	25.0	16.7	10.0	27.6	20.0
一戸建てに転居したい	18.4	27.3	13.9	16.7	11.7	25.9	6.7
集合住宅に転居したい	13.2	9.1	11.1	16.7	16.7	13.8	13.3
都心に転居したい	12.4	11.4	8.3	5.6	20.0	6.9	26.7
もっと狭い住まいに転居したい	3.8	0.0	2.8	11.1	1.7	5.2	13.3
その他	22.6	20.5	8.3	27.8	25.0	32.8	13.3
無回答	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

※「その他」の内容（抜粋）

- ・ バリアフリーな住まい
- ・ 家賃の安い公営住宅に入居したい
- ・ 静かに暮らせる所に住みたい
- ・ 交通の便が良いところ
- ・ 日当たりの良いところ

6 高齢者保健福祉

(1) 高齢者福祉サービスなどについて

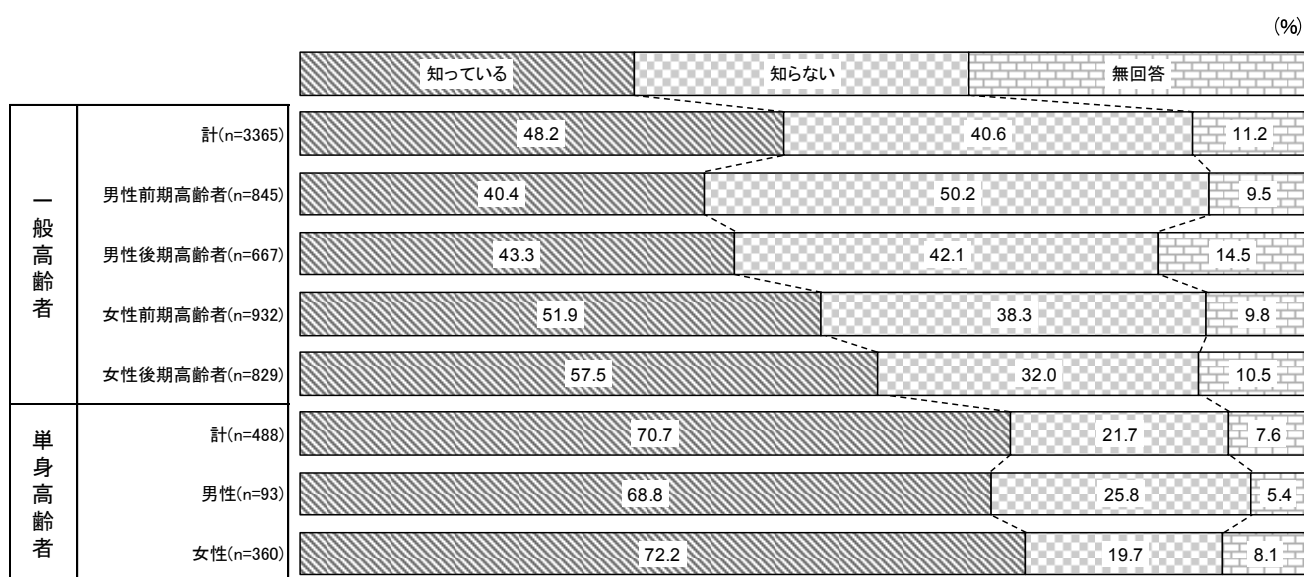
① 地域包括支援センターの認知度

【01 一般高齢者 問 32】 【02 単身高齢者 問 46】

地域包括支援センターについては、一般高齢者では「知っている」は 48.2%、「知らない」は 40.6%である。性年代別にみると、男性に比べ女性では「知っている」が高く、男女とも前期高齢者に比べ後期高齢者で認知度が高い。

単身高齢者では、「知っている」は 70.7%、「知らない」は 21.7%である。性別にみると、「知っている」は、男性（68.8%）に比べ女性（72.2%）で高い。

図表 III. 6. 1 地域包括支援センターの認知度



②地域包括支援センター事業の認知度

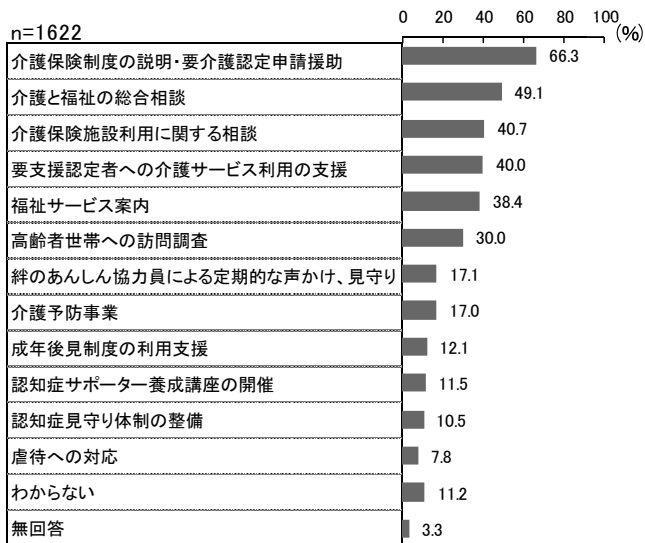
【01 一般高齢者 問 32-1】 【02 単身高齢者 問 46-1】

地域包括支援センターで行われる業務の認知については、一般高齢者では、「介護保険制度の説明・要介護認定申請援助」が 66.3%と最も高く、次いで「介護と福祉の総合相談」(49.1%)となっている。

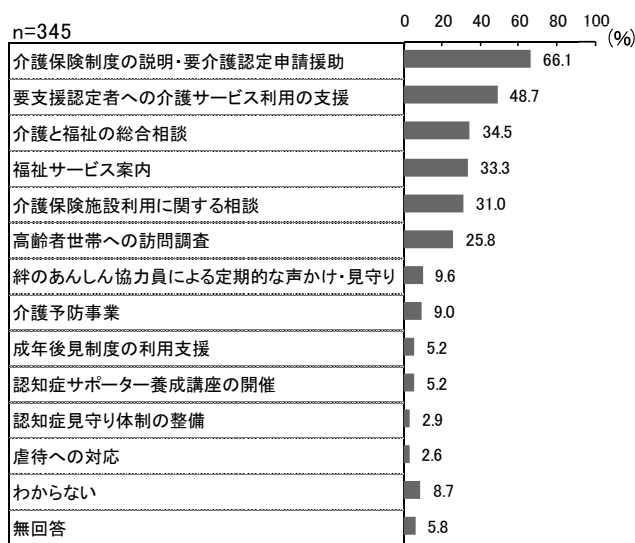
単身高齢者では、「介護保険制度の説明・要介護認定申請援助」が 66.1%と最も高く、次いで「要支援認定者への介護サービス利用の支援」(48.7%)となっている。

図表 III. 6. 2 地域包括支援センター事業の認知度（複数回答）
【ベース：地域包括支援センター認知者】

【01 一般高齢者】



【02 単身高齢者】



一般高齢者について、性年代別にみると、男性前期高齢者では「介護と福祉の総合相談」が57.5%と他に比べて高くなっている。

単身高齢者について、性別にみると、上位5項目においては概ね男性が女性を上回っているが、「要支援認定者への介護サービス利用の支援」は、女性が51.9%と高くなっている。

図表 III. 6. 3 地域包括支援センター事業の認知度（複数回答）

【ベース：地域包括支援センター認知者】

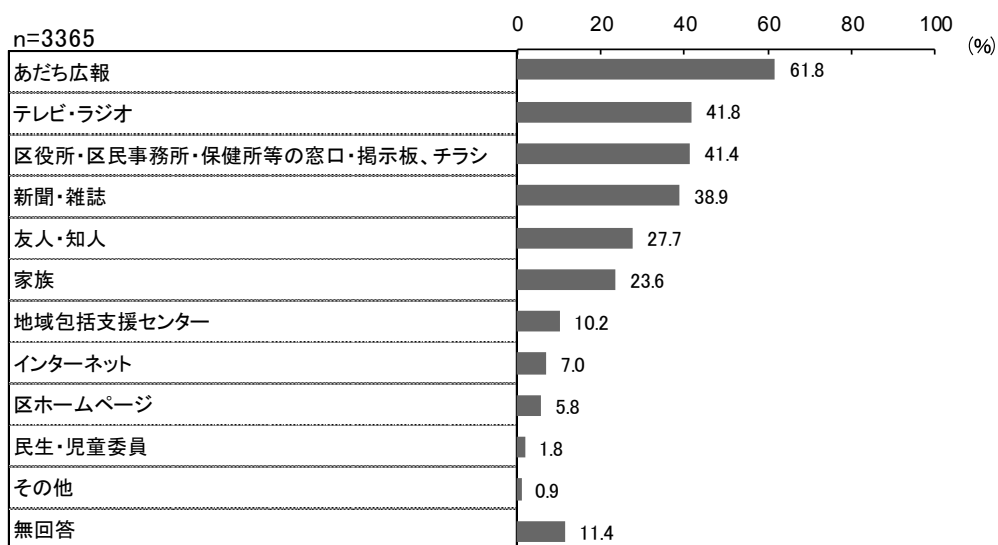
	一般高齢者					単身高齢者			
	全体	男性 前期 高齢者	男性 後期 高齢者	女性 前期 高齢者	女性 後期 高齢者	全体	男性	女性	
n=	1622	341	289	484	477	345	64	260	
介護保険制度の説明・要介護認定申請援助	66.3	71.3	60.9	71.1	61.4	66.1	73.4	64.2	(%)
介護と福祉の総合相談	49.1	57.5	49.5	52.1	39.8	34.5	40.6	33.8	
介護保険施設利用に関する相談	40.7	46.3	33.6	46.1	35.8	31.0	32.8	31.2	
要支援認定者への介護サービス利用の支援	40.0	43.1	31.1	47.7	35.2	48.7	42.2	51.9	
福祉サービス案内	38.4	44.0	33.9	41.9	34.2	33.3	40.6	31.5	
高齢者世帯への訪問調査	30.0	30.8	25.6	31.4	30.8	25.8	20.3	26.9	
絆のあんしん協力員による定期的な声かけ、見守り	17.1	18.2	12.8	18.8	17.2	9.6	6.3	10.8	
介護予防事業	17.0	18.2	13.5	21.5	13.6	9.0	7.8	9.2	
成年後見制度の利用支援	12.1	12.6	11.1	14.9	9.2	5.2	1.6	6.2	
認知症サポーター養成講座の開催	11.5	9.7	9.7	14.0	11.1	5.2	3.1	6.2	
認知症見守り体制の整備	10.5	12.0	7.6	13.2	8.0	2.9	1.6	3.5	
虐待への対応	7.8	9.4	4.8	9.7	6.5	2.6	0.0	3.5	
わからない	11.2	10.9	12.8	10.3	11.3	8.7	6.3	9.6	
無回答	3.3	1.8	5.2	2.7	4.2	5.8	3.1	6.2	

③ 身近な暮らしの情報の入手先

【01 一般高齢者 問 33】

情報の入手先については、「あだち広報」が 61.8%と最も高く、次いで「テレビ・ラジオ」(41.8%)、「区役所・区民事務所・保健所等の窓口・掲示板、チラシ」(41.4%)となっている。性年代別にみると、「あだち広報」は女性前期高齢者で 70.4%と特に高い。また、「友人・知人」は男性では前期高齢者・後期高齢者に関わらず 2割前後であるのに対し、女性前期高齢者で 37.6%、女性後期高齢者で 30.6%と女性の方が高くなっている。

図表 III. 6. 4 身近な暮らしの情報の入手先 (複数回答)



	一般高齢者				
	全体	男性 前期 高齢者	男性 後期 高齢者	女性 前期 高齢者	女性 後期 高齢者
n=	3365	845	667	932	829
あだち広報	61.8	57.6	56.5	70.4	61.2
テレビ・ラジオ	41.8	42.0	37.0	45.2	42.1
区役所・区民事務所・保健所等の窓口・掲示板、チラシ	41.4	42.5	45.1	41.7	38.6
新聞・雑誌	38.9	41.3	38.8	39.9	36.9
友人・知人	27.7	22.2	18.0	37.6	30.6
家族	23.6	23.4	22.9	25.4	22.7
地域包括支援センター	10.2	5.7	11.4	9.8	15.2
インターネット	7.0	16.6	3.7	5.8	1.4
区ホームページ	5.8	8.2	6.7	4.1	4.9
民生・児童委員	1.8	1.2	2.4	1.6	1.9
その他	0.9	0.7	0.9	0.6	1.1
無回答	11.4	10.5	13.5	9.4	11.3

④ 認知症サポーター活動の認知度

【01 一般高齢者 問 34】 【02 単身高齢者 問 45】

認知症サポーター活動については、一般高齢者では、「活動内容を知っている」は5.9%、「聞いたことはあるが、活動内容は知らない」は31.5%、「知らない」は49.5%である。性年代別にみると、「知らない」は、男女ともに後期高齢者に比べ前期高齢者で高い。

単身高齢者では、「活動内容を知っている」は4.7%、「聞いたことはあるが、活動内容は知らない」は22.5%、「知らない」は52.9%である。性別にみると、「知らない」は、男性(49.5%)に比べ女性(55.6%)で高い。

図表 III. 6. 5 認知症サポーター活動の認知度

		(%)			
		活動内容を知っている	聞いたことはあるが、 活動内容は知らない	知らない	無回答
一般 高齢者	計(n=3365)	5.9	31.5	49.5	13.0
	男性前期高齢者(n=845)	5.0	27.8	57.3	9.9
	男性後期高齢者(n=667)	5.4	32.8	45.0	16.8
	女性前期高齢者(n=932)	6.9	31.9	51.5	9.8
	女性後期高齢者(n=829)	6.4	34.6	43.1	15.9
単身 高齢者	計(n=488)	4.7	22.5	52.9	19.9
	男性(n=93)	4.3	24.7	49.5	21.5
	女性(n=360)	4.7	22.5	55.6	17.2

⑤ 区実施サービスの利用、認知度

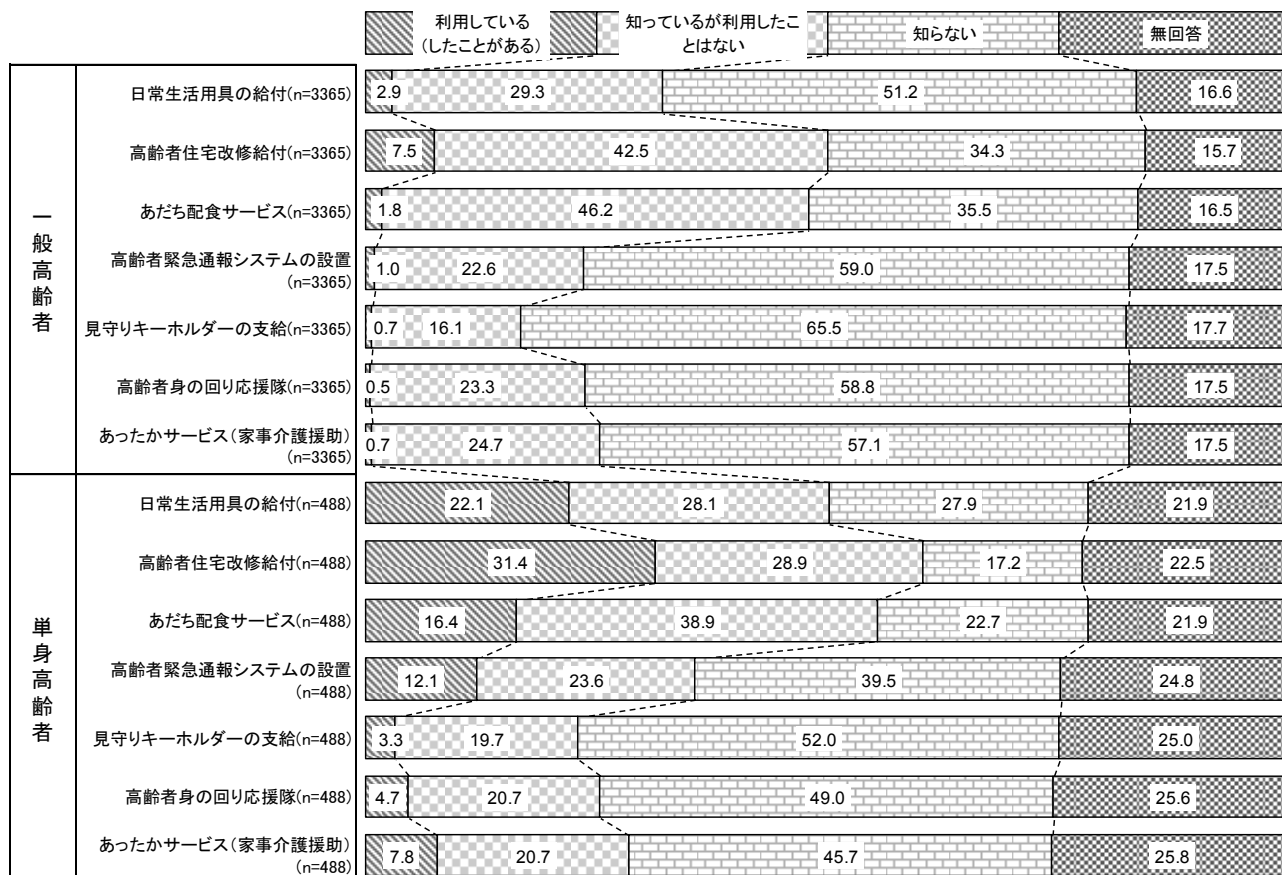
【01 一般高齢者 問 35】 【02 単身高齢者 問 44】

区実施サービスについて「利用している（したことがある）」サービスは、一般高齢者では、「高齢者住宅改修給付」が 7.5%と最も高い。

単身高齢者では、「高齢者住宅改修給付」が 31.4%と最も高く、次いで「日常生活用具の給付」（22.1%）となっている。

図表 III. 6. 6 区実施サービスの利用、認知度

(%)

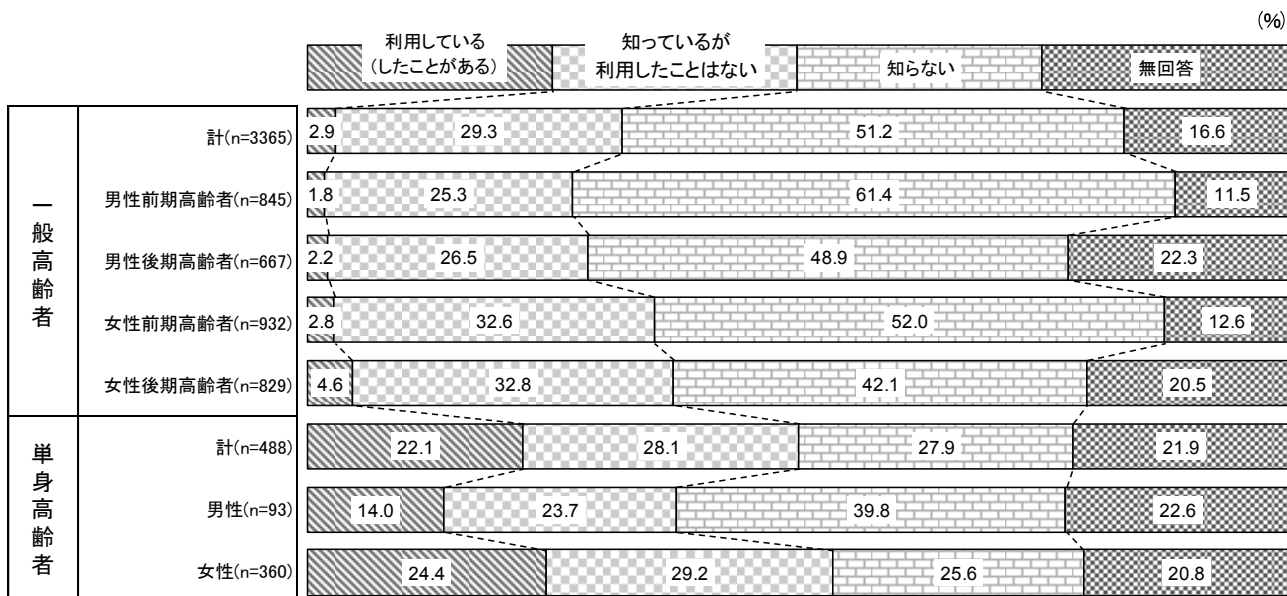


1) 日常生活用具の給付

日常生活用具の給付については、一般高齢者では、「利用している（したことがある）」は2.9%、「知っているが利用したことはない」は29.3%である。性年代別にみると、男女ともに後期高齢者に比べ前期高齢者では「知らない」割合が高い。

単身高齢者では、「利用している（したことがある）」は22.1%、「知っているが利用したことはない」は28.1%である。性別にみると、「利用している（したことがある）」「知っているが利用したことはない」は女性で高くなっている。

図表 III. 6. 7 日常生活用具の給付

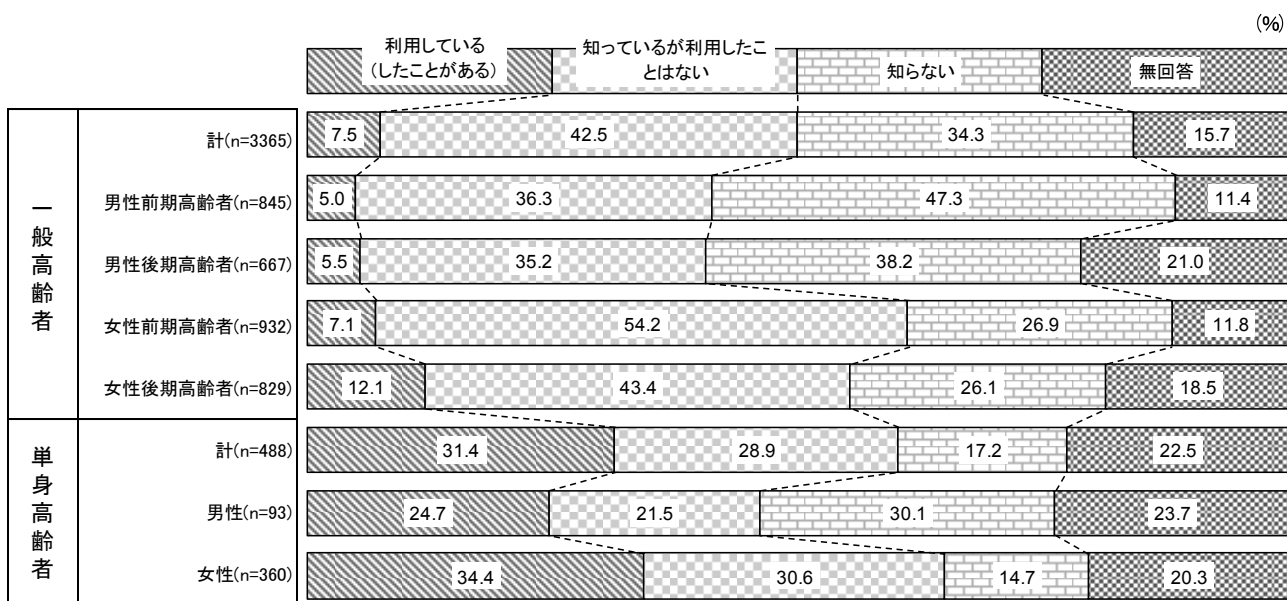


2) 高齢者住宅改修給付

高齢者住宅改修給付については、一般高齢者では、「利用している（したことがある）」は7.5%、「知っているが利用したことはない」は42.5%である。性年代別にみると、男性に比べ女性で「利用している（したことがある）」「知っているが利用したことはない」の割合が高い。

単身高齢者では、「利用している（したことがある）」は31.4%、「知っているが利用したことはない」は28.9%である。性別にみると、「知らない」は、女性（14.7%）に比べ男性（30.1%）で高い。

図表 III. 6. 8 高齢者住宅改修給付

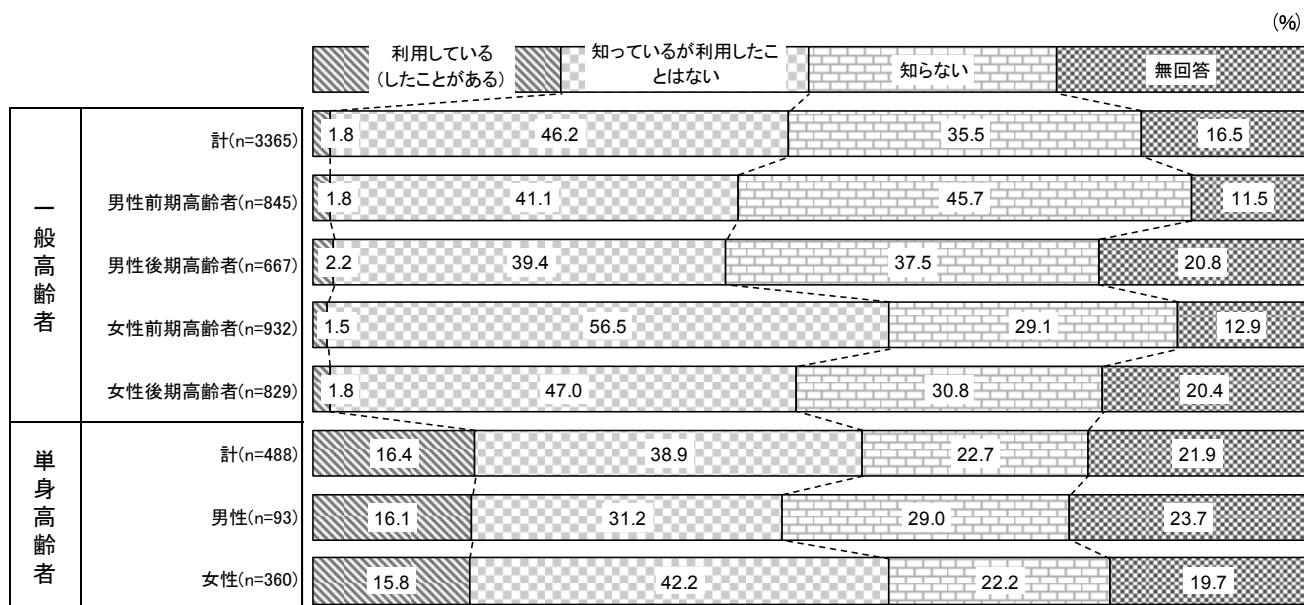


3) あだち配食サービス

あだち配食サービスについては、一般高齢者では、「利用している（したことがある）」は1.8%、「知っているが利用したことはない」は46.2%である。性年代別にみると、男性に比べ女性では「知っているが利用したことはない」の割合が高い。

単身高齢者では、「利用している（したことがある）」は16.4%、「知っているが利用したことはない」は38.9%である。性別にみると、「知らない」は、女性（22.2%）に比べ男性（29.0%）で高い。

図表 III. 6. 9 あだち配食サービス

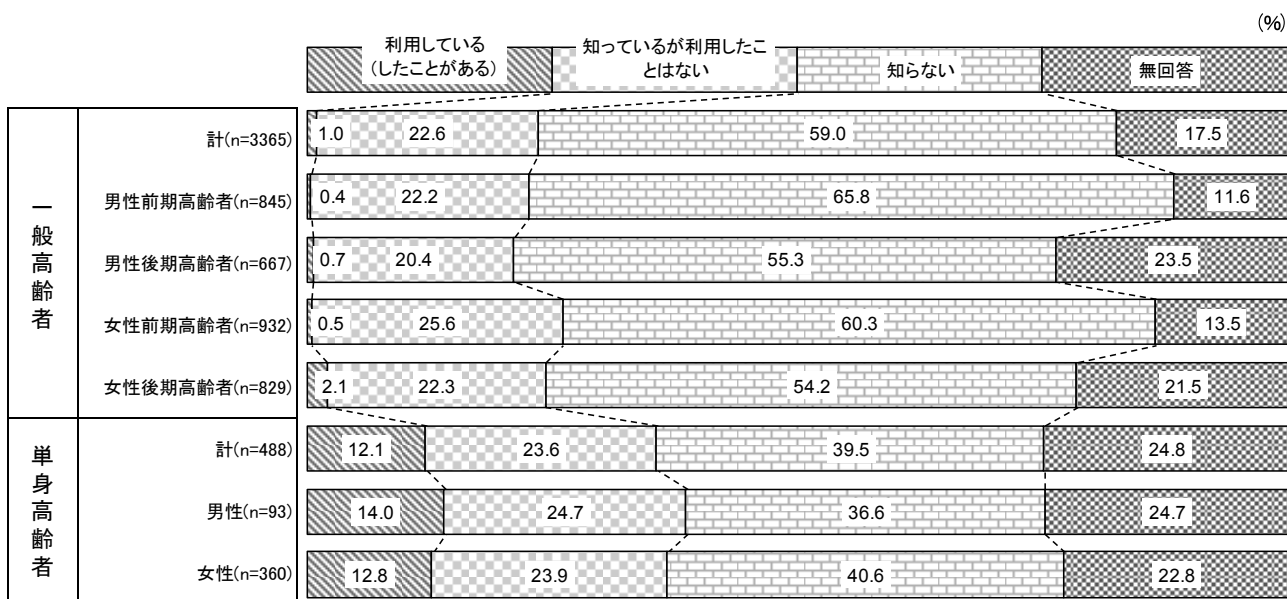


4) 高齢者緊急通報システムの設置

高齢者緊急通報システムの設置については、一般高齢者では、「利用している（したことがある）」は1.0%、「知っているが利用したことはない」は22.6%である。性年代別にみると、後期高齢者に比べ前期高齢者では「知らない」の割合が高い。

単身高齢者では、「利用している（したことがある）」は12.1%、「知っているが利用したことはない」は23.6%である。性別による差はほとんどみられない。

図表 III. 6. 10 高齢者緊急通報システムの設置

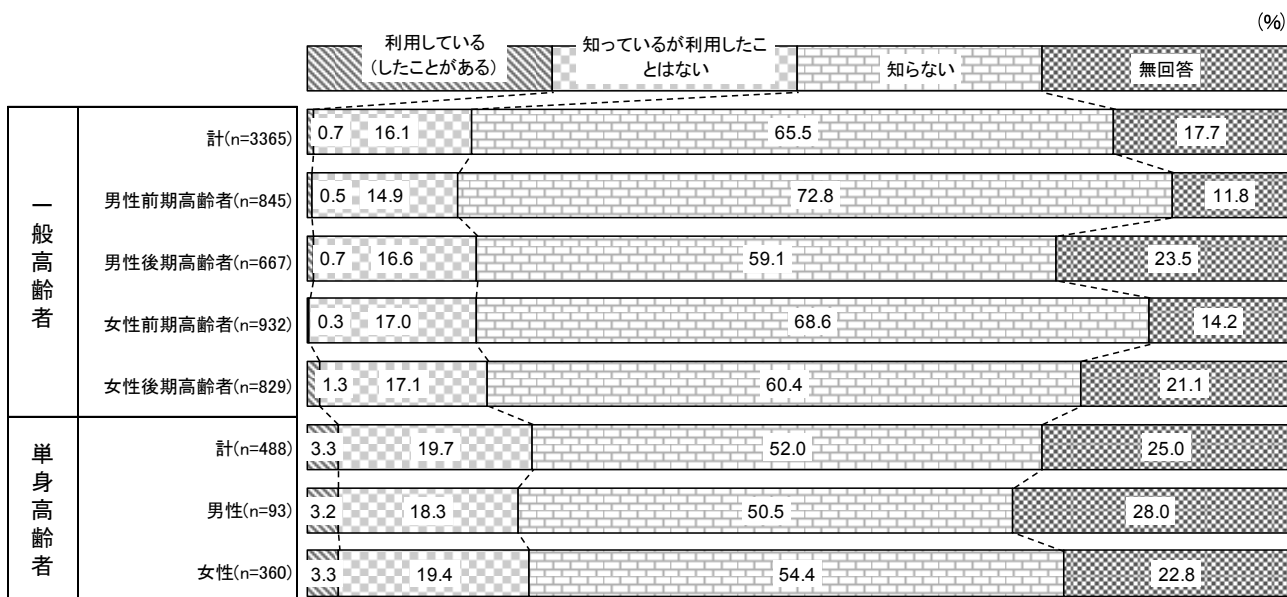


5) 見守りキーホルダーの支給

見守りキーホルダーの支給については、一般高齢者では、「利用している(したことがある)」は 0.7%、「知っているが利用したことはない」は 16.1%である。性年代別にみると、後期高齢者に比べ前期高齢者では「知らない」の割合が高い。

単身高齢者では、「利用している(したことがある)」は 3.3%、「知っているが利用したことはない」は 19.7%である。性別にみると、「知らない」は、男性(50.5%)に比べ女性(54.4%)で高い。

図表 III. 6. 1 1 見守りキーホルダーの支給

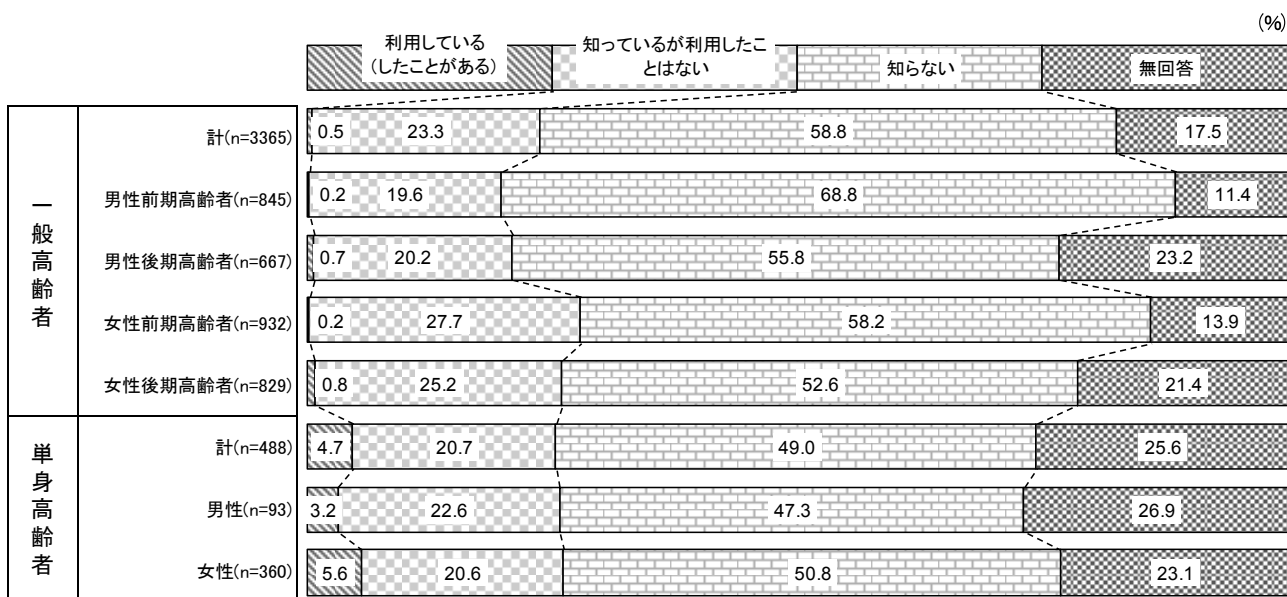


6) 高齢者身の回り応援隊

高齢者身の回り応援隊については、一般高齢者では、「利用している（したことがある）」は 0.5%、「知っているが利用したことはない」は 23.3%である。性年代別にみると、男性前期高齢者では「知らない」が 68.8%と他の性年代と比べ高い。

単身高齢者では、「利用している（したことがある）」は 4.7%、「知っているが利用したことはない」は 20.7%である。性別による差はほとんどみられない。

図表 III. 6. 12 高齢者身の回り応援隊

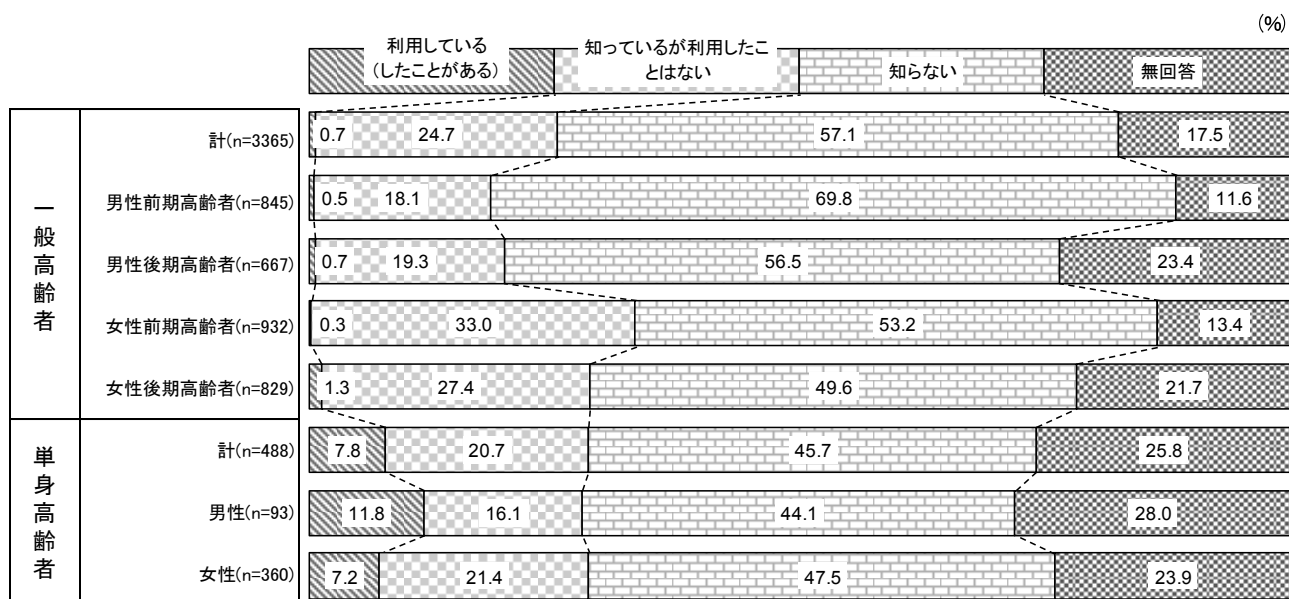


7) あったかサービス (家事介護援助)

あったかサービス (家事介護援助) については、一般高齢者では、「利用している (したことがある)」は0.7%、「知っているが利用したことはない」は24.7%である。性年代別に見ると、男性に比べ女性では「利用している (したことがある)」「知っているが利用したことはない」の割合が高い。

単身高齢者では、「利用している (したことがある)」は7.8%、「知っているが利用したことはない」は20.7%である。性別に見ると、男性では「利用している (したことがある)」(11.8%)、女性では「知っているが利用したいことはない」(21.4%) がそれぞれ高い。

図表 III. 6. 13 あったかサービス (家事介護援助)



⑥ 『孤立ゼロプロジェクト～絆のあんしんネットワーク～』の認知度

【01 一般高齢者 問 37】【02 単身高齢者 問 42】【03 要介護認定者 問 14】

『孤立ゼロプロジェクト～絆のあんしんネットワーク～』の認知状況については、一般高齢者では、「取り組み内容を知っている」(7.6%)、「聞いたことはあるが、取り組み内容は知らない」(28.5%)を合わせると、名称を知っている割合は36.1%である。性年代別にみると、男性に比べ女性では「聞いたことはあるが、取り組み内容は知らない」の割合が高い。

単身高齢者では、「取り組み内容を知っている」は11.7%、「聞いたことはあるが、取り組み内容は知らない」は24.4%で、名称を知っている割合は36.1%である。性別にみると、女性の、「取り組み内容を知っている」(13.6%)、「聞いたことはあるが、取り組み内容は知らない」(25.0%)の割合が高い。

要介護認定者では、「取り組み内容を知っている」は6.6%、「聞いたことはあるが、取り組み内容は知らない」は20.8%で、名称を知っている割合は27.4%である。

図表 III. 6. 1 4 『孤立ゼロプロジェクト～絆のあんしんネットワーク～』の認知度

		(%)			
		取り組み内容を知っている	聞いたことはあるが、取り組み内容は知らない	知らない	無回答
一般高齢者	計(n=3365)	7.6	28.5	49.8	14.0
	男性前期高齢者(n=845)	7.0	22.8	58.1	12.1
	男性後期高齢者(n=667)	7.6	29.4	47.8	15.1
	女性前期高齢者(n=932)	8.0	31.1	48.0	12.9
	女性後期高齢者(n=829)	7.6	31.2	45.7	15.4
単身高齢者	計(n=488)	11.7	24.4	47.3	16.6
	男性(n=93)	7.5	21.5	54.8	16.1
	女性(n=360)	13.6	25.0	46.1	15.3
要介護認定者	計(n=1578)	6.6	20.8	60.1	12.5
	要介護1・2(n=753)	8.5	20.6	60.4	10.5
	要介護3以上(n=750)	4.4	21.6	61.1	12.9

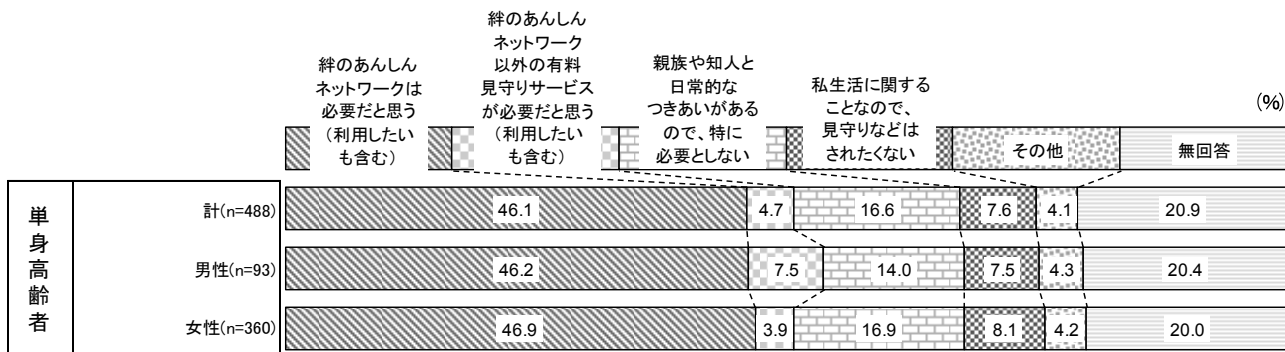
⑦ 絆のあんしんネットワークの必要性

【02 単身高齢者 問 43】

絆のあんしんネットワークの必要性については、「絆のあんしんネットワークは必要だと思う（利用したいも含む）」が46.1%と最も高く、「絆のあんしんネットワーク以外の有料見守りサービスが必要だと思う（利用したいも含む）」（4.7%）を合わせると、何らかの見守りの仕組みを必要と考える割合は50.8%と半数みられる。

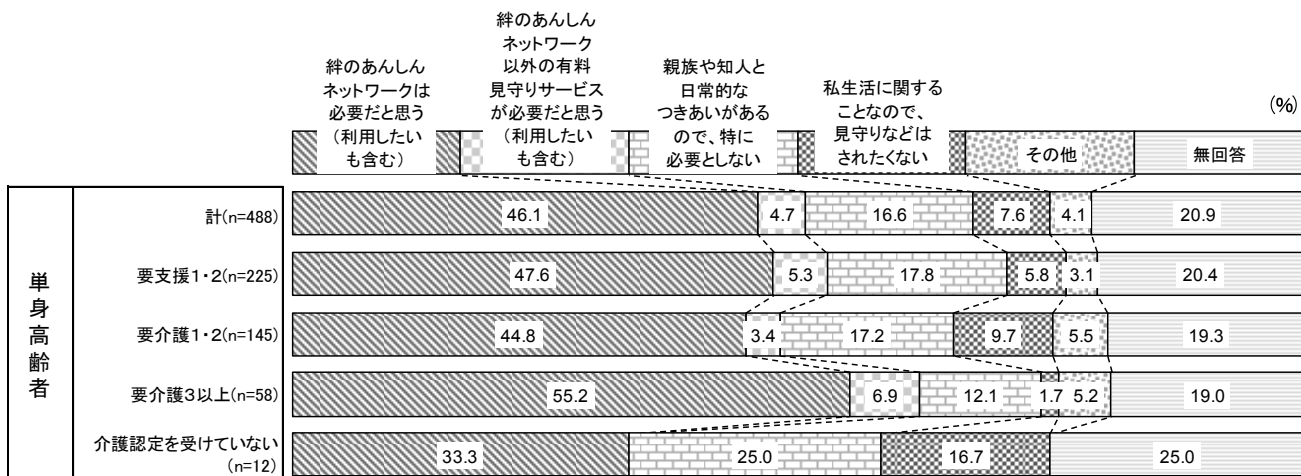
性別による差はほとんどみられない。

図表 III. 6. 15 絆のあんしんネットワークの必要性



要介護度別にみると、「絆のあんしんネットワークは必要だと思う（利用したいも含む）」は、要介護度3以上の人で55.2%と高くなっている。

図表 III. 6. 16 絆のあんしんネットワークの必要性：要介護度別



⑧区の高齢者施策について

【01 一般高齢者 問 38】

区の高齢者施策については、「とても充実している」(1.8%)、「充実している」(10.5%)を合わせると、充実していると考えている割合は 12.3%となっている。一方、「わからない」は約半数(48.4%)となっている。

性年代別にみると、女性後期高齢者では「とても充実している」(2.8%)、「充実している」(13.5%)の割合が 16.3%と他の性年代に比べ高い。

図表 III. 6. 17 区の高齢者施策について

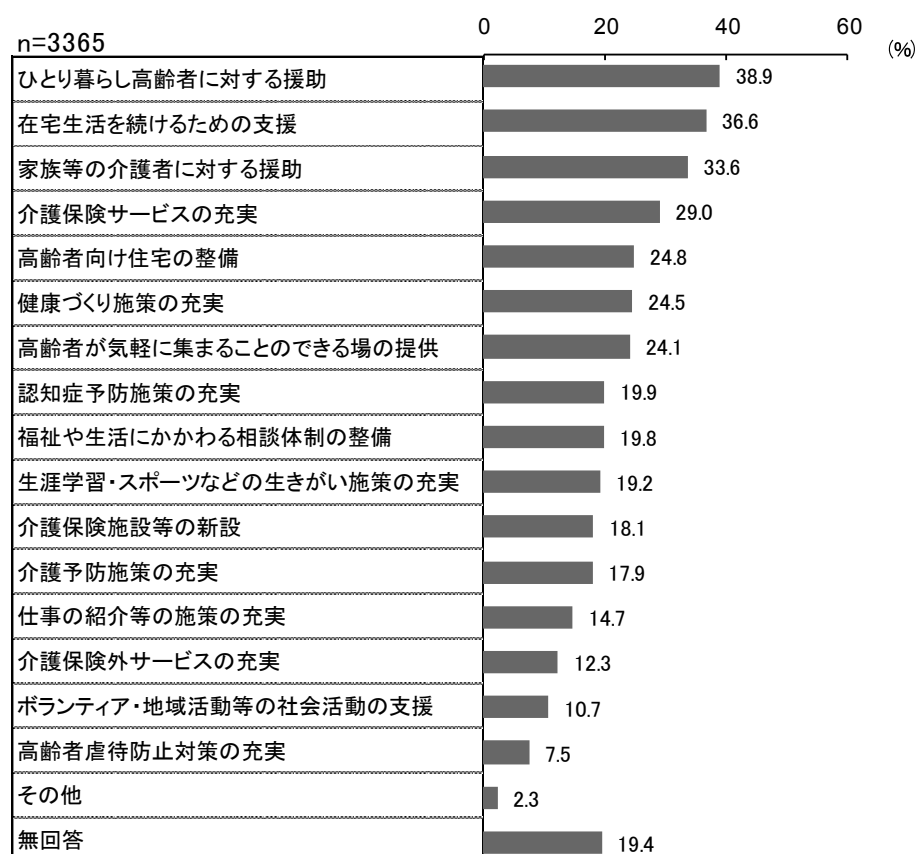
		(%)						
		とても 充実している	充実 している	どちらとも 言えない	あまり充実 していない	充実していない	わからない	無回答
一般 高齢 者	計(n=3365)	1.8	10.5	18.8	4.9	2.5	48.4	13.2
	男性前期高齢者(n=845)	2.0	9.1	19.9	3.9	2.6	51.0	11.5
	男性後期高齢者(n=667)	0.6	11.7	16.9	5.5	3.0	48.4	13.8
	女性前期高齢者(n=932)	1.2	8.5	19.2	5.5	3.0	49.8	12.9
	女性後期高齢者(n=829)	2.8	13.5	19.2	4.5	1.2	45.0	13.9

⑨ 高齢者施策に関する区への要望

【01 一般高齢者 問 39】

高齢者施策に関する区への要望については、「ひとり暮らし高齢者に対する援助」が 38.9%と最も高く、次いで「在宅生活を続けるための支援」(36.6%)、「家族等の介護者に対する援助」(33.6%)となっている。

図表 III. 6. 1 8 高齢者施策に関する区への要望 (複数回答)



性年代別にみると、「高齢者向け住宅の整備」は男性前期高齢者で31.2%と高くなっている。

図表 III. 6. 1 9 高齢者施策に関する区への要望（複数回答）：性年代別

	一般高齢者				
	全体	男性前期高齢者	男性後期高齢者	女性前期高齢者	女性後期高齢者
n=	3365	845	667	932	829
ひとり暮らし高齢者に対する援助	38.9	43.8	36.9	38.8	36.3
在宅生活を続けるための支援	36.6	37.8	32.4	41.8	34.6
家族等の介護者に対する援助	33.6	34.6	34.2	38.2	28.3
介護保険サービスの充実	29.0	30.7	25.9	33.3	25.9
高齢者向け住宅の整備	24.8	31.2	19.9	26.4	21.5
健康づくり施策の充実	24.5	25.1	25.2	24.6	23.8
高齢者が気軽に集まることのできる場の提供	24.1	20.9	21.1	28.2	25.5
認知症予防施策の充実	19.9	22.0	16.9	20.5	19.8
福祉や生活にかかわる相談体制の整備	19.8	20.2	16.3	23.4	17.5
生涯学習・スポーツなどの生きがい施策の充実	19.2	24.4	14.2	22.1	14.5
介護保険施設等の新設	18.1	19.3	16.3	19.2	17.2
介護予防施策の充実	17.9	20.7	16.9	17.8	17.0
仕事の紹介等の施策の充実	14.7	26.3	10.5	15.7	5.1
介護保険外サービスの充実	12.3	15.0	10.6	13.6	10.1
ボランティア・地域活動等の社会活動の支援	10.7	13.7	7.8	12.0	8.3
高齢者虐待防止対策の充実	7.5	9.3	6.0	7.2	7.4
その他	2.3	2.1	1.9	1.7	2.8
無回答	19.4	16.2	21.4	17.0	23.0

要支援認定者と要支援非認定者別にみると、要支援認定者では、「ひとり暮らし高齢者に対する援助」が48.0%と高くなっている。

図表 III. 6. 2 0 高齢者施策に関する区への要望（複数回答）：要支援認定者/要支援非認定者別

	一般高齢者		
	全体	要支援非認定者	要支援認定者
n=	3365	3213	152
ひとり暮らし高齢者に対する援助	38.9	38.4	48.0
在宅生活を続けるための支援	36.6	36.5	39.5
家族等の介護者に対する援助	33.6	34.1	21.7
介護保険サービスの充実	29.0	28.8	34.9
高齢者向け住宅の整備	24.8	24.8	25.0
健康づくり施策の充実	24.5	24.7	19.7
高齢者が気軽に集まることのできる場の提供	24.1	23.8	28.9
認知症予防施策の充実	19.9	19.9	19.7
福祉や生活にかかわる相談体制の整備	19.8	19.8	19.1
生涯学習・スポーツなどの生きがい施策の充実	19.2	19.6	11.2
介護保険施設等の新設	18.1	18.1	18.4
介護予防施策の充実	17.9	17.8	21.1
仕事の紹介等の施策の充実	14.7	15.0	7.2
介護保険外サービスの充実	12.3	12.1	16.4
ボランティア・地域活動等の社会活動の支援	10.7	10.9	6.6
高齢者虐待防止対策の充実	7.5	7.5	9.2
その他	2.3	2.1	4.6
無回答	19.4	19.5	19.1

地区別にみると、「ひとり暮らし高齢者に対する援助」は、北東地区（42.8％）で高く、南西地区（34.0％）で他の地区に比べ低い。

図表 III. 6. 2 1 高齢者施策に関する区への要望（複数回答）：地区別

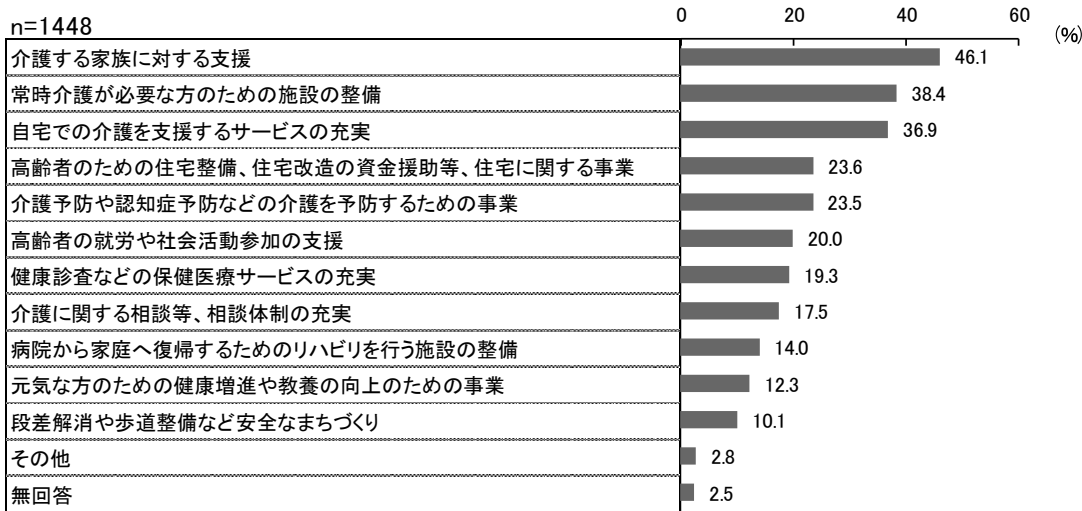
	一般高齢者					
	全体	北西地区	北東地区	南西地区	南東地区	千住地区
n=	3365	687	619	608	680	677
ひとり暮らし高齢者に対する援助	38.9	39.4	42.8	34.0	39.4	39.9
在宅生活を続けるための支援	36.6	35.1	37.2	37.7	36.6	38.8
家族等の介護者に対する援助	33.6	34.6	33.6	36.0	34.7	31.0
介護保険サービスの充実	29.0	27.9	30.7	27.1	30.4	30.0
高齢者向け住宅の整備	24.8	24.7	28.1	22.4	27.6	22.6
健康づくり施策の充実	24.5	25.3	24.2	25.5	25.4	22.5
高齢者が気軽に集まることのできる場の提供	24.1	26.3	25.4	22.5	25.0	21.7
認知症予防施策の充実	19.9	19.5	21.8	18.4	21.2	19.2
福祉や生活にかかわる相談体制の整備	19.8	20.8	20.0	18.6	19.3	19.9
生涯学習・スポーツなどの生きがい施策の充実	19.2	19.5	18.3	19.4	18.4	20.5
介護保険施設等の新設	18.1	19.8	17.4	16.4	19.4	17.7
介護予防施策の充実	17.9	18.2	18.9	18.3	18.2	17.3
仕事の紹介等の施策の充実	14.7	15.0	13.6	15.3	14.7	14.3
介護保険外サービスの充実	12.3	13.4	10.7	10.7	13.1	14.3
ボランティア・地域活動等の社会活動の支援	10.7	11.2	9.9	10.5	11.2	10.3
高齢者虐待防止対策の充実	7.5	7.6	8.4	7.9	6.0	7.8
その他	2.3	2.8	1.3	1.6	2.6	2.2
無回答	19.4	20.5	15.8	19.7	18.2	21.3

⑩ 今後足立区が取り組むべきこと

【04 一般若年者 問 36】

今後足立区が取り組むべきことについては、「介護する家族に対する支援」が 46.1%と最も高く、次いで「常時介護が必要な方のための施設の整備」(38.4%)、「自宅での介護を支援するサービスの充実」(36.9%)の順となっている。

図表 III. 6. 2 2 今後足立区が取り組むべきこと (複数回答・3つまで)



性年代別にみると、「介護する家族に対する支援」は、女性 40 代で 56.0%と高くなっている。「自宅での介護を支援するサービスの充実」は、女性 60～64 歳で 45.7%と高くなっている。

図表 III. 6. 2 3 今後足立区が取り組むべきこと (複数回答・3つまで) : 性年代別

	一般若年者						
	全体	男性 40 代	男性 50 代	男性 60 歳～64 歳	女性 40 代	女性 50 代	女性 60 歳～64 歳
n=	1448	252	236	141	336	304	164
介護する家族に対する支援	46.1	40.9	42.4	32.6	56.0	50.3	44.5
常時介護が必要な方のための施設の整備	38.4	34.5	33.9	33.3	43.8	41.1	38.4
自宅での介護を支援するサービスの充実	36.9	34.9	36.9	40.4	31.5	37.8	45.7
高齢者のための住宅整備、住宅改造の資金援助等、住宅に関する事業	23.6	27.4	28.0	14.9	22.6	23.0	20.7
介護予防や認知症予防などの介護を予防するための事業	23.5	21.0	25.8	20.6	21.7	28.6	21.3
高齢者の就労や社会活動参加の支援	20.0	18.3	19.1	18.4	25.0	20.7	15.2
健康診査などの保健医療サービスの充実	19.3	23.0	20.8	27.7	18.2	16.4	11.6
介護に関する相談等、相談体制の充実	17.5	16.3	17.8	15.6	19.6	16.8	17.7
病院から家庭へ復帰するためのリハビリを行う施設の整備	14.0	10.3	12.7	17.0	13.1	15.8	17.1
元気な方のための健康増進や教養の向上のための事業	12.3	15.1	13.1	16.3	9.8	10.2	12.8
段差解消や歩道整備など安全なまちづくり	10.1	12.3	8.9	9.9	6.3	12.8	11.0
その他	2.8	3.6	1.7	1.4	3.9	2.3	3.0
無回答	2.5	4.0	2.1	5.0	1.2	1.6	2.4

地区別にみると、「介護予防や認知症予防などの介護を予防するための事業」については、千住地区で 29.0% と他地区に比べ高く、南東地区では 17.9% と他地区に比べて低い。

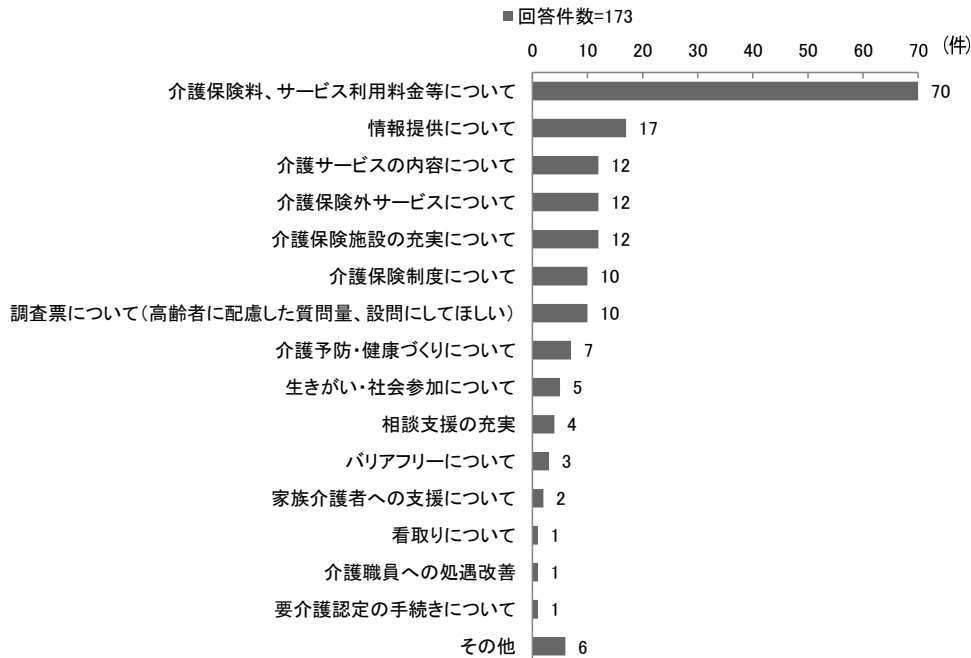
図表 III. 6. 2 4 今後足立区が取り組むべきこと（複数回答・3つまで）：地区別

	一般若年者					
	全体	北西地区	北東地区	南西地区	南東地区	千住地区
n=	1448	301	264	267	302	297
介護する家族に対する支援	46.1	48.8	46.6	47.6	43.0	46.1
常時介護が必要な方のための施設の整備	38.4	35.9	39.4	39.7	39.4	37.7
自宅での介護を支援するサービスの充実	36.9	37.2	37.5	36.0	37.1	36.0
高齢者のための住宅整備、住宅改造の資金援助等、住宅に関する事業	23.6	22.3	26.9	22.5	25.5	20.5
介護予防や認知症予防などの介護を予防するための事業	23.5	24.3	22.3	24.3	17.9	29.0
高齢者の就労や社会活動参加の支援	20.0	17.9	22.0	19.5	21.5	19.9
健康診査などの保健医療サービスの充実	19.3	19.6	18.2	21.7	21.2	16.2
介護に関する相談等、相談体制の充実	17.5	15.0	20.1	16.9	18.9	17.2
病院から家庭へ復帰するためのリハビリを行う施設の整備	14.0	15.0	14.4	13.9	13.9	12.5
元気な方のための健康増進や教養の向上のための事業	12.3	13.3	12.1	9.4	12.3	14.1
段差解消や歩道整備など安全なまちづくり	10.1	7.0	9.5	9.0	11.6	12.8
その他	2.8	3.0	3.0	2.2	2.3	3.4
無回答	2.5	5.0	1.1	1.9	2.0	2.0

(2) 区への意見、要望

【01 一般高齢者 問 40】【02 単身高齢者 問 47】【03 要介護認定者 問 35】
 【04 一般若年者 問 37】

図表 III. 6. 25 区への意見、要望【一般高齢者】



【一般高齢者】

- **介護保険料、サービス利用料金等について・・・70件**
 - ◇ 介護保険料は40歳以上から支払い65歳から年金から差し引かれるが、生涯介護の世話にならなかった人は支払い損ではないのか。
 - ◇ いろんな施設やセンターを利用している方のみ援助があり、そのような所を利用したくない人もいます。薄くても平均に援助が必要ではないでしょうか。
- **情報提供について・・・17件**
 - ◇ 高齢者が受けられる支援の内容が詳しくわかりやすく記入された小冊子を毎年、配付して欲しい。
- **介護サービスの内容について・・・12件**
 - ◇ 施設に入ったり利用している活動を見ると子どもじみている。もっとひとりの大人として満足できるような内容を取り入れ、質の向上を希望します。
- **介護保険外サービスについて・・・12件**
 - ◇ 介護保険サービスを受けずに85歳以上人生を全うし終えた方には、何らかのサービスが欲しい。
- **介護保険施設の充実について・・・12件**
 - ◇ 特養の充実、入所者の経費負担の減(高すぎる)、特に個室にこだわらず多床室で経費を安くする等
 - ◇ 特養老人ホームの新設を早急にお願いしたいです。足立区は老人が多く、待機人数も多いので必要性が高いと思います。

● 介護保険制度について・・・10件

- ◇ 自立支援制度を利用していた障害者が、高齢になって介護保険制度に移行され矛盾を感じている問題が多々あるようです。今まで受けられていたものがそのまま受けられるように配慮される事を望みます。
- ◇ 介護保険制度についてもう少し内容を詳しく知らせて欲しい。介護施設の種類や1ヶ月の費用及び空き状態を常に広報等で知らせて、一覧表にしてPR活動を行ってほしい。

● 調査票について（高齢者に配慮した質問量、設問にして欲しい）・・・10件

- ◇ 後期高齢者に対して、もう少しわかりやすい言葉の説明が欲しい。

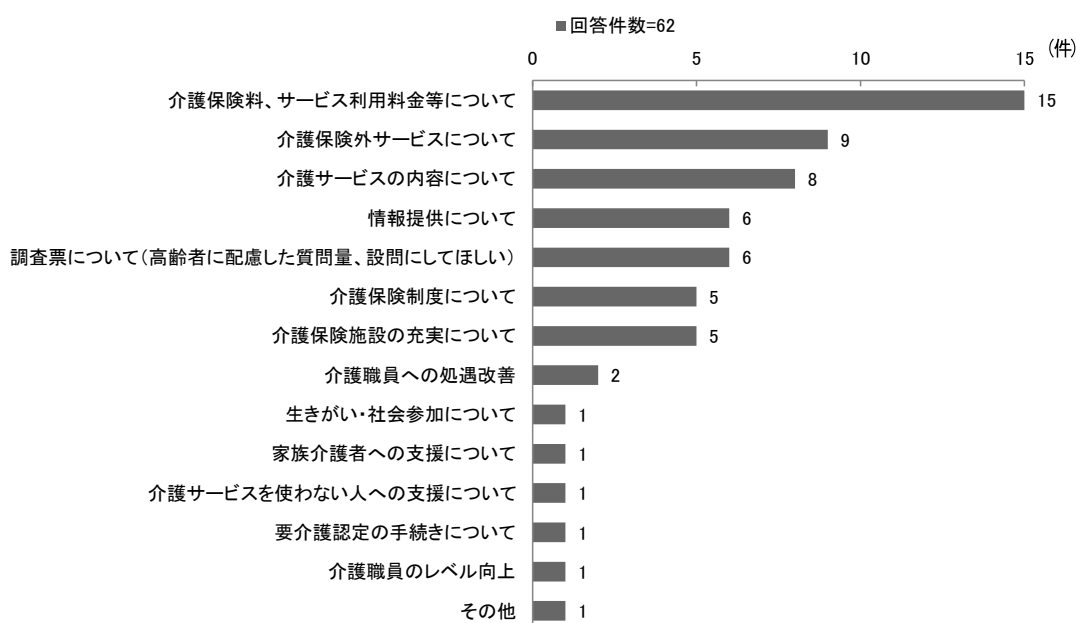
● 介護予防・健康づくりについて・・・7件

- ◇ なるべく長く自立して自宅で生活できるように、予防の為の体操（例えばらくらく体操教室）等を自由に参加できるようにお願いします。続けなければ元に戻ります。

● その他・・・23件

- ◇ 足立区の元気応援ポイント事業で活動して4年です。今施設では人手不足で大変です。私の周りにも元気な高齢者は多くいます。この制度をもっと広く進めてください。そして受入側の施設のあり方も問題です。もっと広く門戸を広げてください。
- ◇ 生活に何か事があった時に相談できる総合相談窓口を設けていただき、そこから各々の相談できる機関を紹介していただきたいと思ひます。
- ◇ 介護が必要な家族と同居している家族に援助があれば良いと思う。介護は、体力的にも精神的にも経済的にも大変疲れます。老老介護になっている場合はなおさらです。
- ◇ 自宅での看取りが実現できる制度を充実させていただきたいと思ひます。
- ◇ 福祉事業（特養）の介護職員の待遇改善を望みます。
- ◇ 介護認定をもっとスピードアップしてほしい。
- ◇ 民間賃貸住宅（集合）に1人暮らしです。将来の不安は、保証人が亡くなってアパートに住めなくなることです。1人暮らしの老人のためのアパート（公営）を多くしていただきたいと思ひます。

図表 III. 6. 2 6 区への意見、要望【単身高齢者】



【単身高齢者】

● 介護保険料、サービス利用料金等について・・・15件

- ◇ 介護保険の利用については、所得によって支払金額（保険利用料）が1割負担とか2割負担とかになっています。これは不公平・不平等で、介護保険料の二重搾取です。介護保険料は所得額によって負担しているわけです。その上で、利用料の負担額が所得金額により区別されているのは真に差別です。
- ◇ 在宅での介護を推進していると思われそうですが、月の利用料は年金を大幅に超えてしまいます。生活費もあり、毎月かなりの赤字というのが現状です。安心して暮らせるような制度の構築を心掛けて欲しいと思います。

● 介護保険外サービスについて・・・9件

- ◇ 2～3年前に左股関節の手術をしたので、前ほどは歩けないです。バス停も遠いし、タクシー券を出してくださるとよいのですが。
- ◇ 高齢単身者には、ネットワーク等で定期的に安否の確認をしてくれるシステムが欲しい。

● 介護サービスの内容について・・・8件

- ◇ 施設のスタッフの人について、夜間中はできることなら1人から2人に増して欲しいです。

● 情報提供について・・・6件

- ◇ 高齢者自身や高齢者を介護している家族の方々に、いろいろな制度の案内や利用の方法など説明した定期便を出して欲しい。
- ◇ 役所か地域包括支援センター等で説明会等をやっただけならありがたいです。

● 調査票について（高齢者に配慮した質問量、設問にして欲しい）・・・6件

- ◇ 家族の者が質問し記入はしたが、高齢者にとっては質問数が多く幾度も休憩が必要でした。主旨は理解できますが、もっと高齢者の立場での質問量を検討願います。
- ◇ 送付される書類の内容をよりわかりやすくして欲しい（難しくてわからない事が多い）。

● 介護保険制度について・・・5件

- ◇ 病院に入院して具合が悪くなってから、介護保険の申請をする方が多いです。ある一定の年齢になったら、申請をするように促してはいかがでしょうか。全然介護保険を使わずに生活されている方もいるので、軽減策もあってはいかがでしょうか。

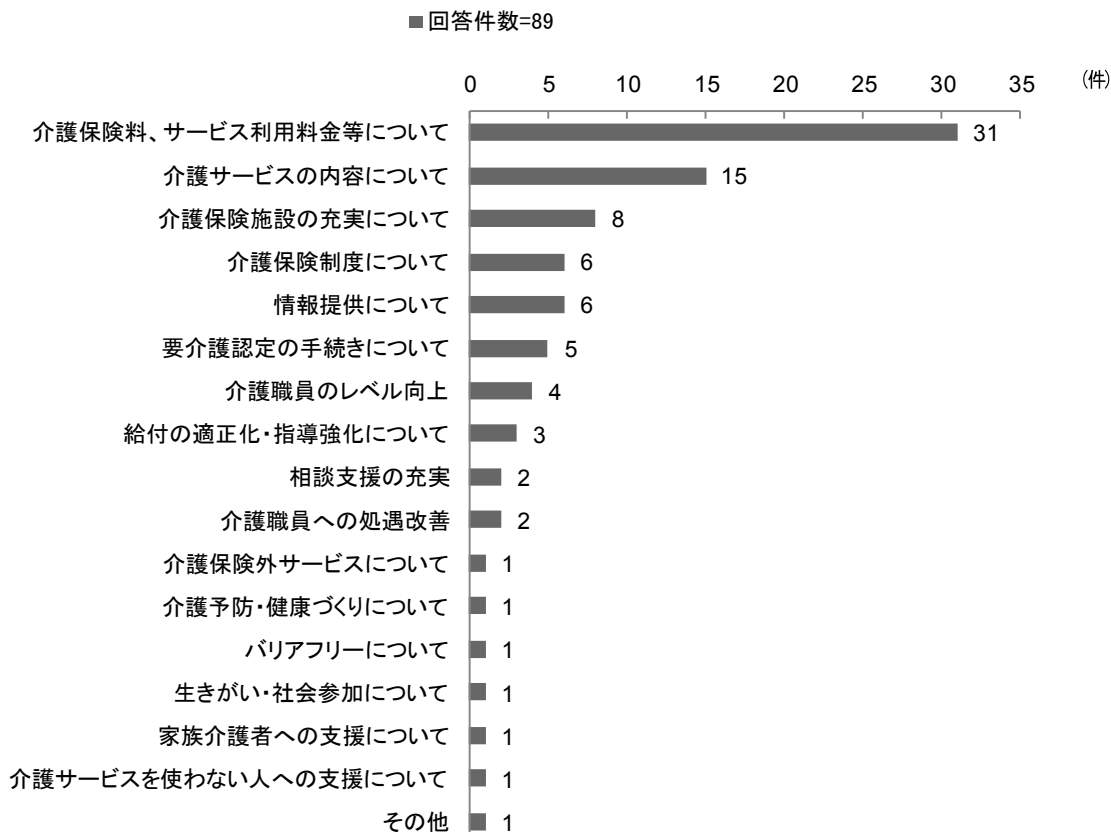
● 介護保険施設の充実について・・・5件

- ◇ 特養老人ホーム等の施設の充実が必要だと思います。現在の待ちが長過ぎ。家族が疲れ果ててしまう。
- ◇ 特養について近年個室型が増えていますが、入居待ちの方が多数います。入れない方は病院で3ヶ月ごとに移動との話を聞きます。ぜひ、大勢の方が入れるようお願いします。

● それ以外・・・8件

- ◇ マンションなので絆のあんしん協力員による定期的な声かけなどはない。不干渉的なところがあるのでこちらから声かけするにはしているが、戦時中の隣組などを思い出すと残念。
- ◇ 高齢者や介護を支えている家族に補助制度等を考えて欲しい。
- ◇ 1ヶ月一度介護が必要ない人のところへも訪問するよう、その地域の協力者の方が訪問されたらいくらか将来が明るい気がします。
- ◇ 手続きをする時、わざわざ区役所まで行かなくても近くの区民事務所で済むように、全ては無理でも少しでも多くできるようにして欲しい。

図表 III. 6. 2 7 区への意見、要望【要介護認定者】



【要介護認定者】

- **介護保険料、サービス利用料金等について・・・31 件**
 - ◇ サービス利用料が高くて、必要(望む)だけのサービスを減らさないといけない状態です。
 - ◇ 母を特養へ入れたのですが、配偶者が非課税でないため、施設の料金が高くて困ります。

- **介護サービスの内容について・・・15 件**
 - ◇ 役所での書類手続き等、本人ができない為に息子に依頼しているが、委任状などの手続きがあり時間が掛かる。個人情報の問題もあるが親子であることの確認でスムーズにできるよう、改善していただきたい。
 - ◇ 急な用事でショートステイをお願いしたい時に、事前準備に時間が必要で、利用に不便さを感じる。うまく施設間で、連携が取れないものだろうか。

- **介護保険施設の充実について・・・8 件**
 - ◇ 介護施設は医療が必要になると退所させられる。また病院は、当該病気を治療するが半年経過すると退院させられる。医師、看護師と医療設備が整いつつ介護が受けられる施設があれば安心。

- **介護保険制度について・・・6 件**
 - ◇ 高齢者(後期高齢者)の制度の対象者は、すべてのことを、一度(1ヶ所)で相談できる所があると、ありがたいと思います。
 - ◇ 介護保険制度については、積極的に冊子をじっくり読むとか、役所等に行かなければ知らない制度が多い。

● 情報提供について・・・6件

◇ケアマネージャーさんが主な情報提供者になると思いますが、後で“知っていれば”と感じることも多いです。ケアマネージャーさんもプラン作成だけでなく、できるだけ個々に合った情報を提供してくれるとありがたいです。

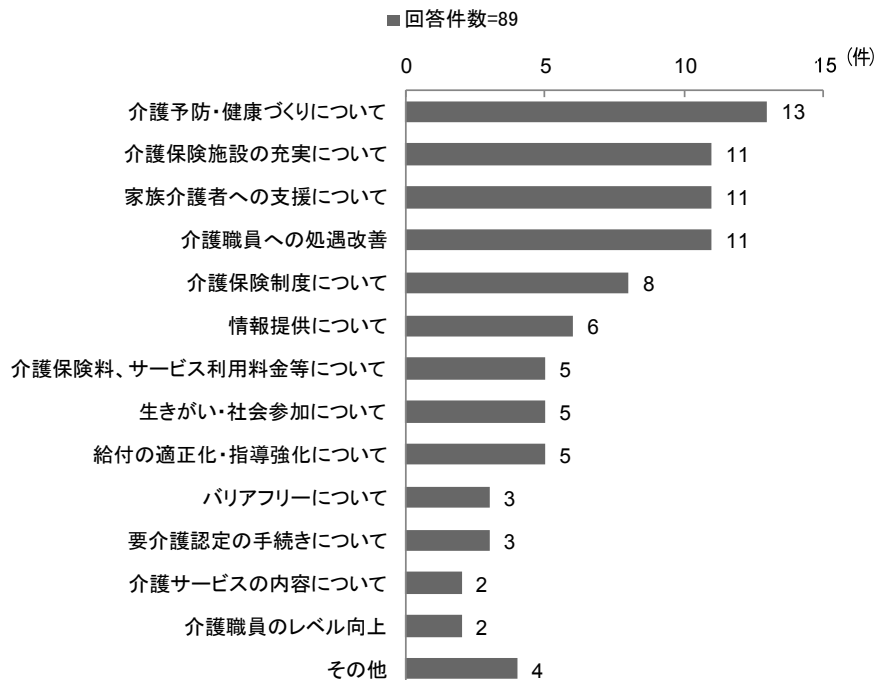
● 要介護認定の手続きについて・・・5件

◇何をやるにも申請から時間が掛かりすぎる。介護認定の区分変更や取り下げなど放置され、不信感もある。受けたい時に必要な介護が受けられない。

● それ以外・・・18件

- ◇ケアマネージャー同士の横の繋がり、情報の交換等が自由に活発に行われていれば良いと思います。情報の共有ができていれば、ケアマネ同士も、介護する側も、助かると思います。
- ◇地域包括支援センターや介護施設での取り組みに格差が生じているように感じます。どこのセンター、施設を利用しても質の高い適切な支援が受けられるよう、指導監督をお願いしたいと思います。
- ◇老人ホームに入れるまで7年くらい。長かった。もう少しなんとかならないのかと思います。
- ◇常に施設は人材不足と聞いています。ギリギリの人員では良いサービスは受けられません。離職者が少なくなるよう考えて頂きたいです。
- ◇健康維持に力を入れている高齢者には、ご褒美として還付金があるともっと健康に留意していくのではないのでしょうか。

図表 III. 6. 28 区への意見、要望【一般若年者】



【一般若年者】

● 介護予防・健康づくりについて・・・13件

◇区民一人でも参加できる健康増進教室を安く設けて欲しい。(体操や水泳など)介護に対する講演(考え方や相談場所など)を定期的にお願したい。

◇ 高齢者同士で助け合える共同住宅を提供して、そこに低料金で住めるようにして介護予防と介護のやり方の講習などを定期的に行って、高齢者同士でささえ合えるような制度も必要だと思う。

● **介護保険施設の充実について・・・11件**

- ◇ 公的施設が絶対的に不足。増設して欲しい。
- ◇ 介護にたずさわる方の収入増等による人員確保。
- ◇ 施設等集約化を行い、介護等の人員の効率化により、介護を受けられる人の増、少人数での介護、効率化を図る。ただし介護を受ける人の尊厳を守り、介護する方の所得・地位を確立する。
- ◇ 父が特養に入れなくて2年間病院と老健に入っていました。病院にいたっては、3ヶ月で出されてしまい、何度も新しい病院の手続きをして大変でした。3件ほど転々と病院が変わりました。動けなくなった人がすぐに入れる施設を増やして欲しいです。お金も掛かるので安く入れる施設を増やして欲しいです。

● **家族介護者への支援について・・・11件**

- ◇ 介護はほとんど女性の役目になっていて、仕事があってもデイサービスの送り出し、自宅での介護で仕事どころではなくなる。職場でも介護が長期になれば在籍しづらく感じ、勤めが厳しい。
- ◇ 介護休業法は、杓子定規的で利用が難しい点があります。大企業は、介護休業法に上乗せした規則がある場合もあるようですが、中小企業に勤める者には、法律のみの適用となりますので、さらなる充実を望みます。

● **介護職員への処遇改善・・・11件**

- ◇ 介護は一人ではできないし、ヘルパーが絶対的に必要で、どこの現場も人手不足です。処遇改善に努め、ヘルパーを大切にしなければ、介護制度なんて崩壊します。

● **介護保険制度について・・・8件**

- ◇ 保険料を支払っていますが、具体的にどんな使われ方をしているか知る機会がない。自分達を利用する際にも、いろいろ困難な（容易に利用できると思えない）制度と思う。
- ◇ 保険料を上げればサービスが充実するのか、本当に不要なこと、不要な人にお金が支払われていないのか、そこがクリアになって介護サービスが必要なら、保険料が上がっても仕方ないと考えていることを理解していただきたいです。

● **情報提供について・・・6件**

- ◇ 今現在の状況や仕組みがわからない。区報など、無料で配られ目にするのが多い情報紙に、介護が必要になったらどうするのかなど、定期的に相談内容に基づいた取り組みや課題など公表して欲しい。
- ◇ 地域包括支援センターなどに行かなければ、色々な制度があることを認識できないので、制度の内容をわかりやすくまとめたパンフレットなどがあればよいと思う。

● **介護保険料、サービス利用料金等について・・・5件**

- ◇ 介護保険料を払うのはいいが、積み立て型にして欲しい（保険料は高くても可）。将来、掛けた保険料を一時金として受け取る（介護サービスは受けない）か、介護サービスを受ける為に据え置きにするかを選べるようにして欲しい。
- ◇ 保険料は、介護を利用する人、しない人がいるので、もう少し安くし、利用負担金はもう少し高くし、利用しない人への負担が少ない方がよいと思う。

● **生きがい・社会参加について・・・5件**

- ◇ 地域包括センターや区民センター（デイサービスなど）での集まりなど、土曜・日曜・祝日も利用できるようにして欲しいです。
- ◇ 将来は、足立区内で働く場所が拡充されると、生きがい、働きがい、健康、地域のつながり…など好循環につながると思います。現在、足立区内には、主要な都心程、雇用環境が整っていません。高齢者の新しい働き方を、創出して欲しいです。

● **給付の適正化・指導強化について・・・5件**

- ◇ 払った保険料に相当するサービスが自分に戻ってくるとは思いにくく、不公平感や損する感じを持つ。不公平感をなくすような制度変更を望みます。

● **それ以外・・・14件**

- ◇ 老人ホームなどに保育園が併設できれば、いろんな意味で交流、刺激があり相互がうまくいくのではないかな…とったりします。
- ◇ 他区に比べ、足立は制限が多く、重度者が介護保険や公的サービスを活用しづらく、住みにくい。他区には、国の保険外で、独自の取り組みを行っている所もある。足立は交通の便も悪く、老人の要介護度が高くなれば、在宅でヘルパーもおらず生活できない方向に傾いてしまう。フレックスな運用が求められる。
- ◇ 介護労働を担ってくれるのは、人材不足の中では、高齢者または外国人労働者を当てにするしかないと思う。高齢者人材センターまたは外国人労働者人材センターなど、区の財政などの公的資金で強化育成できないだろうか。
- ◇ 身近に要介護者がいないと、介護なんて自分とは無関係だからと関心を持たないまま大人になってしまうと思うので、小学校、中学校で年1回、介護についての講習会を行うのが良いと思います。介護への認識を持つようになってくれたなら、将来は身近な問題になるかもしれないという意識が芽生えるのではないのでしょうか。

IV 事業所対象調査 調査結果

1 基本属性

(1) 事業種別

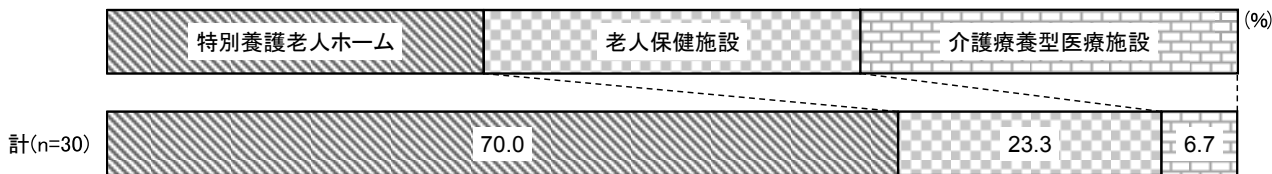
在宅サービス事業所の事業種別については、「通所介護」が 24.7%と最も高く、次いで「訪問介護」(24.5%)、「訪問看護」(8.8%)となっている。

図表 IV. 1. 1 事業種別 (07 在宅サービス事業所 問1 (2))



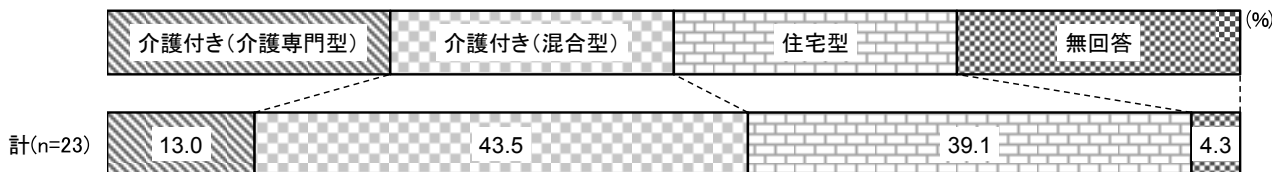
介護保険施設の事業種別については、「特別養護老人ホーム」が70.0%と最も高く、次いで「老人保健施設」が23.3%、「介護療養型医療施設」が6.7%となっている。

図表 IV. 1. 2 事業種別 (08 介護保険施設 問1 (2))



有料老人ホームの事業種別については、「介護付き (混合型)」が43.5%と最も高く、次いで「住宅型」(39.1%)、「介護付き (介護専門型)」(13.0%)となっている。

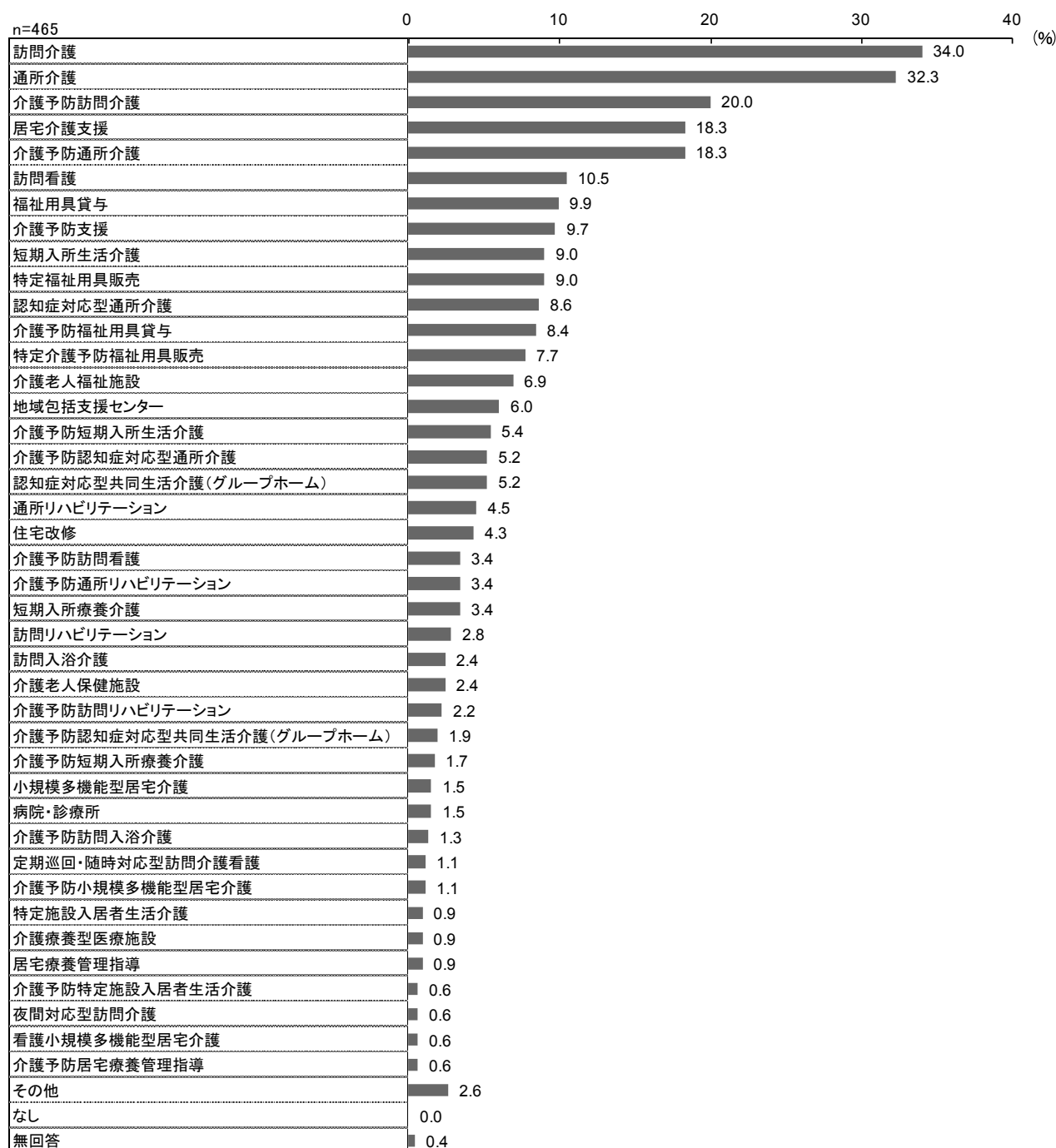
図表 IV. 1. 3 事業種別 (09 有料老人ホーム 問1 (3))



(2) 現在実施事業

在宅サービス事業所の現在実施事業については、「訪問介護」が34.0%と最も高く、次いで「通所介護」(32.3%)、「介護予防訪問介護」(20.0%)、「居宅介護支援」「介護予防通所介護」(ともに18.3%)となっている。

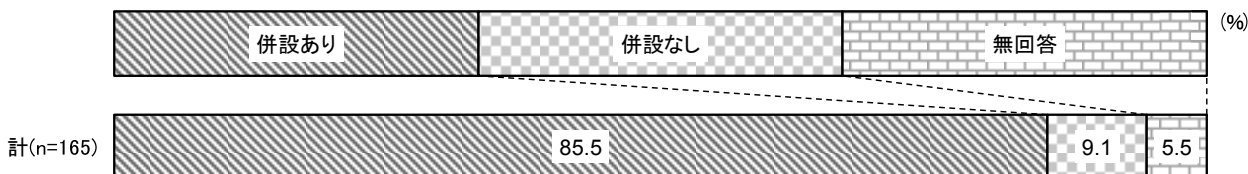
図表 IV. 1. 4 現在実施事業 (複数回答、07 在宅サービス事業所 問1 (3))



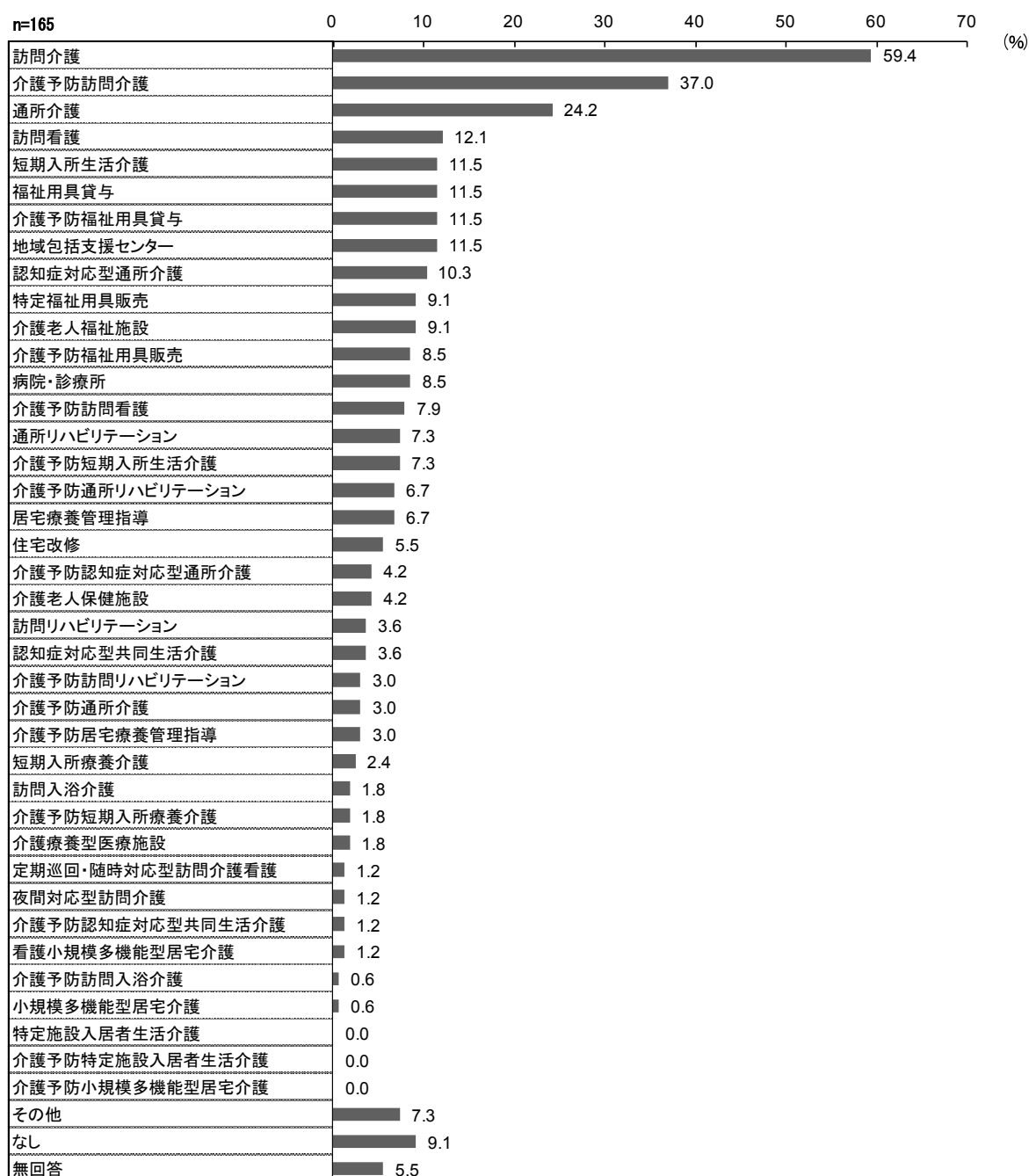
(3) 併設事業

居宅介護支援事業所において、「併設あり」は85.5%、「併設なし」は9.1%となっている。
併設事業では、「訪問介護」が59.4%と最も高く、次いで「介護予防訪問介護」(37.0%)、「通所介護」(24.2%)となっている。

図表 IV. 1. 5 併設事業の有無 (06 居宅介護支援事業所 問 1 (2))



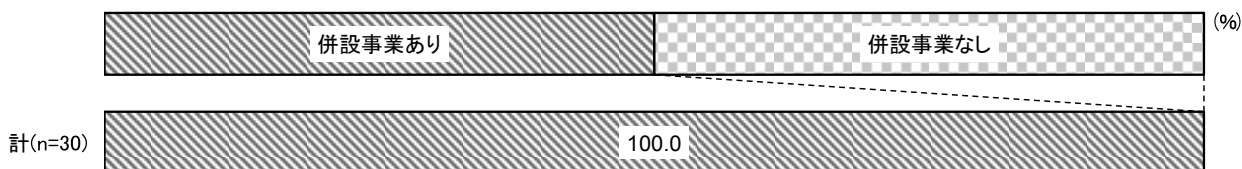
図表 IV. 1. 6 併設事業 (複数回答、06 居宅介護支援事業所 問 1 (2))



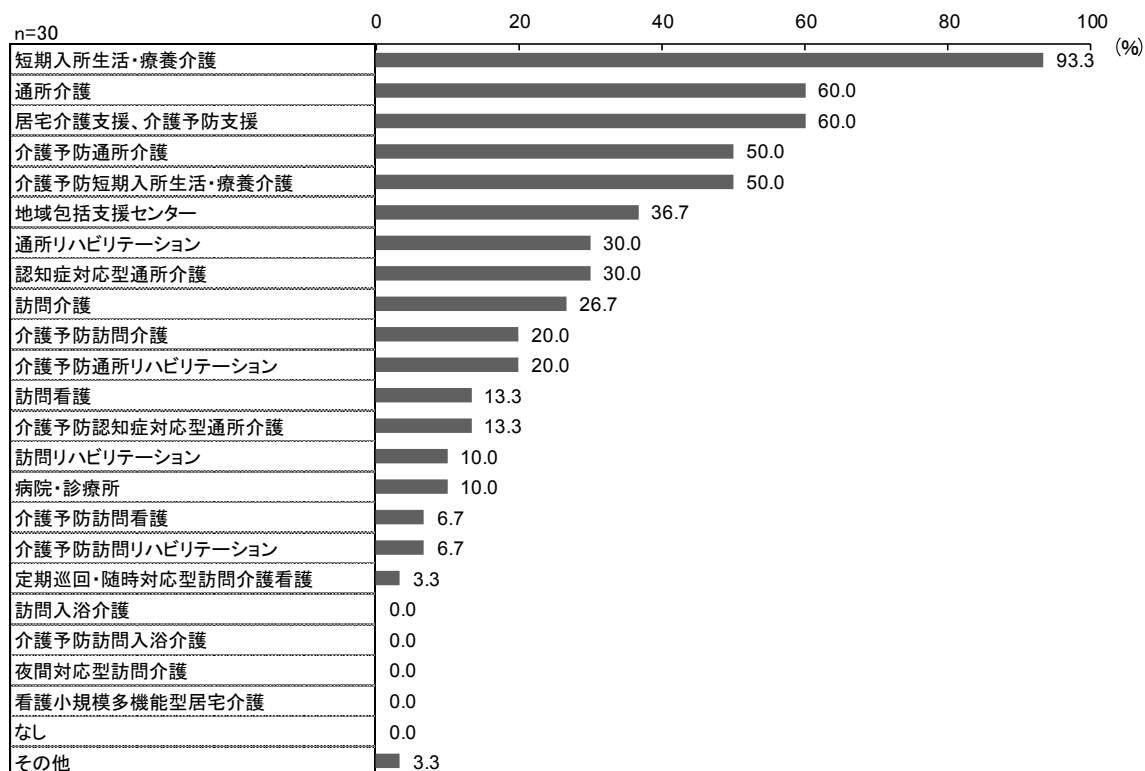
介護保険施設において、「併設事業あり」は100.0%となっている。

介護保険施設の併設事業については、「短期入所生活・療養介護」が93.3%と最も高く、次いで「通所介護」、「居宅介護支援、介護予防支援」（ともに60.0%）、「介護予防通所介護」、「介護予防短期入所生活・療養介護」（ともに50.0%）となっている。

図表 IV. 1. 7 併設事業の有無 (08 介護保険施設 問 1 (5))



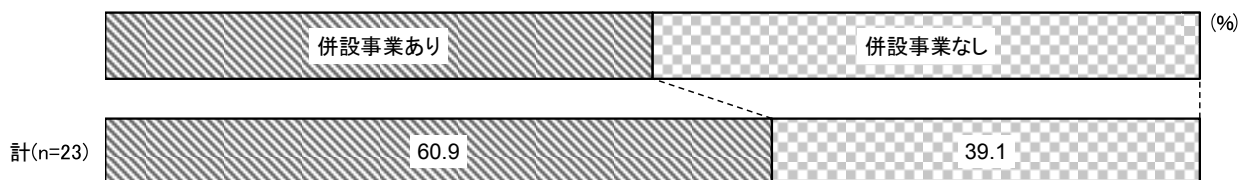
図表 IV. 1. 8 併設事業 (複数回答、08 介護保険施設 問 1 (5))



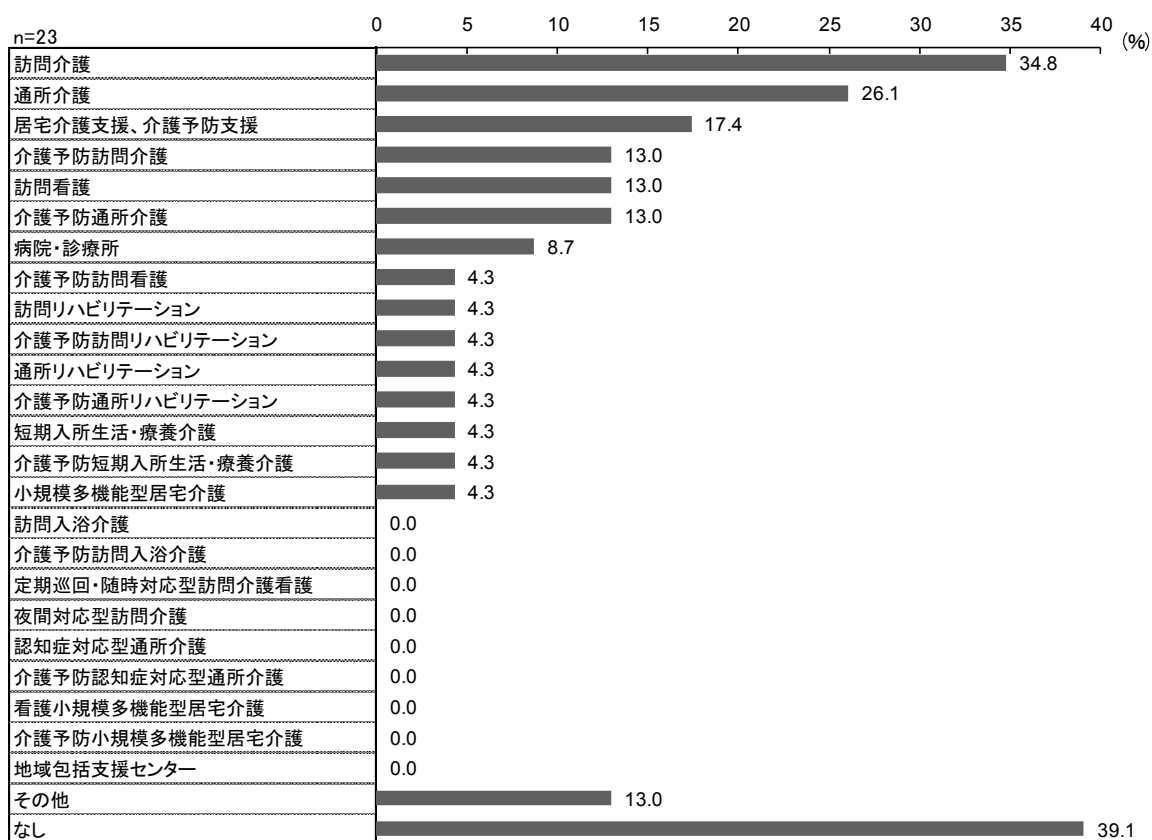
有料老人ホームにおいて、「併設事業あり」は 60.9%、「併設事業なし」は 39.1%となっている。

有料老人ホームの併設事業については、「訪問介護」が 34.8%と最も高く、次いで「通所介護」(26.1%)、「居宅介護支援、介護予防支援」(17.4%)となっている。

図表 IV. 1. 9 併設事業の有無 (09 有料老人ホーム 問 1 (7))



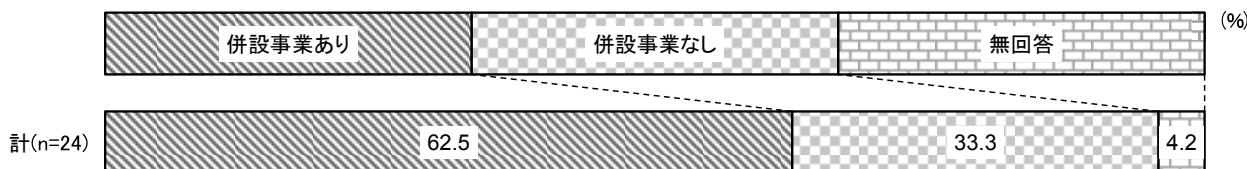
図表 IV. 1. 10 併設事業 (複数回答、09 有料老人ホーム 問 1 (7))



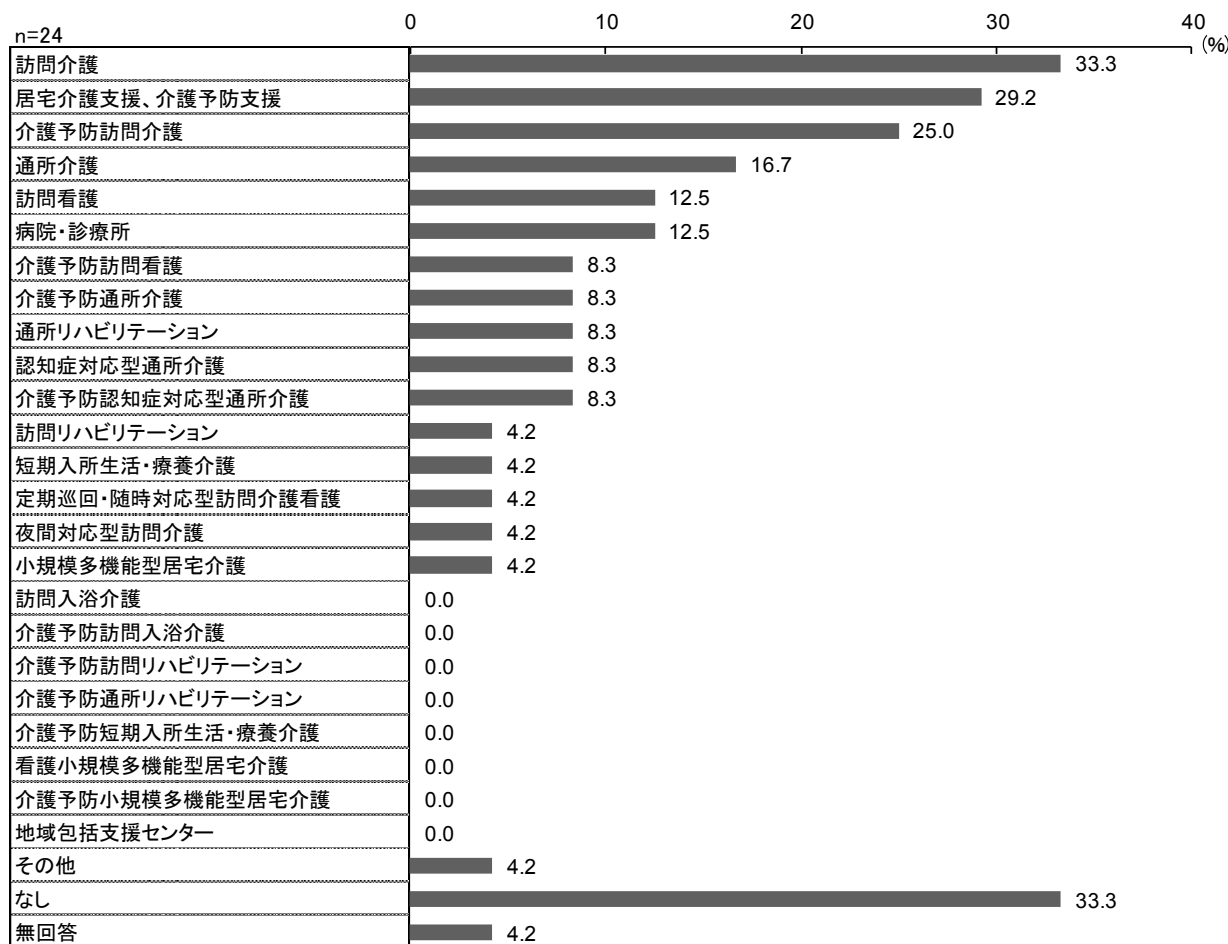
サービス付高齢者向け住宅において、「併設事業あり」は 62.5%、「併設事業なし」は 33.3% となっている。

サービス付高齢者向け住宅の併設事業については、「訪問介護」が 33.3%と最も高く、次いで「居宅介護支援、介護予防支援」(29.2%)、「介護予防訪問介護」(25.0%) となっている。

図表 IV. 1. 1 1 併設事業の有無 (10 サービス付高齢者向け住宅 問 1 (6))



図表 IV. 1. 1 2 併設事業 (複数回答、10 サービス付高齢者向け住宅 問 1 (6))



(4) 経営主体

居宅介護支援事業所の経営主体については、「営利法人」が 64.8%と最も高く、次いで「医療法人」(13.9%)、「社会福祉法人」(12.7%)となっている。

図表 IV. 1. 1 3 経営主体 (06 居宅介護支援事業所 問 1 (3))

n=	営利法人	医療法人	社会福祉法人	NPO法人	その他法人	個人	その他	無回答	上段: 回答数 下段: (%)
	165	107	23	21	8	4	1	0	
100	64.8	13.9	12.7	4.8	2.4	0.6	0.0	0.6	

在宅サービス事業所の経営主体については、「営利法人」が 62.4%と最も高く、次いで「社会福祉法人」(16.6%)、「医療法人」(14.6%)となっている。

図表 IV. 1. 1 4 経営主体 (07 在宅サービス事業所 問 1 (4))

n=	営利法人	医療法人	社会福祉法人	NPO法人	その他法人	個人	その他	無回答	上段: 回答数 下段: (%)
	465	290	68	77	19	4	1	1	
100	62.4	14.6	16.6	4.1	0.9	0.2	0.2	1.1	

介護保険施設の経営主体については、「社会福祉法人」が 70.0%と最も高く、次いで「医療法人」(30.0%)となっている。

図表 IV. 1. 1 5 経営主体 (08 介護保険施設 問 1 (3))

n=	医療法人	社会福祉法人	その他	上段: 回答数 下段: (%)
	30	9	21	
100	30.0	70.0	0.0	

有料老人ホームの経営主体については、「営利法人」が82.6%（19施設）と最も高い。

図表 IV. 1. 1 6 経営主体（09 有料老人ホーム 問1（4））

n=	営利法人	医療法人	社会福祉法人	NPO法人	その他法人	その他	上段: 回答数 下段: (%)
	23	19	1	1	1	1	0
100	82.6	4.3	4.3	4.3	4.3	0.0	

サービス付高齢者向け住宅の経営主体については、「営利法人」が83.3%（20施設）と最も高く、次いで「医療法人」、「社会福祉法人」（ともに8.3%）となっている。

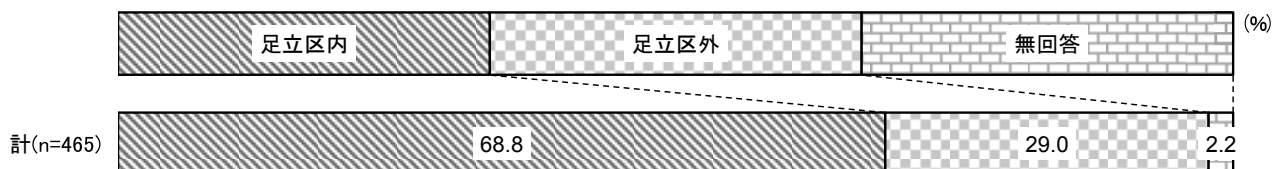
図表 IV. 1. 1 7 経営主体（10 サービス付高齢者向け住宅 問1（3））

n=	営利法人	医療法人	社会福祉法人	NPO法人	その他法人	その他	上段: 回答数 下段: (%)
	24	20	2	2	0	0	0
100	83.3	8.3	8.3	0.0	0.0	0.0	

(5) 法人所在地

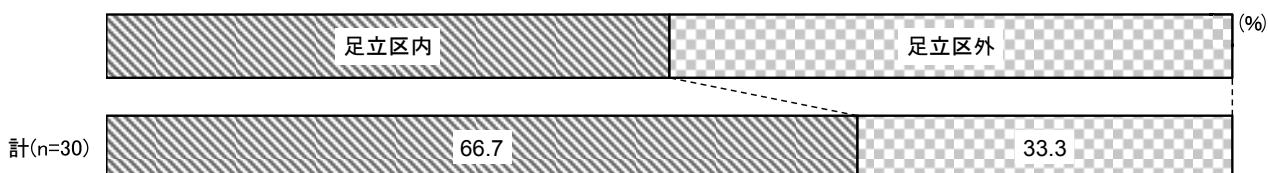
在宅サービス事業所の法人所在地については、「足立区内」が 68.8%、「足立区外」が 29.0%となっている。

図表 IV. 1. 1 8 法人所在地 (07 在宅サービス事業所 問 1 (5))



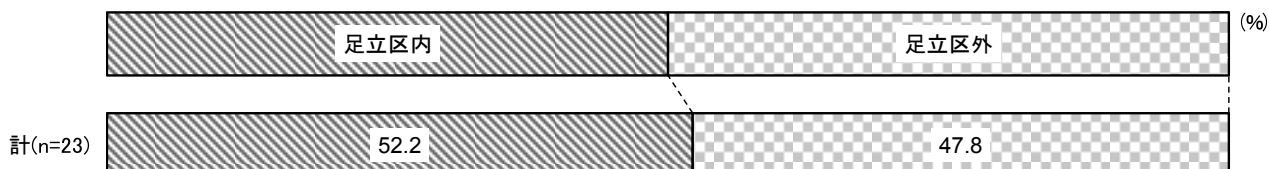
介護保険施設の法人所在地については、「足立区内」が 66.7%、「足立区外」が 33.3%となっている。

図表 IV. 1. 1 9 法人所在地 (08 介護保険施設 問 1 (4))



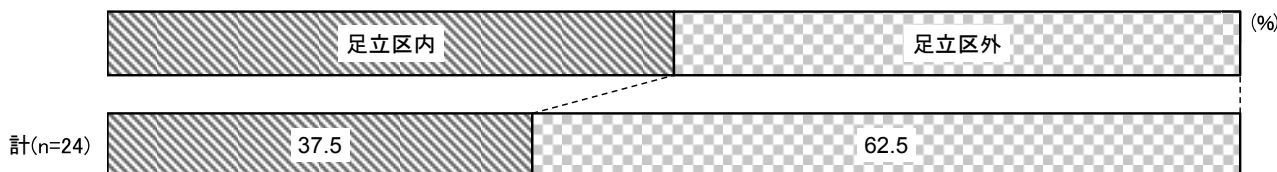
有料老人ホームの法人所在地については、「足立区内」が 52.2%、「足立区外」が 47.8%となっている。

図表 IV. 1. 2 0 法人所在地 (09 有料老人ホーム 問 1 (5))



サービス付高齢者向け住宅の法人所在地については、「足立区内」が 37.5%、「足立区外」が 62.5%となっている。

図表 IV. 1. 2 1 法人所在地 (10 サービス付高齢者向け住宅 問 1 (4))

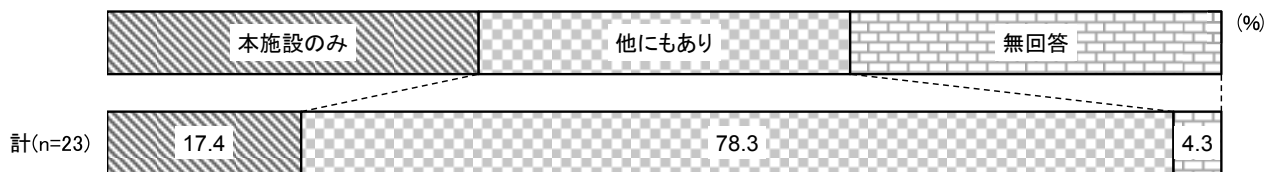


(6) 運営箇所数

①運営箇所について

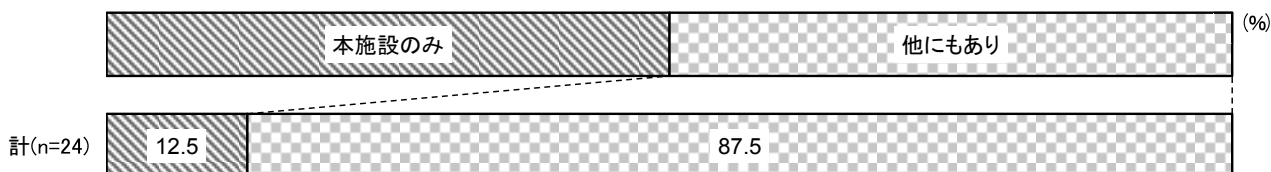
有料老人ホームの箇所については、「他にもあり」が 78.3%、「本施設のみ」が 17.4%となっている。

図表 IV. 1. 2 2 運営箇所について (09 有料老人ホーム 問 1 (6))



サービス付高齢者向け住宅の箇所については、「他にもあり」が 87.5%、「本施設のみ」が 12.5%となっている。

図表 IV. 1. 2 3 運営箇所について (10 サービス付高齢者向け住宅 問 1 (5))

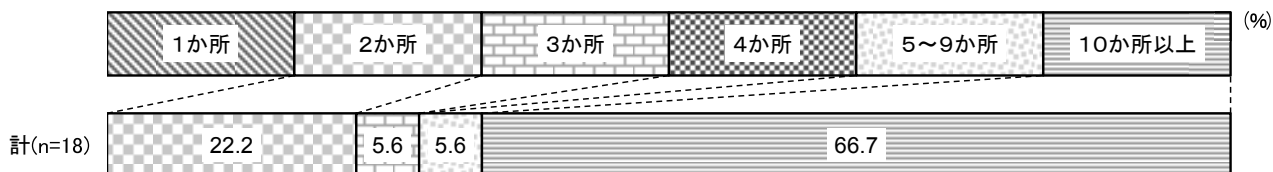


②運営箇所数

有料老人ホームにおいて、本施設以外も運営している法人の有料老人ホーム、サービス付高齢者向け住宅の全箇所数は、「10 か所以上」が 66.7%と最も高く、次いで「2 か所」(22.2%)、「3 か所」、「5～9 か所」(ともに 5.6%) となっている。

図表 IV. 1. 2 4 運営箇所数 (09 有料老人ホーム 問 1 (6))

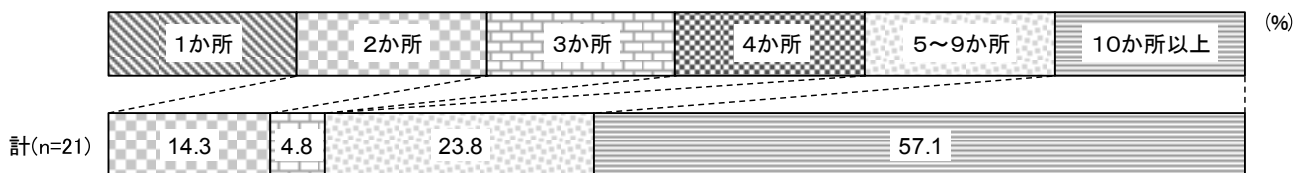
【ベース：本施設以外に施設あり】



サービス付高齢者向け住宅において、本施設以外も運営している法人の有料老人ホーム、サービス付高齢者向け住宅の全箇所数は「10 か所以上」が 57.1%と最も高く、次いで「5～9 か所」(23.8%)、「2 か所」(14.3%) となっている。

図表 IV. 1. 2 5 運営箇所数 (10 サービス付高齢者向け住宅 問 1 (5))

【ベース：本施設以外に施設あり】



(7) 職員体制

①職種別平均職員数

居宅介護支援事業所の職員体制について、平均人数は下記の通りである。

図表 IV. 1. 2 6 職員体制 (06 居宅介護支援事業所 問 1 (4))

(重複記入あり)

区分	正規職員:平均人数		非正規職員※:平均人数	
	専任	兼務	専任	兼務
施設責任者(管理者)	0.9 人	0.9 人	0.2 人	0.0 人
事務職員	0.5 人	0.4 人	0.5 人	0.4 人
介護支援専門員	2.7 人	1.1 人	1.1 人	0.2 人
うち主任介護支援専門員	(0.9 人)	(0.6 人)	(0.2 人)	(0.0 人)
その他	0.1 人	0.1 人	0.8 人	0.1 人
合計	2.8 人	1.3 人	1.2 人	0.4 人

※ 非正規職員：いわゆるパート・アルバイト
(平成 28 年 10 月 1 日現在)

在宅サービス事業所の職員体制について、平均人数は下記の通りである。

図表 IV. 1. 2 7 職員体制 (07 在宅サービス事業所 問 2)

区分	正規職員:平均人数	非正規職員※:平均人数
施設責任者(管理者)	1.0 人	0.2 人
生活相談員	1.4 人	0.4 人
事務職員	1.1 人	0.7 人
看護職員(看護師、准看護師)	2.5 人	2.3 人
介護職員(介護福祉士、ヘルパー1・2 級、初任者研修等)	6.7 人	9.9 人
機能訓練指導員(PT、OT等)	1.7 人	1.1 人
介護支援専門員	1.1 人	0.2 人
栄養士	0.5 人	0.1 人
その他	1.4 人	2.4 人
合計	10.9 人	11.0 人
うち外国人	0.4 人	1.0 人

※ 非正規職員：いわゆるパート・アルバイト
(平成 28 年 10 月 1 日現在)

介護保険施設の職員体制について、平均人数は下記の通りである。

図表 IV. 1. 2 8 職員体制 (08 介護保険施設 問 1 (6))

(重複記入あり)

区分	正規職員:平均人数	非正規職員※:平均人数
施設責任者(管理者)	1.0 人 (0.0 人)	0.0 人 (0.0 人)
生活相談員	1.9 人 (0.0 人)	0.3 人 (0.0 人)
事務職員	2.7 人 (0.0 人)	1.5 人 (0.0 人)
看護職員(看護師、准看護師)	5.8 人 (0.1 人)	4.1 人 (0.0 人)
介護職員(介護福祉士、ヘルパー1・2 級、 初任者研修等)	37.3 人 (2.1 人)	15.1 人 (1.0 人)
機能訓練指導員(PT、OT等)	2.8 人 (0.2 人)	0.9 人 (0.0 人)
介護支援専門員	2.0 人 (0.1 人)	0.2 人 (0.0 人)
栄養士	1.3 人 (0.0 人)	0.3 人 (0.0 人)
その他	1.3 人 (0.0 人)	7.7 人 (0.2 人)
合計	55.9 人	26.2 人
うち外国人	1.4 人	0.9 人

() 内は外国人職員数

※ 非正規職員：いわゆるパート・アルバイト

(平成 28 年 10 月 1 日現在)

有料老人ホームの職員体制について、平均人数は下記の通りである。

図表 IV. 1. 2 9 職員体制 (09 有料老人ホーム 問 1 (8))

(重複記入あり)

区分	正規職員:平均人数	非正規職員※:平均人数
施設責任者(管理者)	1.0 人 (0.0 人)	0.0 人 (0.0 人)
生活相談員	0.8 人 (0.0 人)	0.1 人 (0.0 人)
事務職員	0.7 人 (0.0 人)	0.2 人 (0.0 人)
看護職員(看護師、准看護師)	1.5 人 (0.0 人)	1.1 人 (0.0 人)
介護職員(介護福祉士、ヘルパー1・2 級、 初任者研修等)	10.0 人 (0.1 人)	7.1 人 (0.1 人)
機能訓練指導員(PT、OT等)	0.4 人 (0.0 人)	0.2 人 (0.0 人)
介護支援専門員	0.7 人 (0.0 人)	0.0 人 (0.0 人)
栄養士	0.6 人 (0.1 人)	0.1 人 (0.1 人)
その他	1.3 人 (0.0 人)	1.7 人 (0.1 人)
合計	16.9 人	10.6 人
うち外国人	0.2 人	0.3 人

() 内は外国人職員数

※ 非正規職員：いわゆるパート・アルバイト

(平成 28 年 10 月 1 日現在)

②居宅介護支援専門員数 (勤続年数別)

居宅介護支援事業所の居宅介護支援専門員の勤続年数別人数の平均値は下記の通りである。

図表 IV. 1. 3 0 居宅介護支援専門員数 (勤続年数別) (06 居宅介護支援事業所 問 2)

勤続年数	人数:平均人数	勤続年数	人数:平均人数
1年未満	1.1 人 (0.5 人)	3年～4年未満	0.9 人 (0.2 人)
1年～2年未満	1.1 人 (0.1 人)	4年～5年未満	0.8 人 (0.2 人)
2年～3年未満	1.2 人 (0.3 人)	5年以上	2.0 人 (1.1 人)

() 内は主任介護支援専門員数

2 介護サービスの提供状況等

(1) 訪問介護・通所介護の要介護度別サービス利用者数

在宅サービス事業所における、訪問介護・通所介護の要介護度別のサービス利用者数は下記の通りである。

図表 IV. 2. 1 訪問介護・通所介護の要介護度別サービス利用者数 (07 在宅サービス事業所 問3)

【訪問介護利用者の要介護度別人数】				※ (平成 28 年 10 月サービス利用分) 平均人数			
要支援1	要支援2	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	計
4.0 人	6.3 人	10.0 人	16.2 人	8.8 人	6.9 人	6.0 人	58.3 人
上記利用者数のうち、家事援助のみ利用者数							
2.8 人	4.0 人	4.0 人	4.8 人				
【通所介護利用者の要介護度別人数】				※ (平成 28 年 10 月サービス利用分) 平均人数			
要支援1	要支援2	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	計
4.1 人	8.9 人	15.3 人	21.7 人	13.9 人	8.3 人	4.9 人	77.0 人

(※各記入欄に記入された数値をベースに平均値を算出)

(2) 要介護度別入所 (院) 者数

介護保険施設における、要介護度別の入所 (院) 者数は下記の通りである。

図表 IV. 2. 2 要介護度別入所 (院) 者数 (08 介護保険施設 問2 (6))

区分	平均人数	うち医療処置の 必要な人数 (平均人数)
要介護1	2.1 人	0.8 人
要介護2	8.1 人	2.1 人
要介護3	23.1 人	7.8 人
要介護4	37.5 人	12.8 人
要介護5	32.5 人	13.4 人
合 計	102.5 人	35.4 人

有料老人ホームにおける、要介護度別の入居者数は下記の通りである。

図表 IV. 2. 3 要介護度別入居者数 (09 有料老人ホーム 問2 (6))

区分	平均人数	うち医療処置の 必要な人数 (平均人数)
自立	1.4 人	0.0 人
要支援1	1.1 人	0.0 人
要支援2	1.1 人	0.8 人
要介護1	5.0 人	2.0 人
要介護2	6.0 人	2.8 人
要介護3	7.2 人	2.8 人
要介護4	8.9 人	4.4 人
要介護5	10.7 人	6.2 人
合計	40.2 人	14.8 人

サービス付高齢者向け住宅の、要介護度別の入居者数は下記の通りである。

図表 IV. 2. 4 要介護度別入居者数 (10 サービス付高齢者向け住宅 問2 (3))

区分	平均人数
自立	5.0 人
要支援1	2.9 人
要支援2	2.6 人
要介護1	6.5 人
要介護2	8.5 人
要介護3	5.3 人
要介護4	5.9 人
要介護5	5.0 人
合計	41.7 人

(3) 実施サービス

在宅サービス事業所の実施サービス別の利用定員の平均、平均利用者数、平均営業日数は下記の通りである。

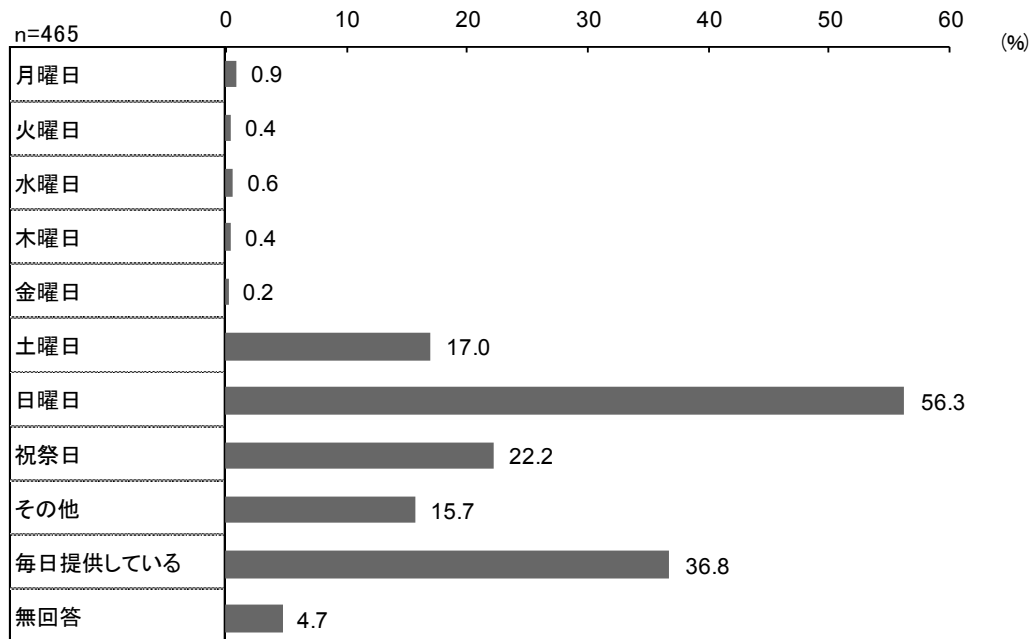
図表 IV. 2. 5 実施サービス利用定員・利用者数(延人数)・営業日数(07 在宅サービス事業所 問4)

実施しているサービス	利用定員:平均	平成28年10月 利用者数:平均	平成28年10月 営業日数:平均
1. 通所介護	39.9 人	373.8 人	24.8 日
2. 通所リハビリテーション	43.2 人	631.3 人	22.3 日
3. 短期入所生活介護	14.7 床	373.0 人	28.1 日
4. 短期入所療養介護	41.3 床	56.1 人	24.4 日
5. 認知症対応型共同生活介護	16.0 人	87.1 人	27.9 日
6. 認知症対応型通所介護	23.5 人	199.3 人	24.9 日
7. 夜間対応型訪問介護	20.8 人	18.8 人	12.4 日
8. 定期巡回・随時対応型訪問 介護看護	10.6 人	293.7 人	23.3 日
9. 小規模多機能型居宅介護	(登録定員) 19.6 人	(通い) 122.3 人	23.6 日
		(宿泊) 39.4 人	23.3 日
10. 看護小規模多機能型居宅介護	(登録定員) 11.0 人	(通い) 101.8 人	15.5 日
		(宿泊) 31.3 人	15.3 日

(4) 事業所の休業日

在宅サービス事業所の休業日は、「日曜日」が56.3%と最も高く、次いで「祝祭日」(22.2%)、「土曜日」(17.0%)となっている。一方、「毎日提供している」は36.8%となっている。

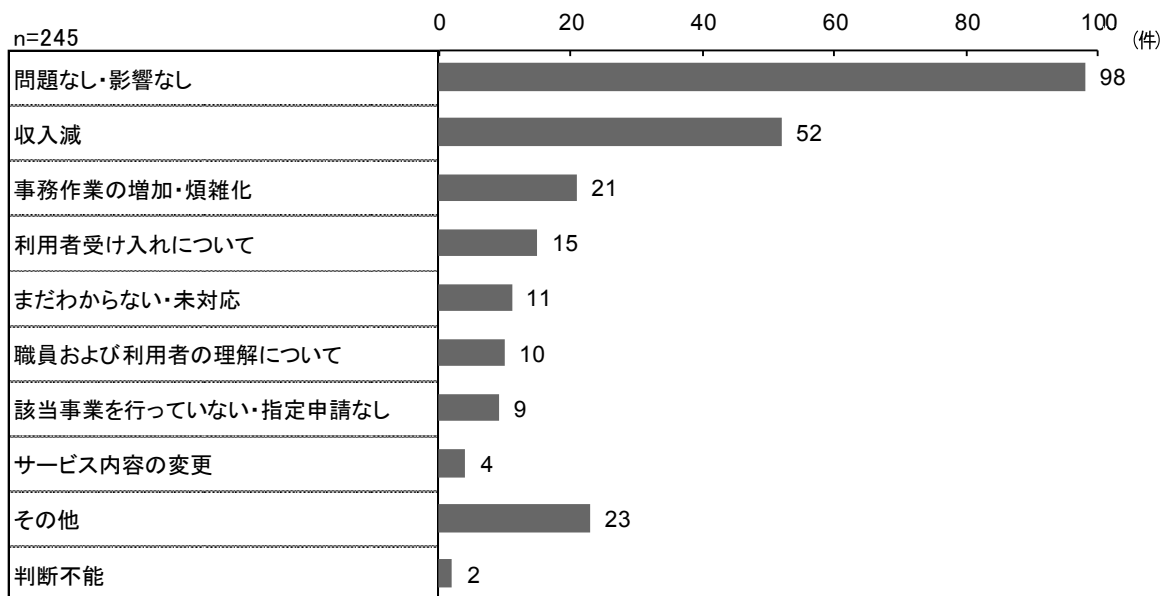
図表 IV. 2. 6 事業所の休業日（複数回答、07 在宅サービス事業所 問5）



(5) 総合事業への移行に伴う業務展開上の問題・課題

在宅サービス事業所に、予防給付の訪問介護、通所介護が介護予防・日常生活支援総合事業へ移行することにより、業務展開にどのような問題・課題が生じているかを自由に記述してもらったところ、「問題なし・影響なし」が最も多く、次いで「収入減」、「その他」、「事務作業の増加・煩雑化」といった回答が得られた。

図表 IV. 2. 7 総合事業への移行に伴う業務展開上の問題・課題
(自由回答、07 在宅サービス事業所 問6)

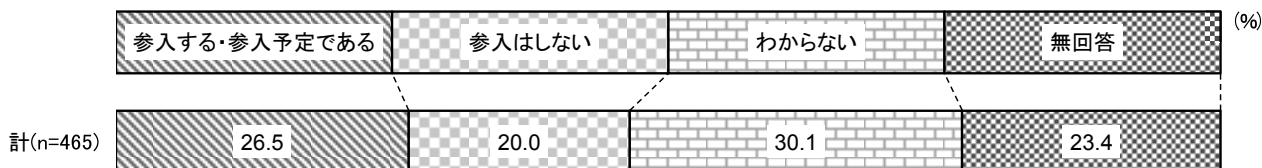


(6) 総合事業への参入意向

①総合事業（訪問型）への参入意向

在宅サービス事業所で、総合事業（訪問型）への参入意向は、「わからない」が 30.1%と最も高く、次いで「参入する・参入予定である」(26.5%)、「参入はしない」(20.0%)となっている。

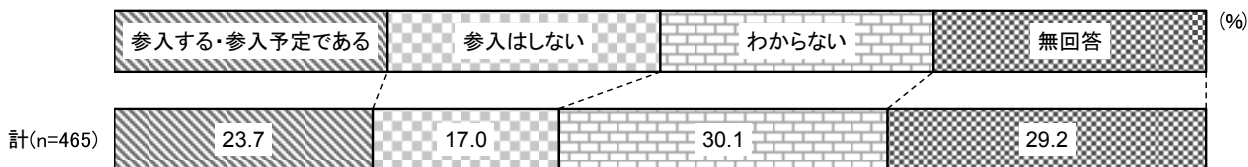
図表 IV. 2. 8 総合事業（訪問型）への参入意向（07 在宅サービス事業所 問6-1）



②総合事業（通所型）への参入意向

在宅サービス事業所で、総合事業（通所型）への参入意向は、「わからない」が 30.1%と最も高く、次いで「参加する・参加予定である」(23.7%)、「参加はしない」(17.0%)となっている。

図表 IV. 2. 9 総合事業（通所型）への参入意向（07 在宅サービス事業所 問6-2）



(7) 定員及び入居者数

介護保険施設の定員及び入居者数は、定員が平均 107.4 人で、入所(院)者数は、平均 91.5 人である。

図表 IV. 2. 1 0 定員数及び入居者数 (08 介護保険施設 問 2 (1))

定員 107.4 人(平均)	入所(院)者数 91.5 人(平均)
	(内訳)男性 23.3 人(平均) 女性 67.5 人(平均)

有料老人ホームの定員及び入居者数は、定員が平均 45.4 人で、入居者数は、平均 36.1 人である。

図表 IV. 2. 1 1 定員数及び入居者数 (09 有料老人ホーム 問 2 (1))

定員 45.4 人(平均)	入居者数 36.1 人(平均)
	(内訳)男性 10.0 人(平均) 女性 26.0 人(平均)

サービス付高齢者向け住宅の定員及び入居者数は、定員が平均 53.0 人で、入居者数は、平均 37.2 人である。

図表 IV. 2. 1 2 定員数及び入居者数 (10 サービス付高齢者向け住宅 問 2 (1))

定員 53.0 人(平均)	入居者数 37.2 人(平均)
	(内訳)男性 15.6 人(平均) 女性 21.6 人(平均)

(8) 入所(院)者の平均年齢

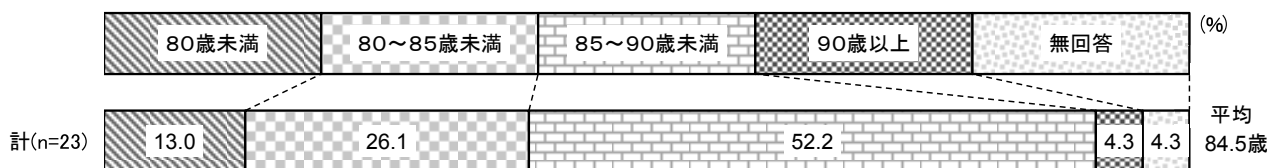
介護保険施設の入所(院)者の平成28年10月1日現在の平均年齢については、「80～85歳未満」が46.7%と最も高く、次いで「85～90歳未満」(33.3%)、「80歳未満」(13.3%)となっている。

図表 IV. 2. 1 3 入所(院)者の平均年齢 (08 介護保険施設 問2 (2))



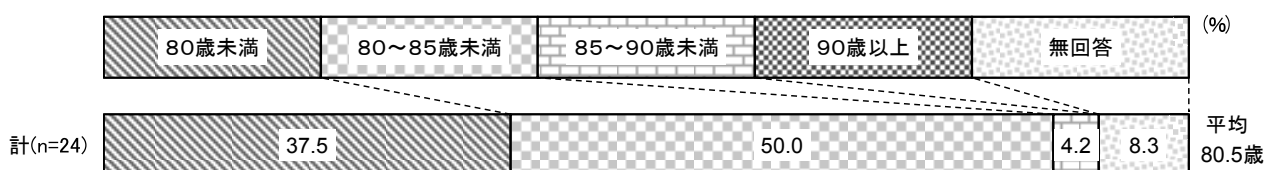
有料老人ホームの入居者の平成28年10月1日現在の平均年齢については、「85～90歳未満」が52.2%と最も高く、次いで「80～85歳未満」(26.1%)、「80歳未満」(13.0%)となっている。

図表 IV. 2. 1 4 入居者の平均年齢 (09 有料老人ホーム 問2 (2))



サービス付高齢者向け住宅の平成28年10月1日現在の入居者の平均年齢については、「80～85歳未満」が50.0%と最も高く、次いで「80歳未満」(37.5%)となっている。

図表 IV. 2. 1 5 入居者の平均年齢 (10 サービス付高齢者向け住宅 問2 (2))

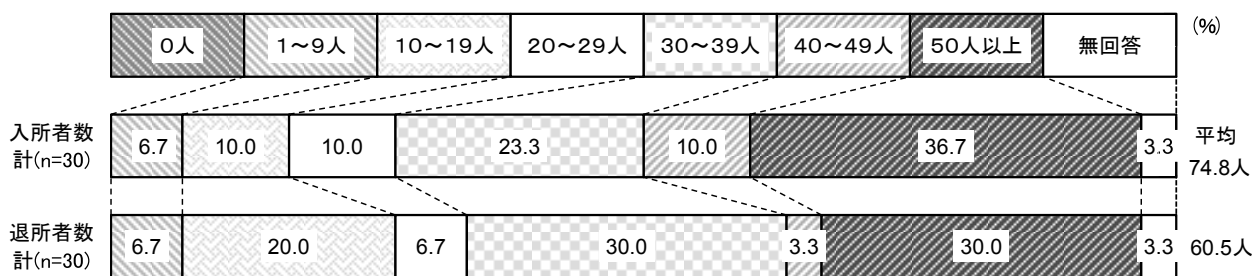


(9) 1年間の入退所(院)者数(延人数)

介護保険施設の平成27年1月から12月の1年間の入所(院)者数(延人数)は、平均74.8人、退所(院)者数は平均60.5人である。

退所(院)者数は、「30～39人」、「50人以上」ともに30.0%となっている。

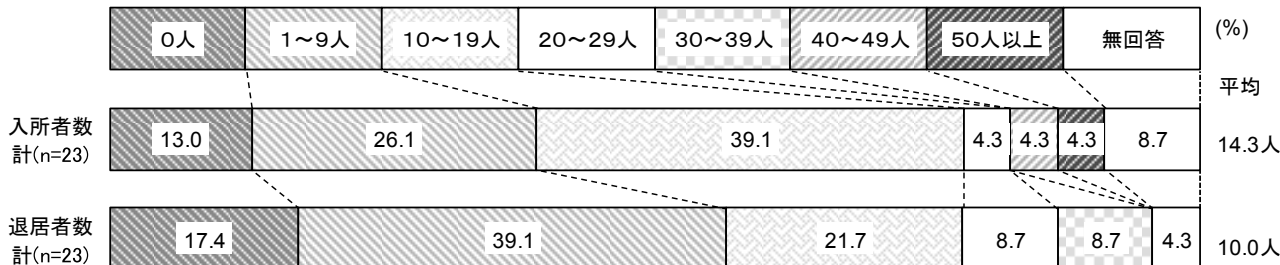
図表 IV. 2. 1 6 入退所(院)者数 (08 介護保険施設 問2 (3))



有料老人ホームの1年間の入居者数(延人数)は、平均14.3人、退居者数は平均10.0人である。

退居者数が「0人」は17.4%、「1～9人」は39.1%、「10～19人」は21.7%となっている。

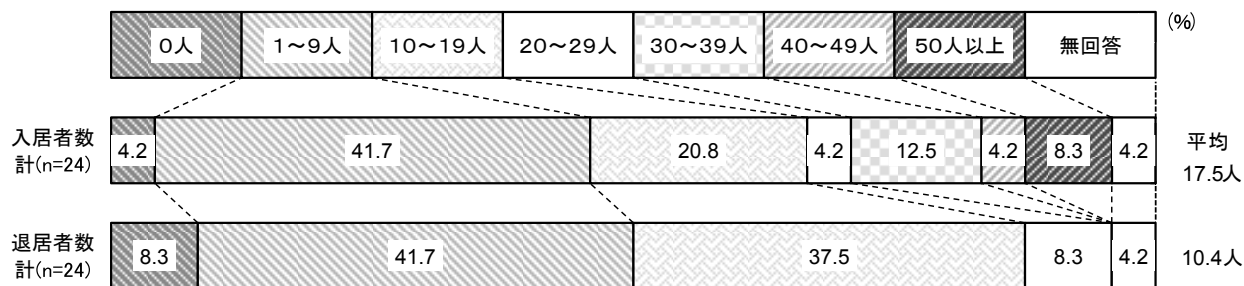
図表 IV. 2. 1 7 入退居者数 (09 有料老人ホーム 問2 (3))



サービス付高齢者向け住宅の1年間の入居者数(延人数)は、平均17.5人、退居者数は平均10.4人である。

退居者数が「0人」は8.3%、「1～9人」は41.7%、「10～19人」は37.5%となっている。

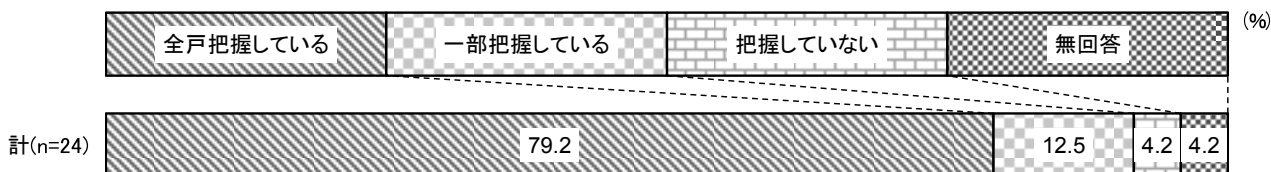
図表 IV. 2. 1 8 入退居者数 (10 サービス付高齢者向け住宅 問2 (4))



(10) 入居動機の把握

サービス付高齢者向け住宅の入居動機の把握については、「全戸把握している」が79.2%と最も高く、次いで「一部把握している」(12.5%)、「把握していない」(4.2%)となっている。

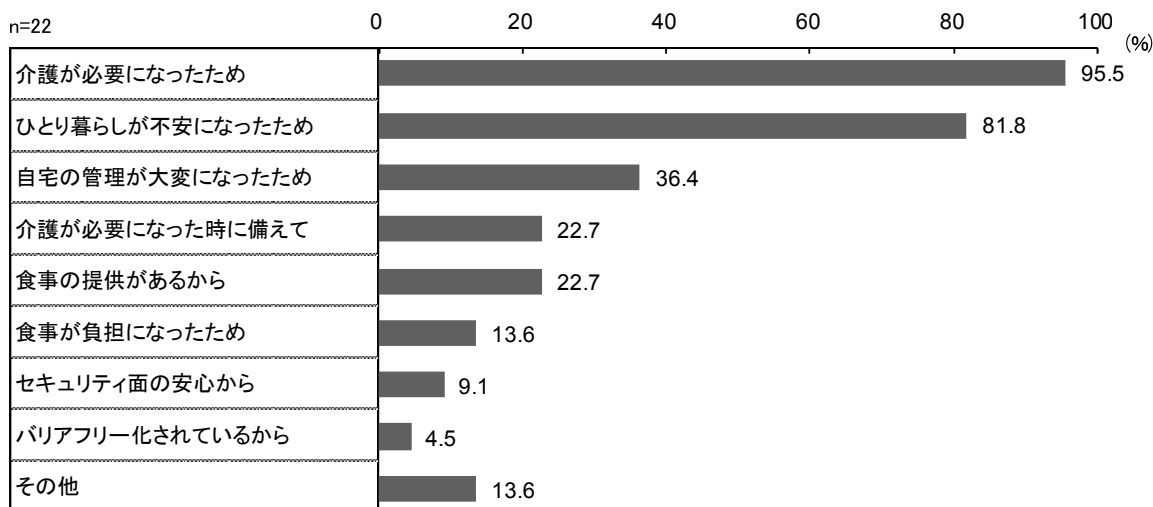
図表 IV. 2. 19 入居動機の把握 (10 サービス付高齢者向け住宅 問2 (6))



(11) 入居決定の理由

サービス付高齢者向け住宅の入居決定の理由については、「介護が必要になったため」が95.5%と最も高く、次いで「ひとり暮らしが不安になったため」(81.8%)、「自宅の管理が大変になったため」(36.4%)となっている。

図表 IV. 2. 20 入居決定の理由 (複数回答、10 サービス付高齢者向け住宅 問2 (6) -1)



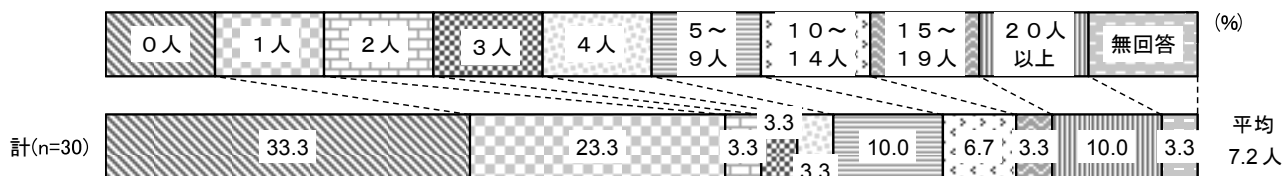
※「その他」の内容 (抜粋)

- ・ 雰囲気と方針
- ・ 医療対応が必要になったため
- ・ 医療のサポート体制があるから

(12) 住所地特例該当者数

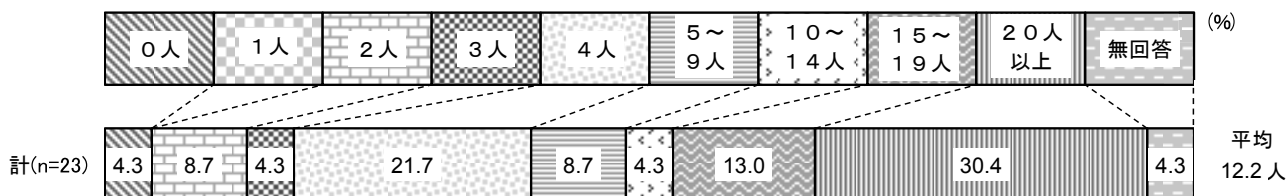
介護保険施設の住所地特例該当者数については、平均 7.2 人であり、「0 人」が 33.3% と最も高く、次いで「1 人」(23.3%)、「5～9 人」、「20 人以上」(ともに 10.0%) となっている。

図表 IV. 2. 2 1 住所地特例該当者数 (08 介護保険施設 問 2 (4))



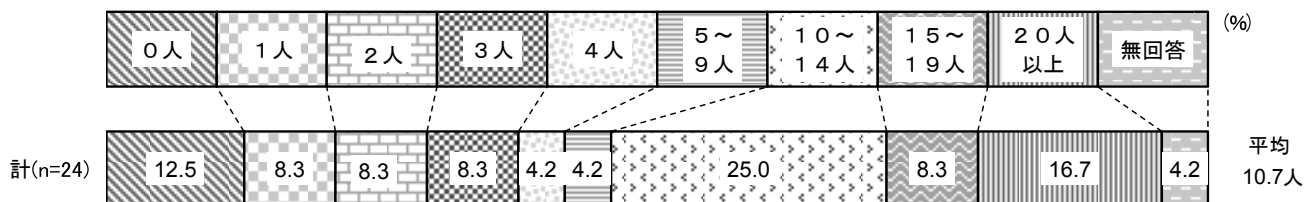
有料老人ホームの住所地特例該当者数については、平均 12.2 人であり、「20 人以上」が 30.4% と最も高く、次いで「4 人」(21.7%)、「15～19 人」(13.0%) となっている。

図表 IV. 2. 2 2 住所地特例該当者数 (09 有料老人ホーム 問 2 (4))



サービス付高齢者向け住宅の住所地特例該当者数については、平均 10.7 人であり、「10～14 人」が 25.0% と最も高く、次いで「20 人以上」(16.7%)、「0 人」(12.5%) となっている。

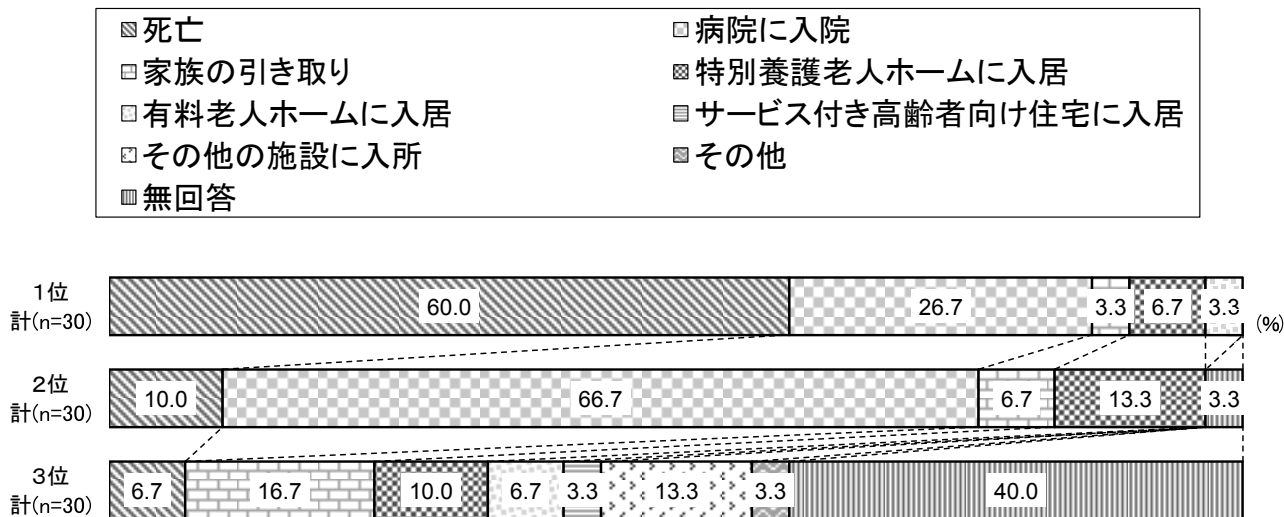
図表 IV. 2. 2 3 住所地特例該当者数 (10 サービス付高齢者向け住宅 問 2 (9))



(13) 退居理由

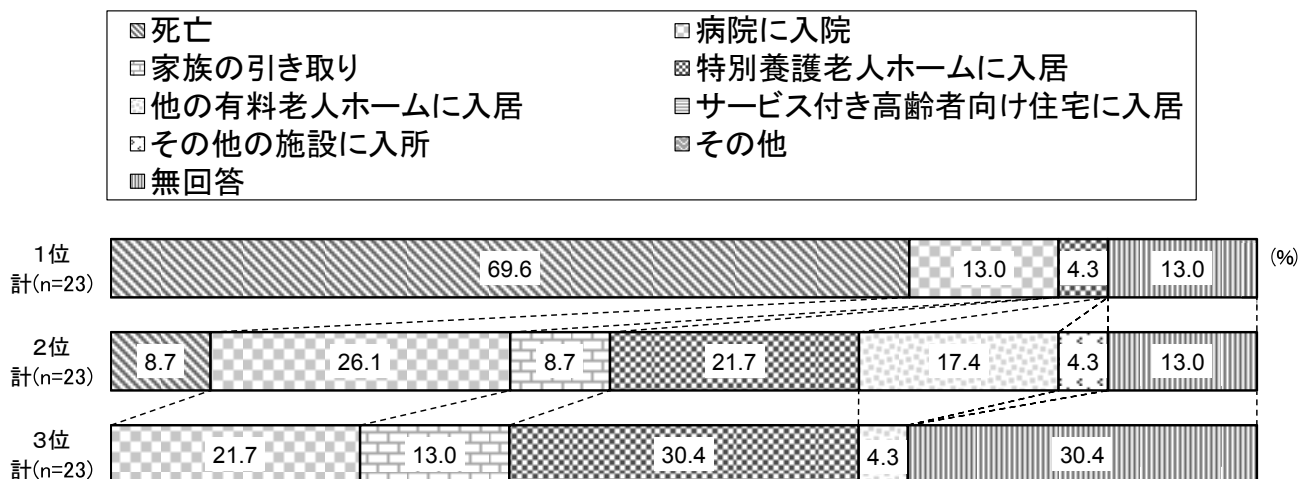
介護保険施設の退所(院)理由は、1位は「死亡」(60.0%)、2位は「病院に入院」(66.7%)、3位は「家族の引き取り」(16.7%)が最も高くなっている。

図表 IV. 2. 2 4 退所(院)理由(08 介護保険施設 問2(5))



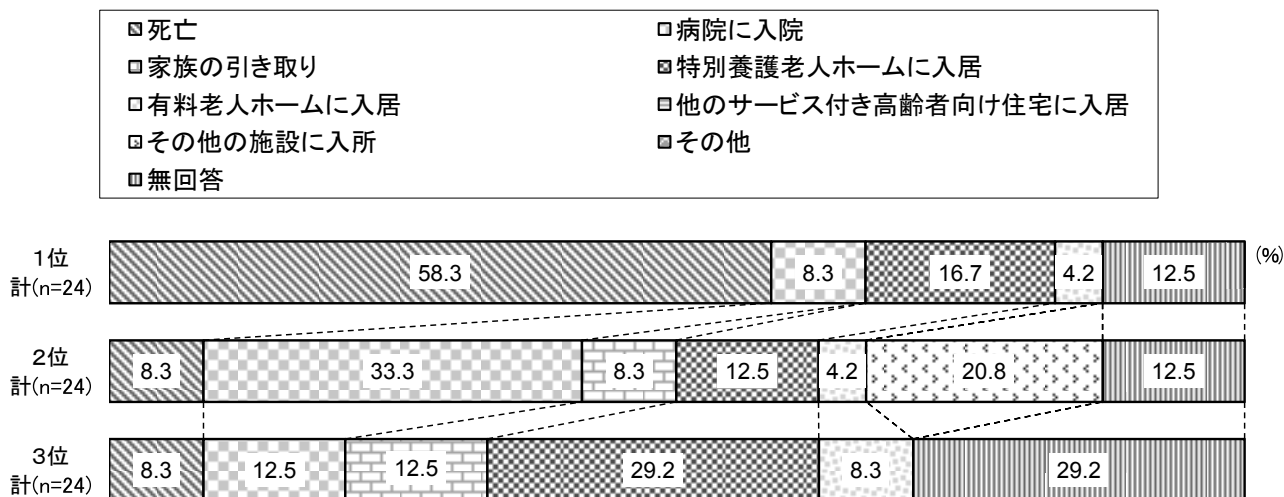
有料老人ホームの退居理由は、1位は「死亡」(69.6%)、2位は「病院に入院」(26.1%)、3位は「特別養護老人ホームに入居」(30.4%)が最も高くなっている。

図表 IV. 2. 2 5 退居理由(09 有料老人ホーム 問2(5))



サービス付高齢者向け住宅の退居理由は、1位は「死亡」(58.3%)、2位は「病院に入院」(33.3%)、3位は「特別養護老人ホームに入居」(29.2%)が最も高くなっている。

図表 IV. 2. 2 6 退居理由 (10 サービス付高齢者向け住宅 問2 (5))



(14) 平均入居年数

入所(院)者の介護保険施設の平均入所(院)年数は、3.4年で、「3年～4年未満」の施設が30.0%と最も高く、次いで「1年～2年未満」(20.0%)、「4年～5年未満」(13.3%)となっている。

図表 IV. 2. 2 7 平均入所(院)年数 (08 介護保険施設 問2 (7))

n=	1年未満	1年～2年未満	2年～3年未満	3年～4年未満	4年～5年未満	5年～10年未満	10年以上	無回答	上段: 回答数 下段: %
30	2	6	2	9	4	1	1	5	平均 3.4年
100	6.7	20.0	6.7	30.0	13.3	3.3	3.3	16.7	

入居者の有料老人ホームの平均入居年数は、3.0年で、「3年～4年未満」の施設が34.8%と最も高く、次いで「1年未満」、「4年～5年未満」(ともに17.4%)となっている。

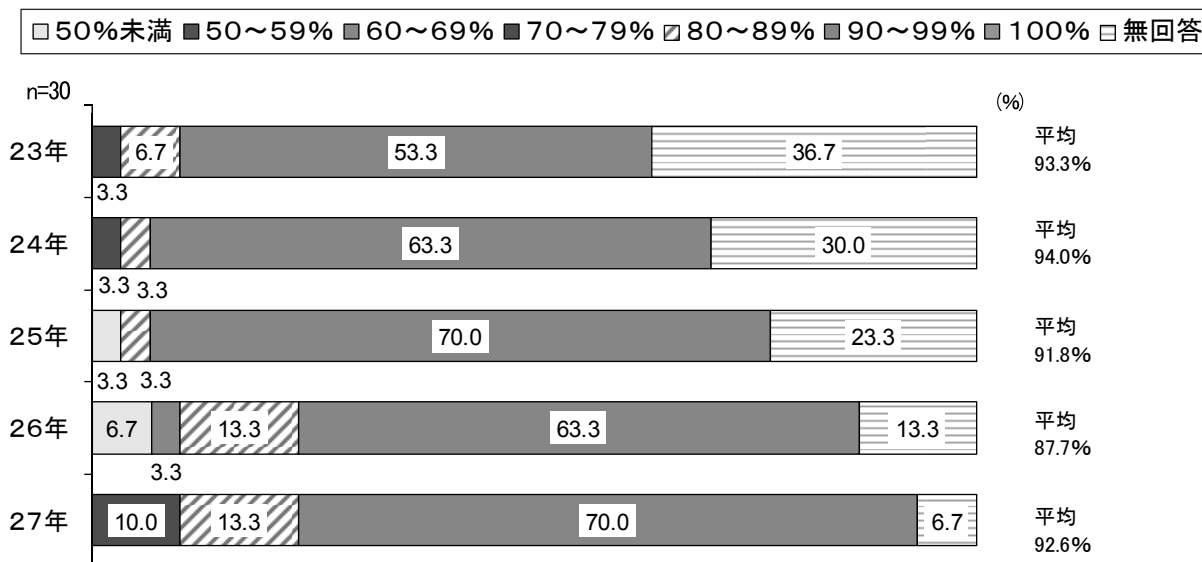
図表 IV. 2. 2 8 平均入居年数 (09 有料老人ホーム 問2 (7))

n=	1年未満	1年～2年未満	2年～3年未満	3年～4年未満	4年～5年未満	5年～10年未満	10年以上	無回答	上段: 回答数 下段: %
23	4	2	1	8	4	2	0	2	平均 3.0年
100	17.4	8.7	4.3	34.8	17.4	8.7	0.0	8.7	

(15) 過去5年間の年間稼働率

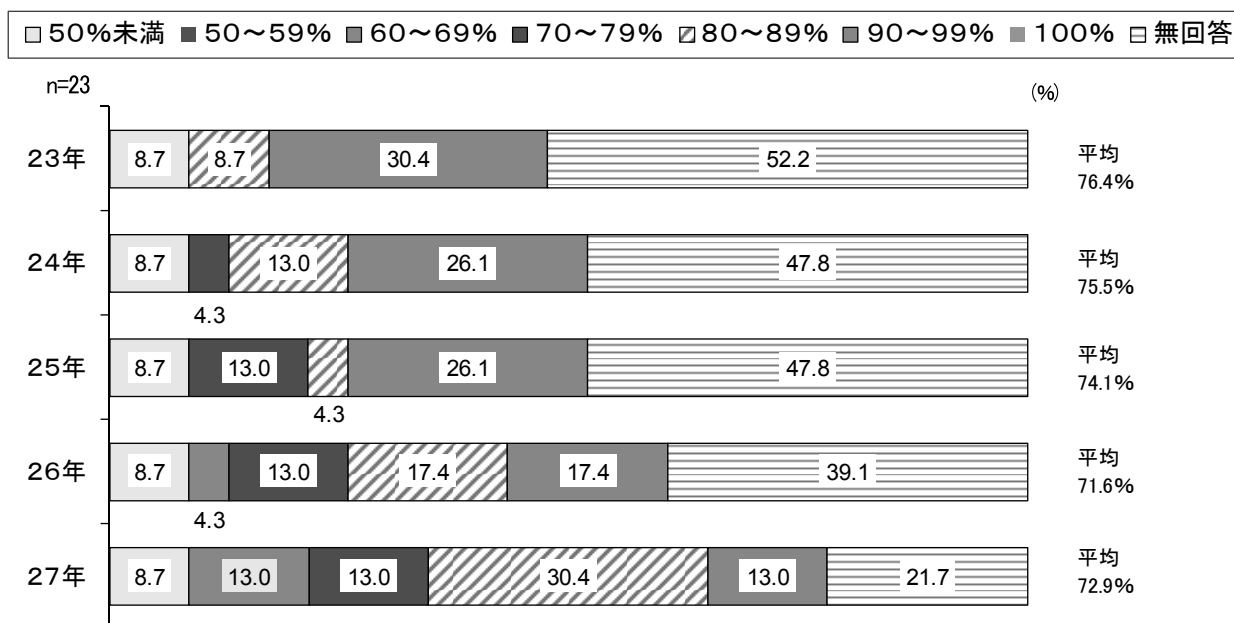
介護保険施設の過去5年間の年間稼働率は、平成26年を除き、9割台前半となっており、平成27年は平均92.6%となっている。

図表 IV. 2. 29 過去5年間の年間稼働率 (08 介護保険施設 問2 (8))



有料老人ホームの過去5年間の年間稼働率は、いずれも7割台となっており、平成27年は平均72.9%となっている。

図表 IV. 2. 30 過去5年間の年間稼働率 (09 有料老人ホーム 問2 (8))



(16) 介護度別待機者数

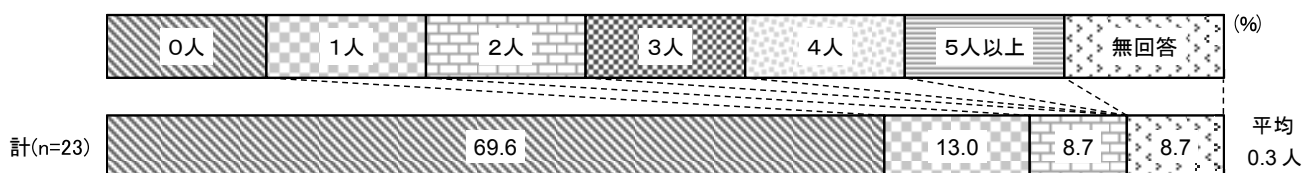
介護保険施設の介護度別の待機者数は、下記の通りである。合計数の平均は116.2人となっている。

図表 IV. 2. 3 1 介護度別別待機者数 (08 介護保険施設 問2 (9))

要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	計
2.5人	10.4人	34.1人	37.0人	30.7人	116.2人

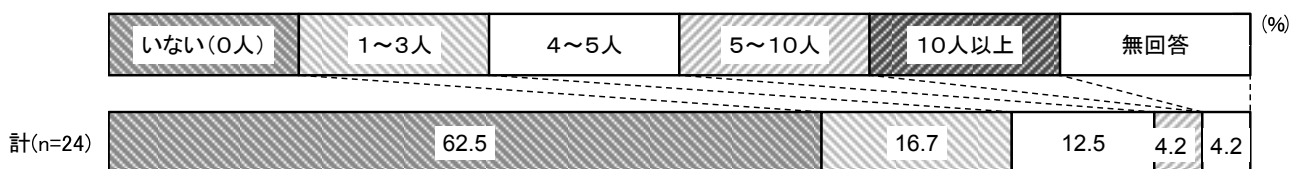
有料老人ホームの待機者数については、「0人」が69.6%と最も高く、次いで「1人」(13.0%)、「2人」(8.7%)となっている。

図表 IV. 2. 3 2 待機者数 (09 有料老人ホーム 問2 (9))



サービス付高齢者向け住宅の待機者数については、「いない(0人)」が62.5%と最も高く、次いで「1~3人」(16.7%)、「4~5人」(12.5%)となっている。

図表 IV. 2. 3 3 待機者数 (10 サービス付高齢者向け住宅 問2 (7))



(17) 入居者の従前の住所地

サービス付高齢者向け住宅の入居者の従前の住所地については、「足立区内」が平均 14.4 人、「東京都内」が平均 17.9 人、「他府県」が平均 5.4 人となっている。

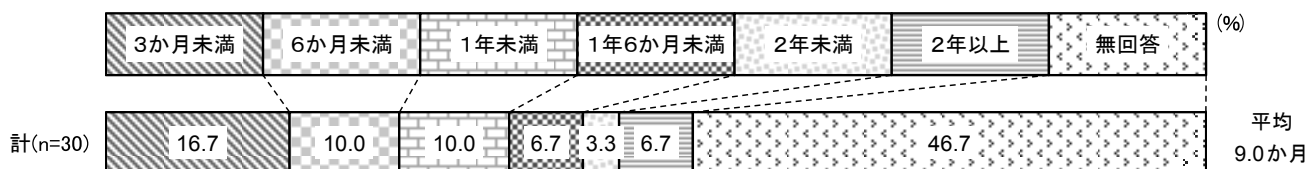
図表 IV. 2. 3 4 入居者の従前の住所地 (10 サービス付高齢者向け住宅 問2 (8))

足立区内	14.4 人(平均)	東京都内	17.9 人(平均)	他府県	5.4 人(平均)
------	------------	------	------------	-----	-----------

(18) 入居までの平均年月

介護保険施設の入居までの平均年月(平成28年10月1日現在)については、3か月未満が16.7%と最も高い。

図表 IV. 2. 3 5 入居までの平均年月 (08 介護保険施設 問2 (10))



有料老人ホームの入居までの平均年月(平成28年10月1日現在)については、3か月未満が73.9%と最も高い。

図表 IV. 2. 3 6 入居までの平均年月 (09 有料老人ホーム 問2 (10))



(19) 医療処置者数

介護保険施設における医療処置者数は下記の通りである。

図表 IV. 2. 3 7 医療処置者数 (08 介護保険施設 問 2 (11))

処置項目		該当者数(平均)
吸引		4.2 人
内数	喀痰吸引	3.6 人
吸入		0.3 人
経管栄養		4.5 人
内数	鼻腔経管栄養	0.7 人
	瘻孔経管栄養	3.5 人
	中心静脈栄養	0.0 人
モニター測定(心拍、血圧、酸素、飽和度)		0.1 人
酸素療法		1.3 人
気管切開		0.0 人
人工呼吸器		0.0 人
ストーマ(人工肛門)		0.8 人
留置尿道カテーテル(膀胱カテーテルを含む)		3.0 人
点滴		0.3 人
内数	中心静脈点滴	0.0 人
	抹消静脈点滴	0.3 人
褥瘡処置		1.2 人
内数	褥瘡処置(Ⅲ度以上)	0.4 人
がん末期の疼痛管理		0.1 人
腎透析(血液透析及び腹膜透析)		0.1 人
自己注射(インスリンを含む)		0.6 人
その他の投薬管理(服薬介助を含む)		82.2 人
重複カウントしない医療処置の人数		44.0 人

有料老人ホームにおける、医療処置者数は、下記の通りである。

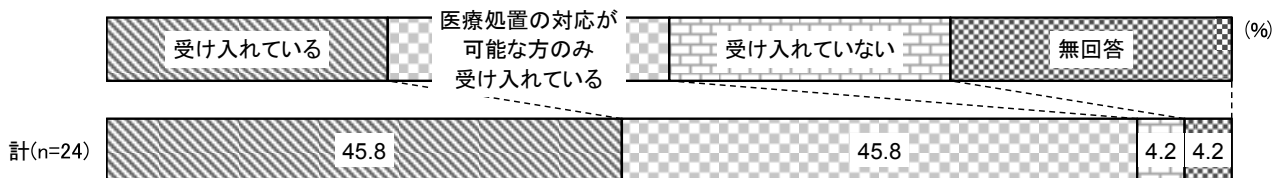
図表 IV. 2. 3 8 医療処置者数 (09 有料老人ホーム 問 2 (11))

処置項目		該当者数(平均)
吸引		1.7 人
内数	喀痰吸引	1.5 人
吸入		1.0 人
経管栄養		2.6 人
内数	鼻腔経管栄養	0.5 人
	瘻孔経管栄養	0.9 人
	中心静脈栄養	1.1 人
モニター測定(心拍、血圧、酸素、飽和度)		0.1 人
酸素療法		2.1 人
気管切開		0.3 人
人工呼吸器		0.2 人
ストーマ(人工肛門)		1.0 人
留置尿道カテーテル(膀胱カテーテルを含む)		3.8 人
点滴		0.9 人
内数	中心静脈点滴	0.6 人
	抹消静脈点滴	0.3 人
褥瘡処置		0.9 人
内数	褥瘡処置(Ⅲ度以上)	0.6 人
がん末期の疼痛管理		0.5 人
腎透析(血液透析及び腹膜透析)		1.0 人
自己注射(インスリンを含む)		1.4 人
その他の投薬管理(服薬介助を含む)		39.5 人
重複カウントしない医療処置の人数		22.5 人

(20) 医療処置必要者の受け入れ状況

サービス付高齢者向け住宅の医療処置必要者の受け入れ状況については、「受け入れている」、「医療処置の対応が可能な方のみ受け入れている」がともに45.8%となっている。

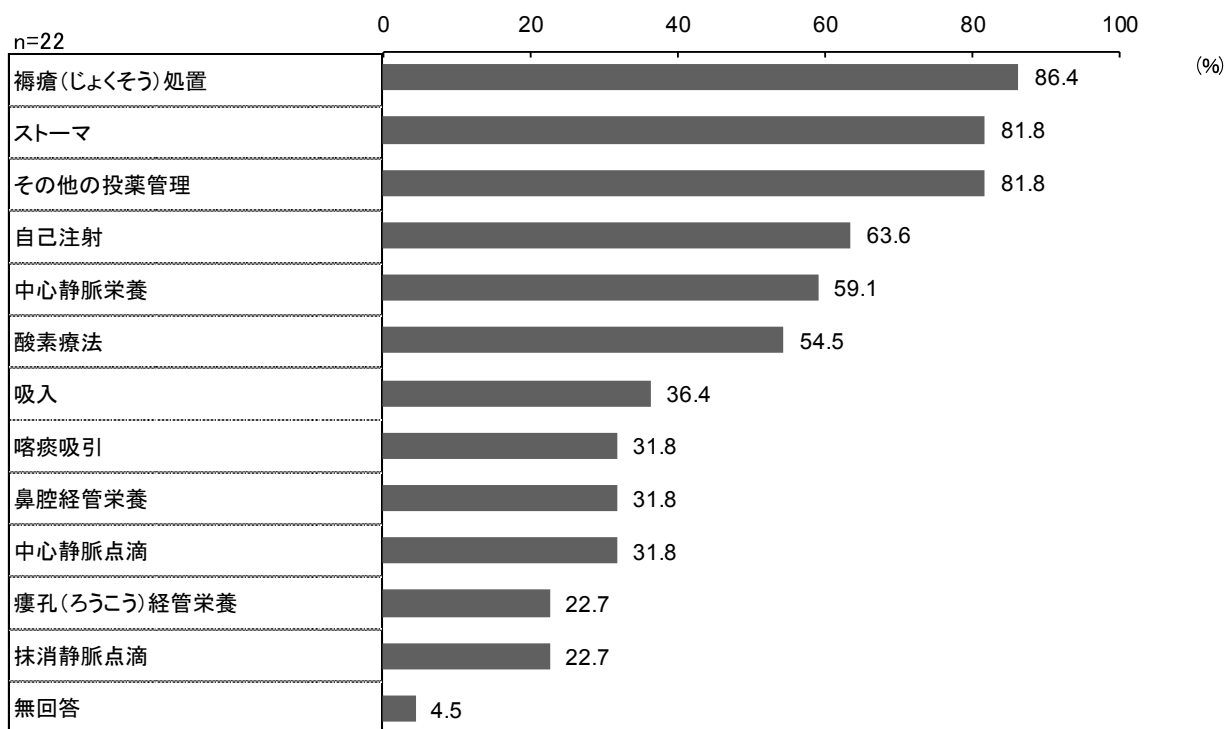
図表 IV. 2. 3 9 医療処置必要者の受け入れ状況 (10 サービス付高齢者向け住宅 問3)



(21) 対応可能な医療処置

医療処置必要者の受け入れ対応を実施しているサービス付高齢者向け住宅で、対応可能な医療処置については「褥瘡(じょくそう)処置」が86.4%と最も高く、次いで「ストーマ」、「その他の投薬管理」(ともに81.8%)となっている。

図表 IV. 2. 4 0 対応可能な医療処置 (複数回答、10 サービス付高齢者向け住宅 問3-1)
【ベース：受け入れ対応実施】



(22) 利用料 (敷金・前払金・月額利用料)

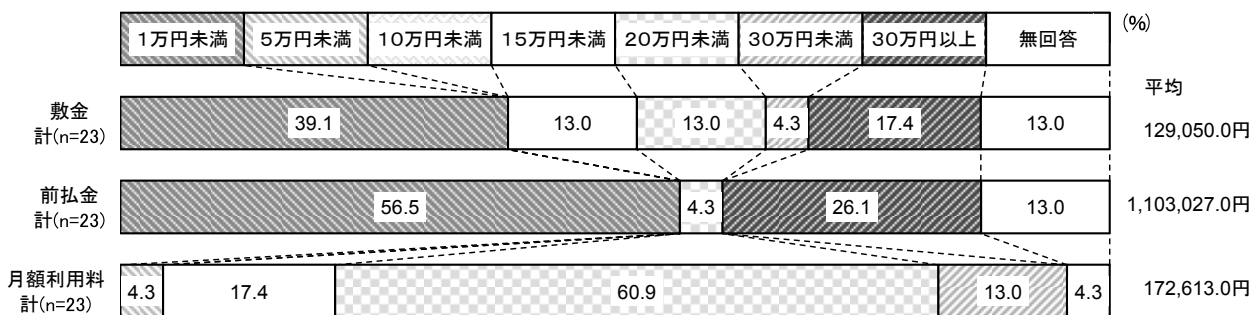
有料老人ホームの利用料について、敷金は平均 129,050 円、前払金は平均 1,103,027 円、月額利用料は平均 172,613 円となっている。

敷金については、「1 万円未満」が 39.1%の一方、「30 万円以上」も 17.4%となっている。

前払金については、「1 万円未満」が 56.5%の一方、「30 万円以上」も 26.1%となっている。

月額利用料については、「20 万円未満」が 60.9%、次いで、「15 万円未満」が 17.4%となっている。

図表 IV. 2. 4 1 利用料 (09 有料老人ホーム 問3)



サービス付高齢者向け住宅の利用料について、敷金は平均 92,200 円、前払金は平均 79,909 円、月額利用料は平均 98,875 円となっている。また、共益費は、平均 19,726 円となっている。

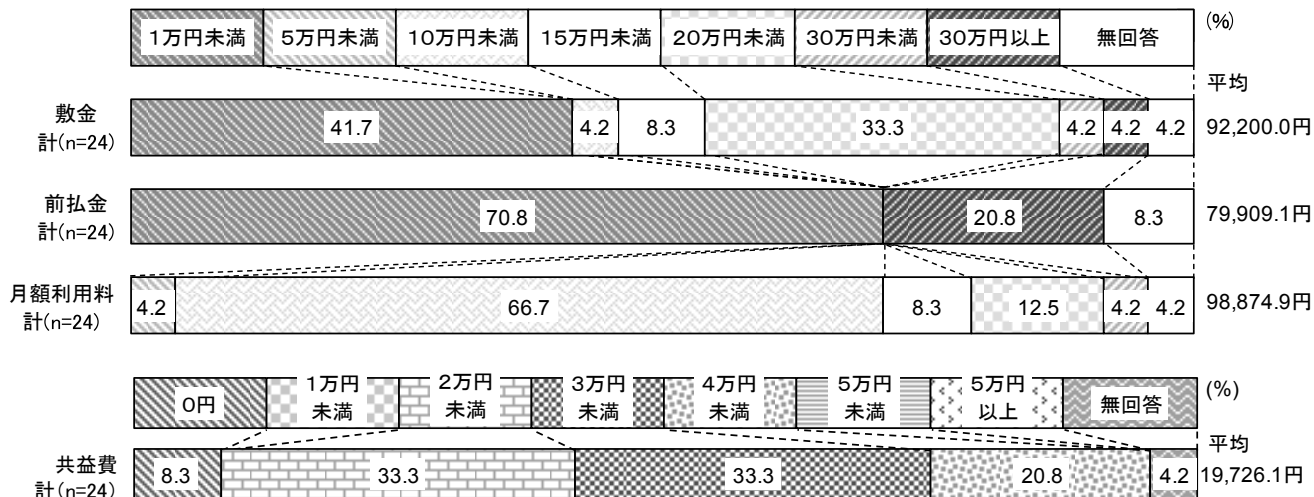
敷金については、「1 万円未満」が 41.7%の一方、「(15 万円以上) 20 万円未満」も 33.3%となっている。

前払金については、「1 万円未満」が 70.8%の一方、「30 万円以上」も 20.8%となっている。

月額利用料については、「10 万円未満」が 66.7%、次いで「(15 万円以上) 20 万円未満」12.5%となっている。

共益費については、「(1 万円以上) 2 万円未満」、「(2 万円以上) 3 万円未満」がともに 33.3%となっている。

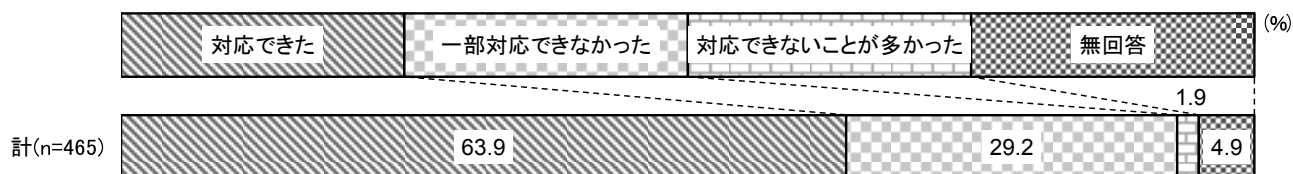
図表 IV. 2. 4 2 利用料等 (10 サービス付高齢者向け住宅 問4)



3 介護サービス供給実績と対応状況等
 (1) 利用者の量的ニーズに即した対応

在宅サービス事業所の利用者の量的ニーズに即した対応については、「対応できた」が63.9%、「一部対応できなかった」(29.2%)、「対応できないことが多かった」(1.9%)となっている。

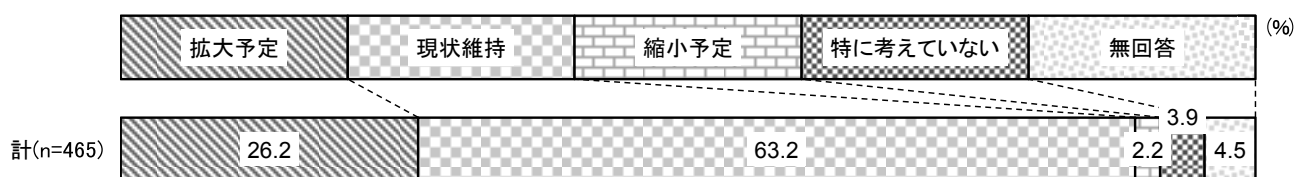
図表 IV. 3. 1 利用者の量的ニーズに即した対応 (07 在宅サービス事業所 問7)



(2) 現行サービスの今後の方針

在宅サービス事業所の現行サービスの今後の方針については、「現状維持」が63.2%と最も高く、次いで「拡大予定」(26.2%)、「縮小予定」は2.2%となっている。

図表 IV. 3. 2 現行サービスの今後の方針 (07 在宅サービス事業所 問8)

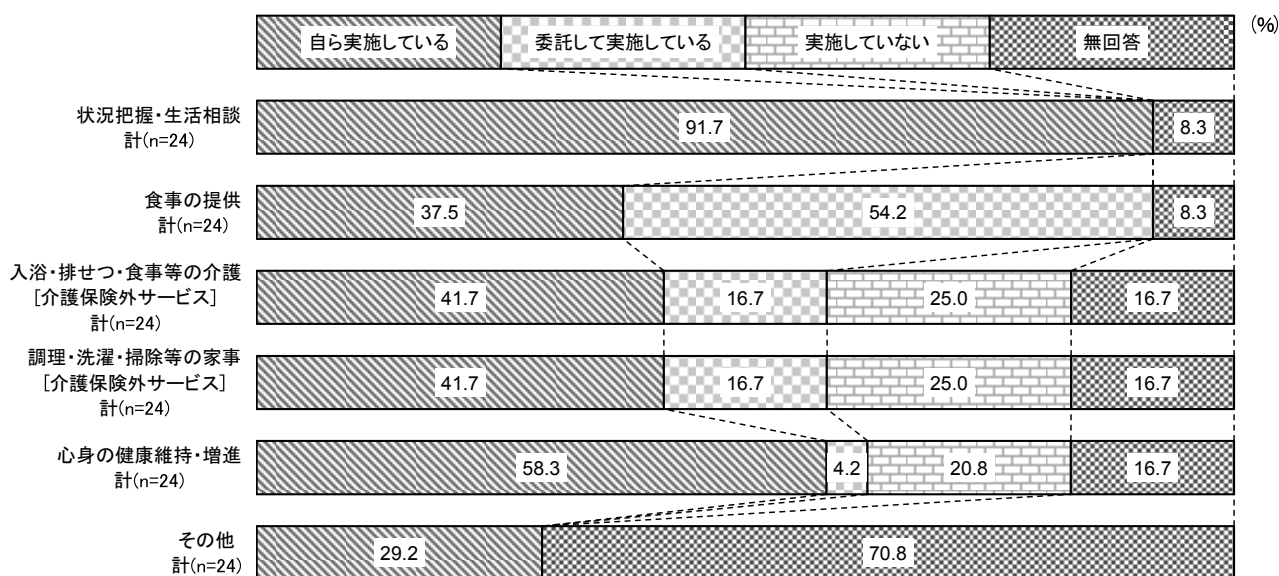


4 実施サービス (サービス付高齢者向け住宅)
(1) 実施サービス

サービス付高齢者向け住宅の実施サービスの状況は、「食事の提供」、「その他」を除き、「自ら実施している」が最も高く、高い順に、「状況把握・生活相談」(91.7%)、「心身の健康維持・増進」(58.3%)、「入浴・排せつ・食事等の介護(介護保険外サービス)」、「調理・洗濯・掃除等の家事(介護保険外サービス)」(ともに41.7%)となっている。

「食事の提供」では、「委託して実施している」が54.2%となっている。

図表 IV. 4. 1 実施サービス (10 サービス付高齢者向け住宅 問5(1))



実施サービスの月額料金は次表の通りである。

図表 IV. 4. 2 実施サービスの月額料金 (10 サービス付高齢者向け住宅 問5(1))

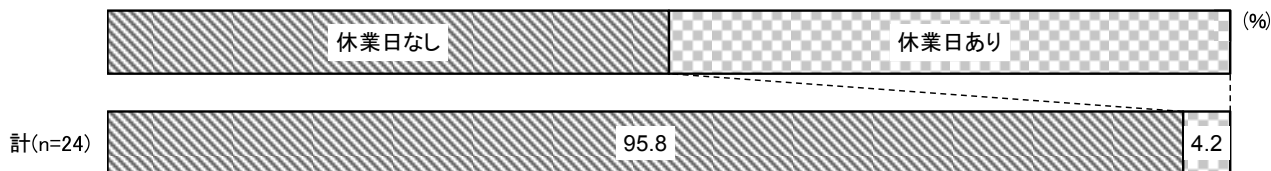
<平均値>

	状況把握・生活相談	食事の提供	入浴・排泄・食事等の介護(介護保険外サービス)	調理・洗濯・清掃等の家事(介護保険外サービス)	心身の健康の維持・増進	その他
自ら実施している	25,127.8 円	40,424.4 円	20,000.0 円	10,250.0 円	24,640.0 円	16,113.3 円
委託して実施している	—	40,406.1 円	(記入なし)	(記入なし)	(記入なし)	—

(2) 状況把握・生活相談の体制

サービス付高齢者向け住宅における状況把握・生活相談の提供日については、「休業日なし」が95.8%となっている。

図表 IV. 4. 3 状況把握・生活相談の提供日 (10 サービス付高齢者向け住宅 問5(2))



サービス付高齢者向け住宅における状況把握・生活相談の提供時間については、「開始時間」は「6時台以前」が58.3%、「9時台」が33.3%となっている。「終了時間」は「19時台以降」が58.3%、「18時台」が25.0%となっている。なお、「開始時間」が「6時台以前」および「終了時間」が「19時台以降」の14施設はいずれも提供時間が0時から24時までの24時間対応となっている。

図表 IV. 4. 4 状況把握・生活相談の提供時間 (10 サービス付高齢者向け住宅 問5(2))

	n=	6時台以前	7時台	8時台	9時台	10時台	11時台	12時台以降	無回答	上段: 回答数 下段: %
		開始時間	24 100	14 58.3	1 4.2	0 0.0	8 33.3	0 0.0	0 0.0	

	n=	13時台以前	14時台	15時台	16時台	17時台	18時台	19時台以降	無回答	上段: 回答数 下段: %
		終了時間	24 100	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	3 12.5	6 25.0	

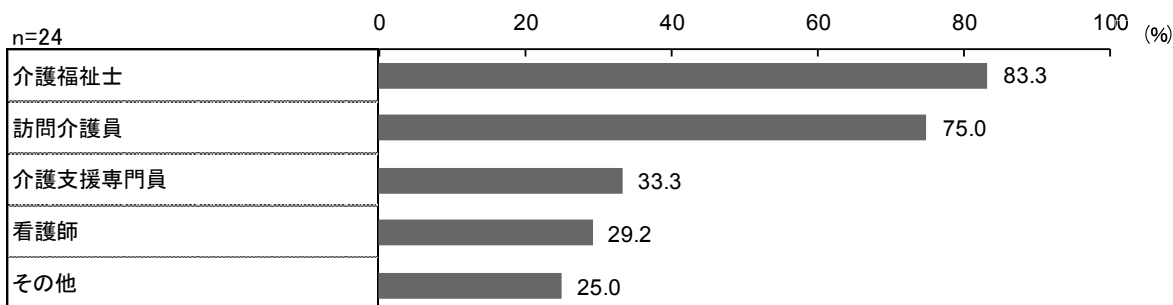
<職員配置数>

サービス付高齢者向け住宅における状況把握・生活相談の職員配置数は、「日中」が2.6人、「夜間」が1.0人となっている。

<職員の資格>

サービス付高齢者向け住宅における状況把握・生活相談の職員の資格については、「介護福祉士」が83.3%と最も高く、次いで「訪問介護員」(75.0%)、「介護支援専門員」(33.3%)となっている。

図表 IV. 4. 5 職員の資格 (複数回答、10 サービス付高齢者向け住宅 問5 (2))



※「その他」の内容 (抜粋)

- ・ 社会福祉士
- ・ ヘルパー 2 級

<情報把握の方法>

- ・ 食事の際の安否確認
- ・ 1 日 1 回以上の訪問・訪室
- ・ 食事の声かけ、夜間は 3 時間おきに訪問

等

<緊急通報サービスの内容>

- ・ ナースコールにて訪室
- ・ 医療機関への連絡、通院等手配、受診送迎
- ・ アイホン使用 職員全員に緊急連絡先 (往診医・ご家族様) 一覧表を携帯
- ・ 生活援助・排泄援助・簡単な営繕作業等

等

(3) 入居者から多い生活相談

サービス付高齢者向け住宅で、入居者から多い生活相談(問6)は、「体調不良に関するもの」が多いものの、多岐にわたっている。

(記入内容)

- ・外出を増やす方法、健康管理について
- ・買いたい物に関しての相談、お小遣いに関しての相談、健康状態に関しての相談
- ・訪問診療を利用したい。
- ・介護相談
- ・電球交換ができない。エアコンのフィルター清掃ができない。携帯の使い方がわからない。病院、床屋、銀行、郵便局、等の問い合わせが多い。
- ・体調不良の訴えが多い。往診医へ指示を仰ぎ行っています。
- ・建物設備に関する事。公的サービス、近隣施設の利用方法
- ・明日の予定がわからない。(スケジュール表の見方がわからない) 体調がわるい。〇〇を手配して欲しい(眼科、理美容等)。
- ・病気や医療に関する受診の相談
- ・体調が悪い、転んだ、薬がわからない等
- ・建物の設備について。体調不良時の配達依頼
- ・食事の相談、生活上の相談
- ・体調不良の為バイタルチェックをしてほしい。とん服の薬を出してほしい。手足の爪切り、巻き爪の処置をしてほしい。薬の管理ができないので管理をしてほしい。
- ・住人に対する文句、苦言
- ・ポストイング、宅配便の受け取り
- ・1. 健康(医療)について、2. 介護について
- ・生活上の困り事(居室内の不具合、食事等)、体調、疾患、悩み等、人間関係、介護に関する事。
- ・営繕作業(電球交換、電池交換、電化製品の取りあつかい等)。公的な(役所、銀行等)提出物の記載方法等。人間関係
- ・介護保険に関する相談、医療機関に関する相談、家具・家財の上げ下ろし等、生活に関する相談
- ・介護将来についての不安

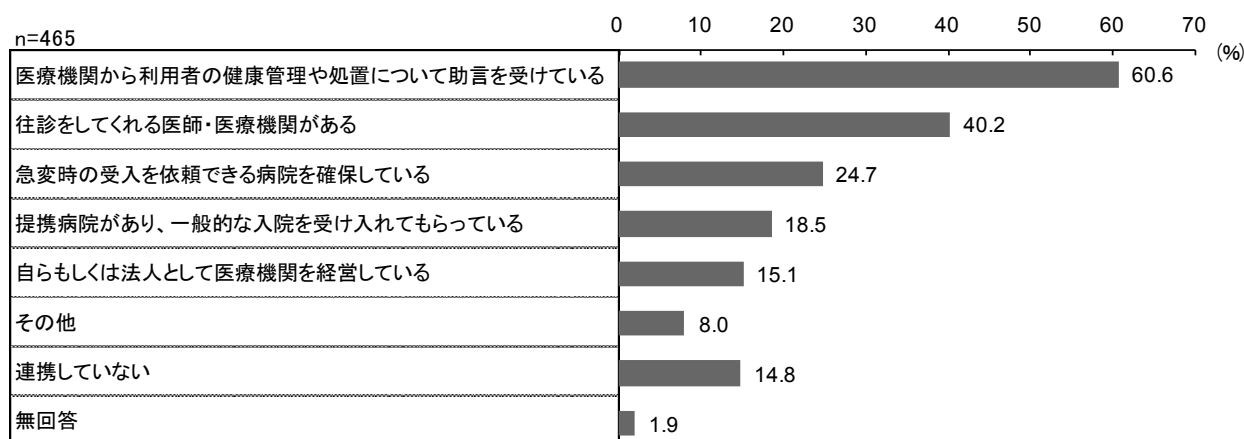
5 諸機関の連携と質の向上に関する取り組み

(1) 医療機関との連携

①医療機関との連携についての取り組み

在宅サービス事業所の医療機関との連携についての取り組みについては、「医療機関から利用者の健康管理や処置について助言を受けている」が60.6%と最も高く、次いで「往診をしてくれる医師・医療機関がある」(40.2%)、「急変時の受入を依頼できる病院を確保している」(24.7%)となっている。

図表 IV. 5. 1 医療機関との連携についての取り組み（複数回答、07 在宅サービス事業所 問9）



在宅サービス事業所の医療機関と連携していない理由については、63 件の記入があり、「利用者ごとに主治医が異なるため」が 29 件と最も高く、次いで「ケアマネジャーを通して連携している」(14 件)、「必要性がない」(11 件)などとなっている。

図表 IV. 5. 2 医療機関と連携していない理由（自由回答、07 在宅サービス事業所 問9-1）

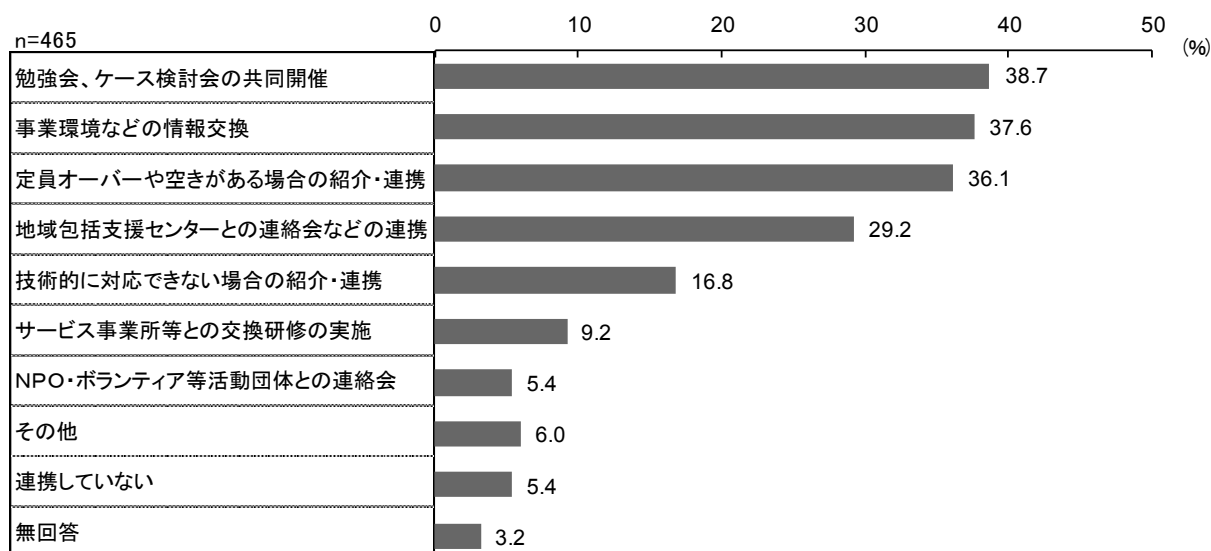
(重複記入あり)

Q9-1 医療機関と連携していない理由	件数
利用者ごとに主治医が異なるため	29
ケアマネジャーを通して連携している	14
必要性がない	11
連携するきっかけがない・情報が不足している	7
今後、連携を予定している	2
開設して間もない	1
その他	15

②他の介護サービス事業所等との連携について

在宅サービス事業所の他の介護サービス事業所等との連携については、「勉強会、ケース検討会の共同開催」が 38.7%と最も高く、次いで「事業環境などの情報交換」(37.6%)、「定員オーバーや空きがある場合の紹介・連携」(36.1%)となっている。

図表 IV. 5. 3 他の介護サービス事業所等との連携について(複数回答、07 在宅サービス事業所 問10)



在宅サービス事業所の他の介護サービス事業所等と連携していない理由については、21 件の記入があり、「その他」が 7 件と最も高く、次いで「連携するきっかけがない・情報が不足している」(6 件)、「時間・人力的余裕がない」(4 件)となっている。

図表 IV. 5. 4 他の介護サービス事業所等と連携していない理由
(自由回答、07 在宅サービス事業所 問10-1)

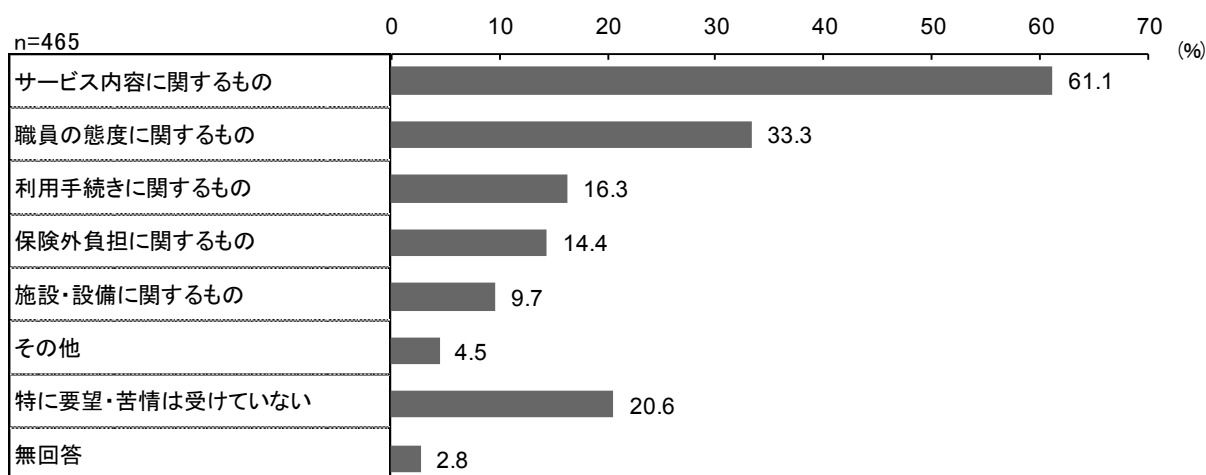
(重複記入あり)

Q10-1 他の介護サービス事業所等と連携していない理由	件数
連携するきっかけがない・情報が不足している	6
時間・人力的余裕がない	4
今後、連携を予定している	3
開設して間もない	2
必要性がない	1
その他	7

(2) 利用者、家族からの要望・苦情

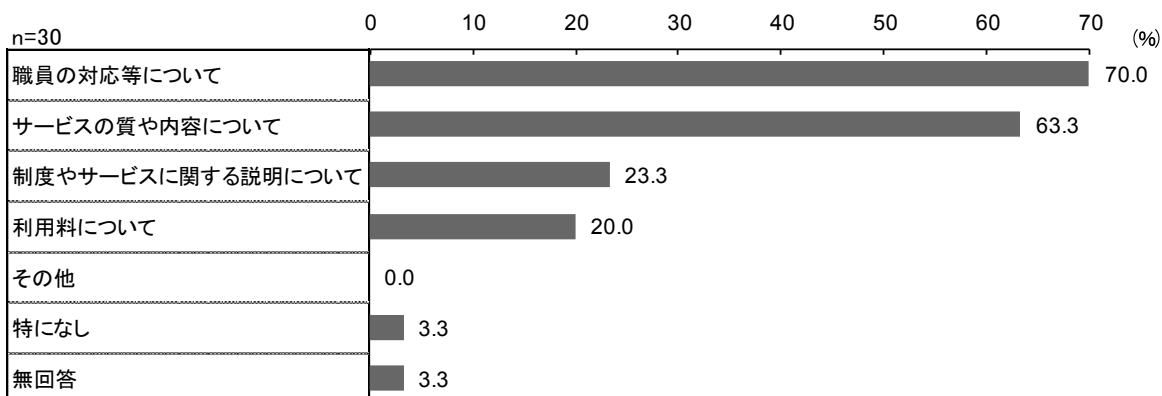
在宅サービス事業所での、サービス実施時における、利用者や家族からの要望・苦情については、「サービス内容に関するもの」が 61.1%と最も高く、次いで「職員の態度に関するもの」(33.3%)、「利用手続きに関するもの」(16.3%)となっている。一方、「特に要望・苦情は受けていない」は 20.6%となっている。

図表 IV. 5. 5 利用者や家族からの要望・苦情 (複数回答、07 在宅サービス事業所 問 11)



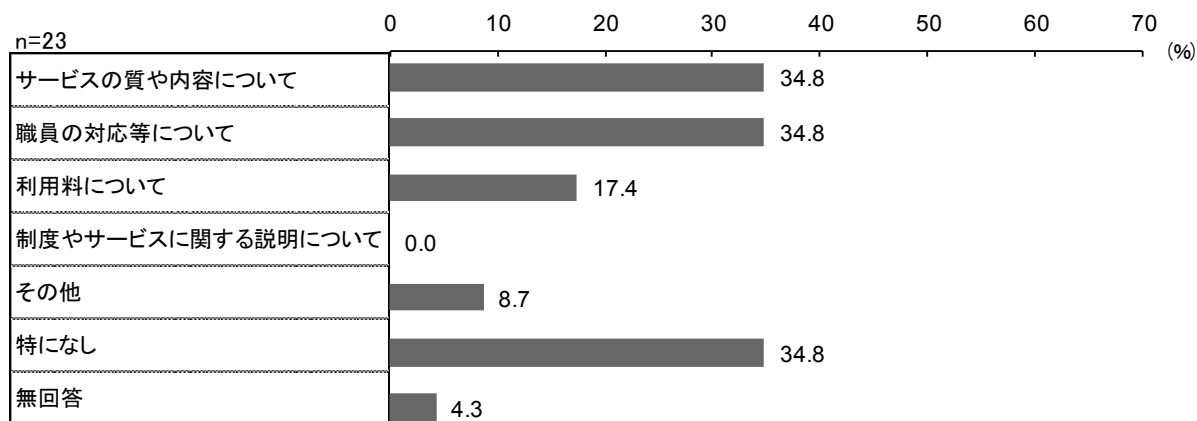
介護保険施設の、平成 27 年度以降の利用者や家族からの要望・苦情内容については、「職員の対応等について」が 70.0%で最も高く、次いで「サービスの質や内容について」(63.3%)、「制度やサービスに関する説明について」(23.3%)となっている。

図表 IV. 5. 6 利用者や家族からの要望・苦情内容 (複数回答、08 介護保険施設 問 16)



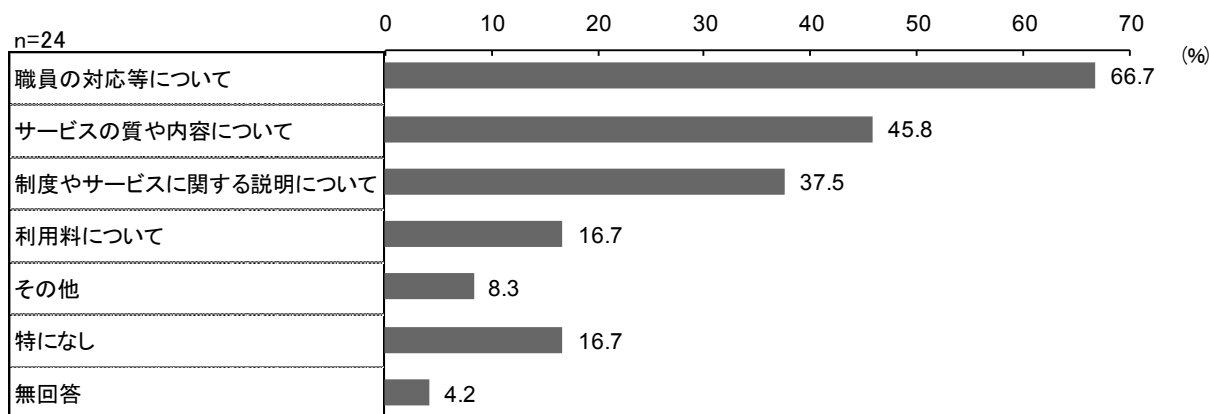
有料老人ホームの、平成 27 年度以降の利用者や家族からの要望・苦情内容については、「サービスの質や内容について」、「職員の対応等について」が 34.8%と最も高い。一方、「特になし」も 34.8%となっている。

図表 IV. 5. 7 利用者や家族からの要望・苦情内容（複数回答、09 有料老人ホーム 問 18）



サービス付高齢者向け住宅での、サービス実施時における、入居者や家族からの要望・苦情については、「職員の対応等について」が 66.7%と最も高く、次いで「サービスの質や内容について」(45.8%)、「制度やサービスに関する説明について」(37.5%)となっている。

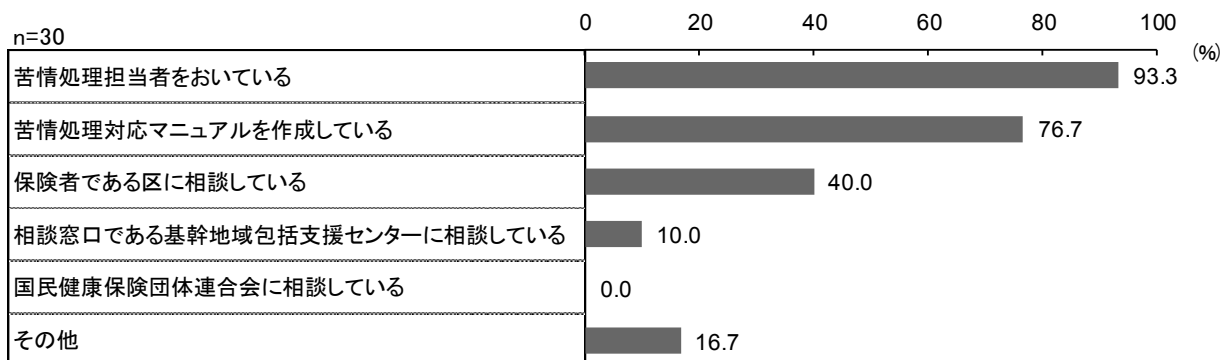
図表 IV. 5. 8 入居者や家族からの要望・苦情（複数回答、10 サービス付高齢者向け住宅 問 14）



(3) 利用者からの苦情への対応

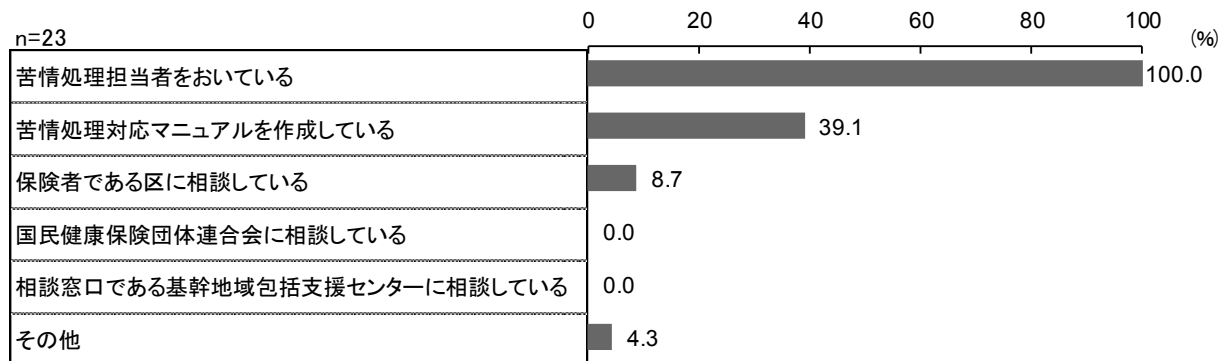
介護保険施設の、利用者からの苦情への対応については、「苦情処理担当者をおいている」が93.3%と最も高く、次いで「苦情処理対応マニュアルを作成している」(76.7%)、「保険者である区に相談している」(40.0%)となっている。

図表 IV. 5. 9 利用者からの苦情への対応 (複数回答、08 介護保険施設 問17)



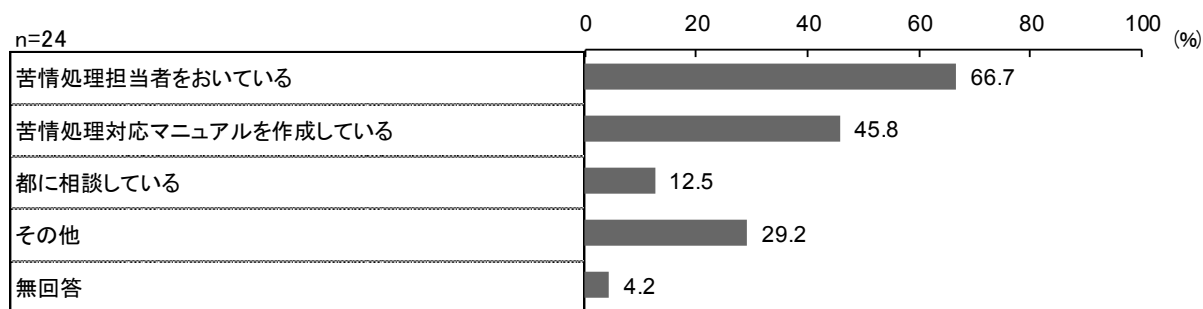
有料老人ホームでの利用者からの苦情への対応については、「苦情処理担当者をおいている」が100.0%と最も高く、次いで「苦情処理対応マニュアルを作成している」(39.1%)、「保険者である区に相談している」(8.7%)となっている。

図表 IV. 5. 10 利用者からの苦情への対応 (複数回答、09 有料老人ホーム 問19)



サービス付高齢者向け住宅の利用者からの苦情への対応については、「苦情処理担当者をおいている」が66.7%と最も高く、次いで「苦情処理対応マニュアルを作成している」(45.8%)、「その他」(29.2%)となっている。

図表 IV. 5. 1 1 利用者からの苦情への対応（複数回答、10 サービス付高齢者向け住宅 問 15）



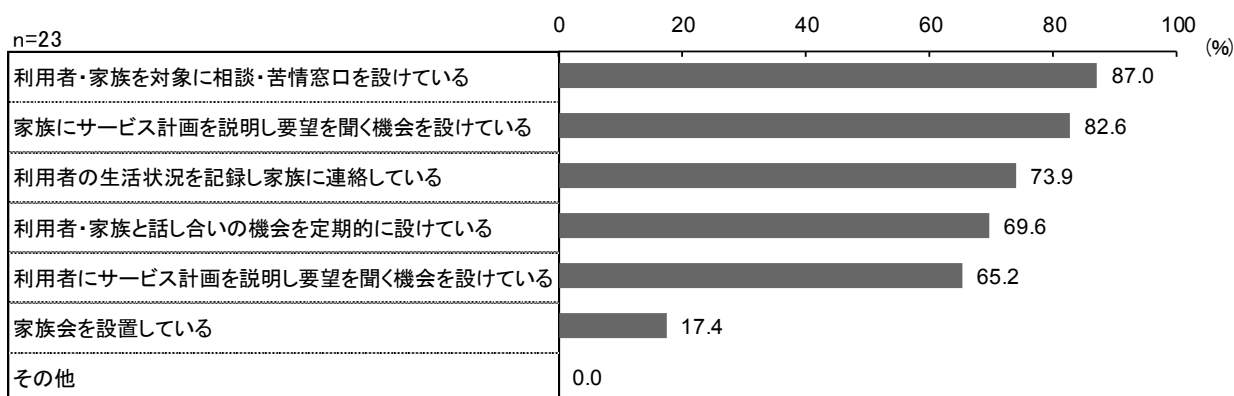
※「その他」の内容（抜粋）

- ・意見書箱設置
- ・苦情報告書を作成し本社及び必要に応じて行政に上げる。
- ・「ご要望情報」に記載して情報を共有している。
- ・上長、会社と連携
- ・カンファレンスにて議題にし、周知・改善等を情報共有
- ・区や包括にも相談

(4) 利用者・家族からの要望への対応・取り組み

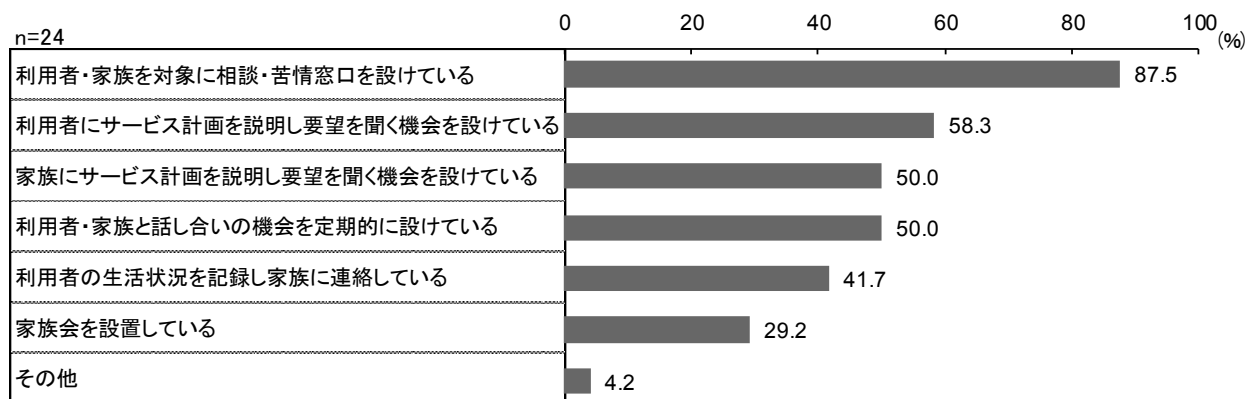
有料老人ホームの利用者や家族の要望を積極的に取り入れるための取り組みについては、「利用者・家族を対象に相談・苦情窓口を設けている」が87.0%と最も高く、次いで「家族にサービス計画を説明し要望を聞く機会を設けている」(82.6%)、「利用者の生活状況を記録し家族に連絡している」(73.9%)となっている。

図表 IV. 5. 1 2 利用者や家族の要望を積極的に取り入れるための取り組み
(複数回答、09 有料老人ホーム 問 15)



サービス付高齢者向け住宅の、利用者や家族の要望を積極的に取り入れるための取り組みについては、「利用者・家族を対象に相談・苦情窓口を設けている」が87.5%と最も高く、次いで「利用者にサービス計画を説明し要望を聞く機会を設けている」(58.3%)、「家族にサービス計画を説明し要望を聞く機会を設けている」、「利用者・家族と話し合いの機会を定期的に設けている」(ともに50.0%)となっている。

図表 IV. 5. 1 3 利用者や家族の要望を積極的に取り入れるための取り組み
(複数回答、10 サービス付高齢者向け住宅 問 18)

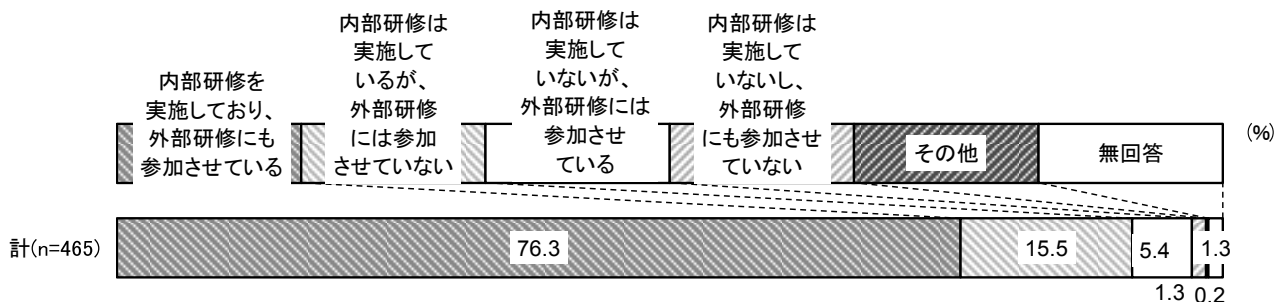


(5) 社内・外研修の実施状況

①社内・外研修の実施状況

在宅サービス事業所の社内・外研修の実施状況については、「内部研修を実施しており、外部研修にも参加させている」が76.3%と最も高く、次いで「内部研修は実施しているが、外部研修には参加させていない」(15.5%)、「内部研修は実施していないが、外部研修には参加させている」(5.4%)となっている。

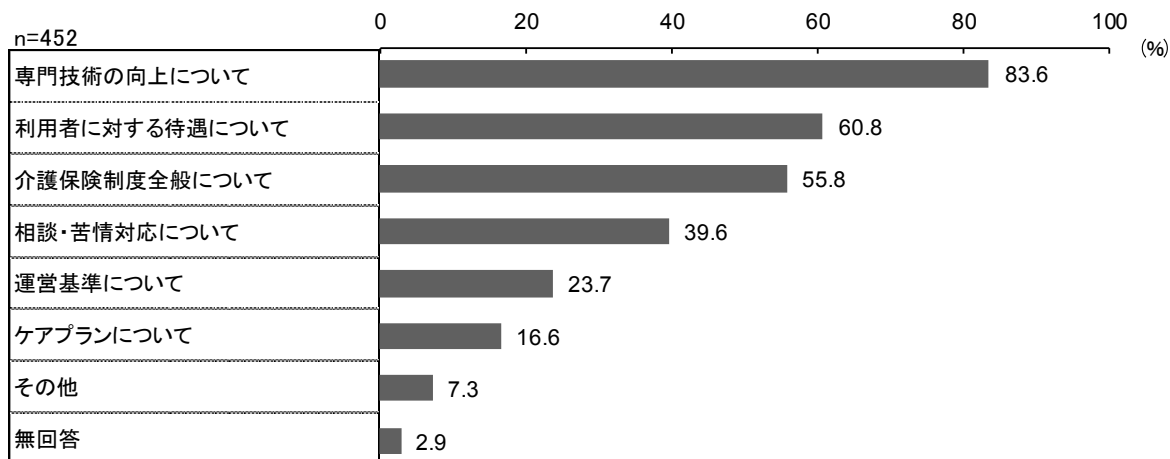
図表 IV. 5. 1 4 社内・外研修の実施状況 (07 在宅サービス事業所 問 12)



②研修内容

在宅サービス事業所の研修内容については、「専門技術の向上について」が83.6%と最も高く、次いで「利用者に対する待遇について」(60.8%)、「介護保険制度全般について」(55.8%)となっている。

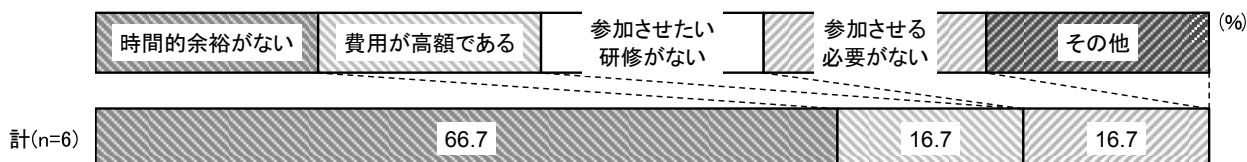
図表 IV. 5. 1 5 研修内容 (複数回答、07 在宅サービス事業所 問 12-1) 【ベース：研修あり】



③研修未実施の理由

「内部研修は実施していないし、外部研修（区の研修も含む）にも参加させていない」と回答した6事業所の、研修を行っていない理由については、「時間的余裕がない」が66.7%（4件）、「費用が高額である」、「参加させる必要がない」（ともに16.7%、1件）となっている。

図表 IV. 5. 1 6 研修等を実施していない理由 (07 在宅サービス事業所 問 12-2) 【ベース：研修なし】

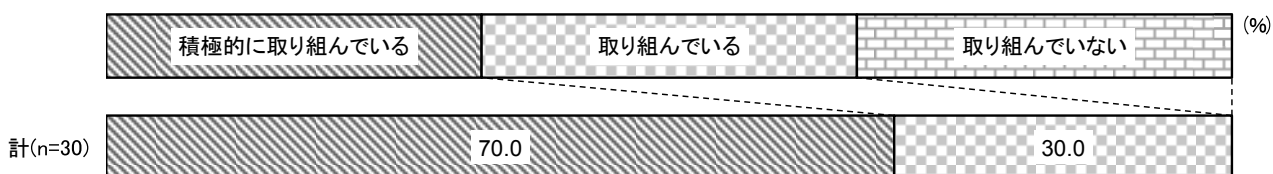


(6) 職員教育の取り組み

①職員教育の取り組み

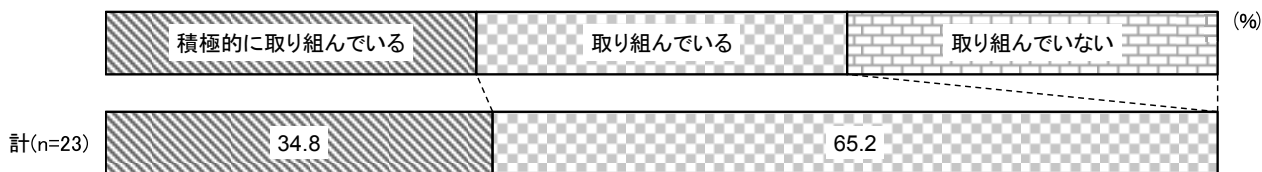
介護保険施設の職員教育の取り組みについては、「積極的に取り組んでいる」が70.0%、「取り組んでいる」が30.0%となっている。

図表 IV. 5. 1 7 職員教育の取り組み (08 介護保険施設 問 21)



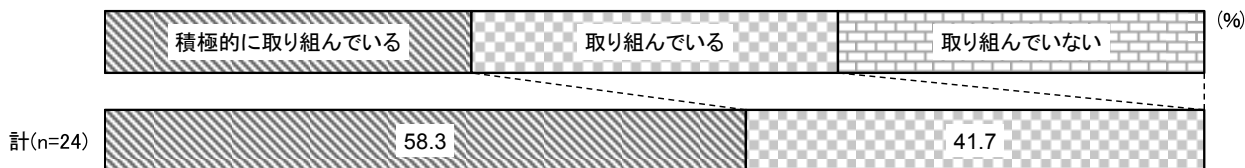
有料老人ホームの職員教育の取り組みについては、「積極的に取り組んでいる」が34.8%、「取り組んでいる」が65.2%となっている。

図表 IV. 5. 1 8 職員教育の取り組み (09 有料老人ホーム 問 23)



サービス付高齢者向け住宅の職員教育の取り組みについては、「積極的に取り組んでいる」が58.3%、「取り組んでいる」が41.7%となっている。

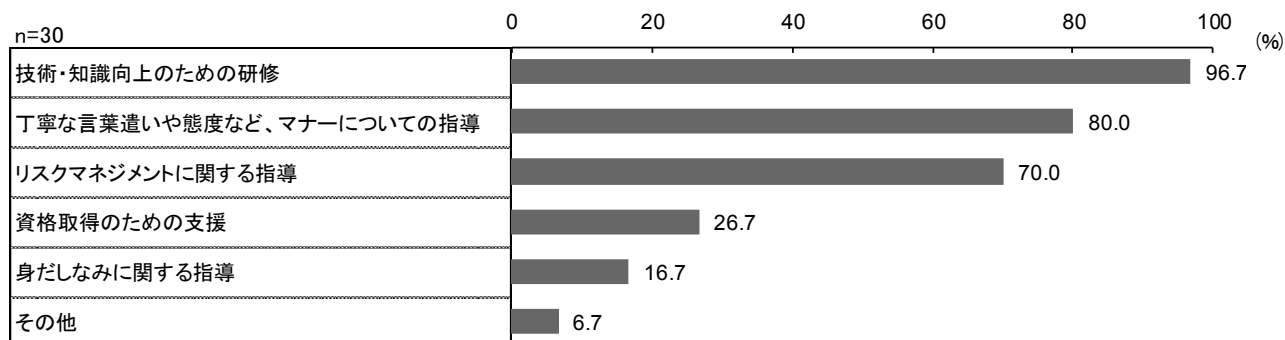
図表 IV. 5. 1 9 職員教育の取り組み (10 サービス付高齢者向け住宅 問 13)



②職員教育で力を入れている点

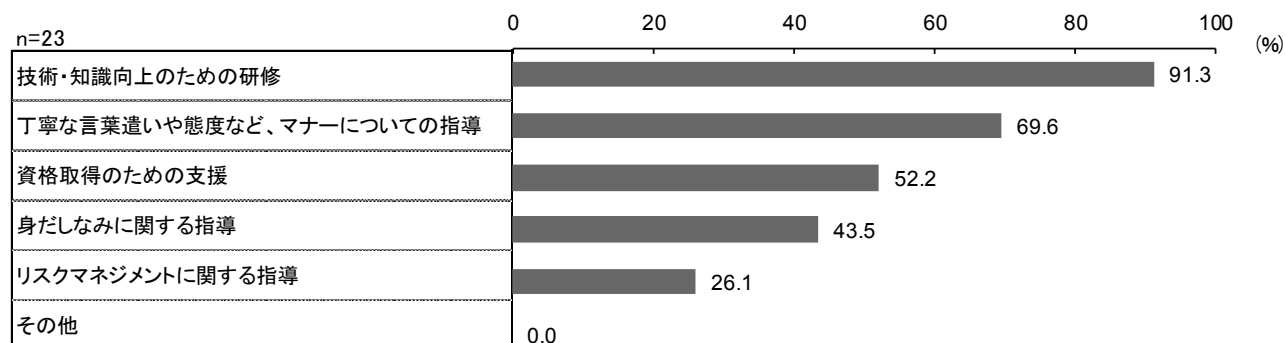
介護保険施設で職員教育で力を入れている点については、「技術・知識向上のための研修」が96.7%と最も高く、次いで「丁寧な言葉遣いや態度など、マナーについての指導」(80.0%)、「リスクマネジメントに関する指導」(70.0%)となっている。

図表 IV. 5. 2 0 職員教育で力を入れている点 (複数回答、08 介護保険施設 問 21-1)
【ベース：職員教育あり】



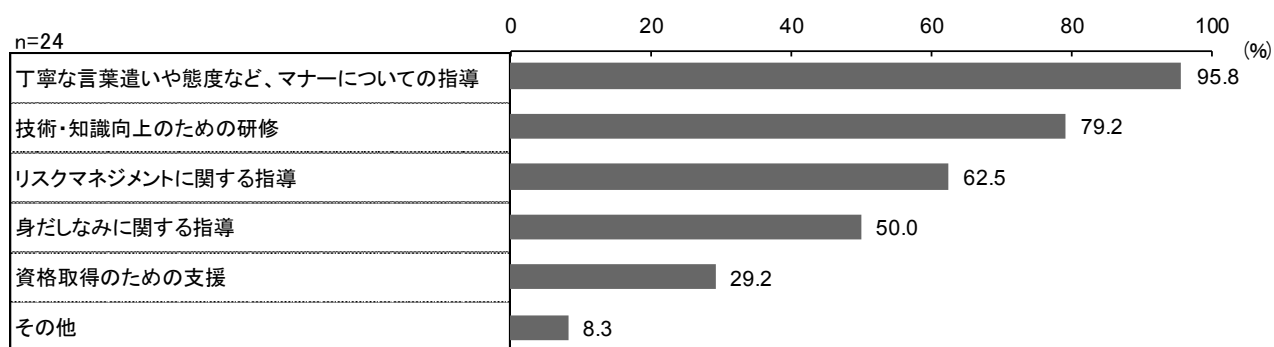
有料老人ホームで職員教育で力を入れている点については、「技術・知識向上のための研修」が91.3%と最も高く、次いで「丁寧な言葉遣いや態度など、マナーについての指導」(69.6%)、「資格取得のための支援」(52.2%)となっている。

図表 IV. 5. 2 1 職員教育で力を入れている点 (複数回答、09 有料老人ホーム 問 23-1)
【ベース：職員教育あり】



サービス付高齢者向け住宅で職員教育で力を入れている点については、「丁寧な言葉遣いや態度など、マナーについての指導」が95.8%と最も高く、次いで「技術・知識向上のための研修」(79.2%)、「リスクマネジメントに関する指導」(62.5%)となっている。

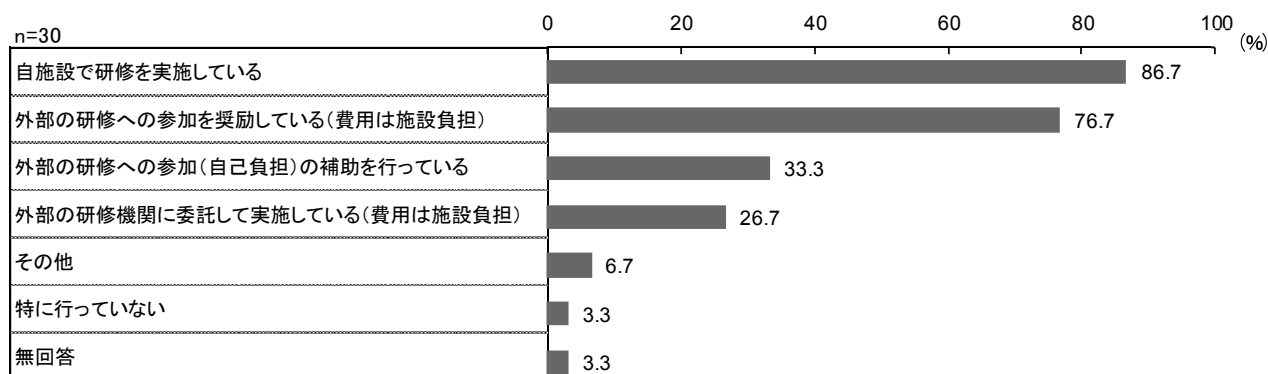
図表 IV. 5. 2 2 職員教育で力を入れている点 (複数回答、10 サービス付高齢者向け住宅 問 13-1)
【ベース：職員教育あり】



(7) 職員の研修や資格取得についての取り組み

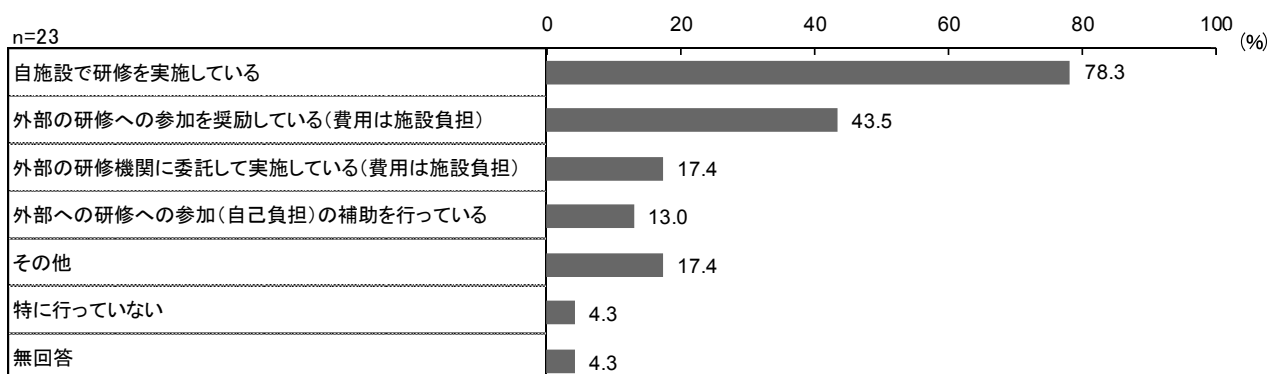
介護保険施設の職員の研修や資格取得についての取り組みについては、「自施設で研修を実施している」が86.7%と最も高く、次いで「外部の研修への参加を奨励している(費用は施設負担)」(76.7%)、「外部の研修への参加(自己負担)の補助を行っている」(33.3%)となっている。

図表 IV. 5. 2 3 職員の研修や資格取得についての取り組み(複数回答、08 介護保険施設 問 22)



有料老人ホームの職員の研修や資格取得についての取り組みについては、「自施設で研修を実施している」が78.3%と最も高く、次いで「外部の研修への参加を奨励している(費用は施設負担)」(43.5%)、「外部の研修機関に委託して実施している(費用は施設負担)」(17.4%)となっている。

図表 IV. 5. 2 4 職員の研修や資格取得についての取り組み(複数回答、09 有料老人ホーム 問 24)



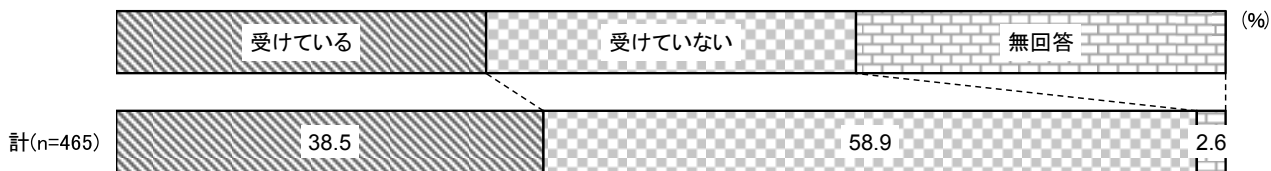
※「その他」の内容(抜粋)

- ・ 本社での内部研修
- ・ 研修の情報提供

(8) 第三者評価の受審状況

在宅サービス事業所の第三者評価の受審状況については、「受けている」が38.5%、「受けていない」が58.9%となっている。

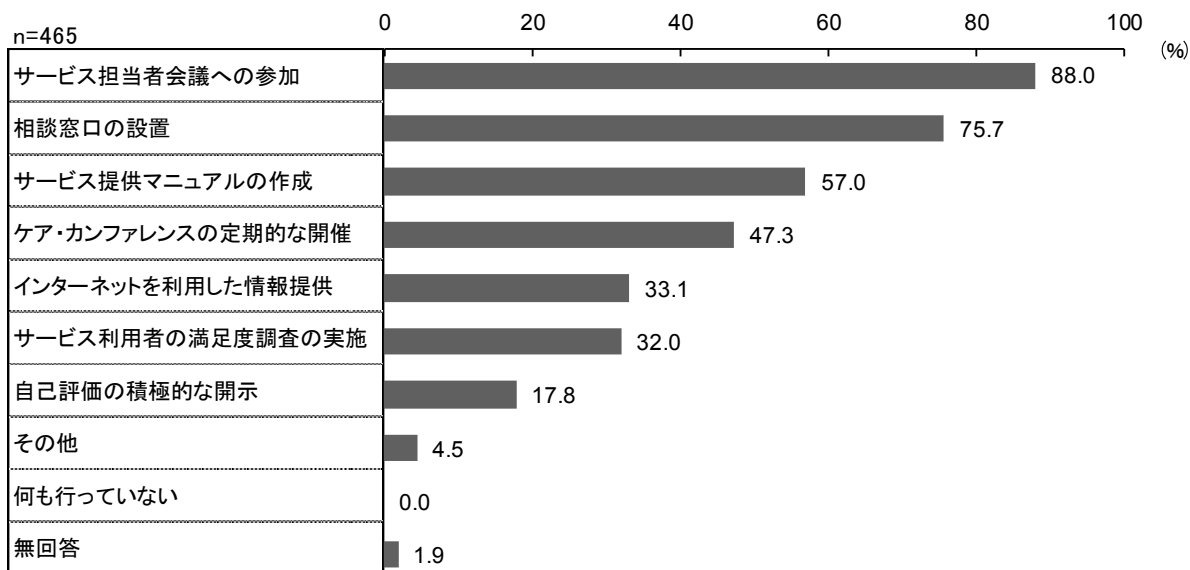
図表 IV. 5. 2 5 第三者評価の受審状況 (07 在宅サービス事業所 問 13)



(9) サービスの質の向上のためにしている取り組み

在宅サービス事業所のサービスの質の向上のためにしている取り組みについては、「サービス担当者会議への参加」が88.0%と最も高く、次いで「相談窓口の設置」(75.7%)、「サービス提供マニュアルの作成」(57.0%)となっている。

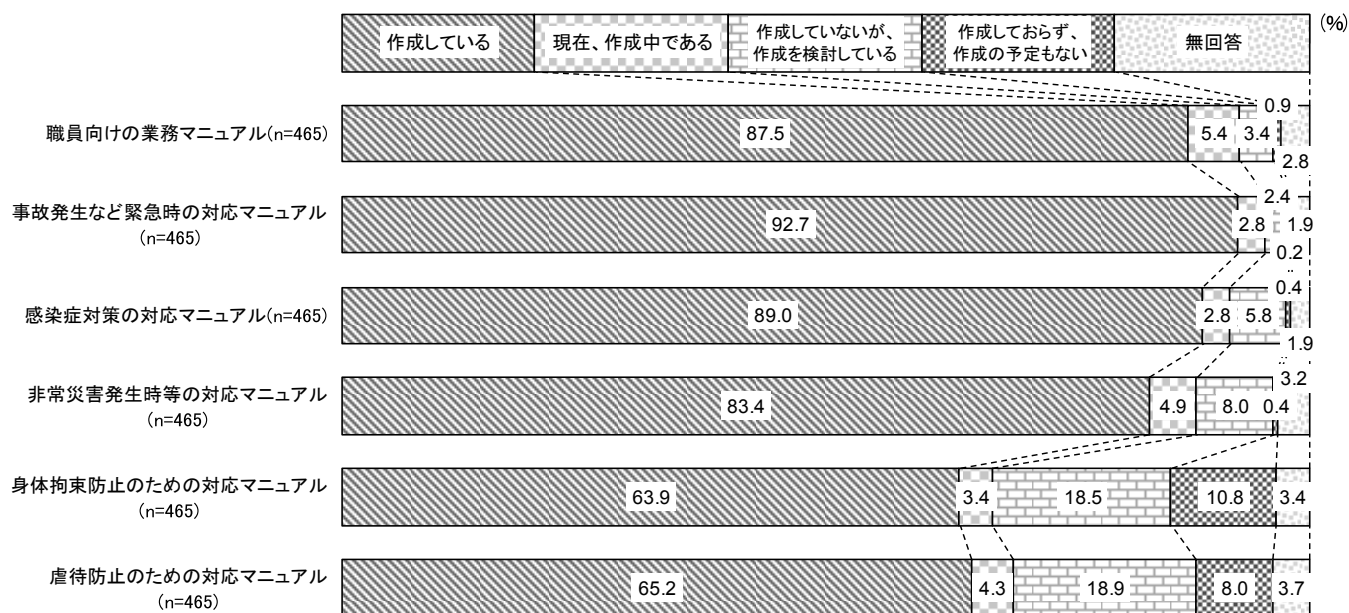
図表 IV. 5. 2 6 サービスの質の向上のためにしている取り組み (複数回答、07 在宅サービス事業所 問 14)



(10) 各種マニュアル作成状況

在宅サービス事業所で作成済みのマニュアルとしては、「事故発生など緊急時の対応マニュアル」が 92.7%と最も高く、次いで「感染症対策の対応マニュアル」(89.0%)、「職員向けの業務マニュアル」(87.5%) となっている。

図表 IV. 5. 2 7 各種マニュアル作成状況 (07 在宅サービス事業所 問 15)

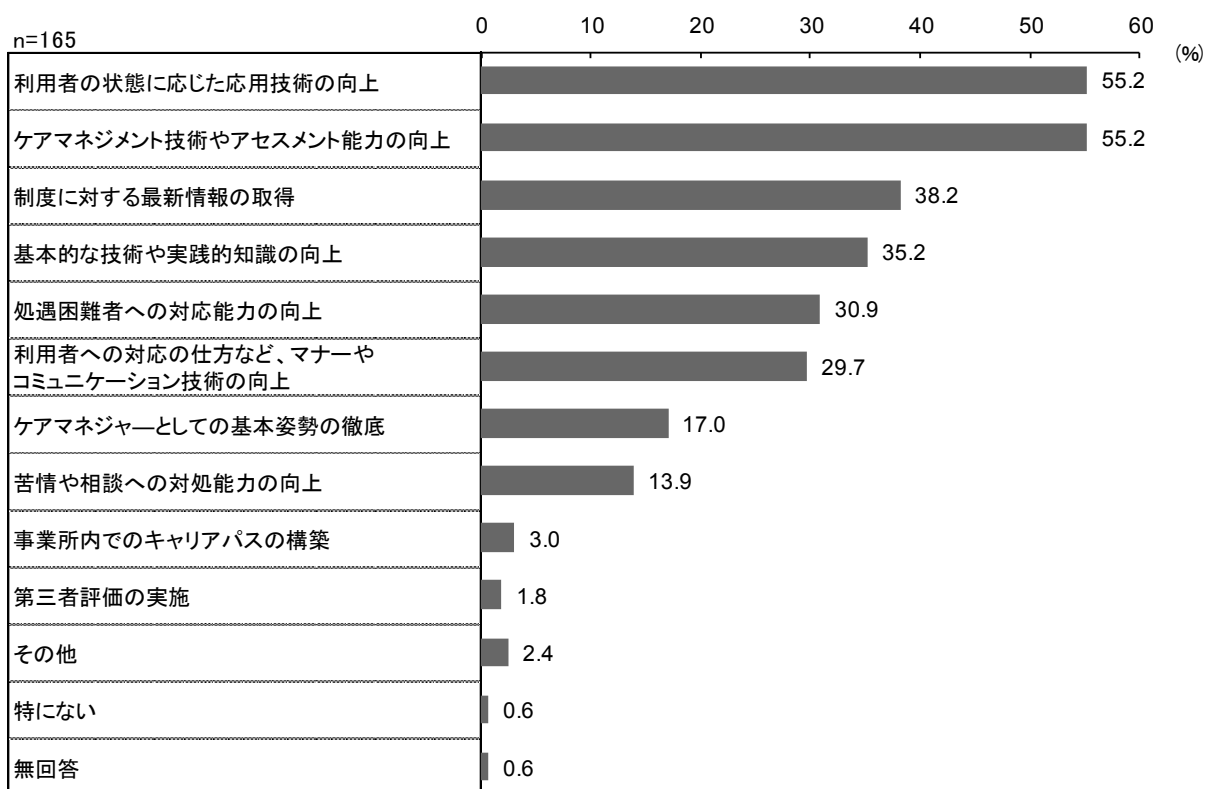


(11) サービスの質の向上に関して

①ケアマネジャーの質の確保・向上を図るために、今後必要だと思う重視点

居宅介護支援事業所で、ケアマネジャーの質の確保・向上を図るために、今後必要だと思う重視点については、「利用者の状態に応じた応用技術の向上」、「ケアマネジメント技術やアセスメント能力の向上」がともに 55.2%で最も高く、次いで「制度に対する最新情報の取得」(38.2%)となっている。

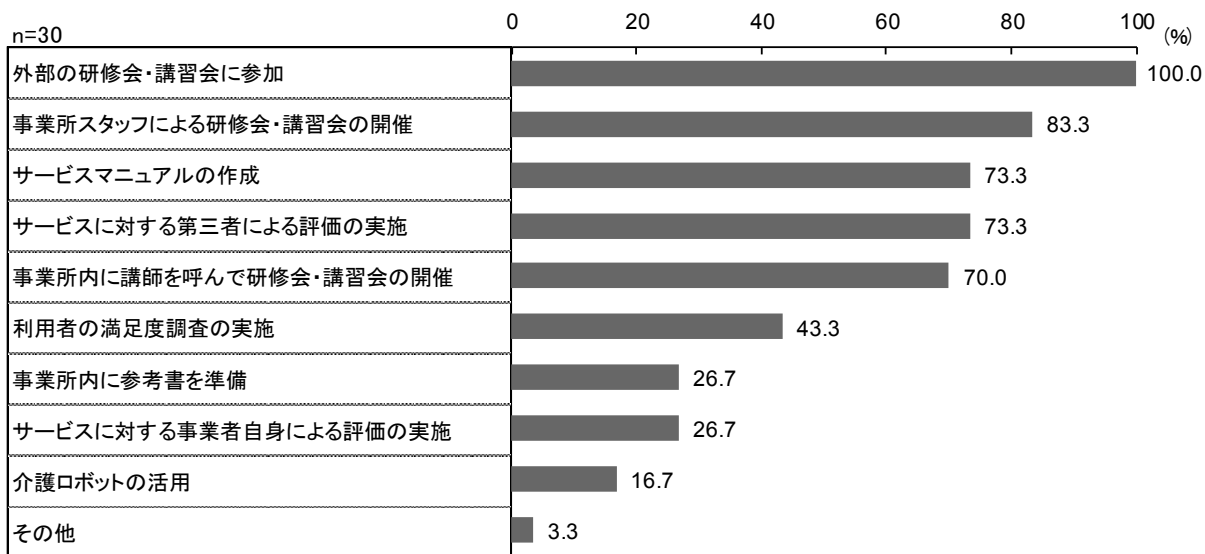
図表 IV. 5. 28 ケアマネジャーの質の確保・向上を図るために、今後必要だと思う重視点
(複数回答、06居宅介護支援事業所 問3)



②サービスの質の向上に向けての取り組み

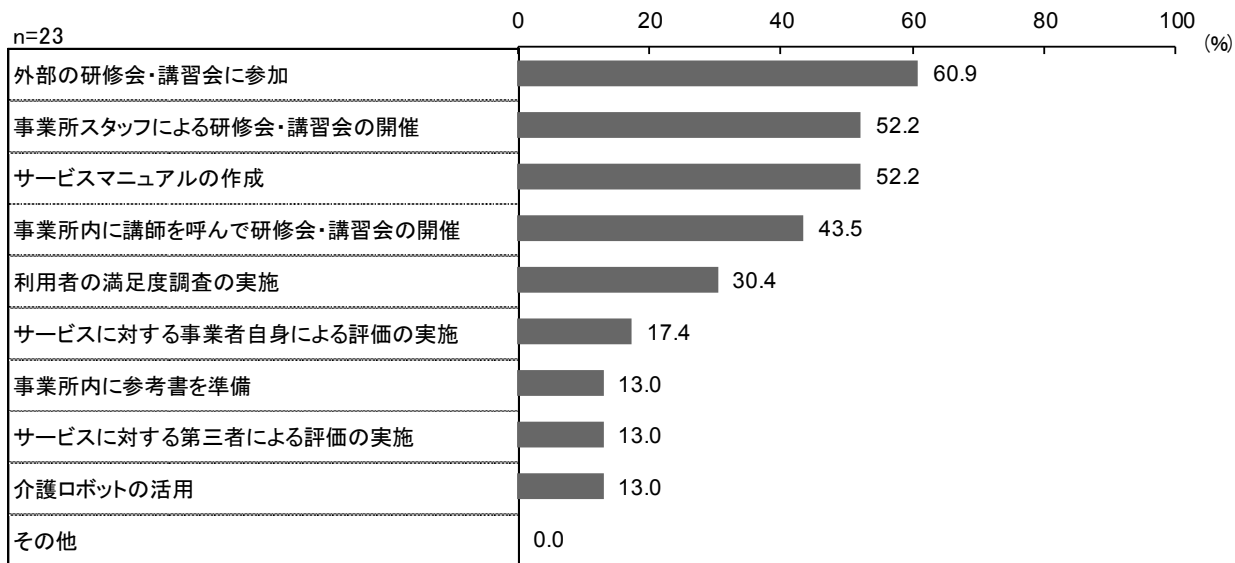
介護保険施設のサービスの質の向上に向けての取り組みについては、「外部の研修会・講習会に参加」が 100.0%と最も高く、次いで「事業所スタッフによる研修会・講習会の開催」(83.3%)、「サービスマニュアルの作成」、「サービスに対する第三者による評価の実施」(ともに 73.3%) となっている。

図表 IV. 5. 2 9 サービスの質の向上に向けての取り組み (複数回答、08 介護保険施設 問 14)



有料老人ホームのサービスの質の向上に向けての取り組みについては、「外部の研修会・講習会に参加」が 60.9%と最も高く、次いで「事業所スタッフによる研修会・講習会の開催」、「サービスマニュアルの作成」(ともに 52.2%) となっている。

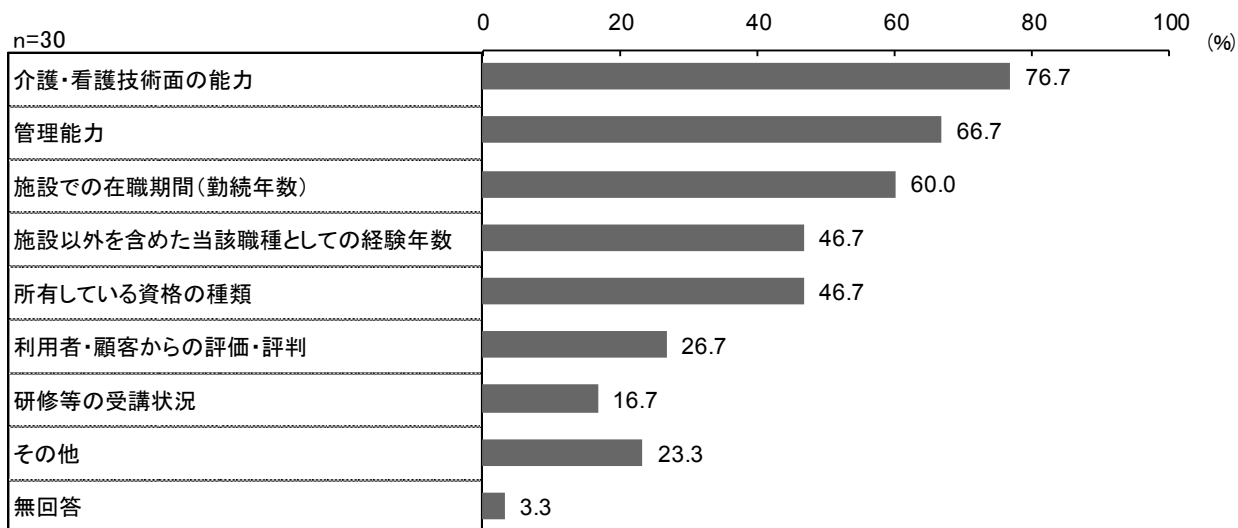
図表 IV. 5. 3 0 サービスの質の向上に向けての取り組み (複数回答、09 有料老人ホーム 問 17)



(12) 昇進、昇給の評価基準

介護保険施設の昇進、昇給等の際しての基準と評価については、「介護・看護技術面の能力」が76.7%と最も高く、次いで「管理能力」(66.7%)、「施設での在職期間(勤続年数)」(60.0%)となっている。

図表 IV. 5. 3 1 昇進、昇給等の際しての基準と評価 (複数回答、08 介護保険施設 問 15)



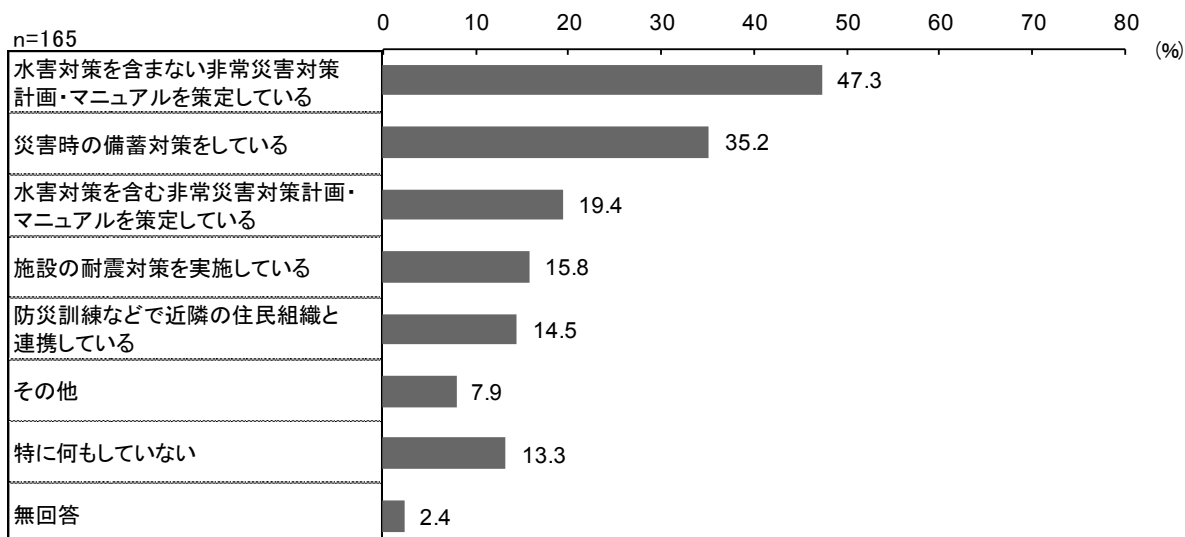
※「その他」の内容 (抜粋)

- ・ 昇進試験の実施
- ・ 人事考課制度を導入
- ・ 本人の意欲、就労状況

(13) 災害時対策の実施・計画作成等の状況

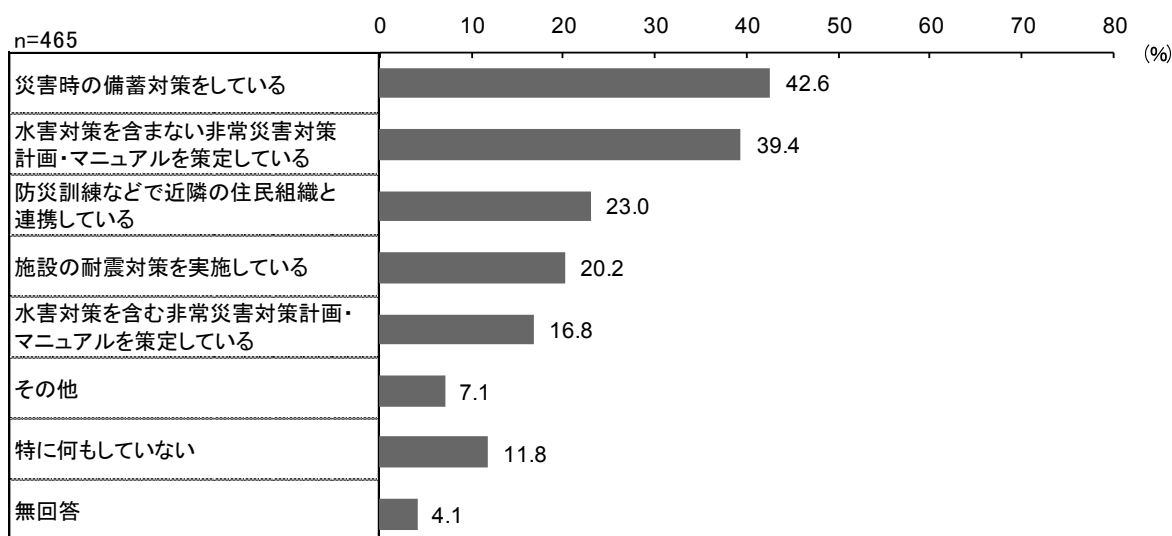
居宅介護支援事業所の災害時の対策の実施・計画については、「水害対策を含まない非常災害対策計画・マニュアルを策定している」が47.3%と最も高く、次いで「災害時の備蓄対策をしている」(35.2%)、「水害対策を含む非常災害対策計画・マニュアルを策定している」(19.4%)となっている。

図表 IV. 5. 3 2 災害時の対策の実施・計画について（複数回答、06 居宅介護支援事業所 問7）



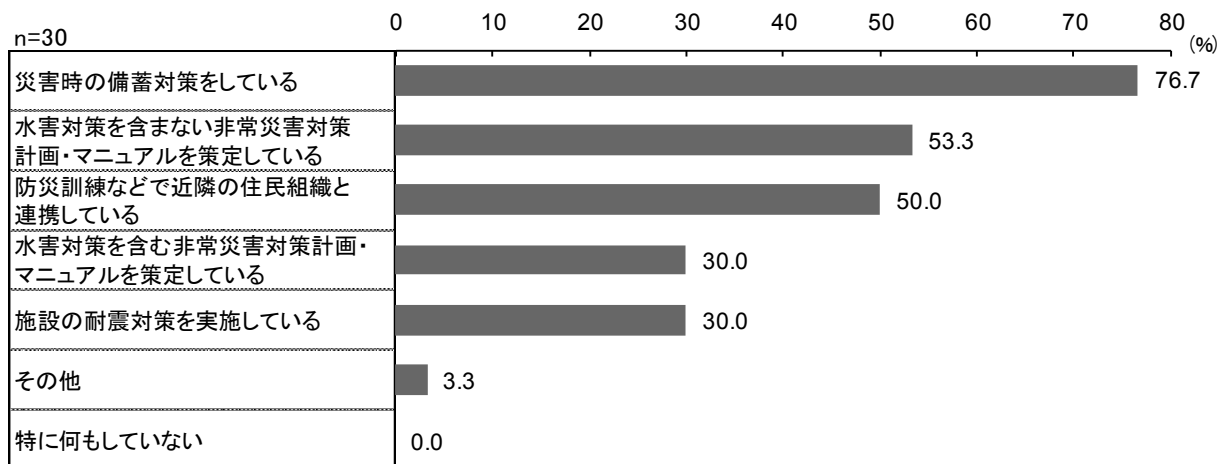
在宅サービス事業所の災害時の対策の実施・計画については、「災害時の備蓄対策をしている」が42.6%と最も高く、次いで「水害対策を含まない非常災害対策計画・マニュアルを策定している」(39.4%)、「防災訓練などで近隣の住民組織と連携している」(23.0%)となっている。

図表 IV. 5. 3 3 災害時の対策の実施・計画について（複数回答、07 在宅サービス事業所 問16）



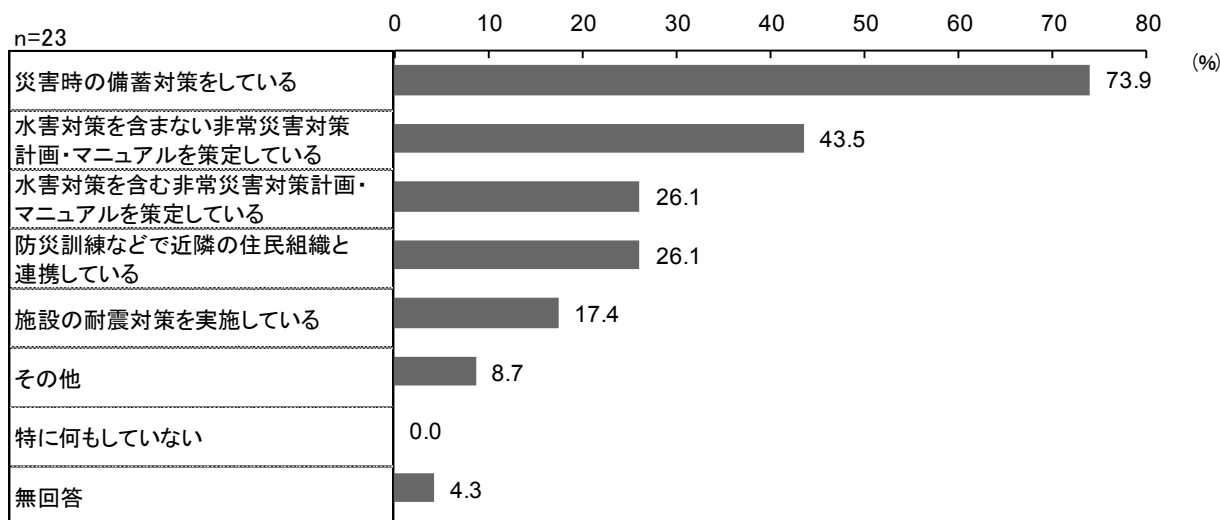
介護保険施設の災害時の対策の実施・計画については、「災害時の備蓄対策をしている」が76.7%と最も高く、次いで「水害対策を含まない非常災害対策計画・マニュアルを策定している」(53.3%)、「防災訓練などで近隣の住民組織と連携している」(50.0%)となっている。

図表 IV. 5. 3 4 災害時の対策の実施・計画について（複数回答、08 介護保険施設 問 19）



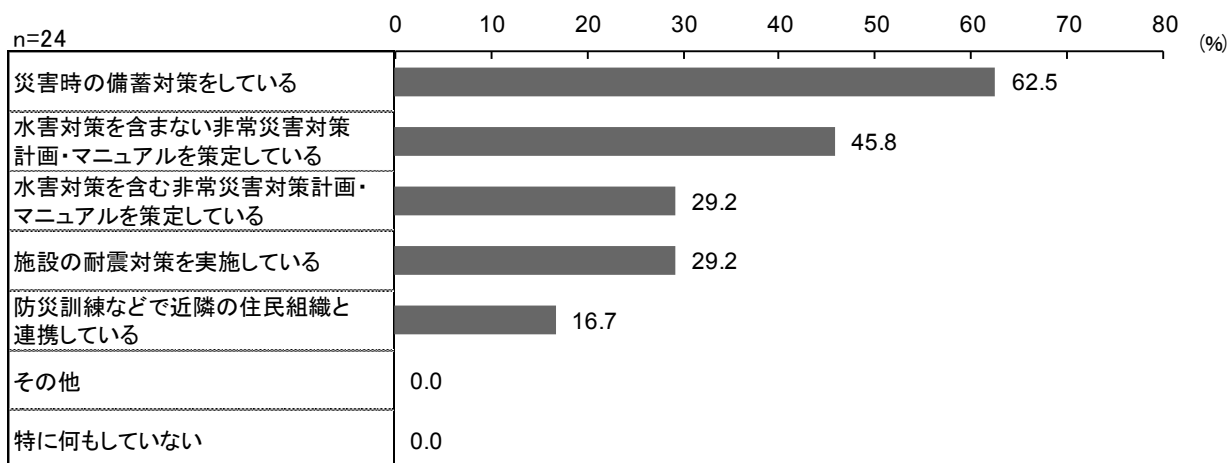
有料老人ホームの災害時の対策の実施・計画については、「災害時の備蓄対策をしている」が73.9%で最も高く、次いで「水害対策を含まない非常災害対策計画・マニュアルを策定している」(43.5%)、「水害対策を含む非常災害対策計画・マニュアルを策定している」(26.1%)となっている。

図表 IV. 5. 3 5 災害時の対策の実施・計画について（複数回答、09 有料老人ホーム 問 20）



サービス付高齢者向け住宅の災害時の対策の実施・計画については、「災害時の備蓄対策をしている」が62.5%と最も高く、次いで「水害対策を含まない非常災害対策計画・マニュアルを策定している」(45.8%)、「水害対策を含む非常災害対策計画・マニュアルを策定している」、「施設の耐震対策を実施している」(ともに29.2%)となっている。

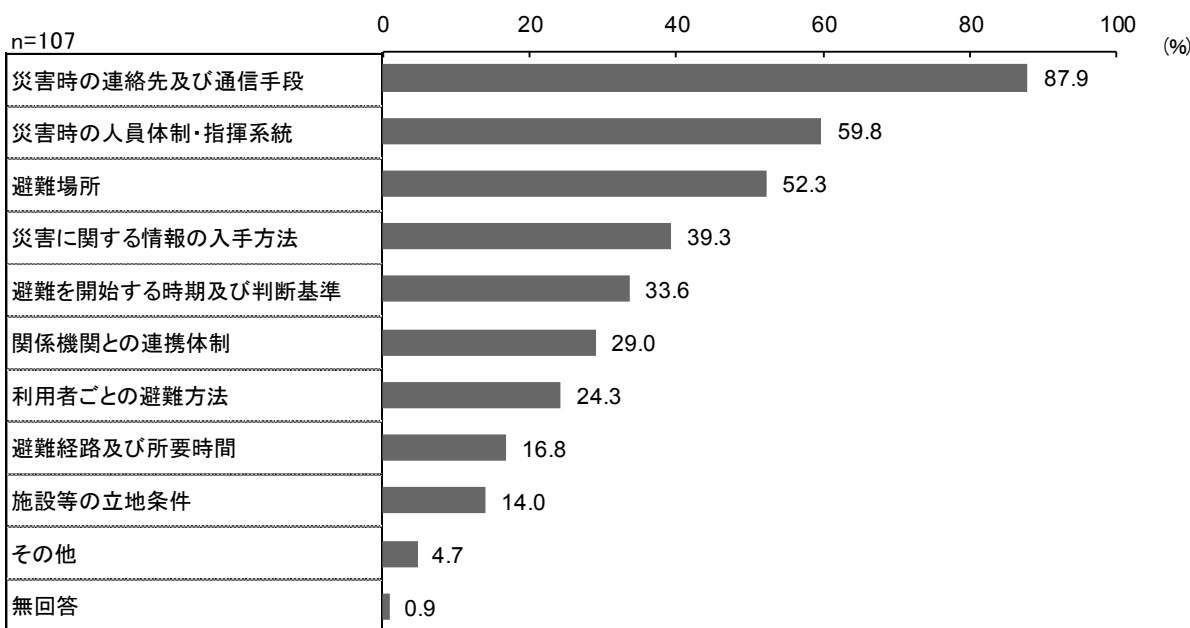
図表 IV. 5. 3 6 災害時の対策の実施・計画について
(複数回答、10 サービス付高齢者向け住宅 問16)



(14) 非常災害対策計画・マニュアルに含まれている項目

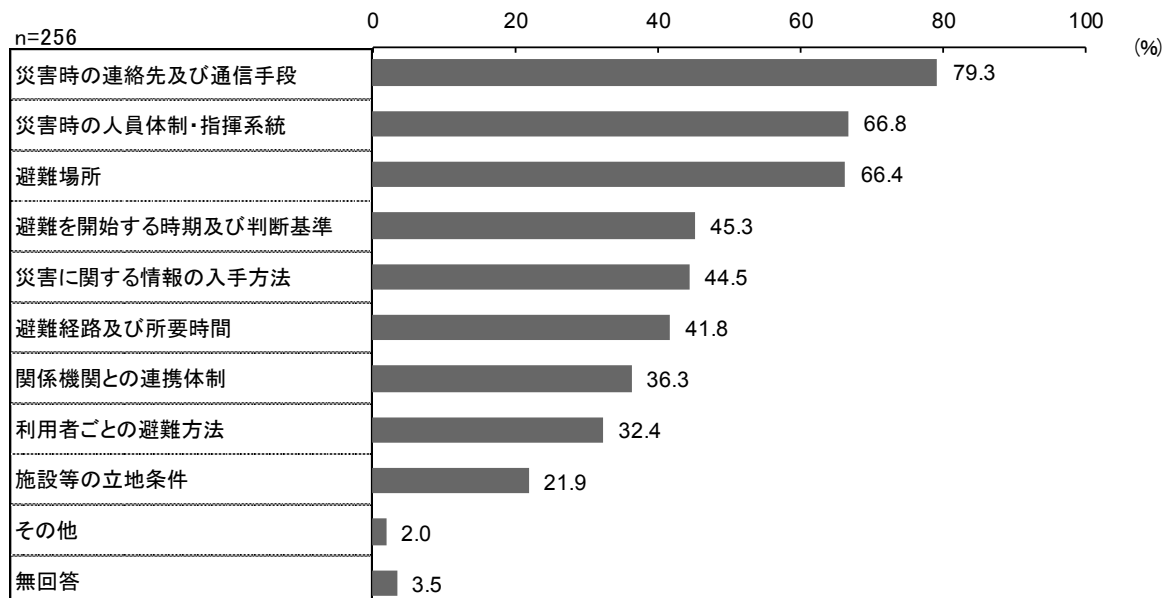
居宅介護支援事業所で策定されている非常災害対策計画・マニュアルに含まれている項目は、「災害時の連絡先及び通信手段」が 87.9%と最も高く、次いで「災害時の人員体制・指揮系統」(59.8%)、「避難場所」(52.3%)、「災害に関する情報の入手方法」(39.3%)となっている。

図表 IV. 5. 37 非常災害対策計画・マニュアルに含まれている項目
(複数回答、06 居宅介護支援事業所 問7-1)【ベース：計画・マニュアル策定済み】



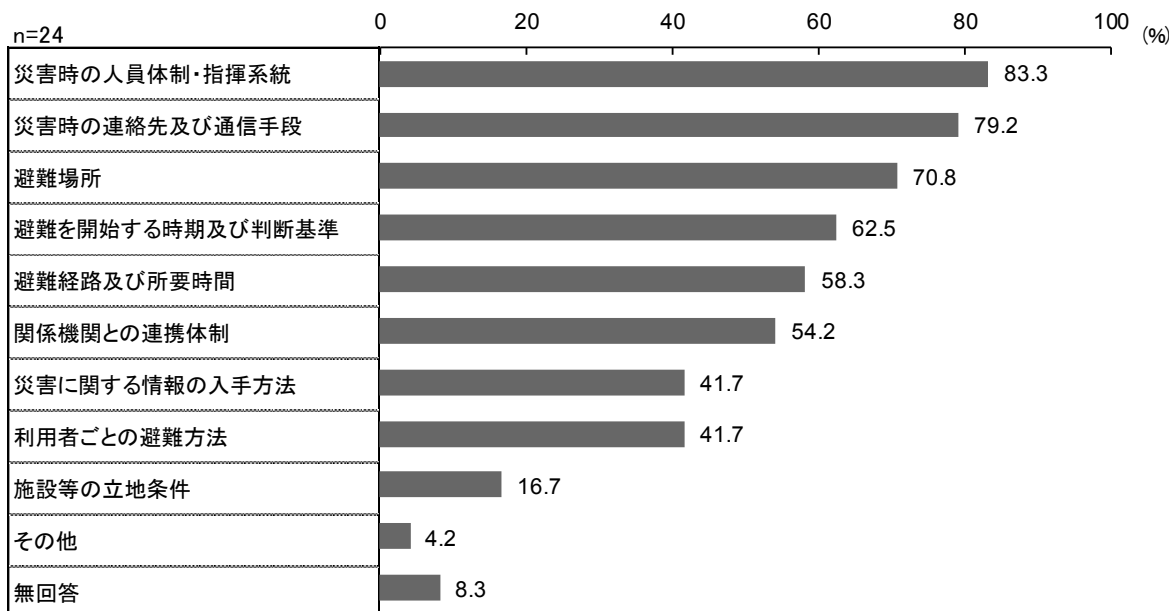
在宅サービス事業所で策定されている非常災害対策計画・マニュアルに含まれている項目は、「災害時の連絡先及び通信手段」が 79.3%と最も高く、次いで「災害時の人員体制・指揮系統」(66.8%)、「避難場所」(66.4%)、「避難を開始する時期及び判断基準」(45.3%)となっている。

図表 IV. 5. 38 非常災害対策計画・マニュアルに含まれている項目
(複数回答、07 在宅サービス事業所 問16-1)【ベース：計画・マニュアル策定済み】



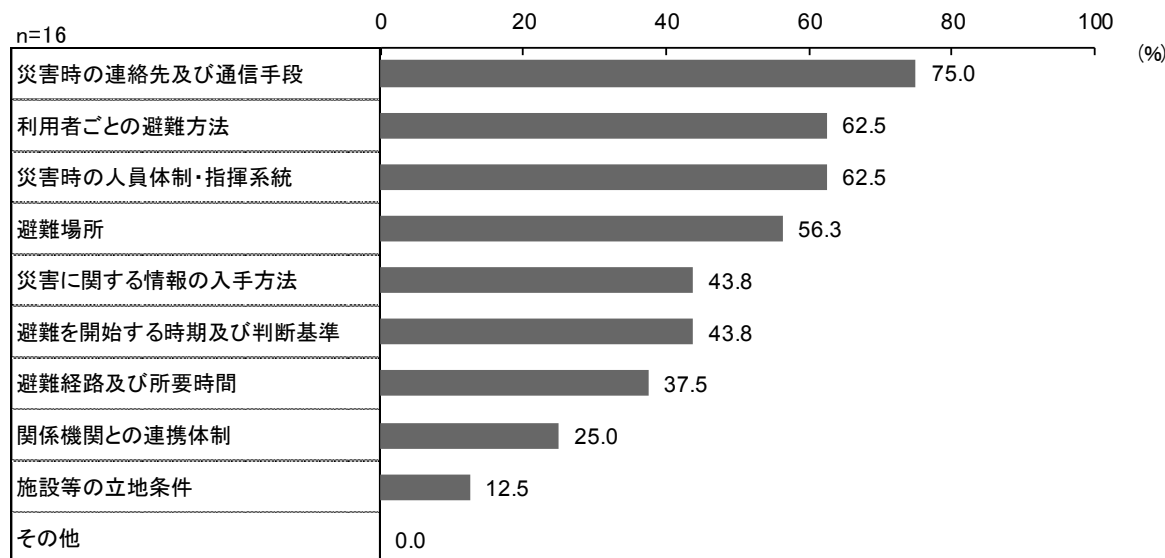
介護保険施設で策定されている非常災害対策計画・マニュアルに含まれている項目は、「災害時の人員体制・指揮系統」が83.3%と最も高く、次いで「災害時の連絡先及び通信手段」(79.2%)、「避難場所」(70.8%)、「避難を開始する時期及び判断基準」(62.5%)となっている。

図表 IV. 5. 39 非常災害対策計画・マニュアルに含まれている項目
(複数回答、08 介護保険施設 問 19-1)【ベース：計画・マニュアル策定済み】



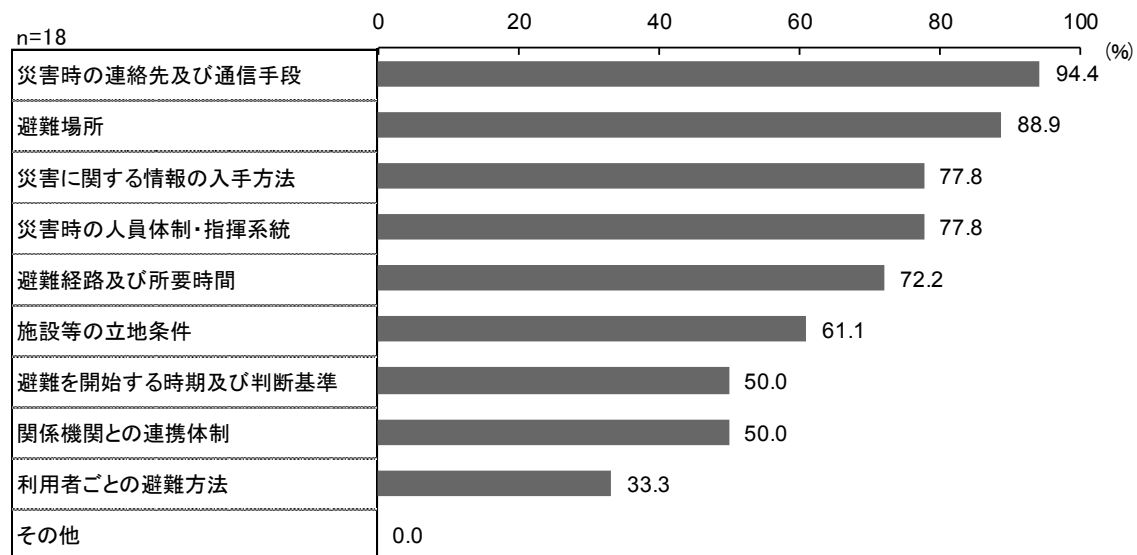
有料老人ホームで策定されている非常災害対策計画・マニュアルに含まれている項目は、「災害時の連絡先及び通信手段」が75.0%と最も高く、次いで「利用者ごとの避難方法」、「災害時の人員体制・指揮系統」(ともに62.5%)、「避難場所」(56.3%)となっている。

図表 IV. 5. 40 非常災害対策計画・マニュアルに含まれている項目
(複数回答、09 有料老人ホーム 問 20-1)【ベース：計画・マニュアル策定済み】



サービス付高齢者向け住宅で策定されている非常災害対策計画・マニュアルに含まれている項目は、「災害時の連絡先及び通信手段」が94.4%と最も高く、次いで「避難場所」(88.9%)、「災害に関する情報の入手方法」、「災害時の人員体制・指揮系統」(ともに77.8%)となっている。

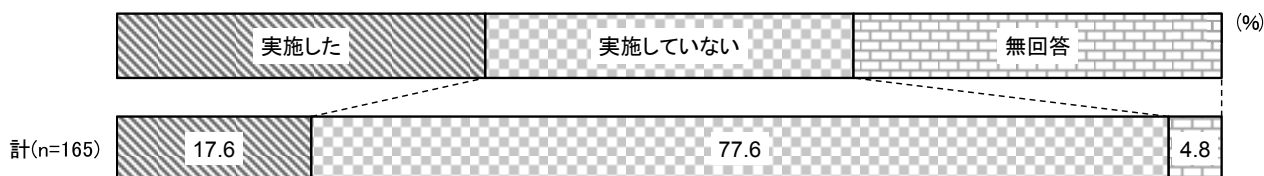
図表 IV. 5. 4 1 策定されている非常災害対策計画・マニュアルに含まれている項目
(複数回答、10 サービス付高齢者向け住宅 問 16-1) 【ベース：計画・マニュアル策定済み】



(15) 水害の場合を含む避難訓練実施状況 (平成28年度)

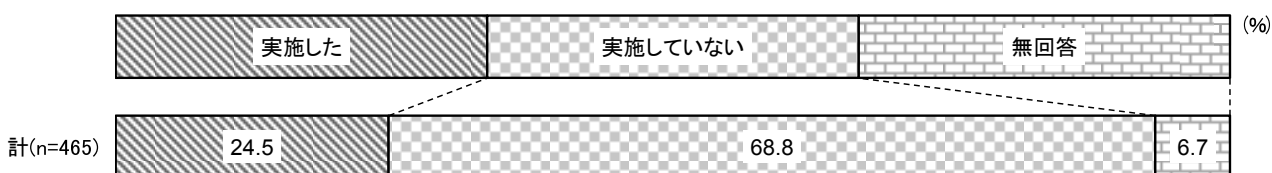
居宅介護支援事業所の水害の場合を含む避難訓練実施状況については、「実施した」が17.6%、「実施していない」が77.6%となっている。

図表 IV. 5. 4 2 水害の場合を含む避難訓練実施状況 (06 居宅介護支援事業所 問8)



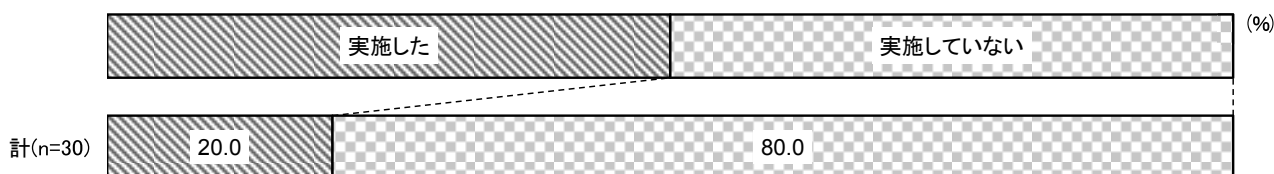
在宅サービス事業所の水害の場合を含む避難訓練実施状況については、「実施した」が24.5%、「実施していない」が68.8%となっている。

図表 IV. 5. 4 3 水害の場合を含む避難訓練実施状況 (07 在宅サービス事業所 問17)



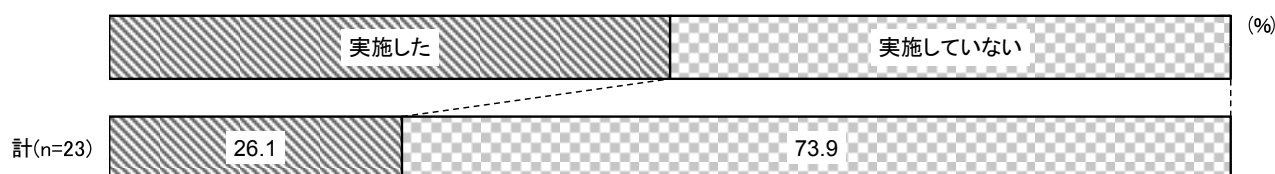
介護保険施設の水害の場合を含む避難訓練実施状況については、「実施した」が20.0%、「実施していない」が80.0%、となっている。

図表 IV. 5. 4 4 水害の場合を含む避難訓練実施状況 (08 介護保険施設 問20)



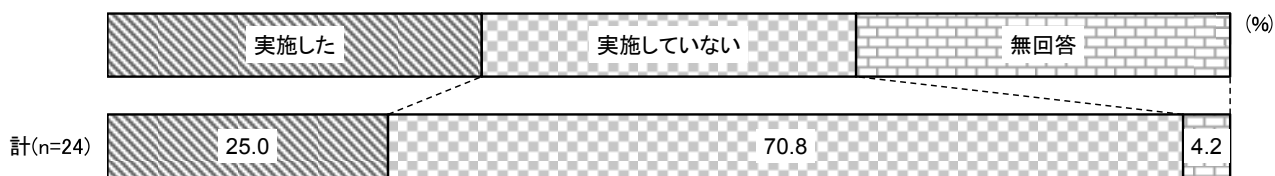
有料老人ホームの水害の場合を含む避難訓練実施状況については、「実施した」が26.1%、「実施していない」が73.9%、となっている。

図表 IV. 5. 4 5 水害の場合を含む避難訓練実施状況 (09 有料老人ホーム 問21)



サービス付高齢者向け住宅の水害の場合を含む避難訓練実施状況については、「実施した」が25.0%、「実施していない」が70.8%となっている。

図表 IV. 5. 4 6 水害の場合を含む避難訓練実施状況 (10 サービス付高齢者向け住宅 問17)



(16) 今後の避難訓練実施予定時期

水害の場合を含む避難訓練を実施していない事業所に、今後の避難訓練実施予定時期についてたずねたところ、各事業所の回答は下記の通りとなっている。

図表 IV. 5. 4 7 今後の避難訓練実施予定時期

(06 居宅介護支援事業所 問 8-1)

【ベース：避難訓練未実施】

番号	項目内容	件数
1	2月以前	4
2	3月頃	6
3	4月～6月	2
4	今年度（平成28年度）中	4
5	来年度（平成29年度）中	4
6	検討中	9
7	未定・わからない	58
8	その他	4
9	水害を含む訓練は行っていない	4
10	予定はない	16
	OA 合計件数	111

(09 有料老人ホーム 問 21-1)

【ベース：避難訓練未実施】

番号	項目内容	件数
1	2月以前	7
2	3月頃	0
3	4月～6月	1
4	今年度（平成28年度）中	0
5	来年度（平成29年度）中	0
6	検討中	1
7	未定・わからない	6
8	その他	1
9	水害を含む訓練は行っていない	0
10	予定はない	0
	OA 合計件数	16

(07 在宅サービス事業所 問 17-1)

【ベース：避難訓練未実施】

番号	項目内容	件数
1	2月以前	32
2	3月頃	19
3	4月～6月	12
4	今年度（平成28年度）中	12
5	来年度（平成29年度）中	25
6	検討中	28
7	未定・わからない	111
8	その他	14
9	水害を含む訓練は行っていない	17
10	予定はない	18
	OA 合計件数	288

(10 サービス付高齢者向け住宅 問 17-1)

【ベース：避難訓練未実施】

番号	項目内容	件数
1	2月以前	3
2	3月頃	0
3	4月～6月	3
4	今年度（平成28年度）中	0
5	来年度（平成29年度）中	3
6	検討中	2
7	未定・わからない	3
8	その他	1
9	水害を含む訓練は行っていない	0
10	予定はない	0
	OA 合計件数	15

(08 介護保険施設 問 20-1)

【ベース：避難訓練未実施】

番号	項目内容	件数
1	2月以前	4
2	3月頃	2
3	4月～6月	1
4	今年度（平成28年度）中	1
5	来年度（平成29年度）中	3
6	検討中	0
7	未定・わからない	10
8	その他	0
9	水害を含む訓練は行っていない	1
10	予定はない	0
	OA 合計件数	22

6 ケアプラン作成等について
 (1) ケアプラン作成件数

居宅介護支援事業所のケアプラン作成件数については、平成27年から平成28年にかけて、平均件数で10件程度増加しており、足立区の利用者の作成件数も約4件増加している。

図表 IV. 6. 1 ケアプラン作成件数(平均件数) (06 居宅介護支援事業所 問9)

	平成27年10月分	平成28年10月分
ケアプラン作成件数	80.7 件	92.6 件
うち足立区の利用者へのケアプラン作成件数	71.5 件	75.9 件

図表 IV. 6. 2 ケアプラン作成件数 (06 居宅介護支援事業所 問9)

		(%)											平均値 (件)	中央値 (件)
n=	0件	1~9件	10~ 19件	20~ 29件	30~ 39件	40~ 49件	50~ 99件	100~ 149件	150~ 199件	200件 以上	無回答	平均値 (件)	中央値 (件)	
平成27年10月分	165	4.8	3.6	6.1	6.1	11.5	6.1	25.5	17.0	9.1	4.8	5.5	80.7	64.5
うち足立区利用者	165	4.8	10.3	5.5	5.5	10.9	6.1	21.8	16.4	6.7	3.6	8.5	71.5	55.0
平成28年10月分	165	2.0	5.0	11.0	7.0	16.0	15.0	45.0	25.0	24.0	12.0	3.0	92.6	75.5
うち足立区利用者	165	2.4	10.3	8.5	6.7	8.5	6.7	24.2	13.9	8.5	4.8	5.5	75.9	58.5

居宅介護支援事業所の要支援・要介護度別のケアプラン作成件数については、平均件数でみて、「要介護2」が26.4件と最も高く、次いで「要介護1」(17.5件)、「要介護3」(15.4件)となっている。

図表 IV. 6. 3 要支援・要介護度別のケアプラン作成件数(平均件数)
 (06 居宅介護支援事業所 問9-1)

※平均件数

平成28年10月分	要支援1	要支援2	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5
ケアプラン作成件数	7.2 件	10.8 件	17.5 件	26.4 件	15.4 件	10.6 件	7.5 件

図表 IV. 6. 4 ケアプラン作成件数 (06 居宅介護支援事業所 問9-1)

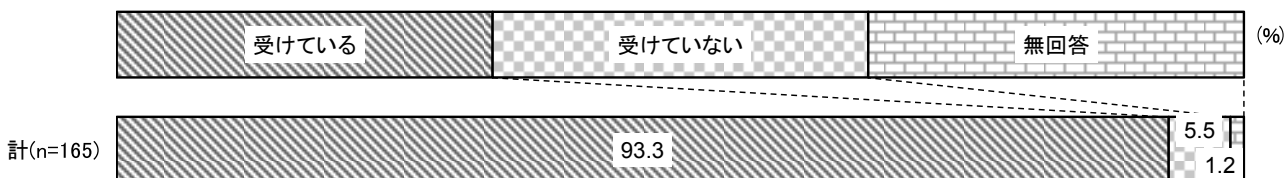
		(%)											平均値 (件)	中央値 (件)
n=	0件	1~4件	5~9件	10~ 14件	15~ 19件	20~ 29件	30~ 39件	40~ 49件	50件 以上	無回答	平均値 (件)	中央値 (件)		
要支援1	165	9.1	32.1	27.3	10.3	6.7	5.5	1.2	0.0	0.0	7.9	7.2	5.0	
要支援2	165	6.7	21.8	27.9	16.4	7.9	7.3	1.8	1.8	1.8	6.7	10.8	8.0	
要介護1	165	3.0	10.9	21.8	13.9	11.5	14.5	14.5	3.0	2.4	4.2	17.5	14.0	
要介護2	165	2.4	7.3	11.5	13.9	9.1	17.6	7.9	15.2	10.9	4.2	26.4	20.5	
要介護3	165	1.2	16.4	19.4	17.6	11.5	21.8	3.6	2.4	2.4	3.6	15.4	13.0	
要介護4	165	2.4	23.6	25.5	17.6	12.1	9.1	1.8	1.2	0.0	6.7	10.6	8.0	
要介護5	165	6.7	33.3	25.5	18.8	4.2	4.8	0.6	0.6	0.0	5.5	7.5	6.0	

(2) 介護予防プラン受託状況

①介護予防プラン受託状況

居宅介護支援事業所の介護予防プラン受託状況については、「受けている」が93.3%、「受けていない」が5.5%である。

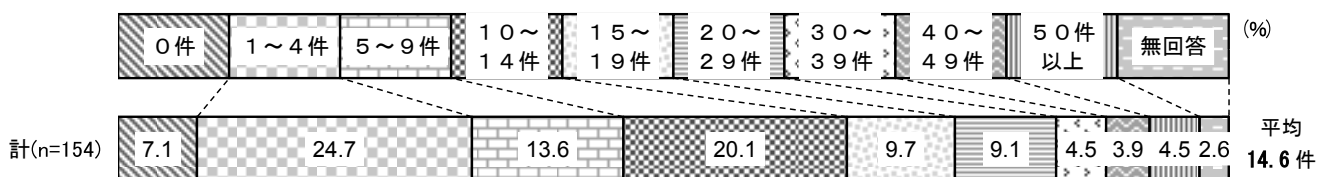
図表 IV. 6. 5 介護予防プラン受託状況 (06 居宅介護支援事業所 問 10)



介護予防プランの委託を受けている居宅介護支援事業所において、平成28年10月の1か月の介護予防プラン受託件数については、「1～4件」が24.7%と最も高く、次いで「10～14件」(20.1%)、「5～9件」(13.6%)となっている。

図表 IV. 6. 6 介護予防プラン受託件数 (06 居宅介護支援事業所 問 10-1)

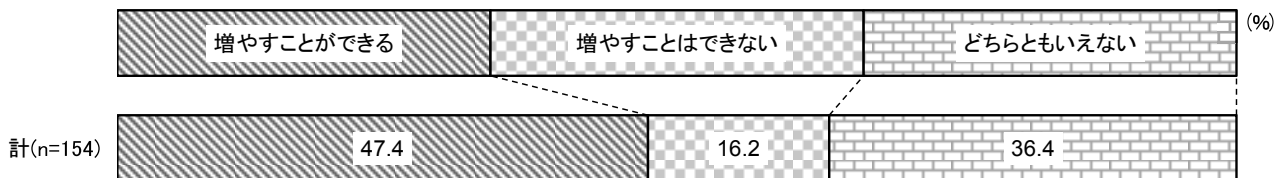
【ベース：介護予防プラン受託あり】



介護予防プランの委託を受けている居宅介護支援事業所において、介護予防プラン作成件数増の可否については、「増やすことができる」が47.4%、「増やすことはできない」が16.2%となっている。

図表 IV. 6. 7 介護予防プラン作成件数増の可否 (06 居宅介護支援事業所 問 10-2)

【ベース：介護予防プラン受託あり】



②介護予防プラン作成件数増の可否理由

居宅介護支援事業所の介護予防プランの委託を受けている事業所において、作成件数を増やすことについての代表的な可否理由は以下の通りである。

● 増やすことができる 36 件

- ◇ 件数に空きがある。地域に貢献したい。
- ◇ 各ケアマネの担当件数が最大に達していない為
- ◇ 増やすことはできるが、包括から依頼がありません。
- ◇ 数値は少ないですが夫婦で居る世帯の場合は出来るだけ受けようとしているので少人数です。
- ◇ 介護になったりして数がへった為、その分の件数はとることができる。

● 増やすことはできない 25 件

- ◇ 会社の方針
- ◇ 対応できる職員が不足
- ◇ プラン数が上限いっぱいなので。
- ◇ 退職予定の補充の見通しがたたないため。
- ◇ 予防プランの作成に手間がかかりすぎる。

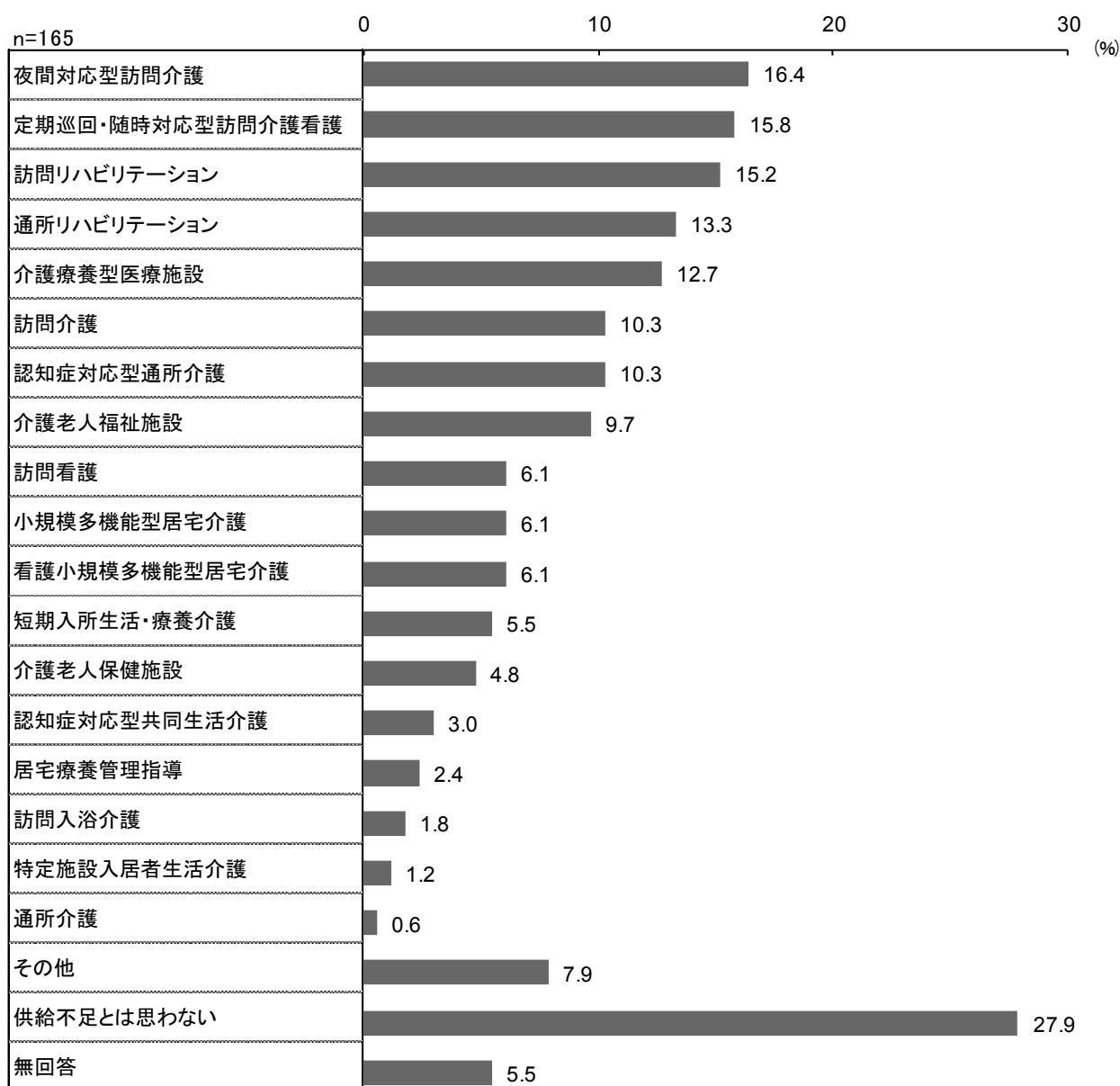
● どちらともいえない 39 件

- ◇ これ以上増やしたくないのが現状だが、断ると次の新規がもらえなくなりそうでこわいため。
- ◇ 収益上の問題より予防プランを増やすことは事業所としての存続で難しくなる。
- ◇ 1人体制で活動しているため、その時の状況によって(ケースバイケースという事です)。
- ◇ 予防プラン報酬が少ない割には、介護の方と同じくらい書類、訪問など手間がかかっているから。
- ◇ 毎月変動があり、新規が立てこんでいると人員(労力)を割けない事がある為

(3) 区内供給量が不足している介護サービス

居宅介護支援事業所で、区内で供給が不足している介護サービスは、「夜間対応型訪問介護」が 16.4%と最も高く、次いで「定期巡回・随時対応型訪問介護看護」(15.8%)、「訪問リハビリテーション」(15.2%)となっている。一方、「供給不足とは思わない」は 27.9%となっている。

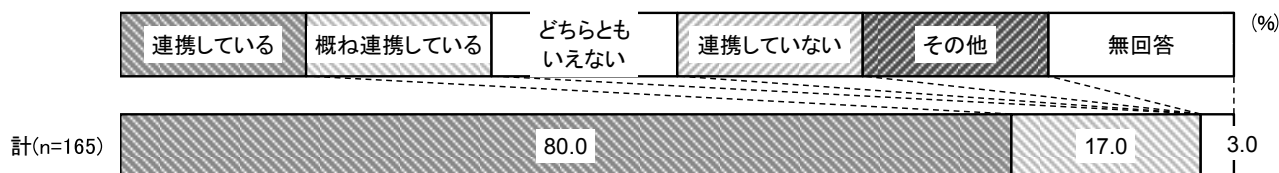
図表 IV. 6. 8 ケアプランを立てる際に、区内で供給量が不足している介護サービス
(複数回答、06 居宅介護支援事業所 問 11)



(4) ケアプラン作成時の併設事業所以外の事業所との連携

居宅介護支援事業所のケアプラン作成時の併設事業所以外の事業所との連携については、「連携している」が80.0%、「概ね連携している」が17.0%となっている。「どちらともいえない」「連携していない」と回答した事業所はなかった。

図表 IV. 6. 9 ケアプラン作成時の併設事業所以外の事業所との連携
(06 居宅介護支援事業所 問 12)

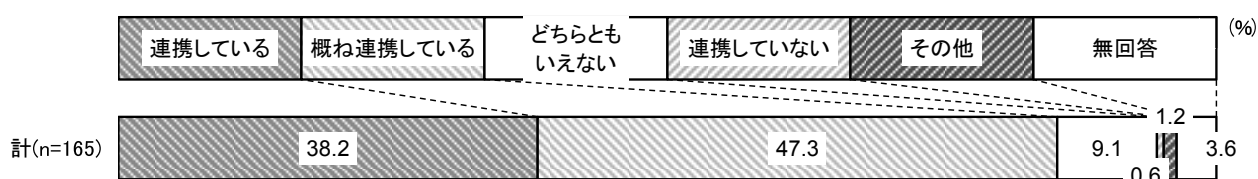


(5) 主治医との連携状況

①主治医の連携状況

居宅介護支援事業所の主治医との連携状況については、「連携している」が38.2%、「概ね連携している」が47.3%、「どちらともいえない」が9.1%となっている。

図表 IV. 6. 10 主治医との連携状況 (06 居宅介護支援事業所 問 13)



②主治医と連携していない理由

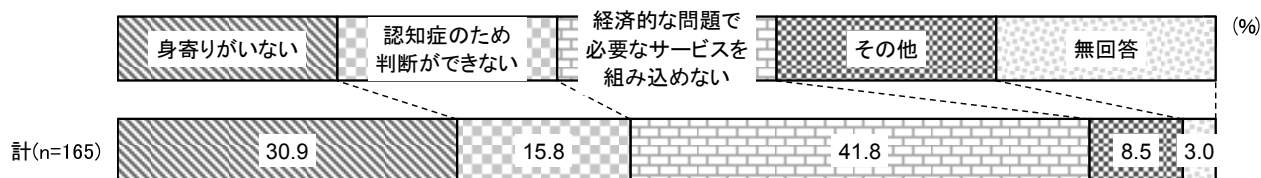
居宅介護支援事業所で、主治医と「連携していない」(1事業所)の連携していない理由としては、「担当件数に余裕があるため」となっている。

(6) ケアプラン作成時に対応の難しい場合の状況

①本人の状況

居宅介護支援事業所で、ケアプラン作成時に特に対応が難しい本人の状況については、「経済的な問題で必要なサービスを組み込めない」が41.8%と最も高く、次いで「身寄りがいない」(30.9%)、「認知症のため判断ができない」(15.8%)となっている。

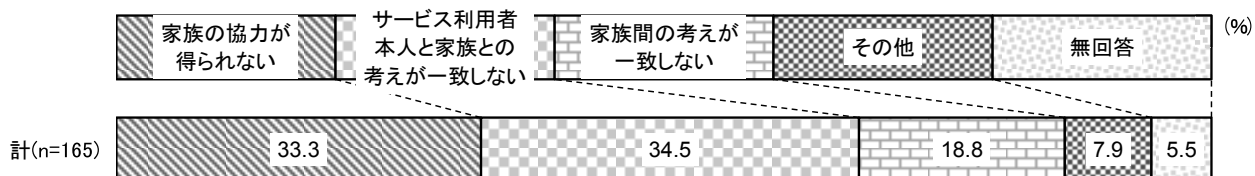
図表 IV. 6. 1 1 ケアプラン作成時に対応が難しい本人の状況 (06 居宅介護支援事業所 問 14(1))



②家族の状況

居宅介護支援事業所で、ケアプラン作成時に特に対応が難しい家族の状況については、「サービス利用者本人と家族との考えが一致しない」が34.5%と最も高く、次いで「家族の協力が得られない」(33.3%)、「家族間の考えが一致しない」(18.8%)となっている。

図表 IV. 6. 1 2 ケアプラン作成時に対応が難しい家族の状況 (06 居宅介護支援事業所 問 14(2))



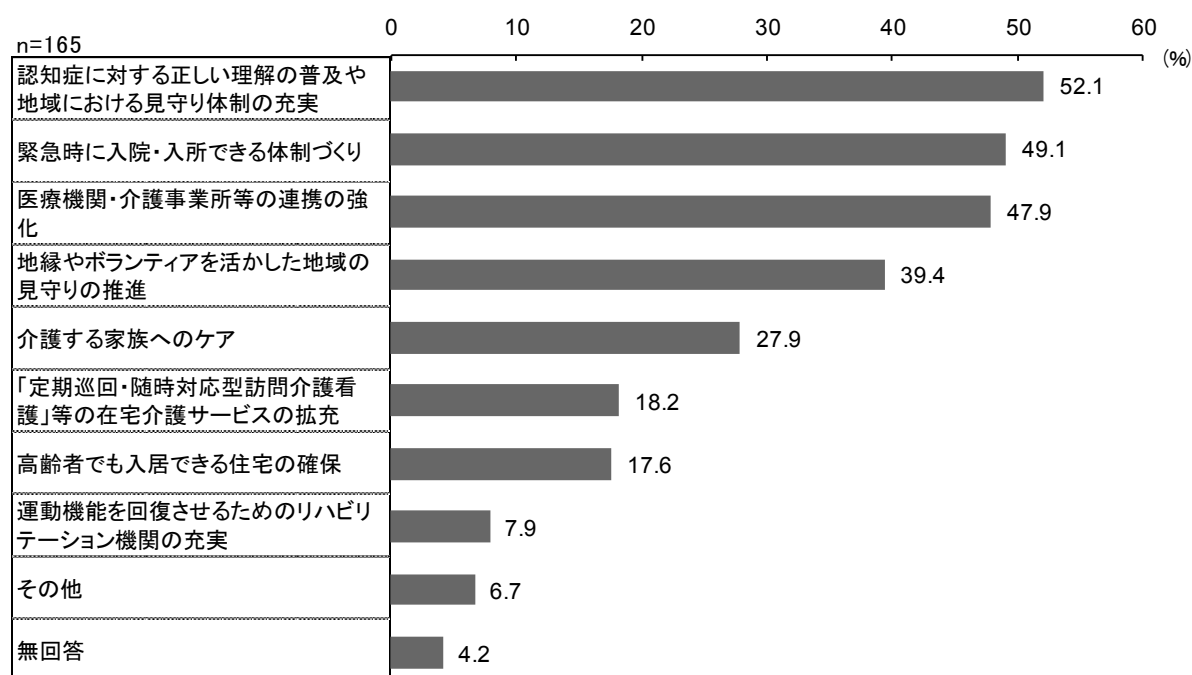
7 地域包括ケアシステムの推進について

(1) 今後強化が必要な取り組み

①自宅や地域で暮らし続けるために、強化が必要な取り組み

居宅介護支援事業所で、地域包括ケアシステムの推進に向けて、今後さらに強化が必要な取り組みは、「認知症に対する正しい理解の普及や地域における見守り体制の充実」が 52.1%と最も高く、次いで「緊急時に入院・入所できる体制づくり」(49.1%)、「医療機関・介護事業所等の連携の強化」(47.9%)となっている。

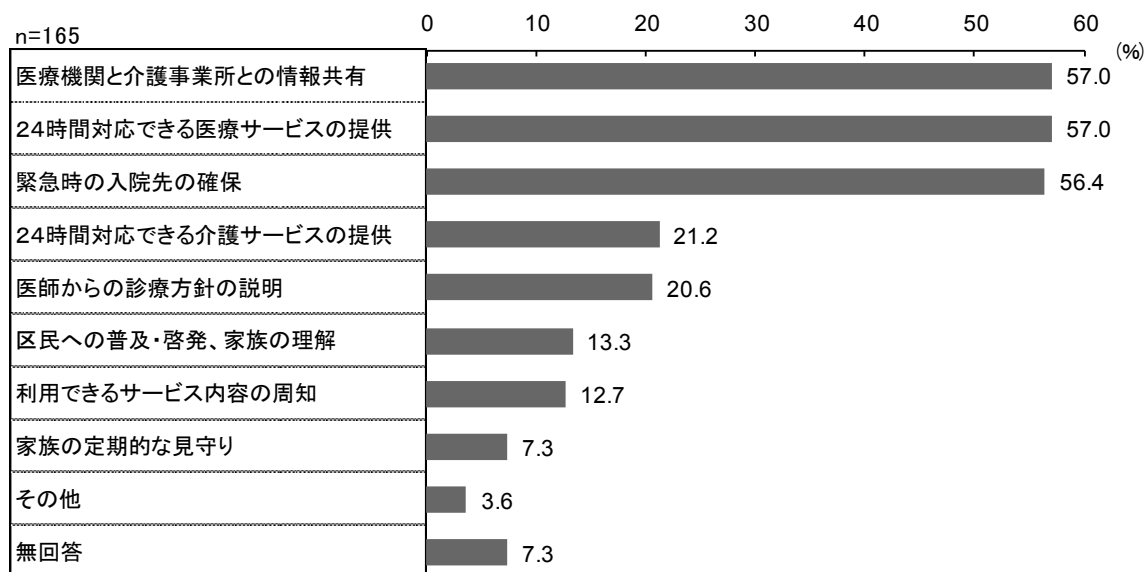
図表 IV. 7. 1 地域包括ケアシステムの推進に向けて、高齢者が自宅や地域で暮らし続けるために、今後さらに強化が必要な取り組み（複数回答、06居宅介護支援事業所 問17）



②利用者が安心して在宅医療を受けるために、強化が必要な取り組み

居宅介護支援事業所で、利用者が安心して在宅医療を受けるために、今後さらに強化が必要な取り組みは、「医療機関と介護事業所との情報共有」、「24 時間対応できる医療サービスの提供」がともに 57.0%で最も高く、次いで「緊急時の入院先の確保」(56.4%)となっている。

図表 IV. 7. 2 利用者が安心して在宅医療を受けるために、今後さらに強化が必要な取り組み
(複数回答、06 居宅介護支援事業所 問 18)

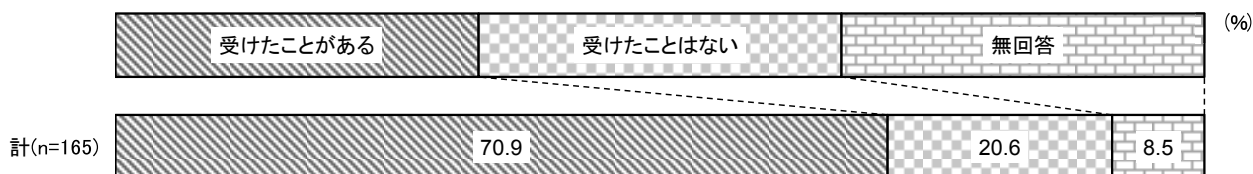


(2) 看取り

①看取りの相談の有無

居宅介護支援事業所では、利用者や家族から看取りの相談を「受けたことがある」は70.9%となっている。

図表 IV. 7. 3 利用者や家族から看取りの相談の有無 (06 居宅介護支援事業所 問 19)



②看取りの相談を受けた際の対応

居宅介護支援事業所で、看取りの相談を受けた際に、どのような対応をしたかを自由回答で尋ねたところ、「医療機関との連携」に関する記述、「家族や本人の意向確認」、「訪問診療・訪問看護」等の情報紹介・導入などが多く記述された。

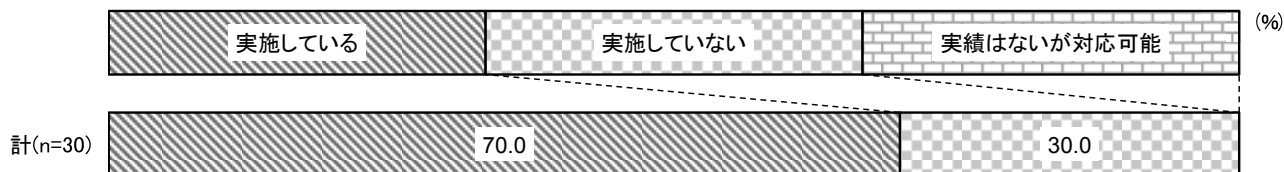
<具体的な意見>※抜粋

- ・ 医療連携（往診医、看護師）の取り方、誰に連絡をするかの順番の確認。訪問介護（ヘルパーさん）にもきちんと知ってもらおう。
- ・ 医療機関（訪問診療、訪問看護等）との連携についてご説明し、本人の意向、家族の意向が統一されているか確認させて頂いている。その後具体的な相談をさせて頂いている。
- ・ 末期癌の為訪問看護、訪問診療（24時間対応）訪問入浴などのサービスを利用し各関係者と連携し看取りの取り組みをした。家族の対応は訪問や24時間電話対応。
- ・ 本人・家族の意向を確認する。どんな生活を送りたいか看取りについて事例等を使い説明する。
- ・ 看取り（自宅での）がつかないか、家族に何度も聞く。つらい時には、レスパイト入院や、看取りの入院などを医師や看護師と相談している。
- ・ ご本人とご家族からのそれぞれの思いをよく聞き取りをし、主治医の関わりや、身体や、生活状況を確認、把握し、話し合いをし、今後の方向を一緒に考え、支援を検討していきます。
- ・ 看取りを行って下さる往診医の紹介。訪問看護の導入。家族に対して一般的にどのような経過をたどっていくかを先生から説明していただく。
- ・ できるだけ、要望に沿えるように体制を整える必要があることを具体的に説明する。その上で、医療、介護を組合わせたケアチーム編成を提案していく。
- ・ 途中で気持ちが変わっても大丈夫である事を説明、往診や訪看との連携、レンタルの見直し等、すぐに対応していく事を説明している。また、グリーフケアについても、サービス事業者全体が共有している話もしている。
- ・ 24時間対応が出来る訪問診療と訪問看護につなげ、連携を図りました。
- ・ 独居であり家族の常時の付き添いができない状況であった為、介護保険、医療保険での可能な限りの連携をとり対応した。

③看取りの実施の有無

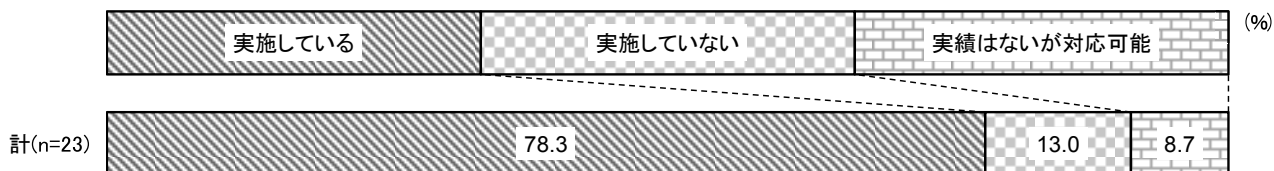
介護保険施設では、看取りを「実施している」が70.0% (30施設中21施設) となっている。

図表 IV. 7. 4 看取りの実施の有無 (08 介護保険施設 問3)



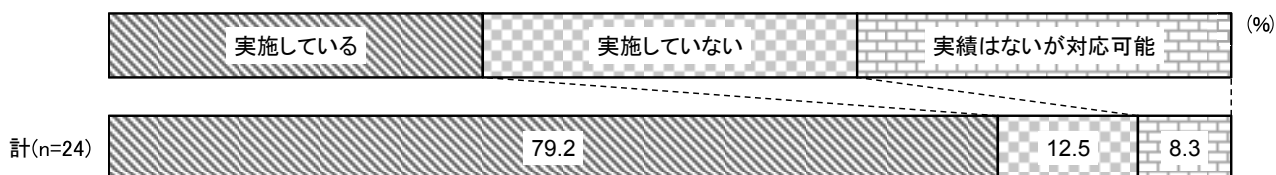
有料老人ホームで看取りを「実施している」は78.3% (23施設中18施設) となっている。

図表 IV. 7. 5 看取りの実施の有無 (09 有料老人ホーム 問4)



サービス付高齢者向け住宅で看取りを「実施している」は79.2% (24施設中19施設) となっている。

図表 IV. 7. 6 看取りの実施の有無 (10 サービス付高齢者向け住宅 問7)

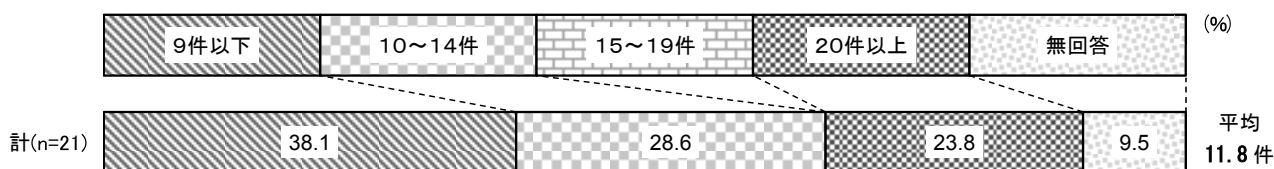


④看取りの実施件数

看取りを実施している介護保険施設の直近1年間の看取り件数は、「9件以下」が38.1%と最も高く、次いで「10～14件」(28.6%)、「20件以上」(23.8%)となっている。

図表 IV. 7. 7 1年間の看取り件数 (08 介護保険施設 問3-1)

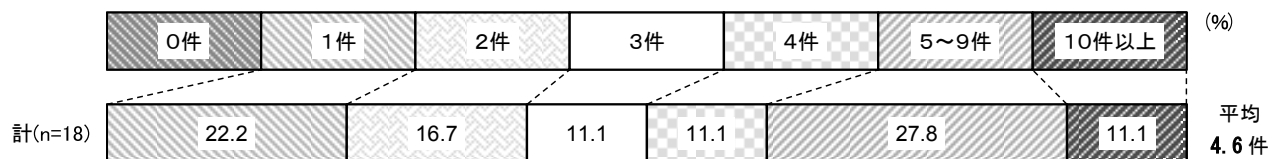
【ベース：看取り実施】



有料老人ホームでの直近1年間の看取り件数は「5～9件」が27.8%と最も高く、次いで「1件」(22.2%)、「2件」(16.7%)となっている。

図表 IV. 7. 8 1年間の看取り件数 (09 有料老人ホーム 問4-1)

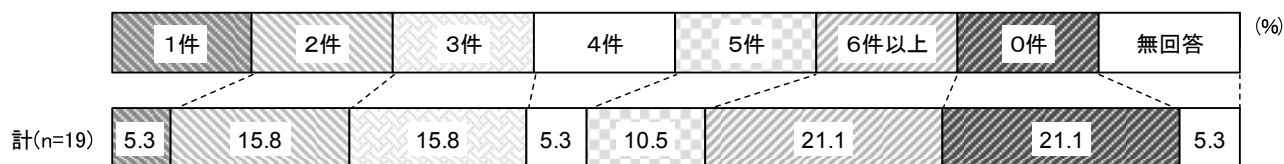
【ベース：看取り実施】



サービス付高齢者向け住宅での直近1年間の看取りの件数は、「6件以上」と「0件」がともに21.1% (19施設中4施設) となっている。また、「5件以内」が半数以上を占めている。

図表 IV. 7. 9 1年間の看取り件数 (10 サービス付高齢者向け住宅 問7-1)

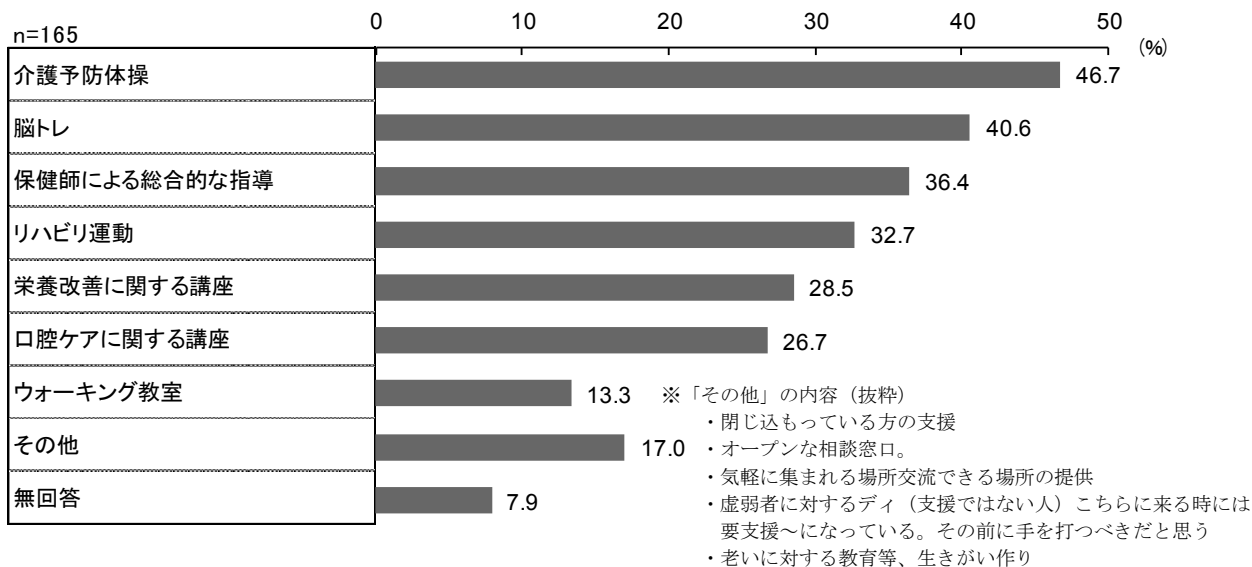
【ベース：看取り実施】



(3) 介護予防事業として今後さらに強化が必要な取り組み

居宅介護支援事業所で、介護予防事業として、今後さらに強化が必要な取り組みは、「介護予防体操」が46.7%と最も高く、次いで「脳トレ」(40.6%)、「保健師による総合的な指導」(36.4%)となっている。

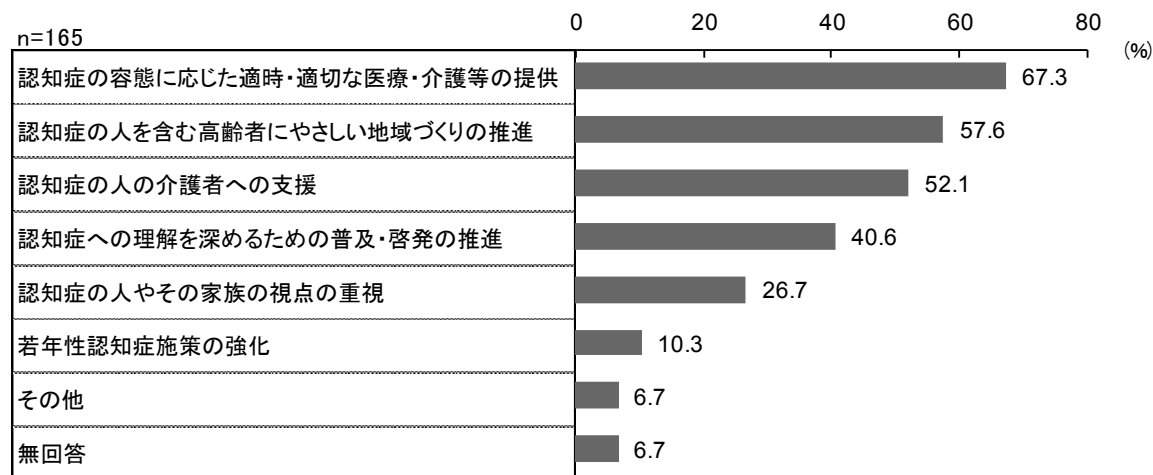
図表 IV. 7. 1 0 介護予防事業として、今後必要だと思う重視点
(複数回答、06 居宅介護支援事業所 問 20)



(4) 認知症高齢者に関して今後さらに強化が必要な取り組み

居宅介護支援事業所で、認知症高齢者に関して、今後さらに強化が必要な取り組みは、「認知症の容態に応じた適時・適切な医療・介護等の提供」が67.3%と最も高く、次いで「認知症の人を含む高齢者にやさしい地域づくりの推進」(57.6%)、「認知症の人の介護者への支援」(52.1%)となっている。

図表 IV. 7. 1 1 認知症高齢者に関して、今後必要だと思う重視点
(複数回答、06 居宅介護支援事業所 問 21)

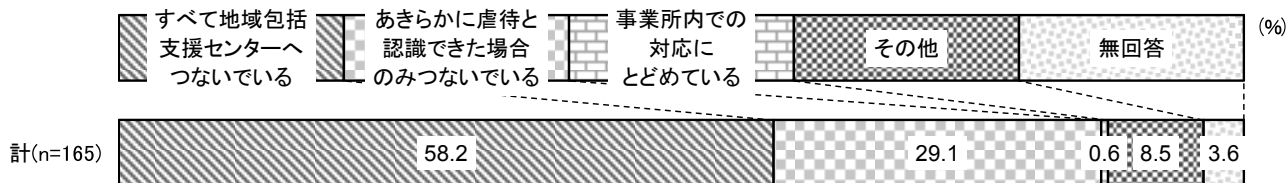


(5) 権利擁護について

①虐待が疑われる場合の地域包括支援センターへの連絡

居宅介護支援事業所で、虐待が疑われる場合の地域包括支援センターへの連絡については、「すべて地域包括支援センターへつないでいる」が 58.2%、「あきらかに虐待と認識できた場合のみつないでいる」が 29.1%となっている。

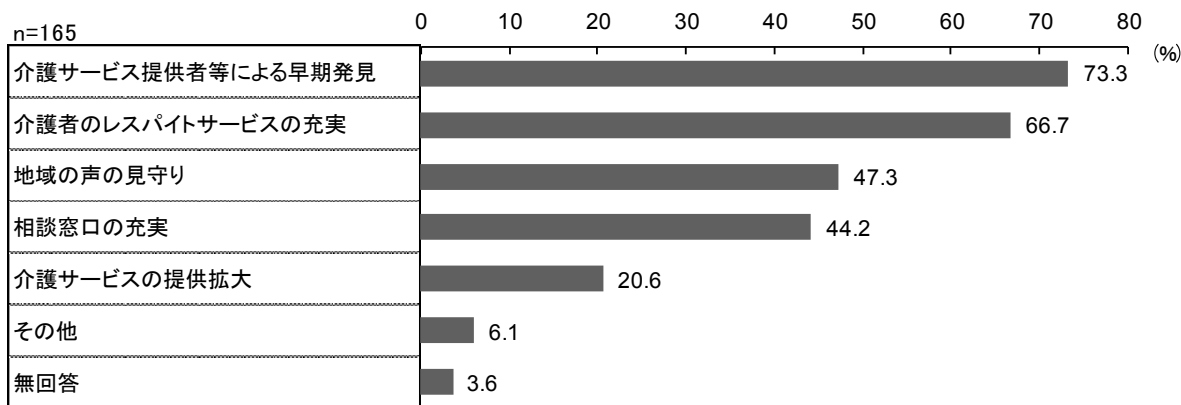
図表 IV. 7. 1 2 虐待が疑われる場合の地域包括支援センターへの連絡
(06 居宅介護支援事業所 問 15)



②高齢者に対する虐待に早期に対応するために必要だと思うこと

居宅介護支援事業所で、高齢者に対する虐待に早期に対応するために必要だと思うことについては、「介護サービス提供者等による早期発見」が 73.3%と最も高く、次いで「介護者のレスパイトサービスの充実」(66.7%)、「地域の声の見守り」(47.3%)となっている。

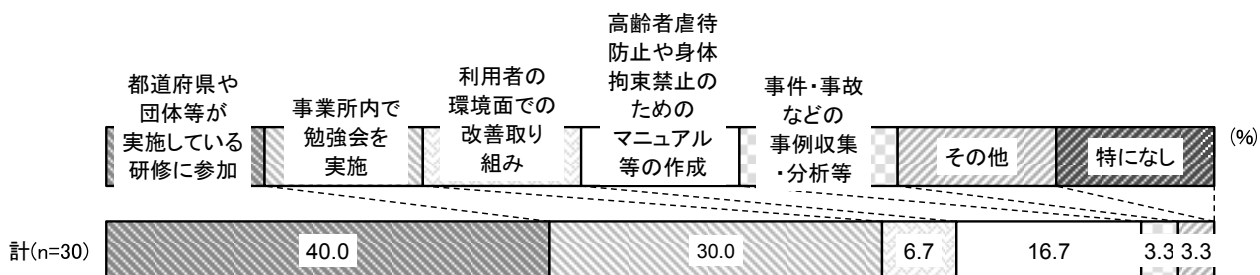
図表 IV. 7. 1 3 高齢者に対する虐待に早期に対応するために必要だと思うこと
(複数回答、06 居宅介護支援事業所 問 16)



③高齢者虐待防止・身体拘束禁止への重点的取り組み

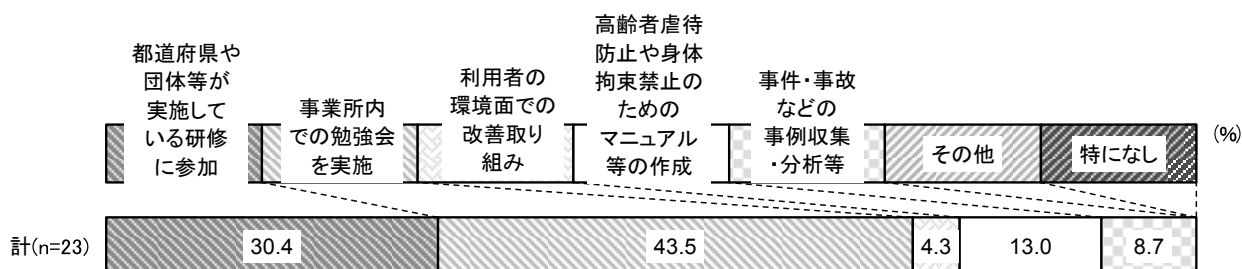
介護保険施設の高齢者虐待防止・身体拘束禁止への重点的取り組みについては、「都道府県や団体等が実施している研修に参加」が40.0%と最も高く、次いで「事業所内で勉強会を実施」(30.0%)、「高齢者虐待防止や身体拘束禁止のためのマニュアル等の作成」(16.7%)となっている。

図表 IV. 7. 1 4 高齢者虐待防止・身体拘束禁止への重点的取り組み (08 介護保険施設 問 18)



有料老人ホームの高齢者虐待防止・身体拘束禁止への重点的取り組みについては、「事業所内での勉強会を実施」が43.5%と最も高く、次いで「都道府県や団体等が実施している研修に参加」(30.4%)、「高齢者虐待防止や身体拘束禁止のためのマニュアル等の作成」(13.0%)となっている。

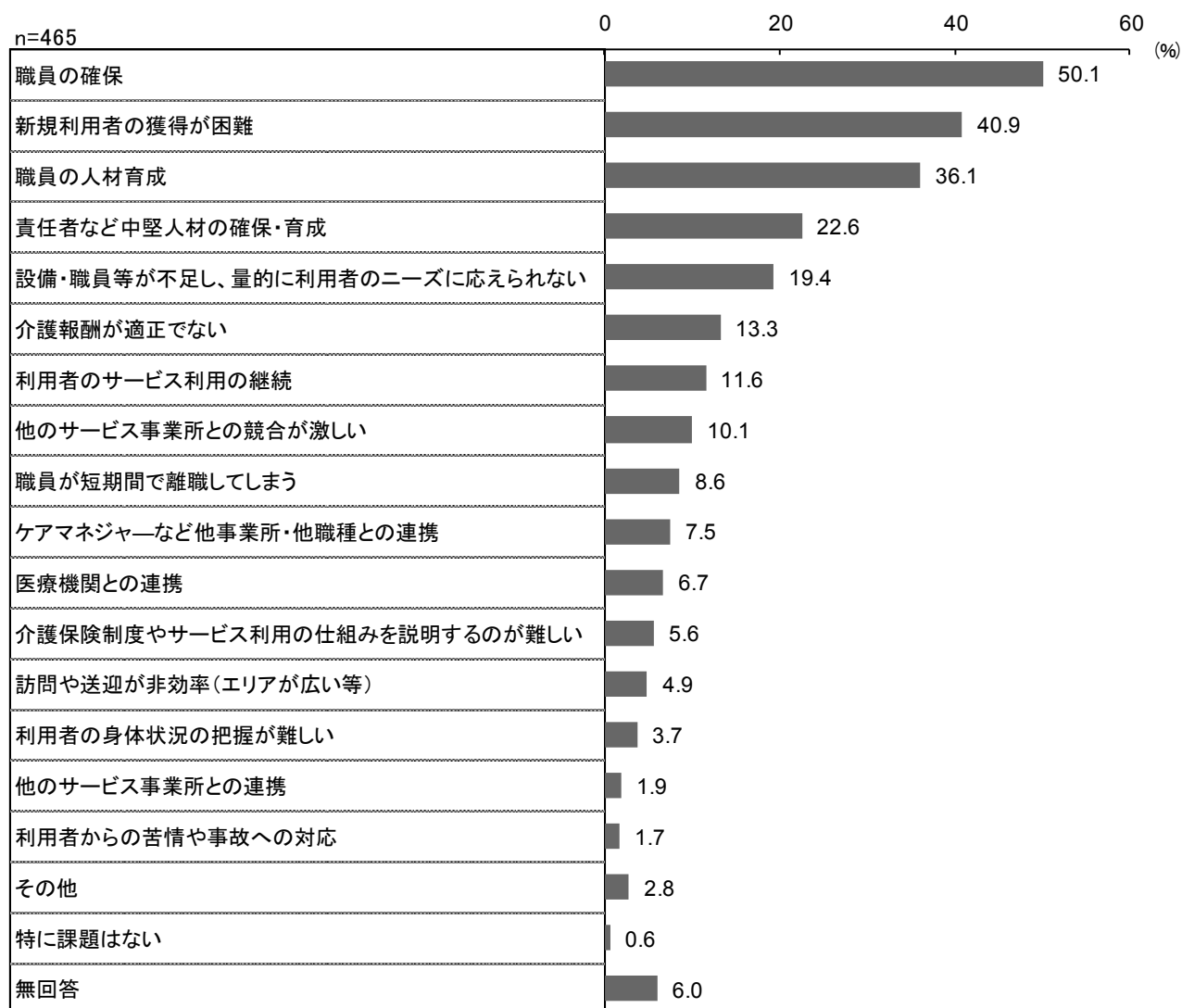
図表 IV. 7. 1 5 高齢者虐待防止・身体拘束禁止への重点的取り組み (09 有料老人ホーム 問 22)



8 事業所の運営等について
 (1) 事業運営上の課題

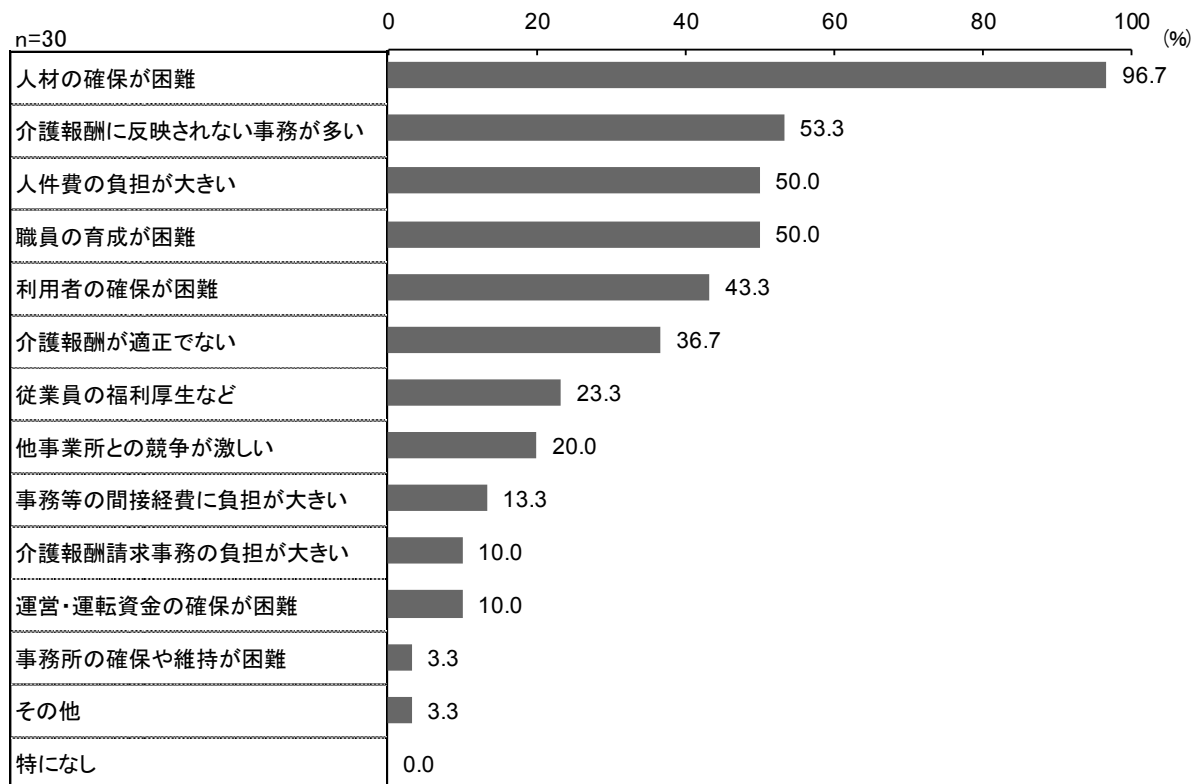
在宅サービス事業所の事業運営上の課題は、「職員の確保」が 50.1%と最も高く、次いで「新規利用者の獲得が困難」(40.9%)、「職員の人材育成」(36.1%)となっている。

図表 IV. 8. 1 事業運営上の課題（居宅介護支援以外の居宅サービス）
 （複数回答、07 在宅サービス事業所 問 18）



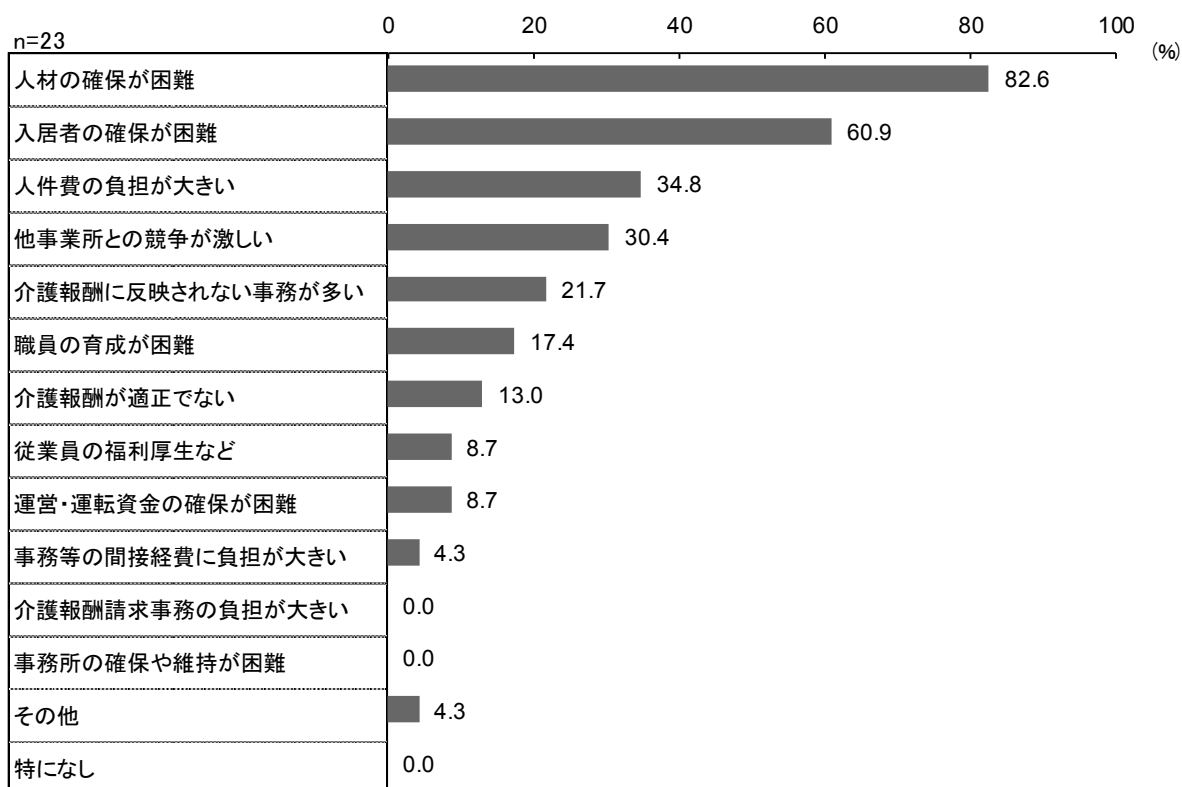
介護保険施設を経営する上での問題点や課題は、「人材の確保が困難」が 96.7%と最も高く、次いで「介護報酬に反映されない事務が多い」(53.3%)、「人件費の負担が大きい」、「職員の育成が困難」(ともに 50.0%) となっている。

図表 IV. 8. 2 経営上の問題点や課題 (複数回答、08 介護保険施設 問5)



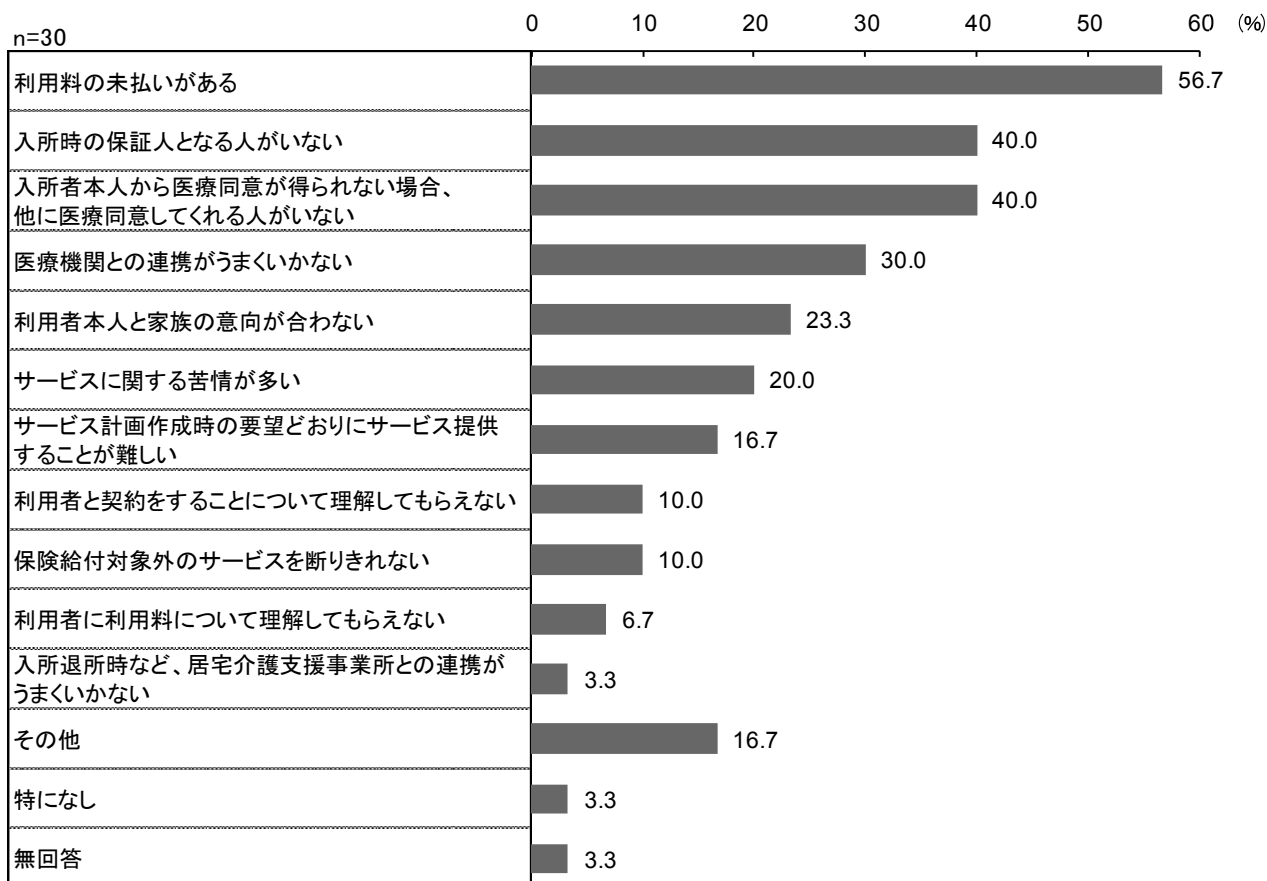
有料老人ホームを経営する上での問題や課題としては、「人材の確保が困難」が 82.6%と最も高く、次いで「入居者の確保が困難」(60.9%)、「人件費の負担が大きい」(34.8%)となっている。

図表 IV. 8. 3 経営上の問題点や課題（複数回答、09 有料老人ホーム 問 14）



介護保険施設で、事業を実施する上での問題点や課題は、「利用料の未払いがある」が 56.7%と最も高く、次いで「入所時の保証人となる人がいない」、「入所者本人から医療同意が得られない場合、他に医療同意してくれる人がいない」（ともに 40.0%）となっている。

図表 IV. 8. 4 事業実施上の問題点や課題（複数回答、08 介護保険施設 問 13）

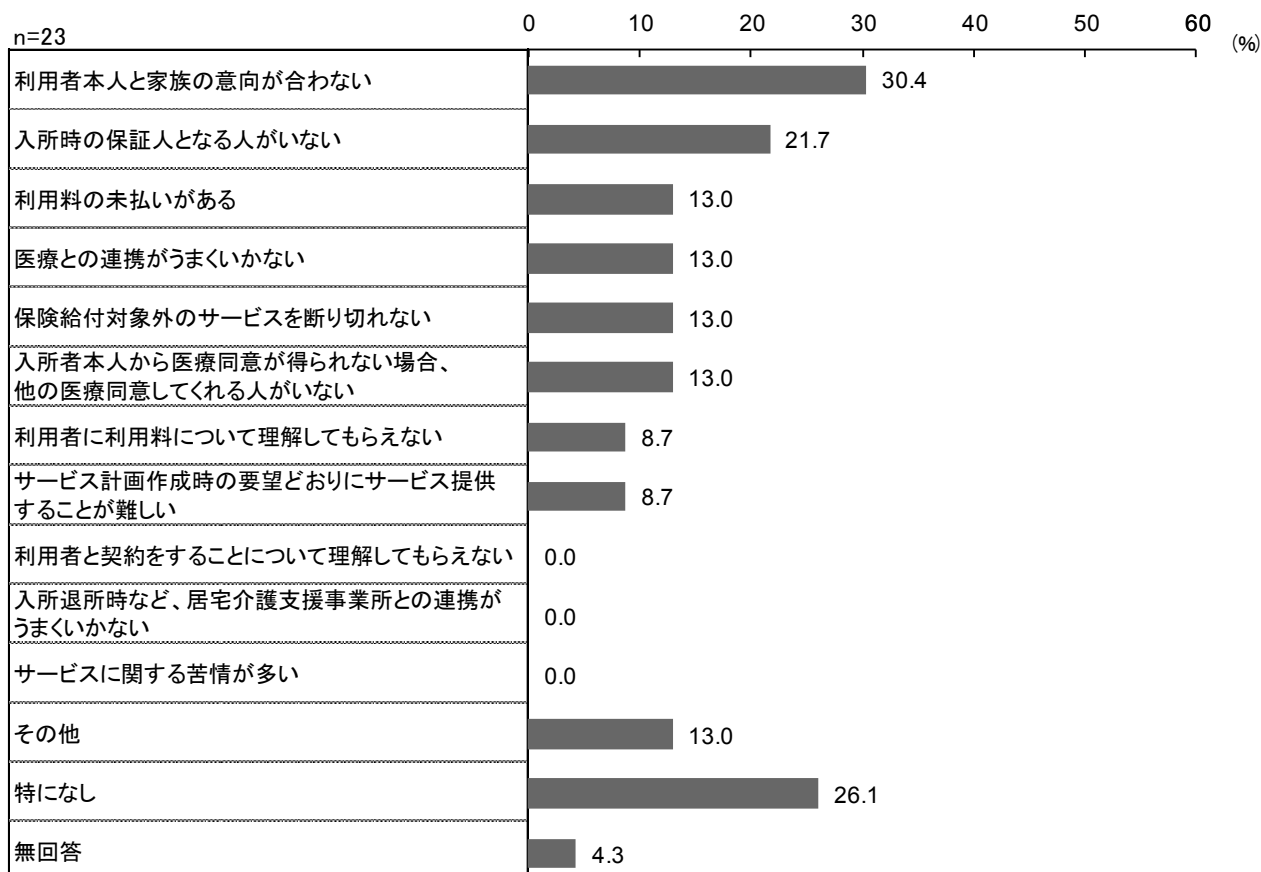


※「その他」の内容（抜粋）

- ・人材育成、確保
- ・医療や薬剤が必要なケースが多い。
- ・今後の転換の方向性
- ・家族が非協力的な場合がある。

有料老人ホームで、事業を実施する上での問題点や課題は、「利用者本人と家族の意向が合わない」が30.4%と最も高く、次いで「入所時の保証人となる人がいない」(21.7%)となっている。一方、「特になし」も26.1%となっている。

図表 IV. 8. 5 事業実施上の問題点や課題 (複数回答、09 有料老人ホーム 問16)



※「その他」の内容 (抜粋)

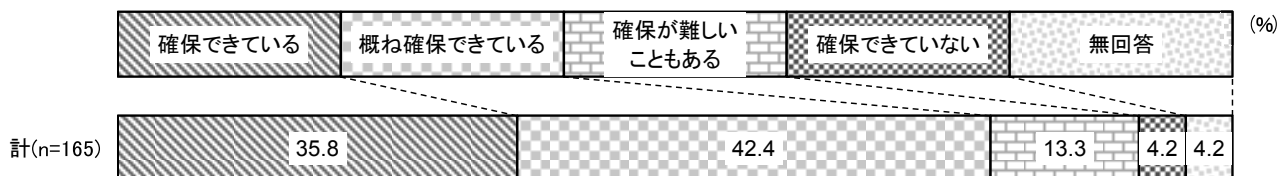
- ・足立区は生活保護の方が多く、受け入れが困難なので入居先の検討からはずれることが多い。
- ・入居希望者が少ない
- ・設備の劣化

(2) 介護職員等人材確保状況

①人材確保状況

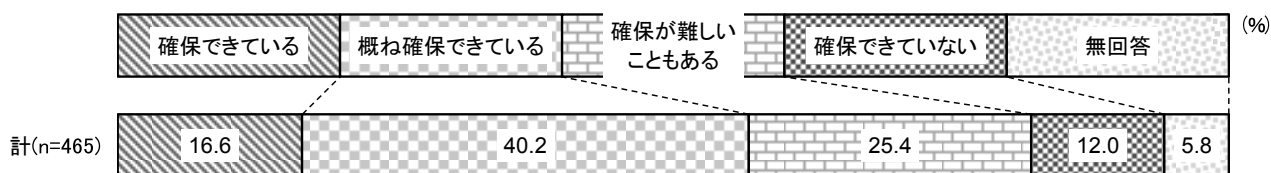
居宅介護支援事業所の人材確保状況については、「確保できている」が35.8%、「概ね確保できている」が42.4%、両者を合わせ78.2%はほぼ確保ができている。

図表 IV. 8. 6 人材確保状況 (06 居宅介護支援事業所 問4)



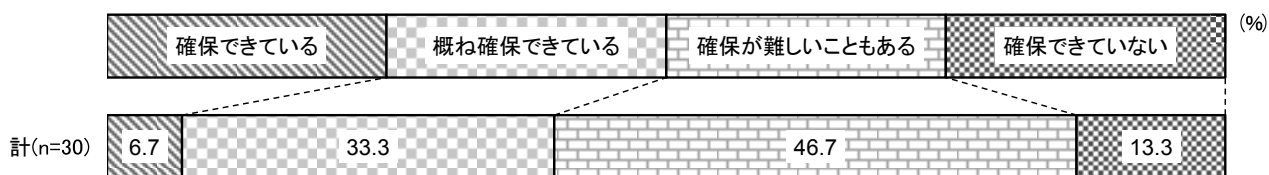
在宅サービス事業所の人材確保状況については、「確保できている」が16.6%、「概ね確保できている」が40.2%、両者を合わせ56.8%はほぼ確保ができている。

図表 IV. 8. 7 人材確保状況 (07 在宅サービス事業所 問19)



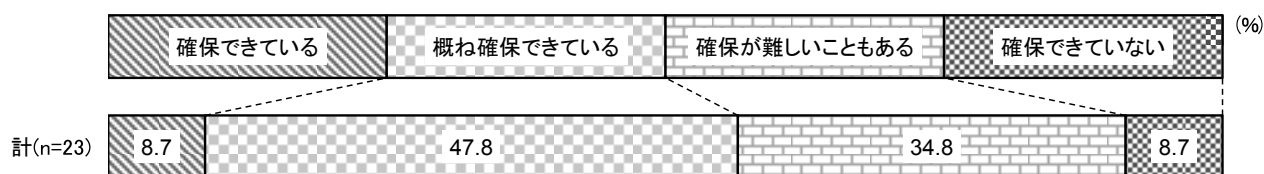
介護保険施設の人材確保状況については、「確保できている」が6.7%、「概ね確保できている」が33.3%、両者を合わせほぼ確保できている事業所は40.0%にとどまる。

図表 IV. 8. 8 人材確保状況 (08 介護保険施設 問6)



有料老人ホームの人材確保状況については、「確保できている」が 8.7%、「概ね確保できている」が 47.8%、両者を合わせ 56.5%はほぼ確保ができている。

図表 IV. 8. 9 人材確保状況 (09 有料老人ホーム 問 7)



②人材の確保が難しい、確保できていない理由

居宅介護支援事業所で、人材の確保が難しい、確保できていない理由は下記の通りである。

図表 IV. 8. 10 人材確保が難しい、確保できていない理由
(自由回答、06 居宅介護支援事業所 問 4-1)

(重複記入あり)

Q4-1 : MA 人材確保が難しい理由	件数
求人・募集に対し応募が少ない・ない	13
求める人材の応募が少ない・ない	7
給与が労働条件に見合わない	3
福利厚生等の労働環境が整っていない	1
重労働である・そういうイメージがある	1
その他	5

在宅サービス事業所で、人材の確保が難しい、確保できていない理由は下記の通りである。

図表 IV. 8. 11 人材確保が難しい、確保できていない理由
(自由回答、07 在宅サービス事業所 問 19-1)

(重複記入あり)

Q19-1 : MA 人材確保が難しい理由	件数
求人・募集に対し応募が少ない・ない	79
離職・退職者が多い	25
給与が労働条件に見合わない	24
求める人材の応募が少ない・ない	22
重労働である・そういうイメージがある	13
介護への理解・関心が低い	7
施設へ人材が流れてしまう	6
福利厚生等の労働環境が整っていない	4
地域の特性	1
その他	62

介護保険施設で、人材の確保が難しい、確保できていない理由は下記の通りである。

図表 IV. 8. 1 2 人材確保が難しい、確保できていない理由
(自由回答、08 介護保険施設 問6-1)

(重複記入あり)

Q6-1： MA 人材確保が難しい理由	件数
求人・募集に対し応募が少ない・ない	10
離職・退職者が多い	4
介護への理解・関心が低い	3
給与が労働条件に見合わない	2
福利厚生等の労働環境が整っていない	1
求める人材の応募が少ない・ない	1
重労働である・そういうイメージがある	1
その他	2

有料老人ホームで人材の確保が難しい、確保できていない理由は下記の通りである。

図表 IV. 8. 1 3 人材確保が難しい、確保できていない理由
(自由回答、09 有料老人ホーム 問7-1)

(重複記入あり)

Q7-1： MA 人材確保が難しい理由	件数
求人・募集に対し応募が少ない・ない	4
重労働である・そういうイメージがある	3
給与が労働条件に見合わない	2
求める人材の応募が少ない・ない	1
離職・退職者が多い	1
その他	3

③有効と思う人材確保策

居宅介護支援事業所で、有効だと思う人材確保策は、下記の通りである。

図表 IV. 8. 1 4 有効だと思う人材確保策（自由回答、06 居宅介護支援事業所 問 4-2）
（重複記入あり）

Q4-2： MA 有効と思われる支援策	件数
給与・待遇の改善	8
福利厚生 of 充実	5
募集方法の改善	4
業務内容の見直し	2
研修・教育等の充実	2
その他	7

在宅サービス事業所で、有効だと思う人材確保策は、下記の通りである。

図表 IV. 8. 1 5 有効だと思う人材確保策（自由回答、07 在宅サービス事業所 問 19-2）
（重複記入あり）

Q19-2： MA 有効と思われる支援策	件数
給与・待遇の改善	46
募集方法の改善	29
職場環境・勤務体制の改善	12
福利厚生 of 充実	12
研修・教育等の充実	8
業務内容の見直し	1
その他	80

介護保険施設で、有効だと思う人材確保策は、下記の通りである。

図表 IV. 8. 1 6 有効だと思う人材確保策（自由回答、08 介護保険施設 問 6-2）
（重複記入あり）

Q6-2： MA 有効と思われる支援策	件数
職場環境・勤務体制の改善	5
給与・待遇の改善	4
募集方法の改善	4
業務内容の見直し	1
福利厚生 of 充実	1
その他	6

有料老人ホームで、有効だと思う人材確保策は、下記の通りである。

図表 IV. 8. 1 7 有効だと思う人材確保策（自由回答、09 有料老人ホーム 問 7-2）
（重複記入あり）

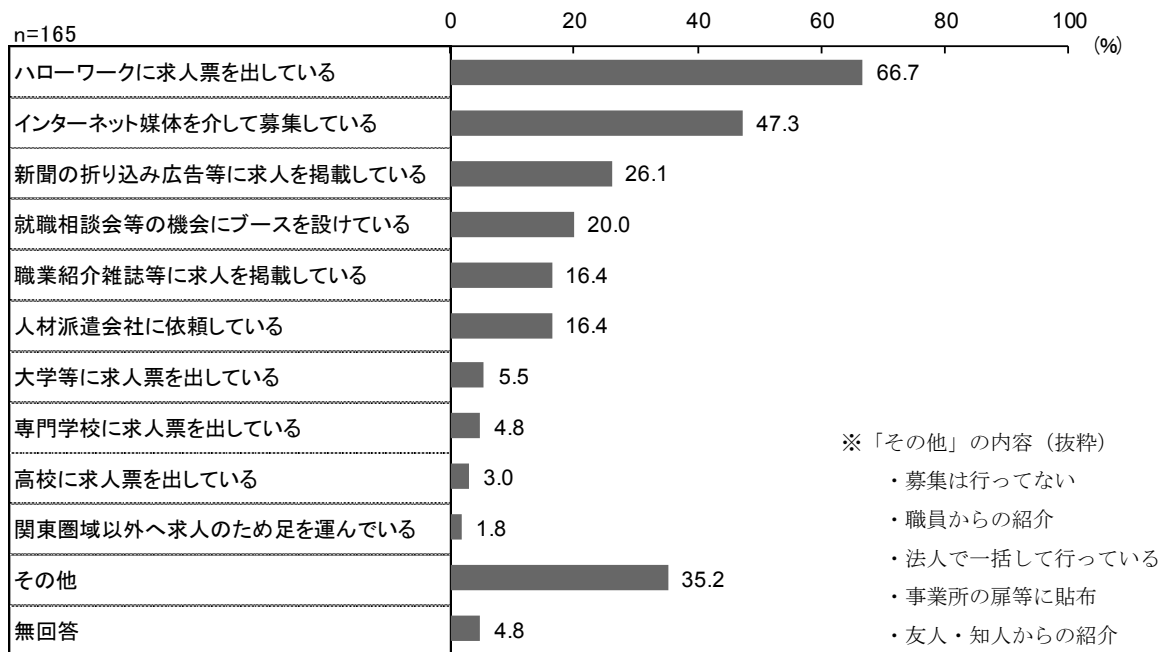
Q7-2：MA 有効と思われる支援策	件数
給与・待遇の改善	1
職場環境・勤務体制の改善	1
福利厚生の充実	1
募集方法の改善	1
その他	3

(3) 職員の募集方法

①実施している職員の募集方法

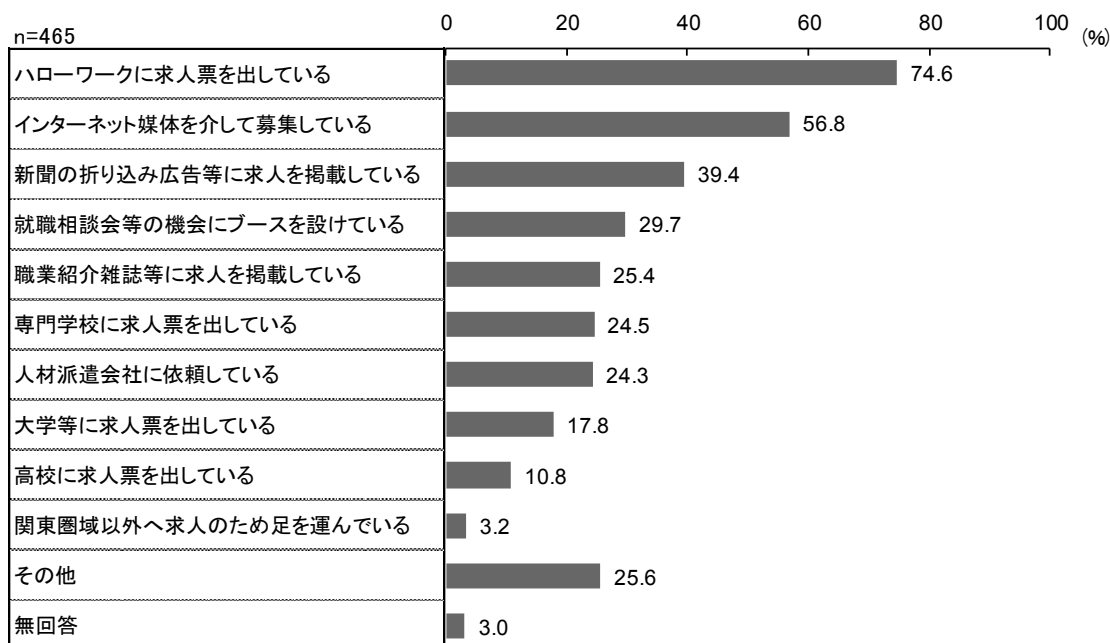
居宅介護支援事業所の職員の募集方法については、「ハローワークに求人票を出している」が 66.7%と最も高く、次いで「インターネット媒体を介して募集している」(47.3%)、「新聞の折り込み広告等に求人を掲載している」(26.1%)となっている。

図表 IV. 8. 18 職員の募集方法（複数回答、06 居宅介護支援事業所 問5）



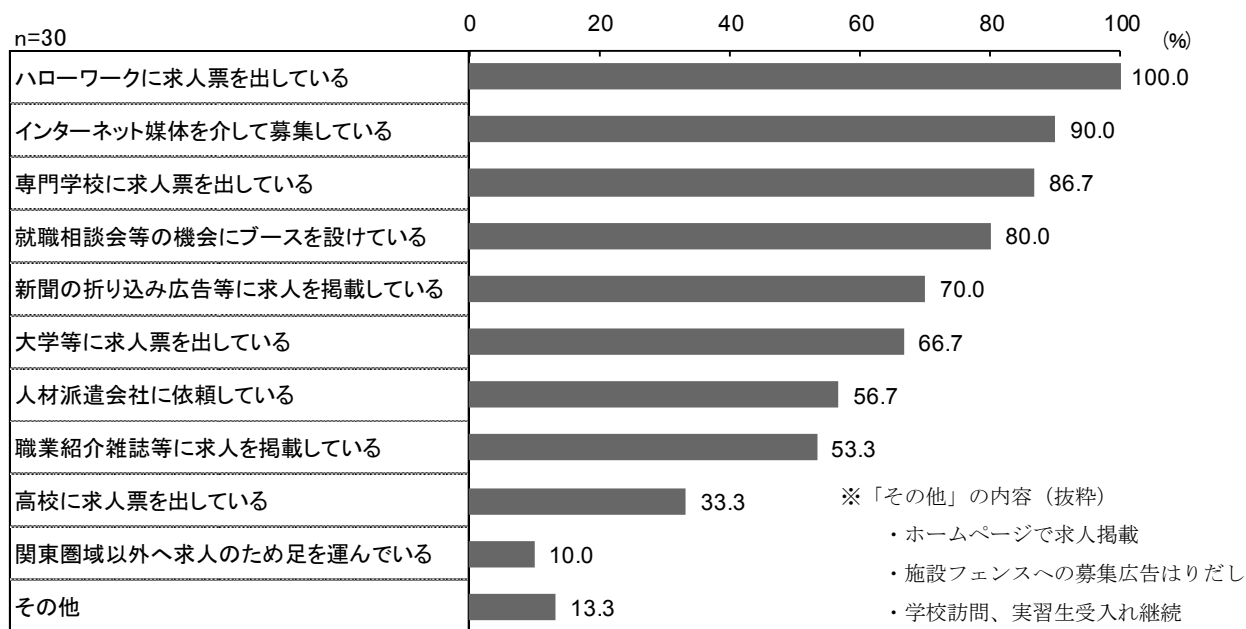
在宅サービス事業所の職員の募集方法については、「ハローワークに求人票を出している」が 74.6%と最も高く、次いで「インターネット媒体を介して募集している」(56.8%)、「新聞の折り込み広告等に求人を掲載している」(39.4%)となっている。

図表 IV. 8. 19 職員の募集方法（複数回答、07 在宅サービス事業所 問20）



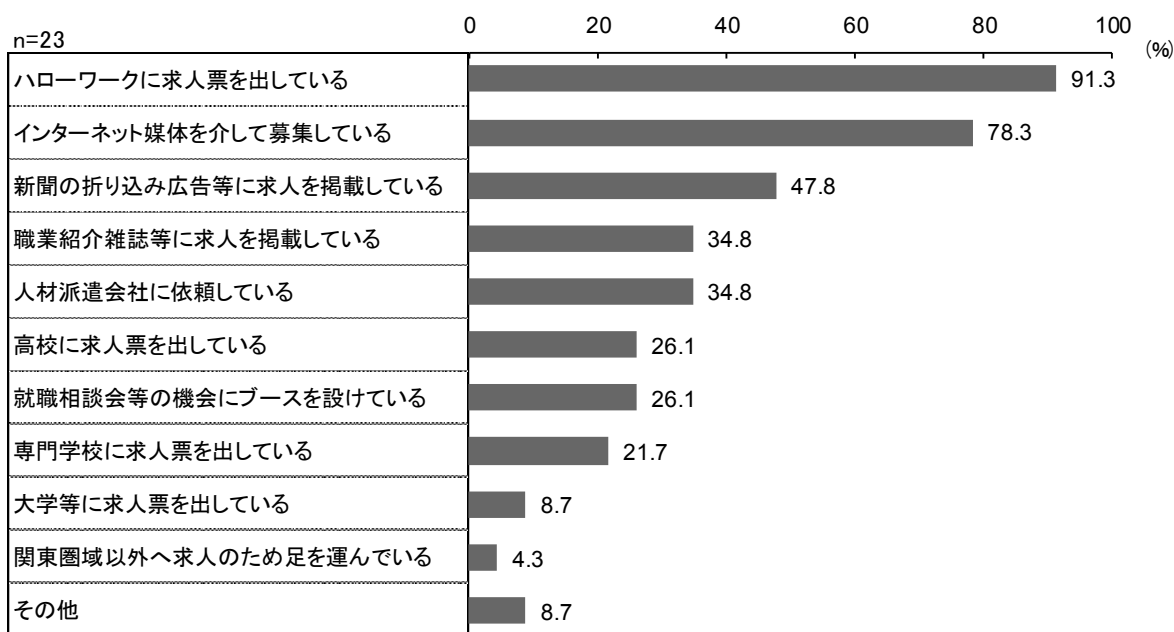
介護保険施設の職員の募集方法については、「ハローワークに求人票を出している」が100.0%と最も高く、次いで「インターネット媒体を介して募集している」(90.0%)、「専門学校に求人票を出している」(86.7%)となっている。

図表 IV. 8. 2 0 職員の募集方法（複数回答、08 介護保険施設 問7）



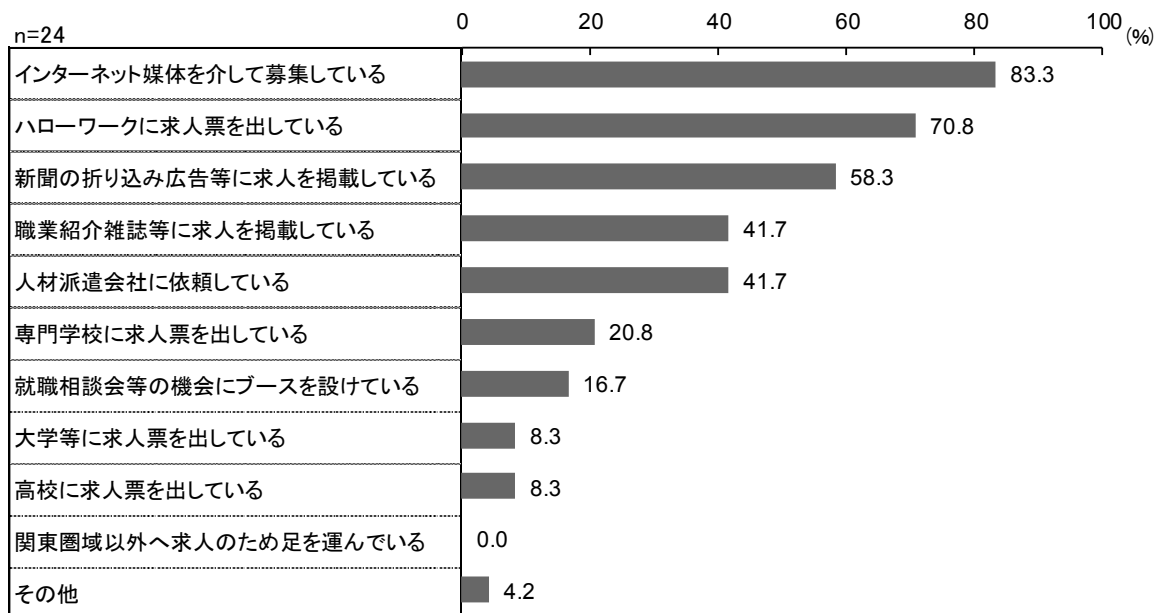
有料老人ホームの職員の募集方法については、「ハローワークに求人票を出している」が91.3%で最も高く、次いで「インターネット媒体を介して募集している」(78.3%)、「新聞の折り込み広告等に求人を掲載している」(47.8%)となっている。

図表 IV. 8. 2 1 職員の募集方法（複数回答、09 有料老人ホーム 問8）



サービス付高齢者向け住宅の職員の募集方法については、「インターネット媒体を介して募集している」が 83.3%と最も高く、次いで「ハローワークに求人票を出している」(70.8%)、「新聞の折り込み広告等に求人を掲載している」(58.3%)となっている。

図表 IV. 8. 2 2 職員の募集方法 (複数回答、10 サービス付高齢者向け住宅 問10)



②特に効果のあった募集方法

【06 居宅介護支援事業所・問5-1】【07 在宅サービス事業所・問20-1】【08 介護保険施設・問7-1】【09 有料老人ホーム・問8-1】【10 サービス付高齢者向け住宅・問10-1】

居宅介護支援事業所で、効果のあった職員の募集方法については、1つめに記入されたものでは、「ハローワークに求人票を出している」が 41.8%と最も高く、次いで「その他」(11.5%)、「インターネット媒体を介して募集している」(9.7%)となっている。

在宅サービス事業所で、効果のあった職員の募集方法については、1つめに記入されたものでは、「ハローワークに求人票を出している」が 37.4%と最も高く、次いで「インターネット媒体を介して募集している」(11.2%)、「その他」(11.0%)となっている。

介護保険施設で、効果のあった職員の募集方法については、1つめに記入されたものでは、「ハローワークに求人票を出している」が 60.0%と最も高く、次いで「インターネット媒体を介して募集している」、「人材派遣会社に依頼している」(ともに 6.7%)となっている。

有料老人ホームで、効果のあった職員の募集方法については、1つめに記入されたものでは、「ハローワークに求人票を出している」が 30.4%と最も高く、次いで「インターネット媒体を介して募集している」(21.7%)、「新聞の折り込み広告等に求人を掲載している」(17.4%)となっている。

サービス付高齢者向け住宅で、効果のあった職員の募集方法については、1つめに記入されたものでは、「ハローワークに求人票を出している」が 29.2%と最も高く、次いで「新聞の折り込み広告等に求人を掲載している」、「人材派遣会社に依頼している」(ともに 20.8%)となっている。

図表 IV. 8. 23 特に効果のあった募集方法 (複数回答)

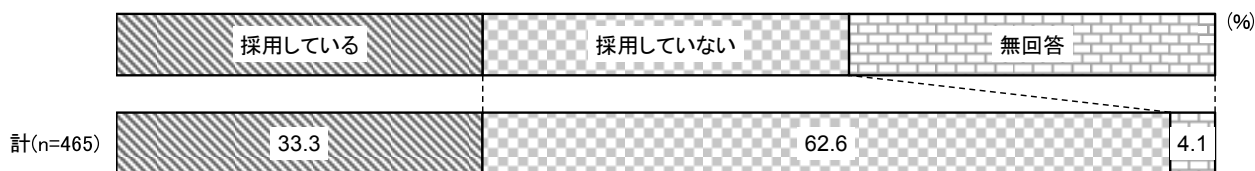
	居宅介護支援事業所			在宅サービス事業所			介護保険施設			(%)
	1つめ	2つめ	3つめ	1つめ	2つめ	3つめ	1つめ	2つめ	3つめ	
	n=	165	165	165	465	465	465	30	30	
ハローワークに求人票を出している	41.8	6.1	3.0	37.4	4.1	1.7	60.0	3.3	3.3	
大学等に求人票を出している	1.2	0.6	0.0	1.1	1.5	1.1	3.3	13.3	3.3	
専門学校に求人票を出している	0.0	0.0	0.0	1.9	0.0	1.5	3.3	0.0	3.3	
高校に求人票を出している	0.0	1.2	0.0	0.2	2.2	0.4	3.3	3.3	0.0	
新聞の折り込み広告等に求人掲載している	3.0	9.1	1.8	7.1	6.5	1.1	3.3	3.3	3.3	
職業紹介雑誌等に求人掲載している	5.5	1.8	3.0	5.2	6.0	1.1	3.3	10.0	0.0	
就職相談会等の機会にブースを設けている	1.2	3.0	1.2	2.2	6.7	3.4	3.3	30.0	10.0	
関東圏域以外へ求人のため足を運んでいる	0.0	0.0	0.6	0.0	0.0	0.6	0.0	0.0	0.0	
インターネット媒体を介して募集している	9.7	12.7	3.6	11.2	11.8	7.1	6.7	6.7	33.3	
人材派遣会社に依頼している	2.4	3.0	3.0	4.9	5.2	4.9	6.7	10.0	6.7	
その他	11.5	4.2	4.2	11.0	3.7	3.2	3.3	0.0	6.7	
無回答	23.6	58.2	79.4	17.8	52.5	73.8	3.3	20.0	30.0	

	有料老人ホーム			サービス付高齢者向け住宅			(%)
	1つめ	2つめ	3つめ	1つめ	2つめ	3つめ	
	n=	23	23	23	24	24	
ハローワークに求人票を出している	30.4	0.0	4.3	29.2	16.7	4.2	
大学等に求人票を出している	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
専門学校に求人票を出している	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	4.2	
高校に求人票を出している	0.0	4.3	4.3	4.2	0.0	0.0	
新聞の折り込み広告等に求人掲載している	17.4	8.7	4.3	20.8	16.7	4.2	
職業紹介雑誌等に求人掲載している	4.3	13.0	4.3	12.5	12.5	12.5	
就職相談会等の機会にブースを設けている	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	4.2	
関東圏域以外へ求人のため足を運んでいる	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
インターネット媒体を介して募集している	21.7	26.1	13.0	8.3	41.7	20.8	
人材派遣会社に依頼している	8.7	8.7	8.7	20.8	0.0	12.5	
その他	4.3	0.0	4.3	4.2	0.0	0.0	
無回答	13.0	39.1	56.5	0.0	12.5	37.5	

(4) 外国籍を有する方の採用状況

在宅サービス事業所の外国籍を有する方の採用状況については、「採用している」が 33.3%、「採用していない」が 62.6%となっている。

図表 IV. 8. 2 4 外国籍を有する方の採用状況 (07 在宅サービス事業所 問 21)

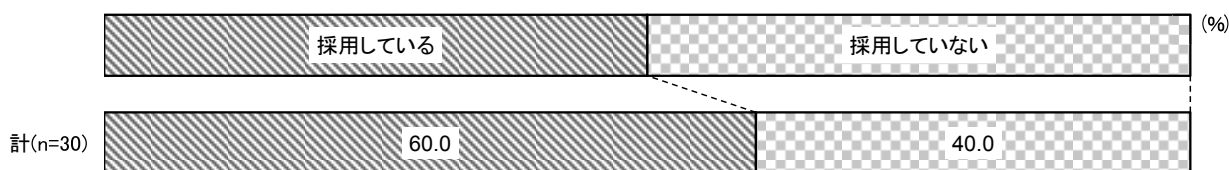


<採用していない理由> (抜粋)

- ・嫌がる利用者さんが多い。
- ・積極的には行っていない (→長期休み (夏休み等) をとることがあり、シフトが埋められない) が、採用実績はある。
- ・生活習慣の違い、調理が出来ない (日本食)。
- ・利用者様と 1 対 1 になるとコミュニケーションが難しい。
- ・数名採用したことがあるが言葉、記録、休日の取り方に課題
- ・記録が読める方は採用するが、読める方の応募がなかった。
- ・言葉の問題が大きい。聞きとりにくい利用者の声を正確に聞けないと事故につながってしまう。
- ・訪問介護なので特にコミュニケーション能力に心配がある。
- ・これまで雇用した経験からコミュニケーション、記録等で難しさを感じる。
- ・これまで数名採用し続かなかった中で、職員の理解が得られていない。

介護保険施設の外国籍を有する方の採用状況については、「採用している」が 60.0%、「採用していない」が 40.0%となっている。

図表 IV. 8. 2 5 外国籍を有する方の採用状況 (08 介護保険施設 問 8)

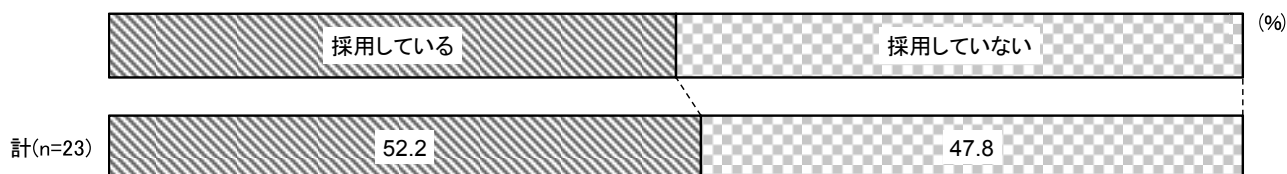


<採用していない理由>

- ・職員が充足されているため。シルバー人材センターの活用
- ・言葉、記録、長期休暇
- ・言葉がわからないから。
- ・採用はしているが、記録、コミュニケーションに不安がある。
- ・言葉と文化の障害
- ・応募もなく。
- ・全く応募がない。
- ・コミュニケーション不足の懸念
- ・ことばの問題。あえて採用しなくても人員が充足している。

有料老人ホームの外国籍を有する方の採用状況については、「採用している」が52.2%、「採用していない」が47.8%となっている。

図表 IV. 8. 2 6 外国籍を有する方の採用状況 (09 有料老人ホーム 問9)

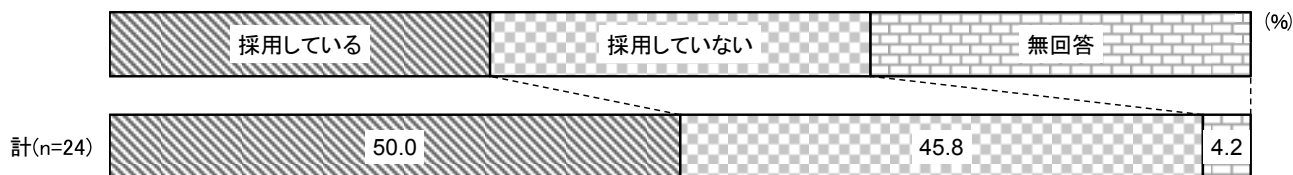


<採用していない理由>

- ・ 応募がない
- ・ 積極的では無いが採用している。字を書くことが難しい
- ・ 紹介会社を経由してくる為、費用負担が大きい
- ・ 募集がないため
- ・ 言葉が通じない
- ・ 言葉の問題
- ・ 特になし、応募なし
- ・ 募集をしていないため
- ・ 応募が特にない

サービス付高齢者向け住宅の、外国籍を有する方の採用状況については、「採用している」が50.0%、「採用していない」が45.8%となっている。

図表 IV. 8. 2 7 外国籍を有する方の採用状況 (10 サービス付高齢者向け住宅 問11)



<採用していない理由>

- ・ 応募がない為
- ・ 応募はくるが採用までいたらない
- ・ 積極的ではなく応募もない
- ・ 適した人材の応募がない
- ・ 応募がない
- ・ 充足しているから
- ・ 募集は今のところありません
- ・ 採用実績はあるが積極的ではない
- ・ 募集がない。文化が合わないので困難と思います。
- ・ 文字が読めない、入居者とのコミュニケーションへの不安

(5) 平成27年の入職率・離職率

居宅介護支援事業所の入職率の平均は正規職員で18.9%、非正規職員で6.7%、離職率の平均は、正規職員で8.6%、非正規職員で4.6%となっている。

図表 IV. 8. 2 8 平成27年の入職率・離職率 (06 居宅介護支援事業所 問6)

<正規職員>		※平均入職率・離職率
入職率(27年年初の正規職員数に対する27年の入職者(正規職員)数の割合)		18.9%
離職率(27年年初の正規職員数に対する27年の離職者(正規職員)数の割合)		8.6%
<非正規職員>		※平均入職率・離職率
入職率(27年年初の正規職員数に対する27年の入職者(非正規職員)数の割合)		6.7%
離職率(27年年初の正規職員数に対する27年の離職者(非正規職員)数の割合)		4.6%

在宅サービス事業所の入職率の平均は正規職員で21.5%、非正規職員で19.0%、離職率の平均は、正規職員で11.1%、非正規職員で13.3%となっている。

図表 IV. 8. 2 9 平成27年の入職率・離職率 (07 在宅サービス事業所 問22)

<正規職員>		※平均入職率・離職率
入職率(27年年初の正規職員数に対する27年の入職者(正規職員)数の割合)		21.5%
離職率(27年年初の正規職員数に対する27年の離職者(正規職員)数の割合)		11.1%
<非正規職員>		※平均入職率・離職率
入職率(27年年初の正規職員数に対する27年の入職者(非正規職員)数の割合)		19.0%
離職率(27年年初の正規職員数に対する27年の離職者(非正規職員)数の割合)		13.3%

介護保険施設の入職率の平均は正規職員で15.6%、非正規職員で30.0%、離職率の平均は、正規職員で14.6%、非正規職員で24.6%となっている。

図表 IV. 8. 3 0 平成27年の入職率・離職率 (08 介護保険施設 問9)

<正規職員>		※平均入職率・離職率
入職率(27年年初の正規職員数に対する27年の入職者(正規職員)数の割合)		15.6%
離職率(27年年初の正規職員数に対する27年の離職者(正規職員)数の割合)		14.6%
<非正規職員>		※平均入職率・離職率
入職率(27年年初の正規職員数に対する27年の入職者(非正規職員)数の割合)		30.0%
離職率(27年年初の正規職員数に対する27年の離職者(非正規職員)数の割合)		24.6%

有料老人ホームの入職率の平均は正規職員で 18.3%、非正規職員で 17.2%、離職率の平均は、正規職員で 20.2%、非正規職員で 21.8%となっている。

図表 IV. 8. 3 1 平成 27 年の入職率・離職率 (09 有料老人ホーム 問 10)

<正規職員>		※平均入職率・離職率
入職率(27 年年初の正規職員数に対する 27 年の入職者(正規職員)数の割合)		18.3%
離職率(27 年年初の正規職員数に対する 27 年の離職者(正規職員)数の割合)		20.2%
<非正規職員>		※平均入職率・離職率
入職率(27 年年初の正規職員数に対する 27 年の入職者(非正規職員)数の割合)		17.2%
離職率(27 年年初の正規職員数に対する 27 年の離職者(非正規職員)数の割合)		21.8%

サービス付高齢者向け住宅の入職率の平均は正規職員で 29.0%、非正規職員で 29.6%、離職率の平均は、正規職員で 16.7%、非正規職員で 11.1%となっている。

図表 IV. 8. 3 2 平成 27 年の入職率・離職率 (10 サービス付高齢者向け住宅 問 12)

<正規職員>		※平均入職率・離職率
入職率(27 年年初の正規職員数に対する 27 年の入職者(正規職員)数の割合)		29.0%
離職率(27 年年初の正規職員数に対する 27 年の離職者(正規職員)数の割合)		16.7%
<非正規職員>		※平均入職率・離職率
入職率(27 年年初の正規職員数に対する 27 年の入職者(非正規職員)数の割合)		29.6%
離職率(27 年年初の正規職員数に対する 27 年の離職者(非正規職員)数の割合)		11.1%

(6) 生活相談員等の確保

①生活相談員等の確保

サービス付高齢者向け住宅の生活相談員等の確保については、「確保できている」が41.7%、「概ね確保できている」が33.3%、両者を合わせ75.0%はほぼ確保ができている。

図表 IV. 8. 3 3 生活相談員等の確保 (10 サービス付高齢者向け住宅 問9)



②生活相談員等の確保が難しい、確保できていない理由

(10 サービス付高齢者向け住宅 問9-1) 【ベース：確保困難・確保できていない】

サービス付高齢者向け住宅の生活相談員等の確保が難しい、確保できていない理由 (問9-1) は、下記の通りである。

- ・ 求人方法として、ハローワークに求人依頼、広告を打つが、なかなか求人応募が少ない
- ・ 事業所が増え、条件の違いで他社を選ぶケースがある。
- ・ 足立区内は介護施設が多い。
- ・ 募集してもほとんど応募がない
- ・ 離職
- ・ 管理者が相談を行っているため

③有効と思う人材確保策

(10 サービス付高齢者向け住宅 問9-2) 【ベース：確保困難・確保できていない】

サービス付高齢者向け住宅において、生活相談員等の確保が難しい、確保できていない事業所の、人材確保支援策として有効だと思うもの (問9-2) は下記の通りである。

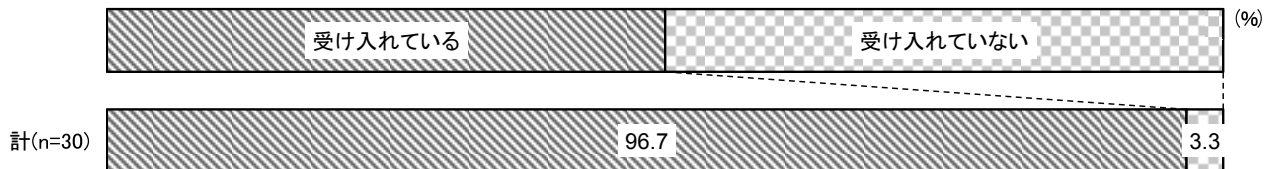
- ・ ケアマネ・ヘルパー (出入りの) に近所で働きたい方の紹介を依頼している。
- ・ 待遇面の充実
- ・ 施設の評判
- ・ 紹介会社

(7) ボランティア受け入れ状況

① ボランティア受け入れの有無

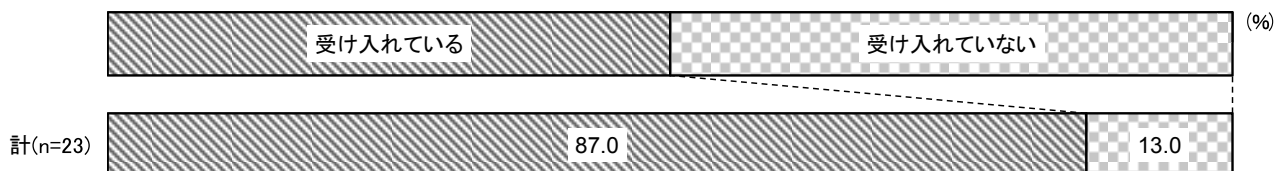
介護保険施設のボランティア受け入れ状況については、「受け入れている」が96.7%、「受け入っていない」が3.3%となっている。

図表 IV. 8. 3 4 ボランティアの受け入れ状況 (08 介護保険施設 問 10)



有料老人ホームのボランティア受け入れ状況については、「受け入れている」が87.0%、「受け入っていない」が13.0%となっている。

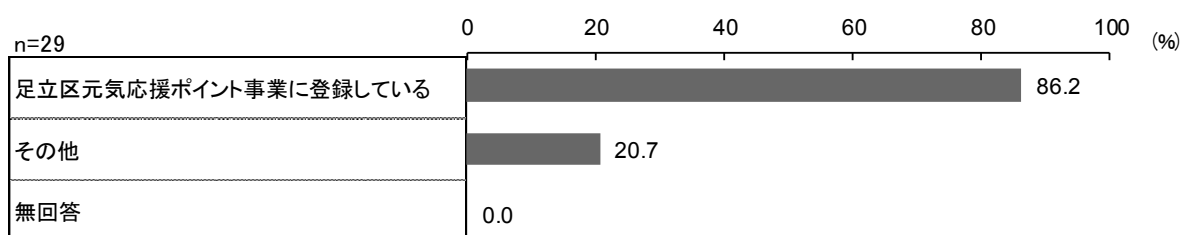
図表 IV. 8. 3 5 ボランティア受け入れ状況 (09 有料老人ホーム 問 11)



②ボランティアの活動内容

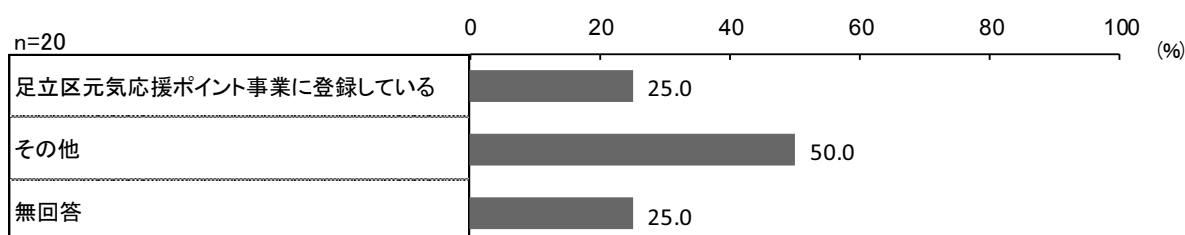
介護保険施設におけるボランティアの活動内容は、「足立区元気応援ポイント事業に登録している」が86.2%、「その他」が20.7%となっている。

図表 IV. 8. 3 6 ボランティアの活動内容（複数回答、08 介護保険施設 問 10-2）
【ベース：ボランティア受け入れあり】



有料老人ホームにおけるボランティアの活動内容は、「足立区元気応援ポイント事業に登録している」が25.0%、「その他」が50.0%となっている。

図表 IV. 8. 3 7 ボランティアの活動内容（複数回答、09 有料老人ホーム 問 11-2）
【ベース：ボランティア受け入れあり】



③ボランティア受け入れ未実施理由

(08 介護保険施設・問 10-1) (09 有料老人ホーム 問 11-1)

介護保険施設では、ボランティア受け入れ未実施の理由は、下記の通りである。

- ・体制がととのっていない。医療が中心のためボランティアの役割がない。

有料老人ホームでは、ボランティア受け入れ未実施の理由は、下記の通りである。

- ・話がないのでわからない
- ・受け入れ体制がない
- ・安全面

④ボランティア活動内容：その他

(08 介護保険施設 問 10-3) 【ベース：その他活動内容】

- ・カフェの運営（毎週土曜日 5～8名）、洗濯物たたみ、習字の指導、お祭り
- ・ハンドマッサージ月 1 回程度、年 4 回実施料理クラブ、ご家族によるお手伝い
- ・業者を通して紹介してもらっている。
- ・区のボランティアセンターからの紹介（囲碁）、個人的なつながり（太鼓、三味線、小学生の踊り演技）
- ・施設内喫茶店運営、手芸、裁縫、傾聴、園芸、シーツ交換、脳トレ、活動補助、洗濯たたみ、紙芝居
- ・関連施設と合同で演奏会等に参加させてもらっている。
- ・歌コンサート、ゴスペル、三味線などの活動グループ、子供太鼓など地域の活動グループ

(09 有料老人ホーム 問 11-3) 【ベース：その他活動内容】

- ・うた声会
- ・レクリエーション活動、和太鼓の演奏、フラダンス、吹奏楽部による演奏
- ・傾聴ボランティア、その他いろいろ。
- ・歌、楽器演奏
- ・レクリエーション活動等
- ・音楽活動
- ・歌や演奏など、イベントで依頼する。
- ・歌、将棋、囲碁
- ・バザー等の手伝い、旅行時の付き添い
- ・エレクトーンの演奏会

⑤ボランティア受け入れ時の課題、注意点

(08 介護保険施設 問 10-4) 【ベース：ボランティア受け入れあり】

- ・ 継続していただけるような関係作り。始める前に、しっかりとした意志確認も必要。
- ・ 継続していただくための支援、見学会、説明会
- ・ 個人情報保護
- ・ ボランティア活動の内容と利用者とのかかわりについてルール（規定を作成）を定め丁寧な説明と、活動時不安にならない様、コミュニケーションに注意している。
- ・ 個人情報の流出に注意
- ・ ボランティアの方のやりたいこととやってもらうことのすりあわせ、利用者・施設の個人情報の取り扱いへの説明
- ・ ボランティアの高齢化により多くの介入が必要
- ・ 感謝の気持ち・声掛け、希望を反映した活動内容
- ・ お礼（車代）をどの程度にすればいいかいつも悩む。
- ・ なるべく違う種類のボランティアにすることや、ボランティアを行う方の人柄
- ・ ボランティアのニーズと施設の求めているニーズがマッチしないことがある。
- ・ ボランティアさんへの謝礼をなくし、交通費だけに統一した。
- ・ 利用者からの反応や意見

(09 有料老人ホーム 問 11-4) 【ベース：ボランティア受け入れあり】

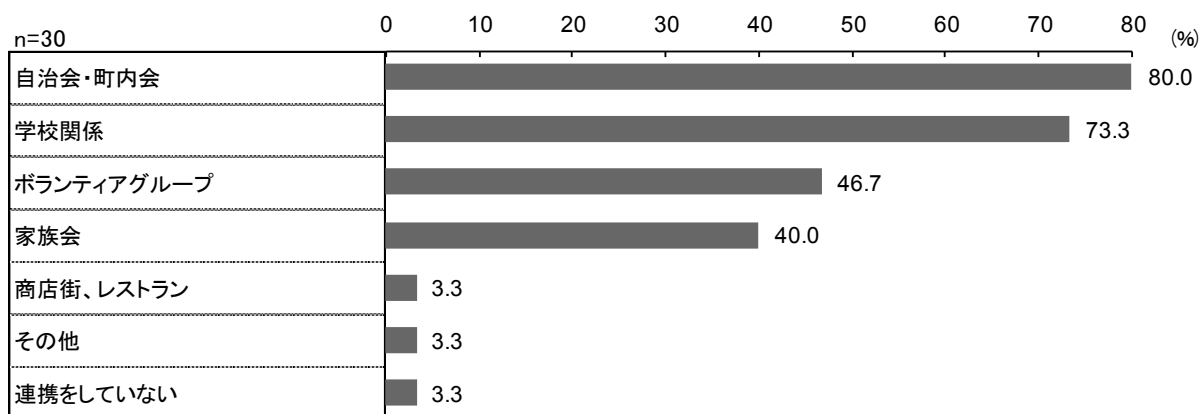
- ・ 実費（交通費含む）の有無を確認している。
- ・ ボランティアのニーズと、事業所のニーズの合致のすり合わせ。課題としては、現場のスタッフがボランティア導入が主導的に行えるように意識を高めていくこと
- ・ 多くの入居者に参加して頂くようにしています。
- ・ 利用者に事故、ケガの無いように配慮している。
- ・ 費用、内容が入居者様に合っているか。
- ・ 「入居者の為になっているか」という点に注意しています。
- ・ 高齢入居者の生活ペースを乱さないようにしていただく。
- ・ 金銭面のこと。入居者が楽しめるかということ
- ・ お客様への個人情報をもらさないように要望している。
- ・ 入居者様が楽しんでもらえるか、金銭面
- ・ 介助経験の有無、個人情報の件。
- ・ 当事業所の取り組みを理解し、利用者の状態やおかれている環境に配慮してくださる方をお願いしている。
- ・ ボランティアの方も楽しんで頂ける、レクや傾聴ボランティアをお願い出来る方。

(8) 地域との連携先の組織

①連携している地域の組織

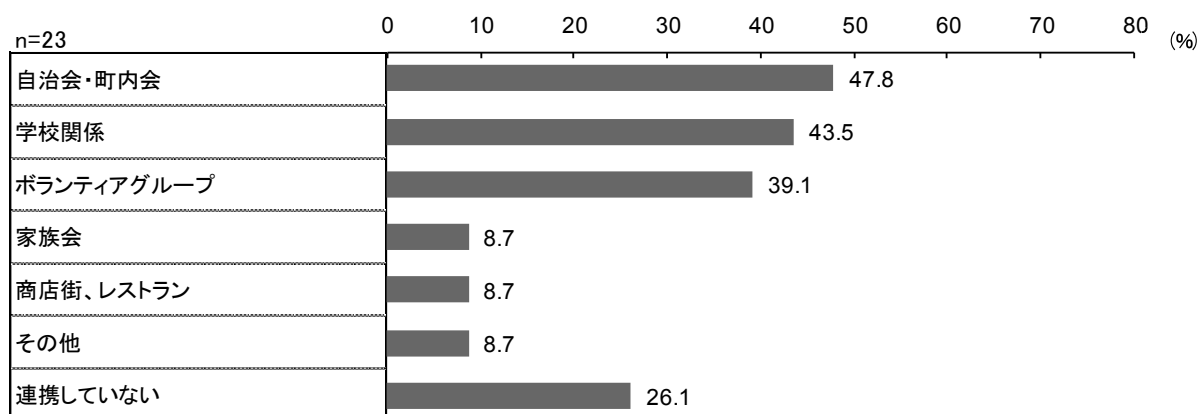
介護保険施設が連携している地域の組織については、「自治会・町内会」が 80.0%と最も高く、次いで「学校関係」(73.3%)、「ボランティアグループ」(46.7%)となっている。

図表 IV. 8. 3 8 連携している地域の組織 (複数回答、08 介護保険施設 問 11)



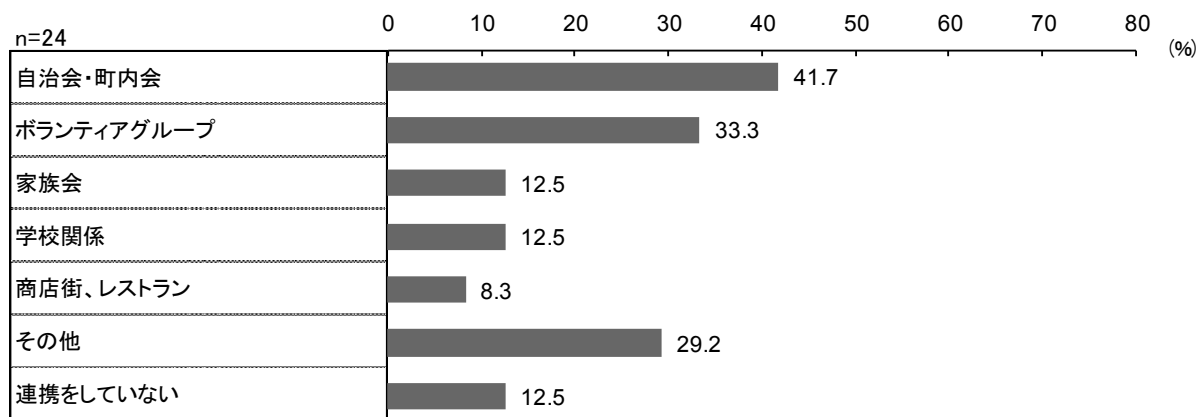
有料老人ホームが連携している地域の組織については、「自治会・町内会」が 47.8%と最も高く、次いで「学校関係」が 43.5%、「ボランティアグループ」が 39.1%となっている。なお、「連携していない」は 26.1%である。

図表 IV. 8. 3 9 連携している地域の組織 (複数回答、09 有料老人ホーム 問 12)



サービス付高齢者向け住宅が連携している地域の組織については、「自治会・町内会」が41.7%と最も高く、次いで「ボランティアグループ」(33.3%)、「家族会」、「学校関係」(ともに12.5%)となっている。

図表 IV. 8. 4 0 連携している地域の組織 (複数回答、10 サービス付高齢者向け住宅 問 19)



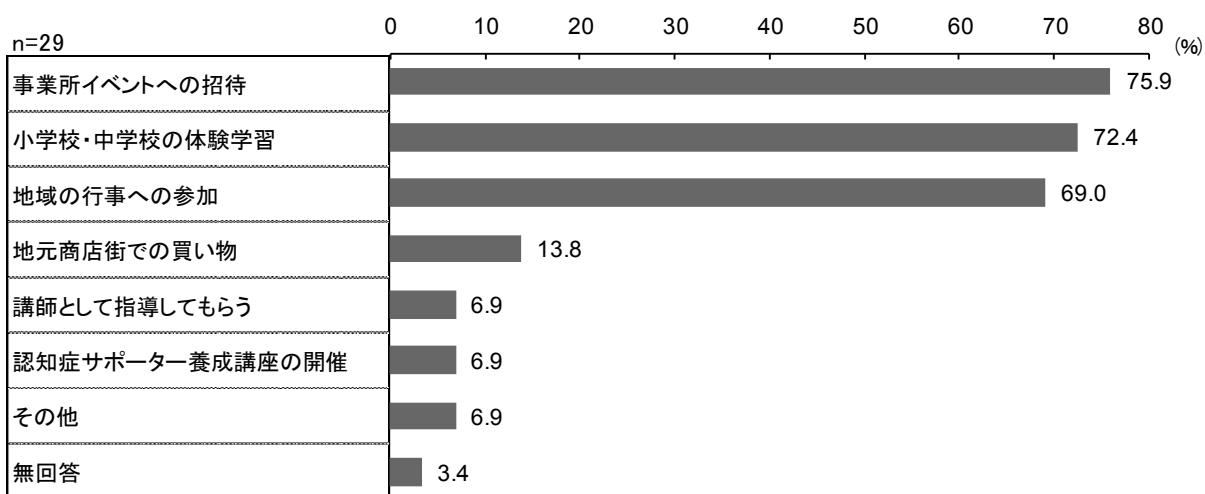
※「その他」の内容 (抜粋)

- ・ 地域包括支援センター
- ・ 医療機関、介護事業所
- ・ 宅配 (食品、雑貨等取りあつかう)

②地域との連携状況

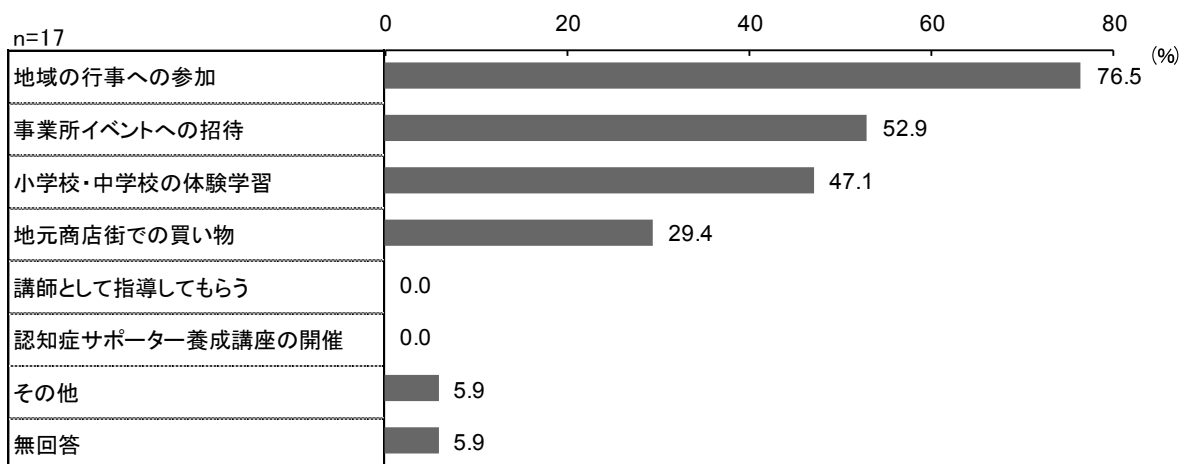
介護保険施設の地域との連携内容については、「事業所イベントへの招待」が75.9%と最も高く、次いで「小学校・中学校の体験学習」(72.4%)、「地域の行事への参加」(69.0%)となっている。

図表 IV. 8. 4 1 地域との連携内容 (複数回答、08 介護保険施設 問 12)
【ベース：地域との連携あり】



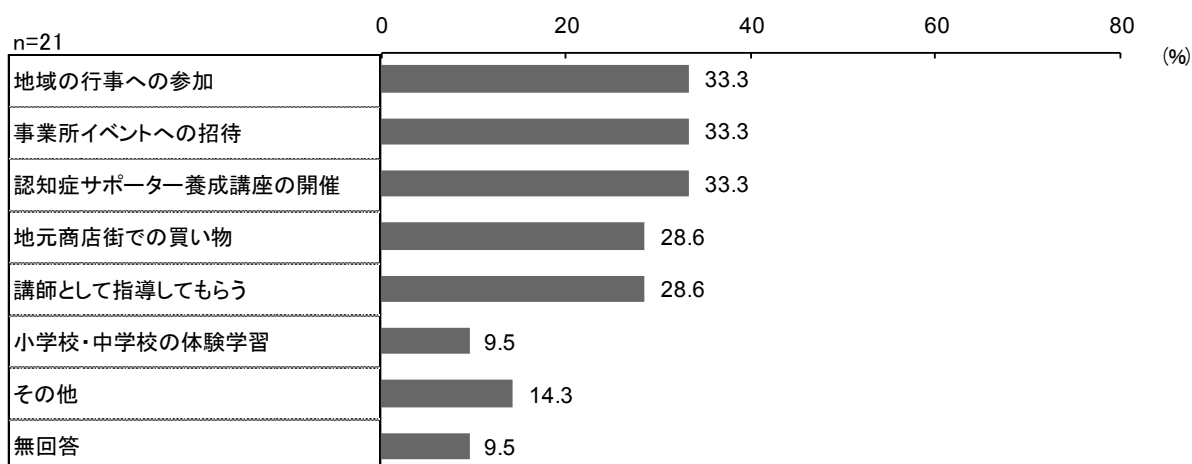
有料老人ホームの地域との連携内容については、「地域の行事への参加」が76.5%と最も高く、次いで「事業所イベントへの招待」(52.9%)、「小学校・中学校の体験学習」(47.1%)となっている。

図表 IV. 8. 4 2 地域との連携内容（複数回答、09 有料老人ホーム 問 13）
【ベース：地域との連携あり】



サービス付高齢者向け住宅の地域との連携内容については、「地域の行事への参加」、「事業所イベントへの招待」、「認知症サポーター養成講座の開催」がともに33.3%と最も高くなっている。

図表 IV. 8. 4 3 地域との連携内容（複数回答、10 サービス付高齢者向け住宅 問 20）
【ベース：地域との連携あり】

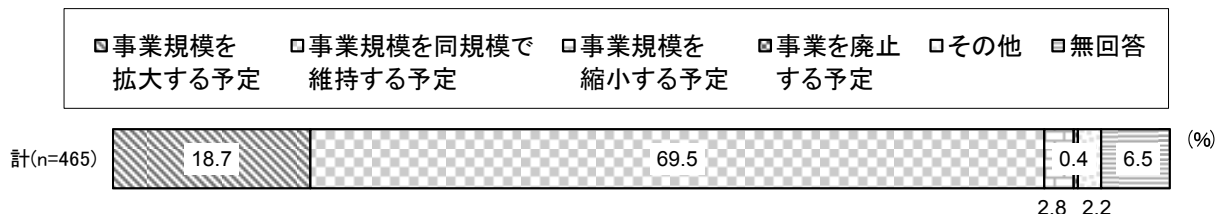


(9) 今後の事業展開

①今後の事業展開

在宅サービス事業所の今後の事業展開については、「事業規模を同規模で維持する予定」が69.5%と最も高く、次いで「事業規模を拡大する予定」が18.7%となっており、縮小や廃止はわずかである。

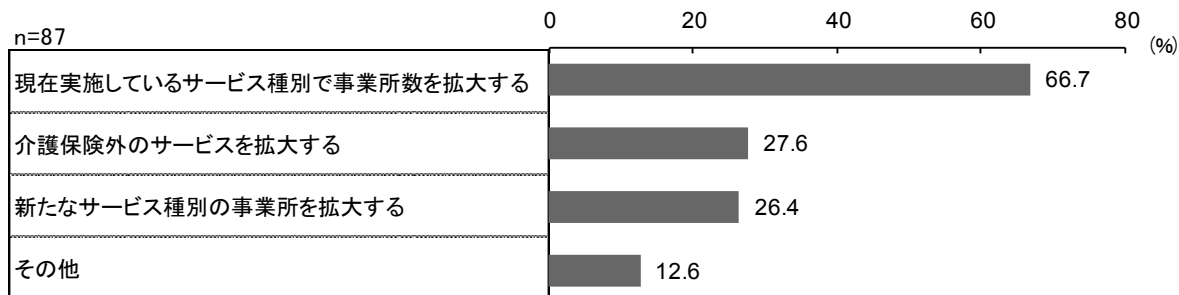
図表 IV. 8. 4 4 今後の事業展開 (07 在宅サービス事業所 問 23)



②事業規模の拡大内容

在宅サービス事業所の事業規模の拡大内容については、「現在実施しているサービス種別で事業所数を拡大する」が66.7%で最も高く、次いで「介護保険外のサービスを拡大する」(27.6%)、「新たなサービス種別の事業所を拡大する」(26.4%)となっている。

図表 IV. 8. 4 5 事業規模の拡大内容 (複数回答、07 在宅サービス事業所 問 23-1)
【ベース：拡大予定事業者】



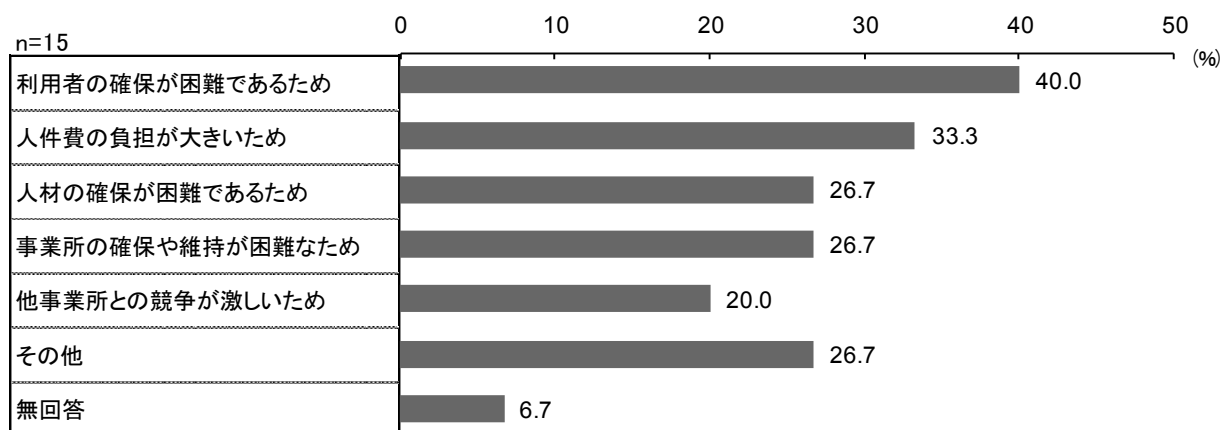
※「その他」の内容 (抜粋)

- ・ 障害者福祉の事業所の指定をとる予定
- ・ 現在実施しているサービス種別で利用者拡大する。
- ・ 半日 (3時間以上5時間未満)、現在午後のみを午前・午後に

③事業規模の縮小・廃止理由

在宅サービス事業所の、事業規模の縮小・廃止理由については、「利用者の確保が困難であるため」が40.0%と最も高く、次いで「人件費の負担が大きいため」(33.3%)、「人材の確保が困難であるため」、「事業所の確保や維持が困難なため」(ともに26.7%)となっている。

図表 IV. 8. 4 6 事業規模を縮小・廃止する予定である理由(複数回答、07在宅サービス事業所 問23-2)
【ベース：縮小・廃止予定事業者】



※「その他」の内容(抜粋)

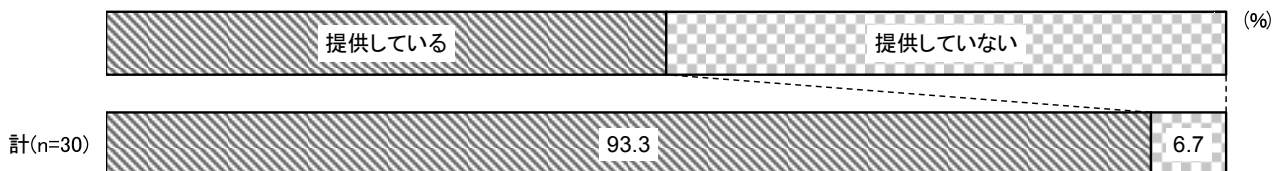
- ・サービス提供に関わる作業が煩雑・過多で労力に見合わない。
- ・給付減の為
- ・他の施設形態を検討中
- ・地域密着型になるため他区からの撤退

(10) 区民への情報提供

①区民への情報提供の有無

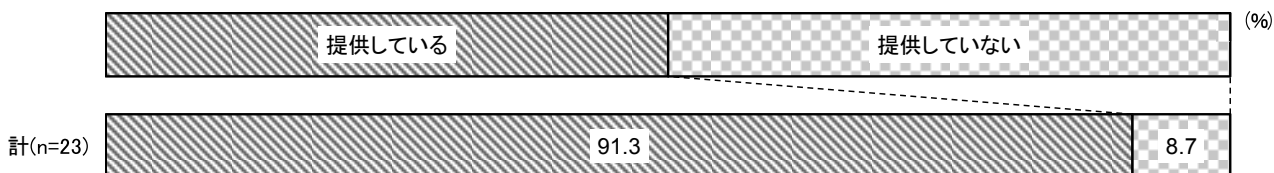
介護保険施設の区民への情報提供については、「提供している」が93.3%、「提供していない」が6.7%となっている。

図表 IV. 8. 4 7 区民への情報提供 (08 介護保険施設 問4)



有料老人ホームの区民への情報提供については、「提供している」が91.3%、「提供していない」が8.7%となっている。

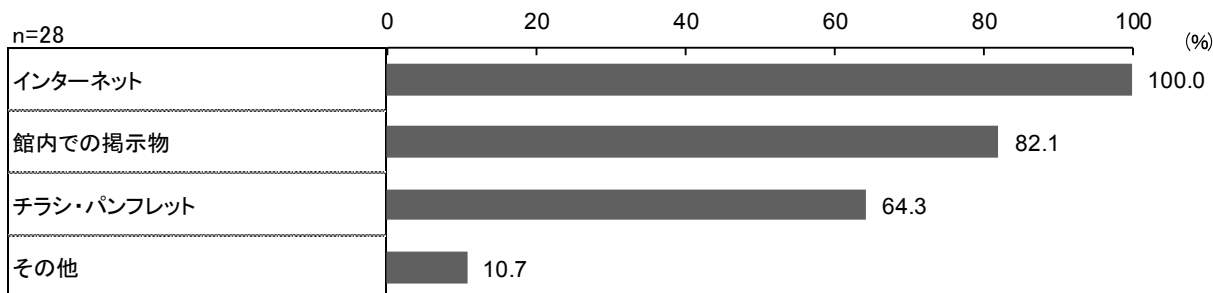
図表 IV. 8. 4 8 区民への情報提供 (09 有料老人ホーム 問6)



②情報提供の手段

介護保険施設の情報提供の手段について、「インターネット」が100.0%と最も高く、次いで「館内での掲示物」(82.1%)、「チラシ・パンフレット」(64.3%)となっている。

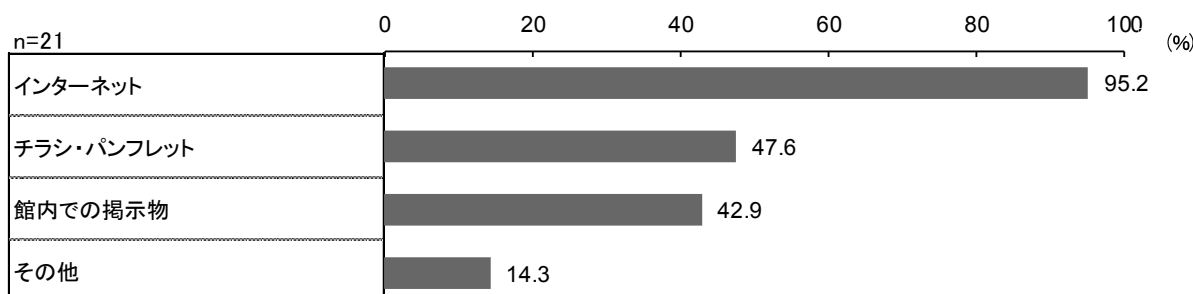
図表 IV. 8. 4 9 情報提供の手段 (複数回答、08 介護保険施設 問4-1) 【ベース：情報提供あり】



※「その他」の内容 (抜粋)
・広報誌

有料老人ホームの情報提供の手段については、「インターネット」が 95.2%と最も高く、次いで「チラシ・パンフレット」(47.6%)、「館内での掲示物」(42.9%)となっている。

図表 IV. 8. 5 0 情報提供の手段 (複数回答、09 有料老人ホーム 問6-1)
【ベース：情報提供あり】



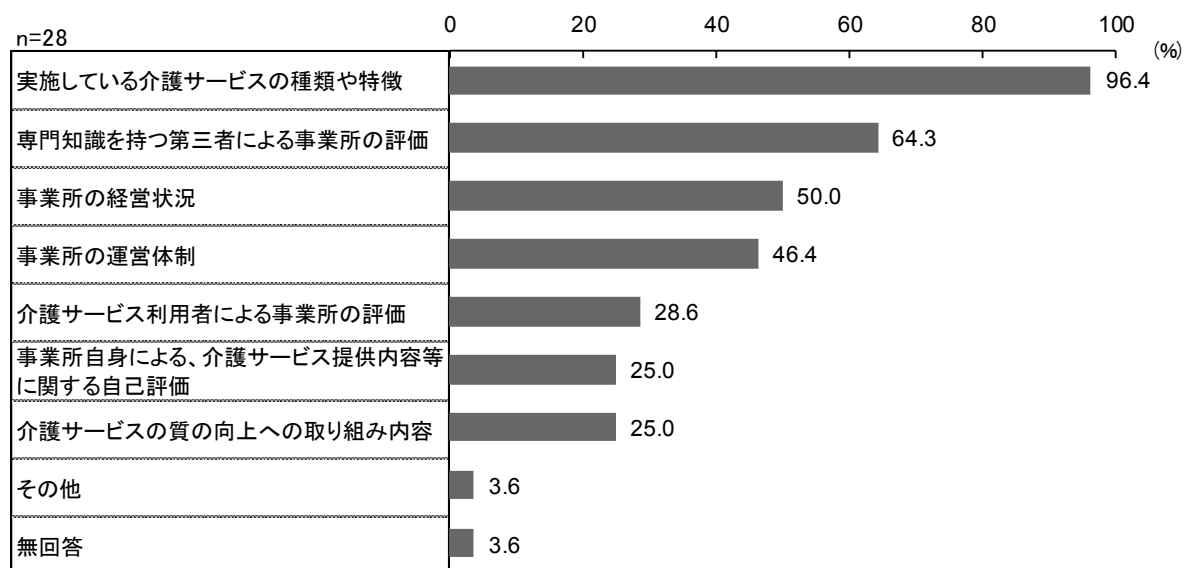
※「その他」の内容 (抜粋)

- ・ 営業、病院など
- ・ 区役所封筒広告等
- ・ 介護雑誌に掲載

③提供している情報の内容

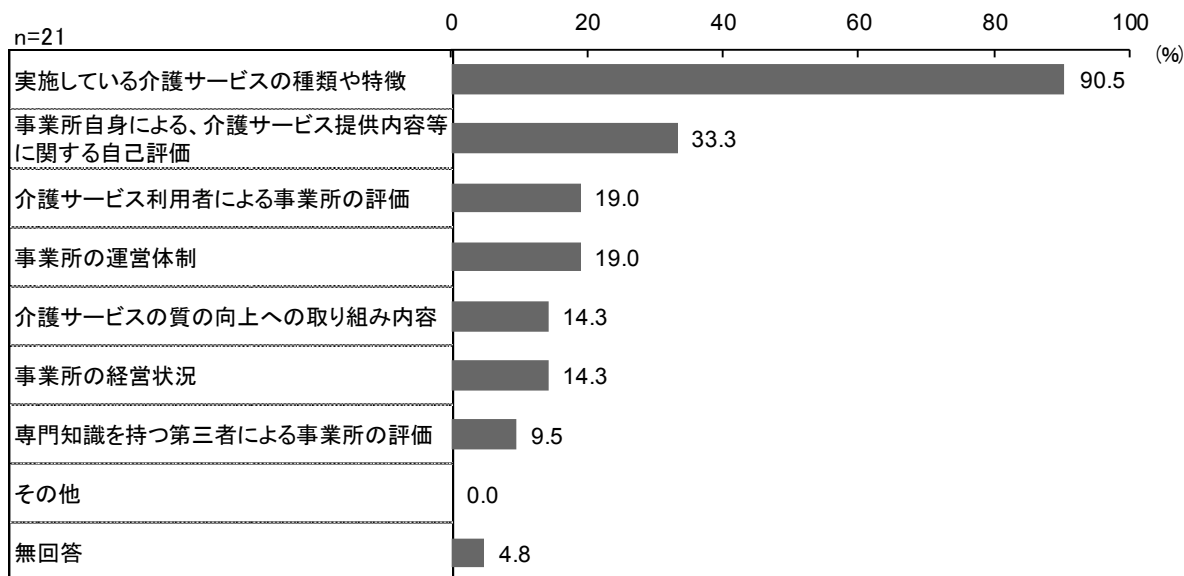
介護保険施設で提供している情報の内容については、「実施している介護サービスの種類や特徴」が 96.4%と最も高く、次いで「専門知識を持つ第三者による事業所の評価」(64.3%)、「事業所の経営状況」(50.0%)となっている。

図表 IV. 8. 5 1 提供している情報の内容 (複数回答、08 介護保険施設 問4-2)
【ベース：情報提供あり】



有料老人ホームで提供している情報の内容については、「実施している介護サービスの種類や特徴」が90.5%と最も高く、次いで「事業所自身による、介護サービス提供内容等に関する自己評価」(33.3%)、「介護サービス利用者による事業所の評価」、「事業所の運営体制」(ともに19.0%)となっている。

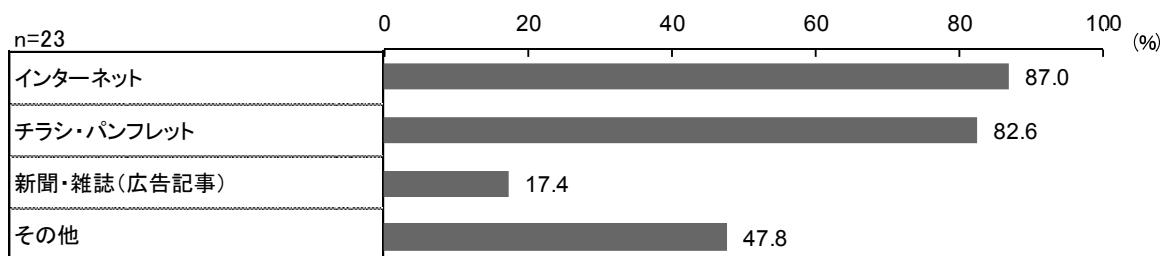
図表 IV. 8. 5 2 提供している情報の内容（複数回答、09 有料老人ホーム 問6-2）
【ベース：情報提供あり】



(11) 入居者募集方法

有料老人ホームの入居者募集方法については、「インターネット」が 87.0%と最も高く、次いで「チラシ・パンフレット」(82.6%)、「その他」(47.8%) となっている。

図表 IV. 8. 53 入居者募集方法（複数回答、09 有料老人ホーム 問5）

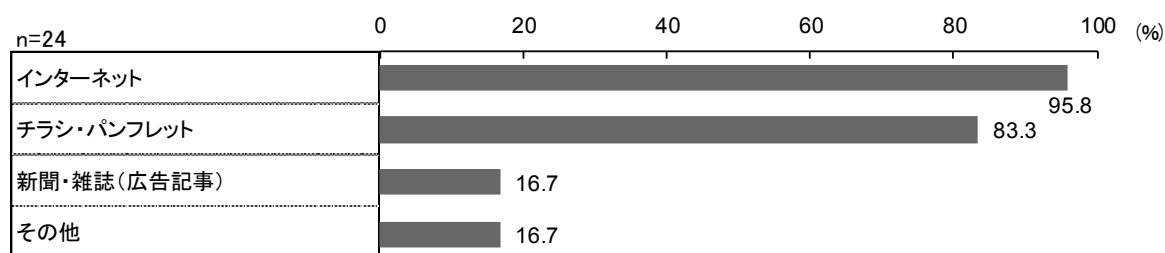


※「その他」の内容（抜粋）

- ・ 事業所等訪問
- ・ 居宅支援事業所、病院、老健などの紹介
- ・ 病院や福祉事務所からの依頼
- ・ 紹介センター、病院（居宅）への営業

サービス付高齢者向け住宅の入居者募集方法については、「インターネット」が 95.8%と最も高く、次いで「チラシ・パンフレット」(83.3%)、「新聞・雑誌（広告記事）」、「その他」（ともに 16.7%）となっている。

図表 IV. 8. 54 入居者募集方法（複数回答、10 サービス付高齢者向け住宅 問8）



※「その他」の内容（抜粋）

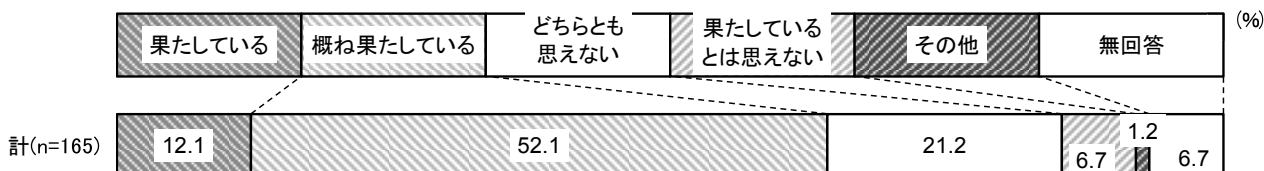
- ・ 紹介業者
- ・ 各区役所へ F a x 送信
- ・ 病院のMSWからの紹介
- ・ 営業

9 今後の要望等について

(1) 介護保険サービスの高齢者の自立支援促進の役割について

居宅介護支援事業所が、介護保険サービスの高齢者の自立支援促進の役割に関してどうとらえているかについては、「果たしている」が 12.1%、「概ね果たしている」が 52.1%となっている。

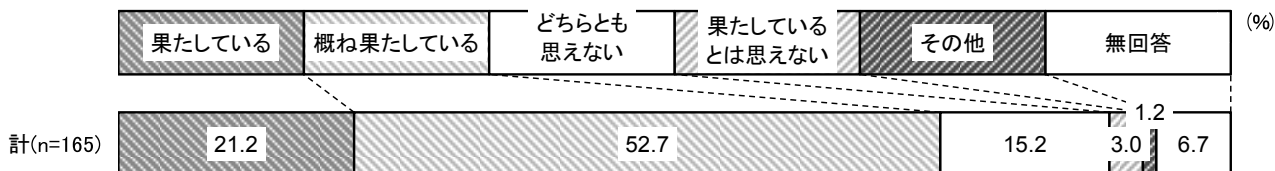
図表 IV. 9. 1 介護保険サービスの高齢者の自立支援促進の役割について
(06 居宅介護支援事業所 問 22)



(2) 介護保険サービスによる家族の介護負担軽減の役割について

居宅介護支援事業所が、介護保険サービスによる家族の介護負担軽減の役割に関してどうとらえているかについては、「果たしている」が 21.2%、「概ね果たしている」が 52.7%となっている。

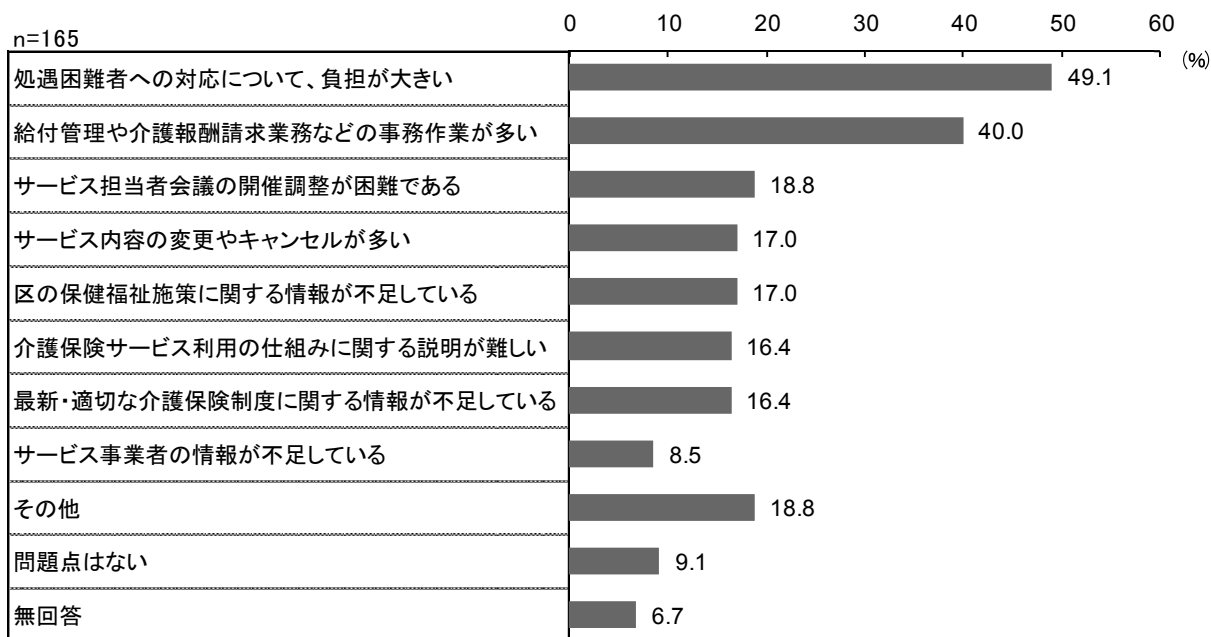
図表 IV. 9. 2 介護保険サービスの介護負担軽減の役割について
(06 居宅介護支援事業所 問 23)



(3) 足立区で居宅介護支援事業を行ううえでの問題点

居宅介護支援事業所の問題点は、「処遇困難者への対応について、負担が大きい」が 49.1%と最も高く、次いで「給付管理や介護報酬請求業務などの事務作業が多い」(40.0%)、「サービス担当者会議の開催調整が困難である」(18.8%)となっている。

図表 IV. 9. 3 足立区で居宅介護支援事業を行ううえでの問題点
(複数回答、06 居宅介護支援事業所 問 24)



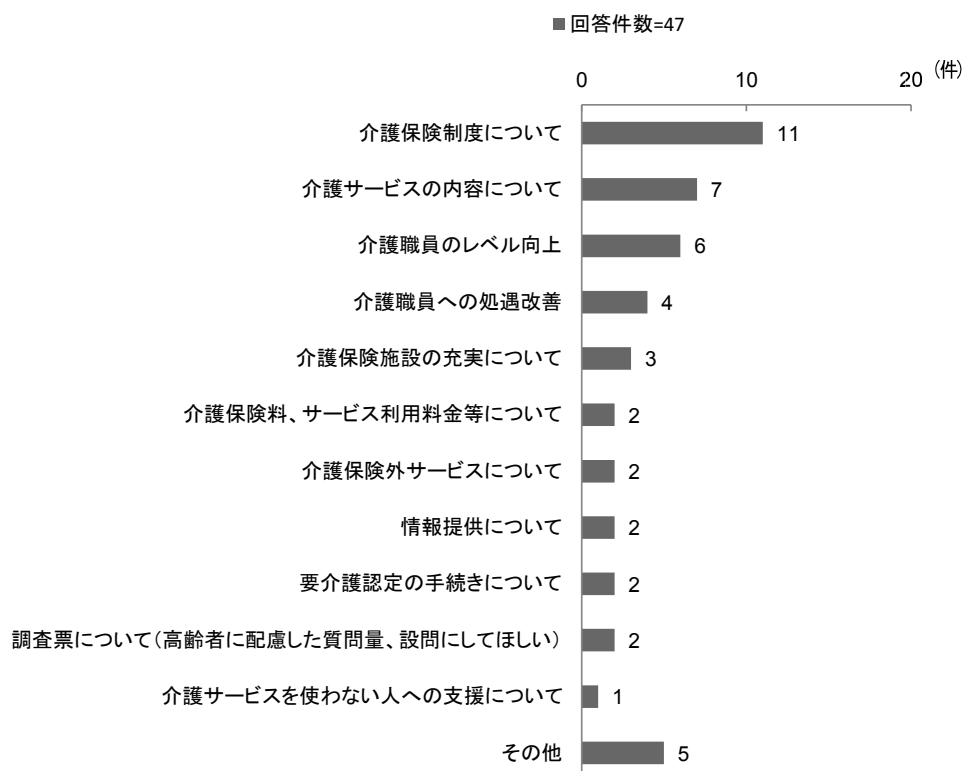
※「その他」の内容（抜粋）

- ・初めて居宅介護を受ける時、緊急のサービスが必要な場合もある。介護認定審査会資料をもう少し早く出してもらいたい。
- ・介護と福祉の業務分担を明確にして欲しい。生活保護で身寄りのない方の金銭管理等。
- ・全体的に通所介護や訪問介護に至るまで人材不足であり、教育する時間もままならない現実があり、以前の様な充実したサービスは期待出来ない。
- ・足立区ルールがよくわからない。他区では文章化されているものが足立区ではない。
- ・利用者家族への対応で精神的にも時間的にも負担が大きくなっている。
- ・サービスの質が低い事業所に対する指導が弱い。
- ・医療との連携がとりづらい。
- ・介護サービス事業所間の連携がむずかしい場合がある。

10 区への要望、意見
 (1) 居宅介護支援事業所

(06 居宅介護支援事業所・問 25)

図表 IV. 10. 1 区への要望、意見 (自由回答、06 居宅介護支援事業所 問 25)



● 介護保険制度について・・・11 件

- ◇ 総合事業の説明会等の内容が初回と違っているので混乱してしまう。改正時は仕方ないと思うが、ある程度決定してからの開催でも良いのではないかと感じる。
- ◇ 制度が変わり過ぎ、情報収集や説明に時間がかかる。利用できていたものを減らす説明が大変苦勞する。書類など机上での仕事が多すぎる。
- ◇ 負担割合証、介護保険証、証明書その他書類について分かりづらいことが多く、利用者も分からなくなっていることが多い。送られてくるものが何であるのか、どのように必要なのか、もっと分かりやすく示したうえで、配布してほしい。それが紛失の原因になることが多い。

● 介護サービスの内容について・・・7 件

- ◇ 認知症で徘徊する人が、増えています。GPS等に対応していますが駅の近くやスーパーマーケットの近く等に、徘徊者が何時でも立ち寄れる場所をところどころに作ってもらいと有難いです。
- ◇ 介護保険制度を実施して気付いた事だが、与える事が主の様気がする。ケアプランを作って、それを実行する様に、ギブ、テイクをしなければ、自律、自立には、ほど遠いと思います。介護保険を受ける側の教育も必要と思われる。

◇がん末期利用者について一律「要介護2、期間6カ月」の認定を検討して欲しいです。病院からは続々と在宅に戻って来ますが、要支援認定者が多く、エアマットなどの導入がすぐにはできません。また状態変化毎の区分変更申請はケアマネの負担も大きいです。安心して看取りが出来るよう、利用者、ケアマネの双方の負担軽減を望みます。

● **介護職員のレベル向上・・・6件**

- ◇介護職も含め、全ての介護に関わる業種がレベルアップを目的とした研修を受けなければいけない制度があると良いと思います。もっと多様なボランティアがあったら活用しやすいと思います。
- ◇定期的にケアマネジメントの研修をお願いしたい。
- ◇医療と福祉の合同での研修や意見交換、パネルディスカッション等の場があると良い。

● **介護職員への処遇改善・・・4件**

- ◇介護関係で働く人が安心できるような収入や待遇の改善がされていくように都や国にはたらきかけてほしい。
- ◇ケアマネジャーの行う業務が多岐に渡り、事務作業も多い。事務的作業の簡素化などによるケース対応等に十分な時間を確保したい。
- ◇この地域だからこそできる独居や老々介護、認々介護などがありますが、担当ケアマネジャーのシャドーワークはふえるばかりです。ケアマネジャーをいじめるのはやめてください。(適正なプランなどと)日々の支援で疲れきっており足立区では働けないとやめていきます。何年働いても主任ケアマネジャーの推薦がもらえないのも足立区だけです。足立区のケアマネジャー育成をどう考えているのでしょうか？

● **介護保険施設の充実について・・・3件**

- ◇サービスの質が低い事業所、不適切な運営、対応をしている事業所が平然と営業し続けられない、住民、行政、同業者等からのチェック機能が働き、淘汰される地域であって欲しい。
- ◇地域包括支援センターの圏域など小さな範囲ごとの住民のニーズに密着した計画が必要と感じます。
- ◇包括支援センターの公平性を望みます。

● **介護保険料、サービス利用料金等について・・・2件**

- ◇ケアプラン費が自己負担が発生すると、利用者、家族の要望を合わせたサービス調整になり、適切なケアプランが作成・提供できるのかと心配。特定事業所を取得している当事業所では、負担額が高いという理由でケアプランが減るのではないかと心配である。地域包括ケアシステムの構築とさげられる中、ケアマネジャーが中心となってまとめていくことができるのか、他職種との連携がとれるのか心配。
- ◇利用料、1割より3割へ移行する事が望ましい。医療保険も3割負担が多くなっている。

● **介護保険外サービスについて・・・2件**

- ◇車椅子の方の住宅探しがとても困難です。区の方でも入居できる様な所を用意して頂けるとご自身で生活していけるのでお願いしたいです。生活保護の方で介護者の体調不良時に単位オーバー分の自費発生分ですが支払いの出来ない人への特例とかは無いのでしょうか？(介護者がせめて良くなる間だけでも)、ショートステイ等の方法はありますが、ご本人の拒否があったり諸事情で行けない人もいます。

● 情報提供について・・・2件

- ◇ 高齢者や、独居・認知症の方にやさしい地域で支援のお仕事をさせていただき、有り難いと思っております。今後も区独自の高齢サービスの施策に期待し、その制度を理解し促進できる様、取り組んでいきます。「ケア倶楽部」足立区の情報の更新をお願い致します。
- ◇ 利用者は高齢で、インターネットを使える方も少なく、ホームページとか、情報開示サービスなど、ほとんど、見ていません。(関心がなければ、若い家族も見ていません。)やはり、ケアマネジャーが、懇切丁寧に口頭で説明することが、ほとんどです。ですから、利用者にわかりやすいパンフレットなど、作成してほしいです。

● 要介護認定の手続きについて・・・2件

- ◇ 要介護認定情報提供申請してから入手するまでが他区と比べると時間がかかり過ぎます。すぐにプランを作らなければならない時困っているので改善して下さい。よろしくお願ひします。
- ◇ 意見書の提出が早くなり、数年前比「要介護認定」結果が早くなった事に評価。足立区は他区に比べ太っ腹保険者だと考じます。(例～自らの利用者の認定調査可能等。)介護認定審査会の専用電話設置は、大いに役立っています。

● 調査票について(高齢者に配慮した質問量、設問にしてほしい)・・・2件

- ◇ 足立区や東京都からのアンケートが多いです。どのアンケートも前半は、同じ様なものが多いです。(人員や給付件数 e t c) 区や都で事業所番号で把握されてませんか? 給付数等今年と去年(中には、2年前)と比べて数字記入など調べるのに時間がかかります。こちらもがんばってアンケート記入しますがご配慮頂けると大変助かります。
- ◇ 当調査の目的自体は理解できるが、各設問設定の主旨(そのデータ収集がどのような視点でなされ、活用されるのか等)が不明確。腑に落ちないまま、協力するのも釈然としない。足立区はどのような地域づくりを目指しているのですか?地域包括ケアシステム構築は、司令塔となる区の実行次第で思いきった舵取りができるのではないのでしょうか?

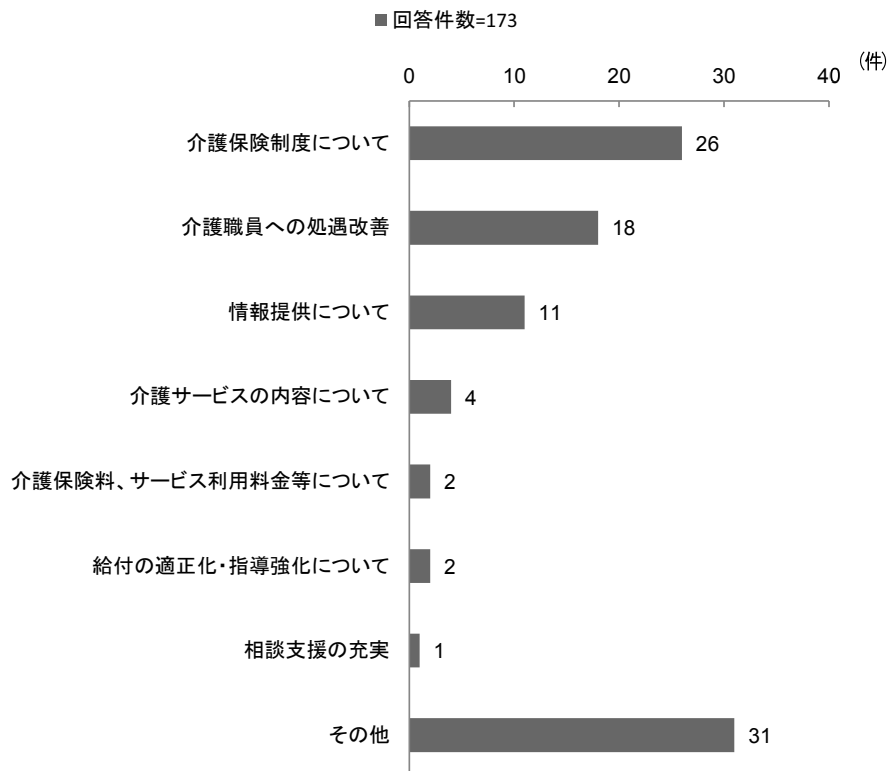
● その他・・・5件

- ◇ いつも有難うございます。足立区への要望は特にありませんが、事業者連絡会等の事業者人数(参加可能人数)が一人という時があるので、それは、検討してもらいたいと思います。一人だと大事な事を聴きもらしていないか、とかトイレにも行けないとかプレッシャーがかかります。宜しくお願ひします。
- ◇ 独居高齢者や経済的困窮者が多い為、福祉事務所との連携が不可欠。相互の理解を深めていけるとよいと思います。
- ◇ 総合事業を地域の皆様と協力しながら、力の限り協力し、「手と手を取りあう地域」を目指せるよう、頑張りたいと思っています。もう少し、地域の意識が変わると良いと思います。

(2) 在宅サービス事業所

(07 在宅サービス事業所・問 24)

図表 IV. 10. 2 区への要望、意見 (自由回答、07 在宅サービス事業所 問 24)



● 介護保険制度について・・・26 件

- ◇ 介護保険制度がわかりづらい、又、役所の文書類の書き方が理解できない時があるので、もっとわかりやすく書いてほしい。必要な書類が多すぎて業務（実際の介護）が、できない時がある。一言で言えば、全てを簡素化、難しい、役所言葉はやめてほしいです。お願いします。
- ◇ 10 月から総合事業が始まり、その先導・実践を行う職員の方々が制度を扱いきれていない印象が強く、利用者が制度に振り回されているように感じる。生活と密接に関わり、サービスの有無で生活の場が簡単に変わってしまう高齢者のための制度なので、利用しやすいものになるよう検討を重ねて頂ければと存じます。

● 介護職員への処遇改善・・・18 件

- ◇ ヘルパー不足が、どの事業所も大きな問題となっています。今後、在宅介護を継続する為、サービスの担い手を増す様、事業所単位ではなく、区として考えてください。
- ◇ 介護報酬の引き上げに依る、人材確保が望ましいと思います。訪問介護の場合、移動がある為（悪天候）、賃金のアップで離職率も下がる可能性有と思います。
- ◇ 事業者は職員の教育をしっかりと行い、サービスの質の向上を目指していかなければならない。現在の介護報酬では難しさも感じているが、医療と看護の報酬が高すぎるような感じはしている。事業者はしっかりと労し、地域、自治体、国のためにサービス向上を目指し、力の限り協力していきたいと考えている。

● 情報提供について・・・11件

- ◇ 今後の介護保険制度の改定の際は、出来るだけ、早く情報を頂きたい。総合事業に関しても、変更の場合は早い段階での情報がほしい。
- ◇ 制度についてわかりやすい説明をお願いしたい。(特に利用者)区の職員の方の質問への答えを統一して頂きたい。
- ◇ 制度に対しての勉強会が定期的にあるが内容を具体的な事例にそってであるとわかりやすい。

● 介護サービスの内容について・・・4件

- ◇ 軽度者のサービス対応を継続して行って頂きたいと思います。
- ◇ 介護サービスを利用しやすくするため、上乘せ、横出しサービスによる柔軟な運用の推進。財政支援の拡充。
- ◇ 利用者様からは「以前センターで理美容できたのにできなくなったのが残念」との声が聞かれています。

● 介護保険料、サービス利用料金等について・・・2件

- ◇ 介護保険の負担割合について所得に応じて2割負担になったご家族から負担額について意見をいただくこともありますが、今後の負担割合を全て2割などにしないようお願いしたいと思います。所得の多い方でも負担額が増え幾多もの利用継続を検討しているケースもあり登録減のリスクがあり非常に困ります。
- ◇ 介護保険制度が予算の削減で単価削減で苦しく利用者さんの負担もふえてきています。負担が大変で利用をひかえている人も多少あります。

● 給付の適正化・指導強化について・・・2件

- ◇ 総合事業が始まれば予防と介護のサービスが大きく異なるので要介護要支援認定の結果で利用者および家族の生活が変わる。現在でも認定結果が実態に適していない例が少なからずあり様々な影響があるので認定の確度を上げることが重要と考えます。

● 相談支援の充実・・・1件

- ◇ 元気な高齢者や障がいを持っている方等が働ける地域を目指したいと思い活動して参りますので、その時はご相談に乗って頂ければと思います。

(3) 介護保険施設

(08 介護保険施設 問23)

● その他・・・1件

- ◇ 特養待機者の減少(Aランクの待機者が特に)や介護職員の人材不足を考えると足立区の特養増設プランはそのまま進んでいくのが良いのかと疑問に思う。

(4) 有料老人ホーム

(09 有料老人ホーム 問 25)

- **介護職員のレベル向上・・・1件**

- ◇ 他社、他施設との交流会を行うことが出来れば、お互いの勉強になりサービス向上につながると思います。

- **調査票について（高齢者に配慮した質問量、設問にしてほしい）・・・1件**

- ◇ 東京都福祉保健局高齢社会対策部からも同様の調査票がきておりますが、調査時点（〇年〇月〇日現在）を統一してもらえないでしょうか？資料作りが大変な作業になります。御検討願います。

(5) サービス付高齢者向け住宅

(10 サービス付高齢者向け住宅 問 21)

- **介護保険施設の充実について・・・1件**

- ◇ 開設したばかりで、この地域で入居されたお客様はもちろん、地域とつながることで閉鎖的な施設にならないように努めて参ります。

- **その他・・・31件**

- ◇ 人材確保・教育に行政としての力強い取り組み姿勢を示して欲しいです。事業者と連携して打てる手段を早急に検討すべきと思います。

- ◇ 居宅介護支援事業でも記したが、介護保険サービスの提供する側と受ける側の考え方が、受ける側は、自分自身、何もしない方が多いのではと思う。自律、自立と言われているが、主体は利用者である事を頭に、ガイダンスをした方が良いのではと思う。

- ◇ 医療との連携の場（交流会等）事業者同士が深く係われるような場を提供してほしい。

V 在宅介護実態調査 調査結果

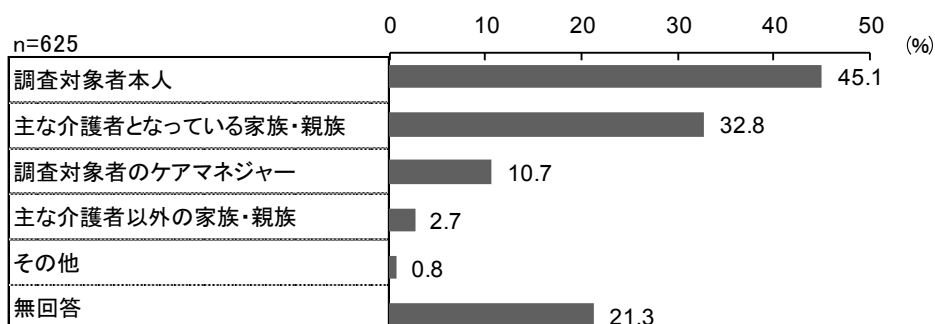
1 A票

(1) 調査対象者

①A票の聞き取りを行った相手

A票の聞き取りを行った相手は、「調査対象者本人」が45.1%と最も高く、次いで「主な介護者となっている家族・親族」(32.8%)、「調査対象者のケアマネジャー」(10.7%)となっている。

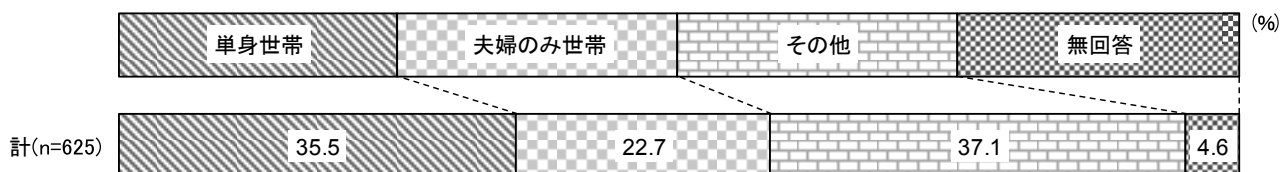
図表 V. 1. 1 A票の聞き取りを行った相手 (複数回答)



②世帯類型

世帯類型については、「その他」が37.1%と最も高く、次いで「単身世帯」(35.5%)、「夫婦のみ世帯」(22.7%)となっている。

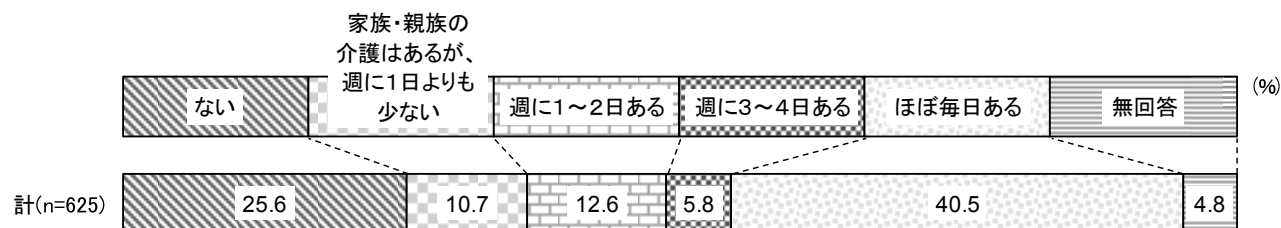
図表 V. 1. 2 世帯類型



③家族や親族からの介護の頻度

家族や親族からの介護の頻度は、「ほぼ毎日ある」が40.5%と最も高く、次いで「ない」(25.6%)、「週に1～2日ある」(12.6%)となっている。

図表 V. 1. 3 家族や親族からの介護の頻度

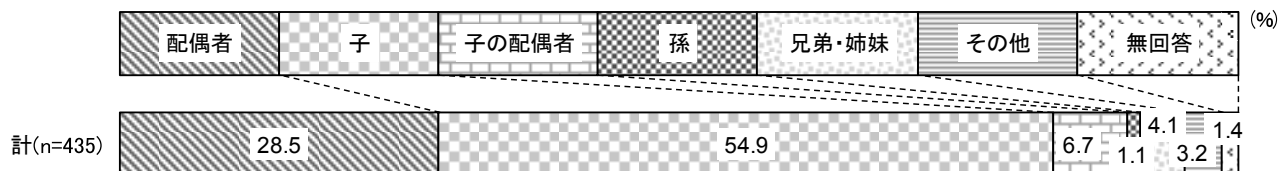


(2) 在宅介護生活の状況等

①主な介護者

主な介護者は、「子」が 54.9%と最も高く、次いで「配偶者」(28.5%)、「子の配偶者」(6.7%)となっている。

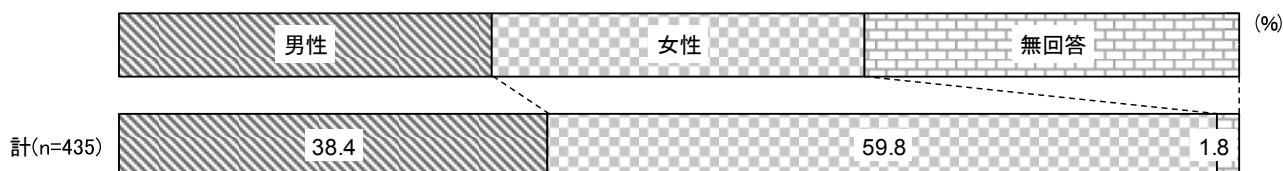
図表 V. 1. 4 主な介護者【ベース：家族・親族からの介護あり】



②主な介護者の性別

主な介護者の性別は、「女性」が 59.8%、「男性」が 38.4%となっている。

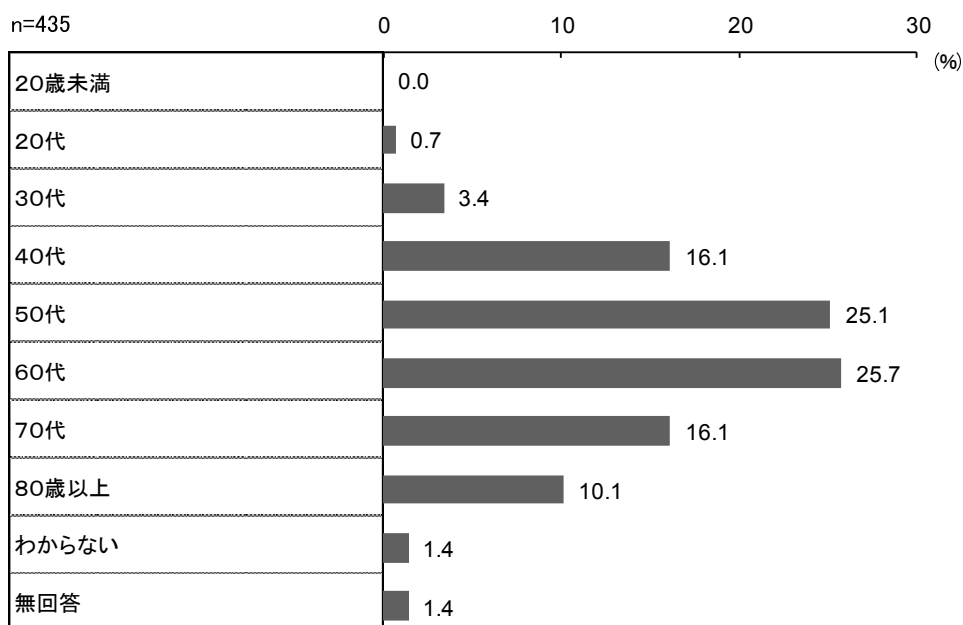
図表 V. 1. 5 主な介護者の性別【ベース：家族・親族からの介護あり】



③主な介護者の年齢

主な介護者の年齢は、「60代」が 25.7%と最も高く、次いで「50代」(25.1%)、「40代」、「70代」(ともに 16.1%)となっている。

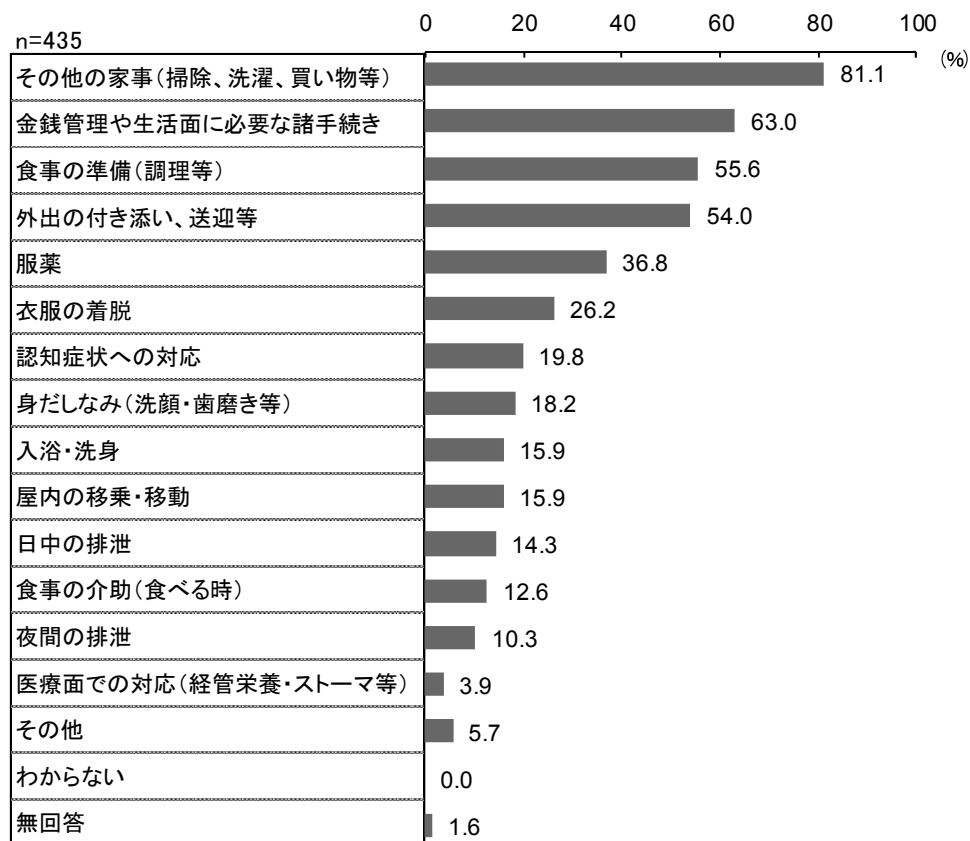
図表 V. 1. 6 主な介護者の年齢【ベース：家族・親族からの介護あり】



④主な介護者が行っている介護の内容

主な介護者が行っている介護の内容は、「その他の家事（掃除、洗濯、買い物等）」が81.1%と最も高く、次いで「金銭管理や生活面に必要な諸手続き」（63.0%）、「食事の準備（調理等）」（55.6%）となっている。

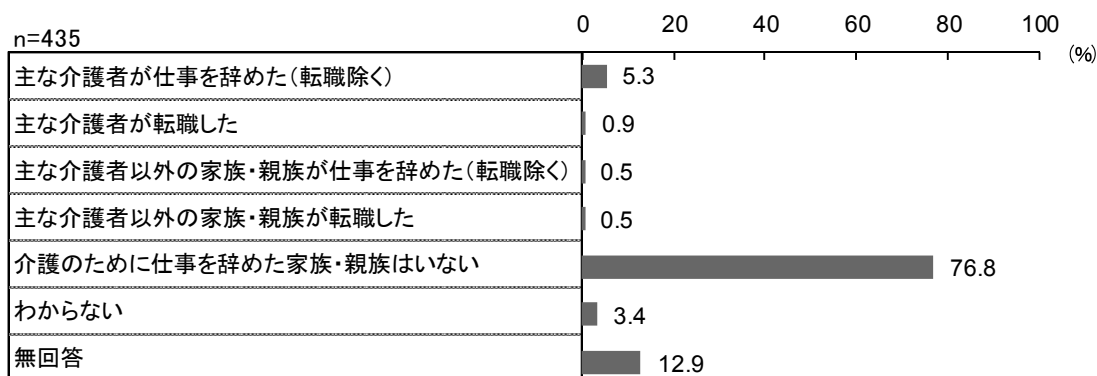
図表 V. 1. 7 主な介護者が行っている介護の内容（複数回答）【ベース：家族・親族からの介護あり】



⑤介護を主な理由として過去1年間で仕事を辞めた家族や親族の有無

介護を主な理由として過去1年間で仕事を辞めた方がいるかをたずねたところ、「介護のために仕事を辞めた家族・親族はいない」が76.8%と最も高い。「主な介護者が仕事を辞めた(転職除く)」は5.3%、次いで「主な介護者が転職した」は0.9%となっている。

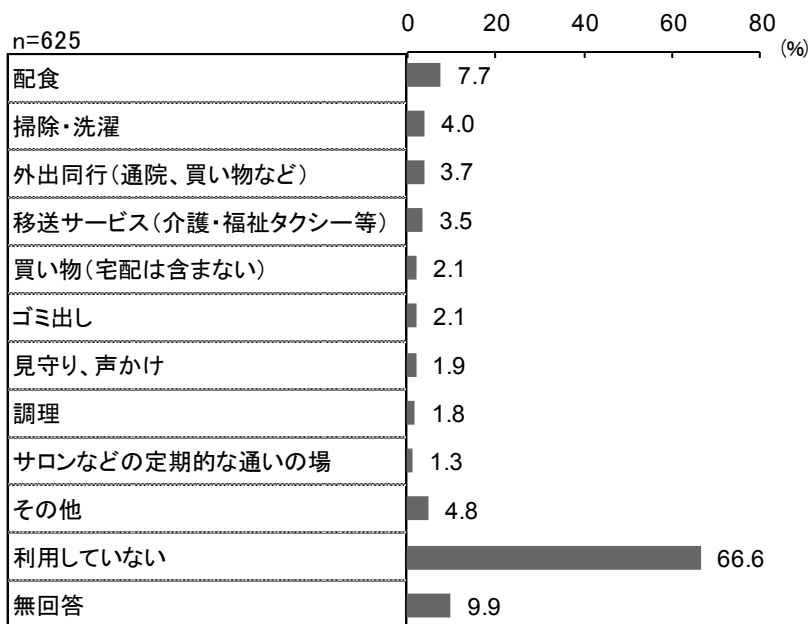
図表 V. 1. 8 介護を主な理由として過去1年間で仕事を辞めた家族や親族の有無(複数回答)
【ベース：家族・親族からの介護あり】



⑥現在利用している介護保険サービス以外の支援・サービス

介護保険サービス以外の支援・サービスについては、「利用していない」が66.6%と最も高い。利用しているものでは「配食」が7.7%と最も高く、次いで「その他」(4.8%)、「掃除・洗濯」(4.0%)となっている。

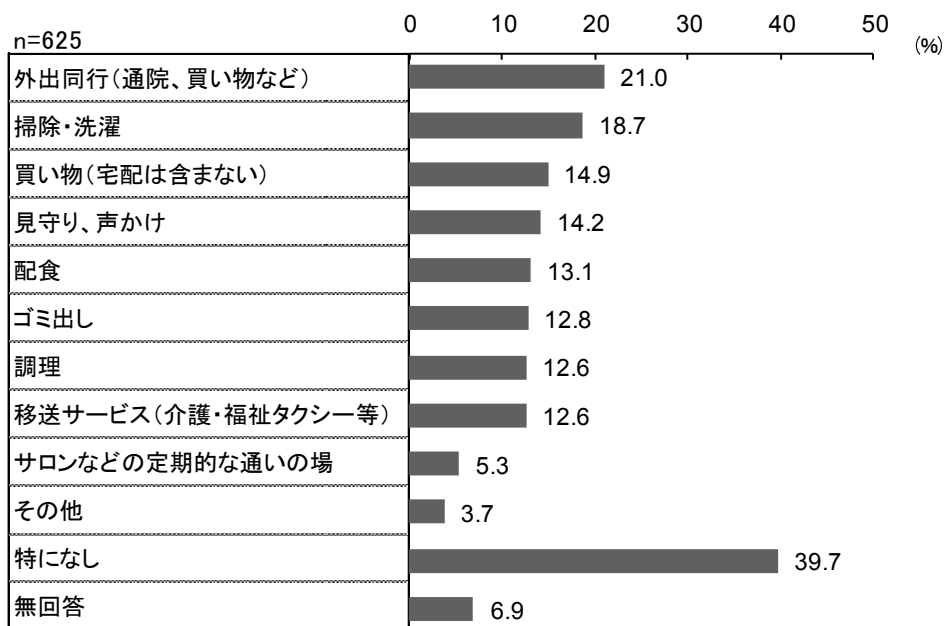
図表 V. 1. 9 現在利用している介護保険サービス以外の支援・サービス(複数回答)



⑦今後の在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス

今後の在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービスは、「特になし」が39.7%と最も高い。必要を感じるものでは、「外出同行（通院、買い物など）」が21.0%と最も高く、次いで「掃除・洗濯」（18.7%）、「買い物（宅配は含まない）」（14.9%）となっている。

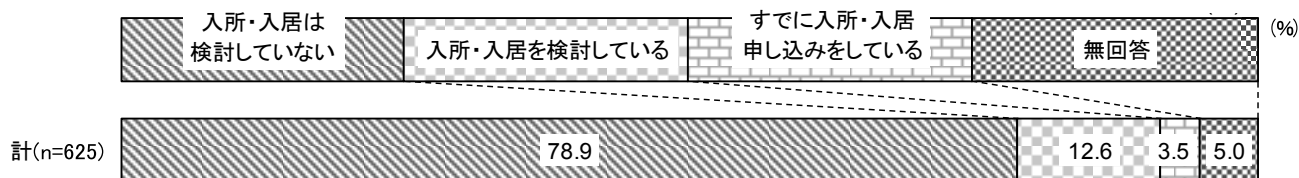
図表 V. 1. 1 0 今後の在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス（複数回答）



⑧現時点での、施設等への入所・入居の検討状況

現時点での、施設等への入所・入居の検討状況は、「入所・入居は検討していない」が78.9%と最も高く、次いで「入所・入居を検討している」（12.6%）、「すでに入所・入居申し込みをしている」（3.5%）となっている。

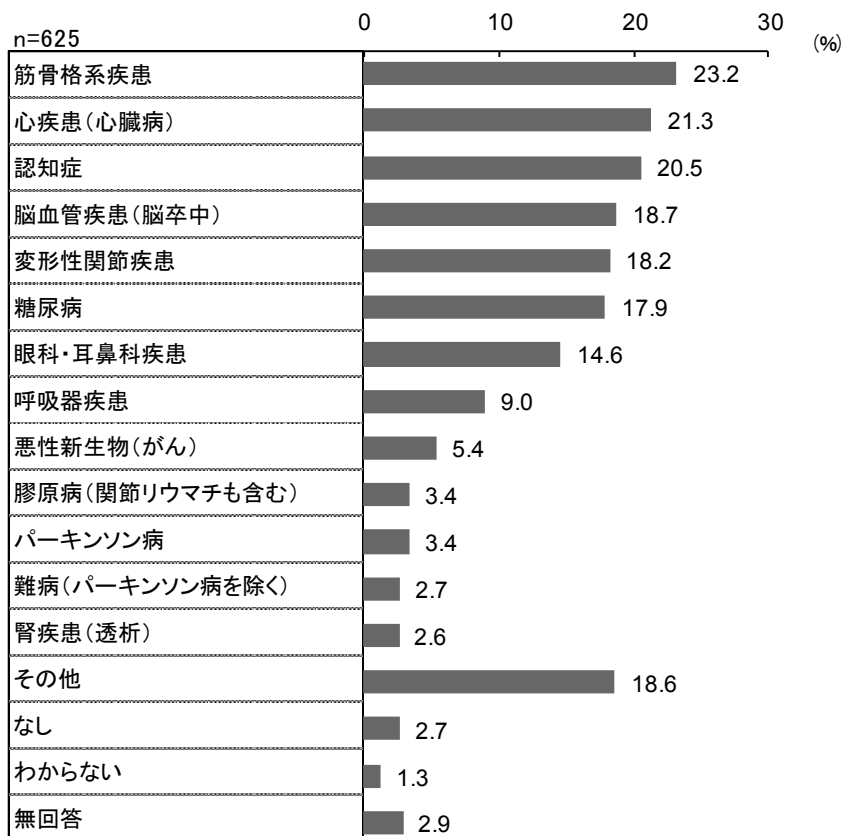
図表 V. 1. 1 1 現時点での、施設等への入所・入居の検討状況



⑨本人が、現在抱えている傷病

ご本人が現在抱えている傷病については、「筋骨格系疾患」が23.2%と最も高く、次いで「心疾患（心臓病）」（21.3%）、「認知症」（20.5%）となっている。

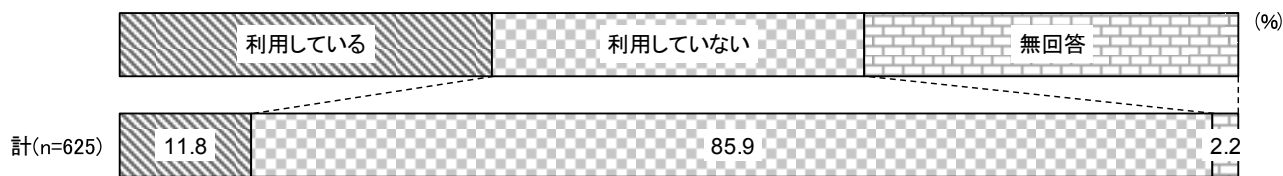
図表 V. 1. 1 2 本人が、現在抱えている傷病（複数回答）



⑩訪問診療の利用状況

訪問診療の利用状況は、「利用していない」が 85.9%、「利用している」が 11.8%となっている。

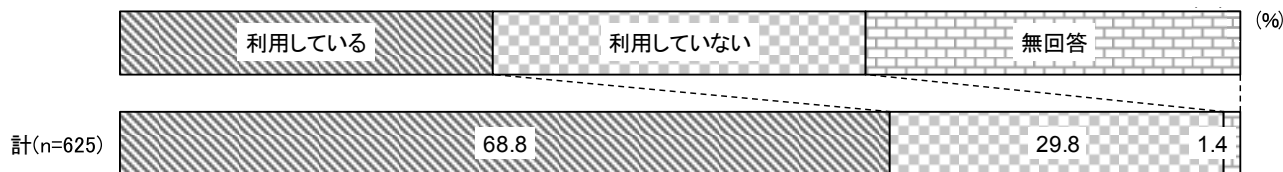
図表 V. 1. 1 3 訪問診療の利用状況



⑪住宅改修、福祉用具貸与・購入以外の介護保険サービスの利用状況

住宅改修、福祉用具貸与・購入以外の介護保険サービスの利用状況は、「利用している」が 68.8%、「利用していない」が 29.8%となっている。

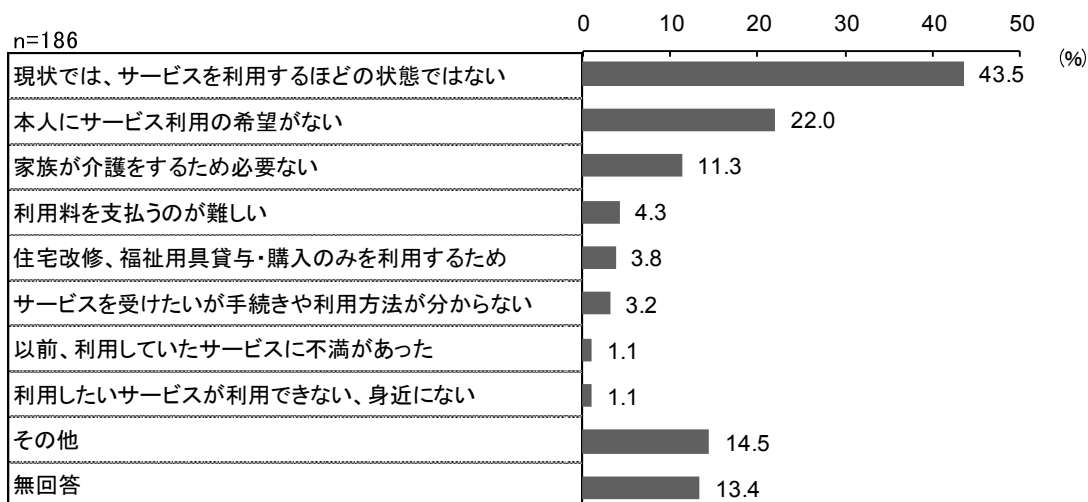
図表 V. 1. 1 4 住宅改修、福祉用具貸与・購入以外の介護保険サービスの利用状況



⑫介護保険サービスを利用していない理由

介護保険サービスを利用していない理由は、「現状では、サービスを利用するほどの状態ではない」が 43.5%と最も高く、次いで「本人にサービス利用の希望がない」(22.0%)、「その他」(14.5%)、「家族が介護をするため必要ない」(11.3%)となっている。

図表 V. 1. 1 5 介護保険サービスを利用していない理由 (複数回答)
【ベース：介護保険サービス利用なし】



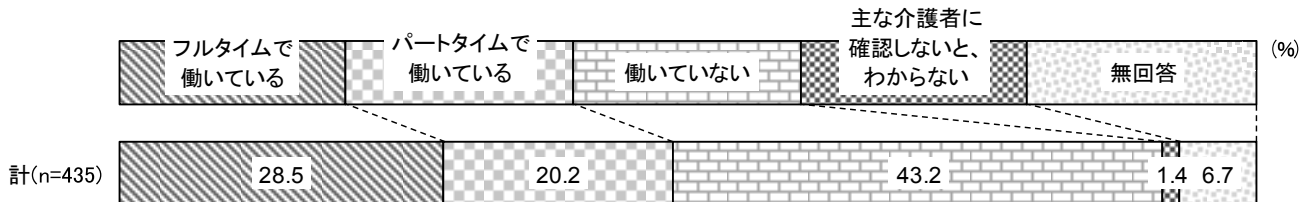
2 B 票

(1) 主な介護者について

①主な介護者の現在の勤務形態

主な介護者の現在の勤務形態は、「働いていない」が 43.2%と最も高く、次いで「フルタイムで働いている」(28.5%)、「パートタイムで働いている」(20.2%) となっている。

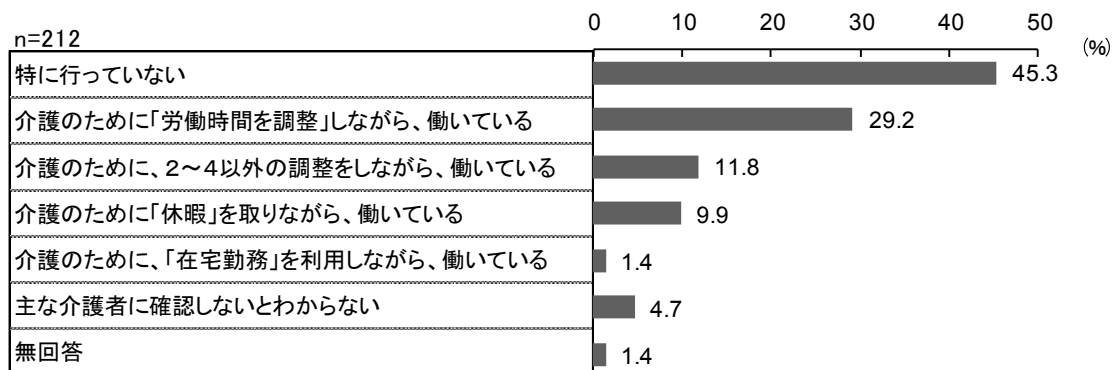
図表 V. 2. 1 主な介護者の現在の勤務形態【ベース：勤労者】



②主な介護者は、介護にあたり働き方の調整等をしているか

主な介護者は、介護にあたり働き方の調整等をしているかについては、「特に行っていない」が 45.3%と最も高く、次いで「介護のために「労働時間を調整」しながら、働いている」(29.2%)、「介護のために、2～4以外の調整をしながら、働いている」(11.8%) となっている。

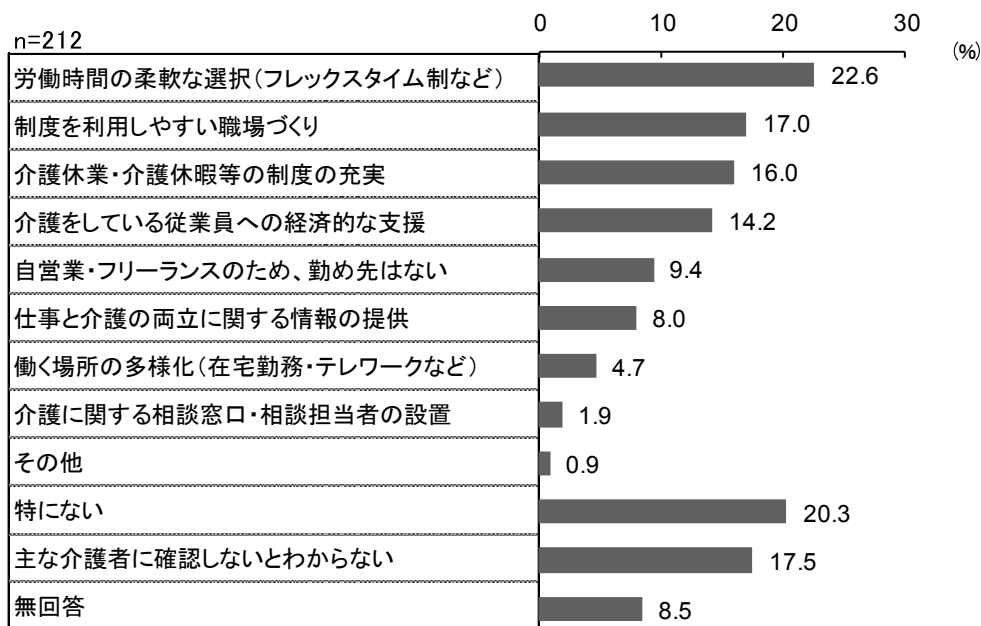
図表 V. 2. 2 主な介護者は、介護にあたり働き方の調整等をしているか（複数回答）【ベース：介護者は勤労者】



③主な介護者が仕事と介護の両立をするのに効果があると思われる勤め先からの支援

主な介護者が仕事と介護の両立に効果があると考えている勤め先からの支援は、「労働時間の柔軟な選択（フレックスタイム制など）」が 22.6%と最も高く、次いで「制度を利用しやすい職場づくり」（17.0%）、「介護休業・介護休暇等の制度の充実」（16.0%）となっている。一方、「特になし」は 20.3%となっている。

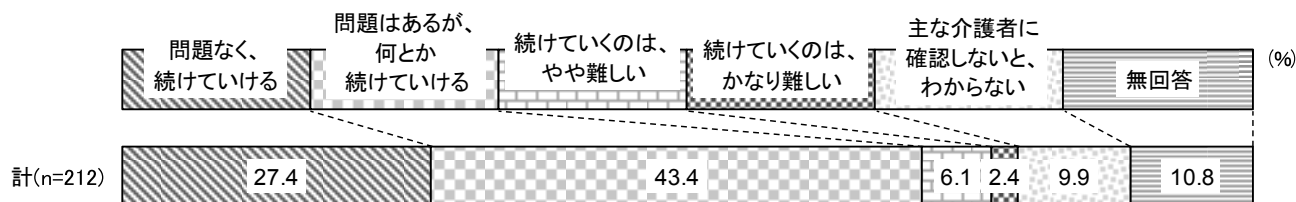
図表 V. 2. 3 主な介護者が仕事と介護の両立をするのに効果があると思われる勤め先からの支援（複数回答）【ベース：介護者は勤労者】



④主な介護者は今後も働きながら介護を続けていけそうか

主な介護者に今後も働きながら介護を続けていけそうかたずねたところ、「問題はあるが、何とか続けていける」が 43.4%と最も高く、次いで「問題なく、続けていける」(27.4%)、「主な介護者に確認しないと、わからない」(9.9%)となっている。

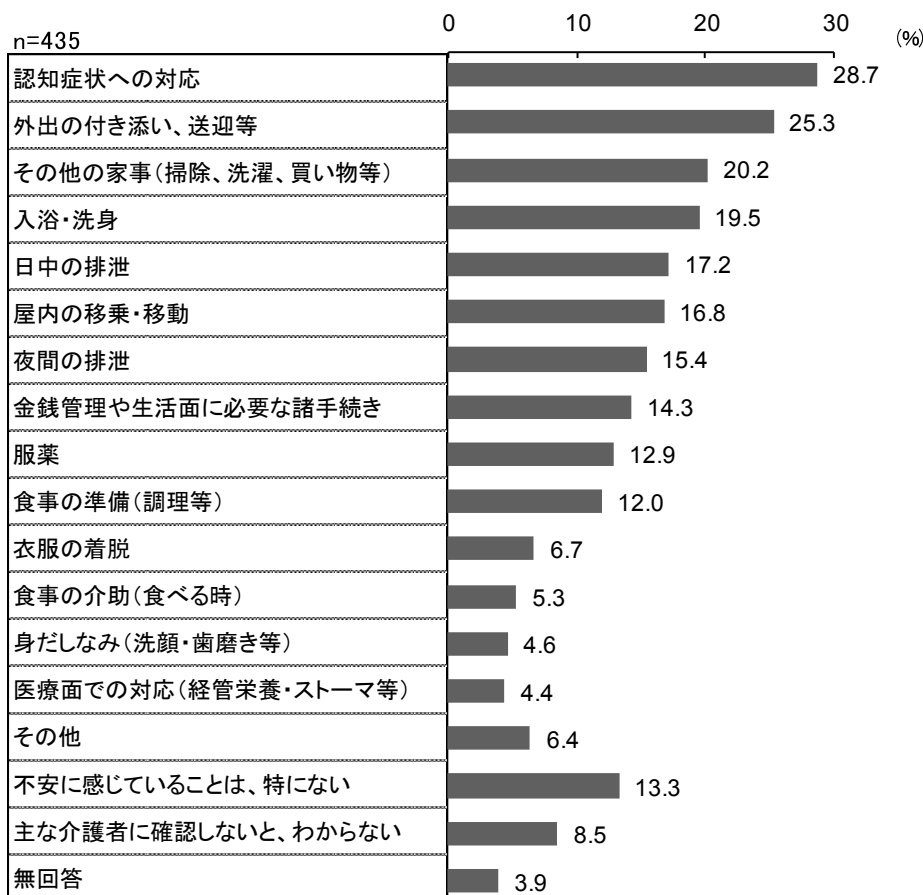
図表 V. 2. 4 主な介護者は今後も働きながら介護を続けていけそうか【ベース：介護者は勤労者】



⑤現在の生活を継続していくにあたって、主な介護者が不安を感じる介護

現在の生活を継続していくにあたって、主な介護者が不安を感じる介護は、「認知症状への対応」が28.7%と最も高く、次いで「外出の付き添い、送迎等」(25.3%)、「その他の家事(掃除、洗濯、買い物等)」(20.2%)となっている。一方、「不安を感じていることは、特にない」は13.3%となっている。

図表Ⅴ.2.5 現在の生活を継続していくにあたって、主な介護者が不安を感じる介護(複数回答)
【ベース：勤労者】



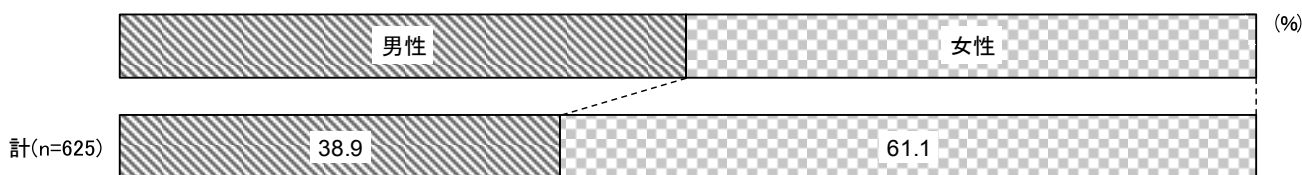
(2) 被介護者の性別、年齢等

被保険者番号より本人の性別・年齢および認定調査における前回と今回の要介護度データを調査結果に付与し、分析を行った。単純集計結果は以下の通りである。

①性別【被介護者(介護を受けている人)】

被介護者の性別は、「男性」が38.9%、「女性」が61.1%となっている。

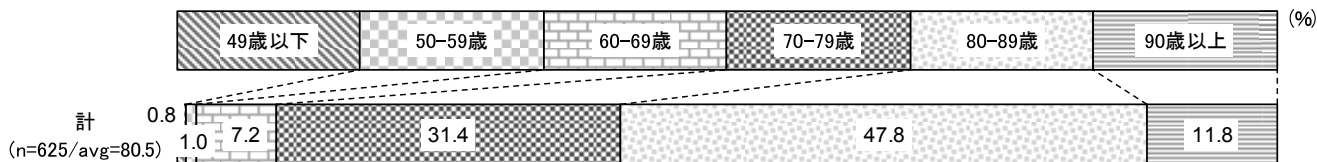
図表Ⅴ.2.6 性別【被介護者(介護を受けている人)】



②年齢【被介護者（介護を受けている人）】

被介護者の年齢は、「80-89歳」が47.8%と最も高く、次いで「70-79歳」(31.4%)、「90歳以上」(11.8%)となっている。

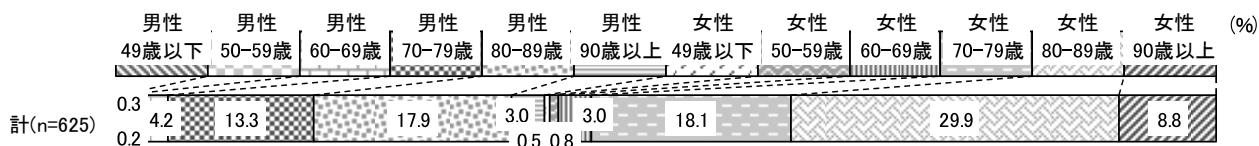
図表 V. 2. 7 年齢



③性年代【被介護者（介護を受けている人）】

被介護者を性年代別で見ると、「女性 80-89歳」が29.9%と最も高く、次いで「女性 70-79歳」(18.1%)、「男性 80-89歳」(17.9%)となっている。

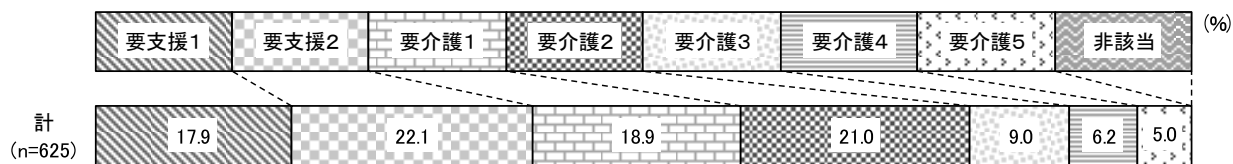
図表 V. 2. 8 性年代



④要介護度（前回）

前回の要介護度は、「要支援2」が22.1%と最も高く、次いで「要介護2」(21.0%)、「要介護1」(18.9%)となっている。

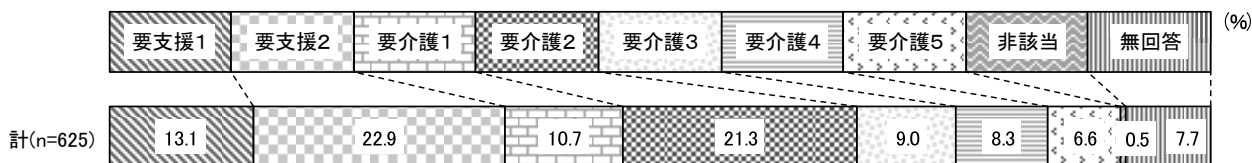
図表 V. 2. 9 要介護度_前回



⑤要介護度（今回）

今回の要介護度は、「要支援2」が22.9%と最も高く、次いで「要介護2」(21.3%)、「要支援1」(13.1%)となっている。

図表 V. 2. 10 要介護度_今回



資料編 (調査票)

1 介護予防・日常生活圏域ニーズ調査

1 水色

介護予防・日常生活圏域ニーズに関する調査
～ご協力をお願いします～

皆様にはますますご健勝のこととお慶び申し上げます。
日頃から足立区の高齢者施策にご理解とご協力を賜り厚くお礼申し上げます。
本区では、平成 29 年度に「足立区高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画」の見直しを行います。

今回、計画の見直しにあたり、高齢者福祉に関する皆さまのお考えやご意見を伺いするものです。いただいたお考えやご意見は、高齢者保健福祉計画策定にあたっての貴重な資料とさせていただきます。

ご多忙のところ、誠に恐縮ではございますが、何卒ご協力くださいますようお願い申し上げます。

平成 28 年 11 月吉日

【ご記入にあたってのお願い】

1. この調査の対象者は、平成 28 年 11 月 1 日現在、**65 歳以上の方です (要介護 1 ～5の方を除く)**。
2. 回答は宛名ラベルの本人についてご記入をお願いします。もし、ご本人がご記入などに不都合があるときは、ご家族の方が代わりにご記入をお願いします。
3. 回答にあたっては、質問をよくお読みいただき、該当する番号を〇で囲んでください。また、必要に応じて、数字やご意見のご記入をお願いします。
4. ご記入いただいたアンケートは、**12月16日(金)まで**に同封の返信用封筒にてご返送ください。(切手は不要です)
5. この調査についてのお問い合わせは下記までお願いいたします。

* 今回の調査は、高齢福祉課と介護保険課で共同して実施していますので、返信用封筒のあて名は、「介護保険課」となっています。

* この調査票は、無記名式となっています。お名前をご記入いただく必要はありません。返信用封筒にも、ご住所、お名前をご記入いただく必要はありません。

調査結果は、統計的に処理します。お答えいただいた個人のお考えが公表されることはありません。

【お問い合わせ先】

- ・提出方法等一般的なお問い合わせ
お問い合わせコール あだち
03-3880-0039
(受付時間：午前8時～午後8時/年中無休)

- ・調査項目等に関する個別のお問い合わせ
【調査主体】足立区 福祉部 高齢福祉課 高齢調整係
03-3880-5886 (直通)
(受付時間：土・日・祝日を除く午前8時30分～午後5時)



問3 あなたは現在、要介護認定を受けていますか。(○は1つ)

1. 受けている (要支援1・要支援2) 2. 受けている (要介護1～5) 3. 受けていない

問3で「2. 受けている (要介護1～5)」に○を付けた方は、これで質問は終了です。ありがとうございました。なお、区へのご意見、ご要望がありましたら、問40にご記入の上、投函してください。

問4 あなたのご家族や生活状況について

(1) 家族構成をお教えください。(○は1つ)

1. 1人暮らし 4. 息子・娘との2世帯
2. 夫婦2人暮らし(配偶者65歳以上) 5. その他
3. 夫婦2人暮らし(配偶者64歳以下)

【問4(1)で「5. その他」の方のみ】

(1)-1 あなたと一緒に住まいのご家族はどなたですか。(○はいくつでも)

1. 配偶者(夫または妻) 3. 子の配偶者 5. 親 7. その他
2. 子 4. 孫 6. 兄弟・姉妹 ()

(2) あなたは、普段の生活でどなたかの介護・介助が必要ですか。(○は1つ)

1. 介護・介助は必要ない
2. 何らかの介護・介助は必要だが、現在は受けていない
3. 現在、何らかの介護を受けている

(介護認定を受けずに家族などの介護を受けている場合も含む)

【問4(2)において「2. 何らかの介護・介助は必要だが、現在は受けていない」「3. 現在、何らかの介護を受けている」の方のみ】

(2)-1 介護・介助が必要になった主な原因は何ですか。(○はいくつでも)

1. 脳卒中(脳出血・脳梗塞等) 6. 認知症(アルツハイマー病等) 11. 骨折・転倒
2. 心臓病 7. パーキンソン病 12. 背椎損傷
3. がん(悪性新生物) 8. 糖尿病 13. 高齢による衰弱
4. 呼吸器の病気(肺炎腫・肺炎等) 9. 腎疾患(透析) 14. その他
5. 関節の病気(リウマチ等) 10. 視覚・聴覚障害 () 15. 不明

【問4(2)において「2. 何らかの介護・介助は必要だが、現在は受けていない」「3. 現在、何らかの介護を受けている」の方のみ】

(2)-2 主にどなたから介護・介助を受けていますか。(○はいくつでも)

1. 配偶者(夫・妻) 4. 子の配偶者 7. 介護サービスのヘルパー
2. 息子 5. 孫 8. その他 ()
3. 娘 6. 兄弟・姉妹

記入日	平成28年 月 日				
この調査票を記入されたのはどなたですか。○をつけてください。					
1. あて名のご本人が記入					
2. ご家族が記入(あて名のご本人から見た続柄)					
1. 配偶者	2. 子	3. 子の配偶者	4. 孫	5. 兄弟姉妹	6. 親
3. その他(友人知人、訪問介護員等)					

はじめに、あなた(あて名のご本人)ご自身について、おたずねします

問1 あなたの性別・年齢をおたずねします。

【性別】(○は1つ)

1. 男性 2. 女性

【年齢】(平成28年11月1日現在)

()歳 (数字で記入)

問2 お住まいの地区は次のうちどれですか。(○は1つ)

1. 北西地区
伊興、伊興本町、入谷、加賀、栗原、江北6～7丁目、古千谷、古千谷本町、血沼、鹿浜、島根、竹の家、椿2丁目、舎人、西新井、西伊興、西竹の家、西保木間、東伊興、谷在家、六甲
2. 北東地区
大谷田、加平2～3丁目、北加平町、佐野、神明、神明南、辰沼、西加平、花畑、東保木間、東六甲町、一ツ家、平野、保木間、保塚町、南花畑、六甲、台中3～5丁目、六甲
3. 南西地区
梅田、梅島、扇、興野、小台、江北1～5丁目、新田、関原、椿1丁目、西新井栄町、西新井本町、堀之内、宮城、本木、本木東町、本木西町、本木北町
4. 南東地区
青井、足立、綾瀬、加平1丁目、5&道、中央本町、実和、中川、西綾瀬、東綾瀬、谷中1～2丁目
5. 千住地区
千住、千住東、千住曙町、千住旭町、千住大川町、千住河原町、千住寿町、千住桜木、千住関原町、千住龍田町、千住中居町、千住仲町、千住橋戸町、千住緑町、千住宮元町、千住元町、千住柳町、日ノ出町、柳原

(3) 現在の暮らしの状況を経済的にみてどう感じていますか。(〇は1つ)

1. 大変苦しい	3. ぶつう	5. 大変ゆとりがある
2. やや苦しい	4. ややゆとりがある	

(4) お住まいは一戸建て、または集合住宅のどちらですか。(〇は1つ)

1. 持家 (一戸建て)	5. 民間賃貸住宅 (集合住宅)
2. 持家 (集合住宅)	6. 借家
3. 公営賃貸住宅	7. その他
4. 民間賃貸住宅 (一戸建て)	

問5 からだを動かすことについて

(1) 階段をすすりや壁をつたわらずに昇っていますか。(〇は1つ)

1. できるし、している	2. できるけれどしていない	3. できない
--------------	----------------	---------

(2) 椅子に座った状態から何もつかまらずに立ち上がっていますか。(〇は1つ)

1. できるし、している	2. できるけれどしていない	3. できない
--------------	----------------	---------

(3) 15分位続けて歩いていますか。(〇は1つ)

1. できるし、している	2. できるけれどしていない	3. できない
--------------	----------------	---------

(4) 過去1年間に転んだ経験がありますか。(〇は1つ)

1. 何度もある	2. 1度ある	3. ない
----------	---------	-------

(5) 転倒に対する不安は大きいですか。(〇は1つ)

1. とても不安である	2. やや不安である	3. あまり不安ではない	4. 不安ではない
-------------	------------	--------------	-----------

(6) 週に1回以上は外出していますか。(〇は1つ)

1. ほとんど外出しない	2. 週1回	3. 週2~4回	4. 週5回以上
--------------	--------	----------	----------

(7) 昨年と比べて外出の回数が減っていますか。(〇は1つ)

1. とても減っている	2. 減っている	3. あまり減っていない	4. 減っていない
-------------	----------	--------------	-----------

(8) 外出を控えていますか。(〇は1つ)

1. はい	2. いいえ
-------	--------

【問5 (8) で「1. はい」(外出を控えている)の方のみ】

(8)-1 外出を控えている理由は、次のどれですか。(〇はいくつでも)

1. 病氣 (しょうがい、のちちゅうやう、くまひ、よし、しんじょう、など)	5. 耳の障害 (聞こえの間題など)	8. 経済的に出られない
2. 障害 (脳卒中の後遺症など)	6. 目の障害	9. 交通手段がない
3. 足腰などの痛み	7. 外での楽しみがない (トイシレの心配(失禁など))	10. その他 ()

(9) 外出する際の移動手段は何ですか。(〇はいくつでも)

1. 徒歩	6. 電車	11. 歩行器・シルバーカー
2. 自転車	7. 路線バス	12. タクシー
3. バイク	8. 病院や施設のバス	13. その他 ()
4. 自動車 (自分で運転)	9. 車いす	
5. 自動車 (人に乗せてもらう)	10. 電動車いす(カート)	

問6 食べることについて

(1) 身長・体重をご記入ください。

身長	<input type="text"/>	cm	体重	<input type="text"/>	kg
----	----------------------	----	----	----------------------	----

(2) 半前に比べて固いものが食べにくくなりましたか。(〇は1つ)

1. はい	2. いいえ
-------	--------

(3) お茶や汁物等でむせることがありますか。(〇は1つ)

1. はい	2. いいえ
-------	--------

(4) 口の渇きが気になりますか。(〇は1つ)

1. はい	2. いいえ
-------	--------

(5) 歯磨き(人にしてもらう場合も含む)を毎日していますか。(〇は1つ)

1. はい	2. いいえ
-------	--------

(6) 歯の数と入れ歯の利用状況をお教えください。(○は1つ)
 (*成人の歯の総本数は、親知らずを含めて32本です)

1. 自分の歯は20本以上、かつ入れ歯を利用 3. 自分の歯は19本以下、かつ入れ歯を利用
 2. 自分の歯は20本以上、入れ歯の利用なし 4. 自分の歯は19本以下、入れ歯の利用なし

(6) -1 噛み合わせは良いですか。(○は1つ)

1. はい 2. いいえ

(6) -2 【入れ歯を利用している方のみ】

毎日入れ歯の手入れをしていますか。(○は1つ)

1. はい 2. いいえ

(7) 6か月間で2～3kg以上の体重減少がありましたか。(○は1つ)

1. はい 2. いいえ

(8) どなたかと食事をともにする機会はありますか。(○は1つ)

1. 毎日ある 3. 月に何度かある 5. ほとんどない
 2. 週に何度かある 4. 年に何度かある

問7 毎日の生活について

(1) 物忘れが多いと感じますか。(○は1つ)

1. はい 2. いいえ

(2) 自分で電話番号を調べて、電話をかけることをしていますか。(○は1つ)

1. はい 2. いいえ

(3) 今日が何月何日かわからない時がありますか。(○は1つ)

1. はい 2. いいえ

(4) バスや電車をを使って1人で外出していますか(自家用車でも可)。(○は1つ)

1. できるし、している 2. できるけれどしていない 3. できない

(5) 自分で食品・日用品の買物をしていますか。(○は1つ)

1. できるし、している 2. できるけれどしていない 3. できない

(6) 自分で食事の用意をしていますか。(○は1つ)

1. できるし、している 2. できるけれどしていない 3. できない

(7) 自分で請求書の支払いをしていますか。(○は1つ)

1. できるし、している 2. できるけれどしていない 3. できない

(8) 自分で預貯金の出し入れをしていますか。(○は1つ)

1. できるし、している 2. できるけれどしていない 3. できない

(9) 年金などの書類(役所や病院などに出す書類)が書けますか。(○は1つ)

1. はい 2. いいえ

(10) 新聞を読んでいますか。(○は1つ)

1. はい 2. いいえ

(11) 本や雑誌を読んでいますか。(○は1つ)

1. はい 2. いいえ

(12) 健康についての記事や番組に関心がありますか。(○は1つ)

1. はい 2. いいえ

(13) 友人の家を訪ねていますか。(○は1つ)

1. はい 2. いいえ

(14) 家族や友人の相談にのっていますか。(○は1つ)

1. はい 2. いいえ

(15) 病人を見舞うことができずか。(○は1つ)

1. はい 2. いいえ

(16) 若い人に自分から話しかけることがありますか。(○は1つ)

1. はい 2. いいえ

(17) 趣味はありますか。(○は1つ)

1. 趣味あり⇒ () 2. 趣味がない

(18) 生きがいがありますか。(○は1つ)

1. 生きがいあり⇒ () 2. 生きがいがない

問8 地域での活動について

(1) 以下のような会・グループ等にとどのくらいの頻度で参加していますか。

※④ - ⑦それぞれに回答してください。(それぞれ〇は1つ)

	週4回 以上	週2 ~3回	週1回	月1 ~3回	年に 数回	参加して いない
① ボランティアのグループ	1	2	3	4	5	6
② スポーツ関係のグループや クラブ	1	2	3	4	5	6
③ 趣味関係のグループ	1	2	3	4	5	6
④ 学習・教養サークル	1	2	3	4	5	6
⑤ 老人クラブ	1	2	3	4	5	6
⑥ 町内会・自治会	1	2	3	4	5	6
⑦ 収入のある仕事	1	2	3	4	5	6

(2) 地域住民の有志によって、健康づくり活動や趣味等のグループ活動を行って、いきいきした地域づくりを進めるとしたら、あなたはその活動に参加者として参加してみたいと思いますか。(〇は1つ)

1. 是非参加したい 2. 参加してもよい 3. 参加したくない

【(2)で「3. 参加したくない」の方のみ】

(2)-1 参加したくない理由を教えてください。(〇はいくつでも)

1. 地域住民との交流が苦手 2. 多忙で時間が無い 3. 健康に不安がある
4. その他 ()

(3) 地域住民の有志によって、健康づくり活動や趣味等のグループ活動を行って、いきいきした地域づくりを進めるとしたら、あなたはその活動に企画・運営(お世話役)として参加してみたいと思いますか。(〇は1つ)

1. 是非参加したい 2. 参加してもよい 3. 参加したくない

問9 たすけあいについて

あなたとまわりの人の「たすけあい」についておうかがいします。

(1) あなたの心配事や愚痴(ぐち)を聞いてくれる人はいいますか。(〇はいくつでも)

1. 配偶者 3. 別居の子ども 5. 近隣 7. その他 ()
2. 同居の子ども 4. 兄弟姉妹・親戚・親・孫 6. 友人 8. そのような人はいない

(2) 反対に、あなたが心配事や愚痴(ぐち)を聞いてあげる人はいいますか。(〇はいくつでも)

1. 配偶者 3. 別居の子ども 5. 近隣 7. その他 ()
2. 同居の子ども 4. 兄弟姉妹・親戚・親・孫 6. 友人 8. そのような人はいない

(3) あなたが病気で数日間寝込んだときに、看病や世話をしてくれる人はいいますか。(〇はいくつでも)

1. 配偶者 3. 別居の子ども 5. 近隣 7. その他 ()
2. 同居の子ども 4. 兄弟姉妹・親戚・親・孫 6. 友人 8. そのような人はいない

(4) 反対に、(あなたが)看病や世話をしあける人はいいますか。(〇はいくつでも)

1. 配偶者 3. 別居の子ども 5. 近隣 7. その他 ()
2. 同居の子ども 4. 兄弟姉妹・親戚・親・孫 6. 友人 8. そのような人はいない

(5) 家族や友人・知人以外で、何かあったときに相談する相手を教えてください。(〇はいくつでも)

1. 自治会・町内会・老人クラブ 5. 地域包括支援センター・役所
2. 社会福祉協議会・民生委員 6. その他 ()
3. ケアマネジャー 7. そのような人はいない
4. 医師・歯科医師・看護師

(6) 友人・知人と会う頻度はどれくらいですか。(〇は1つ)

1. 毎日ある 3. 月に何度かある 5. ほとんどない
2. 週に何度かある 4. 年に何度かある

(7) この1か月間、何人の友人・知人と会いましたか。
同じ人には何回会っても1人と数えることとします。(〇は1つ)

1. 0人(いない) 3. 3~5人 5. 10人以上
2. 1~2人 4. 6~9人

(8) よく会う友人・知人はどんな関係の人ですか。(〇はいくつでも)

1. 近所・同じ地域の人 4. 仕事での同僚・元同僚 7. その他
2. 幼なじみ 5. 趣味や関心が同じ友人 8. いない
3. 学生時代の友人 6. ボランティア等の活動での友人

問10 健康について

(1) 現在のあなたの健康状態はいかがですか。(〇は1つ)

1. とてもよい 2. まあよい 3. あまりよくない 4. よくない

(2) あなたは、現在のどの程度幸せですか。

(「とても不幸」を0点、「とても幸せ」を10点として、あてはまる点数に〇をお付けください)

とても不幸 0点 1点 2点 3点 4点 5点 6点 7点 8点 9点 10点
とても幸せ

(3) この1か月間、気分が沈んだり、ゆううつな気持ちになったりすることがありましたか。(〇は1つ)

1. はい 2. いいえ

(4) この1か月間、どうしても物事に対して興味がかわかない、あるいは心から楽しい感じがよくありませんでしたか。(〇は1つ)

1. はい 2. いいえ

問15 あなたは、医療機関（病院・医院・診療所）にはどのくらいの頻度で、通院や住診を受けた
りしていますか。（○は1つ）

1. 週2回以上	3. 月2回程度	5. 数か月に1回程度
2. 週1回程度	4. 月1回程度	6. 定期的ではない

買物についておたずねします

問16 日常用品を買物する場合、どのような店を利用しますか。（○は2つまで）

1. 大型商業施設	5. コンビニエンスストア
2. 近隣のスーパーマーケット	6. 移動販売車
3. ドラッグストア	7. その他
4. 商店街のお店	()

問17 インターネットによる買物を利用していますか。（○は1つ）

1. 利用している	2. 利用していない
-----------	------------

問18 宅配サービスによる買物を利用していますか。（○は1つ）

1. 利用している	2. 利用していない
-----------	------------

問19 日常用品を買物する所（お店）は自宅からどれくらいかかりですか。（○は1つ）

1. 自宅から歩いて10分以内	4. その他（ ）分位
2. 自宅から歩いて20分以内	5. わからない
3. 自宅から歩いて30分以内	

問20 日常用品の買物について不便を感じていますか。（○は1つ）

1. 感じる	2. 感じない
--------	---------

← 問20-1ハ →

問20で「1. 感じる」と回答された方にお聞きします。

問20-1 不便を感じていることは、特にとどのようなことですか。（○はいくつでも）

1. 歩いて行ける距離に日常用品のお店がない
2. バス等の交通手段がない
3. 日常用品を配達してくれるお店がない
4. 重い物が持てないため、一度に少量しか購入できない
5. 体力的に買物に行くのがきつい
6. 家族が日中不在なので、必要な時に買物を頼めない
7. その他（ ）

(5) お酒は飲みますか。（○は1つ）

1. ほぼ毎日飲む	2. 時々飲む	3. ほとんど飲まない	4. ちととも飲まない
-----------	---------	-------------	-------------

(6) タバコは吸っていますか。（○は1つ）

1. ほぼ毎日吸っている	3. 吸っていたがやめた
2. 時々吸っている	4. ちととも吸っていない

(7) 現在治療中、または後遺症のある病気はありますか。（○はいくつでも）

1. ない	7. 呼吸器の病気（肺炎や気管支炎等）	14. うつ病
2. 高血圧	8. 胃腸・肝臓・胆のうの病気	15. 認知症（アルツハイマー病等）
3. 脳卒中	9. 腎臓・前立腺の病気	16. パーキンソン病
（脳出血・脳梗塞等）	10. 筋骨格の病気	17. 目の病気
4. 心臓病	（骨粗しょう症、関節症等）	18. 耳の病気
（とうによりぼう	11. 外傷（転倒・骨折等）	19. その他
5. 糖尿病	12. がん（悪性新生物）	()
6. 高脂血症	13. 血液・免疫の病気	
（脂質異常）		

健康と医療についておたずねします

問11 あなたは、自分を高齢者だと思いますか。（○は1つ）

1. はい	2. いいえ
-------	--------

問12 あなたは、高齢者は何歳からだと思いますか。

() 歳	（数字で記入）
-------	---------

問13 あなたは、いくつまで健康（介護を受けない状態）に過ごしたいですか。

() 歳	（数字で記入）
-------	---------

問14 あなたは、日常の健康について相談するかかりつけの医師はいますか。（○は1つ）

1. 近くにいる	3. 今はいないが、必要と思っている
2. 近くではないがいる	4. 必要と思わない

問25 消費者被害にあったときの相談先として、「消費者センター」がありますが、ご存知ですか。
(○は1つ)

1. 知っている 2. 相談したことがある 3. 知らない

将来の生活についておたずねします

問26 あなたは、今後の生活についてどのように感じていますか。(○は1つ)

1. とても不安を感じる 4. あまり不安は感じない

2. 少し不安を感じる 5. 不安は感じない

3. どちらとも言えない

問26-1△

問26で「1. とても不安を感じる」または、「2. 少し不安を感じる」と回答された方にお聞きします。

問26-1 不安を感じるのとはどのようなことですか。(○はいくつでも)

1. 自分や配偶者の健康のこと

2. 自分や配偶者が、介護が必要な状態(寝たきりなど)になること

3. 頼れる人や面倒をみてくれる人のこと

4. 相談相手や話し相手のこと

5. 生活費など収入のこと

6. 住まいのこと

7. 金銭管理や財産保全に関すること

8. その他 ()

問27 あなたは、介護が必要になったとき、どのような介護を希望しますか。(○は1つ)

1. 介護サービスを利用しないで、自宅で家族に介護してもらいたい

2. 介護サービスを利用しながら、自宅で生活したい

3. 特別介護老人ホームなど介護保険施設等(※1)に入りたい

4. サービス付き高齢者向け住宅(※2)で生活したい

5. その他 ()

問27-1△ 次頁 問27-2△

※1「介護保険施設等」とは、問27-2(次頁)施設の種類の欄のAからCに記載のある施設です。
※2「サービス付き高齢者向け住宅」とは、安否確認や生活相談等、高齢者の安心を支えるサービスを提供するバリアフリー構造の住宅です。

問27で「1」「2」と回答された方にお聞きします。

問27-1 あなたは、どなたに介護してもらいたいですか。(○はいくつでも)

1. 妻または夫 4. ホームヘルパー等

2. 子どもやその家族 5. 近所の人やボランティア

3. 兄弟などの親族 6. その他 ()

あなたの日々の生活についておたずねします

問21 災害時の避難場所を知っていますか。(○は1つ)

1. はい 2. いいえ

問22 災害時に避難場所へひとりで行くことができますか。(○は1つ)

1. はい 2. いいえ

問23 銭湯についてお聞きします。銭湯を利用しますか。(○は1つ)

1. はい 2. いいえ

問23-1△ 問23-2△

問23で「1. はい」と回答された方にお聞きします。

問23-1 「ゆ〜ゆ〜湯入浴証」を利用していますか。(○は1つ)

1. はい 2. いいえ

3. 70歳未満(ゆ〜ゆ〜湯入浴証の対象者は70歳以上です)

問23で「2. いいえ」と回答された方にお聞きします。

問23-2 利用しない理由は何か。(○は1つ)

1. 家に風呂があるため 3. 料金が高いため

2. 近くに銭湯がないため 4. その他 ()

問24 あなたは、消費者被害やオレオレ詐欺にあったことがありますか。(○は1つ)

1. ある 2. あるかもしれない 3. ない

問24-1△

問24で「1. ある」「2. あるかもしれない」と回答された方にお聞きします。

問24-1 どんな被害にあいましたか。(○はいくつでも)

1. 訪問販売 5. 古着や貴金属の買取

2. 電話勧誘販売 6. オレオレ詐欺

3. インターネットのフィッシング詐欺※や通販詐欺 7. その他

4. アダルトサイトのワンクリック詐欺 ()

※フィッシング詐欺とは、銀行等の企業を装ってメールを送り、メールの受信者に、実在する企業の偽ホームページにアクセスさせて、そのページにおいてクレジットカード番号やID・パスワード等を入力させるとして、不正に個人情報等を入力する行為をいいます。

問27で「3. 介護保険施設等に入りたい」と回答された方にお聞きします。

問27-2 介護を受けられる施設には、次のような施設がありますが、あなたは、どのような施設を望んでいますか。(○は1つ)

施設の種類	サービスの内容	利用したい番号に○
ア 介護老人福祉施設 (特別養護老人ホーム)	常に介護が必要で自宅では介護が困難な人のための施設です。(要介護3～5が対象)	1 個室 2 多床室
イ 介護老人保健施設 (老人保健施設)	病状が安定し、治療よりは看護や介護に重点を置いたケアが必要な人のための施設です。(要介護1～5が対象)	3
ウ 介護療養型医療施設 (療養病床等)	長期の療養を必要とする人のための医療施設です。医療や看護、介護等受けられます。(要介護1～5が対象)	4
エ 認知症対応型共同生活介護 (グループホーム)	認知症の方が共同で生活しながら、食事・入浴などの介護や支援、機能訓練が受けられます。(要支援2、要介護1～5が対象)	5
オ 特定施設入居者生活介護 (有料老人ホーム等)	入浴や食事、介護など日常生活に必要なサービスが受けられます。	6
カ 軽費老人ホーム (ケアハウス)	自立した生活が継続できるように、食事や必要最低限の介助を提供する予定です。	7

問28 あなたの家族等に介護が必要となった場合、どのようにしたいと思いますか。(○は1つ)

1. 介護サービスを利用しないで、自宅で介護したい
 2. 介護サービスを利用しながら、自宅で介護したい
 3. 特別養護老人ホームなどの介護保険施設に入所させたい
 4. サービス付き高齢者向け住宅に入居させたい
 5. 介護の対象となる家族等がいない
 6. その他 ()

介護保険サービスについておたずねします

問29 あなたは、これまでに介護保険の要介護認定を申請したことがありますか。(○は1つ)

1. 申請したことはないし、申請する予定もない
 2. 現在申請中、または申請する予定である
 3. 申請したが「自立」と判定された
 4. 申請して要支援や要介護と認定されたことがある
 5. わからない

問30 あなたは、家族等の介護をした経験はありますか。(○は1つ)

1. 現在介護をしている
 2. 以前は介護をしていたが現在はしていない
 3. 今まで介護をしたことがない

問31 高齢者の増加等により今後ますます介護が必要なる方が多くなると予測されます。介護サービスの利用が多くなれば、その分介護保険の財源が必要となります。あなたは、介護保険のサービス水準と保険料についてどのように考えますか。(ひとつだけに○)

1. 平均的なサービスで、平均的な保険料がいい
 2. サービスは充実していなくても保険料が安い方がいい
 3. 保険料は高くてもサービスが充実している方がいい

高齢者福祉サービス(介護保険を含む)などについておたずねします

問32 現在、区内には、高齢者の介護や生活上の相談等を受ける地域包括支援センターがあります。ご存知ですか。(○は1つ)

1. 知っている 2. 知らない

問32-1ア 問32-1ハ 問32-1ハ

問32で「1. 知っている」と回答された方にお聞きします。

問32-1 地域包括支援センターでは下記の業務を行っています。ご存知のものに○を付けて下さい。(○はいくつでも)

1. 介護保険制度の説明・要介護認定申請援助
 2. 福祉サービス案内(あだち配食サービス、緊急通報システムの設置等)
 3. 介護と福祉の総合相談
 4. 介護保険施設利用に関する相談
 5. 要支援認定者への介護サービス利用の支援
 6. 成年後見制度の利用支援
 7. 虐待への対応
 8. 介護予防事業
 9. 認知症サポーター養成講座の開催
 10. 認知症見守り体制の整備
 11. 高齢者世帯への訪問調査
 12. 絆のあんしん協力員による定期的な声かけ、見守り
 13. わからない

問33 身近なくらしの情報をどのように入手しますか。(○はいくつでも)

1. 区役所・区民事務所・保健所等の窓口・掲示板、チラシ 7. 家族
 2. あだち広報 8. 友人・知人
 3. 新聞・雑誌 9. 民生・児童委員
 4. テレビ・ラジオ 10. 地域包括支援センター
 5. 区ホームページ 11. その他 ()
 6. インターネット

問37 足立区ではひとり暮らし高齢者や高齢者世帯を対象に、「孤立ゼロプロジェクト～絆のあんしんネットワーク～」(*)の取り組みを実施していますが、ご存知ですか。(○は1つ)

* 「孤立ゼロプロジェクト～絆のあんしんネットワーク～」とは、地域包括支援センターを中核として、区民ボランティアの「あんしん協力員」、商店や老人クラブその他の機関等で登録した「絆のあんしん協力機関」、民生委員が連携し、支援が必要な高齢者を早期に発見し、見守りや声かけを行ったり、適切なサービスにつなげていく制度です。

1. 取り組み内容を知っている	
2. 聞いたことはあるが、取り組み内容は知らない	
3. 知らない	

問38 あなたは、足立区の高齢者施策についてどのように感じていますか。(○は1つ)

1. とても充実している	4. あまり充実していない
2. 充実している	5. 充実していない
3. どちらとも言えない	6. わからない

問39 あなたは、足立区に対してどのような高齢者施策の充実をお望みですか。(○はいくつでも)

1. 仕事の紹介等の施策の充実	
2. 生涯学習・スポーツなどの生きがい施策の充実	
3. ボランティア・地域活動等の社会活動の支援	
4. ひとり暮らし高齢者に対する援助	
5. 高齢者向け住宅の整備	
6. 高齢者虐待防止対策の充実	
7. 健康づくり施策の充実	
8. 介護予防施策の充実	
9. 認知症予防施策の充実	
10. 介護保険サービスの充実	
11. 介護保険外サービスの充実	
12. 介護保険施設等の新設	
13. 在宅生活を続けるための支援	
14. 家族等の介護者に対する援助	
15. 高齢者が気軽に集まることのできる場の提供	
16. 福祉や生活にかかわる相談体制の整備	
17. その他 ()	

問34 認知症サポーター(*)の活動についてご存知ですか。(○は1つ)

* 認知症サポーターとは、認知症に関する正しい知識と理解を持ち、地域や職場で認知症の人やその家族を支援する人のことをいいます。

1. 活動内容を知っている	
2. 聞いたことはあるが、活動内容は知らない	
3. 知らない	

問35 足立区には次のようなサービスがありますが、あなたは現在利用していますか。また利用していない方は、そのサービスをご存知ですか。(○はそれぞれ1つずつ)

	利用している (したことがある)	知っているが 利用したこと はない	知らない
① 日常生活用具の給付 在宅で脆弱な方に外出の支援としてシルバーカーなどを給付	1	2	3
② 高齢者住宅改修給付 日常生活動作が低下した方に、手すりや段差解消等の住宅改修費用を給付	1	2	3
③ あだち配食サービス 食事の支度が困難な方にあだち配食サービス協力店が自宅まで配達	1	2	3
④ 高齢者緊急通報システムの設置 慢性疾患等があり、常時注意を要する方の緊急時に本人に代わって消防庁へ連絡するためのシステムを設置	1	2	3
⑤ 見守りキーホルダーの支給 認知症等による徘徊の恐れのある高齢者や、一人での外出に不安のある高齢者に無料で配付	1	2	3
⑥ 高齢者の回りの応援隊 地域の方や(師)援助員が高齢者のちょっとした困りごと(掃除など)のお手伝いを行う	1	2	3
⑦ あったかサービス(家事介護援助) 掃除や食事の支度など、あらかじめ登録した利用会員に対し、地域の方や(協)力会員が手伝う	1	2	3

問36 介護予防事業についてお聞きします。以下の事業をあなたは現在利用していますか。また利用していない方は、そのサービスをご存知ですか。(○は、A～E それぞれ、1つずつ)

	利用している (したことがある)	知っているが 利用したこと はない	知らない
A バークで節トシ(公園で開催)	1	2	3
B ウォーキング教室(区内の名所等)	1	2	3
C はつらつ教室(地域学習センター等)	1	2	3
D 地域包括支援センターで実施している教室・講座	1	2	3
E 保健総合センターで実施している教室・講座	1	2	3

問40 最後にありますが、高齢者保健・福祉事業や介護保険制度について、区へのご要望、ご意見などがありましたら、お聞かせください。


質問は以上で終わります。ご協力ありがとうございました。
ご記入がお済みになりましたら、まことにお手数ですが、同封した返信用封筒（切手不要）に入れて、12月16日（金）までにご投函ください。

ご協力ありがとうございました。



足立区役所 福祉部 高齢福祉課 高齢調整係
〒120-8510 足立区中央本町一丁目17番1号

[お問い合わせ先]
・提出方法等一般的なお問い合わせ



☎ **お問い合わせコール あだち**

電話：03-3880-0039
(受付時間：午前8時～午後8時/年中無休)

・調査項目等に関する個別のお問い合わせ
高齢福祉課 高齢調整係
電話：03-3880-5886（直通）
(受付時間：土・日・祝日を除く午前8時30分～午後5時)

高齢者単身世帯実態調査 ～ご協力のお願～

皆様にはますますご健勝のこととお慶び申し上げます。
日頃から足立区の高齢者施策にご理解とご協力を賜り厚くお礼申し上げます。
本区では、平成 29 年度に「足立区高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画」の
見直しを行います。

この調査は、計画の見直しにあたり、高齢者福祉に関する皆さまのお考えやご意
見をお伺いするものです。いただいたお考えやご意見は、高齢者保健福祉計画策定
にあたっての貴重な資料とさせていただきます。

ご多忙のところ、誠に恐縮ではございますが、何卒ご協力くださいますようお願い
申し上げます。

平成 28 年 11 月吉日

【ご記入にあたってのお願い】

1. この調査の対象者は、平成 28 年 11 月 1 日現在、75 歳以上の方です。
2. 回答は宛名ラベルのご本人についてご記入をお願いいたします。もし、ご本人がご記入
などに不都合があるときは、どなたかにご記入をお願いいたします。
3. 回答にあたっては、質問をよくお読みいただき、該当する番号を○で囲んでくださ
い。また、必要に際して、数字やご意見のご記入をお願いいたします。
4. ご記入いただいたアンケートは、**12 月 16 日(金)まで**に同封の返信用封筒にて
ご返送ください。(切手は不要です)
5. この調査についてのお問い合わせは下記までお願いいたします。

* 今回の調査は、高齢福祉課と介護保険課で共同して実施していますので、返信用封筒の
あて名は、「介護保険課」となっています。

* この調査票は、無記名式となっています。お名前をご記入いただく必要はありません。
返信用封筒にも、ご住所、お名前をご記入いただく必要はありません。

調査結果は、統計的に処理します。お答えいただいた個人のお考えが公表されることは
ありません。

【お問い合わせ先】

- ・提出方法等一般的なお問い合わせ
お問い合わせコール あたち
03-3880-0039
(受付時間：午前 8 時～午後 8 時/年中無休)
- ・調査項目等に関する個別のお問い合わせ
【調査主体】足立区 福祉部 高齢福祉課 高齢調整係
03-3880-5886 (直通)
(受付時間：土・日・祝日を除く午前 8 時 30 分～午後 5 時)



2 高齢者単身世帯実態調査

1 あなたご自身についておたずねします

- ① この調査票を記入している方は、どなたですか。(○は1つ)
1. ご本人 (封筒のあて名の方) 2. ご家族 3. その他 ()
- ② あなたは、普段、どちらにお住まいですか。(○は1つ)
1. あて名の住所に、ひとりで住んでいる → 高1ハ
2. あて名の住所に、だれかと一緒に住んでいる
3. 親族や知人の家
4. 病院・医院へ入院中
5. 足立区外に転出した
6. 有料老人ホーム・ケアハウス等に入居中

「2」～「6」△○をつけた方は、これで質問は終了です。ありがとうございました。
なお、区の高齢者施策に関するご要望などがございましたら、16ページにご記入ください。

問1 あなたはの性別・年齢をおたずねします。(○は1つ)

【性別】(○は1つ)

1. 男 性 2. 女 性

【年齢】(平成 28 年 11 月 1 日現在)

() 歳 (数字で記入)

問2 お住まいの地区は次のうちどれですか。(○は1つ)

1. 北西地区
伊興、伊興本町、入谷、加賀、栗原、江北6～7丁目、古千谷、古千谷本町、血沼、鹿浜、
島根、竹の塚、榑2丁目、舎人、西新井、西伊興、西竹の塚、西保木間、東伊興、谷在家、
六甲
2. 北東地区
大谷田、加平2～3丁目、北加平町、佐野、神明、神明南、辰沼、西加平、花畑、東保木間、
東六甲町、一ツ家、平野、保木間、保塚町、南花畑、六木、谷中3～5丁目、六町
3. 南西地区
梅田、梅島、扇、興野、小台、江北1～5丁目、新田、関原、榑1丁目、西新井栄町、
西新井本町、堀之内、宮城、本木、本木東町、本木西町、本木南町、本木北町
4. 南東地区
青井、足立、綾瀬、加平1丁目、弘道、中央本町、東和、中川、西綾瀬、東綾瀬、
谷中1～2丁目
5. 千住地区
千住、千住東、千住曙町、千住旭町、千住大川町、千住河原町、千住寿町、千住桜木、
千住関原町、千住龍田町、千住中居町、千住仲町、千住橋戸町、千住緑町、千住宮元町、
千住元町、千住柳町、日ノ出町、柳原

問 16 あなたは、5分前のことが思い出せますか。(○は1つ)

1. 思い出せる	2. 思い出せない
----------	-----------

問 17 あなたは、食事を、衣服を選ぶなど、その日の活動を自分で判断できますか。

(○は1つ)	
1. 困難なくできる	
2. いくらか困難であるが、できる	
3. 判断するときに、他人からの合図や見守りが必要	
4. ほとんど判断できない	

問 18 あなたは、人に自分の考えをうまく伝えられますか。(○は1つ)

1. 伝えられる	3. あまり伝えられない
2. いくらか困難であるが、伝えられる	4. ほとんど伝えられない

問 19 あなたは、自分で食事を食べられますか。(○は1つ)

1. 自分で食べられる
2. おかずを切ってもらうなど介助があればできる
3. 自分では食べられない

5 買物についておたずねします

問 20 買物に出かける頻度はどのくらいですか。(○は1つ)

1. ほとんど外出しない	2. 週1回	3. 週2~4回	4. 週5回以上
--------------	--------	----------	----------

問 21 買物に行く際の移動手段は何ですか。(○はいくつでも)

1. 徒歩	6. 電車	11. 歩行器・シルバーカー
2. 自転車	7. 路線バス	12. タクシー
3. バイク	8. 病院や施設のバス	13. その他
4. 自動車 (自分で運転)	9. 車いす	()
5. 自動車 (人に乗せてもらう)	10. 電動車いす (カート)	

問 22 日常用品を買う場合、どのような店を利用しますか。(○は2つまで)

1. 大型商業施設	5. コンビニエンスストア
2. 近隣のスーパーマーケット	6. 移動販売車
3. ドラッグストア	7. その他
4. 商店街のお店	()

問 15 あなたのわたしの生活について、「はい(している又はできる)」、「いいえ(していない又はできない)」のどちらかをお選びください。(それぞれ○は1つのみ)

	いずれかに○	
	はい (できる)	いいえ (できない)
バスや電車で1人で外出していますか.....	1	2
日用品の買い物をしていきますか.....	1	2
預貯金の出し入れをしていますか.....	1	2
友人の家を訪ねていますか.....	1	2
家族や友人の相談のっていますか.....	1	2
階段を手すりや壁をつたわらずに昇っていますか.....	1	2
椅子に座った状態から何もつままらずに立ち上がっていますか.....	1	2
15分くらい続けて歩いていきますか.....	1	2
この1年間に転んだことがありますか.....	1	2
転倒に対する不安は大きいですか.....	1	2
6か月間で2~3kg以上の体重減少がありましたか.....	1	2
半年前に比べて固いものが食べにくくなりましたか.....	1	2
お茶や汁物等でむせることがありますか.....	1	2
口の渇きが気になりますか.....	1	2
週に1回以上は外出していますか.....	1	2
昨年と比べて外出の回数が減っていますか.....	1	2
周りの人から「いつも同じ事を聞く」などの物忘れがあると言われますか.....	1	2
自分で電話番号を調べて、電話をかけることをしていますか.....	1	2
今日が何月何日かわからない時がありますか.....	1	2
(ここ2週間) 毎日の生活に充実感がない.....	1	2
(ここ2週間) これまで楽しんでやれていたことが楽しめなくなりました.....	1	2
(ここ2週間) 以前は楽にできていたことが今ではおっくうに感じられる.....	1	2
(ここ2週間) 自分が役に立つ人間だと思えない.....	1	2
(ここ2週間) わけもなく疲れたような感じがする.....	1	2
現在の身長 (. cm) 体重 (. kg) ※小数点第1位まで記入		

問 23 インターネットによる買物を利用していますか。(○は1つ)

1. 利用している 2. 利用していない

問 24 宅配サービスによる買物を利用していますか。(○は1つ)

1. 利用している 2. 利用していない

問 25 日用品を買物する所（お店）は自宅からどれくらいかかりますか。(○は1つ)

1. 自宅から歩いて 10 分以内 4. その他（ 分位）
 2. 自宅から歩いて 20 分以内 5. わからない
 3. 自宅から歩いて 30 分以内

問 26 日用品の買物について不便を感じていますか。(○は1つ)

1. 感じる 2. 感じない → 問 27へ

問 26で「1. 感じる」と回答された方にお聞きします。

問 26-1 不便を感じていることは、特にどのようなことですか。(○はいくつでも)

1. 歩いて行ける距離に日用品のお店がない
 2. バス等の交通手段がない
 3. 日用品を配達してくれるお店がない
 4. 重い物が持てないため1度に少量しか購入できない
 5. 体力的に買物に行くのがきつい
 6. 誰かの協力がないと行きたいときに買物できない
 7. 一緒に買物に行ってくれる人がいない
 8. その他（ ）

6 日常生活についておたずねします

問 27 日常生活について、主によろしくお過ごしでしょうか。(○は3つまで)

1. 仕事 5. 地域活動 9. インターネット
 2. 家事 6. 健康づくり活動 10. その他
 3. 趣味 7. 病院・治療等 ()
 4. 友人つきあい 8. テレビ鑑賞

問 28 銭湯についてお聞きします。銭湯を利用しますか。(○は1つ)

1. はい 2. いいえ → 問 28-2へ

問 28で「1. はい」と回答された方にお聞きします。

問 28-1 「ゆ〜ゆ〜湯入浴証」を利用していますか。(○は1つ)

1. はい 2. いいえ

問 28で「2. いいえ」と回答された方にお聞きします。

問 28-2 利用しない理由はなんですか。(○は1つ)

1. 家に風呂があるため 3. 料金が高いため
 2. 近くに銭湯がないため 4. その他（ ）

問 29 災害時の避難場所を知っていますか。(○は1つ)

1. はい 2. いいえ

問 30 災害時に避難場所へひとりで行くことができますか。(○は1つ)

1. はい 2. いいえ

問 31 あなたは、消費者被害やオレオレ詐欺にあったことがありますか。(○は1つ)

1. ある 2. あるかもしれない 3. ない → 問 31-1へ

問 31で「1. ある」「2. あるかもしれない」と回答された方にお聞きします。

問 31-1 どんな被害にありましたか。(○はいくつでも)

1. 訪問販売 5. 古着や貴金属の買取
 2. 電話勧誘販売 6. オレオレ詐欺
 3. インターネットのフィッシング詐欺（※）や通販詐欺 7. その他
 4. アダルトサイトのワンクリック詐欺 ()

※フィッシング詐欺とは、銀行等の企業を装ってメールを送り、メールの受信者に、実在する企業の偽ホームページにアクセスさせて、そのページにおいてクレジットカード番号やID・パスワード等を入力させるなどして、不正に個人情報等入手する行為をいいます。

問 32 消費者被害にあったときの相談先として、「消費者センター」がありますか、ご存知ですか。
(○は1つ)

1. 知っている 2. 相談したことがある 3. 知らない

7 地域活動についておたずねします

問 33 あなたは今、何か生活の上で楽しみがありますか。(○は1つ)

1. ある 2. ない 問 34へ

問 33で「1. ある」と回答された方にお聞きします。

問 33-1 それはどのようなことですか。具体的に記入ください。

問 34 あなたが現在参加されている団体や集まりは何ですか。(○はいくつでも)

1. 町会・自治会
2. 老人クラブ
3. 趣味の会 (囲碁・将棋・俳句・カラオケ・お花・盆栽・お茶など)
4. 社会活動 (ボランティア・同窓会・PTA・子育ての活動・生協活動など)
5. 障がい者団体
6. 同業組合など
7. 学習の会
8. スポーツ
9. その他 ()
10. 参加していない

問 34で「10. 参加していない」と回答された方にお聞きします。

問 34-1 参加していない理由は何ですか。(○はいくつでも)

1. 時間がない 6. 近くに活動がない
2. 自分の興味をひくものがない 7. それらの活動を知らない
3. 自分にあっただ活動や集会がない 8. 一緒に参加する仲間や友人がいらない
4. 体の調子が悪い 9. 参加のきっかけがない
5. 費用がかかる 10. その他 ()

8 親族・友人についておたずねします

問 35 おさんは、いらっしゃいますか。(○は1つ)

1. はい 2. いいえ

問 36 日頃、最も連絡がとれるご家族または、ご親せきはどなたですか。(○は1つ)

1. 子ども 4. 兄弟・姉妹 7. 甥・姪
2. 子どもの配偶者 5. おじ・おば 8. 孫
3. 親 6. いとこ 9. その他 ()
10. いない 問 37へ

問 36で「1」～「9」を回答された方にお聞きします。

問 36-1 その人とは、どのくらい会われますか。(○は1つ)

1. ほとんど毎日 4. 年に数回
2. 週に数回 5. ほとんど会っていない
3. 月に数回 6. その他 ()

問 36-2 その人とは、どのくらい電話をかけあっておられますか。(○は1つ)

1. ほとんど毎日 5. ほとんどかけあっていない
2. 週に数回 6. 電話をもっていない
3. 月に数回 7. その他 ()
4. 年に数回

問 37 日頃親しくしているご友人・知人はいらっしゃいますか。(○は1つ)

1. いる	2. いない
-------	--------

問 38へ

問 37で「1. いる」と回答された方にお聞きします。

問 37-1 最も親しいご友人・知人は次のどなたですか。(○は1つ)

1. 近所の人	5. 老人クラブの人
2. もとの(今の)職場の人	6. 病院で知り合った人
3. 学校時代の友人	7. その他()
4. 趣味の会の人	

問 37-2 最も親しいご友人・知人とはどのくらい会われますか。(○は1つ)

1. ほとんど毎日	4. 年に数回
2. 週に数回	5. ほとんど会っていない
3. 月に数回	6. その他()

問 37-3 最も親しいご友人・知人とはどのくらい電話をかけあっておりますか。(○は1つ)

1. ほとんど毎日	5. ほとんどかけあっていない
2. 週に数回	6. 電話をもっていない
3. 月に数回	7. その他()
4. 年に数回	

問 38 あなたの近所づきあいについて、お聞きします。(○はそれぞれ1つずつ)

ア 日常的に立ち話をするような付き合いの人がいますか。	1. いる	2. いない
イ あいさつ程度の付き合いをする人がいますか。	1. いる	2. いない

9 将来の生活についておたずねします

問 39 あなたは、今後の生活についてどのように感じていますか。(○は1つ)

1. とても不安を感じる	4. あまり不安は感じない
2. 少し不安を感じる	5. 不安は感じない
3. どちらとも言えない	

問 39-1へ

問 39で「1. とても不安を感じる」または、「2. 少し不安を感じる」と回答された方にお聞きします。

問 39-1 不安を感じるのどのようなことですか。(○はいくつでも)

1. 自分の健康のこと
2. 自分が、介護が必要な状態(寝たきりなど)になること
3. 孤独死のこと*
4. 頼れる人や面倒をみてくれる人のこと
5. 相談相手や話し相手すること
6. 生活費など収入のこと
7. 住まいのこと
8. 金銭管理や財産保全に関すること
9. その他()

* 孤独死：誰にも看取られることなく、亡くなった後に発見される死

問 40 あなたは、介護が必要になったとき、どのような介護を希望しますか。(○は1つ)

1. 介護サービスを利用しないで、自宅で家族に介護してもらいたい	→	問 40-1△
2. 介護サービスを利用しながら、自宅で生活したい	→	問 40-2△
3. 特別養護老人ホームなど介護保険施設等(※1)に入りたい	→	問 41△(次頁)
4. サービス付き高齢者向け住宅(※2)で生活したい	→	問 41△(次頁)
5. その他()		

※1「介護保険施設等」とは、問 40-2 施設の種類欄のアからカに記載のある施設です。
 ※2「サービス付き高齢者向け住宅」とは、安否確認や生活相談等、高齢者の安心を支えるサービスを提供するバリアフリー構造の住宅です。

問 40で「1」または、「2」と回答された方にお聞きします。

問 40-1 あなたは、どなたに介護してもらいたいですか。(○はいくつでも)

1. 子とちやその家族	4. 近所の人やボランティア
2. 兄弟などの親族	5. その他()
3. ホームヘルパー等	

373

問 40で「3. 介護保険施設等に入りたい」と回答された方にお聞きします。

問 40-2 介護を受けられる施設には、次のような施設がありますか、あなたは、どのような施設等を望んでいますか。(○は1つ)

施設の種類の	サービスの内容	利用したい番号に○
ア. 介護老人福祉施設(特別養護老人ホーム)	常に介護が必要で自宅では介護が困難な人のための施設です。(要介護3～5が対象)	個室 1
		多床室 2
イ. 介護老人保健施設(老人保健施設)	病状が安定し、治療よりは看護や介護に重点を置いたケアが必要なおの人のための施設です。(要介護1～5が対象)	3
ウ. 介護療養型医療施設(療養病床等)	長期の療養を必要とする人のための医療施設です。医療や看護、介護等受けられます。(要介護1～5が対象)	4
エ. 認知症対応型共同生活介護(グループホーム)	認知症の方が共同で生活しながら、食事・入浴などの介護や支援、機能訓練が受けられます。(要介護2、要介護1～5が対象)	5
オ. 特定施設入居者生活介護(有料老人ホーム等)	入浴や食事、介護など日常生活に必要なサービスが受けられます。	6
カ. 軽費老人ホーム(ケアハウス)	自立した生活が継続できるように、食事や必要最低限の介助を提供するすまいです。	7

13

問 41 高齢者の増加等により今後ますます介護が必要の方が多くなると予測されます。介護サービスの利用が多くなれば、その分介護保険の財源が必要となります。あなたは、介護保険のサービス水準と保険料についてどのように考えますか。(○は1つ)

1. 平均的なサービスで、平均的な保険料がいい
2. サービスは充実していなくても保険料が安い方がいい
3. 保険料は高くてもサービスが充実している方がいい

10 高齢者の見守りについておたずねします

問 42 足立区ではひとり暮らし高齢者や高齢者世帯を対象に、「孤立ゼロプロジェクト～絆のあんしんネットワーク～」(*)の取り組みを実施していますが、ご存知ですか。(○は1つ)

*「孤立ゼロプロジェクト～絆のあんしんネットワーク～」とは、地域包括支援センターを中核として、区民ボランティアの「あんしん協力員」、商店や老人クラブその他の公的機関等で登録した「絆のあんしん協力機関」、民生委員が連携し、支援が必要な高齢者を早期に見出し、見守りや声かけを行ったり、適切なサービスにつなげていく制度です。

1. 取り組み内容を知っている
2. 聞いたことはあるが、取り組み内容は知らない
3. 知らない

問 43 「孤立ゼロプロジェクト～絆のあんしんネットワーク～」による見守りや声かけを必要と思われませんか。(○は1つ)

1. 絆のあんしんネットワークは必要だと思う(利用したいも含む)
2. 絆のあんしんネットワーク以外の有料見守りサービスが必要だと思う(利用したいも含む)
3. 親族や知人と日常的なつきあひがあるので、特に必要としない
4. 私生活に関する事なので、見守りなどはされたくない
5. その他()

14

11 福祉サービスについておたずねします

問 44 足立区内には次のようなサービスや施設がありますが、あなたは現在利用していますか。また利用していない方は、そのサービスを知っていますか。(○はそれぞれ1つずつ)

	利用している (したことがある)	知っているが 利用したこと はない	知らない
① 日常生活用具の給付 在宅で虚弱な方に外出の支援としてシルバーカーなどを給付	1	2	3
② 高齢者住宅改修給付 日常生活動作が低下した方に、手すりや段差解消等の住宅改修費用を給付	1	2	3
③ あだち配食サービス 食事の支度が困難な方にあだち配食サービス協力店が自宅まで配達	1	2	3
④ 高齢者緊急通報システムの設置 慢性疾患等があり、常時注意を要する方の緊急時に本人に代わって消防庁へ連絡するためのシステムを設置	1	2	3
⑤ 見守りキーホルダーの支給 認知症等による徘徊の恐れのある高齢者や、一人での外出に不安のある高齢者に無料で配付	1	2	3
⑥ 高齢者身の回りの応援隊 地域の方や応援隊員が高齢者のちょっとした困りごと(掃除など)のお手伝いを行う	1	2	3
⑦ あだちサービス(家事介護援助) 掃除や食事の支度など、あらかじめ登録した利用会員に対し、地域の方々(協力会員)が手伝う	1	2	3

問 45 認知症サポーター(*)の活動についてご存知ですか。(○は1つ)

*認知症サポーターとは、認知症に関する正しい知識と理解をもち、地域や職場で認知症の人やそのご家族を支援する人のことをいいます。

1. 活動内容を知っている
2. 聞いたことはあるが、活動内容は知らない
3. 知らない

問 46 現在、足立区内には高齢者の介護や生活上の相談などを受けける地域包括支援センターがあります。ご存知ですか。(○は1つ)

1. 知っている 2. 知らない → 問 47へ

問 46-1へ

問 46で「1. 知っている」と回答された方にお聞きします。
問 46-1 地域包括支援センターでは下記の業務を行っています。ご存知のものに○を付けて下さい。(○はいくつでも)

1. 介護保険制度の説明・要介護認定申請援助
2. 福祉サービス案内(あだち配食サービス、緊急通報システムの設置等)
3. 介護と福祉の総合相談
4. 介護保険施設利用に関する相談
5. 要介護認定者への介護サービス利用の支援
6. 成年後見制度の利用支援
7. 虐待への対応
8. 介護予防事業
9. 認知症サポーター養成講座の開催
10. 認知症見守り体制の整備
11. 高齢者世帯への訪問調査
12. 絆のあんしん協力員による定期的な声かけ、見守り
13. わからない

問 47 最後になりましたが、高齢者保健・福祉事業や介護保険制度について、区へのご要望、ご意見などがありませんでしたら、お聞かせください。

質問は以上で終わります。ご協力ありがとうございました。

ご記入がお済みになりましたら、ご協力なことにお手数ですが、同封した返信用封筒(切手不要)に入れて、12月16日(金)までにご投函ください。

ご協力ありがとうございました。



足立区役所 福祉部 高齢福祉課 高齢調整係
〒120-8510 足立区中央本町一丁目17番1号

[お問い合わせ先]
・提出方法等一般的なお問い合わせ



電話: 03-3880-0039

(受付時間: 午前8時~午後8時/年中無休)

・調査項目等に関する個別のお問い合わせ

高齢福祉課 高齢調整係

電話: 03-3880-5886 (直通)

(受付時間: 土・日・祝日を除く午前8時30分~午後5時)

3 要介護認定者実態調査

3 桃色

要介護認定者実態調査
～ご協力のお願い～

皆様にはますますご健勝のこととお慶び申し上げます。
日頃から足立区の高齢者施策にご理解とご協力を賜り厚くお礼申し上げます。
本区では、平成 29 年度に「足立区高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画」の見直しを行います。

この調査は、計画の見直しにあたり、高齢者福祉に関する皆さまのお考えやご意見をお伺いするものです。いただいたお考えやご意見は、高齢者保健福祉計画策定にあたっての貴重な資料とさせていただきます。

ご多忙のところ、誠に恐縮ではございますが、何卒ご協力くださいますようお願い申し上げます。

平成 28 年 11 月吉日

【記入にあたってのお願い】

1. この調査の対象者は、平成 28 年 11 月 1 日現在、**要介護 1～5 の認定**を受けている方です。
2. 回答は宛名ラベルのご本人についてご記入をお願いします。もし、ご本人がご記入などに不都合があるときは、ご家族の方が代わりにご記入をお願いします。
3. 回答にあたっては、質問をよくお読みいただき、該当する番号を○で囲んでください。また、必要に応じて、数字やご意見のご記入をお願いします。
4. この調査で使う用語の意味は、以下のとおりです。
介護…介護保険のサービスを受けている場合や、認定を受けていない場合でも、常時ご家族などの援助を受けている状態
介助…ご自分の意思により、一時的に他人に援助を頼んでいる状態
ご記入いただいたアンケートは、**12月16日(金)まで**に同封の返信用封筒にてご返送ください。(切手は不要です)

* この調査票は、無記名式となっております。お名前をご記入いただく必要はありません。返信用封筒にも、ご住所、お名前をご記入いただく必要はありません。
調査結果は、統計的に処理します。お答えいただいた個人のお考えが公表されることはありません。

【お問い合わせ先】

- ・提出方法等一般のお問い合わせ
お問い合わせコール あだち
03-3880-0039
(受付時間：午前8時～午後8時/年中無休)



- ・調査項目等に関する個別のお問い合わせ
【調査主体】足立区 福祉部 介護保険課 介護保険係
03-3880-5887 (直通)
(受付時間：土・日・祝日を除く午前 8 時 30 分～午後 5 時)

①この調査票を記入している方は、どなたですか。(○は1つ)

1. 本人(封筒のあて名の方) 2. 家族 3. その他()

②あなた(封筒のあて名の方)は、現在、どちらで生活していますか。(○は1つ)

1. 自宅 () → 問1ハ
 2. 有料老人ホーム・ケアハウス・グループホームに入居中 () → 問1ハ
 3. 病院に入院中
 4. 老人保健施設・介護療養型医療施設
 5. 特別養護老人ホーム
 6. その他() → 問1ハ

②で「3」～「5」をつけた方は、これで質問は終了です。ありがとうございます。
 なお、区へのご意見、ご要望がありましたら、問35にご記入の上、投函してください。

1 あなたご自身についておたずねします

問1 あなたの性別・年齢をお尋ねします。

【性別】(○は1つ)

1. 男性 2. 女性
 【年齢】(平成28年11月1日現在)
 () 歳 (数字で記入)

問2 お住まいの地区は次のうちどれですか。(○は1つ)

1. 北西地区
 伊興、伊興本町、入谷、加賀、栗原、江北6～7丁目、古千谷、古千谷本町、皿沼、鹿浜、
 島根、竹の家、椿2丁目、舎人、西新井、西伊興、西竹の家、西保木間、東伊興、谷在家、
 六甲
2. 北東地区
 大谷田、加平2～3丁目、北加平町、佐野、神明、神明南、辰沼、西加平、花畑、東保木間、
 東六甲町、一ツ家、平野、保木間、保塚町、南花畑、六甲、台中3～5丁目、六甲
3. 南西地区
 梅田、梅島、扇、興野、小台、江北1～5丁目、新田、関原、椿1丁目、西新井栄町、
 西新井本町、堀之内、宮城、本木、本木東町、本木西町、本木南町、本木北町
4. 南東地区
 青井、足立、綾瀬、加平1丁目、弘道、中央本町、東和、中川、西綾瀬、東綾瀬、
 台中1～2丁目
5. 千住地区
 千住、千住東、千住曙町、千住旭町、千住大川町、千住河原町、千住寿町、千住桜木、
 千住陶屋町、千住龍田町、千住中居町、千住仲町、千住橋戸町、千住驛町、千住宮元町、
 千住元町、千住柳町、日ノ出町、柳原

問3 あなたの家族構成をお答えください。(○は1つ)

1. ひとり暮らし
 2. あなたと65歳以上の配偶者のみの二人世帯
 3. あなたと65歳未満の配偶者のみの二人世帯
 4. 息子・娘と2世帯
 5. その他 ()

問3-1ハ

問3で「5. その他」と回答された方にお聞きします。

問3-1 あなたと一緒に住まいのご家族はどなたですか。(○はいくつでも)

1. 配偶者(夫または妻) 3. 子の配偶者 5. 親 7. その他
 2. 子 4. 孫 6. 兄弟姉妹 ()

問4 あなたの現在の要介護度はどれですか。(○は1つ)

1. 要介護1 3. 要介護3 5. 要介護5
 2. 要介護2 4. 要介護4 6. その他()

問5 あなたを主に介護している方(ヘルパー等を除く)はどなたですか。(○は1つ)

1. 配偶者(夫または妻) 3. 子の配偶者 5. 兄弟姉妹 7. その他
 2. 子 4. 孫 6. 特にない ()

問6 あなたは1年前と比べて、介護度はどうなりましたか。(○は1つ)

1. 軽くなった 4. 1年前は要介護認定を受けていなかった
 2. 変わらない 5. わからない
 3. 重くなった

問7 あなたの現在の状況に最も近いものをお選びください。(○は1つ)

1. 健康 2. まあ健康 3. あまり健康でない 4. 健康でない

問 8 現在治療中、または後遺症のある病気はありますか。(○はいくつでも)

1. ない	7. 呼吸器の病気 (肺炎や気管支炎等)	14. うつ病
2. 高血圧	8. 胃腸・肝臓・胆のうの病気	15. 認知症(アルツハイマー病等)
3. 脳卒中	9. 腎臓・前立腺の病気	16. パーキンソン病
(脳出血・脳梗塞等)	10. 筋骨格の病気	17. 目の病気
4. 心臓病	(骨粗しょう症、関節症等)	18. 耳の病気
5. 糖尿病	11. 外傷(転倒・骨折等)	19. その他
6. 高脂血症	12. がん(悪性新生物)	()
(脂質異常)	13. 血液・免疫の病気	

問 9 あなたは現在、通院や往診などで診療を受けていますか。(○は1つ)

1. 通院のみ	2. 通院と往診	3. 往診のみ	4. 通院も往診も利用していない
---------	----------	---------	------------------

【問 9 で「1. 通院のみ」「2. 通院と往診」「3. 往診のみ」とお答えの方へ】

問 9-1 どのくらいの頻度で、医療機関の通院や往診を受けていますか。(○は1つ)

1. 週2回以上	4. 月1回
2. 週1回	5. 数か月に1回程度
3. 月2回程度	6. 定期的ではない

【問 9 で「1. 通院のみ」「2. 通院と往診」とお答えの方へ】

問 9-2 通院で受診している診療科目は何ですか。(○はいくつでも)

1. 内科	6. 眼科
2. 外科	7. 皮膚科
3. 循環器科	8. 耳鼻咽喉科
4. 整形外科	9. 神経内科
5. 歯科	10. その他 ()

【問 9 で「1. 通院のみ」「2. 通院と往診」とお答えの方へ】

問 9-3 通院に介助が必要ですか。(○は1つ)

1. はい(通院に介助が必要)	2. いいえ
-----------------	--------

【問 9 で「2. 通院と往診」「3. 往診のみ」とお答えの方へ】

問 9-4 往診で受診しているものは、どのような内容ですか。(○はいくつでも)

1. 点滴	7. 気管切開の処置
2. 経管栄養(胃ろう等)	8. インスリン注射
3. 酸素療法	9. 痛みに対する管理(注射、湿布、薬等)
4. じょくそう(床ずれ)の処置	10. 歯科診療(入れ歯、口腔ケア等)
5. 人工呼吸器	11. その他 ()
6. 導尿の管理(カテーテル、自己)	

問 10 あなたは災害時の避難場所を知っていますか。(○は1つ)

1. はい	2. いいえ
-------	--------

問 11 あなたは災害時に避難場所へひとりで行くことができますか。(○は1つ)

1. はい	2. いいえ
-------	--------

問 12 あなたは、消費者被害やオレオレ詐欺にあったことがありますか。(○は1つ)

1. ある	2. あるかもしれない	3. ない
-------	-------------	-------

問 12 で「1. ある」「2. あるかもしれない」と回答された方にお聞きます。

問 12-1 どんな被害にありましたか。(○はいくつでも)

1. 訪問販売	5. 古着や貴金属の買取
2. 電話勧誘販売	6. オレオレ詐欺
3. インターネットのフィッシング詐欺(※)や通帳詐欺	7. その他 ()
4. アダルトサイトのワンクリック詐欺	

※フィッシング詐欺とは、銀行等の企業を装ってメールを送り、メールの受信者に、実在する企業の偽ホームページにアクセスさせて、そのページにおいてクレジットカード番号やID・パスワード等を入力させるなどして、不正に個人情報等入手する行為をいいます。

問 13 消費者被害にあったときの相談先として、「消費者センター」がありますか、ご存知ですか。(○は1つ)

1. 知っている	2. 相談したことがある	3. 知らない
----------	--------------	---------

問 14 「孤立ゼロプロジェクト～絆のあんしんネットワーク～」の取り組みをご存知ですか。(○は1つ)

* 「孤立ゼロプロジェクト～絆のあんしんネットワーク～」とは、地域包括支援センターを中核として、区民ボランティアの「あんしん協力員」、商店や老人クラブその他の公的機関等で登録した「絆のあんしん協力機関」、民生委員が連携し、支援が必要な高齢者を早期に発見し、見守りや声をかけを行ったり、適切なサービスにつなげていく制度です。

1. 取り組み内容を知っている
2. 聞いたことはあるが、取り組み内容は知らない
3. 知らない

2 介護保険についておたずねします

問 15 あなたは、介護サービスを利用していますか。(○は1つ)

1. 利用していない → P7 問 23 へ
 2. 利用している → 問 16 へ

問 16～問 22 は、問 15 で「2. 利用している」と回答された方にお聞きします。

問 16 介護サービスの自己負担額（サービス利用料の1割または2割）について、あなたの意見を
 おうかがいます。(○は1つ)

1. おおむね妥当な金額である
 2. サービス利用のためにはやむをえない金額である
 3. 負担に感じる金額である
 4. よくわからない

問 17 あなたは、担当の介護支援専門員（ケアマネジャー）を、どのように選びましたか。
 (○はいくつでも)

1. 知人・親族に紹介された
 2. 区の事業者リストを見た
 3. 地域包括支援センター等の窓口で紹介された
 4. 自宅に営業にきた
 5. テレビのCMや新聞・雑誌の広告等を見た
 6. 以前から（介護支援専門員の所属する）事業所を利用していた
 7. その他（ ）

問 18 あなたは、担当している介護支援専門員（ケアマネジャー）に満足していますか。
 (○は1つ)

1. 満足している → 問 20 (次頁) へ
 2. 満足していない → 問 19 へ
 3. どちらともいえない

問 18 で「2. 満足していない」と回答された方にお聞きします。

問 19 あなたが不満に思われる点は、どのようなことですか。(○はいくつでも)

1. 十分な説明をしない
 2. 本人や家族の意向を聞かない
 3. 相談時間や訪問回数などが少ない
 4. ケアプラン作成までに時間がかかる
 5. ケアプランの変更になかなか応じない
 6. 特定の事業者を強引にすすめる
 7. 態度やマナーが悪い
 8. 知識や情報量が少ない
 9. その他（ ）

問 20 現在利用している介護保険サービスは次のうちどれですか。(○はいくつでも)

1. 訪問介護（ホームヘルプサービス）
 2. 訪問入浴介護
 3. 訪問看護
 4. 訪問リハビリテーション
 5. 居宅療養管理指導（医師・歯科医師・薬剤師等による療養上の指導）
 6. 通所介護（デイサービス）
 7. 通所リハビリテーション（デイケア）
 8. 短期入所生活介護・短期入所療養介護（ショートステイ）
 9. 特定施設入居者生活介護（有料老人ホーム等のサービス）
 10. 福祉用具の貸与・購入
 11. 住宅改修
 12. 定期巡回・随時対応型訪問介護看護
 13. 夜間対応型訪問介護
 14. 認知症対応型通所介護
 15. 小規模多機能型居宅介護
 16. 認知症対応型共同生活介護（グループホーム）
 17. 看護小規模多機能型居宅介護
 18. その他（ ）

問 21 現在利用している介護保険サービスに満足していますか。(○は1つ)

1. 満足している → 問 24 (次頁) へ
 2. 満足していない → 問 22 へ
 3. どちらともいえない

問 21 で「2. 満足していない」と回答された方にお聞きします。

問 22 あなたが不満に思われる点は、どのようなことですか。(自由回答)

→問 24 (次頁) へお進みください。

P5の問15で「1. 利用していない」と回答されない」と回答された方にお聞きします。

問23 介護サービスを利用していない理由を、お聞かせください。(○はいくつでも)

1. 家族が介護している	5. 事業者に入りに欲しくない
2. 病院に入院している	6. 利用の手続きがわからない
3. 利用負担が大きい	7. その他 ()
4. 介護を必要としない	

問24 あなたは、介護サービス対象外の以下のようなサービスを今後利用したいと思いますか。(○はいくつでも)

1. 相談・話し相手の訪問サービス	7. 歯科・眼科・神経内科・精神科などの訪問診療
2. 夜間の訪問看護	8. 電球の取り換えなど、ちょっとした家事サービス
3. 入浴のみの短時間の通所サービス	9. その他 (具体的に)
4. 食事のみの短時間の通所サービス	10. 特になし
5. リハビリのみの短時間の通所サービス	11. わからない
6. 医療対応の必要人も利用できる通所サービス	

3 今後の生活についておたずねします

問25 今後どのような介護を希望しますか。(○は1つ)

1. 介護サービスを利用しないで、自宅で家族に介護してもらいたい	問29 へ
2. 介護サービスを利用しながら、自宅で生活したい	問26 へ
3. 特別養護老人ホームなど介護保険施設等(※1)に入りたい	問28 へ
4. サービス付き高齢者向け住宅(※2)で生活したい	問29 へ
5. その他 ()	問29 へ

※1「介護保険施設等」とは、問28(P9)施設の種類の欄から力に記載のある施設です。
 ※2「サービス付き高齢者向け住宅」とは、安否確認や生活相談等、高齢者の安心を支えるサービスを提供するバリアフリー構造の住宅です。

問26で「2. 介護サービスを利用しながら、自宅で生活したい」と回答された方にお聞きします。

問26 今後安心して在宅生活を続けていくのに必要なことは何だと思えますか。(○は3つまで)

1. 24時間対応の訪問介護や緊急時の訪問介護	8. 地域での見守り
2. 医師や看護師の訪問	9. ボランティアによる支援
3. 病院などへの移送の介助	10. リハビリがでる通所サービス
4. 在宅介護のための住宅改修	11. 車いす等の福祉用具の貸出
5. 配食サービス等の生活支援サービス	12. その他 ()
6. 契約や財産管理の手続きの支援 ()	
7. 緊急時など必要な時に泊まれる施設	

問27 地域密着型サービスは、高齢者が中重度の要介護状態となっても、可能な限りの住み慣れた自宅または地域で生活を継続できるようにするためのサービスです。あなたは次のようなサービスを利用したいと思えますか。(○はそれぞれ1つずつ)

ア. 定期巡回・随時対応型訪問介護看護 定期巡回と随時対応による訪問介護と訪問看護を24時間いつでも受けることのできるサービス	1. 利用したい 2. 利用したくない 3. わからない
イ. 夜間対応型訪問介護 24時間安心して居宅での生活が送れるようになるための、定期的な巡回や通報システムによる夜間専用の訪問介護サービス	1. 利用したい 2. 利用したくない 3. わからない
ウ. 認知症対応型通所介護 認知症の人を対象に専門的なケアを提供する通所介護	1. 利用したい 2. 利用したくない 3. わからない
エ. 小規模多機能型居宅介護 通所介護(デイサービス)を中心に、利用者の様態や希望に応じて、随時「訪問介護」や「短期入所(ショートステイ)」を組み合わせた介護サービス	1. 利用したい 2. 利用したくない 3. わからない
オ. 看護小規模多機能型居宅介護 訪問看護と小規模多機能型居宅介護との組合せなど、複数の居宅サービスや地域密着型サービスを組み合わせて提供されるサービス	1. 利用したい 2. 利用したくない 3. わからない

問 25 で「3. 介護保険施設等に入りたい」と回答された方にお聞きします。

問 28 介護を受けられる施設には、次のような施設がありますが、利用してみたいものは何ですか。(○はいくつでも)
※多床室 4 人部屋など

施設の種別	サービスの内容	利用したい番号に○
ア. 介護老人福祉施設 (特別養護老人ホーム)	常に介護が必要で自宅では介護が困難な人のための施設です。(要介護 3～5 が対象)	個室 1 多床室 2
イ. 介護老人保健施設 (老人保健施設)	病状が安定し、治療よりは看護や介護に重点を置いたケアが必要な人のための施設です。(要介護 1～5 が対象)	3
ウ. 介護療養型医療施設 (療養病床等)	長期の療養を必要とする人のための医療施設です。医療や看護、介護等受けられます。(要介護 1～5 が対象)	4
エ. 認知症対応型共同生活介護 (グループホーム)	認知症の方が共同で生活しながら、食事・入浴などの介護や支援、機能訓練が受けられます。(要支援 2、要介護 1～5 が対象)	5
オ. 特定施設入居者生活介護 (有料老人ホーム等)	入浴や食事、介護など日常生活に必要なサービスが受けられます。	6
カ. 軽費老人ホーム (ケアハウス)	自立した生活が継続できるように、食事や必要最低限の介助を提供するすまいです。	7

問 29 高齢者の増加等により今後ますます介護が必要な方が多くなると予測されます。介護サービスの利用が多くなれば、その分介護保険の財源が必要となります。あなたは、介護保険のサービス水準と保険料についてどのように考えますか。(○は 1 つ)

1. 平均的なサービスで、平均的な保険料がいい
2. サービスは充実していなくても保険料が安い方がいい
3. 保険料は高くてもサービスが充実している方がいい

問 30 介護保険制度をはじめとする、色んな高齢者制度の内容及びサービスについて、あなたが相談しているところをお教えください。(○はいくつでも)

1. 区役所
2. ケアマネジャー
3. 地域包括支援センター
4. 民生・児童委員
5. かかりつけの医師
6. 保健所
7. ハルバーなどのサービス事業所
8. その他 ()
9. 特にない

問 31 あなたは、自分を高齢者だと思いますか。(○は 1 つ)

1. はい
2. いいえ

問 32 あなたは、高齢者は何歳からだと思えますか。

() 歳 (数字で記入)

問 33 あなたは、いくつまで健康 (介護を受けない状態) に過ごしたいですか。

() 歳 (数字で記入)

問 34 あなたは、今後も在宅生活を続けるために何が必要だと思いますか。

- (1) ご自身について (○はいくつでも)
1. 健康状態や身体機能を維持・向上させること
 2. 適切な介護サービスを受けられること
 3. 介護事業所と医療機関が連携すること
 4. 生活上の心配や不安が少なくなること
 5. その他 ()

(2) 介護している家族の方について (○はいくつでも)

1. 健康状態を維持・回復できること
2. 医師の訪問が受けられること
3. 精神的な介護負担が軽くなること
4. 身体的な介護負担が軽くなること
5. 介護方法に関する知識・技術の向上
6. 悩みを語りあえる介護家族の会があること
7. 必要ときに介護サービスを受けられること
8. その他 ()

(3) その他、在宅生活を続けるために必要なこと (ご自由にお書きください。)

問 35 高齢者保健・福祉事業や介護保険制度について、区へのご要望、ご意見などがありましたら、お聞かせください。

【ここからは、あなた（あて名ご本人）を主に介護している方（以下、「介護者」といいます。）がお答えください】（可能な範囲でお答えください。）

問 36 介護者の性別・年齢をお尋ねします。

【性別】（○は1つ）
 1. 男性 2. 女性
 【年齢】（平成 28 年 11 月 1 日現在）
 （ ） 歳 （数字で記入）

問 37 あなた（あて名ご本人）からみた介護者の関係は次のうちどれですか。（○は1つ）

1. 配偶者（夫または妻） 3. 孫 5. 兄弟姉妹 7. 介護サービス従事者
 2. 子または子の配偶者 4. 親 6. 知人・友人 8. その他（ ）

問 38 介護者の方から見て、あなた（あて名ご本人）は、下記にお示しする状態のうち、あてはまるものはありますか。（○は1つ）

1. 多少の物忘れはあるが、日常生活は家庭内及び社会的に自立している。
 2. 日常生活に支障を来たすような症状・行動（たびたび道に迷う、買い物や金銭管理など今までできたことにミスが目立つなど）や意思疎通の困難さが多少あっても、ほぼ自立している。
 3. 日常生活に支障を来たすような症状・行動（徘徊・失禁・火の不始末・不潔行為等）や意思疎通の困難さがとさどきあり、介護が必要である。
 4. 日常生活に支障を来たすような症状・行動（徘徊・失禁・火の不始末・不潔行為等）や意思疎通の困難さが頻繁にあり、常に介護が必要である。
 5. 著しい精神症状（妄想・興奮・自傷など）あるいは重篤な身体疾患があり、専門医療が必要である。
 6. 上記1～5のいずれもあてはまらない

問 39 在宅での介護について、介護者の方が困ったり、負担に感じていることはありませんか。（○はいくつでも）

【本人との意思疎通等について】	【サービス利用について】
1. 現在の状況を理解してもらおうことが難しい	15. サービスを思うように利用できない、サービスが足りない
2. 本人の言動が理解できないことがある	16. サービスを利用したら本人の状態が悪化した（ことがある）
3. 受診を勧めても同意してもらえない	17. サービス事業者との関係がうまくいかない
4. 本人が自分の症状を正確に理解していない	18. ケアマネジャーとの関係がうまくいかない
5. 来客者に気を遣う	
【介護の仕方について】	【介護者ご自身のことについて】
6. 適切な介護方法がわからない	19. 自分の用事・都合をさせることができない
7. 症状への対応方法がわからない	20. 身体的につらい（腰痛や肩こりなど）
8. 徘徊するため目が離せない	21. 精神的なストレスがたまっている
9. 介護を協力してもらえない	22. 睡眠時間が不規則になり、健康状態がわるくない
10. 介護について、誰に、どのように相談すればよいかわからない	23. 自分の自由になる時間が持てない
11. 日中、本人だけの時間があることに不安を感じる	24. 先々のことを考える余裕がない
12. 介護を家族の他の人に任せてよいかわ、悩むことがある	25. 経済的につらいと感じるときがある
13. 介護の方針について、家族・親戚との意見が合わない	26. その他（ ）
14. 介護することに対して、周囲の理解が得られない	27. 特に困っていることはない

問 40 主な介護者の方（おひとり）は要介護認定を受けていますか。（○は1つ）

1. 健康であり、要介護認定は受けていない
 2. 何らかの病気や障害などがあるが、要介護認定は受けていない
 3. 要支援 1・2
 4. 要介護 1・2
 5. 要介護 3～5

問 41 主な介護者の方（おひとり）の現在の状況に最も近いものをお選びください。（○は1つ）

1. とても健康 2. まあ健康 3. あまり健康でない 4. 健康でない

問 42 主な介護者の方（おひとり）は、現在、次のような傷病にかかっていますか。
（〇はいくつでも）

1. 高血圧症	12. 胃腸の病気（胃炎、肝炎など）
2. 脂質異常症（高コレステロール血症・中胆膵炎など）	13. 泌尿器の病気（腎臓病、前立腺肥大など）
3. 糖尿病	14. がん（悪性新生物）
4. 動脈硬化症	15. 呼吸器の病気（ぜん息など）
5. 腰痛症	16. 耳や鼻の病気（難聴など）
6. 関節症・リウマチ	17. 歯の病気（歯周病）
7. 肩こり症	18. 骨折・外傷
8. 骨粗しょう症	19. 認知症
9. 脳卒中（脳出血、脳梗塞など）	20. その他（ ）
10. 狭心症・心筋梗塞	21. 特になし
11. 目の病気（白内障など）	



質問は以上で終わりです。ご協力ありがとうございました。
ご記入がお済みになりましたら、まことにお手数ですが、同封した返信用封筒（切手不要）に入れて、12月16日（金）までにご投函ください。

お問い合わせ先

足立区役所 福祉部 介護保険課 介護保険係
〒120-8510 足立区中央本町一丁目17番1号

【お問い合わせ先】

- ・提出方法等一般的なお問い合わせ

 **あだち**

電話：03-3880-0039
（受付時間：午前8時～午後8時/年中無休）

- ・調査項目等に関する個別のお問い合わせ

介護保険課介護保険係
電話：03-3880-5887（直通）
（受付時間：土・日・祝日を除く午前8時30分～午後5時）

4 一般若年者実態調査

1 あなたご自身についておたずねします

問1 あなたの性別・年齢をおたずねします。

【性別】(○は1つ)

1. 男性 2. 女性

【年齢】(平成28年11月1日現在)

() 歳 (数字で記入)

問2 お住まいの地区は次のうちどれですか。(○は1つ)

1. 北西地区 伊興、伊興本町、入谷、加賀、栗原、江北6～7丁目、古千谷、古千谷本町、血沼、鹿浜、島根、竹の塚、椿2丁目、舎人、西新井、西伊興、西竹の塚、西保木間、東伊興、谷在家、八月
2. 北東地区 大谷田、加平2～3丁目、北加平町、佐野、神明、神明南、辰沼、西加平、花畑、東保木間、東六月町、一ツ家、平野、保木間、保家町、南花畑、六木、谷中3～5丁目、六町
3. 南西地区 梅田、梅島、扇、興野、小台、江北1～5丁目、新田、関原、椿1丁目、西新井栄町、西新井本町、堀之内、宮城、本木、本木東町、本木西町、本木南町、本木北町
4. 南東地区 青井、足立、綾瀬、加平1丁目、弘道、中央本町、東和、中川、西綾瀬、東綾瀬、台中1～2丁目
5. 千住地区 千住、千住東、千住曙町、千住旭町、千住入川町、千住河原町、千住秦町、千住桜木、千住関屋町、千住龍田町、千住中居町、千住仲町、千住橋戸町、千住練町、千住宮元町、千住元町、千住柳町、日ノ出町、柳原

4 ページ

一般若年者実態調査
～ご協力をお願いします～

皆様にはますますご健勝のこととお慶び申し上げます。
日頃から足立区の保健福祉施策にご理解とご協力を賜り厚くお礼申し上げます。
本区では、平成29年度に「足立区高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画」の見直しを行います。
この調査は、介護保険第2号被保険者(40歳～64歳)の4,000人を無作為に選ばせていただき、健康や介護保険制度に関するご意見・ご感想をお伺いし、計画見直しの重要な資料とするために実施するものです。
ご多忙のところ、誠に恐縮ではございますが、何卒ご協力くださいますようお願い申し上げます。
平成28年11月吉日

【ご記入にあたってのお願い】

1. この調査の対象者は、平成28年11月1日現在、40歳～64歳の方です。
2. 回答は宛名ラベルのご本人についてご記入をお願いします。もし、ご本人がご記入などにご都合があるときは、ご家族の方が代わりにご記入をお願いします。
3. 回答にあたっては、質問をよくお読みいただき、該当する番号を○で囲んでください。また、必要に応じて、数字やご意見のご記入をお願いします。
4. ご記入いただいたアンケートは、**12月16日(金)まで**ご同封の返信用封筒にてご返送ください。(切手は不要です)
5. この調査についてのお問い合わせは下記までお願いいたします。

* 今回の調査は、高齢福祉課と介護保険課で共同して実施していますので、返信用封筒の宛名は、「介護保険課」となっています。
* この調査票は、無記名式となっております。お名前をご記入いただく必要はありません。返信用封筒にも、ご住所、お名前をご記入いただく必要はありません。
調査結果は、統計的に処理します。お答えいただいた個人のお考えが公表されることはありません。

【お問い合わせ先】

- ・ 提出方法等一般のお問い合わせ
お問い合わせコール あだち
03-3880-0039
(受付時間：午前8時～午後8時/年中無休)
- ・ 調査項目等に関する個別のお問い合わせ
【調査主体】 足立区 福祉部 高齢福祉課 高齢調整係
03-3880-5886 (直通)
(受付時間：土・日・祝日を除く午前8時30分～午後5時)



問3 平成28年11月1日現在のあなたの世帯状況は次のうち、どれですか。(○は1つ)

- 1. ひとりで暮らし
- 2. 夫婦ふたり暮らし
- 3. 未婚の子ども同居
- 4. 親と同居
- 5. 未婚の子どもと親と同居
- 6. その他の世帯

問3で「6. その他の世帯」と回答された方にお知らせします。

問3-1 あなたと一緒に住まいのご家族はどなたですか。(○はいくつでも)

- 1. 配偶者(夫または妻)
- 2. 子
- 3. 子の配偶者
- 4. 孫
- 5. 親
- 6. 兄弟姉妹
- 7. その他

問4 あなた(あて名ご本人)のお住まいは、次のどれにあてはまりますか。(○は1つ)

- 1. 持家(一戸建て)
- 2. 持家(集合住宅)
- 3. 公営賃貸住宅
- 4. 民間賃貸住宅(一戸建て)
- 5. 民間賃貸住宅(集合住宅)
- 6. 借家
- 7. その他

2 日常生活や社会活動について

問5 あなたの現在の仕事は次のどれですか。(主なもの1つに○)

- 1. 会社員・会社役員・公務員
- 2. パート、アルバイト、派遣職員、日雇い労働等
- 3. 自営業・家族従業者
- 4. 家事専業
- 5. 無職
- 6. その他

問5-1 あなたが仕事をしている最も大きな理由は何か、または仕事をしたい最も大きな理由は何か。(○はいくつでも)

- 1. 生活費を得るため
- 2. 小遣いを得るため
- 3. 健康に良いから
- 4. 生活に張りやリズムができるから
- 5. 社会の役に立てるから
- 6. 友人が欲しいから
- 7. 仕事の事情でやめることができないから
- 8. その他

問5-2 何歳まで仕事を続けたいと思いますか。(○は1つ)

- 1. ()歳まで(数字で記入)
- 2. 働き続けられるうちはいづつまで
- 3. わからぬ

問5-3 仕事をすることを重視していること、または重視したいことは何ですか。(○はいくつでも)

- 1. 体系的に無理なく続けられる仕事であること
- 2. 自分のペースで進められる仕事であること
- 3. 自分の能力を発揮できること
- 4. 勤務日や勤務時間を選べること
- 5. 経験したことのある職種であること
- 6. 気心の知れた仲間がいる職場であること
- 7. 勤務先の事業目的・経営ビジョン
- 8. 給料が良いこと
- 9. 自宅から近いこと
- 10. 通勤が楽なこと
- 11. 特になし
- 12. その他

問5-4 あなたは、定年後も仕事を続ける場合、どのような働き方が望ましいと思いますか。(○は1つ)

- 1. 定年前と同等の時間・内容で働く
- 2. 定年前と同じ職場だが、仕事の内容や時間を軽減して働く
- 3. パートやアルバイトで働く
- 4. 趣味や好きなことを活かした仕事をする
- 5. 定年後は仕事をしない
- 6. その他

問6 あなたは、仕事や賞物、通院などで外出する頻度はどのくらいですか。(○は1つ)

- 1. ほとんど毎日
- 2. 週に2~3回程度
- 3. 週に1回程度
- 4. 月に1~2回程度
- 5. 2, 3ヶ月に1回程度
- 6. ほとんど出掛けない

問6で「1. ほとんど毎日」以外と回答された方にお知らせします。

問6-1 あなたは、平日の日中はご自宅にいますか。(○は1つ)

- 1. ひとりで自宅にすることが多い
- 2. 家族または友人などと自宅にすることが多い
- 3. 平日の日中は自宅にいないことが多い

問7 ご家族以外の方との会話をする頻度はどのくらいですか。(○は1つ)

- 1. ほとんど毎日
- 2. 週に2~3回程度
- 3. 週に1回程度
- 4. 月に1~2回程度
- 5. 2, 3ヶ月に1回程度
- 6. ほとんど話をしない

問8 あなたは日ごろ、どのような活動をしていますか。(○はいくつでも)

- 1. 運動、スポーツ、健康体操
- 2. 大学公開講座や区民講座等の学習
- 3. 趣味や娯楽活動
- 4. パソコン(メールやインターネット)
- 5. ボランティア活動
- 6. 旅行
- 7. 町会や自治会、地域づくり活動
- 8. 友人・知人との交流
- 9. その他
- 10. 特に活動していません

問9 あなたは日ごろ、どのような運動をしていますか。(○は3つまで)

1. ゴルフ
2. ソフトボール・野球
3. サッカー
4. 卓球
5. 水泳(水中歩行を含む)
6. 体操
7. ハイキング
8. ジョギング
9. ウォーキング・散歩
10. サイクリング
11. テニス(硬式・軟式)
12. ゲートボール・クラウンドゴルフ
13. その他()
14. 特に運動はしていない

問10 今後、以下のような地域活動に参加したい、又は、続けたいですか。(○はい/×でも)

1. 町会、自治会等活動
2. 高齢者や障がい者、子どもの育成に関する活動
3. 環境美化や自然保護など環境に関する活動
4. 防犯・防災等活動
5. 地域の産業振興や活性化に関する活動
6. 健康スポーツ等の活動
7. 地域の祭りや文化・芸能の振興や継承等に関する活動
8. 各種学習・研究活動
9. その他()
10. 特に参加したい地域活動はない

問11 あなたは、今後も現在のお住まいで生活したいですか。(○はい/×でも)

1. 可能な限り今の住まいで生活したい
2. 転居したい
3. わからない

問11で「2. 転居したい」と回答された方にお聞きします。

問11-1 あなたはどのようなお住まいに転居したいですか。(○はい/×でも)

1. もっと広い住まいに転居したい
2. もっと狭い住まいに転居したい
3. 一戸建てに転居したい
4. 集合住宅(マンションなど)に転居したい
5. 都心に転居したい
6. 郊外に転居したい
7. その他()

問12 孤独死(誰にも看取られることなく、亡くなった後に発見される死)について、身近な問題だと感じますか。(○は1つ)

1. 非常に感じる
2. まあまあ感じる
3. あまり感じない
4. まったく感じない
5. わからない

問12で「1. 非常に感じる」「2. まあまあ感じる」と回答された方にお聞きします。

問12-1 主な理由は何か。(○は1つ)

1. 一人暮らしだから
2. ご近所との付き合いが少ないから
3. 家族・親戚との付き合いが少ないから
4. あまり外出しないから
5. 総務的に苦しいから
6. その他()

3 あなたの身体や健康について

問13 現在の自分の健康状態をどのように感じていますか。(○は1つ)

1. 健康
2. まあ健康
3. あまり健康でない
4. 健康ではない

問14 現在、医療機関で治療中又は服薬中の病気やけががありますか。(○は1つ)

1. ある
2. ない

問14で「1. ある」と回答された方にお聞きします。

問14-1 どのような病気・けがですか。(○はい/×でも)

- | | | |
|-------------------------------------|-------------------------|------------------|
| 1. 高血圧症 | 9. 脳卒中
(脳出血、脳梗塞など) | 15. 耳や鼻の病気(難聴など) |
| 2. 脂質異常症
(高コレステロール血症・
中性脂肪亢進) | 10. 狭心症・心筋梗塞 | 16. 歯の病気(歯周病など) |
| 3. 糖尿病 | 11. 目の病気(白内障など) | 17. 骨折・外傷 |
| 4. 動脈硬化症 | 12. 腎臓の病気 | 18. 認知症 |
| 5. 腰痛症 | 13. 動脈硬化症
(胃腸病、膵炎など) | 19. 痛風(高尿酸血症) |
| 6. 関節症・リウマチ | 14. 泌尿器の病気
(前立腺肥大など) | 20. がん(悪性新生物) |
| 7. 肩こり症 | 21. その他() | |
| 8. 骨粗しょう症
(せん息など) | | |

問 15 あなたの健康に関する行動についておたずねします。(○はそれぞれ1つずつ)

- | | | | |
|---------|-------------|----------------|--------------|
| たばこは | 1. 吸わない | 2. 時々、吸っている | 3. 吸っている |
| お酒は | 1. 飲まない | 2. 時々、飲んでる | 3. 飲んでる |
| 規則的な食事は | 1. している | 2. だいたい、している | 3. していない |
| 歯の健康維持は | 1. している | 2. だいたい、している | 3. していない |
| 普段から健康に | 1. 気をつかっている | 2. まあ、気をつかっている | 3. 気をつかっていない |
| かかりつけ医は | 1. いる | 2. いない | |

問 16 あなたは、ここ1年間、健康診断や人間ドックなどを受診したことがありますか。
(○はいくつでも)

- | | |
|-----------------------------|--------------------|
| 1. 職場が実施している健康診断・人間ドックを受けた | 問 16-1へ
進むください。 |
| 2. 区が実施している健康診断を受けた | |
| 3. 個人で人間ドックを受けた | |
| 4. 受けていない ⇒ 問 16-4へお進みください。 | |

問 16で「1」～「3」と回答された方にお聞きします。

問 16-1 受診の結果、異常を指摘された点がありますか。(○は1つ)

- | | |
|-------------|--------------------|
| 1. 異常はなかった | 問 16-2へ
進むください。 |
| 2. 異常を指摘された | |
| 3. その他 () | |

問 16-1で「2. 異常を指摘された」「3. その他」と回答された方にお聞きします。

問 16-2 異常を指摘されたことについて、治療や日常生活に注意をしていますか。
(○は1つ)

- | | |
|------------------------|--------------------|
| 1. 治療や服薬をしている | 問 16-3へ
進むください。 |
| 2. 食事や運動など、日常生活に注意している | |
| 3. 特に何もしていない | |
| 4. その他 () | |

問 16-2で「3. 特に何もしていない」と回答された方にお聞きします。

- | | |
|--------------------------------------|-----------------------|
| 問 16-3 「特に何もしていない」のは、なぜですか。(○はいくつでも) | |
| 1. 症状が軽微だから | 4. 自分に合った適切な対処方法がないから |
| 2. 時間がとれないから | 5. その他 () |
| 3. 費用がかかるから | |

問 16で「4. 受けていない」と回答された方にお聞きします。

- | | |
|---|------------------|
| 問 16-4 健康診断や人間ドックを受診していない主な理由は何ですか。(○は1つ) | |
| 1. 機会がない | 5. 時間がとれない |
| 2. 受診方法がわからない | 6. 場所が不便で行くのに疲れる |
| 3. 必要がない | 7. その他 () |
| 4. 費用がかかる | |

問 17 あなたは健康に関して、普段から情報入手し、生活に取り入れることに関心がありませんか。(○は1つ)

- | | |
|--------------------------|--------------------|
| 1. 大変関心があり、入手に努めている | 問 17-1へ
進むください。 |
| 2. 目にするものの範囲で入手し、参考にしている | |
| 3. 関心はない | |

問 17で「3. 関心はない」と回答された方にお聞きします。

- | | |
|----------------------------------|---------------------|
| 問 17-1 「関心はない」のは、なぜですか。(○はいくつでも) | |
| 1. 現在の健康状態に満足しているから | 4. 費用がかかるから |
| 2. 自分の健康に関心がないから | 5. 自分に合った適切な方法がないから |
| 3. 時間がとれないから | 6. その他 () |

問 18 あなたの普段の基本的な生活についてお聞きします。この設問は、65 歳以上の方を対象に、介護予防が必要かどうかを判定するための「介護予防基本チェックリスト」(厚生労働省作成)です。今回は、40 歳から 64 歳の方にも同じ基本チェックリストの質問をさせていただきます。今後の介護に関する施策の参考とさせていただきます。趣旨をご理解いただき、ご回答をお願いいたします。

各項目について、それぞれ「はい(している)」、「いいえ(していない)」のどちらかをお選びください。

	いづれかに○ はい(している) / いいえ(していない)	
	↓	↑
バスや電車を使って1人で外出していますか	1	2
日用品の買い物をしていますか	1	2
預貯金の出し入れをしていますか	1	2
友人の家を訪ねていますか	1	2
家族や友人の相談にのっていますか	1	2
階段を手すりや壁をつたわらずに昇っていますか	1	2
椅子に座った状態から何もつかまらずに立ち上がっていますか	1	2
15分くらい続けて歩いていきますか	1	2
この1年間に転んだことがありますか	1	2
転倒に対する不安は大きいですか	1	2
6か月間で2~3kg以上の体重減少がありましたか	1	2
半年前に比べて固いものが食べにくくなりましたか	1	2
お茶や汁物等でむせることがありますか	1	2
口の渴きが気になりますか	1	2
週に1回以上は外出していますか	1	2
昨年と比べて外出の回数が減っていますか	1	2
周りの人から「いつも同じことを聞く」などの物忘れがあると 言われますか	1	2
自分で電話番号を調べて、電話をかけることをしていますか	1	2
今日が何月何日かわからない時がありますか	1	2

	いづれかに○ はい(している) / いいえ(していない)	
	↓	↑
(ここ2週間) 毎日の生活に充実感がない	1	2
(ここ2週間) これまで楽しんでやれていたことが楽しめなくなった	1	2
(ここ2週間) 以前は楽しんでできていたことが今ではおっくうに感じられる	1	2
(ここ2週間) 自分か役立つ人間だと思えない	1	2
(ここ2週間) わけもなく疲れたような感じがする	1	2

現在の身長 (..... cm) 体重 (..... kg) ※小数点第1位まで記入

4 介護について

問 19 40 歳から 64 歳の人が脳血管疾患等の特定疾病に該当する場合、介護保険のサービスを利用するために必要な「要介護認定」の申請ができることをご存知ですか。
(○は1つ)

1. 知っている 2. 知らない

問 20 あなたは現在、要介護認定を受けていますか。(○は1つ)

1. 受けている 2. 受けていない 3. わからない

問 20 で「1. 受けている」と回答された方にお聞きします。

問 20-1 あなたの現在の要介護度は次のどれですか。(○は1つ)

1. 要支援1 3. 要介護1 5. 要介護3 7. 要介護5
2. 要支援2 4. 要介護2 6. 要介護4

問 21 あなた自身が、介護が必要な状態になった場合、どのような介護を望めますか。
(○は1つ)

1. 介護保険を利用しながら在宅での介護
2. 介護保険を利用しないで、家族のみによる在宅での介護
3. 老人ホームなどの介護施設に入所
4. サービス付高齢者向け住宅に入居
5. わからない
6. その他 (.....)

問 28 あなたは、介護について次にお示しするうち、どのようなことに不安を感じますか。

(〇はいくつでも)

- | |
|--|
| 1. 家族等が要介護者となった場合、どのような介護になるのが予想つかないで、突然とした不安がある |
| 2. 家族等の介護がいつまで続くかわからず、将来の見通しを立てにくい |
| 3. 家族間で介護の役割分担や在り方について、話し合う機会がない・ほとんどない |
| 4. 自分のほかに介護を分担してくれる家族がない |
| 5. 医療や介護に係る費用の見通しかわからず、経済的な不安がある |
| 6. 介護保険制度の仕組みかわからない |
| 7. 適切な介護サービスを受けられるかわからない |
| 8. 地域の介護に関する相談先かわからない |
| 9. 介護と仕事を両立できるかわからない |
| 10. その他 () |

問 22 あなたは、家族等の介護をした経験がありますか。(〇は1つ)

- | | | |
|---------------|--------------|---------------|
| 1. 介護をした経験がある | 2. 現在介護をしている | 3. 介護をした経験はない |
|---------------|--------------|---------------|

問 23 あなたは家族等と介護について話し合うことはありますか。(〇は1つ)

- | | |
|------------------|---------------|
| 1. 普段からよく話し合っている | 3. 話し合ったことはない |
| 2. 話し合ったことはある | 4. その他 () |

問 24 あなたは、近いうち(5年くらいの間)に家族等の介護をすることになると感じますか。

(〇は1つ)

- | | |
|------------------|------------------|
| 1. 介護する可能性がかなり高い | 3. 介護をすることはないと思う |
| 2. 介護する可能性が少しある | 4. わからない |

問 25 あなたが現在、または将来、介護をすることになると思われる相手はどなたですか。

(〇はいくつでも)

- | | |
|-------------|------------------|
| 1. あなたの親 | 4. その他 |
| 2. あなたの配偶者 | 5. 介護の対象となる家族がない |
| 3. あなたの兄弟姉妹 | 6. わからない |

問 26 あなたの家族等に介護が必要な状態になった場合、どのような介護をしたいと思いますか。

(現在、家族等の介護をしている場合は、どのような介護をしていますか。)

(〇はいくつでも)

- | |
|------------------------------|
| 1. 介護保険を利用しながら在宅での介護 |
| 2. 介護保険を利用しないで、家族のみによる在宅での介護 |
| 3. 老人ホームなどの介護施設に入所 |
| 4. サービス付高齢者向け住宅に入居 |
| 5. 介護の対象となる家族がない |
| 6. わからない |
| 7. その他 () |

問 27 あなたは家族等の介護をすることについて、不安を感じますか。(〇は1つ)

- | | | |
|--------------|-------------|----------|
| 1. 非常に不安を感じる | 3. 少し不安を感じる | 5. わからない |
| 2. 不安を感じる | 4. 不安を感じない | |

問 29～問 31は、現在お勤めの方がお答えください。
その他の方はP13問32へお進みください。

問 29 あなたは、勤務先で介護について相談するとき、どなたに相談しますか。(現在、介護をしていない方は、介護が必要となった場合を想定してお答えください。なお、相談を受けられることは除いてお答えください。)(〇はいくつでも)

- | | |
|-------------------|--------------------|
| 1. 同じ職場の上司 | 6. 勤務先の労働組合 |
| 2. 同じ職場の同僚 | 7. 勤務先が提供する外部の相談窓口 |
| 3. 同じ職場の部下 | 8. その他 () |
| 4. 同じ勤務先だが別の職場の友人 | 9. 勤務先で相談する人はいない |
| 5. 勤務先の人事担当者 | |

問 30 あなたは、家族等の介護をすることになった場合、現在の勤務先で仕事を続けることができると感じますか。(現在、家族等の介護をしながら、仕事を続けている場合は、「1」に回答してください。)(〇は1つ)

- | | | |
|-------------|--------------|----------|
| 1. 続けられると思う | 2. 続けられないと思う | 3. わからない |
|-------------|--------------|----------|
- (続いている)

問 31 家族等の介護をすることになった場合、現在の勤務先で仕事を続けるうえで、不安に思うことは何ですか。(現在、家族等の介護をしている場合は、仕事を続けている上で、不安に思っていることは何ですか。)(○はいくつでも)

1. 勤務先に介護に関わる支援制度がない、もしくはわからない
2. 勤務先に介護に関わる支援制度はあっても、利用しにくい雰囲気がある
3. 勤務先や職場に介護について相談する人がいない
4. 職場に介護休業などを取得している人がいない
5. 介護と仕事を両立させる際に、勤務先や上司の理解が得られない
6. 代替要員がおらず、介護のために仕事を休めない
7. 労働時間が長い
8. 介護と仕事を両立させると、昇進・昇格に影響が出る可能性がある
9. 介護休業を取得すると収入が減る
10. その他 ()
11. 不安を感じない

問 32 「介護保険」についてどのようなことを知っていますか。(○はいくつでも)

1. 介護保険のサービスを受けるには、要介護認定を受ける必要がある
2. 身体の状態が変化した場合、認定期間の更新前でも要介護認定を受け直すことができる
3. 介護状態により要支援 1・2、要介護 1～5の7段階があり、それぞれの要介護別サービス利用限度額が決まっている
4. 要支援と要介護では、利用できるサービスの種類に違いがある
5. 要支援や要介護状態となる手前の段階で参加できる介護予防の取り組みがある
6. ケアプランは、原則として要支援の人に対しては地域包括支援センター、要介護の人に對しては、居宅介護支援事業所のケアマネジャーが担当する
7. ケアプランは変更することができる
8. 介護サービス提供事業者は自由に選ぶことができる
9. 介護事業者の特徴を比較できるように、介護サービス情報の公表制度がある
10. 介護サービスを利用する際には、事業者との契約が必要である
11. 介護サービスを利用したときは、サービス利用料の1割または2割を自己負担する
12. 40歳以上の人が介護保険料を負担する
13. 地域包括支援センターは地域の高齢者の総合相談窓口として、介護の相談を受け付けている
14. どれも知らない

問 33 あなたが知られている介護保険料はいくらであるかご存じですか。(○は1つ)

1. 知っている
2. 知らない

13

問 34 高齢者の増加等により今後ますます介護が必要の方が多くなると予測されます。介護サービスの利用が多くなれば、その分介護保険の財源が必要となります。あなたは、介護保険のサービス水準と保険料についてどのように考えますか。(○は1つ)

1. 平均的なサービスで、平均的な保険料がいい
2. サービスは充実していなくても保険料が安い方がいい
3. 保険料は高くてもサービスが充実している方がいい

問 35 2025年には団塊の世代が後期高齢者(75歳以上)となり、介護給付が増えることが予想されています。介護保険制度を健全に維持していくためには、どのような取り組みが必要だと思いますか。(○は3つまで)

1. 介護保険制度の理念について啓発・普及、定着を図る
2. 要介護状態になっても、嚥下などの防止など、重症化の防止に重点を置く
3. 生活習慣の改善など、区民1人ひとりが意識して健康づくりや介護予防に取組む
4. 介護サービス事業者への指導強化など、サービスの質の向上や不適切な給付を無くす
5. 介護を支えるヘルパー等が定着できる様に、介護報酬等により労働環境を改善する
6. 地域で相互に助け合う仕組みづくり、公的サービスは必要最小限に抑える
7. その他 ()
8. わからない

問 36 今後、足立区が取り組むべきこととして、次のうちどれを優先すべきだと思いますか。

(○は3つまで)

1. 自宅での介護を支援するサービスの充実
2. 健康診査などの保健医療サービスの充実
3. 常時介護が必要の方のための施設の整備
4. 病院から家庭へ復帰するためのリハビリを行う施設の整備
5. 元気な方のための健康増進や教養の向上のための事業
6. 介護予防や認知症予防などの介護を予防するための事業
7. 高齢者のための住宅整備、住宅改修の資金補助等、住宅に関する事業
8. 介護に関する相談等、相談体制の充実
9. 高齢者の就労や社会活動参加の支援
10. 介護する家族に対する支援
11. 段差解消や歩道整備など安全なまちづくり
12. その他 ()

14

問 37 最後に、高齢者保健・福祉・介護について、ご意見・要望がありましたら、ご自由にお書きください。なお、記入いただく際、内容の表題を合わせてご記入いただければ幸いです。

「 」について

質問は以上で終わります。ご協力ありがとうございました。

ご記入がお済みになりましたら、まことにお手数ですが、同封した返信用封筒（切手不要）に入れて、12月16日（金）までにご投函ください。

ご協力ありがとうございました。



足立区役所 福祉部 高齢福祉課 高齢調整係
〒120-8510 足立区中央本町一丁目17番1号

【お問い合わせ先】

・提出方法等一般のお問い合わせ



「新しいむくせコール あだち」

電話：03-3880-0039

（受付時間：午前8時～午後8時/年中無休）

・調査項目等に関する個別のお問い合わせ

高齢福祉課 高齢調整係

電話：03-3880-5886（直通）

（受付時間：土・日・祝日を除く午前8時30分～午後5時）

5 在宅介護実態調査

問6 現在、主な介護者の方が行っている介護等について、ご回答ください(複数選択可)

〔身体介護〕

1. 日中の排泄
2. 夜間の排泄
3. 食事の介助(食べる時)
4. 入浴・洗身
5. 身だしなみ(洗顔・歯磨き等)
6. 衣服の着脱
7. 屋内の移乗・移動
8. 外出の付き添い、送迎等
9. 服薬
10. 認知症状への対応
11. 医療面での対応(経管栄養、ストーマ等)

〔生活援助〕

12. 食事の準備(調理等)
13. その他の家事(掃除、洗濯、買い物等)
14. 金銭管理や生活面に必要な諸手続き
15. その他
16. わからない

問7 ご家族やご親族の中で、ご本人(認定調査対象者)の介護を主な理由として、過去1年の間に仕事を辞めた方はいますか(現在働いているかどうかや、現在の勤務形態は問いません)(複数選択可)

1. 主な介護者が仕事を辞めた(転職除く)
2. 主な介護者以外の家族・親族が仕事を辞めた(転職除く)
3. 主な介護者が転職した
4. 主な介護者以外の家族・親族が転職した
5. 介護のために仕事を辞めた家族・親族は、ない
6. わからない

※ 自営業や農林水産業のお仕事を辞めた方を含みます。

● ここから再び、全員に調査してください。

問8 現在、利用している、「介護保険サービス以外」の支援・サービスについて、ご回答ください(複数選択可)

1. 配食
2. 調理
3. 掃除・洗濯
4. 買い物(宅配は含まない)
5. ゴミ出し
6. 外出同行(通院、買い物など)
7. 移送サービス(介護・福祉タクシー等)
8. 見守り、声かけ
9. サロンなどの定期的な通いの場
10. その他
11. 利用していない

※ 総合事業に基づく支援・サービスは、「介護保険サービス」に含めます。

問9 今後の在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス(現在利用しているが、さらなる充実が必要と感じる支援・サービスを含む)について、ご回答ください(複数選択可)

1. 配食
2. 調理
3. 掃除・洗濯
4. 買い物(宅配は含まない)
5. ゴミ出し
6. 外出同行(通院、買い物など)
7. 移送サービス(介護・福祉タクシー等)
8. 見守り、声かけ
9. サロンなどの定期的な通いの場
10. その他
11. 特になし

※ 介護保険サービス、介護保険以外の支援・サービスともに含みます。

在宅介護実態調査 調査票

被保険者番号[_____]

【A票の聞き取りを行った相手の方は、どなたですか】(複数選択可)

1. 調査対象者本人
2. 主な介護者となっている家族・親族
3. 主な介護者以外の家族・親族
4. 調査対象者のケアマネジャー
5. その他

A票 認定調査員が、概況調査等と並行して記載する項目

問1 世帯類型について、ご回答ください(1つを選択)

1. 単身世帯
2. 夫婦のみ世帯
3. その他

問2 ご家族やご親族の方からの介護は、週にどのくらいありますか(同居していない子どもや親族等からの介護を含む)(1つを選択)

1. ない
2. 家族・親族の介護はあるが、週に1日より少ない
3. 週に1～2日ある
4. 週に3～4日ある
5. ほぼ毎日ある

問8(次頁)へ

問3～問13へ

問3 主な介護者の方は、どなたですか(1つを選択)

1. 配偶者
2. 子
3. 子の配偶者
4. 孫
5. 兄弟・姉妹
6. その他

問4 主な介護者の方の性別について、ご回答ください(1つを選択)

1. 男性
2. 女性

問5 主な介護者の方の年齢について、ご回答ください(1つを選択)

1. 20歳未満
2. 20代
3. 30代
4. 40代
5. 50代
6. 60代
7. 70代
8. 80歳以上
9. わからない

問10 現時点での、施設等への入所・入居の検討状況について、ご回答ください(1つを選択)

1. 入所・入居を検討していない
2. 入所・入居を検討している
- 3.すでに入所・入居申し込みをしている

※「施設等」とは、特別養老ホーム、老人保健施設、介護療養型医療施設、特定施設(有料老人ホーム等)、グループホーム、地域密着型特定施設、地域密着型特別養老ホームを指します。

問11 ご本人(認定調査対象者)が、現在抱えている傷病について、ご回答ください(複数選択可)

1. 脳血管疾患(脳卒中)
2. 心疾患(心臓病)
3. 悪性新生物(がん)
4. 呼吸器疾患
5. 腎疾患(透析)
6. 筋骨格系疾患(骨粗しょう症、脊柱管狭窄症等)
7. 膠原病(関節リウマチ含む)
8. 変形性関節疾患
9. 認知症
10. パーキンソン病
11. 難病(パーキンソン病を除く)
12. 糖尿病
13. 眼科・耳鼻科疾患(視覚・聴覚障害を伴うもの)
14. その他
15. なし
16. わからない

問12 ご本人(認定調査対象者)は、現在、訪問診療を利用していますか(1つを選択)

1. 利用している
2. 利用していない

※訪問診療や居宅療養管理指導等を含みません。

問13 現在、(住宅改修、福祉用具貸与・購入以外の)介護保険サービスを利用していますか(1つを選択)

1. 利用している
2. 利用していない

● 問13で「2.」を回答した場合は、問14も調査してください。

問14 介護保険サービスを利用していない理由は何ですか(複数選択可)

1. 現状では、サービスを利用するほどの状態ではない
2. 本人にサービス利用の希望がない
3. 家族が介護をするため必要ない
4. 以前、利用していたサービスに不満があった
5. 利用料を支払うのが難しい
6. 利用したいサービスが利用できない、身近にない
7. 住宅改修、福祉用具貸与・購入のみを利用するため
8. サービスを受けたいが手続きや利用方法が分からない
9. その他

● 問2で「2.」~「5.」を回答し、さらに「主な介護者」が調査に同席している場合は、「主な介護者」の方にB票へのご回答・ご記入をお願いしてください。

● 「主な介護者」の方が同席されていない場合は、ご本人(調査対象者の方)にご回答・ご記入をお願いしてください(ご本人にご回答・ご記入をお願いすることが困難な場合は、無回答で結構です)。

B票 主な介護者様、もしくはご本人様にご回答・ご記入頂く項目

※主な介護者様、もしくはご本人様にご回答・ご記入(調査票の該当する番号に○)をお願い致します。

問1 主な介護者の方の現在の勤務形態について、ご回答ください(1つを選択)

1. フルタイムで働いている } 問2~問5へ
2. パートタイムで働いている } 問5(次頁)へ
3. 働いていない
4. 主な介護者に確認しないと、わからない

※「パートタイム」とは、「1週間の所定労働時間が、同一の事業所に雇用される通常の労働者に比べて短い方」が該当します。いわゆる「アルバイト」、「嘱託」、「契約社員」等の方を含みます。自営業・フリーランス等の場合も、就労時間・日数等から「フルタイム」、「パートタイム」のいずれかを選択してください。

問2 問1で「1.」「2.」と回答した方にお伺いします。主な介護者の方は、介護をするにあたって、何か働き方についての調整等をしていますか(複数選択可)

1. 特に行っていない
2. 介護のために、「労働時間を調整(残業免除、残業時間勤務、選出・早帰・中抜け等)」しながら、働いている
3. 介護のために、「休暇(年休や介護休暇等)」を取りながら、働いている
4. 介護のために、「在宅勤務」を利用しながら、働いている
5. 介護のために、2~4以外の調整をしながら、働いている
6. 主な介護者に確認しないと、わからない

問3 問1で「1.」「2.」と回答した方にお伺いします。主な介護者の方は、勤め先からどのような支援があれば、仕事と介護の両立に効果があると思いますか(3つまで選択可)

1. 自営業・フリーランス等のため、勤め先はない
2. 介護休業・介護休暇等の制度の充実
3. 制度を利用しやすい職場づくり
4. 労働時間の柔軟な選択(フレックスタイム制など)
5. 働く場所の多様化(在宅勤務・テレワークなど)
6. 仕事と介護の両立に関する情報の提供
7. 介護に関する相談窓口・相談担当者の設置
8. 介護をしている従業員への経済的な支援
9. その他
10. 特になし
11. 主な介護者に確認しないと、わからない

問4 問1で「1.」「2.」と回答した方にお伺いします。主な介護者の方は、今後も働きながら介護を続けていくうえでか(1つを選択)

1. 問題なく、続けていく
2. 問題はあるが、何とか続けていく
3. 続けていくのは、やや難しい
4. 続けていくのは、かなり難しい
5. 主な介護者に確認しないと、わからない

⇒ 皆様、次頁へお進みください

● ここから再び、全員の方にお伺いします。

問5 現在の生活を継続していくにあたって、主な介護者の方が不安を感じる介護等について、ご回答ください
(現状で行っているか否かは問いません)(3つまで選択可)

- | | |
|-------------------------|------------------------|
| 1. 日中の排泄 | 2. 夜間の排泄 |
| 3. 食事の介助(食べる時) | 4. 入浴・洗身 |
| 5. 身だしなみ(洗顔・歯磨き等) | 6. 衣服の着脱 |
| 7. 屋内の移乗・移動 | 8. 外出の付き添い、送迎等 |
| 9. 服薬 | 10. 認知症状への対応 |
| 11. 医療面での対応(経管栄養、ストーマ等) | 13. その他の家事(掃除、洗濯、買い物等) |
| 12. 食事の準備(調理等) | 16. 不安に感じていることは、特になし |
| 14. 金銭管理や生活面に必要な諸手続き | |
| 15. その他 | |
| 17. 主な介護者に確認しないと、わからない | |

アンケートは以上です。ご協力ありがとうございました。

6 居宅介護支援事業所実態調査

1 貴事業所の概要についておたずねします

問1 貴事業所についてお答えください。

(1) 事業所名をご記入ください。

事業所名

(2) 貴事業所の併設事業をお答えください。(〇はいくつでも)

区分	現在実施しているサービス	区分	現在実施しているサービス
訪問介護	1	特定施設入居者生活介護	22
介護予防訪問介護	2	介護予防 特定施設入居者生活介護	23
訪問入浴介護	3	定期巡回・随時対応型訪問 介護看護	24
介護予防訪問入浴介護	4	夜間対応型訪問介護	25
訪問看護	5	認知症対応型通所介護	26
介護予防訪問看護	6	介護予防 認知症対応型通所介護	27
訪問リハビリテーション	7	小規模多機能型居宅介護	28
介護予防 訪問リハビリテーション	8	介護予防 小規模多機能型居宅介護	29
通所介護	9	認知症対応型共同生活介護 (グループホーム)	30
介護予防居宅療養管理指導	10	介護予防認知症対応型共同 生活介護(グループホーム)	31
通所リハビリテーション	11	看護小規模多機能型居宅介護	32
介護予防 通所リハビリテーション	12	介護老人福祉施設	33
短期入所生活介護	13	介護老人保健施設	34
介護予防短期入所生活介護	14	介護療養型医療施設	35
短期入所療養介護	15	居宅療養管理指導	36
介護予防短期入所療養介護	16	介護予防居宅療養管理指導	37
福祉用具貸与	17	病院・診療所	38
介護予防福祉用具貸与	18	地域包括支援センター	39
特定福祉用具販売	19	その他()	40
介護予防福祉用具貸与	20	なし	41
住宅改修	21		

高齢者保健福祉に関する調査
(居宅介護支援事業所実態調査)

～ご協力のお願い～

皆様にはますますご健勝のこととお慶び申し上げます。
日頃から足立区の高齢者施策にご理解とご協力を賜り厚くお礼申し上げます。
本区では、平成29年度に「足立区高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画」の見直しを行います。

今回、計画の見直しにあたり、高齢者福祉に関する皆さまのお考えやご意見をお伺いするものです。いただいたお考えやご意見は、高齢者保健福祉計画策定にあたっての貴重な資料とさせていただきます。

ご多忙のところ、誠に恐縮ではございますが、何卒ご協力くださいますようお願い申し上げます。

なお、本調査票は、12月2日(金)までにご記入のうえ、同封の封筒(切手不要)に入れまして投函いただきますようお願い申し上げます。

平成28年11月吉日

この調査票は貴事業所が実施している事業種別ごとにお送りしています。
お手数ですが、封筒の宛名に記載のある事業種別ごとにご記入ください。

【記入にあたってのお願い】

1. 回答は、事業所の代表者の方がご記入くださるようお願いいたします。
2. ご回答にあたっては質問をよくお読みいただき、該当する番号を〇で囲んでください。また、必要に応じて、数字やご意見のご記入をお願いいたします。
3. この調査についてのお問い合わせは下記までお願いいたします。

* 調査結果は、厳重に管理して統計的に処理し、調査以外の目的には使用しません。

〔調査主体〕

足立区福祉部介護保険課介護保険係
足立区中央本町1-17-1
03-3880-5887(直通)



(3) 事業所の経営主体は何ですか。(○は1つ)

- 1. 営利法人
- 2. 医療法人
- 3. 社会福祉法人
- 4. NPO法人
- 5. その他法人 ()
- 6. 個人
- 7. その他 ()

(4) 職員体制についてお答えください。(数字を記入) (平成28年10月1日現在)

	正規職員		非正規職員※	
	専任	兼務	専任	兼務
施設責任者(管理者)	人	人	人	人
事務職員	人	人	人	人
介護支援専門員	人	人	人	人
うち主任介護支援専門員	(人)	(人)	(人)	(人)
その他	人	人	人	人
合計	人	人	人	人

※ 非正規職員：いわゆるパート・アルバイト

問2 貴事業所の介護支援専門員の人数を、勤務年数別にお答えください。また、() 内に主任介護支援専門員の人数をお答えください。(数字を記入)

	人数	人数
1. 1年未満	人 (人)	人 (人)
2. 1年~2年未満	人 (人)	人 (人)
3. 2年~3年未満	人 (人)	人 (人)
4. 3年~4年未満		
5. 4年~5年未満		
6. 5年以上		

問3 貴事業所では、ケアマネジャーの質の確保・向上を図るために、今後どのような視点を重視した取り組みが必要だと思いますか。(○は3つまで)

1. 基本的な技術や実践的知識の向上
2. 利用者の状態に応じた応用技術の向上
3. ケアマネジメント技術やアセスメント能力の向上
4. 利用者への対応の仕方など、マナーやコミュニケーション技術の向上
5. 苦情や相談への対応能力の向上
6. 処遇困難者への対応能力の向上
7. ケアマネジャーとしての基本姿勢の徹底
8. 制度に対する最新情報の取得
9. 第三者評価の実施
10. 事業所内でのキャリアパスの構築
11. その他 ()
12. 特になし

問4 貴事業所では、介護職員等の人材は確保できていますか。(○は1つ)

1. 確保できている 問5へ
2. 概ね確保できている 問5へ
3. 確保が難しいこともある
4. 確保できていない

問4で「3」、「4」と回答した事業所にお聞きします。

問4-1 その理由は何か。

問4-2 人材確保支援策として有効だと思われるものは何ですか。

問5 貴事業所では、どのような方法で職員の募集を行っていますか。(〇はいくつでも)

1. ハローワークに求人票を出している
 2. 大学等に求人票を出している
 3. 専門学校に求人票を出している
 4. 高校に求人票を出している
 5. 新聞の折り込み広告等に求人掲載している
 6. 職業紹介雑誌等に求人掲載している
 7. 就職相談会等の機会にブースを設けている
 8. 関東圏域以外へ求人のため足を運んでいる
 9. インターネット媒体を介して募集している
 10. 人材派遣会社に依頼している
 11. その他 ()

問5-1 上記のうち、職員募集で効果のあったものは何ですか。(番号を3つまで)

() () ()

問6 平成27年(1月から12月)の入職率と離職率についてお答えください。(数字を記入)

(1) 正規職員について

入職率 ((27年年初の正規職員数)に対する27年の入職者(正規職員)数の割合) _____ %
 離職率 ((27年年初の正規職員数)に対する27年の離職者(正規職員)数の割合) _____ %

(2) 非正規職員について

入職率 ((27年年初の非正規職員数)に対する27年の入職者(非正規職員)数の割合) _____ %
 離職率 ((27年年初の非正規職員数)に対する27年の離職者(非正規職員)数の割合) _____ %

問7 貴事業所では、災害時の対策を実施・計画していますか。(〇はいくつでも)

1. 水害対策を含む非常災害対策計画・マニュアルを策定している
 2. 水害対策を含まない非常災害対策計画・マニュアルを策定している
 3. 災害時の備蓄対策をしている
 4. 施設の耐震対策(ガラスの飛散防止・棚等の転倒防止など)を実施している
 5. 防災訓練などで近隣の住民組織(町内会、自主防災組織)と連携している
 6. その他 ()
 7. 特に何もしていない

問7-1ハ

問7で「1」又は「2」と回答した事業所にお聞きします。

問7-1 策定されている非常災害対策計画・マニュアルに含まれている項目は何ですか。(〇はいくつでも)

1. 施設等の立地条件
 2. 災害に関する情報の入手方法
 3. 災害時の連絡先(自治体、家族、職員等)及び通信手段
 4. 避難を開始する時期及び判断基準
 5. 避難場所(区が指定する避難場所、施設内の安全なスペース等)
 6. 避難経路及び所要時間
 7. 利用者ごとの避難方法(車いす、徒歩等)
 8. 災害時の人員体制・指揮系統(災害時の参集方法、役割分担、避難に必要な職員数等)
 9. 関係機関との連携体制
 10. その他 ()

問8 貴事業所は平成28年に水害の場合を含む避難訓練を実施しましたか。(〇は12)

1. 実施した
 2. 実施していない

問8で「2. 実施していない」と回答した事業所にお聞きします。

問8-1 実施予定時期は、いつですか。

2 ケアプラン作成等についておたずねします

問9 貴事業所は、10月の1か月間で何名の方のケアプランを作成していますか。平成27年10月分と平成28年10月分についてお答えください。(数字を記入)

	平成27年10月分	平成28年10月分
ケアプラン作成件数	() 件	() 件
うち、足立区の利用者へのケアプラン作成件数	() 件	() 件

問9-1 平成28年10月分につきまして、要支援・要介護度別の件数をお答えください。
(委託を含む)

平成28年10月分	要支援1	要支援2	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5
ケアプラン作成件数							

問10 貴事業所は介護予防プランの委託を受けていますか。(○は1つ)

1. 受けている 2. 受けていない

問10で「1. 受けている」と回答した事業所にお聞きします。

問10-1 平成28年10月の1か月間で何件の介護予防プランの委託を受けていますか。
(数字で記入)

() 件

問10-2 介護予防プランの作成件数を増やすことはできますか。(○は1つ)

1. 増やすことができる 2. 増やすことはできない 3. どちらともいえない

問10-3 問10-2で回答した理由は何ですか。

問11 ケアプランを立てる際に、区内でサービスの供給量が不足している介護サービスはありますか。
(○はいくつでも)

1. 訪問介護	11. 介護老人保健施設
2. 訪問入浴介護	12. 介護療養型医療施設
3. 訪問看護	13. 定期巡回・随時対応型訪問介護看護
4. 訪問リハビリテーション	14. 夜間対応型訪問介護看護
5. 通所介護	15. 認知症対応型共同生活介護
6. 通所リハビリテーション	16. 小規模多機能型居宅介護
7. 短期入所生活・療養介護	17. 認知症対応型通所介護
8. 居宅療養管理指導	18. 看護小規模多機能型居宅介護
9. 特定施設入居者生活介護	19. その他 ()
10. 介護老人福祉施設	20. 供給不足とは思わない

問12 ケアプランを立てる際に、併設事業所以外の介護サービス提供事業者との連携を図られていますか。(○は1つ)

1. 連携している 3. どちらともいえない
2. 概ね連携している 4. 連携していない

問12で「4. 連携していない」と回答された事業所にお聞きします。

問12-1 併設事業所以外の介護サービス提供事業者と連携していない理由は何ですか。

問13 主治医との連携を図られていますか。(○は1つ)

1. 連携している 4. 連携していない
2. 概ね連携している 5. その他 ()
3. どちらともいえない

問13で「4. 連携していない」と回答された事業所にお聞きします。

問13-1 主治医と連携していない理由は何ですか。

問14 ケアプランを立てる際に、特に対応が難しいのはどのような時ですか。本人の状況と家族の状況についてお答えください。(○はそれぞれ1つずつ)

(1) 本人の状況

1. 身寄りがいない 3. 経済的な問題で必要なサービスを組み込めない
2. 認知症のため判断ができない 4. その他 ()

(2) 家族の状況

1. 家族の協力が得られない
2. サービス利用者本人と家族との考えが一致しない
3. 家族間の考えが一致しない
4. その他 ()

3 権利擁護についておたずねします

問 15 貴事業所は、高齢者等に対する虐待が疑われるようなケースの場合、地域包括支援センターへつないでいますか。(〇は1つ)

- 1. すべて地域包括支援センターへつないでいる
- 2. あきらかに虐待と確認できた場合のみつないでいる
- 3. 事業所内での対応にとどめている
- 4. その他 ()

問 16 貴事業所は、高齢者に対する虐待に早期に対応するためにはなにが必要だと思えますか。(〇はいくつでも)

- 1. 相談窓口の充実
- 2. 介護者のレスパイト（息抜き）サービスの充実
- 3. 地域の声の見守り
- 4. 介護サービスの提供拡大
- 5. 介護サービス提供者等による早期発見
- 6. その他 ()

4 地域包括ケアシステムの推進についておたずねします

問 17 地域包括ケアシステムの推進に向けて、高齢者が自宅や地域で暮らし続けるために、今後さらに強化が必要な取り組みはありますか。(〇は3つまで)

- 1. 医療機関・介護事業所等の連携の強化
- 2. 「定期巡回・随時対応型訪問介護看護」「小規模多機能型居宅介護」「看護小規模多機能型居宅介護」等の在宅介護サービスの拡充
- 3. 認知症に対する正しい理解の普及や地域における見守り体制の充実
- 4. 運動機能を回復させるためのリハビリテーション機能の充実
- 5. 地縁やボランティアを活かした地域の見守りの推進
- 6. 介護する家族へのケア
- 7. 緊急時に入院・入所できる体制づくり
- 8. 高齢者でも入居できる住宅の確保
- 9. その他 ()

問 18 利用者が安心して在宅医療を受けるために、今後さらに強化が必要な取り組みはありますか。(〇は3つまで)

- 1. 医師からの診療方針の説明
- 2. 医療機関と介護事業所との情報共有
- 3. 24時間対応できる医療サービスの提供
- 4. 24時間対応できる介護サービスの提供
- 5. 利用できるサービス内容の周知
- 6. 緊急時の入院先の確保
- 7. 区民への普及・啓発、家族の理解
- 8. 家族の定期的な見守り
- 9. その他 ()

問 19 貴事業所では、利用者や家族等から看取りの相談を受けたことがありますか。(〇は1つ)

- 1. 受けたことがある
- 2. 受けたことはない

問 19 で「1. 受けたことがある」と回答された事業所にお聞きします。

問 19-1 看取りの相談を受けた際、どのような対応をされましたか。

問 20 高齢者の健康を維持・向上させていくため、介護予防事業として今後さらに強化が必要な取り組みはありますか。(〇は3つまで)

- 1. ウォーキング教室
- 2. リハビリ運動
- 3. 介護予防体操
- 4. 脳トレ
- 5. 保健師による総合的な指導
- 6. 口腔ケアに関する講座
- 7. 栄養改善に関する講座
- 8. その他 ()

問 21 認知症高齢者に関して今後さらに強化が必要な取り組みは何ですか。(○は3つまで)

<ol style="list-style-type: none"> 1. 認知症への理解を深めるための普及・啓発の推進 (講演会や予防教室等による正しい知識の普及啓発、認知症サポーターの養成と活動の支援等) 2. 認知症の容態に応じた通時・適切な医療・介護等の提供 (早期診断・早期対応のための体制整備、医療・介護の連携の推進等) 3. 若年性認知症施策の強化 (若年性認知症の理解の促進、支援ハンドブックの配布等) 4. 認知症の人の介護者への支援 (認知症カフェの設置、家族の交流会や家族相談会などの支援等) 5. 認知症の人を含む高齢者にやさしい地域づくりの推進 (徘徊高齢者検察情報ネットワークの充実、見守りキーホルダー、あんしんプリントの普及啓発、認知症グループホームや特別養護老人ホーム等の施設整備、シルバー人材センター登録等) 6. 認知症の人やその家族の視点の重視 (認知症の人が自らの言葉で語る環境づくり) 7. その他(具体的に)

5 今後の要望等についておたずねします

問 22 貴事業所は、現在の介護保険サービスは高齢者の自立支援を促進する役割を果たしていると思いますか。(○は1つ)

<ol style="list-style-type: none"> 1. 果たしている 2. 概ね果たしている 3. どちらとも思えない 4. 果たしているとは思えない 5. その他()
--

問 23 貴事業所は、現在の介護保険サービスは家族の介護負担軽減の役割を果たしていると思いますか。(○は1つ)

<ol style="list-style-type: none"> 1. 果たしている 2. 概ね果たしている 3. どちらとも思えない 4. 果たしているとは思えない 5. その他()
--

問 24 貴事業所において、足立区で居宅介護支援事業を行ううえでの問題点はありますか。

(○はいくつでも)

<ol style="list-style-type: none"> 1. サービス内容の変更やキャンセルが多い 2. サービス担当者会議(ケアカンファレンス)の開催調整が困難である 3. 処遇困難者への対応について、負担が大きい 4. サービス事業者の情報不足している 5. 区の保健福祉施策に関する情報が不足している 6. 介護保険サービス利用の仕組みに関する説明が難しい 7. 最新・適切な介護保険制度に関する情報が不足している 8. 給付管理や介護報酬請求業務などの事務作業が多い 9. その他() 10. 問題点はない

問 25 高齢者保健・福祉事業や介護保険制度について、区へのご要望、ご意見などがありましたら、お聞かせください。

質問は以上で終わります。ご協力ありがとうございました。
ご記入がお済みになりましたら、まことにお手数ですが、同封した返信用封筒(切手不要)に入れて、12月2日(金)までにご投函ください。

ご協力ありがとうございました。



この調査に関するお問い合わせは

足立区役所 福祉部 介護保険課 介護保険係
〒120-8510 足立区中央本町一丁目17番1号
電話：03-3880-5887 (直通)

7 在宅サービス事業所実態調査

1 貴事業所の概要についてお答えください

問1 貴事業所についてお答えください。

(1) 事業所名をご記入ください。

事業所名

(2) 封筒の宛名に記載のある事業種別は何ですか。(3)の表の番号を記載してください。(1~42までの番号)

事業種別

(3) 貴事業所の実施事業について、あてはまるものに○をつけてください。(○はいくつでも)

区分	現在実施しているサービス	区分	現在実施しているサービス
居宅介護支援	1	住宅改修	23
介護予防支援	2	特定施設入居者生活介護	24
訪問介護	3	介護予防 特定施設入居者生活介護	25
介護予防訪問介護	4	定期巡回・随時対応型訪問 介護看護	26
訪問入浴介護	5	夜間対応型訪問介護	27
介護予防訪問入浴介護	6	認知症対応型小通所介護	28
訪問看護	7	介護予防 認知症対応型小通所介護	29
介護予防訪問看護	8	小規模多機能型居宅介護	30
訪問リハビリテーション	9	介護予防 小規模多機能型居宅介護	31
介護予防 訪問リハビリテーション	10	認知症対応型共同生活介護 (グループホーム)	32
通所介護	11	介護予防認知症対応型共同 生活介護(グループホーム)	33
介護予防通所介護	12	看護小規模多機能型居宅介護	34
通所リハビリテーション	13	介護老人福祉施設	35
介護予防 通所リハビリテーション	14	介護老人保健施設	36
短期入所生活介護	15	介護療養型医療施設	37
介護予防短期入所生活介護	16	居宅療養管理指導	38
短期入所療養介護	17	介護予防居宅療養管理指導	39
介護予防短期入所療養介護	18	病院・診療所	40
福祉用具貸与	19	地域包括支援センター	41
介護予防福祉用具貸与	20	その他()	42
特定福祉用具販売	21	なし	43
特定介護予防福祉用具販売	22		

高齢者保健福祉に関する調査
(介護保険在宅サービス事業所実態調査)

～ご協力をお願いします～

皆様にはますますご健勝のこととお慶び申し上げます。
日頃から足立区の高齢者施策にご理解とご協力を賜り厚くお礼申し上げます。

本区では、平成29年度に「足立区高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画」の見直しを行います。

今回、計画の見直しにあたり、高齢者福祉に関する皆さまのお考えやご意見をお伺いするものです。いただいたお考えやご意見は、高齢者保健福祉計画策定にあたっての貴重な資料とさせていただきます。

ご多忙のところ、誠に恐縮ではございますが、何卒ご協力くださいますようお願い申し上げます。

なお、本調査票は、12月2日(金)までにご記入のうえ、同封の封筒(切手不要)に入れまして投函いただきますようお願い申し上げます。

平成28年11月吉日

この調査票は貴事業所が実施している事業種別ごとにお送りしています。
お手数ですが、封筒の宛名に記載のある事業種別ごとにご記入ください。

【記入にあたってのお願い】

1. 回答は、事業所の代表者の方がご記入くださるようお願いいたします。
2. ご回答にあたっては質問をよくお読みいただき、該当する番号を○で囲んでください。また、必要に応じて、数字やご意見のご記入をお願いいたします。
3. この調査についてのお問い合わせは下記までお願いいたします。

* 調査結果は、厳重に管理して統計的に処理し、調査以外の目的には使用しません。

【調査主体】 足立区福祉部介護保険課介護保険係
足立区中央本町1-17-1
03-3880-5887(直通)



(4) 事業所の経営主体は何ですか。(○は1つ)

1. 営利法人	5. その他法人 ()
2. 医療法人	6. 個人
3. 社会福祉法人	7. その他 ()
4. NPO法人	

(5) 経営主体の法人の所在地はどこですか。(○はひとつ)

1. 足立区内	2. 足立区外
---------	---------

問2 貴事業所の職員体制について記入して下さい。(数字を記入)(平成28年10月1日現在) 兼務をしている場合は、主たる業務でカウントしてください。

	正規職員	非正規職員※
施設責任者(管理者)	___人	___人
生活相談員	___人	___人
事務職員	___人	___人
看護職員(看護師、准看護師)	___人	___人
介護職員(介護福祉士、ヘルパー1・2級、初任者研修等)	___人	___人
機能訓練指導員(P.T、O.T等)	___人	___人
介護支援専門員	___人	___人
栄養士	___人	___人
その他	___人	___人
合計	___人	___人
うち、外国人	___人	___人

※ 非正規職員：いわゆるパート・アルバイト

2 介護サービスの提供状況等についておたずねします

問3 訪問介護、通所介護の事業所の方におたずねします。それぞれのサービス利用者数を介護度別にご記入ください。これらサービスを実施されていない事業所の方は、次の問4へお進みください。

【訪問介護利用者の要介護度別人数】 平成28年10月サービス利用分

要支援1	要支援2	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	計
上記利用者数のうち、家事援助のみ利用者数							

【通所介護利用者の要介護度別人数】 平成28年10月サービス利用分

要支援1	要支援2	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	計

問4 利用定員のあるサービスを実施されている場合、実施サービスの番号に○を付け、該当する欄に利用定員及び平成28年10月のサービス利用者数(延べ人数)、10月の営業日数を記入してください。なお、半日単位での利用がある場合は、0.5人で計上してください。

実施しているサービス (あてはまる番号すべてに○)	利用定員	平成28年10月 利用者数	平成28年10月 営業日数
1. 通所介護	人	人	日
2. 通所リハビリテーション	人	人	日
3. 短期入所生活介護	床	人	日
4. 短期入所療養介護	床	人	日
5. 認知症対応型共同生活介護	人	人	日
6. 認知症対応型通所介護	人	人	日
7. 夜間対応型訪問介護	人	人	日
8. 定期巡回・随時対応型訪問 介護看護	人	人	日
9. 小規模多機能型居宅介護	(登録定員) 人	(通い) 人	日
		(宿泊) 人	日
10. 看護小規模多機能型居宅介護	(登録定員) 人	(通い) 人	日
		(宿泊) 人	日

問5 事業所の休業日はいつですか。

1. 月曜日	4. 木曜日	7. 日曜日	9. 毎日提供している
2. 火曜日	5. 金曜日	8. 祝祭日	10. その他
3. 水曜日	6. 土曜日	()	

問6 予防給付の訪問介護、通所介護が介護予防・日常生活支援総合事業へ移行することにより、貴事業所の業務展開に、どのような問題・課題が生じていますか。

問6-1 貴事業所は、平成30年4月以降も現在の単価で実施した場合、介護予防・日常生活支援総合事業の訪問型サービスへの参入を希望されますか。(〇は1つ)

1. 参入する・参入予定である	2. 参入はしない	3. わからない
-----------------	-----------	----------

問6-2 貴事業所は、平成30年4月以降も現在の単価で実施した場合、介護予防・日常生活支援総合事業の通所型サービスへの参入を希望されますか。(〇は1つ)

1. 参入する・参入予定である	2. 参入はしない	3. わからない
-----------------	-----------	----------

3 介護サービスの供給量の実績と対応状況についておたずねします

問7 提供しているサービスの供給量が利用者の希望に合わせて対応できたかどうか、対応状況についてお答えください。(〇は1つ)

1. 対応できた	2. 一部対応できなかった	3. 対応できないが多かった
----------	---------------	----------------

問8 現在実施されているサービスの今後の方針(希望)についてお答えください。(〇は1つ)

1. 拡大予定	2. 現状維持	3. 縮小予定	4. 特に考えていない
---------	---------	---------	-------------

4 諸機関との連携と質の向上に関する取組みについておたずねします

問9 医療機関との連携について、事業所として取り組んでいることがありますか。(〇はいくつでも)

1. 医療機関から利用者の健康管理や処置について助言を受けている
2. 住診をしてくれる医師・医療機関がある
3. 急変時の受入を依頼できる病院を確保している
4. 提携病院があり、一般的な入院を受け入れてもらっている
5. 自らもしくは法人として医療機関を経営している
6. その他 ()
7. 連携していない

問9で「7. 連携していない」と回答された事業所にお聞きします。

問9-1 医療機関と連携していない理由は何ですか。

問10 他の介護サービス事業所等との連携について、取り組んでいることがありますか。(〇はいくつでも)

1. 勉強会、ケース検討会の共同開催
2. 事業環境などの情報交換
3. サービス事業所等との交換研修の実施 → どのサービスですか。P1の問1(3)よりあてはまる番号をご記入ください。(複数回答可)
4. 定員オーバーや空きがある場合の紹介・連携
5. 技術的に対応できない場合の紹介・連携
6. NPO・ボランティア等活動団体との連絡会
7. 地域包括支援センターとの連絡会などの連携
8. その他 ()
9. 連携していない

問10で「9. 連携していない」と回答された事業所にお聞きします。

問10-1 他の介護サービス事業所等と連携していない理由は何ですか。

問 11 サービス実施時において、これまで利用者や家族からどのような要望・苦情がありましたか。
(○はいくつでも)

1. サービス内容に関するもの	5. 保険外負担 (その他日常生活費など) に関するもの
2. 利用手続きに関するもの	6. その他 ()
3. 職員の態度に関するもの	7. 特に要望・苦情は受けていない
4. 施設・設備に関するもの	

問 12 職員に対する社内・社外研修の実施状況をお答えください。(○は1つ)

1. 内部研修を実施しており、外部研修 (区の研修も含む) にも参加させている
2. 内部研修は実施しているが、外部研修 (区の研修も含む) には参加させていない
3. 内部研修は実施していないが、外部研修 (区の研修も含む) には参加させている
4. 内部研修は実施していないし、外部研修 (区の研修も含む) にも参加させていない
5. その他 ()

問 12 で「1」「2」「3」と回答した事業所にお聞きします。

問 12-1 どのような内容の研修を実施されていますか。もしくはどのような研修に参加させていますか。(○はいくつでも)

1. 介護保険制度全般について	5. 相談・苦情対応について
2. 運営基準について	6. ケアプランについて
3. 専門技術の向上について	7. その他 ()
4. 利用者に対する待遇について	

問 12 で「4」と回答した事業所にお聞きします。

問 12-2 研修等を実施していない理由は何ですか。(○は1つ)

1. 時間的余裕がない	4. 参加させる必要がない
2. 費用が高額である	5. その他 ()
3. 参加させたい研修がない	

問 13 サービスの質の確保や向上に向けて、第三者評価を受けていますか。(○は1つ)

1. 受けている	2. 受けていない
----------	-----------

問 14 サービスの質の向上のために、どのような取り組みを行っていますか。(○はいくつでも)

1. 相談窓口の設置	6. サービス担当者会議への参加
2. サービス提供マニュアルの作成	7. ケア・カンファレンスの定期的な開催
3. 自己評価の積極的な開示	8. その他 ()
4. インターネットを利用した情報提供	9. 何も行っていない
5. サービス利用者の満足度調査の実施	

問 15 各種マニュアルの作成状況について、お答えください。

(それぞれ、その項目について○は1つ)

(1) 職員向けの業務マニュアル	1. 作成している 2. 現在、作成中である 3. 作成していないが、作成を検討している 4. 作成しておらず、作成の予定もない
(2) 事故発生など緊急時の対応マニュアル	1. 作成している 2. 現在、作成中である 3. 作成していないが、作成を検討している 4. 作成しておらず、作成の予定もない
(3) 感染症対策の対応マニュアル	1. 作成している 2. 現在、作成中である 3. 作成していないが、作成を検討している 4. 作成しておらず、作成の予定もない
(4) 非常災害発生時等の対応マニュアル	1. 作成している 2. 現在、作成中である 3. 作成していないが、作成を検討している 4. 作成しておらず、作成の予定もない
(5) 身体拘束防止のための対応マニュアル	1. 作成している 2. 現在、作成中である 3. 作成していないが、作成を検討している 4. 作成しておらず、作成の予定もない
(6) 虐待防止のための対応マニュアル	1. 作成している 2. 現在、作成中である 3. 作成していないが、作成を検討している 4. 作成しておらず、作成の予定もない
(7) その他、上記以外のものがあればお書きください。	

問 16 貴事業所では、災害時の対策を実施・計画していますか。(〇はいくつでも)

1. 水害対策を含む非常災害対策計画・マニュアルを策定している
2. 水害対策を含まない非常災害対策計画・マニュアルを策定している
3. 災害時の備蓄対策をしている
4. 施設の防震対策（カラスの飛散防止・棚架の転倒防止など）を実施している
5. 防災訓練などで近隣の住民組織（町内会、自主防災組織）と連携している
6. その他（ ）
7. 特に何もしていない

問 16で「1」又は「2」と回答した事業所にお聞きします。

問 16-1 策定されている非常災害対策計画・マニュアルに含まれている項目は何ですか。(〇はいくつでも)

1. 施設等の立地条件
2. 災害に関する情報の入手方法
3. 災害時の連絡先（自治体、家族、職員等）及び通信手段
4. 避難を開始する時期及び判断基準
5. 避難場所（区が指定する避難場所、施設内の安全なスペース等）
6. 避難経路及び所要時間
7. 利用者ごとの避難方法（車いす、徒歩等）
8. 災害時の人員体制・指揮系統（災害時の参集方法、役割分担、避難に必要な職員数等）
9. 関係機関との連携体制
10. その他（ ）

問 17 貴事業所は平成28年に水害の場合を含む避難訓練を実施しましたか。(〇は1、2)

1. 実施した
2. 実施していない

問 17で「2. 実施していない」と回答した事業所にお聞きします。

- 問 17-1 実施予定時期は、いつですか。

5 事業所の運営等についておたずねします

問 18 居宅介護支援以外の居宅サービスについてお答えください。事業を運営する上での課題は何ですか、主なものを3つまでお選びください。(〇は3つまで)

1. 新規利用者の獲得が困難
2. 利用者のサービス利用の継続
3. 設備・職員等が不足し、量的に利用者のニーズに答えられない
4. 介護保険制度やサービス利用の仕組みを説明するのが難しい
5. 利用者の身体状況の把握が難しい
6. 利用者からの苦情や事故への対応
7. 訪問や送迎が非効率（エリアが広い等）
8. 職員の確保
9. 職員が短期間で離職してしまう
10. 職員の人材育成
11. 責任者など中堅人材の確保・育成
12. 他のサービス事業所との競合が激しい
13. ケアマネジャーなど他事業所・他職種との連携
14. 他のサービス事業所との連携
15. 医療機関との連携
16. 介護報酬が適正でない
17. その他（ ）
18. 特に課題はない

問 19 貴事業所では、介護職員等の人材は確保できていますか。(〇は1つ)

1. 確保できている
2. 概ね確保できている
3. 確保が難しいこともある
4. 確保できていない

問 19で「3」、「4」と回答した事業所にお聞きします。

- 問 19-1 その理由は何か。

問 19-2 人材確保支援策として有効だと思うものは何ですか。

問 23 で「1」と回答した事業所にお聞きします。

問 23-1 どのように事業規模を拡大しますか。(〇はいくつでも)

1. 現在実施しているサービス種別で事業所数を拡大する
2. 新たなサービス種別の事業所を拡大する
3. 介護保険外サービスを拡大する
4. その他 ()

問 23 で「3」、「4」と回答した事業所にお聞きします。

問 23-2 事業規模を縮小・廃止する予定である理由は何ですか。(〇はいくつでも)

1. 人材の確保が困難であるため	4. 事業所の確保や維持が困難なため
2. 利用者の確保が困難であるため	5. 他事業所との競争が激しいため
3. 人件費の負担が大きいため	6. その他 ()

問 24 高齢者保健・福祉事業や介護保険制度について、区へのご要望、ご意見などがありません、お聞かせください。



質問は以上で終わりです。ご協力ありがとうございました。
ご記入がお済みになりましたら、またにお手数ですが、同封した返信用封筒(切手不要)に入れて、12月2日(金)までにご投函ください。

この調査に関するお問い合わせは

足立区役所 福祉部 介護保険課 介護保険係
〒120-8510 足立区中央本町一丁目 17 番 1 号
電話：03-3880-5887 (直通)

問 20 貴事業所では、どのような方法で職員の募集を行っていますか。(〇はいくつでも)

1. ハローワークに求人票を出している	7. 就職相談会等の機会にブースを設けている
2. 大学等に求人票を出している	8. 関東圏以外へ求人のため足を運んでいる
3. 専門学校に求人票を出している	9. インターネット媒体を介して募集している
4. 高校に求人票を出している	10. 人材派遣会社に依頼している
5. 新聞の折り込み広告等に求人掲載している	11. その他 ()
6. 職業紹介雑誌等に求人掲載している	

問 20-1 上記のうち、職員募集で効果のあったものは何ですか。(番号を3つまで)

() () () ()

問 21 貴事業者では、外国籍を有する方を積極的に採用していますか。(〇は1つ)

1. 採用している
2. 採用していない(理由) ()

問 22 平成27年(1月から12月)の入職率と離職率についてお答えください。

(1) 正規職員について

入職率(27年年初の正規職員数に対する27年の入職者(正規職員)数の割合) _____ %
離職率(27年年初の正規職員数に対する27年の離職者(正規職員)数の割合) _____ %

(2) 非正規職員について

入職率(27年年初の非正規職員数に対する27年の入職者(非正規職員)数の割合) _____ %
離職率(27年年初の非正規職員数に対する27年の離職者(非正規職員)数の割合) _____ %

問 23 貴事業所の今後の事業展開についてお答えください。

1. 事業規模を拡大する予定	問 23-1 〇
2. 事業を同規模で継続する予定	問 24 〇
3. 事業規模を縮小する予定	問 23-2 〇
4. 事業を廃止する予定	問 23-2 〇
5. その他 ()	問 24 〇

8 介護保険施設実態調査

1 貴事業所の事業実施状況についておたずねします

問1 貴事業所についてお答えください。

(1) 事業所名をご記入ください。

事業所名																								
(2) 事業種別をお答えください。(〇は1つ)																								
1. 特別養護老人ホーム 2. 老人保健施設 3. 介護療養型医療施設																								
(3) 事業所の経営主体は何ですか。(〇は1つ)																								
1. 医療法人 2. 社会福祉法人 3. その他 ()																								
(4) 経営主体の法人の所在地はどこですか。(〇は1つ)																								
1. 足立区内 2. 足立区外																								
(5) 貴事業所に併設されている事業について、あてはまるものをお答えください。 (〇はいくつでも)																								
<table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 50%;">1. 訪問介護</td> <td style="width: 50%;">13. 短期入所生活・療養介護</td> </tr> <tr> <td>2. 介護予防訪問介護</td> <td>14. 介護予防短期入所生活・療養介護</td> </tr> <tr> <td>3. 訪問入浴介護</td> <td>15. 定期巡回・随時対応型訪問介護看護</td> </tr> <tr> <td>4. 介護予防訪問入浴介護</td> <td>16. 夜間対応型訪問介護</td> </tr> <tr> <td>5. 訪問看護</td> <td>17. 認知症対応型通所介護</td> </tr> <tr> <td>6. 介護予防訪問看護</td> <td>18. 介護予防認知症対応型通所介護</td> </tr> <tr> <td>7. 訪問リハビリテーション</td> <td>19. 看護小規模多機能型居宅介護</td> </tr> <tr> <td>8. 介護予防訪問リハビリテーション</td> <td>20. 居宅介護支援、介護予防支援</td> </tr> <tr> <td>9. 通所介護</td> <td>21. 地域包括支援センター</td> </tr> <tr> <td>10. 介護予防通所介護</td> <td>22. 病院・診療所</td> </tr> <tr> <td>11. 通所リハビリテーション</td> <td>23. その他 ()</td> </tr> <tr> <td>12. 介護予防通所リハビリテーション</td> <td>24. なし</td> </tr> </table>	1. 訪問介護	13. 短期入所生活・療養介護	2. 介護予防訪問介護	14. 介護予防短期入所生活・療養介護	3. 訪問入浴介護	15. 定期巡回・随時対応型訪問介護看護	4. 介護予防訪問入浴介護	16. 夜間対応型訪問介護	5. 訪問看護	17. 認知症対応型通所介護	6. 介護予防訪問看護	18. 介護予防認知症対応型通所介護	7. 訪問リハビリテーション	19. 看護小規模多機能型居宅介護	8. 介護予防訪問リハビリテーション	20. 居宅介護支援、介護予防支援	9. 通所介護	21. 地域包括支援センター	10. 介護予防通所介護	22. 病院・診療所	11. 通所リハビリテーション	23. その他 ()	12. 介護予防通所リハビリテーション	24. なし
1. 訪問介護	13. 短期入所生活・療養介護																							
2. 介護予防訪問介護	14. 介護予防短期入所生活・療養介護																							
3. 訪問入浴介護	15. 定期巡回・随時対応型訪問介護看護																							
4. 介護予防訪問入浴介護	16. 夜間対応型訪問介護																							
5. 訪問看護	17. 認知症対応型通所介護																							
6. 介護予防訪問看護	18. 介護予防認知症対応型通所介護																							
7. 訪問リハビリテーション	19. 看護小規模多機能型居宅介護																							
8. 介護予防訪問リハビリテーション	20. 居宅介護支援、介護予防支援																							
9. 通所介護	21. 地域包括支援センター																							
10. 介護予防通所介護	22. 病院・診療所																							
11. 通所リハビリテーション	23. その他 ()																							
12. 介護予防通所リハビリテーション	24. なし																							

高齢者保健福祉に関する調査
(介護保険施設実態調査)

～ご協力のお願い～

皆様にはますますご健勝のこととお慶び申し上げます。
日頃から足立区の高齢者施策にご理解とご協力を賜り厚くお礼申し上げます。
本区では、平成 29 年度に「足立区高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画」の見直しを行います。

今回、計画の見直しにあたり、高齢者福祉に関する皆さまのお考えやご意見をお伺いするものです。いただいたお考えやご意見は、高齢者保健福祉計画策定にあたっての貴重な資料とさせていただきます。

ご多忙のところ、誠に恐縮ではございますが、何卒ご協力くださいますようお願い申し上げます。

なお、本調査票は、12月2日(金)までにご記入のうえ、同封の封筒(切手不要)に入れて投函いただきますようお願い申し上げます。

平成 28 年 11 月吉日

この調査票は貴事業所が実施している事業種別ごとにお送りしています。
お手数ですが、封筒の宛名に記載のある事業種別ごとにご記入ください。

【記入にあたってのお願い】

1. 回答は、事業所の代表者の方がご記入くださるようお願いいたします。
2. ご回答にあたっては質問をよくお読みいただき、該当する番号を〇で困んでください。また、必要に応じて、数字やご意見のご記入をお願いいたします。
3. この調査についてのお問い合わせは下記までお願いいたします。

* 調査結果は、厳重に管理して統計的に処理し、調査以外の目的には使用しません。



〔調査主体〕

足立区福祉部介護保険課介護保険係
足立区中央本町 1-17-1
03-3880-5887 (直通)

(4) 入居者のうち住所特例（保険者が足立区外）の該当者は何人ですか。
（平成 28 年 10 月 1 日現在）

_____人

(5) 退所（院）の理由を多い順に3つあげてください。（1位～3位に、それぞれ、該当する理由を1～8から1つだけ選んで、その数字を記入）

1位（ ） 2位（ ） 3位（ ）

1. 死亡 5. 有料老人ホームに入居
2. 病院に入院 6. サービス付き高齢者向け住宅に入居
3. 家族の引き取り 7. その他の施設に入所（施設の種類： ）
4. 特別養護老人ホームに入居 8. その他（理由： ）

(6) 入所（院）者の要介護度別の人数についてお答えください。（平成 28 年 10 月 1 日現在）

	うち医療処置の必要な人数
要介護1	人
要介護2	人
要介護3	人
要介護4	人
要介護5	人
合計	人

※ 次の(7)～(11)の質問は、わかる範囲でお答えください。

(7) 入所（院）者の平均入所（院）年数は何年ですか。（平成 28 年 10 月 1 日現在）

_____年

(8) 過去5年間の年間稼働率は何パーセントですか。

年間稼働率	23年	24年	25年	26年	27年
	_____ %	_____ %	_____ %	_____ %	_____ %

(9) 待機者数は何人ですか。（平成 28 年 10 月 1 日現在）

要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	計
人	人	人	人	人	人

(10) 入所（院）までに平均どのくらいかかりますか。

_____年 _____か月

(6) 職員体制についてお答えください。（数字を記入）（平成 28 年 10 月 1 日現在）
兼務をしている場合は、主たる業務でカウントしてください。また、（ ）内に外国人職員数をご記入ください。

	正規職員	非正規職員*
施設責任者（管理者）	()人 ()人	()人 ()人
生活相談員	()人 ()人	()人 ()人
事務職員	()人 ()人	()人 ()人
看護職員（看護師、准看護師）	()人 ()人	()人 ()人
介護職員（介護福祉士、ヘルパー1・2級、初任者研修等）	()人 ()人	()人 ()人
機能訓練指導員（P.T、O.T等）	()人 ()人	()人 ()人
介護支援専門員	()人 ()人	()人 ()人
栄養士	()人 ()人	()人 ()人
その他	()人 ()人	()人 ()人
合計	_____人	_____人
うち、外国人	_____人	_____人

※ 非正規職員：いわゆるパート・アルバイト

問2 貴事業所の定員等につき、以下の質問にお答えください。（数字で記入）

(1) 定員及び入所（院）者数（平成 28 年 10 月 1 日現在）

定員 _____人 入所（院）者数 _____人（内訳：男性 _____人 女性 _____人）

(2) 平均年齢（平成 28 年 10 月 1 日現在）

_____歳

(3) 1年間の入退所（院）者数（平成 27 年 1 月から 12 月）（延べ人数）

27年	_____人
入所（院）者数	_____人
退所（院）者数	_____人

(11) 問2(6)の医療処置が必要な入所者数のうち、以下に該当する医療処置（現在治療中に限る）の人数を記入してください。（複数の医療処置が必要な場合は、それぞれの傷病に重複して計上してください）

		入所(病)者の人数
吸引	回数	人
	吸引回数	人
吸入	回数	人
	吸入回数	人
経管栄養	回数	人
	内数	人
	鼻腔経管栄養	人
	嚥孔経管栄養	人
モニター測定（心拍、血圧、酸素、飽和度）	回数	人
	測定回数	人
酸素療法	回数	人
	酸素療法回数	人
気管切開	回数	人
	気管切開回数	人
人工呼吸器	回数	人
	人工呼吸器回数	人
ストーマ（人工肛門）	回数	人
	ストーマ回数	人
留置尿道カテーテル（膀胱カテーテルを含む）	回数	人
	留置尿道カテーテル回数	人
点滴	回数	人
	点滴回数	人
褥瘡処置	回数	人
	褥瘡処置回数	人
がん末期の疼痛管理	回数	人
	がん末期の疼痛管理回数	人
腎透析（血液透析及び腹膜透析）	回数	人
	腎透析回数	人
自己注射（インスリンを含む）	回数	人
	自己注射回数	人
その他の投薬管理（服薬介助を含む）	回数	人
	その他の投薬管理回数	人

重複カウントしない医療処置の人数
人

問3 貴事業所では、看取りを実施していますか。(〇は1つ)

1. 実施している 2. 実施していない 3. 実績はないが対応可能

問3で「1. 実施している」と回答された事業所にお聞きします。

問3-1 この1年間の件数は何件ありましたか。(数字で記入)

件

問4 貴事業所では、利用者を含め区民に対して情報提供を行っていますか。(〇は1つ)

1. 提供している 2. 提供していない 問5へ

問4で「1. 提供している」と回答された事業所にお聞きします。

問4-1 情報提供の手段は何ですか。(〇はいくつでも)

1. チラシ・パンフレット 3. 館内での掲示物
2. インターネット 4. その他()

問4-2 どのような情報を提供していますか。(〇はいくつでも)

1. 実施している介護サービスの種類や特徴
2. 事業所自身による、介護サービス提供内容等に関する自己評価
3. 介護サービス利用者による事業所の評価
4. 専門知識を持つ第三者による事業所の評価
5. 事業所の運営体制（有資格従業員の状況、利用者に対する職員数の割合等）
6. 介護サービスの質の向上への取り組み内容（研修の実施、マニュアルの整備状況等）
7. 事業所の経営状況（財務諸表等）
8. その他()

問5 事業所を運営するうえで、どのような問題点や課題がありますか。(〇はいくつでも)

1. 利用者の確保が困難 8. 介護報酬に反映されない事務が多い
2. 人材の確保が困難 9. 運営・運営資金の確保が困難
3. 従業員の福利厚生など 10. 事務所の確保や維持が困難
4. 事務等の間接経費に負担が大きい 11. 他事業所との競争が激しい
5. 人件費の負担が大きい 12. 職員の育成が困難
6. 介護報酬請求事務の負担が大きい 13. その他()
7. 介護報酬が適正でない 14. 特になし

問6 貴事業所では、介護職員等の人材は確保できていますか。(〇は1つ)

1. 確保できている 問7へ 3. 確保が難しいこともある
2. 概ね確保できている 問7へ 4. 確保できていない

問6-1へ

問 10 ボランティア活動についてお聞きします。ボランティアの受け入れはしていますか。(〇は1つ)

1. 受け入れている 問 10-2△	2. 受け入れていない	
問 10で「2. 受け入れていない」と回答した事業所にお聞きします。		
問 10-1 ボランティアを受け入れていない理由は何ですか。		
問 11△		
問 10で「1. 受け入れている」と回答した事業所にお聞きします。		
問 10-2 ボランティアの活動内容は何か。(〇はいくつでも)		
1. 足立区元気応援ポイント事業に登録している	2. その他	
問 10-2で「2. その他」と回答した事業所にお聞きします。		
問 10-3 その活動内容をお書きください。		
問 10で「1. 受け入れている」と回答した事業所にお聞きします。		
問 10-4 ボランティアを受け入れる際の課題や注意していることがあれば、お書きください。		
問 11 地域のどのような組織と連携をしていますか。(〇はいくつでも)		
1. 自治会・町内会	3. 家族会	5. 商店街、レストラン
2. ボランティアグループ	4. 学校関係	6. その他 ()
7. 連携をしていない → 問 13△		
問 12 地域とどのような連携をしていますか。(〇はいくつでも)		
1. 地域の行事への参加	5. 地元商店街での買い物	
2. 講師として指導してもらう	6. 認知症サポーター養成講座の開催	
3. 事業所イベントへの招待	7. その他	
4. 小学校・中学校の体験学習	()	

問 6で「3」、「4」と回答した事業所にお聞きします。

問 6-1 その理由は何か。

問 6-2 人材確保支援策として有効だと思えるものは何ですか。

問 7 貴事業所では、どのような方法で職員の募集を行っていますか。(〇はいくつでも)

1. ハローワークに求人票を出している	7. 就職相談会等の機会にブースを設けている
2. 大学等に求人票を出している	8. 関東圏域以外へ求人のため足を運んでいる
3. 専門学校に求人票を出している	9. インターネット媒体を介して募集している
4. 高校に求人票を出している	10. 人材派遣会社に依頼している
5. 新聞の折り込み広告等に求人掲載している	11. その他 ()
6. 職業紹介雑誌等に求人を掲載している	

問 7-1 上記のうち、職員募集で効果のあったものは何ですか。(番号を3つまで)

() () ()

問 8 貴事業所では、外国籍を有する方を積極的に採用していますか。

1. 採用している 2. 採用していない (理由)

問 9 平成27年(1月から12月)の入職率と離職率についてお答えください。

(1) 正規職員について

入職率 ((27年年初の正規職員数に対する27年の入職者(正規職員)数の割合) _____%)

離職率 ((27年年初の正規職員数に対する27年の離職者(正規職員)数の割合) _____%)

(2) 非正規職員について

入職率 ((27年年初の非正規職員数に対する27年の入職者(非正規職員)数の割合) _____%)

離職率 ((27年年初の非正規職員数に対する27年の離職者(非正規職員)数の割合) _____%)

2 事業の実施・展開にあたっての課題についておたずねします

問 13 事業を実施するうえで、どのようなことが問題点や課題がありますか。(〇はいくつでも)

1. 利用者との契約をすることについて理解してもらえない
2. 利用者に利用料について理解してもらえない
3. 利用料の未払いがある
4. 入所退所時など、居宅介護支援事業所との連携がうまくいかない
5. サービス計画作成時の要望どおりにサービス提供することが難しい
6. 利用者本人と家族の意向が合わない
7. サービスに関する苦情が多い
8. 医療機関との連携がうまくいかない
9. 保険給付対象外のサービスを断り切れない
10. 入所時の保証人となる人がいない
11. 入所者本人から医療同意が得られない場合、他に医療同意してくれる人がいない
12. その他 ()
13. 特になし

問 14 サービスの質の向上にむけて、事業所としての取り組みについてうかがいます。具体的な内容について、現在の状況と今後の予定も含めてお答えください。(〇はいくつでも)

1. 外部の研修会・講習会に参加
2. 事業所内に講師を呼んで研修会、講習会の開催
3. 事業所スタッフによる研修会、講習会の開催
4. 事業所内に参考書を準備
5. サービスマニュアルの作成
6. サービスに対する事業者自身による評価の実施
7. 利用者の満足度調査の実施
8. サービスに対する第三者による評価の実施
9. 介護ロボットの活用
10. その他 ()

問 15 質の高い人材を確保するために、貴事業所では昇進、昇給等に際して、どのような基準で評価を行っていますか。(〇はいくつでも)

1. 貴施設での在職期間(勤続年数)
2. 貴施設以外を含めた当該職種としての経歴年数
3. 所有している資格の種類
4. 介護・看護技術面の能力
5. 管理能力
6. 利用者・顧客からの評価・評判(CS調査結果など)
7. 研修等の受講状況
8. その他 ()

問 16 平成27年度以降、利用者やその家族からどのような要望・苦情がありましたか。(〇はいくつでも)

1. 制度やサービスに関する説明について
2. サービスの質や内容について
3. 利用料について
4. 職員の対応等について
5. その他 ()
6. 特になし

問 17 利用者等から苦情があった場合、どのように対応していますか。(〇はいくつでも)

1. 苦情処理担当者をおいている
2. 苦情処理対応マニュアルを作成している
3. 国民健康保険団体会合に相談している
4. 保険者である区に相談している
5. 相隣り口である基幹地域福祉センターに相談している
6. その他 ()

問 18 高齢者虐待防止・身体拘束禁止に対する取り組みについて、特に重点を置いているものは何ですか。(〇は1つ)

1. 都道府県や団体等が実施している研修に参加
2. 事業所内で勉強会を開催
3. 利用者の環境での改善取り組み
4. 高齢者虐待防止や身体拘束禁止のためのマニュアル等の作成
5. 事件・事故などの事例収集・分析等
6. その他 ()
7. 特になし

問 19 貴事業所では、災害時の対策を実施・計画していますか。(〇はいくつでも)

1. 水害対策を含む非常災害対策計画・マニュアルを策定している
2. 水害対策を含まない非常災害対策計画・マニュアルを策定している
3. 災害時の備蓄対策をしている
4. 施設の耐震対策(カラスの飛散防止・棚架の転倒防止など)を実施している
5. 防災訓練などで近隣の住民組織(町内会、自主防災組織)と連携している
6. その他 ()
7. 特に何もしていない

問 19で「1」又は「2」と回答した事業所にお聞きします。

問 19-1 策定されている非常災害対策計画・マニュアルに含まれている項目は何ですか。(〇はいくつでも)

1. 施設等の立地条件
2. 災害に関する情報の入手方法
3. 災害時の連絡先(自治体、家族、職員等)及び通信手段
4. 避難を開始する時期及び判断基準
5. 避難場所(区が指定する避難場所、施設内の安全なスペース等)
6. 避難経路及び所要時間
7. 利用者ごとの避難方法(車いす、徒歩等)
8. 災害時の人員体制・指揮系統(災害時の参集方法、役割分担、避難に必要な職員数等)
9. 関係機関との連携体制
10. その他 ()

問 20 貴事業所は平成28年に水害の場合を含む避難訓練を実施しましたか。(〇は1つ)

1. 実施した	2. 実施していない
---------	------------

問 20 で「2. 実施していない」と回答した事業所にお聞きします。

問 20-1 実施予定時期は、いつですか。

3 職員研修などの取り組みについておたずねします

問 21 職員の教育に取り組んでいますか。(〇は1つ)

1. 積極的に取り組んでいる	2. 取り組んでいる	3. 取り組んでいない
----------------	------------	-------------

問 22 へ

問 21 で「1」、「2」と回答された事業所にお聞きします。

問 21-1 貴事業所では、職員教育にあたり、どのような点に力を入れていきますか。(〇は3つまで)

1. 丁寧な言葉遣いや態度など、マナーについての指導 2. 身だしなみに関する指導 3. 技術・知識向上のための研修 4. 資格取得のための支援 5. リスクマネジメントに関する指導 6. その他 ()

問 22 職員の研修や資格取得について、以下の取り組みを行っていますか。(〇はいくつでも)

1. 自施設で研修を実施している
2. 外部の研修機関に委託して実施している (費用は施設負担)
3. 外部の研修への参加を奨励している (費用は施設負担)
4. 外部の研修への参加費 (自己負担) の補助を行っている
5. その他 ()
6. 特に行っていない

問 23 高齢者保健・福祉事業や介護保険制度について、区へのご要望、ご意見などがありましたら、お聞かせください。

質問は以上で終わります。ご協力ありがとうございました。
ご記入がお済みになりましたら、まことにお手数ですが、同封した返信用封筒 (切手不要) に入れて、12月2日(金)までに
ご投函ください。



この調査に関するお問い合わせは
足立区役所 福祉部 介護保険課 介護保険係
〒120-8510 足立区中央本町一丁目17番1号
電話 03-3880-5887 (直通)

9 有料老人ホーム施設実態調査

1 貴事業所の事業実施状況についておたずねします

問1 貴事業所についてお答えください。
(1) 事業所名をご記入ください。

事業所名

(2) 開設年月日をお答えください。

年	月	日
---	---	---

(3) 事業種別をお答えください。(○は1つ)

1. 「介護付き」(介護専用型)	2. 「介護付き」(混合型)	3. 「住宅型」
------------------	----------------	----------

(4) 事業所の経営主体は何ですか。(○は1つ)

1. 営利法人	4. NPO法人
2. 医療法人	5. その他法人 ()
3. 社会福祉法人	6. その他 ()

(5) 経営主体の法人の所在地はどこですか。(○は1つ)

1. 足立区内	2. 足立区外
---------	---------

(6) 貴法人は、貴施設を含め、有料老人ホーム、サービス付高齢者向け住宅を運営していませんか。すべての箇所数をお答えください。

1. 本施設のみ	2. <input type="text"/> 箇所
----------	----------------------------

(7) 貴事業所に併設されている事業について、あてはまるものをお答えください。
(○はいくつでも)

1. 訪問介護	14. 介護予防短期入所生活・療養介護
2. 介護予防訪問介護	15. 定期巡回・随時対応型訪問介護看護
3. 訪問入浴介護	16. 夜間対応型訪問介護
4. 介護予防訪問入浴介護	17. 認知症対応型通所介護
5. 訪問看護	18. 介護予防認知症対応型通所介護
6. 介護予防訪問看護	19. 看護小規模多機能型居宅介護
7. 訪問リハビリテーション	20. 小規模多機能型居宅介護
8. 介護予防訪問リハビリテーション	21. 介護予防小規模多機能型居宅介護
9. 通所介護	22. 居宅介護支援、介護予防支援
10. 介護予防通所介護	23. 地域包括支援センター
11. 通所リハビリテーション	24. 病院・診療所
12. 介護予防通所リハビリテーション	25. その他 ()
13. 短期入所生活・療養介護	26. なし

2

9

高齢者保健福祉に関する調査
(有料老人ホーム施設実態調査)

～ご協力のお願い～

皆様にはますますご健勝のこととお慶び申し上げます。
日頃から足立区の高齢者施策にご理解とご協力を賜り厚くお礼申し上げます。
本区では、平成 29 年度に「足立区高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画」の見直しを行います。
今回、計画の見直しにあたり、高齢者福祉に関する皆さまのお考えやご意見を伺いするものです。いただいたお考えやご意見は、高齢者保健福祉計画策定にあたっての貴重な資料とさせていただきます。
ご多忙のところ、誠に恐縮ではございますが、何卒ご協力くださいますようお願い申し上げます。

なお、本調査票は 12 月 2 日(金)までにご記入のうえ、同封の封筒(切手不要)に入れまして投函いただきますようお願い申し上げます。

平成 28 年 11 月吉日

この調査票は貴事業所が実施している事業種別ごとにお送りしています。
お手数ですが、封筒の宛名に記載のある事業種別ごとにご記入ください。

【記入にあたってのお願い】

1. 回答は、事業所の代表者の方がご記入くださるようお願いいたします。
2. ご回答にあたっては質問をよくお読みいただき、該当する番号を○で囲んでください。また、必要に応じて、数字やご意見のご記入をお願いいたします。
3. この調査についてのお問い合わせは下記までお願いいたします。

* 調査結果は、厳重に管理して統計的に処理し、調査以外の目的には使用しません。

〔調査主体〕

足立区福祉部介護保険課介護保険係
足立区中央町1-17-1
電話 03-3880-5887 (直通)



(5) 退居の理由を多い順に3つあげてください。(1位~3位に、それぞれ、該当する理由を1~8から1つだけ選んで、その数字を記入)

1位 ()	2位 ()	3位 ()
1. 死亡	5. 他の有料老人ホームに入居	
2. 病院に入院	6. サービス付き高齢者向け住宅に入居	
3. 家族の引き取り	7. その他の施設に入所 (施設の種別:)	
4. 特別養護老人ホームに入居	8. その他 (理由:)	

(6) 入居者について、要介護度別の人数をお答えください。(平成28年10月1日現在)

	うち医療処置の必要な人数
自立	人
要支援1	人
要支援2	人
要介護1	人
要介護2	人
要介護3	人
要介護4	人
要介護5	人
合計	人

※ 次の(7)~(11)の質問は、わかる範囲でお答えください。

(7) 入居者の平均入居年数は何年ですか。(平成28年10月1日現在)

_____年

(8) 過去5年間の年間稼働率は何パーセントですか。

年間稼働率	23年	24年	25年	26年	27年
	_____ %	_____ %	_____ %	_____ %	_____ %

(9) 待機者数は何人ですか。(平成28年10月1日現在)

_____人

(10) 入居までに平均どのくらいかかりますか。

_____年 _____か月

(8) 職員体制についてお答えください。(数字を記入)(平成28年10月1日現在)

兼務をしている場合は、主たる業務でカウントしてください。また、()内に外国人職員数をご記入ください。

	正規職員	非正規職員*
施設責任者(管理者)	()人 ()人	()人 ()人
生活相談員	()人 ()人	()人 ()人
事務職員	()人 ()人	()人 ()人
看護職員(看護師、准看護師)	()人 ()人	()人 ()人
介護職員(介護福祉士、ヘルパー1・2級、初任者研修等)	()人 ()人	()人 ()人
機能訓練指導員(P.T、O.T等)	()人 ()人	()人 ()人
介護支援専門員	()人 ()人	()人 ()人
栄養士	()人 ()人	()人 ()人
その他	()人 ()人	()人 ()人
合計	()人 ()人	()人 ()人
うち、外国人	()人	()人

* 非正規職員：いわゆるパート・アルバイト

問2 貴事業所の定員等につき、以下の質問にお答えください。(数字で記入)

(1) 定員及び入居者数(平成28年10月1日現在)

定員 _____人 入居者数 _____人 (内訳：男性 _____人 女性 _____人)

(2) 平均年齢(平成28年10月1日現在)

_____歳

(3) 1年間の入退居者数(平成27年1月から12月)(延べ人数)

27年	
入居者数	人
退居者数	人

(4) 入居者のうち住所外(保険者が自立区外)の該当者は何人ですか。

(平成28年10月1日現在)

_____人

問3 貴事業所の利用料等につき、以下の質問にお答えください。(数字で記入)

(1) 敷金(保証金)【代表的なプランでお答えください】

_____円

(2) 前払金(入所一時金)【代表的なプランでお答えください】

_____円

(3) 月額利用料【代表的なプランでお答えください】

_____円

問4 貴事業所では、看取りを実施していますか。(〇は1つ)

1. 実施している 2. 実施していない 3. 実績はないが対応可能

問5へ

問4で「1. 実施している」と回答された事業所にお聞きします。

問4-1 この1年間の件数は何件ありましたか。(数字で記入)

_____件

問5 貴事業所では、どのような方法で入居者の募集を行っていますか。(〇はいくつでも)

1. チラシ・パンフレット 3. インターネット
2. 新聞・雑誌(広告記事) 4. その他()

問6 貴事業所では、利用者を含め区民に対して情報提供を行っていますか。(〇は1つ)

1. 提供している 2. 提供していない

問6で「1. 提供している」と回答された事業所にお聞きします。

問6-1 情報提供の手段は何ですか。(〇はいくつでも)

1. チラシ・パンフレット 3. 館内での掲示物
2. インターネット 4. その他()

(11) 問2(6)の医療処置が必要な入居者数のうち、以下に該当する医療処置(現在治療中に限る)の人数を記入してください。(複数の医療処置が必要な場合は、それぞれの傷病に重複して計上してください)

		該当者数
吸引	内数	人
	喀痰吸引	人
吸入	内数	人
	経管栄養	人
内数	鼻腔経管栄養	人
	嚥孔経管栄養	人
	中心静脈栄養	人
モニター測定(心拍、血圧、酸素、飽和度)	内数	人
酸素療法	内数	人
気管切開	内数	人
人工呼吸器	内数	人
ストーマ(人工肛門)	内数	人
留置尿道カテーテル(膀胱カテーテルを含む)	内数	人
点滴	内数	人
内数	中心静脈点滴	人
	末梢静脈点滴	人
褥瘡処置	内数	人
	褥瘡処置(Ⅲ度以上)	人
がん末期の疼痛管理	内数	人
腎透析(血液透析及び腹膜透析)	内数	人
自己注射(インスリンを含む)	内数	人
その他の投薬管理(服薬介助を含む)	内数	人
重複カウントしない医療処置の人数	内数	人

問9 貴事業所では、外国籍を有する方を積極的に採用していますか。(○は1つ)

1. 採用している () 2. 採用していない (理由 ())

問10 平成27年(1月から12月)の入職率と離職率についてお答えください。(数字を記入)

(1) 正規職員について

入職率(27年年初の正規職員数に対する27年の入職者(正規職員)数の割合) _____ %
 離職率(27年年初の正規職員数に対する27年の離職者(正規職員)数の割合) _____ %

(2) 非正規職員について

入職率(27年年初の非正規職員数に対する27年の入職者(非正規職員)数の割合) _____ %
 離職率(27年年初の非正規職員数に対する27年の離職者(非正規職員)数の割合) _____ %

問11 ボランティア活動についてお聞きします。ボランティアの受け入れはしていますか。(○は1つ)

1. 受け入れている 問11-2△ 2. 受け入れていない

問11で「2. 受け入れていない」と回答した事業所にお聞きします。

問11-1 ボランティアを受け入れていない理由は何ですか。

問12△

問11で「1. 受け入れている」と回答した事業所にお聞きします。

問11-2 ボランティアの活動内容は何か。(○はいくつでも)

1. 足立区元氣応援ポイント事業に登録している 2. その他

問11-2で「2. その他」と回答した事業所にお聞きします。

問11-3 その活動内容をお書きください。

問11で「1. 受け入れている」と回答した事業所にお聞きします。

問11-4 ボランティアを受け入れる際の課題や注意していることがあれば、お書きください。

問6-2 どのような情報を提供していますか。(○はいくつでも)

1. 実施している介護サービスの種類や特徴
 2. 事業所自身による、介護サービス提供内容等に関する自己評価
 3. 介護サービス利用者による事業所の評価
 4. 専門知識を持つ第三者による事業所の評価
 5. 事業所の運営体制(有資格従業員の状況、利用者に対する職員数の割合等)
 6. 介護サービスの質の向上への取り組み内容(研修の実施、マニュアルの整備状況等)
 7. 事業所の経営状況(財務諸表等)
 8. その他 ()

問7 貴事業所では、介護職員等の人材は確保できていますか。(○は1つ)

1. 確保できている 問8△ 3. 確保が難しいこともある
 2. 概ね確保できている 問8△ 4. 確保できていない

問7で「3」、「4」と回答した事業所にお聞きします。

問7-1 その理由は何か。

問7-2 人材確保支援策として有効だと思われるものは何ですか。

問8 貴事業所では、どのような方法で職員の募集を行っていますか。(○はいくつでも)

1. ハローワークに求人票を出している 7. 就職相談会等の機会にブースを設けている
 2. 大学等に求人票を出している 8. 関東圏域以外へ求人のため足を運んでいる
 3. 専門学校に求人票を出している 9. インターネット媒体を介して募集している
 4. 高校に求人票を出している 10. 人材派遣会社に依頼している
 5. 新聞の折り込み広告等に求人掲載している 11. その他 ()
 6. 職業紹介雑誌等に求人掲載している

問8-1 上記のうち、職員募集で効果のあったものは何ですか。(番号を3つまで)

() () () () () ()

2 事業の実施・展開にあたっての課題についておたずねします

問 12 地域のどのような組織と連携をしていますか。(〇はいくつでも)

1. 自治会・町内会
2. ボランティアグループ
3. 家族会
4. 学校関係
5. 商店街、レストラン
6. その他 ()
7. 連携していない 問 14へ

問 13 地域とどのような連携をしていますか。(〇はいくつでも)

1. 地域の行事への参加
2. 講師として指導してもらう
3. 事業所イベントへの招待
4. 小学校・中学校の体験学習
5. 地元商店街での買い物
6. 認知症サポーター養成講座の開催
7. その他 ()

問 14 事業所を経営するうえで、どのような問題点や課題がありますか。(〇はいくつでも)

1. 入居者の確保が困難
2. 人材の確保が困難
3. 従業員の福利厚生など
4. 事務等の間接経費に負担が大きいの
5. 人件費の負担が大きいの
6. 介護報酬請求事務の負担が大きいの
7. 介護報酬が適正でない
8. 介護報酬に反映されない事務が多い
9. 運営・運転資金の確保が困難
10. 事務所の確保や維持が困難
11. 他事業所との競争が激しい
12. 職員の育成が困難
13. その他 ()
14. 特になし

問 15 利用者や家族の要望を積極的に取り入れるため、次の取り組みを行っていますか。(〇はいくつでも)

1. 利用者にサービス計画を説明し要望を聞く機会を設けている
2. 家族にサービス計画を説明し要望を聞く機会を設けている
3. 利用者・家族と話し合いの機会を定期的に設けている
4. 利用者の生活状況を記録し家族に連絡している
5. 利用者・家族を対象に相談・苦情窓口を設けている
6. 家族会を設置している
7. その他 ()

問 16 事業を実施する上でどのような問題点や課題がありますか。(〇はいくつでも)

1. 利用者と契約をする上で理解してもらえない
2. 利用者に利用料について理解してもらえない
3. 利用料の未払いがある
4. 入所退所時など、居宅介護支援事業所との連携がうまくいかない
5. サービス計画作成時の要望どおりにサービスを提供することが難しい
6. 利用者本人と家族の意向が合わない
7. サービスに関する苦情が多い
8. 医療との連携がうまくいかない
9. 保険給付対象外のサービスを断り切れない
10. 入所時の保証人となる人がいない
11. 入所者本人から医療同意が得られない場合、他に医療同意してくれる人がいない
12. その他 ()
13. 特になし

問 17 サービスの質の向上にむけて、事業所としての取り組みについてうかがいます。具体的な内容について、現在の状況と今後の予定も含めてお答えください。(〇はいくつでも)

1. 外部の研修会・講習会に参加
2. 事業所内に講師を呼んで研修会・講習会の開催
3. 事業所スタッフによる研修会・講習会の開催
4. 事業所内に参考書を準備
5. サービスマニュアルの作成
6. サービスに対する事業者自身による評価の実施
7. 利用者の満足度調査の実施
8. サービスに対する第三者による評価の実施
9. 介護ロボットの活用
10. その他 ()

問 18 平成 27 年度以降、利用者やその家族からどのような要望・苦情がありましたか。(〇はいくつでも)

1. 制度やサービスに関する説明について
2. サービスの質や内容について
3. 利用料について
4. 職員の対応等について
5. その他 ()
6. 特になし

問 19 利用者等から苦情があった場合、どのように対応していますか。(〇はいくつでも)

1. 苦情処理担当者をおいている
2. 苦情処理対応マニュアルを作成している
3. 国民健康保険団体に相談している
4. 保険者である区に相談している
5. 相談窓口である基幹地域包括支援センターに相談している
6. その他 ()

問 20 貴事業所では、災害時の対策を実施・計画していますか。(○はいくつでも)

1. 水害対策を含む非常災害対策計画・マニュアルを策定している
2. 水害対策を含まない非常災害対策計画・マニュアルを策定している
3. 災害時の備蓄対策をしている
4. 施設の耐震対策（ガラスの飛散防止・棚等の転倒防止など）を実施している
5. 防災訓練などで近隣の住民組織（町内会、自主防災組織）と連携している
6. その他（ ）
7. 特に何もしていない

問 20で「1」又は「2」と回答した事業所にお聞きします。

問 20-1 策定されている非常災害対策計画・マニュアルに含まれている項目は何ですか。(○はいくつでも)

1. 施設等の立地条件
2. 災害に関する情報の入手方法
3. 災害時の連絡先（自治体、家族、職員等）及び通信手段
4. 避難を開始する時期及び判断基準
5. 避難場所（区が指定する避難場所、施設内の安全なスペース等）
6. 避難経路及び所要時間
7. 利用者ごとの避難方法（車いす、徒歩等）
8. 災害時の人員体制・指揮系統（災害時の参集方法、役割分担、避難に必要な職員数等）
9. 関係機関との連携体制
10. その他（ ）

問 21 貴事業所は平成28年に水害の場合を含む避難訓練を実施しましたか。(○は1つ)

1. 実施した
2. 実施していない

問 21で「2. 実施していない」と回答した事業所にお聞きします。

問 21-1 実施予定時期は、いつですか。

問 22 高齢者虐待防止・身体拘束禁止に対する取り組みについて、特に重点を置いているものは何ですか。(○は1つ)

1. 都道府県や団体等が実施している研修に参加
2. 事業所内で勉強会を開催
3. 利用者の環境面での改善取り組み
4. 高齢者虐待防止や身体拘束禁止のためのマニュアル等の作成
5. 事件・事故などの事例収集・分析等
6. その他（ ）
7. 特になし

3 職員研修などの取り組みについておたずねします

問 23 職員の教育に取り組んでいますか。(○は1つ)

1. 積極的に取り組んでいる
2. 取り組んでいる
3. 取り組んでいない

問 23で「1」、「2」と回答された事業所にお聞きします。

問 23-1 貴事業所では、職員教育にあたり、どのような点に力を入れていきますか。(○は3つまで)

1. 丁寧な言葉遣いや態度など、マナーについて
2. 身だしなみに関する指導
3. 技術・知識向上のための研修
4. 資格取得のための支援
5. リスクマネジメントに関する指導
6. その他（ ）

問 24 職員の研修や資格取得について、以下の取り組みを行っていますか。(○はいくつでも)

1. 自施設で研修を実施している
2. 外部の研修機関に委託して実施している（費用は施設負担）
3. 外部の研修への参加を奨励している（費用は施設負担）
4. 外部の研修への参加費（自己負担）の補助を行っている
5. その他（ ）
6. 特に行っていない

問 25 高齢者保健・福祉事業や介護保険制度について、区へのご要望、ご意見などがありましたら、お聞かせください。

質問は以上で終わります。ご協力ありがとうございました。ご記入がお済みになりましたら、まことにお手数ですが、同封した返信用封筒（切手不要）に入れて、12月2日（金）までにご投函ください。

ご協力ありがとうございました。



この調査に関するお問い合わせは

足立区役所 福祉部 介護保険課 介護保険係
〒120-8510 足立区中央本町一丁目17番1号
電話 03-3880-5887（直通）

高齢者保健福祉に関する調査 (サービス付高齢者向け住宅実態調査)

～ご協力のお願い～

皆様にはますますご健勝のこととお慶び申し上げます。
日頃から足立区の高齢者施策にご理解とご協力を賜り厚くお礼申し上げます。
本区では、平成 29 年度に「足立区高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画」の見直しを行います。
今回、計画の見直しにあたり、高齢者福祉に関する皆さまのお考えやご意見をお伺いするものです。いただいたお考えやご意見は、高齢者保健福祉計画策定にあたっての貴重な資料とさせていただきます。
ご多忙のところ、誠に恐縮ではございますが、何卒ご協力くださいますようお願い申し上げます。
なお、本調査票は、12月2日(金)までにご記入のうえ、同封の封筒(切手不要)に入れまして投函いただきますようお願い申し上げます。

平成 28 年 11 月吉日

この調査票は貴事業所が実施している事業種別ごとにお送りしています。
お手数ですが、封筒の宛名に記載のある事業種別ごとにご記入ください。

【記入にあたってのお願い】

1. 回答は、事業所の代表者の方がご記入くださるようお願いいたします。
2. ご回答にあたっては質問をよくお読みいただき、該当する番号を○で囲んでください。また、必要に応じて、数字やご意見のご記入をお願いいたします。
3. この調査についてのお問い合わせは下記までお願いいたします。

* 調査結果は、厳重に管理して統計的に処理し、調査以外の目的には使用しません。



〔調査主体〕

足立区福祉部介護保険課介護保険係
足立区中央本町 1-17-1
03-3880-5887 (直通)

1 貴事業所の事業実施状況についておたずねします

問1 貴事業所についてお答えください。

(1) 事業所名をご記入ください。

事業所名

(2) 開設年月日をお答えください。

年	月	日
---	---	---

(3) 事業所の経営主体は何ですか。(○は1つ)

1. 営利法人	3. 社会福祉法人	5. その他法人 ()
2. 医療法人	4. NPO法人	6. その他 ()

(4) 経営主体の法人の所在地はどこですか。(○は1つ)

1. 足立区内	2. 足立区外
---------	---------

(5) 貴法人は、貴施設を含め、有料老人ホーム、サービス付高齢者向け住宅を運営していますか。すべての箇所数をお答えください。

1. 本施設のみ	2. <input type="checkbox"/> 他箇所
----------	---------------------------------

(6) 貴事業所と併設されている事業について、あてはまるものをお答えください。
(○はいくつでも)

1. 訪問介護	14. 介護予防短期入所生活・療養介護
2. 介護予防訪問介護	15. 定期巡回・随時対応型訪問介護看護
3. 訪問入浴介護	16. 夜間対応型訪問介護
4. 介護予防訪問入浴介護	17. 認知症対応型通所介護
5. 訪問看護	18. 介護予防認知症対応型通所介護
6. 介護予防訪問看護	19. 看護小規模多機能型居宅介護
7. 訪問リハビリテーション	20. 小規模多機能型居宅介護
8. 介護予防訪問リハビリテーション	21. 介護予防小規模多機能型居宅介護
9. 通所介護	22. 居宅介護支援、介護予防支援
10. 介護予防通所介護	23. 地域包括支援センター
11. 通所リハビリテーション	24. 病院・診療所
12. 介護予防通所リハビリテーション	25. その他 ()
13. 短期入所生活・療養介護	26. なし

(6) 入居の動機を把握されていますか。(〇は1つ)

1. 全戸把握している	2. 一部把握している	3. 把握していない
-------------	-------------	------------

(6) - 1 入居を決められた理由 (主なものを3つまで)

1. 介護が必要になったため	6. 自宅の管理が大変になったため
2. 介護が必要になった時に備えて	7. ひとり暮らしが不安になったため
3. 食事の提供があるから	8. セキュリティ面の安心から (防犯、防災)
4. 家事が負担になったため (外食以外)	9. その他 ()
5. バリアフリー化されているから	

(7) 待機者はいますか。(〇は1つ) (平成28年10月1日現在)

1. いない(〇人)	3. 4~5人	5. 10人以上
2. 1~3人	4. 5~10人	

(8) 入居者の従前の住所地をお答えください。(わかる範囲でお願いします。)

1 足立区内 () 人	2 東京都内 () 人	3 他府県 () 人
--------------	--------------	-------------

(9) 住所地特例の対象となっている施設にお聞かせします。入居のうち住所地特例 (保険者が足立区外) の該当者は何人ですか。(平成28年10月1日現在)

_____人

問3 貴事業所は医療処置が必要な方の入居を受け入れていますか。(〇は1つ)

1. 受け入れている	3. 受け入っていない
2. 医療処置の対応が可能な方のみ受け入れている	問4△

問3で「1」、「2」と回答された事業所にお聞かせします。

問3-1 貴事業所で対応が可能な医療処置をお答えください。(〇はいくつでも)

1. 喀痰吸引	5. 中心静脈栄養	9. 抹消静脈点滴
2. 吸入	6. 酸素療法	10. 褥瘡処置
3. 鼻腔経管栄養	7. ストーマ (人工肛門)	11. 自己注射 (インスリンを含む)
4. 瘻孔経管栄養	8. 中心静脈点滴	12. その他の投薬管理 (服薬介助を含む)

問2 貴事業所の戸数等につき、以下の質問にお答えください。(数字で記入)

(1) 定員及び入居者数 (平成28年10月1日現在)

定員 _____人	入居者数 _____人	(内訳: 男性 _____人 女性 _____人)
-----------	-------------	---------------------------

(2) 平均年齢 (平成28年10月1日現在)

_____歳

(3) 入居者の要介護度別の人数についてお答えください。(平成28年10月1日現在)

自立	要支援1	要支援2	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5
人	人	人	人	人	人	人	人

(4) 1年間の入退居者数 (平成27年1月から12月) (延べ人数)

	27年
入居者数	人
退居者数	人

(5) 退居の理由を多い順に3つあげてください。(1位~3位に、それぞれ、該当する理由を1~8から1つだけ選んで、その数字を記入)

1位 ()	2位 ()	3位 ()
1. 死亡	5. 有料老人ホームに入居	
2. 病院に入院	6. 他のサービス付き高齢者向け住宅に入居	
3. 家族の引き取り	7. その他の施設に入所 (施設の種類:)	
4. 特別養護老人ホームに入居	8. その他 (理由:)	

2 費用・サービス内容などについておたずねします

問4 貴事業所の利用料等につき、以下の質問にお答えください。(数字で記入)

(1) 敷金(保証金)【代表的なプランでお答えください】

_____円(算定の基礎)

(2) 前払金(入所一時金)【代表的なプランでお答えください】

_____円(算定の基礎)

(3) 月額利用料(賃料)【代表的なプランでお答えください】

_____円

(4) 共益費【代表的なプランでお答えください】

_____円

問5 貴事業所のサービス内容についてお答えください。

(1) 実施しているサービスをお知らせください。(〇はそれぞれ1つずつ)

状況把握・生活相談	1. 自ら実施している (月額 _____ 円)
	2. 委託して実施している (月額 _____ 円)
	3. 実施していない
食事の提供	1. 自ら実施している (月額 _____ 円)
	2. 委託して実施している (月額 _____ 円)
	3. 実施していない
入浴・排せつ・食事等の介護	1. 自ら実施している (月額 _____ 円)
	2. 委託して実施している (月額 _____ 円)
	3. 実施していない
調理・洗濯・掃除等の家事	1. 自ら実施している (月額 _____ 円)
	2. 委託して実施している (月額 _____ 円)
	3. 実施していない
介護保険外サービス	1. 自ら実施している (月額 _____ 円)
	2. 委託して実施している (月額 _____ 円)
	3. 実施していない
心身の健康の維持・増進	1. 自ら実施している (月額 _____ 円)
	2. 委託して実施している (月額 _____ 円)
	3. 実施していない
その他 (_____)	
	1. 自ら実施している (月額 _____ 円)
	2. 委託して実施している (月額 _____ 円)

(2) 状況把握・生活相談の体制をお知らせください。

提供日 (〇は1つ)	1. 休業日なし 2. 休業日あり(具体的に _____)
提供時間	_____時 ~ _____時
職員配置数	日中 _____人 夜間 _____人
職員の資格 (〇はいくつでも)	1. 看護師 2. 介護福祉士 3. 介護支援専門員 4. 訪問介護員 5. その他 (_____)
状況把握の方法	具体的に _____
緊急通報サービスの内容	具体的に _____

問6 入居者から多い生活相談をお答えください。

問7 貴事業所では、看取りを実施していますか。(〇は1つ)

1. 実施している 2. 実施していない 3. 実績はないが対応可能

問7で「1. 実施している」と回答された事業所にお聞きします。

問7-1 この1年間の件数は何件ありましたか。(〇は1つ)

1. 1件 2. 2件 3. 3件 4. 4件 5. 5件 6. 6件以上
7. 0件

3 入居者募集についておたずねします

問8 貴事業所では、どのような方法で入居者の募集を行っていますか。(〇はいくつでも)

1. チラシ・パンフレット	3. インターネット
2. 新聞・雑誌(広告記事)	4. その他()

4 人材確保についておたずねします

問9 貴事業所では、生活相談員等の人材は確保できていますか。(〇は1つ)

1. 確保できている	問10△	3. 確保が難しいこともある
2. 概ね確保できている	問10△	4. 確保できていない

問9で「3」、「4」と回答した事業所にお聞きします。

問9-1 その理由は何ですか。

問9-2 人材確保支援策として有効だと思ふものは何ですか。

問10 貴事業所では、どのような方法で職員の募集を行っていますか。(〇はいくつでも)

1. ハローワークに求人票を出している	7. 就職相談会等の機会にブースを設けている
2. 大学等に求人票を出している	8. 関東圏域以外へ求人のため足を運んでいる
3. 専門学校に求人票を出している	9. インターネット媒体を介して募集している
4. 高校に求人票を出している	10. 人材派遣会社に依頼している
5. 新聞の折り込み広告等に求人掲載している	11. その他()
6. 職業紹介雑誌等に求人を掲載している	

問10-1 上記のうち、職員募集で効果のあったものは何ですか。(番号を3つまで)

() () ()

問11 貴事業所では、外国籍を有する方を積極的に採用していますか。(〇は1つ)

1. 採用している
2. 採用していない(理由)

問12 平成27年(1月から12月)の入職率と離職率についてお答えください。

(1) 正規職員について

入職率(27年年初の正規職員数に対する27年の入職者(正規職員)数の割合) _____%
離職率(27年年初の正規職員数に対する27年の離職者(正規職員)数の割合) _____%

(2) 非正規職員について

入職率(27年年初の非正規職員数に対する27年の入職者(非正規職員)数の割合) _____%
離職率(27年年初の非正規職員数に対する27年の離職者(非正規職員)数の割合) _____%

5 職員研修などの取り組みについておたずねします

問 13 職員の教育に取り組んでいますか。(○は1つ)

1. 積極的に取り組んでいる 2. 取り組んでいる 3. 取り組んでいない

問 13で「1」、「2」と回答された事業所にお聞きします。

問 13-1 貴事業所では、職員教育にあたり、どのような点に力を入れていますか。(○は3つまで)

1. 丁寧な言葉遣いや態度など、マナーについての指導
 2. 身だしなみに関する指導
 3. 技術・知識向上のための研修
 4. 資格取得のための支援
 5. リスクマネジメントに関する指導
 6. その他 ()

6 以下の質問にもお答えください

問 14 平成 27 年度以降、入居者やその家族からどのような要望・苦情がありましたか。(○はいくつでも)

1. 制度やサービスに関する説明について 4. 職員の対応等について
 2. サービスの質や内容について 5. その他 ()
 3. 利用料について 6. 特になし

問 15 利用者等から苦情があった場合、どのように対応していますか。(○はいくつでも)

1. 苦情処理担当者をおいている
 2. 苦情処理対応マニュアルを作成している
 3. 都に相談している
 4. その他 ()

問 16 貴事業所では、災害時の対策を実施・計画していますか。(○はいくつでも)

1. 水害対策を含む非常災害対策計画・マニュアルを策定している
 2. 水害対策を含まない非常災害対策計画・マニュアルを策定している
 3. 災害時の備蓄対策をしている
 4. 施設の耐震対策（ガラスの飛散防止・棚架の転倒防止など）を実施している
 5. 防災訓練などで近隣の住民組織（町内会、自主防災組織）と連携している
 6. その他 ()
 7. 特に何もしていない

問 16で「1」又は「2」と回答した事業所にお聞きします。

問 16-1 策定されている非常災害対策計画・マニュアルに含まれている項目は何ですか。(○はいくつでも)

1. 施設等の立地条件
 2. 災害に関する情報の入手方法
 3. 災害時の連絡先（自治体、家族、職員等）及び通信手段
 4. 避難を開始する時期及び判断基準
 5. 避難場所（区が指定する避難場所、施設内の安全なスペース等）
 6. 避難経路及び所要時間
 7. 利用者ごとの避難方法（車いす、徒歩等）
 8. 災害時の人員体制・指揮系統（災害時の参集方法、役割分担、避難に必要な職員数等）
 9. 関係機関との連携体制
 10. その他 ()

問 17 貴事業所は平成 28 年に水害の場合を含む避難訓練を実施しましたか。(○は1つ)

1. 実施した 2. 実施していない

問 17で「2. 実施していない」と回答した事業所にお聞きします。

問 17-1 実施予定時期は、いつですか。

()

問 21 高齢者保健・福祉事業や介護保険制度について、区へのご要望、ご意見などがありましたら、お聞かせください。

問 18 利用者や家族の要望を積極的に取り入れるため、次の取り組みを行っていますか。(〇はいくつでも)

1. 利用者にサービス計画を説明し要望を聞く機会を設けている	
2. 家族にサービス計画を説明し要望を聞く機会を設けている	
3. 利用者・家族と話し合いの機会を定期的に設けている	
4. 利用者の生活状況を記録し家族に連絡している	
5. 利用者・家族を対象に相談・苦情窓口を設けている	
6. 家族会を設置している	
7. その他 ()	

問 19 地域のどのような組織と連携をしていますか。(〇はいくつでも)

1. 自治会・町内会	5. 商店街、レストラン
2. ボランティアグループ	6. その他 ()
3. 家族会	7. 連携をしていない <input type="checkbox"/> 問20へ
4. 学校関係	

問 20 地域とどのような連携をしていますか。(〇はいくつでも)

1. 地域の行事への参加	5. 地元商店街での買い物
2. 講師として指導してもらう	6. 認知症サポーター養成講座の開催
3. 事業所イベントへの招待	7. その他 ()
4. 小学校・中学校の体験学習	



質問は以上で終わります。ご協力ありがとうございました。ご記入がお済みになりましたら、またことにお手数ですが、同封した返信用封筒(切手不要)に入れて、12月2日(金)までにご投函ください。

この調査に関するお問い合わせは
 足立区役所 福祉部 介護保険課 介護保険係
 〒120-8510 足立区中央本町一丁目 17 番 1 号
 電話 03-3880-5887 (直通)

足立区高齢者等実態調査報告書

平成 30 年 3 月 発行

発 行 足立区

編 集 足立区福祉部高齢福祉課
介護保険課

東京都足立区中央本町 1-17-1

電話 03-3880-5111

印刷物登録番号 29-645